別記様式第２号（その１の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

基　本　計　画　書

基　本　計　画								
事　項	記　入　欄							備　考
計画の区分	研究科の設置							
フリガナ 設置者	ｶﾞｯｺｳﾎｳｼﾞﾝ　ﾘｭｳｺｸﾀﾞｲｶﾞｸ 学校法人　龍谷大学							
フリガナ 大学の名称	ﾘｭｳｺｸﾀﾞｲｶﾞｸ　ﾀﾞｲｶﾞｸｲﾝ 龍谷大学大学院　(The Graduate School of Ryukoku University)							
大学本部の位置	京都府京都市伏見区深草塚本町67番地							
大学の目的	本学大学院は、人文、社会及び自然に関する学術の理論及び応用を教授研究しその深奥を究めること、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培うことをもって、文化の進展に寄与することを目的とする。							
新設学部等の目的	建学の精神に基づいて、自然・社会と科学との調和を重視し、幅広い教養と理工学の各専門分野における高度の専門知識・技能を身につけ、持続可能な社会の発展に貢献できる高い倫理観を持った高度専門職人材・研究者を育成することを目的とする。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる学部】 先端理工学部 数理・情報科学課程 知能情報メディア課程 電子情報通信課程 機械工学・ロボティクス課程 応用化学課程 環境生態工学課程
		年	人	年次人	人		年　月 第　年次		
	先端理工学研究科 [Graduate School of Advanced Science and Technology]							滋賀県大津市瀬田大江町横谷1-5	
	先端理工学専攻 [Department of Advanced Science and Technology] （修士課程）	2	100	－	200	修士（理学） [Master of Science] 修士（工学） [Master of Engineering]	令和6年4月 第1年次		
	先端理工学専攻 [Department of Advanced Science and Technology] （博士後期課程）	3	10	－	30	博士（理学） [Doctor of Science] 博士（工学） [Doctor of Engineering]	令和6年4月 第1年次		
	計		110	－	230				
同一設置者内における変更状況 （定員の移行、名称の変更等）	理工学研究科　修士課程（廃止）　（令和4年12月報告済） 数理情報学専攻　（△25） 電子情報学専攻　（△25） 機械システム工学専攻　（△25） 物質化学専攻　（△25） 情報メディア学専攻　（△20） 環境ソリューション工学専攻　（△20） ※令和6年4月学生募集停止 理工学研究科　博士後期課程（廃止）　（令和4年12月報告済） 数理情報学専攻　（△3） 電子情報学専攻　（△3） 機械システム工学専攻　（△3） 物質化学専攻　（△3） 情報メディア学専攻　（△2） 環境ソリューション工学専攻　（△2） ※令和6年4月学生募集停止								

	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数	
		講義	演習	実験・実習	計		
教育課程	先端理工学研究科 先端理工学専攻 （修士課程）	166科目	15科目	0科目	181科目	32単位	
	先端理工学研究科 先端理工学専攻 （博士後期課程）	35科目	18科目	0科目	53科目	14単位	

		学部等の名称		専任教員等						兼任教員等
				教授	准教授	講師	助教	計	助手	
教員組織の概要	新設分	（修士課程）		人	人	人	人	人	人	人
		先端理工学研究科	先端理工学専攻	45 (45)	17 (17)	11 (11)	0 (0)	73 (73)	0 (0)	4 (4)
		計		45 (45)	17 (17)	11 (11)	0 (0)	73 (73)	0 (0)	4 (4)
	既設分	（修士課程）								
		文学研究科	真宗学専攻	5 (5)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	13 (13)
			仏教学専攻	4 (5)	2 (1)	2 (2)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	7 (7)
			哲学専攻	3 (3)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	3 (3)
			教育学専攻	4 (4)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	3 (3)
			臨床心理学専攻	10 (12)	5 (3)	0 (0)	0 (0)	15 (15)	1 (1)	9 (9)
			日本史学専攻	9 (11)	3 (2)	4 (4)	0 (0)	16 (17)	0 (0)	12 (12)
			東洋史学専攻	3 (3)	5 (5)	1 (1)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	6 (6)
			日本語日本文学専攻	4 (4)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	9 (9)
			英語英米文学専攻	3 (3)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	3 (3)
		法学研究科	法律学専攻	30 (30)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	36 (36)	0 (0)	60 (60)
		経済学研究科	経済学専攻	18 (20)	10 (10)	5 (5)	0 (0)	33 (35)	0 (0)	18 (18)
		経営学研究科	経営学専攻	12 (12)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	0 (0)
		社会学研究科	社会学専攻	10 (11)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	14 (15)	0 (0)	3 (3)
			社会福祉学専攻	7 (7)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	1 (1)
		実践真宗学研究科	実践真宗学専攻	8 (8)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	1 (1)	30 (30)
		政策学研究科	政策学専攻	19 (19)	9 (9)	2 (2)	0 (0)	30 (30)	0 (0)	14 (14)
		農学研究科	食農科学専攻	23 (26)	14 (11)	10 (10)	0 (0)	47 (47)	0 (0)	0 (0)
		国際学研究科	国際文化学専攻	15 (16)	7 (6)	1 (1)	0 (0)	23 (23)	0 (0)	8 (8)
			グローバルスタディーズ専攻	5 (5)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	2 (2)
			言語コミュニケーション専攻	3 (3)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	2 (2)
		計		195 (207)	86 (78)	32 (32)	0 (0)	313 (317)	2 (2)	－ (－)
		龍谷ミュージアム		1 (1)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	0 (0)
		計		1 (1)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	－ (－)
	合計			241 (253)	106 (98)	43 (43)	0 (0)	390 (394)	2 (2)	－ (－)

		学部等の名称		専任教員等 教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員等	
教員組織の概要	新設分	（博士後期課程）		人	人	人	人	人	人	人	修士課程の教員が博士後期課程の教員を兼ねる。
		先端理工学研究科	先端理工学専攻	42 (42)	16 (16)	0 (0)	0 (0)	58 (58)	0 (0)	0 (0)	
		計		42 (42)	16 (16)	0 (0)	0 (0)	58 (58)	0 (0)	0 (0)	
	既設分	（博士後期課程）									
		文学研究科	真宗学専攻	2 (3)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	5 (6)	0 (0)	2 (2)	
			仏教学専攻	2 (4)	3 (1)	2 (2)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	
			哲学専攻	3 (3)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	
			教育学専攻	4 (4)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	
			臨床心理学専攻	4 (6)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	
			日本史学専攻	7 (9)	3 (1)	4 (4)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	1 (1)	
			東洋史学専攻	3 (3)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	0 (0)	
			日本語日本文学専攻	4 (4)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	0 (0)	
			英語英米文学専攻	3 (3)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	
		法学研究科	法律学専攻	30 (30)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	36 (36)	0 (0)	0 (0)	
		経済学研究科	経済学専攻	17 (20)	12 (10)	5 (5)	0 (0)	34 (35)	0 (0)	0 (0)	
		経営学研究科	経営学専攻	12 (12)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	0 (0)	
		社会学研究科	社会学専攻	5 (6)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	8 (9)	0 (0)	0 (0)	
			社会福祉学専攻	5 (5)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	
		政策学研究科	政策学専攻	19 (19)	9 (9)	2 (2)	0 (0)	30 (30)	0 (0)	0 (0)	
		農学研究科	食農科学専攻	22 (26)	8 (7)	2 (2)	0 (0)	32 (35)	0 (0)	0 (0)	
		国際学研究科	国際文化学専攻	14 (16)	9 (6)	1 (1)	0 (0)	24 (23)	0 (0)	0 (0)	
			グローバルスタディーズ専攻	7 (8)	7 (6)	1 (1)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	0 (0)	
		計		163 (181)	78 (65)	23 (23)	0 (0)	264 (269)	0 (0)	— (—)	
		龍谷ミュージアム		1 (1)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	
		計		1 (1)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	— (—)	
		合計		206 (224)	97 (84)	23 (23)	0 (0)	326 (331)	0 (0)	— (—)	

教員以外の職員の概要	職種	専任	兼任	計	
	事務職員	408 人 (408)	58 人 (58)	466 人 (466)	大学全体
	技術職員	13 (13)	0 (0)	13 (13)	
	図書館専門職員	19 (19)	4 (4)	23 (23)	
	その他の職員	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
	計	440 (440)	62 (62)	502 (502)	

	区　　分	専　　用	共　　用	共用する他の学校等の専用	計	
校地等	校舎敷地	176,588.96 ㎡	89,512.56 ㎡	0.00 ㎡	266,101.52 ㎡	龍谷大学短期大学部と共用（法令上の必要面積：4,400㎡） （借用地） ○「校舎敷地／専用」内 ・面積：3,418.00㎡ 期間：永代借用 ・面積：292.87㎡ 期間：20年間 ○「その他／専用」内 ・面積：1,681.64㎡ 期間：20年間 ・面積：27,411.00㎡ 期間：20年間
	運動場用地	43,900.00 ㎡	65,481.05 ㎡	0.00 ㎡	109,381.05 ㎡	
	小計	220,488.96 ㎡	154,993.61 ㎡	0.00 ㎡	375,482.57 ㎡	
	その他	229,654.31 ㎡	3,949.68 ㎡	0.00 ㎡	233,603.99 ㎡	
	合計	450,143.27 ㎡	158,943.29 ㎡	0.00 ㎡	609,086.56 ㎡	

校舎	専　　用	共　　用	共用する他の学校等の専用	計	
	170,647.38 ㎡ （167,490.84㎡）	86,628.78 ㎡ （62,098.28㎡）	6,328.29 ㎡ （5,399.91㎡）	263,604.45 ㎡ （234,989.03㎡）	龍谷大学短期大学部と共用（法令上の必要面積：4,150㎡）

教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	
	221室	310室	241室	39室 （補助職員 18人）	7室 （補助職員 18人）	大学全体

専任教員研究室	新設学部等の名称	室　　数	
	先端理工学研究科	73 室	

図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	
	先端理工学研究科	157,644〔38,350〕 （155,100〔38,260〕）	911〔541〕 （911〔541〕）	59〔52〕 （59〔52〕）	845 （845）	104,318 （103,612）	199 （199）	大学全体で共用分 ・図書 2,213,892冊 [うち外国書 692,095冊] ・学術雑誌 16,066種 [うち外国書 4,077種] ・電子ジャーナル 8,356種 [うち外国書 8,294種] ・視聴覚資料 57,141点
	計	157,644〔38,350〕 （155,100〔38,260〕）	911〔541〕 （911〔541〕）	59〔52〕 （59〔52〕）	845 （845）	104,318 （103,612）	199 （199）	

図書館	面積	閲覧座席数	収納可能冊数	
	25,448.42 ㎡	2,628 席	3,137,320	

体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要		
	17,110.21 ㎡	テニスコート　6面	投球練習場　1面	大学全体
		SETA DOME　1面		

経費の見積り及び維持方法の概要										
経費の見積り	区　分		開設前年度	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次	研究科単位での算出不能なため、学部との合計 図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費（運用コスト）を含む
	教員１人当り研究費等			425千円	425千円	425千円	－千円	－千円	－千円	
	共同研究費等			31,988千円	31,988千円	31,988千円	－千円	－千円	－千円	
	図書購入費		54,496千円	54,496千円	54,496千円	54,496千円	－千円	－千円	－千円	
	設備購入費		213,438千円	213,438千円	213,438千円	213,438千円	－千円	－千円	－千円	
学生１人当り納付金				第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次	※本学学部出身者の場合、入学初年度は120千円を、2年次以降は70千円をそれぞれ減免 本学修士課程出身者の場合、入学初年度は270千円を、2年次以降は70千円をそれぞれ減免
	修士課程	本学学部出身者		1,074.6千円	1,074.6千円	－千円	－千円	－千円	－千円	
		本学修士課程出身者		924.6千円	924.6千円	－千円	－千円	－千円	－千円	
		他大学出身者		1,194.6千円	1,194.6千円	－千円	－千円	－千円	－千円	
	博士後期課程	本学学部出身者		1,074.6千円	1,074.6千円	1,074.6千円	－千円	－千円	－千円	
		本学修士課程出身者		924.6千円	924.6千円	924.6千円	－千円	－千円	－千円	
		他大学出身者		1,194.6千円	1,194.6千円	1,194.6千円	－千円	－千円	－千円	
学生納付金以外の維持方法の概要			手数料、寄付金、私立大学等経常経費補助金、受取利息・配当金収入、雑収入　等							

既設大学等の状況	大学の名称	龍谷大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地	
		年	人	年次人	人		倍			
	文学部						0.96		（1,2年次） 京都市伏見区深草塚本町67番地	
	真宗学科	4	145	3年次6	592	学士(文学)	0.93	平成4年度		令和2年度入学定員増（10名） 令和4年度編入学定員減（△7名）
	仏教学科	4	118	3年次5	482	学士(文学)	0.92	昭和24年度		令和2年度入学定員増（8名） 令和4年度編入学定員減（△3名）
	哲学科	4	148	3年次4	600	学士(文学)	0.98	昭和24年度	（3,4年次） 京都市下京区七条通大宮東入ル大工町125番地の1	令和2年度入学定員増（10名） 令和4年度編入学定員減（△2名）
	臨床心理学科	4	－	－	－	学士(文学)	－	平成24年度		※令和5年度より学生募集停止（臨床心理学科）
	歴史学科	4	267	3年次9	1,086	学士(文学)	0.97	昭和24年度		令和2年度入学定員増（19名） 令和4年度編入学定員減（△4名）
	日本語日本文学科	4	101	3年次2	408	学士(文学)	1.01	平成4年度		令和2年度入学定員増（7名） 令和4年度編入学定員減（△1名）
	英語英米文学科	4	101	3年次2	408	学士(文学)	0.96	平成4年度		令和2年度入学定員増（7名） 令和4年度編入学定員減（△1名）
	経済学部						0.99		京都市伏見区深草塚本町67番地	
	現代経済学科	4	360	3年次7	1,454	学士(経済学)	1.03	平成18年度		令和2年度現代経済学科入学定員増（18名） 令和2年度国際経済学科入学定員増（12名）
	国際経済学科	4	240	3年次5	970	学士(経済学)	0.93	平成18年度		経済学部現代経済学科と国際経済学科は入学時一括募集（600名）を行う
	経営学部								京都市伏見区深草塚本町67番地	
	経営学科	4	519	3年次5	2,086	学士(経営学)	0.98	昭和41年度		令和2年度入学定員増（26名）
	法学部								京都市伏見区深草塚本町67番地	
	法律学科	4	445	3年次5	1,790	学士(法学)	1.00	昭和43年度		令和2年度入学定員増（25名）

	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地	
		年	人	年次人	人		倍			
既設大学等の状況	理工学部								滋賀県大津市瀬田大江町横谷1番5	※令和2年度より学生募集停止（理工学部）
	数理情報学科	4	－	－	－	学士(理学)	－	平成元年度		
	電子情報学科	4	－	－	－	学士(工学)	－	平成元年度		
	機械システム工学科	4	－	－	－	学士(工学)	－	平成元年度		
	物質化学科	4	－	－	－	学士(工学)	－	平成元年度		
	情報メディア学科	4	－	－	－	学士(工学)	－	平成15年度		
	環境ソリューション工学科	4	－	－	－	学士(工学)	－	平成15年度		
	社会学部						0.99		滋賀県大津市瀬田大江町横谷1番5	
	社会学科	4	210	3年次5	850	学士(社会学)	1.01	平成元年度		令和2年度入学定員増（10名）
	コミュニティマネジメント学科	4	153	3年次3	618	学士(社会学)	1.01	平成16年度		令和2年度入学定員増（8名）
	現代福祉学科	4	195	3年次30	840	学士(社会福祉学)	0.97	平成28年度		令和2年度入学定員増（10名）
	国際文化学部								滋賀県大津市瀬田大江町横谷1番5	※平成27年度より学生募集停止（国際文化学部）
	国際文化学科	4	－	－	－	学士(国際文化学)	－	平成8年度		
	政策学部								京都市伏見区深草塚本町67番地	
	政策学科	4	308	3年次5	1,242	学士(政策学)	0.99	平成23年度		令和2年度入学定員増（16名）
	国際学部						0.98		京都市伏見区深草塚本町67番地	
	国際文化学科	4	372	3年次20	1,528	学士(国際文化学)	1.00	平成27年度		令和2年度入学定員増（19名）
	グローバルスタディーズ学科	4	135	3年次10	560	学士(グローバルスタディーズ)	0.94	平成27年度		令和2年度入学定員増（7名）
	農学部						0.98		滋賀県大津市瀬田大江町横谷1番5	
	生命科学科	4	90	3年次8	378	学士(農学)	0.93	平成27年度		令和2年度入学定員増（6名） 令和5年度編入学定員減（△2名）
	農学科	4	134	3年次9	555	学士(農学)	0.99	平成27年度		令和2年度入学定員増（8名） 令和5年度編入学定員減（△1名）
	食品栄養学科	4	80	3年次4	324	学士(農学)	1.00	平成27年度		令和5年度編入学定員増（4名）
	食料農業システム学科	4	134	3年次9	555	学士(農学)	1.01	平成27年度		令和2年度入学定員増（8名） 令和5年度編入学定員減（△1名）

	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地	
		年	人	年次人	人		倍			
既設大学等の状況	先端理工学部						0.95		滋賀県大津市瀬田大江町横谷1番5	※令和2年度開設
	数理・情報科学課程	4	103	3年次2	400	学士(理学)	0.97	令和2年度		令和4年度入学定員増（8名）
	知能情報メディア課程	4	103	3年次2	400	学士(工学)	1.04	令和2年度		令和4年度入学定員増（8名）
	電子情報通信課程	4	103	3年次2	400	学士(工学)	0.99	令和2年度		令和4年度入学定員増（8名）
	機械工学・ロボティクス課程	4	113	3年次2	440	学士(工学)	0.98	令和2年度		令和4年度入学定員増（8名）
	応用化学課程	4	103	3年次2	400	学士(工学)	0.92	令和2年度		令和4年度入学定員増（8名）
	環境生態工学課程	4	103	3年次2	400	学士(工学)	0.77	令和2年度		令和4年度入学定員増（8名）
	心理学部								（1,2年次）京都市伏見区深草塚本町67番地	
	心理学科	4	255	ー	255	学士（心理学）	1.02	令和5年度	（3,4年次）京都市下京区七条通大宮東入ル大工町125番地の1	※令和5年度開設

既設大学等の状況	大学の名称	龍谷大学大学院								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地	
		年	人	年次人	人		倍			
	修士課程									
	文学研究科						0.62		京都市下京区七条通大宮東入ル大工町125番地の1	
	真宗学専攻	2	20	－	40	修士(文学)	0.62	昭和28年度		
	仏教学専攻	2	20	－	40	修士(文学)	0.37	昭和28年度		
	哲学専攻	2	7	－	14	修士(文学)	0.07	昭和41年度		
	教育学専攻	2	7	－	14	修士(教育学)	0.00	平成6年度		
	臨床心理学専攻	2	10	－	20	修士(臨床心理学)	1.90	平成24年度		
	日本史学専攻	2	7	－	14	修士(文学)	1.28	昭和41年度		
	東洋史学専攻	2	7	－	14	修士(文学)	0.50	昭和41年度		
	日本語日本文学専攻	2	7	－	14	修士(文学)	0.64	昭和41年度		
	英語英米文学専攻	2	7	－	14	修士(文学)	0.14	昭和42年度		
	法学研究科								京都市伏見区深草塚本町67番地	
	法律学専攻	2	25	－	50	修士(法学)	0.42	昭和47年度		
	経済学研究科								京都市伏見区深草塚本町67番地	
	経済学専攻	2	30	－	60	修士(経済学)	0.18	昭和57年度		
	経営学研究科								京都市伏見区深草塚本町67番地	
	経営学専攻	2	30	－	60	修士(経営学)	0.01	昭和57年度		
	社会学研究科						0.72		滋賀県大津市瀬田大江町横谷1番5	
	社会学専攻	2	10	－	20	修士(社会学)	0.85	平成3年度		
	社会福祉学専攻	2	10	－	20	修士(社会福祉学)	0.60	平成3年度		
	理工学研究科						0.62		滋賀県大津市瀬田大江町横谷1番5	※令和6年度より学生募集停止（理工学研究科）
	数理情報学専攻	2	25	－	50	修士(理学)	0.36	平成5年度		
	電子情報学専攻	2	25	－	50	修士(工学)	0.80	平成5年度		
	機械システム工学専攻	2	25	－	50	修士(工学)	0.58	平成5年度		
	物質化学専攻	2	25	－	50	修士(工学)	1.04	平成5年度		
	情報メディア学専攻	2	20	－	40	修士(工学)	0.65	平成19年度		
	環境ソリューション工学専攻	2	20	－	40	修士(工学)	0.27	平成19年度		

	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地	
		年	人	年次人	人		倍			
既設大学等の状況	国際文化学研究科								京都市伏見区深草塚本町67番地	※平成31年度より学生募集停止（国際文化学研究科）
	国際文化学専攻	2	－	－	－	修士(国際文化学)	－	平成12年度		
	実践真宗学研究科								京都市下京区七条通大宮東入ル大工町125番地の1	
	実践真宗学専攻	3	30	－	90	修士(実践真宗学)	0.30	平成21年度		
	政策学研究科								京都市伏見区深草塚本町67番地	
	政策学専攻	2	20	－	40	修士(政策学)	0.80	平成23年度		
	農学研究科								滋賀県大津市瀬田大江町横谷1番5	
	食農科学専攻	2	30	－	60	修士(食農科学)	0.75	平成30年度		
	国際学研究科						1.00		京都市伏見区深草塚本町67番地	
	国際文化学専攻	2	7	－	14	修士(国際文化学)	1.00	平成31年度		
	グローバルスタディーズ専攻	2	4	－	8	修士(グローバルスタディーズ)	0.87	平成31年度		
	言語コミュニケーション専攻	2	4	－	8	修士(言語コミュニケーション)	1.12	平成31年度		
	博士後期課程									
	文学研究科						0.54		京都市下京区七条通大宮東入ル大工町125番地の1	
	真宗学専攻	3	5	－	15	博士(文学)	0.60	昭和30年度		
	仏教学専攻	3	5	－	15	博士(文学)	0.73	昭和30年度		
	哲学専攻	3	2	－	6	博士(文学)	0.00	昭和41年度		
	教育学専攻	3	3	－	9	博士(教育学)	0.00	平成12年度		
	臨床心理学専攻	3	2	－	6	博士(臨床心理学)	0.50	平成24年度		
	日本史学専攻	3	2	－	6	博士(文学)	1.66	昭和41年度		
	東洋史学専攻	3	2	－	6	博士(文学)	0.66	昭和41年度		
	日本語日本文学専攻	3	2	－	6	博士(文学)	0.50	昭和41年度		
	英語英米文学専攻	3	2	－	6	博士(文学)	0.16	昭和42年度		
	法学研究科								京都市伏見区深草塚本町67番地	
	法律学専攻	3	5	－	15	博士(法学)	0.33	昭和49年度		
	経済学研究科								京都市伏見区深草塚本町67番地	
	経済学専攻	3	3	－	9	博士(経済学)	0.55	昭和60年度		

既設大学等の状況	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地	
		年	人	年次人	人		倍			
	経営学研究科								京都市伏見区深草塚本町67番地	
	経営学専攻	3	3	－	9	博士(経営学)	0.00	昭和60年度		
	社会学研究科						0.44		滋賀県大津市瀬田大江町横谷1番5	
	社会学専攻	3	3	－	9	博士(社会学)	0.33	平成3年度		
	社会福祉学専攻	3	3	－	9	博士(社会福祉学)	0.55	平成3年度		
	理工学研究科						0.12		滋賀県大津市瀬田大江町横谷1番5	※令和6年度より学生募集停止（理工学研究科）
	数理情報学専攻	3	3	－	9	博士(理学)	0.00	平成7年度		
	電子情報学専攻	3	3	－	9	博士(工学)	0.11	平成7年度		
	機械システム工学専攻	3	3	－	9	博士(工学)	0.00	平成7年度		
	物質化学専攻	3	3	－	9	博士(工学)	0.11	平成7年度		
	情報メディア学専攻	3	2	－	6	博士(工学)	0.33	平成21年度		
	環境ソリューション工学専攻	3	2	－	6	博士(工学)	0.33	平成21年度		
	国際文化学研究科								京都市伏見区深草塚本町67番地	※平成31年度より学生募集停止（国際文化学研究科）
	国際文化学専攻	3	－	－	－	博士(国際文化学)	－	平成14年度		
	政策学研究科								京都市伏見区深草塚本町67番地	
	政策学専攻	3	3	－	9	博士(政策学)	1.11	平成23年度		
	農学研究科								滋賀県大津市瀬田大江町横谷1番5	
	食農科学専攻	3	5	－	15	博士(食農科学)	1.00	平成30年度		
	国際学研究科						0.58		京都市伏見区深草塚本町67番地	
	国際文化学専攻	3	2	－	6	博士(国際文化学)	0.50	平成31年度		
	グローバルスタディーズ専攻	3	2	－	6	博士(グローバルスタディーズ)	0.66	平成31年度		
	大学の名称	龍谷大学短期大学部								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地	
		年	人	年次人	人		倍			
	短期大学部						0.81		京都市伏見区深草塚本町67番地	
	社会福祉学科	2	85	－	170	短期大学士(社会福祉学)	0.77	昭和37年度		
	こども教育学科	2	135	－	270	短期大学士(こども教育学)	0.84	平成23年度		

附属施設の概要	名　称：社会科学研究所 目　的：社会科学における各分野の枠にとらわれず、様々な分野の研究者との共同研究を推進すること で、新たな社会科学の創造と発展に寄与することを目的とする。 所在地：京都市伏見区深草塚本町67番地　紫英館2階 設　立：昭和44（1969）年4月 規　模：634.17㎡	
	名　称：人間・科学・宗教総合研究センター 目　的：本学の所有する資源を活かし、人間・科学・宗教に関連する高度な研究成果を国内外に発信し、本学が戦略的に行う研究を推進することを目的とする。 所在地：京都市伏見区深草塚本町67　紫英館2階 設　立：平成13（2001）年9月 規　模：96.22㎡	
	名　称：世界仏教文化研究センター 目　的：龍谷大学の建学の精神に基づき、仏教を機軸とした国際的な研究拠点を形成し、現代世界の切実な諸課題に応え得る指針を提示することで、国際交流の推進、教育への還元と社会への貢献を目的とする。 所在地：京都市下京区七条通大宮東入大工町125番の1　西黌123研究室 白亜館2階 設　立：平成27（2015）年4月1日 規　模：228.56㎡	
	名　称：Ryukoku Extention Center 目　的：各学問分野の発展を基礎に、本学に対する社会的要請に応えるため、本学の教育・研究機能の公開の拠点とすることを目的とする。 所在地：滋賀県大津市瀬田大江町横谷1番5　REC-HALL 京都市伏見区深草塚本町67　4号館2階 東大阪市荒本北50-5　クリエイション・コア東大阪内 設　立：平成3（1991）年4月 規　模：2,519.25㎡	
	名　称：龍谷ミュージアム 目　的：仏教文化を中心とした学術資料の収集、整理、保存、調査、研究及び展示公開等の博物館活動を継続的に行うとともに、本学における教育・研究の成果を広く社会に公開することを目的とする。 所在地：京都市下京区西中辻通正面下ル丸屋町117 設　立：平成23（2011）年4月 規　模：4,166,99㎡	
	名　称：科学技術共同研究センター 目　的：科学技術及びその関連分野に関する研究・開発を行い、科学技術の創造と発展に寄与し、あわせて研究成果の社会還元を図ることを目的とする。 所在地：滋賀県大津市瀬田大江町横谷1番5　3号館3階 設　立：平成元（1989）年4月 規　模：28.35㎡	
	名　称：国際社会文化研究所 目　的：地域、社会、福祉、国際文化、国際共生及びその他の人文社会系に関する総合的学術研究並びに国際的研究交流を推進し，これらの分野における学術研究の向上に寄与するとともに研究成果の社会還元をはかることを目的とする。 所在地：滋賀県大津市瀬田大江町横谷1番5　3号館3階 設　立：平成9（1997）年4月 規　模：26.25㎡	
	名　称：食と農の総合研究所 目　的：食と農に関する農学を中心とした複合的・学際的・国際的な研究を推進する。また、地域社会との連携をも視野に入れた研究を推進し、これらの分野における学術の向上に寄与するとともに研究成果の社会還元を図ることを目的とする。 所在地：滋賀県大津市瀬田大江町横谷1番5　4号館3階 設　立：平成27（2015）年4月 規　模：55.00㎡	
	名　称：牧農場 目　的：農学部・農学研究科の教育・研究に資することを目的とする。 所在地：滋賀県大津市牧二丁目字牧 設　立：平成27（2015）年4月 規　模：27,411.00 ㎡	

学校法人龍谷大学　設置認可等に関わる組織の移行表

令和5（2023）年度				→	令和6（2024）年度				
学部・学科等	入学定員	編入学定員	収容定員		学部・学科等	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
龍谷大学					龍谷大学				
文学部					文学部				
真宗学科	145	3年次 6	592		真宗学科	145	3年次 6	592	
仏教学科	118	3年次 5	482		仏教学科	118	3年次 5	482	
哲学科	148	3年次 4	600		哲学科	148	3年次 4	600	
歴史学科	267	3年次 9	1,086		歴史学科	267	3年次 9	1,086	
日本語日本文学科	101	3年次 2	408		日本語日本文学科	101	3年次 2	408	
英語英米文学科	101	3年次 2	408		英語英米文学科	101	3年次 2	408	
経済学部					経済学部				
現代経済学科	360	3年次 7	1,454		現代経済学科	360	3年次 7	1,454	
国際経済学科	240	3年次 5	970		国際経済学科	240	3年次 5	970	
経営学部					経営学部				
経営学科	519	3年次 5	2,086		経営学科	519	3年次 5	2,086	
法学部					法学部				
法律学科	445	3年次 5	1,790		法律学科	445	3年次 5	1,790	
社会学部					社会学部				
社会学科	210	3年次 5	850		社会学科	210	3年次 5	850	
コミュニティマネジメント学科	153	3年次 3	618		コミュニティマネジメント学科	153	3年次 3	618	
現代福祉学科	195	3年次 30	840		現代福祉学科	195	3年次 30	840	
政策学部					政策学部				
政策学科	308	3年次 5	1,242		政策学科	308	3年次 5	1,242	
国際学部					国際学部				
国際文化学科	372	3年次 20	1,528		国際文化学科	372	3年次 20	1,528	
グローバルスタディーズ学科	135	3年次 10	560		グローバルスタディーズ学科	135	3年次 10	560	
農学部					農学部				
生命科学科	90	3年次 8	376		生命科学科	90	3年次 8	376	
農学科	134	3年次 9	554		農学科	134	3年次 9	554	
食品栄養学科	80	3年次 4	328		食品栄養学科	80	3年次 4	328	
食料農業システム学科	134	3年次 9	554		食料農業システム学科	134	3年次 9	554	
先端理工学部					先端理工学部				
数理・情報科学課程	103	3年次 2	416		数理・情報科学課程	103	3年次 2	416	
知能情報メディア課程	103	3年次 2	416		知能情報メディア課程	103	3年次 2	416	
電子情報通信課程	103	3年次 2	416		電子情報通信課程	103	3年次 2	416	
機械工学・ロボティクス課程	113	3年次 2	456		機械工学・ロボティクス課程	113	3年次 2	456	
応用化学課程	103	3年次 2	416		応用化学課程	103	3年次 2	416	
環境生態工学課程	103	3年次 2	416		環境生態工学課程	103	3年次 2	416	
心理学部					心理学部				
心理学科	255	3年次 10	1,040		心理学科	255	3年次 10	1,040	
龍谷大学　合計	**5,138**	**175**	**20,902**		**龍谷大学　合計**	**5,138**	**175**	**20,902**	

令和5（2023）年度			
研究科・専攻	入学定員	編入学定員	収容定員
龍谷大学大学院			
文学研究科			
真宗学専攻(M)	20	－	40
仏教学専攻(M)	20	－	40
哲学専攻(M)	7	－	14
教育学専攻(M)	7	－	14
臨床心理学専攻(M)	10	－	20
日本史学専攻(M)	7	－	14
東洋史学専攻(M)	7	－	14
日本語日本文学専攻(M)	7	－	14
英語英米文学専攻(M)	7	－	14
法学研究科			
法律学専攻(M)	25	－	50
経済学研究科			
経済学専攻(M)	30	－	60
経営学研究科			
経営学専攻(M)	30	－	60
社会学研究科			
社会学専攻(M)	10	－	20
社会福祉学専攻(M)	10	－	20
理工学研究科			
数理情報学専攻(M)	25	－	50
電子情報学専攻(M)	25	－	50
機械システム工学専攻(M)	25	－	50
物質化学専攻(M)	25	－	50
情報メディア学専攻(M)	20	－	40
環境ソリューション工学専攻(M)	20	－	40
国際学研究科			
国際文化学専攻(M)	7	－	14
グローバルスタディーズ専攻(M)	4	－	8
言語コミュニケーション専攻(M)	4	－	8
実践真宗学研究科			
実践真宗学専攻(M)	30	－	90
政策学研究科			
政策学専攻(M)	20	－	40
農学研究科			
食農科学専攻(M)	30	－	60

令和6（2024）年度				
研究科・専攻	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
龍谷大学大学院				
文学研究科				
真宗学専攻(M)	20	－	40	
仏教学専攻(M)	20	－	40	
哲学専攻(M)	7	－	14	
教育学専攻(M)	7	－	14	
臨床心理学専攻(M)	10	－	20	
日本史学専攻(M)	7	－	14	
東洋史学専攻(M)	7	－	14	
日本語日本文学専攻(M)	7	－	14	
英語英米文学専攻(M)	7	－	14	
法学研究科				
法律学専攻(M)	25	－	50	
経済学研究科				
経済学専攻(M)	30	－	60	
経営学研究科				
経営学専攻(M)	30	－	60	
社会学研究科				
社会学専攻(M)	10	－	20	
社会福祉学専攻(M)	10	－	20	
				令和6年4月学生募集停止
	0	－	0	令和6年4月学生募集停止
	0	－	0	令和6年4月学生募集停止
	0	－	0	令和6年4月学生募集停止
	0	－	0	令和6年4月学生募集停止
	0	－	0	令和6年4月学生募集停止
	0	－	0	令和6年4月学生募集停止
先端理工学研究科				研究科の設置(届出)
先端理工学専攻（M）	100	－	200	研究科の設置(届出)
国際学研究科				
国際文化学専攻(M)	7	－	14	
グローバルスタディーズ専攻(M)	4	－	8	
言語コミュニケーション専攻(M)	4	－	8	
実践真宗学研究科				
実践真宗学専攻(M)	30	－	90	
政策学研究科				
政策学専攻(M)	20	－	40	
農学研究科				
食農科学専攻(M)	30	－	60	

令和5（2023）年度			
研究科・専攻	入学定員	編入学定員	収容定員
文学研究科			
真宗学専攻(D)	5	ー	15
仏教学専攻(D)	5	ー	15
哲学専攻(D)	2	ー	6
教育学専攻(D)	3	ー	9
臨床心理学専攻(D)	2	ー	6
日本史学専攻(D)	2	ー	6
東洋史学専攻(D)	2	ー	6
日本語日本文学専攻(D)	2	ー	6
英語英米文学専攻(D)	2	ー	6
法学研究科			
法律学専攻(D)	5	ー	15
経済学研究科			
経済学専攻(D)	3	ー	9
経営学研究科			
経営学専攻(D)	3	ー	9
社会学研究科			
社会学専攻(D)	3	ー	9
社会福祉学専攻(D)	3	ー	9
理工学研究科			
数理情報学専攻(D)	3	ー	9
電子情報学専攻(D)	3	ー	9
機械システム工学専攻(D)	3	ー	9
物質化学専攻(D)	3	ー	9
情報メディア学専攻(D)	2	ー	6
環境ソリューション工学専攻(D)	2	ー	6
国際学研究科			
国際文化学専攻(D)	2	ー	6
グローバルスタディーズ専攻(D)	2	ー	6
政策学研究科			
政策学専攻(D)	3	ー	9
農学研究科			
食農科学専攻(D)	5	ー	15
龍谷大学大学院　合計	**502**	**ー**	**1,104**

令和6（2024）年度				
研究科・専攻	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
文学研究科				
真宗学専攻(D)	5	ー	15	
仏教学専攻(D)	5	ー	15	
哲学専攻(D)	2	ー	6	
教育学専攻(D)	3	ー	9	
臨床心理学専攻(D)	2	ー	6	
日本史学専攻(D)	2	ー	6	
東洋史学専攻(D)	2	ー	6	
日本語日本文学専攻(D)	2	ー	6	
英語英米文学専攻(D)	2	ー	6	
法学研究科				
法律学専攻(D)	5	ー	15	
経済学研究科				
経済学専攻(D)	3	ー	9	
経営学研究科				
経営学専攻(D)	3	ー	9	
社会学研究科				
社会学専攻(D)	3	ー	9	
社会福祉学専攻(D)	3	ー	9	
				令和6年4月学生募集停止
	0		0	令和6年4月学生募集停止
	0		0	令和6年4月学生募集停止
	0		0	令和6年4月学生募集停止
	0		0	令和6年4月学生募集停止
	0		0	令和6年4月学生募集停止
	0		0	令和6年4月学生募集停止
先端理工学研究科				研究科の設置(届出)
先端理工学専攻（D）	10	ー	30	研究科の設置(届出)
国際学研究科				
国際文化学専攻(D)	2	ー	6	
グローバルスタディーズ専攻(D)	2	ー	6	
政策学研究科				
政策学専攻(D)	3	ー	9	
農学研究科				
食農科学専攻(D)	5	ー	15	
龍谷大学大学院　合計	**456**	**ー**	**1,006**	

令和5（2023）年度			
学部・学科	入学定員	編入学定員	収容定員
龍谷大学短期大学部			
社会福祉学科	85	－	170
こども教育学科	135	－	270
龍谷大学短期大学部　合計	**220**	**－**	**440**

令和6（2024）年度				
学部・学科	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
龍谷大学短期大学部				
社会福祉学科	85	－	170	
こども教育学科	135	－	270	
龍谷大学短期大学部　合計	**220**	**－**	**440**	

別記様式第２号・別添１

（用紙　日本産業規格A4縦型）

設置の前後における学位等及び専任教員の所属の状況

届出時における状況						新設学部等の学年進行終了時における状況					
学部等の名称	授与する学位等		異動先	専任教員		学部等の名称	授与する学位等		異動元	専任教員	
	学位又は称号	学位又は学科の分野		助教以上	うち教授		学位又は称号	学位又は学科の分野		助教以上	うち教授
理工学研究科数理情報学専攻(M)（廃止）	修士(理学)	理学関係	先端理工学研究科先端理工学専攻(M)	12	8	先端理工学研究科先端理工学専攻(M)	修士(理学) 修士(工学)	理学関係 工学関係	理工学研究科数理情報学専攻(M)	12	8
									理工学研究科電子情報学専攻(M)	12	8
									理工学研究科機械システム工学専攻(M)	12	9
									理工学研究科物質化学専攻(M)	13	9
									理工学研究科情報メディア学専攻(M)	10	5
									理工学研究科環境ソリューション工学専攻(M)	14	6
			計	12	8				計	73	45
理工学研究科電子情報学専攻(M)（廃止）	修士(工学)	工学関係	先端理工学研究科先端理工学専攻(M)	12	8	先端理工学研究科先端理工学専攻(D)	博士(理学) 博士(工学)	理学関係 工学関係	理工学研究科数理情報学専攻(D)	10	7
									理工学研究科電子情報学専攻(D)	10	7
									理工学研究科機械システム工学専攻(D)	10	9
									理工学研究科物質化学専攻(D)	10	9
									理工学研究科情報メディア学専攻(D)	8	5
									理工学研究科環境ソリューション工学専攻(D)	10	5
			計	12	8				計	58	42
理工学研究科機械システム工学専攻(M)（廃止）	修士(工学)	工学関係	先端理工学研究科先端理工学専攻(M)	12	9						
			退職	1	1						
			計	13	10						
理工学研究科物質化学専攻(M)（廃止）	修士(工学)	工学関係	先端理工学研究科先端理工学専攻(M)	13	9						
			計	13	9						
理工学研究科情報メディア学専攻(M)（廃止）	修士(工学)	工学関係	先端理工学研究科先端理工学専攻(M)	10	5						
			退職	1	1						
			計	11	6						
理工学研究科環境ソリューション工学専攻(M)（廃止）	修士(工学)	工学関係	先端理工学研究科先端理工学専攻(M)	14	6						
			計	14	6						
理工学研究科数理情報学専攻(D)（廃止）	博士(理学)	理学関係	先端理工学研究科先端理工学専攻(D)	10	7						
			退職	1	1						
			計	11	8						
理工学研究科電子情報学専攻(D)（廃止）	博士(工学)	工学関係	先端理工学研究科先端理工学専攻(D)	10	7						
			計	10	7						

理工学研究科機械システム工学専攻(D)(廃止)	博士(工学)	工学関係	先端理工学研究科先端理工学専攻(D)	10	9
			退職	1	1
			計	11	10
理工学研究科物質化学専攻(D)(廃止)	博士(工学)	工学関係	先端理工学研究科先端理工学専攻(D)	10	9
			計	10	9
理工学研究科情報メディア学専攻(D)(廃止)	博士(工学)	工学関係	先端理工学研究科先端理工学専攻(D)	8	5
			退職	1	1
			計	9	6
理工学研究科環境ソリューション工学専攻(D)(廃止)	博士(工学)	工学関係	先端理工学研究科先端理工学専攻(D)	10	5
			退職	1	1
			計	11	6

別記様式第２号・別添２

（用紙　日本産業規格A4縦型）

基　礎　と　な　る　学　部　等　の　改　編　状　況

開設又は変更時期	変　　更　　内　　容	学　位　又　は 学　科　の　分　野	手続きの区分
平成5年4月	理工学研究科 数理情報学専攻、電子情報学専攻、機械システム工学専攻、物質化学専攻 修士課程　設置	理学関係 工学関係	設置認可 （研究科）
平成7年4月	理工学研究科 数理情報学専攻、電子情報学専攻、機械システム工学専攻、物質化学専攻 博士後期課程　設置	理学関係 工学関係	設置認可 （研究科）
平成16年4月	理工学研究科物質化学専攻修士課程のカリキュラム変更	工学関係	学則変更
平成19年4月	理工学研究科 情報メディア学専攻、環境ソリューション工学専攻 修士課程　設置	工学関係	設置届出 （専攻）
平成20年4月	理工学研究科物質化学専攻修士課程のカリキュラム変更	工学関係	学則変更
平成21年4月	理工学研究科 情報メディア学専攻、環境ソリューション工学専攻 博士後期課程　設置	工学関係	設置届出 （専攻）
令和2年4月	理工学研究科数理情報学専攻修士課程のカリキュラム変更	理学関係	学則変更
令和6年4月	先端理工学研究科先端理工学専攻修士課程　設置	理学関係 工学関係	設置届出 （研究科）
	先端理工学研究科先端理工学専攻博士後期課程　設置	理学関係 工学関係	設置届出 （研究科）
	理工学研究科 数理情報学専攻、電子情報学専攻、機械システム工学専攻、 物質化学専攻、情報メディア学専攻、環境ソリューション工学専攻 修士課程の学生募集停止	―	学生募集停止 （研究科）
	理工学研究科 数理情報学専攻、電子情報学専攻、機械システム工学専攻、 物質化学専攻、情報メディア学専攻、環境ソリューション工学専攻 博士後期課程の学生募集停止	―	学生募集停止 （研究科）

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（先端理工学研究科　先端理工学専攻　修士課程）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
大学院教養科目		先端理工学基礎演習Ⅰ	1 前	2				○		44	16	11				
		先端理工学基礎演習Ⅱ	1 後	2				○		44	16	11				
		英語プレゼンテーションⅠ	1 ①③		1		○				1					
		英語プレゼンテーションⅡ	1 ②④		1		○				1					
		科学哲学・科学史	1 ④		1		○					1				
		RUBeC演習	1 通		4			○		2	1	1				集中・共同
		小計(6科目)	－	4	7	0	－			44	17	11	0	0		
特論	数理・情報科学コース科目	先端理工学研究（数理・情報科学コース）	1 通		1		○			8	3	1				集中・ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		計算科学特論Ⅰ	1 ③		1		○				1					
		計算科学特論Ⅱ	1 ④		1		○				1					
		機械学習特論Ⅰ	1 ①		1		○				1					
		機械学習特論Ⅱ	1 ②		1		○				1					
		自然言語処理特論Ⅰ	1 ①		1		○			1						
		自然言語処理特論Ⅱ	1 ②		1		○			1						
		数学解析特論Ⅰ	1 ①		1		○			1						
		数学解析特論Ⅱ	1 ②		1		○			1						
		アルゴリズム理論特論Ⅰ	1 ③		1		○			1						
		アルゴリズム理論特論Ⅱ	1 ④		1		○			1						
		反応拡散系特論Ⅰ	1 ①		1		○			1						
		反応拡散系特論Ⅱ	1 ②		1		○			1						
		ソフトウェア理論特論Ⅰ	1 ③		1		○			1						
		ソフトウェア理論特論Ⅱ	1 ④		1		○			1						
		応用幾何特論Ⅰ	1 ③		1		○				1					
		応用幾何特論Ⅱ	1 ④		1		○				1					
		数理モデル特論Ⅰ	1 ③		1		○			1						
		数理モデル特論Ⅱ	1 ④		1		○			1						
		数理科学特論Ⅰ	1 ③		1		○					1				
		数理科学特論Ⅱ	1 ④		1		○					1				
		物性物理学特論Ⅰ	1 ①		1		○			1						
		物性物理学特論Ⅱ	1 ②		1		○			1						
		非線形解析学特論Ⅰ	1 ①		1		○			1						
		非線形解析学特論Ⅱ	1 ②		1		○			1						
		数理情報科学特論Ａ	1 通		1		○			1						集中
		数理情報科学特論Ｂ	1 通		1		○								兼 1	集中
	知能情報メディアコース科目	先端理工学研究（知能情報メディアコース）	1 通		1		○			5	3	2				集中・ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		言語情報処理特論Ⅰ	1 ①		1		○				1					
		言語情報処理特論Ⅱ	1 ②		1		○				1					
		ソフトウェア科学特論Ⅰ	1 ③		1		○			1						
		ソフトウェア科学特論Ⅱ	1 ④		1		○			1						
		コンピュータグラフィックス特論Ⅰ	1 ③		1		○				1					
		コンピュータグラフィックス特論Ⅱ	1 ④		1		○				1					
		信号処理特論	1 ①		1		○			1						
		画像処理特論	1 ②		1		○			1						
		音響信号処理特論Ⅰ	1 ①		1		○			1						
		音響信号処理特論Ⅱ	1 ②		1		○			1						
		知的情報処理特論Ⅰ	1 ①		1		○			1						
		知的情報処理特論Ⅱ	1 ②		1		○			1						
		推薦システム特論Ⅰ	1 ①		1		○					1				
		推薦システム特論Ⅱ	1 ②		1		○					1				
		ソフトウェア工学特論Ⅰ	1 ①		1		○				1					
		ソフトウェア工学特論Ⅱ	1 ②		1		○				1					
		情報システム特論Ⅰ	1 ③		1		○			1						
		情報システム特論Ⅱ	1 ④		1		○			1						
		情報コミュニケーション特論Ⅰ	1 ③		1		○					1				
		情報コミュニケーション特論Ⅱ	1 ④		1		○					1				

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（先端理工学研究科　先端理工学専攻　修士課程）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
特論	電子情報通信コース科目	先端理工学研究（電子情報通信コース）	1 通		1		○			7	3	1			兼 3	集中・ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		科学技術英語特論・演習	1 前		2		○	※		2						ｵﾑﾆﾊﾞｽ ※演習
		電子ディスプレイ特論	1 ②		1		○			1						
		脳型集積回路特論	1 ③		1		○			1						
		電磁波計測特論Ⅰ	1 ①		1		○			1						
		電磁波計測特論Ⅱ	1 ②		1		○			1						
		知能情報特論Ⅰ	1 ①		1		○			1						
		知能情報特論Ⅱ	1 ②		1		○			1						
		強化学習特論Ⅰ	1 ①		1		○				1					
		強化学習特論Ⅱ	1 ②		1		○				1					
		量子工学特論	1 ①		1		○			1						
		ナノテクノロジー工学特論	1 ②		1		○			1						
		マイクロ波通信工学特論Ⅰ	1 ①		1		○			1						
		マイクロ波通信工学特論Ⅱ	1 ②		1		○			1						
		人間情報処理特論Ⅰ	1 ③		1		○				1					
		人間情報処理特論Ⅱ	1 ④		1		○				1					
		ナノ計測工学特論Ⅰ	1 ③		1		○				1					
		ナノ計測工学特論Ⅱ	1 ④		1		○				1					
		電子情報数学特論	1 ③		1		○					1				
		景観情報学特論	1 ④		1		○					1				
		生体システム特論Ⅰ	1 ③		1		○			1						
		生体システム特論Ⅱ	1 ④		1		○			1						
		電子物性特論Ⅰ	1 ③		1		○			1						
		電子物性特論Ⅱ	1 ④		1		○			1						
	機械工学・ロボティクスコース科目	先端理工学研究（機械工学・ロボティクスコース）	1 通		1		○			9	1	2				集中・ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		エネルギー工学特論	1 ③		1		○					1				
		燃焼特論	1 ④		1		○					1				
		高速空気力学特論	1 ③		1		○			1						
		航空宇宙工学特論	1 ④		1		○			1						
		有限要素法特論	1 ③		1		○			1						
		計算生体力学特論	1 ④		1		○			1						
		知能制御特論Ⅰ	1 ③		1		○				1					
		知能制御特論Ⅱ	1 ④		1		○				1					
		計測システム特論Ⅰ	1 ③		1		○			1						
		計測システム特論Ⅱ	1 ④		1		○			1						
		精密加工学特論Ⅰ	1 ③		1		○			1						
		精密加工学特論Ⅱ	1 ④		1		○			1						
		材料加工特論	1 ①		1		○			1						
		強度評価学特論	1 ②		1		○			1						
		熱流体工学特論Ⅰ	1 ①		1		○			1						
		熱流体工学特論Ⅱ	1 ②		1		○			1						
		知能システム特論Ⅰ	1 ①		1		○			1						
		知能システム特論Ⅱ	1 ②		1		○			1						
		複合材料力学特論Ⅰ	1 ①		1		○			1						
		複合材料力学特論Ⅱ	1 ②		1		○			1						
		材料工学特論Ⅰ	1 ③		1		○					1				
		材料工学特論Ⅱ	1 ④		1		○					1				
		ロボット工学特論Ⅰ	1 ①		1		○			1						
		ロボット工学特論Ⅱ	1 ②		1		○			1						

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（先端理工学研究科　先端理工学専攻　修士課程）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
特論	応用化学コース科目	先端理工学研究（応用化学コース）	1 通		1		○			9	1	2				集中・ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		生物化学特論Ⅰ	1 ③		1		○			1						
		生物化学特論Ⅱ	1 ④		1		○			1						
		電気化学特論Ⅰ	1 ③		1		○					1				
		電気化学特論Ⅱ	1 ④		1		○					1				
		生体分子工学特論	1 ③		1		○			1						
		バイオ計測工学特論	1 ④		1		○			1						
		有機合成化学特論Ⅰ	1 ①		1		○			1						
		有機合成化学特論Ⅱ	1 ②		1		○			1						
		高分子機能科学特論Ⅰ	1 ①		1		○			1						
		高分子機能科学特論Ⅱ	1 ②		1		○			1						
		固体物性化学特論Ⅰ	1 ③		1		○				1					
		固体物性化学特論Ⅱ	1 ④		1		○				1					
		固体化学特論Ⅰ	1 ①		1		○			1						
		固体化学特論Ⅱ	1 ②		1		○			1						
		分析科学特論Ⅰ	1 ③		1		○			1						
		分析科学特論Ⅱ	1 ④		1		○			1						
		高分子材料工学特論Ⅰ	1 ①		1		○			1						
		高分子材料工学特論Ⅱ	1 ②		1		○			1						
		材料物性測定学特論Ⅰ	1 ①		1		○					1				
		材料物性測定学特論Ⅱ	1 ②		1		○					1				
		無機機能材料化学特論Ⅰ	1 ①		1		○			1						
		無機機能材料化学特論Ⅱ	1 ②		1		○			1						
		有機機能材料化学特論Ⅰ	1 ③		1		○			1						
		有機機能材料化学特論Ⅱ	1 ④		1		○			1						
	環境科学コース科目	先端理工学研究（環境科学コース）	1 通		1		○			6	5	3				集中・ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		生産生態学特論Ⅰ	1 ③		1		○			1						
		生産生態学特論Ⅱ	1 ④		1		○			1						
		水道工学特論Ⅰ	1 ①		1		○					1				隔年
		水道工学特論Ⅱ	1 ②		1		○					1				隔年
		下水道工学特論Ⅰ	1 ①		1		○					1				隔年
		下水道工学特論Ⅱ	1 ②		1		○					1				隔年
		水処理工学特論	1 ①		1		○			1						
		物質移動現象特論	1 ②		1		○			1						
		多様性生物学特論Ⅰ	1 ③		1		○				1					隔年
		多様性生物学特論Ⅱ	1 ④		1		○				1					隔年
		保全生物学特論Ⅰ	1 ③		1		○				1					隔年
		保全生物学特論Ⅱ	1 ④		1		○				1					隔年
		生態学とその周辺の先端分析に関する特論Ⅰ	1 ③		1		○			1						隔年
		生態学とその周辺の先端分析に関する特論Ⅱ	1 ④		1		○			1						隔年
		生態学における実証とデータ解析に関する特論Ⅰ	1 ③		1		○			1						隔年
		生態学における実証とデータ解析に関する特論Ⅱ	1 ④		1		○			1						隔年
		環境生態学特論ＡⅠ	1 ①		1		○				1					隔年
		環境生態学特論ＡⅡ	1 ②		1		○				1					隔年
		環境生態学特論ＢⅠ	1 ①		1		○				1					隔年
		環境生態学特論ＢⅡ	1 ②		1		○				1					隔年
		数理モデリング特論Ⅰ	1 ①		1		○			1						隔年
		数理モデリング特論Ⅱ	1 ②		1		○			1						隔年
		理論生態学特論Ⅰ	1 ①		1		○			1						隔年
		理論生態学特論Ⅱ	1 ②		1		○			1						隔年
		燃焼工学特論Ⅰ	1 ①		1		○					1				
		燃焼工学特論Ⅱ	1 ②		1		○					1				
		資源利活用特論Ⅰ	1 ③		1		○			1						
		資源利活用特論Ⅱ	1 ④		1		○			1						
		環境計量特論Ⅰ	1 ②		1		○			1						隔年
		環境計量特論Ⅱ	1 ②		1		○			1						隔年
		資源循環工学特論	1 ②		1		○			1						隔年
		廃棄物処理技術特論	1 ②		1		○			1						隔年
		環境影響評価特論Ⅰ	1 ①		1		○				1					
		環境影響評価特論Ⅱ	1 ②		1		○				1					
		環境微生物工学特論Ⅰ	1 ③		1		○				1					
		環境微生物工学特論Ⅱ	1 ④		1		○				1					
		環境動物昆虫学特論Ⅰ	1 ③		1		○				1					隔年
		環境動物昆虫学特論Ⅱ	1 ④		1		○				1					隔年
		動物生態学特論Ⅰ	1 ③		1		○				1					隔年
		動物生態学特論Ⅱ	1 ④		1		○				1					隔年
		小計(163科目)	－	0	164	0	－			45	16	11	0	0	兼 4	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（先端理工学研究科　先端理工学専攻　修士課程）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
演習	数理・情報科学コース	数理・情報科学演習	2 通		4			○		8	3	1				
	知能情報メディアコース	知能情報メディア特別演習	2 通		4			○		5	3	2				
	電子情報通信コース	電子情報通信演習	2 通		4			○		7	3	1				
	機械工学・ロボティクスコース	機械工学・ロボティクス演習	2 通		4			○		9	1	2				
	応用化学コース	応用化学演習	2 通		4			○		9	1	2				
	環境科学コース	環境科学演習	2 通		4			○		6	5	3				
		小計（6科目）	－	0	24	0	－			44	16	11	0	0		
特別研究	数理・情報科学コース	数理・情報科学特別研究	1～2 通		8			○		8	3	1				
	知能情報メディアコース	知能情報メディア特別研究	1～2 通		8			○		5	3	2				
	電子情報通信コース	電子情報通信特別研究	1～2 通		8			○		7	3	1				
	機械工学・ロボティクスコース	機械工学・ロボティクス特別研究	1～2 通		8			○		9	1	2				
	応用化学コース	応用化学特別研究	1～2 通		8			○		9	1	2				
	環境科学コース	環境科学特別研究	1～2 通		8			○		6	5	3				
		小計（6科目）	－	0	48	0	－			44	16	11	0	0		
合計（181科目）			－	4	243	0	－			45	17	11	0	0	兼 4	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（先端理工学研究科　先端理工学専攻　修士課程）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	

学位又は称号	数理・情報科学コース:修士(理学) 数理・情報科学コース以外:修士(工学)	学位又は学科の分野	数理・情報科学コース:理学関係 数理・情報科学コース以外:工学関係

修　了　要　件　及　び　履　修　方　法	授業期間等	
【数理・情報科学コース、知能情報メディアコース、機械工学・ロボティクスコース、応用化学コース、環境科学コース】 以下の条件を満たし、合計32単位以上を修得すること。 ①大学院教養科目から4単位以上（必修4単位を含む） ②特論から12単位以上（自コースの「先端理工学研究」1単位必修 、自コースの特論（選択）から6単位以上、自コース科目・他コース科目も含めた全特論（選択）から5単位以上を含む） ③演習4単位（自コースの「演習」科目4単位必修） ④特別研究8単位（自コースの「特別研究」科目8単位必修） （履修科目登録上限：なし） 【電子情報通信コース】 以下の条件を満たし、合計32単位以上を修得すること。 ①大学院教養科目から4単位以上（必修4単位を含む） ②特論から12単位以上（自コースの「先端理工学研究」1単位必修、「科学技術英語特論・演習」2単位必修、自コースの特論科目（選択）から4単位以上、自コース科目・他コース科目も含めた全特論科目（選択）から5単位以上を含む） ③演習4単位（自コースの「演習」科目4単位必修） ④特別研究8単位（自コースの「特別研究」科目8単位必修） （履修科目登録上限：なし）	1学年の学期区分	4学期
	1学期の授業期間	8週
	1時限の授業時間	90分

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（先端理工学研究科　先端理工学専攻　博士後期課程）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
研究科共通科目		サイエンスコミュニケーション	1通	2				○		1						集中
		小計（1科目）	－	2	0	0	－			1	0	0	0	0		
特別講義	数理・情報科学コース科目	数理解析特別講義Ⅰ	1前		2		○			2						
		数理解析特別講義Ⅱ	1前		2		○				1					
		応用数理特別講義Ⅰ	1前		2		○				1					
		応用数理特別講義Ⅱ	1前		2		○			2						
		情報科学特別講義Ⅰ	1前		2		○			1	1					
		情報科学特別講義Ⅱ	1前		2		○			2						
	知能情報メディアコース科目	知能情報システム特別講義Ⅰ	1前		2		○			1						
		知能情報システム特別講義Ⅱ	1前		2		○			1						
		ソフトウェア科学特別講義Ⅰ	1前		2		○			1	1					
		ソフトウェア科学特別講義Ⅱ	1前		2		○			1	1					
		メディア工学特別講義Ⅰ	1前		2		○			1						
		メディア工学特別講義Ⅱ	1前		2		○				1					
	電子情報通信コース科目	電子情報基礎特別講義Ⅰ	1前		2		○			2						
		電子情報基礎特別講義Ⅱ	1前		2		○			1	1					
		情報処理機構特別講義Ⅰ	1前		2		○			1						
		情報処理機構特別講義Ⅱ	1前		2		○			1	1					
		情報システム特別講義Ⅰ	1前		2		○			1						
		情報システム特別講義Ⅱ	1前		2		○			1	1					
	機械工学・ロボティクスコース科目	力学特別講義Ⅰ	1前		2		○			2						
		力学特別講義Ⅱ	1前		2		○			1						
		エネルギー特別講義Ⅰ	1前		2		○			1						
		エネルギー特別講義Ⅱ	1前		2		○			1						
		システム特別講義Ⅰ	1前		2		○			2						
		システム特別講義Ⅱ	1前		2		○			2	1					
	応用化学コース科目	物質評価法特別講義Ⅰ	1前		2		○			1						
		物質評価法特別講義Ⅱ	1前		2		○			1						
		無機材料特別講義Ⅰ	1前		2		○				1					
		無機材料特別講義Ⅱ	1前		2		○			2						
		有機・高分子材料特別講義Ⅰ	1前		2		○			2						
		有機・高分子材料特別講義Ⅱ	1前		2		○			3						
	環境科学コース科目	生態学特別講義Ⅰ	1前		2		○			2	3					
		生態学特別講義Ⅱ	1前		2		○			2	3					
		エコロジー工学特別講義Ⅰ	1前		2		○			3	2					
		エコロジー工学特別講義Ⅱ	1前		2		○			3	2					
		高度専門研究特別講義	1前		2		○			42	16					
		小計(35科目)	－	0	70	0	－			42	16	0	0	0		

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（先端理工学研究科　先端理工学専攻　博士後期課程）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
特別研究	数理・情報科学コース	数理解析特別研究	1～3 通		12			○		2	1					集中
		応用数理特別研究	1～3 通		12			○		2	1					集中
		情報科学特別研究	1～3 通		12			○		3	1					集中
	知能情報メディアコース	知能情報システム特別研究	1～3 通		12			○		2						集中
		ソフトウェア科学特別研究	1～3 通		12			○		2	2					集中
		メディア工学特別研究	1～3 通		12			○		1	1					集中
	電子情報通信コース	電子情報基礎特別研究	1～3 通		12			○		3	1					集中
		情報処理機構特別研究	1～3 通		12			○		2	1					集中
		情報システム特別研究	1～3 通		12			○		2	1					集中
	機械工学・ロボティクスコース	力学特別研究	1～3 通		12			○		3						集中
		エネルギー特別研究	1～3 通		12			○		2						集中
		システム特別研究	1～3 通		12			○		4	1					集中
	応用化学コース	物質評価法特別研究	1～3 通		12			○		2						集中
		無機材料特別研究	1～3 通		12			○		2	1					集中
		有機・高分子材料特別研究	1～3 通		12			○		5						集中
	環境科学コース	生態学特別研究	1～3 通		12			○		2	3					集中
		エコロジー工学特別研究	1～3 通		12			○		3	2					集中
		小計（17科目）	－	0	204	0	－			42	16	0	0	0		
合計（53科目）			－	2	274	0	－			42	16	0	0	0	兼 0	

学位又は称号	学位又は学科の分野
数理・情報科学コース:博士(理学) 数理・情報科学コース以外:博士(工学)	数理・情報科学コース:理学関係 数理・情報科学コース以外:工学関係

修了要件及び履修方法	授業期間等	
【数理・情報科学コース、知能情報メディアコース、電子情報通信コース、機械工学・ロボティクスコース、応用化学コース、環境科学コース】 研究科共通科目「サイエンスコミュニケーション」2単位（必修）及び指導教授の指導により専攻する分野の「特別研究」12単位（必修）、合計14単位以上を修得し、博士論文を提出してその審査及び最終試験に合格すること。 なお、在学期間を短縮し修了する場合には、これらに加えて、「高度専門研究特別講義」2単位を必修とする。 （履修科目登録上限：なし）	1学年の学期区分	2学期
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業時間	90分

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（先端理工学部　数理・情報科学課程）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養教育科目	「仏教の思想」科目	仏教の思想Ａ	1前	2			○			1					兼1	
		仏教の思想Ｂ	1後	2			○			1					兼1	
		歎異抄の思想Ⅰ	2前		2		○								兼1	
		歎異抄の思想Ⅱ	2後		2		○								兼1	
		小計（4科目）	－	4	4	0	－			1	0	0	0	0	兼2	
	言語科目	英語総合１（Ａ）	1前	1			○			1	1				兼9	
		英語総合１（Ｂ）	1前	1			○								兼11	
		英語総合２（Ａ）	1後	1			○			1	1				兼9	
		英語総合２（Ｂ）	1後	1			○								兼11	
		英語総合３	2前	1			○			1	1				兼9	
		英語総合４	2後	1			○			1	1				兼9	
		英語セミナーＡ１	1前		2		○								兼2	
		英語セミナーＡ２	1後		2		○								兼2	
		英語セミナーＢ１	2前		2		○								兼1	
		英語セミナーＢ２	2後		2		○								兼1	
		英語セミナーＣ１	2前		2		○								兼2	
		英語セミナーＣ２	2後		2		○								兼2	
		英語セミナーＤ１	2前		2		○				1					
		英語セミナーＤ２	2後		2		○				1					
		英語セミナーＥ１	2前		2		○			1						
		英語セミナーＥ２	2後		2		○			1						
		英語セミナーＦ１	2前		2		○				1					
		英語セミナーＦ２	2後		2		○				1					
		英語セミナーＧ１	1前		2		○				1					
		英語セミナーＧ２	1後		2		○				1					
		海外英語研修	1後		2		○								兼1	集中
		ドイツ語ＩＡ	1前		1		○								兼1	
		ドイツ語ＩＢ	1前		1		○								兼2	
		ドイツ語ⅡＡ	1後		1		○								兼1	
		ドイツ語ⅡＢ	1後		1		○								兼2	
		フランス語ＩＡ	1前		1		○								兼1	
		フランス語ＩＢ	1前		1		○								兼2	
		フランス語ⅡＡ	1後		1		○								兼1	
		フランス語ⅡＢ	1後		1		○								兼2	
		中国語ＩＡ	1前		1		○								兼2	
		中国語ＩＢ	1前		1		○								兼2	
		中国語ⅡＡ	1後		1		○								兼2	
		中国語ⅡＢ	1後		1		○								兼2	
		コリア語ＩＡ	1前		1		○								兼1	
		コリア語ＩＢ	1前		1		○								兼1	
		コリア語ⅡＡ	1後		1		○								兼1	
		コリア語ⅡＢ	1後		1		○								兼1	
		ドイツ語セミナーＩＡ	2前		2		○								兼1	
		ドイツ語セミナーＩＢ	2後		2		○								兼1	
		フランス語セミナーＩＡ	2前		2		○								兼1	
		フランス語セミナーＩＢ	2後		2		○								兼1	
		中国語セミナーＩＡ	2前		2		○								兼1	
		中国語セミナーＩＢ	2後		2		○								兼1	
		コリア語セミナーＩＡ	2前		2		○								兼1	
		コリア語セミナーＩＢ	2後		2		○								兼1	
		日本語	1前		1		○								兼1	
		小計（46科目）	－	6	63	0	－			1	3	0	0	0	兼40	

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（先端理工学部　数理・情報科学課程）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養教育科目	教養科目	人文科学系科目	哲学入門	1 前		2		○								兼 1	
			倫理学入門	1 前		2		○								兼 2	
			倫理学Ａ	1 前		2		○								兼 2	
			倫理学Ｂ	2 前		2		○								兼 1	
			クリティカル・シンキング	1 前		2		○								兼 1	
			宗教学のすすめ	1 前		2		○								兼 1	
			宗教の世界	1 前		2		○								兼 1	
			日本の文学Ｍ	1 前		2		○								兼 1	
			日本の文学Ｎ	1 後		2		○								兼 1	
			アジアの文学Ａ	1 前		2		○								兼 1	
			アジアの文学Ｂ	1 前		2		○								兼 1	
			西洋の文学Ａ	1 前		2		○								兼 3	
			西洋の文学Ｂ	2 前		2		○								兼 2	
			言語学入門	1 前		2		○			1					兼 3	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			歴史入門	1 前		2		○								兼 2	
			日本の歴史Ｍ	1 前		2		○								兼 1	
			日本の歴史Ｎ	1 後		2		○								兼 1	
			日本の文化	1 前		2		○								兼 1	
			アジアの歴史Ｍ	2 前		2		○								兼 1	
			アジアの歴史Ｎ	2 後		2		○								兼 1	
			アジアの文化	2 前		2		○								兼 1	
			西洋の歴史Ｍ	1 前		2		○								兼 1	
			西洋の歴史Ｎ	1 前		2		○								兼 1	
			心理学入門	1 前		2		○								兼 2	
			心理学Ａ	2 前		2		○								兼 2	
			心理学Ｂ	2 後		2		○								兼 2	
			教育原論Ａ	1 前		2		○								兼 2	
			教育原論Ｂ	1 後		2		○								兼 2	
			学習・発達論Ａ	2 前		2		○								兼 1	
			学習・発達論Ｂ	2 後		2		○								兼 1	
			小計（30科目）	－	0	60	0	－			1	0	0	0	0	兼 24	
		社会科学系科目	日本国憲法	1 前		2		○								兼 1	
			法学のすすめ	1 前		2		○								兼 1	
			政治学のすすめ	1 前		2		○								兼 1	
			社会学のすすめ	1 前		2		○								兼 2	
			地理学のすすめ	1 前		2		○								兼 1	
			経済学のすすめ	1 前		2		○								兼 3	
			経営学のすすめ	1 前		2		○								兼 1	
			国際学のすすめ	1 前		2		○								兼 1	
			文化人類学のすすめ	1 前		2		○								兼 1	
			社会調査のすすめ	1 前		2		○								兼 2	
			社会統計学のすすめ	1 前		2		○								兼 1	
			人権論Ａ	1 前		2		○								兼 3	
			人権論Ｂ	1 後		2		○								兼 3	
			現代社会とメディア	2 前		2		○								兼 1	
			現代社会と福祉	2 前		2		○								兼 3	
			現代社会と法	2 前		2		○								兼 1	
			現代社会と労働	2 前		2		○								兼 1	
			現代社会の諸問題	2 前		2		○								兼 1	
			環境と社会	2 前		2		○								兼 1	
			平和学Ａ	2 前		2		○								兼 1	
			ジェンダー論	2 前		2		○								兼 1	
			国際社会論	2 前		2		○								兼 3	
			地域論	2 前		2		○								兼 1	

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（先端理工学部　数理・情報科学課程）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
教養教育科目	教養科目	社会科学系科目	企業と会計	2 前		2		○								兼 1	
			社会思想史	2 前		2		○								兼 2	
			情報倫理	2 前		2		○			1					兼 1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			情報社会とメディア	1 前		2		○			2						ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			データサイエンス・ＡＩ入門	1 前		2		○			1					兼 1	集中
			小計（28科目）	－	0	56	0	－			4	0	0	0	0	兼 30	
		自然科学系科目	生活の中の数学	1 前		2		○								兼 1	
			生活の中の統計技術	1 前		2		○					1				
			生活の中の化学	1 前		2		○			1					兼 1	
			生活の中の物理	1 前		2		○			1					兼 1	
			生活の中の生物学	1 前		2		○								兼 2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			生活の中の地学	1 後		2		○								兼 1	
			現代の技術	1 後		2		○			2						ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			生命と科学	2 前		2		○								兼 1	
			自然観察法	2 前		2		○			1	1					共同
			里山学	1 前		2		○			1	1				兼 9	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			植物の自然誌	1 後		2		○								兼 2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			環境の科学	2 前		2		○			1					兼 1	
			人類の科学	2 前		2		○								兼 1	
			情報と人間	1 後		2		○								兼 1	
			現代社会と栄養	1 前		2		○								兼 1	
			小計（15科目）	－	0	30	0	－			6	1	1	0	0	兼 22	
		スポーツ科学系科目	健康とスポーツ	2 前		2		○			1					兼 1	
			現代社会とスポーツ	1 後		2		○								兼 1	
			スポーツ技術学Ａ	1 前	1					○	1					兼 2	
			スポーツ技術学Ｂ	1 後	1					○	1					兼 2	
			スポーツ文化論	2 前		2		○								兼 1	
			小計（5科目）	－	2	6	0	－			1	0	0	0	0	兼 4	
			教養教育科目特別講義	1 前		2		○								兼 1	
			バークレー語学	1 前		12		○								兼 1	
			バークレー講義	1 前		6		○								兼 1	
			バークレーボランティア	1 前		6		○								兼 1	
			小計（4科目）	－	0	26	0	－			0	0	0	0	0	兼 2	
専攻科目	専門基礎科目		情報基礎	1 ①	2			○			1				2		
			フレッシャーズセミナー	1 前		2		○			3	1	1				
			協定型インターンシップ	1 前		2				○	1						
			理工学のすすめ	1 後		2		○			1						
			ＡＳＥＡＮグローバルプログラム	2 前		2				○	1						
			デザインシンキング	2 後		2			○		1						
			グローバル人材育成プログラム	3 前		2				○	1						
			プロジェクトリサーチⅠ	3 前		1				○		1					
			プロジェクトリサーチⅡ	3 前		2				○		1					
			理工インターンシップ（学外実習）Ⅰ	3 前		1				○		1					
			理工インターンシップ（学外実習）Ⅱ	3 前		2				○		1					
			プログラミング及び実習Ⅰ	1 ②	1					○	1						
			数理情報基礎演習Ａ	1 前			2		○		3						ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			微積分及び演習Ⅰ	1 前	3				○			1					
			線形代数及び演習Ⅰ	1 前	3				○			1					
			数理情報基礎演習Ｂ	1 後			2		○		1	2					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			情報と職業	2 前		2		○								兼 1	集中
			クラウドコンピューティング演習	2 ④		2			○			1					
			小計（18科目）	－	9	22	4	－			8	5	1		2	兼 1	

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（先端理工学部　数理・情報科学課程）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻科目	専門応用科目	微積分及び演習Ⅱ	1後		3			○		1						
		線形代数及び演習Ⅱ	1後		3			○		1						
		データ分析	1後		2			○			1					
		プログラミング及び実習Ⅱ	1後		2				○				1	1		
		情報処理システムⅠ	1後		2			○		1						
		微分方程式Ⅰ	2前		2			○		1						
		物理と微分方程式及び演習	2前		3			○				1				
		確率統計Ⅰ	2前		2			○			1					
		数値計算法及び演習	2前		3			○		1						
		プログラミング及び実習Ⅲ	2前		3				○	1						
		情報処理システムⅡ	2前		2			○		1						
		プロジェクト演習	2前	2				○		3	1					共同
		フーリエ解析及び演習	2③		2			○		1						
		アルゴリズム及び演習Ⅰ	2③		2			○		1						
		シミュレーション及び演習	2④		2			○		1						
		アルゴリズム及び演習Ⅱ	2④		2			○		1						
		微分方程式Ⅱ	2後		2			○		1						
		集合と論理	2後		2			○			1					
		質点系の力学	2後		2			○		1						
		多変量解析及び演習	2後		3			○			1					
		数理・情報科学の学びと社会	3①	1				○			1					
		数理情報演習	3①	1				○		8	4	1				
		複素解析Ⅰ	3①		1			○		1						
		位相入門Ⅰ	3①		1			○		1						
		代数入門Ⅰ	3①		1			○			1					
		幾何入門	3①		1			○			1					
		現象の数理モデルⅠ	3①		1			○		1						
		拡散現象の数理Ⅰ	3①		1			○		1						
		機械学習Ⅰ	3①		1			○			1					
		オブジェクト指向及び演習	3①		2			○		1						
		データ構造とアルゴリズムⅠ	3①		1			○		1						
		複素解析Ⅱ	3②		1			○		1						
		位相入門Ⅱ	3②		1			○		1						
		代数入門Ⅱ	3②		1			○			1					
		ベクトル解析入門	3②		1			○			1					
		現象の数理モデルⅡ	3②		1			○		1						
		拡散現象の数理Ⅱ	3②		1			○		1						
		機械学習Ⅱ	3②		1			○			1					
		グラフィックス及び演習	3②		2			○		1						
		データ構造とアルゴリズムⅡ	3②		1			○		1						
		応用幾何	3③		1			○			1					
		波動現象の数理Ⅰ	3③		1			○		1						
		確率統計Ⅱ	3③		1			○		1						
		ネットワーク及び演習	3③		2			○				1	1			ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		言語と計算Ⅰ	3③		1			○		1						
		最適化の数理Ⅰ	3③		1			○							兼1	
		確率モデル及び演習	3④		2			○				1				
		波動現象の数理Ⅱ	3④		1			○		1						
		確率統計Ⅲ	3④		1			○		1						
		言語と計算Ⅱ	3④		1			○		1						
		最適化の数理Ⅱ	3④		1			○							兼1	
		セミナーⅠ	3後	4				○		8	4	1	1			
		セミナーⅡ	4前	2				○		8	4	1	1			
		特別研究Ⅰ	4前	2					○	8	4	1	1			
		特別研究Ⅱ	4後	6					○	8	4	1	1			
		小計（55科目）	－	18	77	0	－			8	4	1	1	1	兼1	

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（先端理工学部　数理・情報科学課程）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻科目	専門関連科目	確率および統計・演習	２②		2			○			1					
		アルゴリズムとデータ構造Ⅰ・演習	２③		2			○			1			1		
		アルゴリズムとデータ構造Ⅱ・演習	２④		1			○		1						
		電子物性	３①		1		○			1						
		半導体デバイス工学	３①		1		○			1					兼１	
		光デバイス	３①		1		○				1					
		ナノエレクトロニクス工学	３①		1		○			1						
		伝送線路	３①		1		○			1						
		高周波電子回路	３①		1		○			1						
		組込みシステム	３①		1		○				1					
		統計的機械学習	３①		1		○			1						
		認知科学	３①		1		○			1						
		群知能	３①		1		○				1					
		画像情報処理	３①		1		○				1					
		データサイエンス	３①		1		○					1				
		電子材料	３②		1		○			1						
		パワーエレクトロニクス	３②		1		○			1						
		ニューラルネットワーク	３②		1		○			1						
		知能ロボット	３②		1		○				1					
		応用プログラミング・演習	３②		1			○				1				
		人工知能	３②		1		○			1						
		情報セキュリティ	３②		1		○				1					
		アナログ電子回路	３③		2		○				1					
		薄膜デバイス工学	３④		2		○			1					兼１	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		電子工学	３③		2		○			1						
		電磁波工学	３③		1		○			1						
		符号理論	３③		2		○			1						
		情報数学	３③		1		○			1						
		計算機制御・演習	３③		1			○			1					
		計測工学	３④		1		○								兼１	
		回路設計・演習	３④		1			○		1						
		結晶工学	３④		2		○								兼１	隔年
		量子力学	３③		2		○								兼１	隔年
		無線通信工学	３④		2		○			1						
		ディジタル信号処理・演習	３④		2			○				1				
		ネットワーク通信システム	３④		2		○								兼１	
		計算機アーキテクチャ	３④		1		○				1					
		材料力学Ⅰ	２①		1		○			1						
		流体工学Ⅰ	２①		1		○			1						
		材料力学Ⅱ	２②		1		○			1						
		流体工学Ⅱ	２②		1		○			1						
		振動工学Ⅰ	２③		1		○			1						
		材料力学Ⅲ	２③		1		○			1						
		基礎機械材料学	２③		1		○					1				
		粘性流体力学	２③		1		○			1						
		熱力学Ⅰ	２③		1		○			1						
		ディジタル電子制御Ⅰ	２③		1		○			1						
		機構学Ⅰ	２③		1		○								兼１	
		振動工学Ⅱ	２④		1		○			1						
		応用材料力学	２④		1		○			1						
		機械材料学	２④		1		○					1				
		航空流体力学	２④		1		○			1						
		熱力学Ⅱ	２④		1		○			1						
		ディジタル電子制御Ⅱ	２④		1		○			1						
		機構学Ⅱ	２④		1		○								兼１	
		弾性力学	３①		1		○			1						

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（先端理工学部　数理・情報科学課程）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻科目	専門関連科目	計算力学実習Ⅰ	３①		1				○	1						
		機械要素	３①		1		○			1						
		材料加工学	３①		1		○			1						
		航空・宇宙工学	３①		1		○			1						
		熱工学Ⅰ	３①		1		○					1				
		計測工学Ⅰ	３①		1		○			1						
		制御系設計論Ⅰ	３①		1		○				1					
		メカトロニクスⅠ	３①		1		○			1						
		ロボット実習	３①		1				○	2				3		ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		構造力学	３②		1		○			1						
		機械設計	３②		1		○			1						
		機械加工学	３②		1		○			1						
		自動車工学	３②		1		○					1				
		熱工学Ⅱ	３②		1		○					1				
		計測工学Ⅱ	３②		1		○			1						
		制御系設計論Ⅱ	３②		1		○				1					
		メカトロニクスⅡ	３②		1		○			1						
		バイオメカニクス	３③		1		○			1						
		材料強度学Ⅰ	３③		1		○			1						
		伝熱工学Ⅰ	３③		1		○			1						
		ロボット工学Ⅰ	３③		1		○				1					
		解析力学	３④		1		○			1						
		材料強度学Ⅱ	３④		1		○			1						
		伝熱工学Ⅱ	３④		1		○			1						
		ロボット工学Ⅱ	３④		1		○				1					
		化学と社会	１前		2		○			2		1				ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		資源・エネルギーと環境	１後		2		○			3						ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		化学と安全管理	２前		2		○			1	1					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		生化学Ⅰ	２③		1		○			1						
		量子材料科学Ⅰ	２③		1		○			1						
		電気化学Ⅰ	２③		1		○					1				
		結晶学入門Ⅰ	２③		1		○					1				
		高分子化学Ⅰ	２③		1		○			1						
		アドバンスト機器分析化学Ⅰ	２③		1		○			1						
		分析化学	２③		1		○					1				
		生化学Ⅱ	２④		1		○			1						
		量子材料科学Ⅱ	２④		1		○				1					
		電気化学Ⅱ	２④		1		○					1				
		結晶学入門Ⅱ	２④		1		○					1				
		高分子化学Ⅱ	２④		1		○			1						
		機器分析化学	２④		1		○			1						
		アドバンスト機器分析化学Ⅱ	２④		1		○			1						
		化学工学	２後		2		○			1						
		アドバンスト環境化学Ⅰ	３①		1		○					1				
		循環系グリーンケミストリー	３①		1		○				1					
		半導体材料Ⅰ	３①		1		○				1					
		固体物性化学Ⅰ	３①		1		○					1				
		エネルギー変換工学Ⅰ	３①		1		○			1						
		医薬品のプロセス化学	３①		1		○			1						
		分子集合化学	３①		1		○			1						
		有機化合物スペクトル解析入門Ⅰ	３①		1		○			1						
		バイオミメティックス　生物に倣ったものづくり	３①		1		○			1						
		セラミックス材料工学Ⅰ	３①		1		○			1						
		界面化学	３①		1		○			1						
		食と分子科学	３①		1		○					1				
		半導体材料Ⅱ	３②		1		○				1					

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（先端理工学部　数理・情報科学課程）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻科目	専門関連科目	固体物性化学Ⅱ	３②		1		○					1				
		アドバンスト電気化学	３②		1		○					1				
		エネルギー変換工学Ⅱ	３②		1		○			1						
		有機化合物スペクトル解析入門Ⅱ	３②		1		○			1						
		セラミックス材料工学Ⅱ	３②		1		○			1						
		アドバンスト環境化学Ⅱ	３②		1		○					1				
		バイオマテリアルⅠ	３③		1		○			1						
		構造解析学	３③		1		○					1				
		光化学Ⅰ	３③		1		○			1						
		逆合成解析化学Ⅰ	３③		1		○			1						
		高分子構造材料物性Ⅰ	３③		1		○			1						
		高分子材料工学Ⅰ	３③		1		○			1						
		ナノマテリアル	３③		1		○			1						
		バイオマテリアルⅡ	３④		1		○			1						
		光化学Ⅱ	３④		1		○			1						
		逆合成解析化学Ⅱ	３④		1		○			1						
		高分子構造材料物性Ⅱ	３④		1		○			1						
		高分子材料工学Ⅱ	３④		1		○			1						
		反応工学	３④		1		○			1						
		ディジタル信号処理	２後		2		○			1						
		仮想メディアシステム	２前		2		○			1						
		情報とセキュリティ	２前		2		○			1						
		システムソフトウェア	２前		2		○						1			
		データベース	２前		2		○				1					
		ヒューマンコンピュータインタラクション	２前		2		○					1				
		コンピュータビジョン	２前		2		○					1				
		多様なプログラミング言語	２前		2		○					1				
		音声・音響メディア処理論	２後		2		○			1						
		環境としての情報技術	３前		2		○			1						
		言語メディア処理論	２後		2		○					1				
		ＣＧとＶＲ	２後		2		○				1					
		ニューロとＡＩ	２後		2		○			1						
		データインテリジェンス	２後		2		○					1				
		ネットワーク構成論	２後		2		○				1					
		画像メディア処理論	３①		2		○			1						
		ソフトウェア開発法	３前		2		○				1					
		応用アルゴリズム	３前		2		○			1						
		環境実習ＩＡ	１①		1				○		3			1		共同
		地域環境概論Ａ	１②		1		○				2					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		生物学概論	１前		2		○								兼１	
		環境生態工学概論	１前		2		○			6	5	3				ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		地球環境概論Ａ	１③		1		○			1		1				ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		地域環境概論Ｂ	１①		1		○			1						
		地球環境概論Ｂ	１④		1		○				1					
		生態学概論Ⅰ	１③		1		○			2	2					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		ＳＤＧｓ概論	１③		1		○				1					
		水環境科学	１②		1		○				2					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		里山の生態学	１②		1		○			2	3	1				ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		大気環境科学	１④		1		○				1					
		進化学	１④		1		○			1						
		生物資源利用	１③		1		○			2	2	1				ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		生態学概論Ⅱ	１④		1		○			2	1	1				ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		化学工学Ⅰ	２①		1		○			1						
		気象学	２①		1		○								兼１	
		土木工学Ⅰ	２①		1		○					1				
		測量学及び演習	２①		2		○								兼１	

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（先端理工学部　数理・情報科学課程）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻科目	専門関連科目	環境実習ⅡＡ	２②		1				○	3	1			1		共同
		自然の浄化機構	２①		1		○				1					
		環境社会学	２①		1		○								兼 1	
		環境倫理学	２①		1		○								兼 1	
		社会調査法及び演習	２①		2		○								兼 1	
		保全生態学	２①		1		○			1	2					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		環境経済学	２②		1		○			1						
		生理生態学	２③		1		○			1	2	1				ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		環境調査	２①		1		○			1	3	1				ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		化学工学Ⅱ	２②		1		○			1						
		製図学及び演習	２②		2		○			1					兼 1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		土木工学Ⅱ	２②		1		○					1				
		環境政策論	２②		1		○								兼 1	
		環境移動現象論	２③		1		○				1					
		廃棄物管理学Ⅰ	２③		1		○			1						
		環境微生物学	２③		1		○				1					
		環境計測学	２②		1		○			1						
		先端技術	２③		1		○			1	1					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		燃焼工学	２④		1		○					1				
		廃棄物管理学Ⅱ	２④		1		○			1						
		水理学	２③		1		○			1						
		データサイエンス及び演習	２④		1		○			2						ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		土壌地質学	２②		1		○				2					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		環境分析化学実験	２④		1				○	2		1		1	兼 1	共同
		水域生態学	２④		1		○			2	1					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		排ガス処理工学	３①		1		○				1					
		空気調和工学	３①		1		○				1					
		資源循環論	２③		1		○			1						
		水環境施設実験	３①		1				○		1			1		共同
		廃棄物・大気環境施設実験	３①		1				○		1	1				共同
		水処理工学	２④		1		○			1						
		環境毒性学	３①		1		○				1					
		地理情報学	３①		1		○								兼 1	
		資源管理学及び演習	２④		1		○			1	1	1				ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		群集生態学	３①		1		○			1		1				ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		水道工学	３③		1		○					1				
		水処理施設設計	３③		1		○			1						
		環境アセスメントＢ	３③		1		○				1					
		下水道工学	３④		1		○					1				
		廃棄物処理施設設計	３④		1		○					1				
		数値計算法基礎及び演習	３④		1		○			1						
		環境アセスメントＡ	３④		1		○				1					
		景観生態学	３④		1		○								兼 1	
		微生物生態学	３④		1		○			1						
		応用生態学	３④		1		○			2	3					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		小計（213科目）	－	0	251	0	－			37	12	12	1	6	兼 16	

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（先端理工学部　数理・情報科学課程）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
諸課程科目	数学科教育法Ａ	2 前			2	○			1						
	数学科教育法Ｂ	2 後			2	○			1						
	数学科教育法Ⅰ	3 前			2	○			1						
	数学科教育法Ⅱ	3 後			2	○			1						
	情報科教育法Ⅰ	3 前			2	○								兼 1	
	情報科教育法Ⅱ	3 後			2	○								兼 1	
	教職論	2 前			2	○								兼 1	
	学校教育社会学	2 後			2	○								兼 1	
	教育社会学	2 前			2	○								兼 1	
	特別支援教育概論	2 前			2	○								兼 1	
	教育課程論	2 後			2	○			1						
	道徳教育指導法	3 後			2	○								兼 1	
	特別活動・総合的学習論	3 前			2	○								兼 1	
	教育の方法と技術（ＩＣＴ活用含む）	3 前			2	○			1						
	生徒・進路指導論	2 後			2	○								兼 1	
	教育相談	3 前			2	○								兼 1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	教育実習指導Ⅰ	4 前			1	○			1						
	教育実習指導ⅡＡ	4 通			4			○	1						
	教育実習指導ⅡＢ	4 通			2			○	1						
	教職実践演習（中・高）	4 後			2		○		1					兼 1	
	介護等体験	2 通			2			○	1						
	真宗学概論	2 通			4	○								兼 1	
	仏教学概論	2 通			4	○			1						
	真宗史	1 通			4	○								兼 1	
	（本山教師）仏教史	1 前			1	○								兼 2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	（本山教師）宗教概説	1 前			1	○								兼 1	
	勤式	1 通			4	○								兼 4	隔年／ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	宗門法規	1 前			2	○								兼 1	隔年／集中
	教化法	1 通			4	○								兼 4	隔年／ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	小計（29科目）	－	0	0	67	－			2	0	0	0	0	兼 23	
合計（447科目）		－	39	595	71	－			49	19	13	2	9	兼 159	

学位又は称号	学士（理学）	学位又は学科の分野	理学関係（数理科学）

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
教養教育科目から28単位以上（必修12単位、選択必修4単位（教養科目の人文科学系・社会科学系科目より各2単位）を含む）、専門基礎科目から9単位以上（必修9単位を含む）、専門応用科目から71単位以上（必修18単位、選択必修22単位を含む）を修得し、合計124単位以上を修得すること。 （履修科目登録上限：1～2年次44単位（年間）、3～4年次48単位（年間）） 1学年の学期区分：4期 1学期の授業期間：8週 1時限の授業時間：90分		

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（先端理工学部　知能情報メディア課程）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
教養教育科目	「仏教の思想」科目	仏教の思想Ａ	１前	2			○								兼 2	
		仏教の思想Ｂ	１後	2			○								兼 2	
		歎異抄の思想Ⅰ	２前		2		○								兼 1	
		歎異抄の思想Ⅱ	２後		2		○								兼 1	
		小計（4科目）	－	4	4	0	－			0	0	0	0	0	兼 3	
	言語科目	英語総合１（Ａ）	１前	1			○				1				兼 10	
		英語総合１（Ｂ）	１前	1			○				2				兼 9	
		英語総合２（Ａ）	１後	1			○				1				兼 10	
		英語総合２（Ｂ）	１後	1			○				2				兼 9	
		英語総合３	２前	1			○				2				兼 9	
		英語総合４	２後	1			○				2				兼 9	
		英語セミナーＡ１	１前		2		○								兼 2	
		英語セミナーＡ２	１後		2		○								兼 2	
		英語セミナーＢ１	２前		2		○								兼 1	
		英語セミナーＢ２	２後		2		○								兼 1	
		英語セミナーＣ１	２前		2		○								兼 2	
		英語セミナーＣ２	２後		2		○								兼 2	
		英語セミナーＤ１	２前		2		○				1					
		英語セミナーＤ２	２後		2		○				1					
		英語セミナーＥ１	２前		2		○			1						
		英語セミナーＥ２	２後		2		○			1						
		英語セミナーＦ１	２前		2		○				1					
		英語セミナーＦ２	２後		2		○				1					
		英語セミナーＧ１	１前		2		○				1					
		英語セミナーＧ２	１後		2		○				1					
		海外英語研修	１後		2		○								兼 1	集中
		ドイツ語ＩＡ	１前		1		○								兼 1	
		ドイツ語ＩＢ	１前		1		○								兼 2	
		ドイツ語ⅡＡ	１後		1		○								兼 1	
		ドイツ語ⅡＢ	１後		1		○								兼 2	
		フランス語ＩＡ	１前		1		○								兼 1	
		フランス語ＩＢ	１前		1		○								兼 2	
		フランス語ⅡＡ	１後		1		○								兼 1	
		フランス語ⅡＢ	１後		1		○								兼 2	
		中国語ＩＡ	１前		1		○								兼 2	
		中国語ＩＢ	１前		1		○								兼 2	
		中国語ⅡＡ	１後		1		○								兼 2	
		中国語ⅡＢ	１後		1		○								兼 2	
		コリア語ＩＡ	１前		1		○								兼 1	
		コリア語ＩＢ	１前		1		○								兼 1	
		コリア語ⅡＡ	１後		1		○								兼 1	
		コリア語ⅡＢ	１後		1		○								兼 1	
		ドイツ語セミナーＩＡ	２前		2		○								兼 1	
		ドイツ語セミナーＩＢ	２後		2		○								兼 1	
		フランス語セミナーＩＡ	２前		2		○								兼 1	
		フランス語セミナーＩＢ	２後		2		○								兼 1	
		中国語セミナーＩＡ	２前		2		○								兼 1	
		中国語セミナーＩＢ	２後		2		○								兼 1	
		コリア語セミナーＩＡ	２前		2		○								兼 1	
		コリア語セミナーＩＢ	２後		2		○								兼 1	
		日本語	１前		1		○								兼 1	
		小計（46科目）	－	6	63	0	－			1	3	0	0	0	兼 39	

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（先端理工学部　知能情報メディア課程）

教養教育科目	教養科目	人文科学系科目	哲学入門	1 前		2		○								兼 1	
			倫理学入門	1 前		2		○								兼 2	
			倫理学Ａ	1 前		2		○								兼 2	
			倫理学Ｂ	2 前		2		○								兼 1	
			クリティカル・シンキング	1 前		2		○								兼 1	
			宗教学のすすめ	1 前		2		○								兼 1	
			宗教の世界	1 前		2		○								兼 1	
			日本の文学Ｍ	1 前		2		○								兼 1	
			日本の文学Ｎ	1 後		2		○								兼 1	
			アジアの文学Ａ	1 前		2		○								兼 1	
			アジアの文学Ｂ	1 前		2		○								兼 1	
			西洋の文学Ａ	1 前		2		○								兼 3	
			西洋の文学Ｂ	2 前		2		○								兼 2	
			言語学入門	1 前		2		○			1					兼 3	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			歴史入門	1 前		2		○								兼 2	
			日本の歴史Ｍ	1 前		2		○								兼 1	
			日本の歴史Ｎ	1 後		2		○								兼 1	
			日本の文化	1 前		2		○								兼 1	
			アジアの歴史Ｍ	2 前		2		○								兼 1	
			アジアの歴史Ｎ	2 後		2		○								兼 1	
			アジアの文化	2 前		2		○								兼 1	
			西洋の歴史Ｍ	1 前		2		○								兼 1	
			西洋の歴史Ｎ	1 前		2		○								兼 1	
			心理学入門	1 前		2		○								兼 2	
			心理学Ａ	2 前		2		○								兼 2	
			心理学Ｂ	2 後		2		○								兼 2	
			教育原論Ａ	1 前		2		○								兼 2	
			教育原論Ｂ	1 後		2		○								兼 2	
			学習・発達論Ａ	2 前		2		○								兼 1	
			学習・発達論Ｂ	2 後		2		○								兼 1	
			小計（30科目）	－	0	60	0	－			1	0	0	0	0	兼 24	
		社会科学系科目	日本国憲法	1 前		2		○								兼 1	
			法学のすすめ	1 前		2		○								兼 1	
			政治学のすすめ	1 前		2		○								兼 1	
			社会学のすすめ	1 前		2		○								兼 2	
			地理学のすすめ	1 前		2		○								兼 1	
			経済学のすすめ	1 前		2		○								兼 3	
			経営学のすすめ	1 前		2		○								兼 1	
			国際学のすすめ	1 前		2		○								兼 1	
			文化人類学のすすめ	1 前		2		○								兼 1	
			社会調査のすすめ	1 前		2		○								兼 2	
			社会統計学のすすめ	1 前		2		○								兼 1	
			人権論Ａ	1 前		2		○								兼 3	
			人権論Ｂ	1 後		2		○								兼 3	
			現代社会とメディア	2 前		2		○								兼 1	
			現代社会と福祉	2 前		2		○								兼 3	
			現代社会と法	2 前		2		○								兼 1	
			現代社会と労働	2 前		2		○								兼 1	
			現代社会の諸問題	2 前		2		○								兼 1	
			環境と社会	2 前		2		○								兼 1	
			平和学Ａ	2 前		2		○								兼 1	
			ジェンダー論	2 前		2		○								兼 1	
			国際社会論	2 前		2		○								兼 3	
			地域論	2 前		2		○								兼 1	

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（先端理工学部　知能情報メディア課程）

教養教育科目	教養科目	社会科学系科目	企業と会計	2 前		2		○								兼 1	
			社会思想史	2 前		2		○								兼 2	
			情報倫理	2 前		2		○			1					兼 1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			情報社会とメディア	1 前		2		○			2						ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			データサイエンス・ＡＩ入門	1 前		2		○			1					兼 1	集中
			小計（28科目）	－	0	56	0	－			4	0	0	0	0	兼 30	
		自然科学系科目	生活の中の数学	1 前		2		○								兼 1	
			生活の中の統計技術	1 前		2		○					1				
			生活の中の化学	1 前		2		○			1					兼 1	
			生活の中の物理	1 前		2		○			1					兼 1	
			生活の中の生物学	1 前		2		○								兼 2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			生活の中の地学	1 後		2		○								兼 1	
			現代の技術	1 後		2		○			2						ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			生命と科学	2 前		2		○								兼 1	
			自然観察法	2 前		2		○			1	1					共同
			里山学	1 前		2		○			1	1				兼 9	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			植物の自然誌	1 後		2		○								兼 2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			環境の科学	2 前		2		○			1					兼 1	
			人類の科学	2 前		2		○								兼 1	
			情報と人間	1 後		2		○								兼 1	
			現代社会と栄養	1 前		2		○								兼 1	
			小計（15科目）	－	0	30	0	－			6	1	1	0	0	兼 22	
		スポーツ科学系科目	健康とスポーツ	2 前		2		○			1					兼 1	
			現代社会とスポーツ	1 後		2		○								兼 1	
			スポーツ技術学Ａ	1 前	1					○						兼 5	
			スポーツ技術学Ｂ	1 後	1					○						兼 5	
			スポーツ文化論	2 前		2		○								兼 1	
			小計（5科目）	－	2	6	0	－			1	0	0	0	0	兼 7	
			教養教育科目特別講義	1 前		2		○								兼 1	
			バークレー語学	1 前		12		○								兼 1	
			バークレー講義	1 前		6		○								兼 1	
			バークレーボランティア	1 前		6		○								兼 1	
			小計（4科目）	－	0	26	0	－			0	0	0	0	0	兼 2	
専攻科目	専門基礎科目		情報基礎	1 ①	2			○				1			2		
			フレッシャーズセミナー	1 前		2		○			6	3	3				
			協定型インターンシップ	1 前		2				○	1						
			理工学のすすめ	1 後		2		○					1				
			ＡＳＥＡＮグローバルプログラム	2 前		2				○	1						
			デザインシンキング	2 後		2			○		1						
			グローバル人材育成プログラム	3 前		2				○	1						
			プロジェクトリサーチⅠ	3 前		1				○		1					
			プロジェクトリサーチⅡ	3 前		2				○		1					
			理工インターンシップ（学外実習）Ⅰ	3 前		1				○	1						
			理工インターンシップ（学外実習）Ⅱ	3 前		2				○	1						
			メディア処理基礎	1 ②	2			○			1				1		
			ネットワーク基礎	1 前	2			○			1						
			微分積分・演習	1 前	4				○							兼 1	
			情報システム基礎	2 前	2			○				1					
			プログラミング基礎演習Ⅰ	1 ③	2				○				1		1		
			プログラミング基礎演習Ⅱ	1 ④	2				○				1		1		
			確率・統計	1 後		2		○								兼 1	
			ディジタル信号処理	2 後		2		○			1						
			ソフトウェア基礎	1 後	2			○			1						
			知的財産概論	1 後		2		○								兼 2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（先端理工学部　知能情報メディア課程）

専攻科目	専門基礎科目	ハードウェア基礎	2 前	2			○			1						
		仮想メディアシステム	2 前		2		○			1						
		情報とセキュリティ	2 前		2		○			1						
		線形代数・演習	2 前	4				○		1						
		データ構造とアルゴリズム・演習	2 前	4				○				1		1		
		システムソフトウェア	2 前		2		○						1			
		情報学概論	2 前		2		○			1						
		人間工学概論	2 前		2		○				1					
		情報と職業	2 前		2		○								兼 1	集中
		情報数学基礎	1 後		2		○								兼 1	
		データベース	2 前		2		○				1					
		クラウドコンピューティング演習	2 ④			2		○			1					
		小計（33科目）	－	28	40	2	－			9	4	3	1	4	兼 4	
	専門応用科目	ヒューマンコンピュータインタラクション	2 前		2		○					1				
		多様なプログラミング言語	2 前		2		○					1				
		コンピュータビジョン	2 前		2		○					1				
		知能情報メディア演習	2 後	4				○		6	3	3	1	2		
		音声・音響メディア処理論	2 後		2		○			1						
		環境としての情報技術	3 前		2		○			1						
		ニューロとＡＩ	2 後		2		○			1						
		言語メディア処理論	2 後		2		○					1				
		ＣＧとＶＲ	2 後		2		○				1					
		データインテリジェンス	2 後		2		○					1				
		ネットワーク構成論	2 後		2		○				1					
		実践プログラミング・演習	3 ①		2			○			1		1	1		
		科学技術計算・演習	3 ①		2			○				1				
		画像メディア処理論	3 ①		2		○			1						
		ソフトウェア開発法	3 前		2		○				1					
		応用アルゴリズム	3 前		2		○			1						
		ネットワークシステム・演習	3 後	4				○			1			1		
		コラボレーション演習	3 後		4			○		6	3	3	1	1		
		知能情報メディアセミナー	3 後	2				○		6	2	3				
		科学技術英語	4 通	2			○			6	3	3				
		特別研究	4 通	6					○	6	3	3				
		小計（21科目）	－	18	34	0	－			6	3	3	1	2	兼 0	
	専門関連科目	情報処理システムⅠ	1 後		2			○		1						
		データ分析	1 後		2			○			1					
		微分方程式Ⅰ	2 前		2			○		1						
		物理と微分方程式及び演習	2 前		3			○				1				
		プログラミング及び実習Ⅲ	2 前		3				○	1						
		情報処理システムⅡ	2 前		2			○		1						
		確率統計Ⅰ	2 前		2			○			1					
		アルゴリズム及び演習Ⅰ	2 ③		2			○		1						
		シミュレーション及び演習	2 ④		2			○		1						
		アルゴリズム及び演習Ⅱ	2 ④		2			○		1						
		微分方程式Ⅱ	2 後		2			○		1						
		質点系の力学	2 後		2			○		1						
		多変量解析及び演習	2 後		3			○			1					
		複素解析Ⅰ	3 ①		1			○		1						
		位相入門Ⅰ	3 ①		1			○		1						
		代数入門Ⅰ	3 ①		1			○			1					
		幾何入門	3 ①		1			○			1					
		現象の数理モデルⅠ	3 ①		1			○		1						
		拡散現象の数理Ⅰ	3 ①		1			○		1						

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（先端理工学部　知能情報メディア課程）

専攻科目	専門関連科目	確率モデル及び演習	3 ④		2			○				1				
		オブジェクト指向及び演習	3 ①		2			○		1						
		データ構造とアルゴリズムⅠ	3 ①		1			○		1						
		機械学習Ⅰ	3 ①		1			○			1					
		数理・情報科学の学びと社会	3 ①		1			○			1					
		複素解析Ⅱ	3 ②		1			○		1						
		位相入門Ⅱ	3 ②		1			○		1						
		代数入門Ⅱ	3 ②		1			○			1					
		ベクトル解析入門	3 ②		1			○			1					
		現象の数理モデルⅡ	3 ②		1			○		1						
		拡散現象の数理Ⅱ	3 ②		1			○		1						
		グラフィックス及び演習	3 ②		2			○		1						
		データ構造とアルゴリズムⅡ	3 ②		1			○		1						
		機械学習Ⅱ	3 ②		1			○			1					
		応用幾何	3 ③		1			○			1					
		波動現象の数理Ⅰ	3 ③		1			○		1						
		確率統計Ⅱ	3 ③		1			○		1						
		ネットワーク及び演習	3 ③		2			○				1	1			ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		言語と計算Ⅰ	3 ③		1			○		1						
		最適化の数理Ⅰ	3 ③		1			○							兼 1	
		波動現象の数理Ⅱ	3 ④		1			○		1						
		確率統計Ⅲ	3 ④		1			○		1						
		言語と計算Ⅱ	3 ④		1			○		1						
		最適化の数理Ⅱ	3 ④		1			○							兼 1	
		確率および統計・演習	2 ②		2			○			1					
		アルゴリズムとデータ構造Ⅰ・演習	2 ③		2			○			1			1		
		アルゴリズムとデータ構造Ⅱ・演習	2 ④		1			○		1						
		電子物性	3 ①		1		○			1						
		半導体デバイス工学	3 ①		1		○			1					兼 1	
		光デバイス	3 ①		1		○				1					
		ナノエレクトロニクス工学	3 ①		1		○			1						
		伝送線路	3 ①		1		○			1						
		高周波電子回路	3 ①		1		○			1						
		組込みシステム	3 ①		1		○				1					
		統計的機械学習	3 ①		1		○			1						
		認知科学	3 ①		1		○			1						
		群知能	3 ①		1		○				1					
		画像情報処理	3 ①		1		○				1					
		データサイエンス	3 ①		1		○					1				
		電子材料	3 ②		1		○			1						
		パワーエレクトロニクス	3 ②		1		○			1						
		ニューラルネットワーク	3 ②		1		○			1						
		知能ロボット	3 ②		1		○				1					
		応用プログラミング・演習	3 ②		1			○				1				
		人工知能	3 ②		1		○			1						
		情報セキュリティ	3 ②		1		○				1					
		アナログ電子回路	3 ③		2		○				1					
		薄膜デバイス工学	3 ④		2		○			1					兼 1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		電子工学	3 ③		2		○			1						
		電磁波工学	3 ③		1		○			1						
		符号理論	3 ③		2		○			1						
		情報数学	3 ③		1		○			1						
		計算機制御・演習	3 ③		1			○			1					
		計測工学	3 ④		1		○								兼 1	
		回路設計・演習	3 ④		1			○		1						

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（先端理工学部　知能情報メディア課程）

専攻科目	専門関連科目	結晶工学	3 ④		2		○			1					兼 1	隔年
		量子力学	3 ③		2		○								兼 1	隔年
		無線通信工学	3 ④		2		○			1						
		ディジタル信号処理・演習	3 ④		2			○				1				
		ネットワーク通信システム	3 ④		2		○								兼 1	
		計算機アーキテクチャ	3 ④		1		○				1					
		材料力学Ⅰ	2 ①		1		○			1						
		流体工学Ⅰ	2 ①		1		○			1						
		材料力学Ⅱ	2 ②		1		○			1						
		流体工学Ⅱ	2 ②		1		○			1						
		振動工学Ⅰ	2 ③		1		○			1						
		材料力学Ⅲ	2 ③		1		○			1						
		基礎機械材料学	2 ③		1		○					1				
		粘性流体力学	2 ③		1		○			1						
		熱力学Ⅰ	2 ③		1		○			1						
		ディジタル電子制御Ⅰ	2 ③		1		○			1						
		機構学Ⅰ	2 ③		1		○								兼 1	
		振動工学Ⅱ	2 ④		1		○			1						
		応用材料力学	2 ④		1		○			1						
		機械材料学	2 ④		1		○					1				
		航空流体力学	2 ④		1		○			1						
		熱力学Ⅱ	2 ④		1		○			1						
		ディジタル電子制御Ⅱ	2 ④		1		○			1						
		機構学Ⅱ	2 ④		1		○								兼 1	
		弾性力学	3 ①		1		○			1						
		計算力学実習Ⅰ	3 ①		1				○	1						
		機械要素	3 ①		1		○			1						
		材料加工学	3 ①		1		○			1						
		航空・宇宙工学	3 ①		1		○			1						
		熱工学Ⅰ	3 ①		1		○					1				
		計測工学Ⅰ	3 ①		1		○			1						
		制御系設計論Ⅰ	3 ①		1		○				1					
		メカトロニクスⅠ	3 ①		1		○			1						
		ロボット実習	3 ①		1				○	2				3		ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		構造力学	3 ②		1		○			1						
		機械設計	3 ②		1		○			1						
		機械加工学	3 ②		1		○			1						
		自動車工学	3 ②		1		○					1				
		熱工学Ⅱ	3 ②		1		○					1				
		計測工学Ⅱ	3 ②		1		○			1						
		制御系設計論Ⅱ	3 ②		1		○				1					
		メカトロニクスⅡ	3 ②		1		○			1						
		バイオメカニクス	3 ③		1		○			1						
		材料強度学Ⅰ	3 ③		1		○			1						
		伝熱工学Ⅰ	3 ③		1		○			1						
		ロボット工学Ⅰ	3 ③		1		○				1					
		解析力学	3 ④		1		○			1						
		材料強度学Ⅱ	3 ④		1		○			1						
		伝熱工学Ⅱ	3 ④		1		○			1						
		ロボット工学Ⅱ	3 ④		1		○				1					
		化学と社会	1 前		2		○			2		1				ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		資源・エネルギーと環境	1 後		2		○			3						ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		化学と安全管理	2 前		2		○			1	1					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		生化学Ⅰ	2 ③		1		○			1						
		量子材料科学Ⅰ	2 ③		1		○			1						

別記様式第２号（その２の１）

教育課程等の概要																
（先端理工学部　知能情報メディア課程）																
専攻科目	専門関連科目	電気化学Ⅰ	2 ③		1		○				1					
		結晶学入門Ⅰ	2 ③		1		○				1					
		高分子化学Ⅰ	2 ③		1		○		1							
		アドバンスト機器分析化学Ⅰ	2 ③		1		○		1							
		分析化学	2 ③		1		○				1					
		生化学Ⅱ	2 ④		1		○		1							
		量子材料科学Ⅱ	2 ④		1		○			1						
		電気化学Ⅱ	2 ④		1		○				1					
		結晶学入門Ⅱ	2 ④		1		○				1					
		高分子化学Ⅱ	2 ④		1		○		1							
		機器分析化学	2 ④		1		○		1							
		アドバンスト機器分析化学Ⅱ	2 ④		1		○		1							
		化学工学	2 後		2		○		1							
		アドバンスト環境化学Ⅰ	3 ①		1		○				1					
		循環系グリーンケミストリー	3 ①		1		○			1						
		半導体材料Ⅰ	3 ①		1		○			1						
		固体物性化学Ⅰ	3 ①		1		○				1					
		エネルギー変換工学Ⅰ	3 ①		1		○		1							
		医薬品のプロセス化学	3 ①		1		○		1							
		分子集合化学	3 ①		1		○		1							
		有機化合物スペクトル解析入門Ⅰ	3 ①		1		○		1							
		バイオミメティックス　生物に倣ったものづくり	3 ①		1		○		1							
		セラミックス材料工学Ⅰ	3 ①		1		○		1							
		界面化学	3 ①		1		○		1							
		食と分子科学	3 ①		1		○				1					
		半導体材料Ⅱ	3 ②		1		○			1						
		固体物性化学Ⅱ	3 ②		1		○				1					
		アドバンスト電気化学	3 ②		1		○				1					
		エネルギー変換工学Ⅱ	3 ②		1		○		1							
		有機化合物スペクトル解析入門Ⅱ	3 ②		1		○		1							
		セラミックス材料工学Ⅱ	3 ②		1		○		1							
		アドバンスト環境化学Ⅱ	3 ②		1		○				1					
		バイオマテリアルⅠ	3 ③		1		○		1							
		構造解析学	3 ③		1		○				1					
		光化学Ⅰ	3 ③		1		○		1							
		逆合成解析化学Ⅰ	3 ③		1		○		1							
		高分子構造材料物性Ⅰ	3 ③		1		○		1							
		高分子材料工学Ⅰ	3 ③		1		○		1							
		ナノマテリアル	3 ③		1		○		1							
		バイオマテリアルⅡ	3 ④		1		○		1							
		光化学Ⅱ	3 ④		1		○		1							
		逆合成解析化学Ⅱ	3 ④		1		○		1							
		高分子構造材料物性Ⅱ	3 ④		1		○		1							
		高分子材料工学Ⅱ	3 ④		1		○		1							
		反応工学	3 ④		1		○		1							
		環境実習ＩＡ	1 ①		1			○		3			1			共同
		地域環境概論Ａ	1 ②		1		○			2						ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		生物学概論	1 前		2		○							兼 1		
		環境生態工学概論	1 前		2		○		6	5	3					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		地球環境概論Ａ	1 ③		1		○		1		1					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		地域環境概論Ｂ	1 ①		1		○		1							
		地球環境概論Ｂ	1 ④		1		○			1						
		生態学概論Ⅰ	1 ③		1		○		2	2						ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		ＳＤＧｓ概論	1 ③		1		○			1						
		水環境科学	1 ②		1		○			2						ｵﾑﾆﾊﾞｽ

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（先端理工学部　知能情報メディア課程）

専攻科目	専門関連科目	里山の生態学	1 ②		1		○			2	3	1				ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		大気環境科学	1 ④		1		○				1					
		進化学	1 ④		1		○			1						
		生物資源利用	1 ③		1		○			2	2	1				ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		生態学概論Ⅱ	1 ④		1		○			2	1	1				ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		化学工学Ⅰ	2 ①		1		○			1						
		気象学	2 ①		1		○								兼 1	
		土木工学Ⅰ	2 ①		1		○					1				
		測量学及び演習	2 ①		2		○								兼 1	
		環境実習ⅡＡ	2 ②		1				○	3	1			1		共同
		自然の浄化機構	2 ①		1		○				1					
		環境社会学	2 ①		1		○								兼 1	
		環境倫理学	2 ①		1		○								兼 1	
		社会調査法及び演習	2 ①		2		○								兼 1	
		保全生態学	2 ①		1		○			1	2					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		環境経済学	2 ②		1		○			1						
		生理生態学	2 ③		1		○			1	2	1				ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		環境調査	2 ①		1		○			1	3	1				ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		化学工学Ⅱ	2 ②		1		○			1						
		製図学及び演習	2 ②		2		○			1					兼 1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		土木工学Ⅱ	2 ②		1		○					1				
		環境政策論	2 ②		1		○								兼 1	
		環境移動現象論	2 ③		1		○				1					
		廃棄物管理学Ⅰ	2 ③		1		○			1						
		環境微生物学	2 ③		1		○				1					
		環境計測学	2 ②		1		○			1						
		先端技術	2 ③		1		○			1	1					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		燃焼工学	2 ④		1		○					1				
		廃棄物管理学Ⅱ	2 ④		1		○			1						
		水理学	2 ③		1		○			1						
		データサイエンス及び演習	2 ④		1		○			2						ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		土壌地質学	2 ②		1		○				2					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		環境分析化学実験	2 ④		1				○	2		1		1	兼 1	共同
		水域生態学	2 ④		1		○			2	1					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		排ガス処理工学	3 ①		1		○				1					
		空気調和工学	3 ①		1		○				1					
		資源循環論	2 ③		1		○			1						
		水環境施設実験	3 ①		1				○		1			1		共同
		廃棄物・大気環境施設実験	3 ①		1				○		1	1				共同
		水処理工学	2 ④		1		○			1						
		環境毒性学	3 ①		1		○				1					
		地理情報学	3 ①		1		○								兼 1	
		資源管理学及び演習	2 ④		1		○			1	1	1				ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		群集生態学	3 ①		1		○			1		1				ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		水道工学	3 ③		1		○					1				
		水処理施設設計	3 ③		1		○			1						
		環境アセスメントＢ	3 ③		1		○				1					
		下水道工学	3 ④		1		○					1				
		廃棄物処理施設設計	3 ④		1		○					1				
		数値計算法基礎及び演習	3 ④		1		○			1						
		環境アセスメントＡ	3 ④		1		○				1					
		景観生態学	3 ④		1		○								兼 1	
		微生物生態学	3 ④		1		○			1						
		応用生態学	3 ④		1		○			2	3					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		小計（238科目）	－	0	278	0	－			40	14	10	1	6	兼 17	

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（先端理工学部　知能情報メディア課程）

諸課程科目	情報科教育法Ⅰ	3 前			2	○							兼 1	
	情報科教育法Ⅱ	3 後			2	○							兼 1	
	教職論	2 前			2	○							兼 1	
	学校教育社会学	2 後			2	○							兼 1	
	教育社会学	2 前			2	○							兼 1	
	特別支援教育概論	2 前			2	○							兼 1	
	教育課程論	2 後			2	○			1					
	道徳教育指導法	3 後			2	○							兼 1	
	特別活動・総合的学習論	3 前			2	○							兼 1	
	教育の方法と技術（ＩＣＴ活用含む）	3 前			2	○			1					
	生徒・進路指導論	2 後			2	○							兼 1	
	教育相談	3 前			2	○							兼 1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	教育実習指導Ⅰ	4 前			1	○			1					
	教育実習指導ⅡＡ	4 通			4			○	1					
	教育実習指導ⅡＢ	4 通			2			○	1					
	教職実践演習（中・高）	4 後			2		○		1				兼 1	
	介護等体験	2 通			2			○	1					
	真宗学概論	2 通			4	○							兼 1	
	仏教学概論	2 通			4	○			1					
	真宗史	1 通			4	○							兼 1	
	（本山教師）仏教史	1 前			1	○							兼 2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	（本山教師）宗教概説	1 前			1	○							兼 1	
	勤式	1 通			4	○							兼 4	隔年／ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	宗門法規	1 前			2	○							兼 1	隔年／集中
	教化法	1 通			4	○							兼 4	隔年／ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	博物館概論	1 前			2	○							兼 1	
	博物館資料論	1 後			2	○				1			兼 3	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	博物館経営論	2 前			2	○							兼 1	
	博物館情報・メディア論	2 後			2	○				1				
	博物館資料保存論	2 後			2	○				1			兼 2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	博物館展示論	2 後			2	○							兼 1	
	博物館教育論	1 前			2	○							兼 1	
	生涯学習概論	1 前			2	○							兼 1	
	博物館実習	3 通			3			○		2				
	小計（34科目）	－	0	0	78	－			2	3	0	0	0	兼 31	
合計（458科目）		－	58	597	80	－			49	20	13	2	10	兼 172	

学位又は称号	学士（工学）	学位又は学科の分野	工学関係（情報科学）

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
教養教育科目から28単位以上（必修12単位、選択必修4単位（教養科目の人文科学系・社会科学系科目より各2単位）を含む）、専門基礎科目から38単位以上（必修28単位を含む）、専門応用科目から40単位以上（必修18単位を含む）を修得し、合計124単位以上を修得すること。 （履修科目登録上限：1～2年次44単位（年間）、3～4年次48単位（年間））	１学年の学期区分	4期
	１学期の授業期間	8週
	１時限の授業時間	90分

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（先端理工学部　電子情報通信課程）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養教育科目	「仏教の思想」科目	仏教の思想Ａ	１前	2			○								兼 3	
		仏教の思想Ｂ	１後	2			○								兼 3	
		歎異抄の思想Ⅰ	２前		2		○								兼 1	
		歎異抄の思想Ⅱ	２後		2		○								兼 1	
		小計（4科目）	－	4	4	0	－			0	0	0	0	0	兼 4	
	言語科目	英語総合１（Ａ）	１前	1			○			1	1				兼 9	
		英語総合１（Ｂ）	１前	1			○								兼 11	
		英語総合２（Ａ）	１後	1			○			1	1				兼 9	
		英語総合２（Ｂ）	１後	1			○								兼 11	
		英語総合３	２前	1			○			1	1				兼 9	
		英語総合４	２後	1			○			1	1				兼 9	
		英語セミナーＡ１	１前		2		○								兼 2	
		英語セミナーＡ２	１後		2		○								兼 2	
		英語セミナーＢ１	２前		2		○								兼 1	
		英語セミナーＢ２	２後		2		○								兼 1	
		英語セミナーＣ１	２前		2		○								兼 2	
		英語セミナーＣ２	２後		2		○								兼 2	
		英語セミナーＤ１	２前		2		○				1					
		英語セミナーＤ２	２後		2		○				1					
		英語セミナーＥ１	２前		2		○			1						
		英語セミナーＥ２	２後		2		○			1						
		英語セミナーＦ１	２前		2		○				1					
		英語セミナーＦ２	２後		2		○				1					
		英語セミナーＧ１	１前		2		○				1					
		英語セミナーＧ２	１後		2		○				1					
		海外英語研修	１後		2		○								兼 1	集中
		ドイツ語ＩＡ	１前		1		○								兼 1	
		ドイツ語ＩＢ	１前		1		○								兼 2	
		ドイツ語ⅡＡ	１後		1		○								兼 1	
		ドイツ語ⅡＢ	１後		1		○								兼 2	
		フランス語ＩＡ	１前		1		○								兼 1	
		フランス語ＩＢ	１前		1		○								兼 2	
		フランス語ⅡＡ	１後		1		○								兼 1	
		フランス語ⅡＢ	１後		1		○								兼 2	
		中国語ＩＡ	１前		1		○								兼 2	
		中国語ＩＢ	１前		1		○								兼 2	
		中国語ⅡＡ	１後		1		○								兼 2	
		中国語ⅡＢ	１後		1		○								兼 2	
		コリア語ＩＡ	１前		1		○								兼 1	
		コリア語ＩＢ	１前		1		○								兼 1	
		コリア語ⅡＡ	１後		1		○								兼 1	
		コリア語ⅡＢ	１後		1		○								兼 1	
		ドイツ語セミナーＩＡ	２前		2		○								兼 1	
		ドイツ語セミナーＩＢ	２後		2		○								兼 1	
		フランス語セミナーＩＡ	２前		2		○								兼 1	
		フランス語セミナーＩＢ	２後		2		○								兼 1	
		中国語セミナーＩＡ	２前		2		○								兼 1	
		中国語セミナーＩＢ	２後		2		○								兼 1	
		コリア語セミナーＩＡ	２前		2		○								兼 1	
		コリア語セミナーＩＢ	２後		2		○								兼 1	
		日本語	１前		1		○								兼 1	
		小計（46科目）	－	6	63	0	－			1	3	0	0	0	兼 40	

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（先端理工学部　電子情報通信課程）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養教育科目	教養科目	人文科学系科目	哲学入門	1 前		2		○								兼 1	
			倫理学入門	1 前		2		○								兼 2	
			倫理学Ａ	1 前		2		○								兼 2	
			倫理学Ｂ	2 前		2		○								兼 1	
			クリティカル・シンキング	1 前		2		○								兼 1	
			宗教学のすすめ	1 前		2		○								兼 1	
			宗教の世界	1 前		2		○								兼 1	
			日本の文学Ｍ	1 前		2		○								兼 1	
			日本の文学Ｎ	1 後		2		○								兼 1	
			アジアの文学Ａ	1 前		2		○								兼 1	
			アジアの文学Ｂ	1 前		2		○								兼 1	
			西洋の文学Ａ	1 前		2		○								兼 3	
			西洋の文学Ｂ	2 前		2		○								兼 2	
			言語学入門	1 前		2		○			1					兼 3	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			歴史入門	1 前		2		○								兼 2	
			日本の歴史Ｍ	1 前		2		○								兼 1	
			日本の歴史Ｎ	1 後		2		○								兼 1	
			日本の文化	1 前		2		○								兼 1	
			アジアの歴史Ｍ	2 前		2		○								兼 1	
			アジアの歴史Ｎ	2 後		2		○								兼 1	
			アジアの文化	2 前		2		○								兼 1	
			西洋の歴史Ｍ	1 前		2		○								兼 1	
			西洋の歴史Ｎ	1 前		2		○								兼 1	
			心理学入門	1 前		2		○								兼 2	
			心理学Ａ	2 前		2		○								兼 2	
			心理学Ｂ	2 後		2		○								兼 2	
			教育原論Ａ	1 前		2		○								兼 2	
			教育原論Ｂ	1 後		2		○								兼 2	
			学習・発達論Ａ	2 前		2		○								兼 1	
			学習・発達論Ｂ	2 後		2		○								兼 1	
			小計（30科目）	－	0	60	0	－			1	0	0	0	0	兼 24	
		社会科学系科目	日本国憲法	1 前		2		○								兼 1	
			法学のすすめ	1 前		2		○								兼 1	
			政治学のすすめ	1 前		2		○								兼 1	
			社会学のすすめ	1 前		2		○								兼 2	
			地理学のすすめ	1 前		2		○								兼 1	
			経済学のすすめ	1 前		2		○								兼 3	
			経営学のすすめ	1 前		2		○								兼 1	
			国際学のすすめ	1 前		2		○								兼 1	
			文化人類学のすすめ	1 前		2		○								兼 1	
			社会調査のすすめ	1 前		2		○								兼 2	
			社会統計学のすすめ	1 前		2		○								兼 1	
			人権論Ａ	1 前		2		○								兼 3	
			人権論Ｂ	1 後		2		○								兼 3	
			現代社会とメディア	2 前		2		○								兼 1	
			現代社会と福祉	2 前		2		○								兼 3	
			現代社会と法	2 前		2		○								兼 1	
			現代社会と労働	2 前		2		○								兼 1	
			現代社会の諸問題	2 前		2		○								兼 1	
			環境と社会	2 前		2		○								兼 1	
			平和学Ａ	2 前		2		○								兼 1	
			ジェンダー論	2 前		2		○								兼 1	
			国際社会論	2 前		2		○								兼 3	
			地域論	2 前		2		○								兼 1	

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（先端理工学部　電子情報通信課程）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
教養教育科目	教養科目	社会科学系科目	企業と会計	2 前		2		○								兼 1	
			社会思想史	2 前		2		○								兼 2	
			情報倫理	2 前		2		○			1					兼 1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			情報社会とメディア	1 前		2		○			2						ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			データサイエンス・ＡＩ入門	1 前		2		○			1					兼 1	集中
			小計（28科目）	－	0	56	0	－			4	0	0	0	0	兼 30	
		自然科学系科目	生活の中の数学	1 前		2		○								兼 1	
			生活の中の統計技術	1 前		2		○					1				
			生活の中の化学	1 前		2		○			1					兼 1	
			生活の中の物理	1 前		2		○			1					兼 1	
			生活の中の生物学	1 前		2		○								兼 2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			生活の中の地学	1 後		2		○								兼 1	
			現代の技術	1 後		2		○			2						ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			生命と科学	2 前		2		○								兼 1	
			自然観察法	2 前		2		○			1	1					共同
			里山学	1 前		2		○			1	1				兼 9	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			植物の自然誌	1 後		2		○								兼 2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			環境の科学	2 前		2		○			1					兼 1	
			人類の科学	2 前		2		○								兼 1	
			情報と人間	1 後		2		○								兼 1	
			現代社会と栄養	1 前		2		○								兼 1	
			小計（15科目）	－	0	30	0	－			6	1	1	0	0	兼 22	
		スポーツ科学系科目	健康とスポーツ	2 前		2		○			1					兼 1	
			現代社会とスポーツ	1 後		2		○								兼 1	
			スポーツ技術学Ａ	1 前	1					○						兼 5	
			スポーツ技術学Ｂ	1 後	1					○						兼 5	
			スポーツ文化論	2 前		2		○								兼 1	
			小計（5科目）	－	2	6	0	－			1	0	0	0	0	兼 7	
			教養教育科目特別講義	1 前		2		○								兼 1	
			バークレー語学	1 前		12		○								兼 1	
			バークレー講義	1 前		6		○								兼 1	
			バークレーボランティア	1 前		6		○								兼 1	
			小計（4科目）	－	0	26	0	－			0	0	0	0	0	兼 2	
専攻科目	専門基礎科目		情報基礎	1 ①	2			○			1				2		
			フレッシャーズセミナー	1 前		2		○			1						
			協定型インターンシップ	1 前			2			○	1						
			理工学のすすめ	1 後		2		○			1						
			ＡＳＥＡＮグローバルプログラム	2 前		2				○	1						
			デザインシンキング	2 後		2			○		1						
			グローバル人材育成プログラム	3 前		2				○	1						
			プロジェクトリサーチⅠ	3 前		1				○		1					
			プロジェクトリサーチⅡ	3 前		2				○		1					
			理工インターンシップ（学外実習）Ⅰ	3 前		1				○		1					
			理工インターンシップ（学外実習）Ⅱ	3 前		2				○		1					
			基礎数学Ⅰ・演習	1 ①	2				○				1				
			情報通信基礎	1 ①	2			○				1					
			計算機実習Ⅰ	1 ②		1				○	1				1		
			基礎数学Ⅱ・演習	1 ②	2				○		1						
			理数基礎Ⅰ・演習	1 前			2		○							兼 2	
			基礎セミナー	1 前	2				○		7	3	3	1			ｵﾑﾆﾊﾞｽ／共同（一部）
			線形代数学Ⅰ・演習	1 ③		2			○		1						
			微分積分学Ⅰ・演習	1 ③		2			○				1				
			電気回路基礎・演習	1 ③	2				○		1						
			電子回路基礎・演習	1 ④	1				○		1						

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（先端理工学部　電子情報通信課程）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻科目	専門基礎科目	微分積分学Ⅱ・演習	1④		2			○				1				
		計算機実習Ⅱ	1後		1				○		1			1		
		理数基礎Ⅱ・演習	1後			2		○							兼2	
		線形代数学Ⅱ・演習	2①		2			○				1				
		プログラミング法Ⅰ・演習	2①		2			○			1					
		計算機システム基礎	2①		2		○					1				
		ベクトル解析Ⅰ・演習	2①		2			○			1					
		確率および統計・演習	2②		2			○			1					
		物理・演習	2②		1			○		1						
		プログラミング法Ⅱ・演習	2②		1			○			1					
		ディジタル論理	2④		2		○			1						
		電子情報通信実験Ⅰ	2前	2					○	2			1	2		ｵﾑﾆﾊﾞｽ／共同
		電気回路応用・演習	2③		1			○		1						
		電磁気学基礎・演習	2③		2			○		1			1			共同（一部）
		アルゴリズムとデータ構造Ⅰ・演習	2③		2			○			1			1		
		ベクトル解析Ⅱ・演習	2②		1			○			1					
		フーリエ解析	2②		1		○								兼1	
		電子回路応用・演習	2④		1			○		1						
		電磁気学応用・演習	2④		1			○		1						
		通信工学基礎	2③		2		○			1						
		アルゴリズムとデータ構造Ⅱ・演習	2④		1			○		1						
		微分方程式とフーリエ変換	2④		1		○								兼1	
		電子情報通信実験Ⅱ	2後	2					○	7	3	3		2		ｵﾑﾆﾊﾞｽ／共同（一部）
		特別講義	2後	2			○			7	3	3	1			ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		職業指導	3通			4	○								兼1	
		クラウドコンピューティング演習	2④		2			○			1					
		小計（47科目）	－	19	53	10	－			10	3	3	1	2	兼4	
	専門応用科目	電子物性	3①		1		○			1						
		半導体デバイス工学	3①		1		○			1					兼1	
		統計的機械学習	3①		1		○			1						
		認知科学	3①		1		○			1						
		光デバイス	3①		1		○				1					
		ナノエレクトロニクス工学	3①		1		○			1						
		高周波電子回路	3①		1		○			1						
		伝送線路	3①		1		○			1						
		組込みシステム	3①		1		○				1					
		群知能	3①		1		○				1					
		画像情報処理	3①		1		○				1					
		データサイエンス	3①		1		○					1				
		電子材料	3②		1		○			1						
		知能ロボット	3②		1		○				1					
		人工知能	3②		1		○			1						
		情報セキュリティ	3②		1		○				1					
		ニューラルネットワーク	3②		1		○			1						
		パワーエレクトロニクス	3②		1		○			1						
		応用プログラミング・演習	3②		1			○				1				
		情報数学	3③		1		○			1						
		薄膜デバイス工学	3④		2		○			1					兼1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		電子工学	3③		2		○			1						
		電磁波工学	3③		1		○			1						
		符号理論	3③		2		○			1						
		アナログ電子回路	3③		2		○				1					
		計算機制御・演習	3③		1			○			1					
		ディジタル信号処理・演習	3④		2			○				1				

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（先端理工学部　電子情報通信課程）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻科目	専門応用科目	計測工学	３④		1		○								兼１	
		ネットワーク通信システム	３④		2		○								兼１	
		回路設計・演習	３④		1			○		1						
		結晶工学	３④		2		○								兼１	隔年
		量子力学	３③		2		○								兼１	隔年
		無線通信工学	３④		2		○			1						
		計算機アーキテクチャ	３④		1		○				1					
		専門基礎研究	３後		2				○	7	3	3	1	1		
		応用セミナー	３後	2				○		7	3	3	1			
		科学技術英語	４前	2			○			7	3	3	1			
		特別研究	４通	6					○	7	3	3	1	1		
		小計（38科目）	－	10	45	0	－			7	3	3	1	2	兼４	
	専門関連科目	情報処理システムⅠ	１後		2			○		1						
		データ分析	１後		2			○			1					
		微分方程式Ⅰ	２前		2			○		1						
		物理と微分方程式及び演習	２前		3			○				1				
		プログラミング及び実習Ⅲ	２前		3				○	1						
		情報処理システムⅡ	２前		2			○		1						
		確率統計Ⅰ	２前		2			○			1					
		アルゴリズム及び演習Ⅰ	２③		2			○		1						
		シミュレーション及び演習	２④		2			○		1						
		アルゴリズム及び演習Ⅱ	２④		2			○		1						
		微分方程式Ⅱ	２後		2			○		1						
		質点系の力学	２後		2			○		1						
		多変量解析及び演習	２後		3			○			1					
		複素解析Ⅰ	３①		1			○		1						
		位相入門Ⅰ	３①		1			○		1						
		代数入門Ⅰ	３①		1			○			1					
		幾何入門	３①		1			○			1					
		現象の数理モデルⅠ	３①		1			○		1						
		拡散現象の数理Ⅰ	３①		1			○		1						
		確率モデル及び演習	３④		2			○				1				
		オブジェクト指向及び演習	３①		2			○		1						
		データ構造とアルゴリズムⅠ	３①		1			○		1						
		機械学習Ⅰ	３①		1			○			1					
		数理・情報科学の学びと社会	３①		1			○			1					
		複素解析Ⅱ	３②		1			○		1						
		位相入門Ⅱ	３②		1			○		1						
		代数入門Ⅱ	３②		1			○			1					
		ベクトル解析入門	３②		1			○			1					
		現象の数理モデルⅡ	３②		1			○		1						
		拡散現象の数理Ⅱ	３②		1			○		1						
		グラフィックス及び演習	３②		2			○		1						
		データ構造とアルゴリズムⅡ	３②		1			○		1						
		機械学習Ⅱ	３②		1			○			1					
		応用幾何	３③		1			○			1					
		波動現象の数理Ⅰ	３③		1			○		1						
		確率統計Ⅱ	３③		1			○		1						
		ネットワーク及び演習	３③		2			○				1	1			ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		言語と計算Ⅰ	３③		1			○		1						
		最適化の数理Ⅰ	３③		1			○							兼１	
		波動現象の数理Ⅱ	３④		1			○		1						
		確率統計Ⅲ	３④		1			○		1						
		言語と計算Ⅱ	３④		1			○		1						

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（先端理工学部　電子情報通信課程）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻科目	専門関連科目	最適化の数理Ⅱ	３④		1			○							兼１	
		材料力学Ⅰ	２①		1		○			1						
		流体工学Ⅰ	２①		1		○			1						
		材料力学Ⅱ	２②		1		○			1						
		流体工学Ⅱ	２②		1		○			1						
		振動工学Ⅰ	２③		1		○			1						
		材料力学Ⅲ	２③		1		○			1						
		基礎機械材料学	２③		1		○					1				
		粘性流体力学	２③		1		○			1						
		熱力学Ⅰ	２③		1		○			1						
		ディジタル電子制御Ⅰ	２③		1		○			1						
		機構学Ⅰ	２③		1		○								兼１	
		振動工学Ⅱ	２④		1		○			1						
		応用材料力学	２④		1		○			1						
		機械材料学	２④		1		○					1				
		航空流体力学	２④		1		○			1						
		熱力学Ⅱ	２④		1		○			1						
		ディジタル電子制御Ⅱ	２④		1		○			1						
		機構学Ⅱ	２④		1		○								兼１	
		弾性力学	３①		1		○			1						
		計算力学実習Ⅰ	３①		1				○	1						
		機械要素	３①		1		○			1						
		材料加工学	３①		1		○			1						
		航空・宇宙工学	３①		1		○			1						
		熱工学Ⅰ	３①		1		○					1				
		計測工学Ⅰ	３①		1		○			1						
		制御系設計論Ⅰ	３①		1		○				1					
		メカトロニクスⅠ	３①		1		○			1						
		ロボット実習	３①		1				○	2				3		ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		構造力学	３②		1		○			1						
		機械設計	３②		1		○			1						
		機械加工学	３②		1		○			1						
		自動車工学	３②		1		○					1				
		熱工学Ⅱ	３②		1		○					1				
		計測工学Ⅱ	３②		1		○			1						
		制御系設計論Ⅱ	３②		1		○				1					
		メカトロニクスⅡ	３②		1		○			1						
		バイオメカニクス	３③		1		○			1						
		材料強度学Ⅰ	３③		1		○			1						
		伝熱工学Ⅰ	３③		1		○			1						
		ロボット工学Ⅰ	３③		1		○				1					
		解析力学	３④		1		○			1						
		材料強度学Ⅱ	３④		1		○			1						
		伝熱工学Ⅱ	３④		1		○			1						
		ロボット工学Ⅱ	３④		1		○				1					
		化学と社会	１前		2		○			2		1				ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		資源・エネルギーと環境	１後		2		○			3						ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		化学と安全管理	２前		2		○			1	1					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		生化学Ⅰ	２③		1		○			1						
		量子材料科学Ⅰ	２③		1		○			1						
		電気化学Ⅰ	２③		1		○					1				
		結晶学入門Ⅰ	２③		1		○					1				
		高分子化学Ⅰ	２③		1		○			1						
		アドバンスト機器分析化学Ⅰ	２③		1		○			1						

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（先端理工学部　電子情報通信課程）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻科目	専門関連科目	分析化学	２③		1		○					1				
		生化学Ⅱ	２④		1		○			1						
		量子材料科学Ⅱ	２④		1		○				1					
		電気化学Ⅱ	２④		1		○					1				
		結晶学入門Ⅱ	２④		1		○					1				
		高分子化学Ⅱ	２④		1		○			1						
		機器分析化学	２④		1		○			1						
		アドバンスト機器分析化学Ⅱ	２④		1		○			1						
		化学工学	２後		2		○			1						
		アドバンスト環境化学Ⅰ	３①		1		○					1				
		循環系グリーンケミストリー	３①		1		○				1					
		半導体材料Ⅰ	３①		1		○				1					
		固体物性化学Ⅰ	３①		1		○					1				
		エネルギー変換工学Ⅰ	３①		1		○			1						
		医薬品のプロセス化学	３①		1		○			1						
		分子集合化学	３①		1		○			1						
		有機化合物スペクトル解析入門Ⅰ	３①		1		○			1						
		バイオミメティックス　生物に倣ったものづくり	３①		1		○			1						
		セラミックス材料工学Ⅰ	３①		1		○			1						
		界面化学	３①		1		○			1						
		食と分子科学	３①		1		○					1				
		半導体材料Ⅱ	３②		1		○				1					
		固体物性化学Ⅱ	３②		1		○					1				
		アドバンスト電気化学	３②		1		○					1				
		エネルギー変換工学Ⅱ	３②		1		○			1						
		有機化合物スペクトル解析入門Ⅱ	３②		1		○			1						
		セラミックス材料工学Ⅱ	３②		1		○			1						
		アドバンスト環境化学Ⅱ	３②		1		○					1				
		バイオマテリアルⅠ	３③		1		○			1						
		構造解析学	３③		1		○					1				
		光化学Ⅰ	３③		1		○			1						
		逆合成解析化学Ⅰ	３③		1		○			1						
		高分子構造材料物性Ⅰ	３③		1		○			1						
		高分子材料工学Ⅰ	３③		1		○			1						
		ナノマテリアル	３③		1		○			1						
		バイオマテリアルⅡ	３④		1		○			1						
		光化学Ⅱ	３④		1		○			1						
		逆合成解析化学Ⅱ	３④		1		○			1						
		高分子構造材料物性Ⅱ	３④		1		○			1						
		高分子材料工学Ⅱ	３④		1		○			1						
		反応工学	３④		1		○			1						
		ディジタル信号処理	２後		2		○			1						
		仮想メディアシステム	２前		2		○			1						
		情報とセキュリティ	２前		2		○			1						
		システムソフトウェア	２前		2		○						1			
		データベース	２前		2		○				1					
		ヒューマンコンピュータインタラクション	２前		2		○					1				
		コンピュータビジョン	２前		2		○					1				
		多様なプログラミング言語	２前		2		○					1				
		音声・音響メディア処理論	２後		2		○			1						
		環境としての情報技術	３前		2		○			1						
		言語メディア処理論	２後		2		○					1				
		ＣＧとＶＲ	２後		2		○				1					
		ニューロとＡＩ	２後		2		○			1						

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（先端理工学部　電子情報通信課程）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻科目	専門関連科目	データインテリジェンス	２後		2		○					1				
		ネットワーク構成論	２後		2		○				1					
		画像メディア処理論	３①		2		○			1						
		ソフトウェア開発法	３前		2		○				1					
		応用アルゴリズム	３前		2		○			1						
		環境実習ＩＡ	１①		1				○		3			1		共同
		地域環境概論Ａ	１②		1		○				2					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		生物学概論	１前		2		○								兼１	
		環境生態工学概論	１前		2		○			6	5	3				ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		地球環境概論Ａ	１③		1		○			1		1				ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		地域環境概論Ｂ	１①		1		○			1						
		地球環境概論Ｂ	１④		1		○				1					
		生態学概論Ｉ	１③		1		○			2	2					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		ＳＤＧｓ概論	１③		1		○				1					
		水環境科学	１②		1		○				2					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		里山の生態学	１②		1		○			2	3	1				ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		大気環境科学	１④		1		○				1					
		進化学	１④		1		○			1						
		生物資源利用	１③		1		○			2	2	1				ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		生態学概論Ⅱ	１④		1		○			2	1	1				ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		化学工学Ｉ	２①		1		○			1						
		気象学	２①		1		○								兼１	
		土木工学Ｉ	２①		1		○					1				
		測量学及び演習	２①		2		○								兼１	
		環境実習ⅡＡ	２②		1				○	3	1			1		共同
		自然の浄化機構	２①		1		○				1					
		環境社会学	２①		1		○								兼１	
		環境倫理学	２①		1		○								兼１	
		社会調査法及び演習	２①		2		○								兼１	
		保全生態学	２①		1		○			1	2					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		環境経済学	２②		1		○			1						
		生理生態学	２③		1		○			1	2	1				ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		環境調査	２①		1		○			1	3	1				ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		化学工学Ⅱ	２②		1		○			1						
		製図学及び演習	２②		2		○			1					兼１	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		土木工学Ⅱ	２②		1		○					1				
		環境政策論	２②		1		○								兼１	
		環境移動現象論	２③		1		○				1					
		廃棄物管理学Ｉ	２③		1		○			1						
		環境微生物学	２③		1		○				1					
		環境計測学	２②		1		○			1						
		先端技術	２③		1		○			1	1					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		燃焼工学	２④		1		○					1				
		廃棄物管理学Ⅱ	２④		1		○			1						
		水理学	２③		1		○			1						
		データサイエンス及び演習	２④		1		○			2						ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		土壌地質学	２②		1		○				2					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		環境分析化学実験	２④		1				○	2		1		1	兼１	共同
		水域生態学	２④		1		○			2	1					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		排ガス処理工学	３①		1		○				1					
		空気調和工学	３①		1		○				1					
		資源循環論	２③		1		○			1						
		水環境施設実験	３①		1				○		1			1		共同
		廃棄物・大気環境施設実験	３①		1				○		1	1				共同

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（先端理工学部　電子情報通信課程）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
専攻科目	専門関連科目	水処理工学	２④		1		○			1						
		環境毒性学	３①		1		○				1					
		地理情報学	３①		1		○								兼 1	
		資源管理学及び演習	２④		1		○			1	1	1				ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		群集生態学	３①		1		○			1		1				ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		水道工学	３③		1		○					1				
		水処理施設設計	３③		1		○			1						
		環境アセスメントＢ	３③		1		○				1					
		下水道工学	３④		1		○					1				
		廃棄物処理施設設計	３④		1		○					1				
		数値計算法基礎及び演習	３④		1		○			1						
		環境アセスメントＡ	３④		1		○				1					
		景観生態学	３④		1		○								兼 1	
		微生物生態学	３④		1		○			1						
		応用生態学	３④		1		○			2	3					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		小計（219科目）	－	0	266	0	－			38	13	11	2	5	兼 13	
	諸課程科目	工業科教育法Ⅰ	３前			2	○								兼 1	
		工業科教育法Ⅱ	３後			2	○								兼 1	
		教職論	２前			2	○								兼 1	
		学校教育社会学	２後			2	○								兼 1	
		教育社会学	２前			2	○								兼 1	
		特別支援教育概論	２前			2	○								兼 1	
		教育課程論	２後			2	○			1						
		道徳教育指導法	３後			2	○								兼 1	
		特別活動・総合的学習論	３前			2	○								兼 1	
		教育の方法と技術（ＩＣＴ活用含む）	３前			2	○			1						
		生徒・進路指導論	２後			2	○								兼 1	
		教育相談	３前			2	○								兼 1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		教育実習指導Ⅰ	４前			1	○			1						
		教育実習指導ⅡＡ	４通			4			○	1						
		教育実習指導ⅡＢ	４通			2			○	1						
		教職実践演習（中・高）	４後			2		○		1					兼 1	
		介護等体験	２通			2			○	1						
		真宗学概論	２通			4	○								兼 1	
		仏教学概論	２通			4	○			1						
		真宗史	１通			4	○								兼 1	
		（本山教師）仏教史	１前			1	○								兼 2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		（本山教師）宗教概説	１前			1	○								兼 1	
		勤式	１通			4	○								兼 4	隔年／ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		宗門法規	１前			2	○								兼 1	隔年／集中
		教化法	１通			4	○								兼 4	隔年／ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		小計（25科目）	－	0	0	59	－			2	0	0	0	0	兼 23	
合計（461科目）			－	41	609	69	－			50	19	14	3	8	兼 166	

学位又は称号	学士（工学）	学位又は学科の分野	工学関係（電子工学）

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
教養教育科目から28単位以上（必修12単位、選択必修4単位（教養科目の人文科学系・社会科学系科目より各2単位）を含む）、専門基礎科目から50単位以上（必修19単位、選択必修13単位を含む）、専門応用科目から34単位以上（必修10単位、選択必修6単位を含む）を修得し、合計124単位以上を修得すること。 （履修科目登録上限：1～2年次44単位（年間）、3～4年次48単位（年間）） 1学年の学期区分：4期 1学期の授業期間：8週 1時限の授業時間：90分		

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（先端理工学部　機械工学・ロボティクス課程）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
教養教育科目	「仏教の思想」科目	仏教の思想Ａ	１前	2			○								兼 3	
		仏教の思想Ｂ	１後	2			○								兼 3	
		歎異抄の思想Ⅰ	２前		2		○								兼 1	
		歎異抄の思想Ⅱ	２後		2		○								兼 1	
		小計（4科目）	－	4	4	0	－			0	0	0	0	0	兼 4	
	言語科目	英語総合１（Ａ）	１前	1			○			1	1				兼 9	
		英語総合１（Ｂ）	１前	1			○								兼 11	
		英語総合２（Ａ）	１後	1			○			1	1				兼 9	
		英語総合２（Ｂ）	１後	1			○								兼 11	
		英語総合３	２前	1			○			1	1				兼 9	
		英語総合４	２後	1			○			1	1				兼 9	
		英語セミナーＡ１	１前		2		○								兼 2	
		英語セミナーＡ２	１後		2		○								兼 2	
		英語セミナーＢ１	２前		2		○								兼 1	
		英語セミナーＢ２	２後		2		○								兼 1	
		英語セミナーＣ１	２前		2		○								兼 2	
		英語セミナーＣ２	２後		2		○								兼 2	
		英語セミナーＤ１	２前		2		○				1					
		英語セミナーＤ２	２後		2		○				1					
		英語セミナーＥ１	２前		2		○			1						
		英語セミナーＥ２	２後		2		○			1						
		英語セミナーＦ１	２前		2		○				1					
		英語セミナーＦ２	２後		2		○				1					
		英語セミナーＧ１	１前		2		○				1					
		英語セミナーＧ２	１後		2		○				1					
		海外英語研修	１後		2		○								兼 1	集中
		ドイツ語ＩＡ	１前		1		○								兼 1	
		ドイツ語ＩＢ	１前		1		○								兼 2	
		ドイツ語ⅡＡ	１後		1		○								兼 1	
		ドイツ語ⅡＢ	１後		1		○								兼 2	
		フランス語ＩＡ	１前		1		○								兼 1	
		フランス語ＩＢ	１前		1		○								兼 2	
		フランス語ⅡＡ	１後		1		○								兼 1	
		フランス語ⅡＢ	１後		1		○								兼 2	
		中国語ＩＡ	１前		1		○								兼 2	
		中国語ＩＢ	１前		1		○								兼 2	
		中国語ⅡＡ	１後		1		○								兼 2	
		中国語ⅡＢ	１後		1		○								兼 2	
		コリア語ＩＡ	１前		1		○								兼 1	
		コリア語ＩＢ	１前		1		○								兼 1	
		コリア語ⅡＡ	１後		1		○								兼 1	
		コリア語ⅡＢ	１後		1		○								兼 1	
		ドイツ語セミナーＩＡ	２前		2		○								兼 1	
		ドイツ語セミナーＩＢ	２後		2		○								兼 1	
		フランス語セミナーＩＡ	２前		2		○								兼 1	
		フランス語セミナーＩＢ	２後		2		○								兼 1	
		中国語セミナーＩＡ	２前		2		○								兼 1	
		中国語セミナーＩＢ	２後		2		○								兼 1	
		コリア語セミナーＩＡ	２前		2		○								兼 1	
		コリア語セミナーＩＢ	２後		2		○								兼 1	
		日本語	１前		1		○								兼 1	
		小計（46科目）	－	6	63	0	－			1	3	0	0	0	兼 40	

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（先端理工学部　機械工学・ロボティクス課程）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養教育科目	教養科目	人文科学系科目	哲学入門	1 前		2		○								兼 1	
			倫理学入門	1 前		2		○								兼 2	
			倫理学Ａ	1 前		2		○								兼 2	
			倫理学Ｂ	2 前		2		○								兼 1	
			クリティカル・シンキング	1 前		2		○								兼 1	
			宗教学のすすめ	1 前		2		○								兼 1	
			宗教の世界	1 前		2		○								兼 1	
			日本の文学Ｍ	1 前		2		○								兼 1	
			日本の文学Ｎ	1 後		2		○								兼 1	
			アジアの文学Ａ	1 前		2		○								兼 1	
			アジアの文学Ｂ	1 前		2		○								兼 1	
			西洋の文学Ａ	1 前		2		○								兼 3	
			西洋の文学Ｂ	2 前		2		○								兼 2	
			言語学入門	1 前		2		○			1					兼 3	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			歴史入門	1 前		2		○								兼 2	
			日本の歴史Ｍ	1 前		2		○								兼 1	
			日本の歴史Ｎ	1 後		2		○								兼 1	
			日本の文化	1 前		2		○								兼 1	
			アジアの歴史Ｍ	2 前		2		○								兼 1	
			アジアの歴史Ｎ	2 後		2		○								兼 1	
			アジアの文化	2 前		2		○								兼 1	
			西洋の歴史Ｍ	1 前		2		○								兼 1	
			西洋の歴史Ｎ	1 前		2		○								兼 1	
			心理学入門	1 前		2		○								兼 2	
			心理学Ａ	2 前		2		○								兼 2	
			心理学Ｂ	2 後		2		○								兼 2	
			教育原論Ａ	1 前		2		○								兼 2	
			教育原論Ｂ	1 後		2		○								兼 2	
			学習・発達論Ａ	2 前		2		○								兼 1	
			学習・発達論Ｂ	2 後		2		○								兼 1	
			小計（30科目）	－	0	60	0	－			1	0	0	0	0	兼 24	
		社会科学系科目	日本国憲法	1 前		2		○								兼 1	
			法学のすすめ	1 前		2		○								兼 1	
			政治学のすすめ	1 前		2		○								兼 1	
			社会学のすすめ	1 前		2		○								兼 2	
			地理学のすすめ	1 前		2		○								兼 1	
			経済学のすすめ	1 前		2		○								兼 3	
			経営学のすすめ	1 前		2		○								兼 1	
			国際学のすすめ	1 前		2		○								兼 1	
			文化人類学のすすめ	1 前		2		○								兼 1	
			社会調査のすすめ	1 前		2		○								兼 2	
			社会統計学のすすめ	1 前		2		○								兼 1	
			人権論Ａ	1 前		2		○								兼 3	
			人権論Ｂ	1 後		2		○								兼 3	
			現代社会とメディア	2 前		2		○								兼 1	
			現代社会と福祉	2 前		2		○								兼 3	
			現代社会と法	2 前		2		○								兼 1	
			現代社会と労働	2 前		2		○								兼 1	
			現代社会の諸問題	2 前		2		○								兼 1	
			環境と社会	2 前		2		○								兼 1	
			平和学Ａ	2 前		2		○								兼 1	
			ジェンダー論	2 前		2		○								兼 1	
			国際社会論	2 前		2		○								兼 3	
			地域論	2 前		2		○								兼 1	

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（先端理工学部　機械工学・ロボティクス課程）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
教養教育科目	教養科目	社会科学系科目	企業と会計	2 前		2		○								兼 1	
			社会思想史	2 前		2		○								兼 2	
			情報倫理	2 前		2		○			1					兼 1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			情報社会とメディア	1 前		2		○			2						ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			データサイエンス・ＡＩ入門	1 前		2		○			1					兼 1	集中
			小計（28科目）	－	0	56	0	－			4	0	0	0	0	兼 30	
		自然科学系科目	生活の中の数学	1 前		2		○								兼 1	
			生活の中の統計技術	1 前		2		○					1				
			生活の中の化学	1 前		2		○			1					兼 1	
			生活の中の物理	1 前		2		○			1					兼 1	
			生活の中の生物学	1 前		2		○								兼 2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			生活の中の地学	1 後		2		○								兼 1	
			現代の技術	1 後		2		○			2						ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			生命と科学	2 前		2		○								兼 1	
			自然観察法	2 前		2		○			1	1					共同
			里山学	1 前		2		○			1	1				兼 9	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			植物の自然誌	1 後		2		○								兼 2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			環境の科学	2 前		2		○			1					兼 1	
			人類の科学	2 前		2		○								兼 1	
			情報と人間	1 後		2		○								兼 1	
			現代社会と栄養	1 前		2		○								兼 1	
			小計（15科目）	－	0	30	0	－			6	1	1	0	0	兼 22	
		スポーツ科学系科目	健康とスポーツ	2 前		2		○			1					兼 1	
			現代社会とスポーツ	1 後		2		○								兼 1	
			スポーツ技術学Ａ	1 前	1					○	1					兼 2	
			スポーツ技術学Ｂ	1 後	1					○	1					兼 2	
			スポーツ文化論	2 前		2		○								兼 1	
			小計（5科目）	－	2	6	0	－			1	0	0	0	0	兼 5	
			教養教育科目特別講義	1 前		2		○								兼 1	
			バークレー語学	1 前		12		○								兼 1	
			バークレー講義	1 前		6		○								兼 1	
			バークレーボランティア	1 前		6		○								兼 1	
			小計（4科目）	－	0	26	0	－			0	0	0	0	0	兼 2	
専攻科目	専門基礎科目		情報基礎	1 ①	2			○					1		2		
			フレッシャーズセミナー	1 前		2		○			2		1				
			協定型インターンシップ	1 前		2				○	1						
			理工学のすすめ	1 後		2		○			1						
			ＡＳＥＡＮグローバルプログラム	2 前		2				○	1						
			デザインシンキング	2 後		2			○		1						
			グローバル人材育成プログラム	3 前		2				○	1						
			プロジェクトリサーチⅠ	3 前		1				○	1						
			プロジェクトリサーチⅡ	3 前		2				○	1						
			理工インターンシップ（学外実習）Ⅰ	3 前		1				○		1					
			理工インターンシップ（学外実習）Ⅱ	3 前		2				○		1					
			微分積分	1 ①	1			○			1			1			
			基礎力学Ⅰ	1 ①	1			○			2						
			微分方程式	1 ②	1			○					1	1			
			基礎力学Ⅱ	1 ②	1			○			2						
			機械工学・ロボティクス入門	1 前	1					○	3	1	2	1	1		ｵﾑﾆﾊﾞｽ／共同（一部）
			数学・物理学演習Ⅰ	1 前	1				○		2						
			偏微分	1 ③	1			○			1			1			
			線形代数Ⅰ	1 ③	1			○			2						
			力学Ⅰ	1 ③	1			○			1		1				
			重積分	1 ④	1			○			1			1			

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（先端理工学部　機械工学・ロボティクス課程）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻科目	専門基礎科目	線形代数Ⅱ	1④	1			○			2						
		力学Ⅱ	1④	1			○			1		1				
		数学・物理学演習Ⅱ	1後	1				○		2						
		物理実験	1後	2					○	1			1			
		職業指導	3通			4	○								兼1	
		クラウドコンピューティング演習	2④			2		○			1					
		小計（27科目）	－	17	18	6	－			11	2	2	2	3	兼1	
	専門応用科目	確率・統計Ⅰ	2①		1		○								兼1	
		フーリエ変換	2①		1		○								兼1	
		電磁気学Ⅰ	2①		1		○			1						
		機械力学Ⅰ	2①	1			○			1						
		材料力学Ⅰ	2①	1			○			1						
		流体工学Ⅰ	2①	1			○			1						
		アナログ電子制御Ⅰ	2①	1			○			1						
		確率・統計Ⅱ	2②		1		○								兼1	
		ラプラス変換	2②		1		○								兼1	
		電磁気学Ⅱ	2②		1		○			1						
		機械力学Ⅱ	2②	1			○			1						
		材料力学Ⅱ	2②	1			○			1						
		流体工学Ⅱ	2②	1			○			1						
		アナログ電子制御Ⅱ	2②	1			○			1						
		計算機プログラミング実習	2前	2					○	1						
		機械製図Ⅰ	2前	2					○	1						
		ベクトル解析	2③		1		○								兼1	
		振動工学Ⅰ	2③		1		○			1						
		材料力学Ⅲ	2③		1		○			1						
		粘性流体力学	2③		1		○			1						
		熱力学Ⅰ	2③	1			○			1						
		ディジタル電子制御Ⅰ	2③		1		○			1						
		制御工学Ⅰ	2③	1			○			1						
		機構学Ⅰ	2③		1		○								兼1	
		基礎機械材料学	2③		1		○					1				
		複素解析	2④		1		○								兼1	
		振動工学Ⅱ	2④		1		○			1						
		応用材料力学	2④		1		○			1						
		航空流体力学	2④		1		○			1						
		熱力学Ⅱ	2④	1			○			1						
		ディジタル電子制御Ⅱ	2④		1		○			1						
		制御工学Ⅱ	2④	1			○			1						
		機構学Ⅱ	2④		1		○								兼1	
		機械材料学	2④		1		○					1				
		計算機応用実習	2後		2				○	1						
		機械工学基礎実験	2後	2					○	8		1	1	2		ｵﾑﾆﾊﾞｽ／共同
		機械製図Ⅱ	2後	2					○	1						
		計測工学Ⅰ	3①		1		○			1						
		弾性力学	3①		1		○			1						
		航空・宇宙工学	3①		1		○			1						
		熱工学Ⅰ	3①		1		○					1				
		制御系設計論Ⅰ	3①		1		○				1					
		計算力学実習Ⅰ	3①		1				○	1						
		機械工学・ロボティクス実験	3①	1					○	1	1	1			兼1	共同
		機械要素	3①	1			○			1						
		メカトロニクスⅠ	3①		1		○			1						
		先進材料プロセス学	3①		1		○					1				

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（先端理工学部　機械工学・ロボティクス課程）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻科目	専門応用科目	材料加工学	３①		1		○			1						
		材料力学実習	３②		1				○	2			1	1		ｵﾑﾆﾊﾞｽ／共同
		ロボット実習	３①		1				○	2				3		ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		熱・流体実習	３①		1				○	1		1				ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		計測工学Ⅱ	３②		1		○			1						
		構造力学	３②		1		○			1						
		自動車工学	３②		1		○					1				
		熱工学Ⅱ	３②		1		○					1				
		制御系設計論Ⅱ	３②		1		○				1					
		計算力学実習Ⅱ	３②		1				○	1						
		機械設計	３②		1		○			1						
		メカトロニクスⅡ	３②		1		○			1						
		先進材料工学	３②		1		○					1				
		機械加工学	３②		1		○			1						
		材料力学・機械力学演習	３③	1				○		1						
		電子・制御演習	３③	1				○			1					
		バイオメカニクス	３③		1		○			1						
		材料強度学Ⅰ	３③		1		○			1						
		伝熱工学Ⅰ	３③		1		○			1						
		システム工学Ⅰ	３③		1		○								兼１	
		ロボット工学Ⅰ	３③		1		○				1					
		熱・流体演習	３④	1				○				1				
		解析力学	３④		1		○			1						
		材料強度学Ⅱ	３④		1		○			1						
		伝熱工学Ⅱ	３④		1		○			1						
		システム工学Ⅱ	３④		1		○								兼１	
		ロボット工学Ⅱ	３④		1		○				1					
		設計製図	３後	2					○	1						
		セミナー	３後	2				○		9	1	2				
		科学技術英語	４前	2			○			10	1	2				
		特別研究	４通	6					○	10	1	2		1		
		小計（78科目）	－	37	54	0	－			10	1	2	2	4	兼５	
	専門関連科目	情報処理システムⅠ	１後		2			○		1						
		データ分析	１後		2			○			1					
		微分方程式Ⅰ	２前		2			○		1						
		物理と微分方程式及び演習	２前		3			○				1				
		プログラミング及び実習Ⅲ	２前		3				○	1						
		情報処理システムⅡ	２前		2			○		1						
		確率統計Ⅰ	２前		2			○			1					
		アルゴリズム及び演習Ⅰ	２③		2			○		1						
		シミュレーション及び演習	２④		2			○		1						
		アルゴリズム及び演習Ⅱ	２④		2			○		1						
		微分方程式Ⅱ	２後		2			○		1						
		質点系の力学	２後		2			○		1						
		多変量解析及び演習	２後		3			○			1					
		複素解析Ⅰ	３①		1			○		1						
		位相入門Ⅰ	３①		1			○		1						
		代数入門Ⅰ	３①		1			○			1					
		幾何入門	３①		1			○			1					
		現象の数理モデルⅠ	３①		1			○		1						
		拡散現象の数理Ⅰ	３①		1			○		1						
		確率モデル及び演習	３④		2			○				1				
		オブジェクト指向及び演習	３①		2			○		1						
		データ構造とアルゴリズムⅠ	３①		1			○		1						

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（先端理工学部　機械工学・ロボティクス課程）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻科目	専門関連科目	機械学習Ⅰ	３①		1			○			1					
		数理・情報科学の学びと社会	３①		1			○			1					
		複素解析Ⅱ	３②		1			○		1						
		位相入門Ⅱ	３②		1			○		1						
		代数入門Ⅱ	３②		1			○			1					
		ベクトル解析入門	３②		1			○			1					
		現象の数理モデルⅡ	３②		1			○		1						
		拡散現象の数理Ⅱ	３②		1			○		1						
		グラフィックス及び演習	３②		2			○		1						
		データ構造とアルゴリズムⅡ	３②		1			○		1						
		機械学習Ⅱ	３②		1			○			1					
		応用幾何	３③		1			○			1					
		波動現象の数理Ⅰ	３③		1			○		1						
		確率統計Ⅱ	３③		1			○		1						
		ネットワーク及び演習	３③		2			○				1	1			ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		言語と計算Ⅰ	３③		1			○		1						
		最適化の数理Ⅰ	３③		1			○							兼１	
		波動現象の数理Ⅱ	３④		1			○		1						
		確率統計Ⅲ	３④		1			○		1						
		言語と計算Ⅱ	３④		1			○		1						
		最適化の数理Ⅱ	３④		1			○							兼１	
		確率および統計・演習	２②		2			○			1					
		アルゴリズムとデータ構造Ⅰ・演習	２③		2			○			1			1		
		アルゴリズムとデータ構造Ⅱ・演習	２④		1			○		1						
		電子物性	３①		1		○			1						
		半導体デバイス工学	３①		1		○			1					兼１	
		光デバイス	３①		1		○				1					
		ナノエレクトロニクス工学	３①		1		○			1						
		伝送線路	３①		1		○			1						
		高周波電子回路	３①		1		○			1						
		組込みシステム	３①		1		○				1					
		統計的機械学習	３①		1		○			1						
		認知科学	３①		1		○			1						
		群知能	３①		1		○				1					
		画像情報処理	３①		1		○				1					
		データサイエンス	３①		1		○					1				
		電子材料	３②		1		○			1						
		パワーエレクトロニクス	３②		1		○			1						
		ニューラルネットワーク	３②		1		○			1						
		知能ロボット	３②		1		○				1					
		応用プログラミング・演習	３②		1			○				1				
		人工知能	３②		1		○			1						
		情報セキュリティ	３②		1		○				1					
		アナログ電子回路	３③		2		○				1					
		薄膜デバイス工学	３④		2		○			1					兼１	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		電子工学	３③		2		○			1						
		電磁波工学	３③		1		○			1						
		符号理論	３③		2		○			1						
		情報数学	３③		1		○			1						
		計算機制御・演習	３③		1			○			1					
		計測工学	３④		1		○								兼１	
		回路設計・演習	３④		1			○		1						
		結晶工学	３④		2		○								兼１	隔年
		量子力学	３③		2		○								兼１	隔年

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（先端理工学部　機械工学・ロボティクス課程）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻科目	専門関連科目	無線通信工学	３④		2		○			1						
		ディジタル信号処理・演習	３④		2			○				1				
		ネットワーク通信システム	３④		2		○								兼１	
		計算機アーキテクチャ	３④		1		○				1					
		化学と社会	１前		2		○			2		1				ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		資源・エネルギーと環境	１後		2		○			3						ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		化学と安全管理	２前		2		○			1	1					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		生化学Ⅰ	２③		1		○			1						
		量子材料科学Ⅰ	２③		1		○			1						
		電気化学Ⅰ	２③		1		○					1				
		結晶学入門Ⅰ	２③		1		○					1				
		高分子化学Ⅰ	２③		1		○			1						
		アドバンスト機器分析化学Ⅰ	２③		1		○			1						
		分析化学	２③		1		○					1				
		生化学Ⅱ	２④		1		○			1						
		量子材料科学Ⅱ	２④		1		○				1					
		電気化学Ⅱ	２④		1		○					1				
		結晶学入門Ⅱ	２④		1		○					1				
		高分子化学Ⅱ	２④		1		○			1						
		機器分析化学	２④		1		○			1						
		アドバンスト機器分析化学Ⅱ	２④		1		○			1						
		化学工学	２後		2		○			1						
		アドバンスト環境化学Ⅰ	３①		1		○					1				
		循環系グリーンケミストリー	３①		1		○				1					
		半導体材料Ⅰ	３①		1		○				1					
		固体物性化学Ⅰ	３①		1		○					1				
		エネルギー変換工学Ⅰ	３①		1		○			1						
		医薬品のプロセス化学	３①		1		○			1						
		分子集合化学	３①		1		○			1						
		有機化合物スペクトル解析入門Ⅰ	３①		1		○			1						
		バイオミメティックス　生物に倣ったものづくり	３①		1		○			1						
		セラミックス材料工学Ⅰ	３①		1		○			1						
		界面化学	３①		1		○			1						
		食と分子科学	３①		1		○					1				
		半導体材料Ⅱ	３②		1		○				1					
		固体物性化学Ⅱ	３②		1		○					1				
		アドバンスト電気化学	３②		1		○					1				
		エネルギー変換工学Ⅱ	３②		1		○			1						
		有機化合物スペクトル解析入門Ⅱ	３②		1		○			1						
		セラミックス材料工学Ⅱ	３②		1		○			1						
		アドバンスト環境化学Ⅱ	３②		1		○					1				
		バイオマテリアルⅠ	３③		1		○			1						
		構造解析学	３③		1		○					1				
		光化学Ⅰ	３③		1		○			1						
		逆合成解析化学Ⅰ	３③		1		○			1						
		高分子構造材料物性Ⅰ	３③		1		○			1						
		高分子材料工学Ⅰ	３③		1		○			1						
		ナノマテリアル	３③		1		○			1						
		バイオマテリアルⅡ	３④		1		○			1						
		光化学Ⅱ	３④		1		○			1						
		逆合成解析化学Ⅱ	３④		1		○			1						
		高分子構造材料物性Ⅱ	３④		1		○			1						
		高分子材料工学Ⅱ	３④		1		○			1						
		反応工学	３④		1		○			1						

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（先端理工学部　機械工学・ロボティクス課程）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻科目	専門関連科目	ディジタル信号処理	2後		2		○			1						
		仮想メディアシステム	2前		2		○			1						
		情報とセキュリティ	2前		2		○			1						
		システムソフトウェア	2前		2		○						1			
		データベース	2前		2		○				1					
		ヒューマンコンピュータインタラクション	2前		2		○					1				
		コンピュータビジョン	2前		2		○					1				
		多様なプログラミング言語	2前		2		○					1				
		音声・音響メディア処理論	2後		2		○			1						
		環境としての情報技術	3前		2		○			1						
		言語メディア処理論	2後		2		○					1				
		ＣＧとＶＲ	2後		2		○				1					
		ニューロとＡＩ	2後		2		○			1						
		データインテリジェンス	2後		2		○					1				
		ネットワーク構成論	2後		2		○				1					
		画像メディア処理論	3①		2		○			1						
		ソフトウェア開発法	3前		2		○				1					
		応用アルゴリズム	3前		2		○			1						
		環境実習ＩＡ	1①		1				○		3			1		共同
		地域環境概論Ａ	1②		1		○				2					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		生物学概論	1前		2		○								兼1	
		環境生態工学概論	1前		2		○			6	5	3				ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		地球環境概論Ａ	1③		1		○			1		1				ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		地域環境概論Ｂ	1①		1		○			1						
		地球環境概論Ｂ	1④		1		○				1					
		生態学概論Ⅰ	1③		1		○			2	2					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		ＳＤＧｓ概論	1③		1		○				1					
		水環境科学	1②		1		○				2					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		里山の生態学	1②		1		○			2	3	1				ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		大気環境科学	1④		1		○				1					
		進化学	1④		1		○			1						
		生物資源利用	1③		1		○			2	2	1				ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		生態学概論Ⅱ	1④		1		○			2	1	1				ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		化学工学Ⅰ	2①		1		○			1						
		気象学	2①		1		○								兼1	
		土木工学Ⅰ	2①		1		○					1				
		測量学及び演習	2①		2		○								兼1	
		環境実習ⅡＡ	2②		1				○	3	1			1		共同
		自然の浄化機構	2①		1		○				1					
		環境社会学	2①		1		○								兼1	
		環境倫理学	2①		1		○								兼1	
		社会調査法及び演習	2①		2		○								兼1	
		保全生態学	2①		1		○			1	2					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		環境経済学	2②		1		○			1						
		生理生態学	2③		1		○			1	2	1				ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		環境調査	2①		1		○			1	3	1				ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		化学工学Ⅱ	2②		1		○			1						
		製図学及び演習	2②		2		○			1					兼1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		土木工学Ⅱ	2②		1		○					1				
		環境政策論	2②		1		○								兼1	
		環境移動現象論	2③		1		○				1					
		廃棄物管理学Ⅰ	2③		1		○			1						
		環境微生物学	2③		1		○				1					
		環境計測学	2②		1		○			1						

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（先端理工学部　機械工学・ロボティクス課程）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻科目	専門関連科目	先端技術	２③		1		○			1	1					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		燃焼工学	２④		1		○					1				
		廃棄物管理学Ⅱ	２④		1		○			1						
		水理学	２③		1		○			1						
		データサイエンス及び演習	２④		1		○			2						ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		土壌地質学	２②		1		○				2					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		水域生態学	２④		1		○			2	1					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		環境分析化学実験	２④		1				○	2		1		1	兼 1	共同
		空気調和工学	３①		1		○				1					
		資源循環論	２③		1		○			1						
		水環境施設実験	３①		1				○		1			1		共同
		廃棄物・大気環境施設実験	３①		1				○		1	1				共同
		水処理工学	２④		1		○			1						
		環境毒性学	３①		1		○				1					
		地理情報学	３①		1		○								兼 1	
		資源管理学及び演習	２④		1		○			1	1	1				ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		群集生態学	３①		1		○			1		1				ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		排ガス処理工学	３①		1		○				1					
		水処理施設設計	３③		1		○			1						
		環境アセスメントＢ	３③		1		○				1					
		水道工学	３③		1		○					1				
		廃棄物処理施設設計	３④		1		○					1				
		数値計算法基礎及び演習	３④		1		○			1						
		環境アセスメントＡ	３④		1		○				1					
		下水道工学	３④		1		○					1				
		景観生態学	３④		1		○								兼 1	
		微生物生態学	３④		1		○			1						
		応用生態学	３④		1		○			2	3					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		小計（212科目）	－	0	270	0	－			35	15	11	2	3	兼 16	

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（先端理工学部　機械工学・ロボティクス課程）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
諸課程科目	工業科教育法Ⅰ	3 前			2	○								兼 1	
	工業科教育法Ⅱ	3 後			2	○								兼 1	
	教職論	2 前			2	○								兼 1	
	学校教育社会学	2 後			2	○								兼 1	
	教育社会学	2 前			2	○								兼 1	
	特別支援教育概論	2 前			2	○								兼 1	
	教育課程論	2 後			2	○			1						
	道徳教育指導法	3 後			2	○								兼 1	
	特別活動・総合的学習論	3 前			2	○								兼 1	
	教育の方法と技術（ＩＣＴ活用含む）	3 前			2	○			1						
	生徒・進路指導論	2 後			2	○								兼 1	
	教育相談	3 前			2	○								兼 1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	教育実習指導Ⅰ	4 前			1	○			1						
	教育実習指導ⅡＡ	4 通			4			○	1						
	教育実習指導ⅡＢ	4 通			2			○	1						
	教職実践演習（中・高）	4 後			2		○		1					兼 1	
	介護等体験	2 通			2			○	1						
	真宗学概論	2 通			4	○								兼 1	
	仏教学概論	2 通			4	○			1						
	真宗史	1 通			4	○								兼 1	
	（本山教師）仏教史	1 前			1	○								兼 2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	（本山教師）宗教概説	1 前			1	○								兼 1	
	勤式	1 通			4	○								兼 4	隔年／ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	宗門法規	1 前			2	○								兼 1	隔年／集中
	教化法	1 通			4	○								兼 4	隔年／ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	小計（25科目）	－	0	0	59	－			2	0	0	0	0	兼 23	
合計（474科目）		－	66	587	65	－			49	19	13	4	8	兼 165	

学位又は称号	学士（工学）	学位又は学科の分野	工学関係（機械工学）

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
教養教育科目から28単位以上（必修12単位、選択必修4単位（教養科目の人文科学系・社会科学系科目より各2単位）を含む）、専門基礎科目から17単位以上（必修17単位を含む）、専門応用科目から69単位以上（必修37単位を含む）を修得し、合計124単位以上を修得すること。 （履修科目登録上限：1～2年次44単位（年間）、3～4年次48単位（年間））	１学年の学期区分	4期
	１学期の授業期間	8週
	１時限の授業時間	90分

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（先端理工学部　応用化学課程）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
教養教育科目	「仏教の思想」科目	仏教の思想Ａ	１前	2			○			1					兼 2	
		仏教の思想Ｂ	１後	2			○			1					兼 2	
		歎異抄の思想Ⅰ	２前		2		○								兼 1	
		歎異抄の思想Ⅱ	２後		2		○								兼 1	
		小計（4科目）	－	4	4	0	－			1	0	0	0	0	兼 3	
	言語科目	英語総合１（Ａ）	１前	1			○				1				兼 10	
		英語総合１（Ｂ）	１前	1			○				2				兼 9	
		英語総合２（Ａ）	１後	1			○				1				兼 10	
		英語総合２（Ｂ）	１後	1			○				2				兼 9	
		英語総合３	２前	1			○				2				兼 9	
		英語総合４	２後	1			○				2				兼 9	
		英語セミナーＡ１	１前		2		○								兼 2	
		英語セミナーＡ２	１後		2		○								兼 2	
		英語セミナーＢ１	２前		2		○								兼 1	
		英語セミナーＢ２	２後		2		○								兼 1	
		英語セミナーＣ１	２前		2		○								兼 2	
		英語セミナーＣ２	２後		2		○								兼 2	
		英語セミナーＤ１	２前		2		○				1					
		英語セミナーＤ２	２後		2		○				1					
		英語セミナーＥ１	２前		2		○			1						
		英語セミナーＥ２	２後		2		○			1						
		英語セミナーＦ１	２前		2		○				1					
		英語セミナーＦ２	２後		2		○				1					
		英語セミナーＧ１	１前		2		○				1					
		英語セミナーＧ２	１後		2		○				1					
		海外英語研修	１後		2		○								兼 1	集中
		ドイツ語ＩＡ	１前		1		○								兼 1	
		ドイツ語ＩＢ	１前		1		○								兼 2	
		ドイツ語ⅡＡ	１後		1		○								兼 1	
		ドイツ語ⅡＢ	１後		1		○								兼 2	
		フランス語ＩＡ	１前		1		○								兼 1	
		フランス語ＩＢ	１前		1		○								兼 2	
		フランス語ⅡＡ	１後		1		○								兼 1	
		フランス語ⅡＢ	１後		1		○								兼 2	
		中国語ＩＡ	１前		1		○								兼 2	
		中国語ＩＢ	１前		1		○								兼 2	
		中国語ⅡＡ	１後		1		○								兼 2	
		中国語ⅡＢ	１後		1		○								兼 2	
		コリア語ＩＡ	１前		1		○								兼 1	
		コリア語ＩＢ	１前		1		○								兼 1	
		コリア語ⅡＡ	１後		1		○								兼 1	
		コリア語ⅡＢ	１後		1		○								兼 1	
		ドイツ語セミナーＩＡ	２前		2		○								兼 1	
		ドイツ語セミナーＩＢ	２後		2		○								兼 1	
		フランス語セミナーＩＡ	２前		2		○								兼 1	
		フランス語セミナーＩＢ	２後		2		○								兼 1	
		中国語セミナーＩＡ	２前		2		○								兼 1	
		中国語セミナーＩＢ	２後		2		○								兼 1	
		コリア語セミナーＩＡ	２前		2		○								兼 1	
		コリア語セミナーＩＢ	２後		2		○								兼 1	
		日本語	１前		1		○								兼 1	
		小計（46科目）	－	6	63	0	－			1	3	0	0	0	兼 39	

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（先端理工学部　応用化学課程）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養教育科目	教養科目	人文科学系科目	哲学入門	1 前		2		○								兼 1	
			倫理学入門	1 前		2		○								兼 2	
			倫理学Ａ	1 前		2		○								兼 2	
			倫理学Ｂ	2 前		2		○								兼 1	
			クリティカル・シンキング	1 前		2		○								兼 1	
			宗教学のすすめ	1 前		2		○								兼 1	
			宗教の世界	1 前		2		○								兼 1	
			日本の文学Ｍ	1 前		2		○								兼 1	
			日本の文学Ｎ	1 後		2		○								兼 1	
			アジアの文学Ａ	1 前		2		○								兼 1	
			アジアの文学Ｂ	1 前		2		○								兼 1	
			西洋の文学Ａ	1 前		2		○								兼 3	
			西洋の文学Ｂ	2 前		2		○								兼 2	
			言語学入門	1 前		2		○			1					兼 3	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			歴史入門	1 前		2		○								兼 2	
			日本の歴史Ｍ	1 前		2		○								兼 1	
			日本の歴史Ｎ	1 後		2		○								兼 1	
			日本の文化	1 前		2		○								兼 1	
			アジアの歴史Ｍ	2 前		2		○								兼 1	
			アジアの歴史Ｎ	2 後		2		○								兼 1	
			アジアの文化	2 前		2		○								兼 1	
			西洋の歴史Ｍ	1 前		2		○								兼 1	
			西洋の歴史Ｎ	1 前		2		○								兼 1	
			心理学入門	1 前		2		○								兼 2	
			心理学Ａ	2 前		2		○								兼 2	
			心理学Ｂ	2 後		2		○								兼 2	
			教育原論Ａ	1 前		2		○								兼 2	
			教育原論Ｂ	1 後		2		○								兼 2	
			学習・発達論Ａ	2 前		2		○								兼 1	
			学習・発達論Ｂ	2 後		2		○								兼 1	
			小計（30科目）	－	0	60	0	－			1	0	0	0	0	兼 24	
		社会科学系科目	日本国憲法	1 前		2		○								兼 1	
			法学のすすめ	1 前		2		○								兼 1	
			政治学のすすめ	1 前		2		○								兼 1	
			社会学のすすめ	1 前		2		○								兼 2	
			地理学のすすめ	1 前		2		○								兼 1	
			経済学のすすめ	1 前		2		○								兼 3	
			経営学のすすめ	1 前		2		○								兼 1	
			国際学のすすめ	1 前		2		○								兼 1	
			文化人類学のすすめ	1 前		2		○								兼 1	
			社会調査のすすめ	1 前		2		○								兼 2	
			社会統計学のすすめ	1 前		2		○								兼 1	
			人権論Ａ	1 前		2		○								兼 3	
			人権論Ｂ	1 後		2		○								兼 3	
			現代社会とメディア	2 前		2		○								兼 1	
			現代社会と福祉	2 前		2		○								兼 3	
			現代社会と法	2 前		2		○								兼 1	
			現代社会と労働	2 前		2		○								兼 1	
			現代社会の諸問題	2 前		2		○								兼 1	
			環境と社会	2 前		2		○								兼 1	
			平和学Ａ	2 前		2		○								兼 1	
			ジェンダー論	2 前		2		○								兼 1	
			国際社会論	2 前		2		○								兼 3	
			地域論	2 前		2		○								兼 1	

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（先端理工学部　応用化学課程）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養教育科目	教養科目	社会科学系科目	企業と会計	2 前		2		○								兼 1	
			社会思想史	2 前		2		○								兼 2	
			情報倫理	2 前		2		○			1					兼 1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			情報社会とメディア	1 前		2		○			2						ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			データサイエンス・ＡＩ入門	1 前		2		○			1					兼 1	集中
			小計（28科目）	－	0	56	0	－			4	0	0	0	0	兼 30	
		自然科学系科目	生活の中の数学	1 前		2		○								兼 1	
			生活の中の統計技術	1 前		2		○					1				
			生活の中の物理	1 前		2		○			1					兼 1	
			生活の中の生物学	1 前		2		○								兼 2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			生活の中の地学	1 後		2		○								兼 1	
			現代の技術	1 後		2		○			2						ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			生命と科学	2 前		2		○								兼 1	
			自然観察法	2 前		2		○			1	1					共同
			里山学	1 前		2		○			1	1				兼 9	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			植物の自然誌	1 後		2		○								兼 2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			環境の科学	2 前		2		○			1					兼 1	
			人類の科学	2 前		2		○								兼 1	
			情報と人間	1 後		2		○								兼 1	
			現代社会と栄養	1 前		2		○								兼 1	
			小計（14科目）	－	0	28	0	－			5	1	1	0	0	兼 21	
		スポーツ科学系科目	健康とスポーツ	2 前		2		○			1					兼 1	
			現代社会とスポーツ	1 後		2		○								兼 1	
			スポーツ技術学Ａ	1 前	1					○	1					兼 4	
			スポーツ技術学Ｂ	1 後	1					○	1					兼 4	
			スポーツ文化論	2 前		2		○								兼 1	
			小計（5科目）	－	2	6	0	－			1	0	0	0	0	兼 5	
			教養教育科目特別講義	1 前		2		○								兼 1	
			バークレー語学	1 前		12		○								兼 1	
			バークレー講義	1 前		6		○								兼 1	
			バークレーボランティア	1 前		6		○								兼 1	
			小計（4科目）	－	0	26	0	－			0	0	0	0	0	兼 2	
専攻科目	専門基礎科目		情報基礎	1 ①	2			○			3				2		
			フレッシャーズセミナー	1 前		2		○			4	1					
			協定型インターンシップ	1 前		2				○	1						
			理工学のすすめ	1 後		2		○				1					
			ＡＳＥＡＮグローバルプログラム	2 前		2				○	1						
			デザインシンキング	2 後		2			○		1						
			グローバル人材育成プログラム	3 前		2				○	1						
			プロジェクトリサーチⅠ	3 前		1				○	1						
			プロジェクトリサーチⅡ	3 前		2				○	1						
			理工インターンシップ（学外実習）Ⅰ	3 前		1				○	1						
			理工インターンシップ（学外実習）Ⅱ	3 前		2				○	1						
			化学と社会	1 前	2			○			2		1				ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			数学の基礎	1 前	2			○					1				
			化学の基礎	1 前	2			○			1		1				ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			プロジェクト演習Ⅰ	1 前	2				○		4						
			資源・エネルギーと環境	1 後	2			○			3						ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			物理の基礎	1 後	2			○			1						
			化学基礎実験	1 後	2					○	1				1		
			物理化学Ⅰ	1 後	2			○			1						
			有機化学Ⅰ	1 後	2			○			1						
			無機化学Ⅰ	1 後	2			○			1						
			物理基礎実験	2 前	2					○					1	兼 1	

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（先端理工学部　応用化学課程）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
専攻科目	専門基礎科目	物理化学実験	２③	1					○	2				1		共同
		機器分析化学実験	２④	1					○	2				2		共同
		物理化学Ⅱ	２前	2			○			1						
		有機化学Ⅱ	２前	2			○			1						
		無機化学Ⅱ	２前	2			○			1						
		化学と安全管理	２前	2			○			1	1					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		化学と情報処理	２前	2				○		3						共同
		地学概論	２前		2		○								兼１	
		生物学概論	２前		2		○								兼１	
		プロジェクト演習Ⅱ	２前		2			○		4						
		物理化学Ⅲ	２後	2			○			1						
		地学実験	２前		2				○					2	兼２	
		生物学実験	２後		2				○		1			1	兼２	
		化学の英語	３①	2				○		2	1		1			
		化学合成実験	３①	2					○	2			1	2		共同
		クラウドコンピューティング演習	２④			2		○			1					
		小計（38科目）	－	42	28	2	－			10	3	2	1	6	兼６	
専攻科目	専門応用科目	アドバンスト数学Ⅰ	２①		1		○					1				
		アドバンスト物理Ⅰ	２①		1		○				1					
		アドバンスト数学Ⅱ	２②		1		○					1				
		アドバンスト物理Ⅱ	２②		1		○				1					
		アドバンスト数学Ⅲ	２③		1		○					1				
		アドバンスト物理Ⅲ	２③		1		○				1					
		分析化学	２③		1		○					1				
		量子材料科学Ⅰ	２③		1		○			1						
		電気化学Ⅰ	２③		1		○					1				
		生化学Ⅰ	２③		1		○			1						
		結晶学入門Ⅰ	２③		1		○					1				
		高分子化学Ⅰ	２③		1		○			1						
		アドバンスト機器分析化学Ⅰ	２③		1		○			1						
		アドバンスト数学Ⅳ	２④		1		○					1				
		アドバンスト物理Ⅳ	２④		1		○				1					
		機器分析化学	２④		1		○			1						
		量子材料科学Ⅱ	２④		1		○				1					
		電気化学Ⅱ	２④		1		○					1				
		生化学Ⅱ	２④		1		○			1						
		結晶学入門Ⅱ	２④		1		○					1				
		高分子化学Ⅱ	２④		1		○			1						
		アドバンスト機器分析化学Ⅱ	２④		1		○			1						
		化学工学	２後		2		○			1						
		半導体材料Ⅰ	３①		1		○				1					
		固体物性化学Ⅰ	３①		1		○					1				
		エネルギー変換工学Ⅰ	３①		1		○			1						
		医薬品のプロセス化学	３①		1		○			1						
		分子集合化学	３①		1		○			1						
		有機化合物スペクトル解析入門Ⅰ	３①		1		○			1						
		バイオミメティックス　生物に倣ったものづくり	３①		1		○			1						
		セラミックス材料工学Ⅰ	３①		1		○			1						
		界面化学	３①		1		○			1						
		アドバンスト環境化学Ⅰ	３①		1		○					1				
		循環系グリーンケミストリー	３①		1		○				1					
		食と分子科学	３①		1		○					1				
		アドバンスト物質科学合成実験	３②		2				○	2		1	1			ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		半導体材料Ⅱ	３②		1		○				1					

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（先端理工学部　応用化学課程）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻科目	専門応用科目	固体物性化学Ⅱ	3 ②		1		○					1				
		アドバンスト電気化学	3 ②		1		○					1				
		エネルギー変換工学Ⅱ	3 ②		1		○			1						
		有機化合物スペクトル解析入門Ⅱ	3 ②		1		○			1						
		セラミックス材料工学Ⅱ	3 ②		1		○			1						
		アドバンスト環境化学Ⅱ	3 ②		1		○					1				
		構造解析学	3 ③		1		○					1				
		バイオマテリアルⅠ	3 ③		1		○			1						
		光化学Ⅰ	3 ③		1		○			1						
		逆合成解析化学Ⅰ	3 ③		1		○			1						
		高分子構造材料物性Ⅰ	3 ③		1		○			1						
		高分子材料工学Ⅰ	3 ③		1		○			1						
		ナノマテリアル	3 ③		1		○			1						
		バイオマテリアルⅡ	3 ④		1		○			1						
		光化学Ⅱ	3 ④		1		○			1						
		逆合成解析化学Ⅱ	3 ④		1		○			1						
		高分子構造材料物性Ⅱ	3 ④		1		○			1						
		高分子材料工学Ⅱ	3 ④		1		○			1						
		反応工学	3 ④		1		○			1						
		研究デザイン演習	3 後	2				○		9	1	2				
		科学技術英語	3 後	2			○			9	1	2				
		英語セミナー	4 前	2				○		9	1	2				
		特別研究	4 通	10					○	9	1	2		1		
		小計（60科目）	－	16	58	0	－			9	1	2	1	1	兼 0	
専攻科目	専門関連科目	情報処理システムⅠ	1 後		2			○		1						
		データ分析	1 後		2			○			1					
		微分方程式Ⅰ	2 前		2			○		1						
		物理と微分方程式及び演習	2 前		3			○				1				
		プログラミング及び実習Ⅲ	2 前		3				○	1						
		情報処理システムⅡ	2 前		2			○		1						
		確率統計Ⅰ	2 前		2			○			1					
		アルゴリズム及び演習Ⅰ	2 ③		2			○		1						
		シミュレーション及び演習	2 ④		2			○		1						
		アルゴリズム及び演習Ⅱ	2 ④		2			○		1						
		微分方程式Ⅱ	2 後		2			○		1						
		質点系の力学	2 後		2			○		1						
		多変量解析及び演習	2 後		3			○			1					
		複素解析Ⅰ	3 ①		1			○		1						
		位相入門Ⅰ	3 ①		1			○		1						
		代数入門Ⅰ	3 ①		1			○			1					
		幾何入門	3 ①		1			○			1					
		現象の数理モデルⅠ	3 ①		1			○		1						
		拡散現象の数理Ⅰ	3 ①		1			○		1						
		確率モデル及び演習	3 ④		2			○				1				
		オブジェクト指向及び演習	3 ①		2			○		1						
		データ構造とアルゴリズムⅠ	3 ①		1			○		1						
		機械学習Ⅰ	3 ①		1			○			1					
		数理・情報科学の学びと社会	3 ①		1			○			1					
		複素解析Ⅱ	3 ②		1			○		1						
		位相入門Ⅱ	3 ②		1			○		1						
		代数入門Ⅱ	3 ②		1			○			1					
		ベクトル解析入門	3 ②		1			○			1					
		現象の数理モデルⅡ	3 ②		1			○		1						
		拡散現象の数理Ⅱ	3 ②		1			○		1						

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（先端理工学部　応用化学課程）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻科目	専門関連科目	グラフィックス及び演習	３②		2			○		1						
		データ構造とアルゴリズムⅡ	３②		1			○		1						
		機械学習Ⅱ	３②		1			○			1					
		応用幾何	３③		1			○			1					
		波動現象の数理Ⅰ	３③		1			○		1						
		確率統計Ⅱ	３③		1			○		1						
		ネットワーク及び演習	３③		2			○				1	1			ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		言語と計算Ⅰ	３③		1			○		1						
		最適化の数理Ⅰ	３③		1			○							兼 1	
		波動現象の数理Ⅱ	３④		1			○		1						
		確率統計Ⅲ	３④		1			○		1						
		言語と計算Ⅱ	３④		1			○		1						
		最適化の数理Ⅱ	３④		1			○							兼 1	
		確率および統計・演習	２②		2			○			1					
		アルゴリズムとデータ構造Ⅰ・演習	２③		2			○			1			1		
		アルゴリズムとデータ構造Ⅱ・演習	２④		1			○		1						
		電子物性	３①		1		○			1						
		半導体デバイス工学	３①		1		○			1					兼 1	
		光デバイス	３①		1		○				1					
		ナノエレクトロニクス工学	３①		1		○			1						
		伝送線路	３①		1		○			1						
		高周波電子回路	３①		1		○			1						
		組込みシステム	３①		1		○				1					
		統計的機械学習	３①		1		○			1						
		認知科学	３①		1		○			1						
		群知能	３①		1		○				1					
		画像情報処理	３①		1		○				1					
		データサイエンス	３①		1		○					1				
		電子材料	３②		1		○			1						
		パワーエレクトロニクス	３②		1		○			1						
		ニューラルネットワーク	３②		1		○			1						
		知能ロボット	３②		1		○				1					
		応用プログラミング・演習	３②		1			○				1				
		人工知能	３②		1		○			1						
		情報セキュリティ	３②		1		○				1					
		アナログ電子回路	３③		2		○				1					
		薄膜デバイス工学	３④		2		○			1					兼 1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		電子工学	３③		2		○			1						
		電磁波工学	３③		1		○			1						
		符号理論	３③		2		○			1						
		情報数学	３③		1		○			1						
		計算機制御・演習	３③		1			○			1					
		計測工学	３④		1		○								兼 1	
		回路設計・演習	３④		1			○		1						
		結晶工学	３④		2		○								兼 1	隔年
		量子力学	３③		2		○								兼 1	隔年
		無線通信工学	３④		2		○			1						
		ディジタル信号処理・演習	３④		2			○				1				
		ネットワーク通信システム	３④		2		○								兼 1	
		計算機アーキテクチャ	３④		1		○				1					
		材料力学Ⅰ	２①		1		○			1						
		流体工学Ⅰ	２①		1		○			1						
		材料力学Ⅱ	２②		1		○			1						
		流体工学Ⅱ	２②		1		○			1						

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（先端理工学部　応用化学課程）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻科目	専門関連科目	振動工学Ⅰ	２③		1		○			1						
		材料力学Ⅲ	２③		1		○			1						
		基礎機械材料学	２③		1		○					1				
		粘性流体力学	２③		1		○			1						
		熱力学Ⅰ	２③		1		○			1						
		ディジタル電子制御Ⅰ	２③		1		○			1						
		機構学Ⅰ	２③		1		○								兼１	
		振動工学Ⅱ	２④		1		○			1						
		応用材料力学	２④		1		○			1						
		機械材料学	２④		1		○					1				
		航空流体力学	２④		1		○			1						
		熱力学Ⅱ	２④		1		○			1						
		ディジタル電子制御Ⅱ	２④		1		○			1						
		機構学Ⅱ	２④		1		○								兼１	
		弾性力学	３①		1		○			1						
		計算力学実習Ⅰ	３①		1				○	1						
		機械要素	３①		1		○			1						
		材料加工学	３①		1		○			1						
		航空・宇宙工学	３①		1		○			1						
		熱工学Ⅰ	３①		1		○					1				
		計測工学Ⅰ	３①		1		○			1						
		制御系設計論Ⅰ	３①		1		○				1					
		メカトロニクスⅠ	３①		1		○			1						
		ロボット実習	３①		1				○	2				3		ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		構造力学	３②		1		○			1						
		機械設計	３②		1		○			1						
		機械加工学	３②		1		○			1						
		自動車工学	３②		1		○					1				
		熱工学Ⅱ	３②		1		○					1				
		計測工学Ⅱ	３②		1		○			1						
		制御系設計論Ⅱ	３②		1		○				1					
		メカトロニクスⅡ	３②		1		○			1						
		バイオメカニクス	３③		1		○			1						
		材料強度学Ⅰ	３③		1		○			1						
		伝熱工学Ⅰ	３③		1		○			1						
		ロボット工学Ⅰ	３③		1		○				1					
		解析力学	３④		1		○			1						
		材料強度学Ⅱ	３④		1		○			1						
		伝熱工学Ⅱ	３④		1		○			1						
		ロボット工学Ⅱ	３④		1		○				1					
		ディジタル信号処理	２後		2		○			1						
		仮想メディアシステム	２前		2		○			1						
		情報とセキュリティ	２前		2		○			1						
		システムソフトウェア	２前		2		○						1			
		データベース	２前		2		○				1					
		ヒューマンコンピュータインタラクション	２前		2		○					1				
		コンピュータビジョン	２前		2		○					1				
		多様なプログラミング言語	２前		2		○					1				
		音声・音響メディア処理論	２後		2		○			1						
		環境としての情報技術	３前		2		○			1						
		言語メディア処理論	２後		2		○					1				
		ＣＧとＶＲ	２後		2		○				1					
		ニューロとＡＩ	２後		2		○			1						
		データインテリジェンス	２後		2		○					1				

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（先端理工学部　応用化学課程）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
専攻科目	専門関連科目	ネットワーク構成論	２後		2		○				1					
		画像メディア処理論	３①		2		○			1						
		ソフトウェア開発法	３前		2		○				1					
		応用アルゴリズム	３前		2		○			1						
		環境実習ＩＡ	１①		1				○		3			1		共同
		地域環境概論Ａ	１②		1		○				2					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		環境生態工学概論	１前		2		○			6	5	3				ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		地球環境概論Ａ	１③		1		○			1		1				ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		地域環境概論Ｂ	１①		1		○			1						
		地球環境概論Ｂ	１④		1		○				1					
		生態学概論Ⅰ	１③		1		○			2	2					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		ＳＤＧｓ概論	１③		1		○				1					
		水環境科学	１②		1		○				2					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		里山の生態学	１②		1		○			2	3	1				ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		大気環境科学	１④		1		○				1					
		進化学	１④		1		○			1						
		生物資源利用	１③		1		○			2	2	1				ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		生態学概論Ⅱ	１④		1		○			2	1	1				ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		化学工学Ⅰ	２①		1		○			1						
		気象学	２①		1		○								兼１	
		土木工学Ⅰ	２①		1		○					1				
		測量学及び演習	２①		2		○								兼１	
		環境実習ⅡＡ	２②		1				○	3	1			1		共同
		自然の浄化機構	２①		1		○				1					
		環境社会学	２①		1		○								兼１	
		環境倫理学	２①		1		○								兼１	
		社会調査法及び演習	２①		2		○								兼１	
		保全生態学	２①		1		○			1	2					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		環境経済学	２②		1		○			1						
		生理生態学	２③		1		○			1	2	1				ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		環境調査	２①		1		○			1	3	1				ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		化学工学Ⅱ	２②		1		○			1						
		製図学及び演習	２②		2		○			1					兼１	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		土木工学Ⅱ	２②		1		○					1				
		環境政策論	２②		1		○								兼１	
		環境移動現象論	２③		1		○				1					
		廃棄物管理学Ⅰ	２③		1		○			1						
		環境微生物学	２③		1		○				1					
		環境計測学	２②		1		○			1						
		先端技術	２③		1		○			1	1					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		燃焼工学	２④		1		○					1				
		廃棄物管理学Ⅱ	２④		1		○			1						
		水理学	２③		1		○			1						
		データサイエンス及び演習	２④		1		○			2						ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		土壌地質学	２②		1		○				2					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		環境分析化学実験	２④		1				○	2		1		1	兼１	共同
		水域生態学	２④		1		○			2	1					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		排ガス処理工学	３①		1		○				1					
		空気調和工学	３①		1		○				1					
		資源循環論	２③		1		○			1						
		水環境施設実験	３①		1				○		1			1		共同
		廃棄物・大気環境施設実験	３①		1				○		1	1				共同
		水処理工学	２④		1		○			1						
		環境毒性学	３①		1		○				1					

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（先端理工学部　応用化学課程）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
専攻科目	専門関連科目	地理情報学	３①		1		○								兼 1	
		資源管理学及び演習	２④		1		○			1	1	1				ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		群集生態学	３①		1		○			1		1				ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		水道工学	３③		1		○					1				
		水処理施設設計	３③		1		○			1						
		環境アセスメントＢ	３③		1		○				1					
		下水道工学	３④		1		○					1				
		廃棄物処理施設設計	３④		1		○					1				
		数値計算法基礎及び演習	３④		1		○			1						
		環境アセスメントＡ	３④		1		○				1					
		景観生態学	３④		1		○								兼 1	
		微生物生態学	３④		1		○			1						
		応用生態学	３④		1		○			2	3					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		小計（205科目）	－	0	258	0	－			36	15	11	2	6	兼 16	
	諸課程科目	理科教育法Ａ	2 前			2	○								兼 1	
		理科教育法Ｂ	2 後			2	○								兼 1	
		理科教育法Ⅰ	3 前			2	○								兼 1	
		理科教育法Ⅱ	3 後			2	○								兼 1	
		教職論	2 前			2	○								兼 1	
		学校教育社会学	2 後			2	○								兼 1	
		教育社会学	2 前			2	○								兼 1	
		特別支援教育概論	2 前			2	○								兼 1	
		教育課程論	2 後			2	○			1						
		道徳教育指導法	3 後			2	○								兼 1	
		特別活動・総合的学習論	3 前			2	○								兼 1	
		教育の方法と技術（ＩＣＴ活用含む）	3 前			2	○			1						
		生徒・進路指導論	2 後			2	○								兼 1	
		教育相談	3 前			2	○								兼 1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		教育実習指導Ⅰ	4 前			1	○			1						
		教育実習指導ⅡＡ	4 通			4			○	1						
		教育実習指導ⅡＢ	4 通			2			○	1						
		教職実践演習（中・高）	4 後			2		○		1					兼 1	
		介護等体験	2 通			2			○	1						
		真宗学概論	2 通			4	○								兼 1	
		仏教学概論	2 通			4	○			1						
		真宗史	1 通			4	○								兼 1	
		（本山教師）仏教史	1 前			1	○								兼 2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		（本山教師）宗教概説	1 前			1	○								兼 1	
		勤式	1 通			4	○								兼 4	隔年／ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		宗門法規	1 前			2	○								兼 1	隔年／集中
		教化法	1 通			4	○								兼 4	隔年／ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		小計（27科目）	－	0	0	63	－			2	0	0	0	0	兼 24	
合計（461科目）			－	70	587	65	－			49	19	13	3	11	兼 162	

学位又は称号	学士（工学）	学位又は学科の分野	工学関係（化学）

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
教養教育科目から28単位以上（必修12単位、選択必修4単位（教養科目の人文科学系・社会科学系科目より各2単位）を含む）、専門基礎科目から42単位以上（必修42単位を含む）、専門応用科目から42単位以上（必修16単位を含む）を修得し、合計124単位以上を修得すること。 （履修科目登録上限：1～2年次44単位（年間）、3～4年次48単位（年間））	１学年の学期区分	4期
	１学期の授業期間	8週
	１時限の授業時間	90分

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（先端理工学部　環境生態工学課程）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養教育科目	「仏教の思想」科目	仏教の思想Ａ	１前	2			○			1					兼２	
		仏教の思想Ｂ	１後	2			○			1					兼２	
		歎異抄の思想Ⅰ	２前		2		○								兼１	
		歎異抄の思想Ⅱ	２後		2		○								兼１	
		小計（4科目）	－	4	4	0	－			1	0	0	0	0	兼３	
	言語科目	英語総合１（Ａ）	１前	1			○				1				兼10	
		英語総合１（Ｂ）	１前	1			○				2				兼９	
		英語総合２（Ａ）	１後	1			○				1				兼10	
		英語総合２（Ｂ）	１後	1			○				2				兼９	
		英語総合３	２前	1			○				2				兼９	
		英語総合４	２後	1			○				2				兼９	
		英語セミナーＡ１	１前		2		○								兼２	
		英語セミナーＡ２	１後		2		○								兼２	
		英語セミナーＢ１	２前		2		○								兼１	
		英語セミナーＢ２	２後		2		○								兼１	
		英語セミナーＣ１	２前		2		○								兼２	
		英語セミナーＣ２	２後		2		○								兼２	
		英語セミナーＤ１	２前		2		○				1					
		英語セミナーＤ２	２後		2		○				1					
		英語セミナーＥ１	２前		2		○			1						
		英語セミナーＥ２	２後		2		○			1						
		英語セミナーＦ１	２前		2		○				1					
		英語セミナーＦ２	２後		2		○				1					
		英語セミナーＧ１	１前		2		○				1					
		英語セミナーＧ２	１後		2		○				1					
		海外英語研修	１後		2		○								兼１	集中
		ドイツ語ＩＡ	１前		1		○								兼１	
		ドイツ語ＩＢ	１前		1		○								兼２	
		ドイツ語ⅡＡ	１後		1		○								兼１	
		ドイツ語ⅡＢ	１後		1		○								兼２	
		フランス語ＩＡ	１前		1		○								兼１	
		フランス語ＩＢ	１前		1		○								兼２	
		フランス語ⅡＡ	１後		1		○								兼１	
		フランス語ⅡＢ	１後		1		○								兼２	
		中国語ＩＡ	１前		1		○								兼２	
		中国語ＩＢ	１前		1		○								兼２	
		中国語ⅡＡ	１後		1		○								兼２	
		中国語ⅡＢ	１後		1		○								兼２	
		コリア語ＩＡ	１前		1		○								兼１	
		コリア語ＩＢ	１前		1		○								兼１	
		コリア語ⅡＡ	１後		1		○								兼１	
		コリア語ⅡＢ	１後		1		○								兼１	
		ドイツ語セミナーＩＡ	２前		2		○								兼１	
		ドイツ語セミナーＩＢ	２後		2		○								兼１	
		フランス語セミナーＩＡ	２前		2		○								兼１	
		フランス語セミナーＩＢ	２後		2		○								兼１	
		中国語セミナーＩＡ	２前		2		○								兼１	
		中国語セミナーＩＢ	２後		2		○								兼１	
		コリア語セミナーＩＡ	２前		2		○								兼１	
		コリア語セミナーＩＢ	２後		2		○								兼１	
		日本語	１前		1		○								兼１	
		小計（46科目）	－	6	63	0	－			1	3	0	0	0	兼39	

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（先端理工学部　環境生態工学課程）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養教育科目	教養科目	人文科学系科目	哲学入門	1 前		2		○								兼 1	
			倫理学入門	1 前		2		○								兼 2	
			倫理学Ａ	1 前		2		○								兼 2	
			倫理学Ｂ	2 前		2		○								兼 1	
			クリティカル・シンキング	1 前		2		○								兼 1	
			宗教学のすすめ	1 前		2		○								兼 1	
			宗教の世界	1 前		2		○								兼 1	
			日本の文学Ｍ	1 前		2		○								兼 1	
			日本の文学Ｎ	1 後		2		○								兼 1	
			アジアの文学Ａ	1 前		2		○								兼 1	
			アジアの文学Ｂ	1 前		2		○								兼 1	
			西洋の文学Ａ	1 前		2		○								兼 3	
			西洋の文学Ｂ	2 前		2		○								兼 2	
			言語学入門	1 前		2		○			1					兼 3	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			歴史入門	1 前		2		○								兼 2	
			日本の歴史Ｍ	1 前		2		○								兼 1	
			日本の歴史Ｎ	1 後		2		○								兼 1	
			日本の文化	1 前		2		○								兼 1	
			アジアの歴史Ｍ	2 前		2		○								兼 1	
			アジアの歴史Ｎ	2 後		2		○								兼 1	
			アジアの文化	2 前		2		○								兼 1	
			西洋の歴史Ｍ	1 前		2		○								兼 1	
			西洋の歴史Ｎ	1 前		2		○								兼 1	
			心理学入門	1 前		2		○								兼 2	
			心理学Ａ	2 前		2		○								兼 2	
			心理学Ｂ	2 後		2		○								兼 2	
			教育原論Ａ	1 前		2		○								兼 2	
			教育原論Ｂ	1 後		2		○								兼 2	
			学習・発達論Ａ	2 前		2		○								兼 1	
			学習・発達論Ｂ	2 後		2		○								兼 1	
			小計（30科目）	－	0	60	0	－			1	0	0	0	0	兼 24	
		社会科学系科目	日本国憲法	1 前		2		○								兼 1	
			法学のすすめ	1 前		2		○								兼 1	
			政治学のすすめ	1 前		2		○								兼 1	
			社会学のすすめ	1 前		2		○								兼 2	
			地理学のすすめ	1 前		2		○								兼 1	
			経済学のすすめ	1 前		2		○								兼 3	
			経営学のすすめ	1 前		2		○								兼 1	
			国際学のすすめ	1 前		2		○								兼 1	
			文化人類学のすすめ	1 前		2		○								兼 1	
			社会調査のすすめ	1 前		2		○								兼 2	
			社会統計学のすすめ	1 前		2		○								兼 1	
			人権論Ａ	1 前		2		○								兼 3	
			人権論Ｂ	1 後		2		○								兼 3	
			現代社会とメディア	2 前		2		○								兼 1	
			現代社会と福祉	2 前		2		○								兼 3	
			現代社会と法	2 前		2		○								兼 1	
			現代社会と労働	2 前		2		○								兼 1	
			現代社会の諸問題	2 前		2		○								兼 1	
			環境と社会	2 前		2		○								兼 1	
			平和学Ａ	2 前		2		○								兼 1	
			ジェンダー論	2 前		2		○								兼 1	
			国際社会論	2 前		2		○								兼 3	
			地域論	2 前		2		○								兼 1	

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（先端理工学部　環境生態工学課程）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
教養教育科目	教養科目	社会科学系科目	企業と会計	2 前		2		○								兼 1	
			社会思想史	2 前		2		○								兼 2	
			情報倫理	2 前		2		○			1					兼 1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			情報社会とメディア	1 前		2		○			2						ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			データサイエンス・ＡＩ入門	1 前		2		○			1					兼 1	集中
			小計（28科目）	－	0	56	0	－			4	0	0	0	0	兼 30	
		自然科学系科目	生活の中の数学	1 前		2		○								兼 1	
			生活の中の統計技術	1 前		2		○					1				
			生活の中の化学	1 前		2		○			1					兼 1	
			生活の中の物理	1 前		2		○			1					兼 1	
			生活の中の生物学	1 前		2		○								兼 2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			生活の中の地学	1 後		2		○								兼 1	
			現代の技術	1 後		2		○			2						ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			生命と科学	2 前		2		○								兼 1	
			自然観察法	2 前		2		○			1	1					共同
			里山学	1 前		2		○			1	1				兼 9	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			植物の自然誌	1 後		2		○								兼 2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			環境の科学	2 前		2		○			1					兼 1	
			人類の科学	2 前		2		○								兼 1	
			情報と人間	1 後		2		○								兼 1	
			現代社会と栄養	1 前		2		○								兼 1	
			小計（15科目）	－	0	30	0	－			6	1	1	0	0	兼 22	
		スポーツ科学系科目	健康とスポーツ	2 前		2		○			1					兼 1	
			現代社会とスポーツ	1 後		2		○								兼 1	
			スポーツ技術学Ａ	1 前	1					○	1					兼 4	
			スポーツ技術学Ｂ	1 後	1					○	1					兼 4	
			スポーツ文化論	2 前		2		○								兼 1	
			小計（5科目）	－	2	6	0	－			1	0	0	0	0	兼 5	
			教養教育科目特別講義	1 前		2		○								兼 1	
			バークレー語学	1 前		12		○								兼 1	
			バークレー講義	1 前		6		○								兼 1	
			バークレーボランティア	1 前		6		○								兼 1	
			小計（4科目）	－	0	26	0	－			0	0	0	0	0	兼 2	
専攻科目	専門基礎科目		情報基礎	1 ①	2			○			1				2		
			フレッシャーズセミナー	1 前		2		○			1		3				
			協定型インターンシップ	1 前		2				○	1						
			理工学のすすめ	1 後		2		○			1						
			ＡＳＥＡＮグローバルプログラム	2 前		2				○	1						
			デザインシンキング	2 後		2			○		1						
			グローバル人材育成プログラム	3 前		2				○	1						
			プロジェクトリサーチⅠ	3 前		1				○	1						
			プロジェクトリサーチⅡ	3 前		2				○	1						
			理工インターンシップ（学外実習）Ⅰ	3 前		1				○	1						
			理工インターンシップ（学外実習）Ⅱ	3 前		2				○	1						
			環境実習ＩＡ	1 ①	1					○		3			1		共同
			地域環境概論Ａ	1 ②	1			○				2					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			生物学概論	1 前		2		○								兼 1	
			地学概論	1 前		2		○								兼 1	
			地学実験	1 前		2				○					2	兼 2	
			環境生態工学概論	1 前	2			○			6	5	3				ｵﾑﾆﾊﾞｽ
			数学概論	1 前	2			○								兼 1	
			化学概論	1 前	2			○					1				
			地域環境概論Ｂ	1 ①	1			○			1						
			地球環境概論Ａ	1 ③	1			○			1		1				ｵﾑﾆﾊﾞｽ

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（先端理工学部　環境生態工学課程）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻科目	専門基礎科目	地球環境概論Ｂ	１④	1			○				1					
		生態学概論Ⅰ	１③	1			○			2	2					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		物理学概論	１後		2		○								兼１	
		生物学実験	１後		2				○		1			1	兼２	
		環境寄席	１後	2			○			3	2	1				ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		生態学概論Ⅱ	１④	1			○			2	1	1				ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		物理実験	２前		2				○					1	兼１	
		化学実験	２後	2					○	1		1		1		
		クラウドコンピューティング演習	２④		2			○			1					
		小計（30科目）	－	19	32	0	－			9	6	3	0	6	兼８	
	専門応用科目	ＳＤＧｓ概論	１③		1		○				1					
		水環境科学	１②		1		○				2					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		里山の生態学	１②		1		○			2	3	1				ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		大気環境科学	１④	1			○				1					
		進化学	１④	1			○			1						
		生物資源利用	１③		1		○			2	2	1				ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		化学工学Ⅰ	２①		1		○			1						
		土木工学Ⅰ	２①		1		○					1				
		測量学及び演習	２①		2		○								兼１	
		環境社会学	２①		1		○								兼１	
		環境倫理学	２①		1		○								兼１	
		環境経済学	２②		1		○			1						
		気象学	２①		1		○								兼１	
		環境調査	２①		1		○			1	3	1				ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		社会調査法及び演習	２①		2		○								兼１	
		保全生態学	２①		1		○			1	2					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		生理生態学	２③		1		○			1	2	1				ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		環境実習ⅡＡ	２②		1				○	3	1			1		共同
		自然の浄化機構	２①	1			○				1					
		化学工学Ⅱ	２②		1		○			1						
		製図学及び演習	２②		2		○			1					兼１	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		土木工学Ⅱ	２②		1		○					1				
		環境政策論	２②		1		○								兼１	
		環境移動現象論	２③		1		○				1					
		環境微生物学	２③		1		○				1					
		廃棄物管理学Ⅰ	２③		1		○			1						
		環境計測学	２②		1		○			1						
		先端技術	２③		1		○			1	1					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		数理生態学	２③		1		○			1						
		燃焼工学	２④		1		○					1				
		廃棄物管理学Ⅱ	２④		1		○			1						
		水理学	２③		1		○			1						
		データサイエンス及び演習	２④		1		○			2						ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		土壌地質学	２②		1		○				2					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		個体群生態学	２③	1			○			2	2					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		水域生態学	２④		1		○			2	1					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		森林生態学	２④		1		○			1	1	1				ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		環境分析化学実験	２④	1					○	2		1		1	兼１	共同
		環境毒性学	３①		1		○				1					
		排ガス処理工学	３①		1		○				1					
		空気調和工学	３①		1		○				1					
		資源循環論	２③		1		○			1						
		地理情報学	３①		1		○								兼１	
		資源管理学及び演習	２④		1		○			1	1	1				ｵﾑﾆﾊﾞｽ

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（先端理工学部　環境生態工学課程）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻科目	専門応用科目	群集生態学	３①		1		○			1		1				ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		水環境施設実験	３①		1				○		1			1		共同
		環境実習ⅢＡ	３①		1				○	2	1	1		1		共同
		廃棄物・大気環境施設実験	３①		1				○		1	1				共同
		水処理工学	２④		1		○			1						
		水道工学	３③		1		○					1				
		水処理施設設計	３③		1		○			1						
		環境アセスメントＢ	３③		1		○				1					
		生態系生態学	３③	1			○			1	1					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		下水道工学	３④		1		○					1				
		廃棄物処理施設設計	３④		1		○					1				
		環境アセスメントＡ	３④		1		○				1					
		数値計算法基礎及び演習	３④		1		○			1						
		景観生態学	３④		1		○								兼 1	
		微生物生態学	３④		1		○			1						
		応用生態学	３④		1		○			2	3					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		セミナーⅠ	３後	2				○		6	5	3				
		セミナーⅡ	４前	2				○		6	5	3				
		セミナーⅢ	４後	2				○		6	5	3				
		特別研究	４通	6					○	6	5	3		1		
		小計（64科目）	－	18	57	0	－			6	5	3	0	2	兼 10	
	専門関連科目	情報処理システムⅠ	１後		2			○		1						
		データ分析	１後		2			○			1					
		微分方程式Ⅰ	２前		2			○		1						
		物理と微分方程式及び演習	２前		3			○				1				
		プログラミング及び実習Ⅲ	２前		3				○	1						
		情報処理システムⅡ	２前		2			○		1						
		確率統計Ⅰ	２前		2			○			1					
		アルゴリズム及び演習Ⅰ	２③		2			○		1						
		シミュレーション及び演習	２④		2			○		1						
		アルゴリズム及び演習Ⅱ	２④		2			○		1						
		微分方程式Ⅱ	２後		2			○		1						
		質点系の力学	２後		2			○		1						
		多変量解析及び演習	２後		3			○			1					
		複素解析Ⅰ	３①		1			○		1						
		位相入門Ⅰ	３①		1			○		1						
		代数入門Ⅰ	３①		1			○			1					
		幾何入門	３①		1			○			1					
		現象の数理モデルⅠ	３①		1			○		1						
		拡散現象の数理Ⅰ	３①		1			○		1						
		確率モデル及び演習	３④		2			○				1				
		オブジェクト指向及び演習	３①		2			○		1						
		データ構造とアルゴリズムⅠ	３①		1			○		1						
		機械学習Ⅰ	３①		1			○			1					
		数理・情報科学の学びと社会	３①		1			○			1					
		複素解析Ⅱ	３②		1			○		1						
		位相入門Ⅱ	３②		1			○		1						
		代数入門Ⅱ	３②		1			○			1					
		ベクトル解析入門	３②		1			○			1					
		現象の数理モデルⅡ	３②		1			○		1						
		拡散現象の数理Ⅱ	３②		1			○		1						
		グラフィックス及び演習	３②		2			○		1						
		データ構造とアルゴリズムⅡ	３②		1			○		1						
		機械学習Ⅱ	３②		1			○			1					

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（先端理工学部　環境生態工学課程）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻科目	専門関連科目	応用幾何	３③		1			○			1					
		波動現象の数理Ⅰ	３③		1			○		1						
		確率統計Ⅱ	３③		1			○		1						
		ネットワーク及び演習	３③		2			○				1	1			ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		言語と計算Ⅰ	３③		1			○		1						
		最適化の数理Ⅰ	３③		1			○							兼１	
		波動現象の数理Ⅱ	３④		1			○		1						
		確率統計Ⅲ	３④		1			○		1						
		言語と計算Ⅱ	３④		1			○		1						
		最適化の数理Ⅱ	３④		1			○							兼１	
		確率および統計・演習	２②		2			○			1					
		アルゴリズムとデータ構造Ⅰ・演習	２③		2			○			1			1		
		アルゴリズムとデータ構造Ⅱ・演習	２④		1			○		1						
		電子物性	３①		1		○			1						
		半導体デバイス工学	３①		1		○			1					兼１	
		光デバイス	３①		1		○				1					
		ナノエレクトロニクス工学	３①		1		○			1						
		伝送線路	３①		1		○			1						
		高周波電子回路	３①		1		○			1						
		組込みシステム	３①		1		○				1					
		統計的機械学習	３①		1		○			1						
		認知科学	３①		1		○			1						
		群知能	３①		1		○				1					
		画像情報処理	３①		1		○				1					
		データサイエンス	３①		1		○					1				
		電子材料	３②		1		○			1						
		パワーエレクトロニクス	３②		1		○			1						
		ニューラルネットワーク	３②		1		○			1						
		知能ロボット	３②		1		○				1					
		応用プログラミング・演習	３②		1			○				1				
		人工知能	３②		1		○			1						
		情報セキュリティ	３②		1		○				1					
		アナログ電子回路	３③		2		○				1					
		薄膜デバイス工学	３④		2		○			1					兼１	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		電子工学	３③		2		○			1						
		電磁波工学	３③		1		○			1						
		符号理論	３③		2		○			1						
		情報数学	３③		1		○			1						
		計算機制御・演習	３③		1			○			1					
		計測工学	３④		1		○								兼１	
		回路設計・演習	３④		1			○		1						
		結晶工学	３④		2		○								兼１	隔年
		量子力学	３③		2		○								兼１	隔年
		無線通信工学	３④		2		○			1						
		ディジタル信号処理・演習	３④		2			○				1				
		ネットワーク通信システム	３④		2		○								兼１	
		計算機アーキテクチャ	３④		1		○				1					
		材料力学Ⅰ	２①		1		○			1						
		流体工学Ⅰ	２①		1		○			1						
		材料力学Ⅱ	２②		1		○			1						
		流体工学Ⅱ	２②		1		○			1						
		振動工学Ⅰ	２③		1		○			1						
		材料力学Ⅲ	２③		1		○			1						
		基礎機械材料学	２③		1		○					1				

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（先端理工学部　環境生態工学課程）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻科目	専門関連科目	粘性流体力学	２③		1		○			1						
		熱力学Ⅰ	２③		1		○			1						
		ディジタル電子制御Ⅰ	２③		1		○			1						
		機構学Ⅰ	２③		1		○								兼１	
		振動工学Ⅱ	２④		1		○			1						
		応用材料力学	２④		1		○			1						
		機械材料学	２④		1		○					1				
		航空流体力学	２④		1		○			1						
		熱力学Ⅱ	２④		1		○			1						
		ディジタル電子制御Ⅱ	２④		1		○			1						
		機構学Ⅱ	２④		1		○								兼１	
		弾性力学	３①		1		○			1						
		計算力学実習Ⅰ	３①		1				○	1						
		機械要素	３①		1		○			1						
		材料加工学	３①		1		○			1						
		航空・宇宙工学	３①		1		○			1						
		熱工学Ⅰ	３①		1		○					1				
		計測工学Ⅰ	３①		1		○			1						
		制御系設計論Ⅰ	３①		1		○				1					
		メカトロニクスⅠ	３①		1		○			1						
		ロボット実習	３①		1				○	2				3		ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		構造力学	３②		1		○			1						
		機械設計	３②		1		○			1						
		機械加工学	３②		1		○			1						
		自動車工学	３②		1		○					1				
		熱工学Ⅱ	３②		1		○					1				
		計測工学Ⅱ	３②		1		○			1						
		制御系設計論Ⅱ	３②		1		○				1					
		メカトロニクスⅡ	３②		1		○			1						
		バイオメカニクス	３③		1		○			1						
		材料強度学Ⅰ	３③		1		○			1						
		伝熱工学Ⅰ	３③		1		○			1						
		ロボット工学Ⅰ	３③		1		○				1					
		解析力学	３④		1		○			1						
		材料強度学Ⅱ	３④		1		○			1						
		伝熱工学Ⅱ	３④		1		○			1						
		ロボット工学Ⅱ	３④		1		○				1					
		化学と社会	１前		2		○			2		1				ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		資源・エネルギーと環境	１後		2		○			3						ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		化学と安全管理	２前		2		○			1	1					ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		生化学Ⅰ	２③		1		○			1						
		量子材料科学Ⅰ	２③		1		○			1						
		電気化学Ⅰ	２③		1		○					1				
		結晶学入門Ⅰ	２③		1		○					1				
		高分子化学Ⅰ	２③		1		○			1						
		アドバンスト機器分析化学Ⅰ	２③		1		○			1						
		分析化学	２③		1		○					1				
		生化学Ⅱ	２④		1		○			1						
		量子材料科学Ⅱ	２④		1		○				1					
		電気化学Ⅱ	２④		1		○					1				
		結晶学入門Ⅱ	２④		1		○					1				
		高分子化学Ⅱ	２④		1		○			1						
		機器分析化学	２④		1		○			1						
		アドバンスト機器分析化学Ⅱ	２④		1		○			1						

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（先端理工学部　環境生態工学課程）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻科目	専門関連科目	化学工学	2後		2		○			1						
		アドバンスト環境化学Ⅰ	3①		1		○					1				
		循環系グリーンケミストリー	3①		1		○				1					
		半導体材料Ⅰ	3①		1		○				1					
		固体物性化学Ⅰ	3①		1		○					1				
		エネルギー変換工学Ⅰ	3①		1		○			1						
		医薬品のプロセス化学	3①		1		○			1						
		分子集合化学	3①		1		○			1						
		有機化合物スペクトル解析入門Ⅰ	3①		1		○			1						
		バイオミメティックス　生物に倣ったものづくり	3①		1		○			1						
		セラミックス材料工学Ⅰ	3①		1		○			1						
		界面化学	3①		1		○			1						
		食と分子科学	3①		1		○					1				
		半導体材料Ⅱ	3②		1		○				1					
		固体物性化学Ⅱ	3②		1		○					1				
		アドバンスト電気化学	3②		1		○					1				
		エネルギー変換工学Ⅱ	3②		1		○			1						
		有機化合物スペクトル解析入門Ⅱ	3②		1		○			1						
		セラミックス材料工学Ⅱ	3②		1		○			1						
		アドバンスト環境化学Ⅱ	3②		1		○					1				
		バイオマテリアルⅠ	3③		1		○			1						
		構造解析学	3③		1		○					1				
		光化学Ⅰ	3③		1		○			1						
		逆合成解析化学Ⅰ	3③		1		○			1						
		高分子構造材料物性Ⅰ	3③		1		○			1						
		高分子材料工学Ⅰ	3③		1		○			1						
		ナノマテリアル	3③		1		○			1						
		バイオマテリアルⅡ	3④		1		○			1						
		光化学Ⅱ	3④		1		○			1						
		逆合成解析化学Ⅱ	3④		1		○			1						
		高分子構造材料物性Ⅱ	3④		1		○			1						
		高分子材料工学Ⅱ	3④		1		○			1						
		反応工学	3④		1		○			1						
		ディジタル信号処理	2後		2		○			1						
		仮想メディアシステム	2前		2		○			1						
		情報とセキュリティ	2前		2		○			1						
		システムソフトウェア	2前		2		○						1			
		データベース	2前		2		○				1					
		ヒューマンコンピュータインタラクション	2前		2		○					1				
		コンピュータビジョン	2前		2		○					1				
		多様なプログラミング言語	2前		2		○					1				
		音声・音響メディア処理論	2後		2		○			1						
		環境としての情報技術	3前		2		○			1						
		言語メディア処理論	2後		2		○					1				
		ＣＧとＶＲ	2後		2		○				1					
		ニューロとＡＩ	2後		2		○			1						
		データインテリジェンス	2後		2		○					1				
		ネットワーク構成論	2後		2		○				1					
		画像メディア処理論	3①		2		○			1						
		ソフトウェア開発法	3前		2		○				1					
		応用アルゴリズム	3前		2		○			1						
		小計（192科目）	－	0	245	0	－			39	11	10	2	4	兼６	

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（先端理工学部　環境生態工学課程）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
諸課程科目	理科教育法Ａ	2 前			2	○								兼 1	
	理科教育法Ｂ	2 後			2	○								兼 1	
	理科教育法Ⅰ	3 前			2	○								兼 1	
	理科教育法Ⅱ	3 後			2	○								兼 1	
	教職論	2 前			2	○								兼 1	
	学校教育社会学	2 後			2	○								兼 1	
	教育社会学	2 前			2	○								兼 1	
	特別支援教育概論	2 前			2	○								兼 1	
	教育課程論	2 後			2	○			1						
	道徳教育指導法	3 後			2	○								兼 1	
	特別活動・総合的学習論	3 前			2	○								兼 1	
	教育の方法と技術（ＩＣＴ活用含む）	3 前			2	○			1						
	生徒・進路指導論	2 後			2	○								兼 1	
	教育相談	3 前			2	○								兼 1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	教育実習指導Ⅰ	4 前			1	○			1						
	教育実習指導ⅡＡ	4 通			4			○	1						
	教育実習指導ⅡＢ	4 通			2			○	1						
	教職実践演習（中・高）	4 後			2		○		1					兼 1	
	介護等体験	2 通			2			○	1						
	真宗学概論	2 通			4	○								兼 1	
	仏教学概論	2 通			4	○			1						
	真宗史	1 通			4	○								兼 1	
	（本山教師）仏教史	1 前			1	○								兼 2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	（本山教師）宗教概説	1 前			1	○								兼 1	
	勤式	1 通			4	○								兼 4	隔年／ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	宗門法規	1 前			2	○								兼 1	隔年／集中
	教化法	1 通			4	○								兼 4	隔年／ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	博物館概論	1 前			2	○								兼 1	
	博物館資料論	1 後			2	○				1				兼 3	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	博物館経営論	2 前			2	○								兼 1	
	博物館情報・メディア論	2 後			2	○				1					
	博物館資料保存論	2 後			2	○				1				兼 2	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	博物館展示論	2 後			2	○								兼 1	
	博物館教育論	1 前			2	○								兼 1	
	生涯学習概論	1 前			2	○								兼 1	
	博物館実習	3 通			3			○		2					
	小計（36科目）	－	0	0	82	－			2	3	0	0	0	兼 32	
合計（454科目）		－	49	579	82	－			49	19	13	2	10	兼 173	

学位又は称号	学士（工学）	学位又は学科の分野	工学関係（環境科学）

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
教養教育科目から28単位以上（必修12単位、選択必修4単位（教養科目の人文科学系・社会科学系科目より各2単位）を含む）、専門基礎科目から28単位以上（必修19単位、選択必修科目4単位を含む）、専門応用科目から54単位以上（必修18単位を含む）を修得し、合計124単位以上を修得すること。 （履修科目登録上限：1～2年次44単位（年間）、3～4年次48単位（年間））	１学年の学期区分	4期
	１学期の授業期間	8週
	１時限の授業時間	90分

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（理工学研究科　数理情報学専攻　修士課程）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
特論	数理情報学専攻科目	力学系特論	1後		2		○				1					
		非線形数学特論	1前		2		○			1						
		物性物理学特論	1前		2		○			1						
		理論物理学特論	1後		2		○				1					
		数値解析学特論	1前		2		○			1						
		数学解析特論	1前		2		○			1						
		自然言語処理特論	1前		2		○			1						
		アルゴリズム理論特論	1後		2		○			1						
		ソフトウェア理論特論	1後		2		○			1						
		数理モデル特論	1後		2		○			1						
		視覚認知計算特論	1前		2		○				1					
		数理科学特論	1後		2		○					1				
		数理情報学特論	1通		2		○								兼 2	集中・ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		現象数理科学特論	1前		2		○			1					兼 1	集中・ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		応用幾何特論	1後		2		○				1					
	他専攻科目	応用数学特論	1前		2		○								兼 1	
		光学特論	1前		2		○								兼 1	
		オートマトン理論特論	1前		2		○								兼 1	
		画像処理特論	1後		2		○								兼 1	
		パターン情報システム特論	1前		2		○								兼 1	
		電子物性特論	1後		2		○								兼 1	
		情報通信工学特論	1前		2		○								兼 1	
		知能情報特論	1前		2		○								兼 1	
		情報通信システム特論	1前		2		○								兼 1	
		生体システム特論	1後		2		○								兼 1	
		電子ディスプレイ特論	1前		2		○								兼 1	
		マイクロ波通信工学特論	1前		2		○								兼 1	
		電子情報数学特論	1後		2		○								兼 1	
		量子力学特論	1前		2		○								兼 1	
		電磁波計測特論	1前		2		○								兼 1	
		システム制御工学特論	1前		2		○								兼 1	
		知能システム特論	1前		2		○								兼 1	
		機械力学特論	1前		2		○								兼 1	
		熱流体工学特論	1前		2		○								兼 1	
		流体力学特論	1後		2		○								兼 1	
		計算生体力学特論	1後		2		○								兼 1	
		ＲＵＢｅＣ演習Ⅰ	1通		4			○							兼 4	集中・共同
		ＲＵＢｅＣ演習Ⅱ	2通			4		○							兼 4	集中・共同
		パターン情報特論	1前		2		○								兼 1	
		ソフトウェア開発特論	1前		2		○								兼 1	
		情報環境特論	1後		2		○								兼 1	
		知的情報処理特論	1前		2		○								兼 1	
		メディア処理特論	1前		2		○								兼 1	
		ソフトウェア科学特論	1後		2		○								兼 1	
		言語情報処理特論	1前		2		○								兼 1	
		メディア構成特論	1後		2		○								兼 1	
		音楽情報処理特論	1前		2		○								兼 1	
		ヒューマンインタフェース特論	1前		2		○								兼 1	
		音声・音響信号処理特論	1前		2		○								兼 1	
		環境システム解析学特論	1前		2		○								兼 1	
		理論生態学特論Ａ	1前		2		○								兼 1	
		理論生態学特論Ｂ	1前		2		○								兼 1	
	単位互換科目	明治大学大学院単位互換科目	1前		10		○									詳細は別途規定
		広島大学大学院単位互換科目	1前		10		○									詳細は別途規定
		奈良先端科学技術大学院大学単位互換科目	1前		10		○									詳細は別途規定
		小計(55科目)	－	0	134	4	－			8	3	1	0	0	兼 46	

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（理工学研究科　数理情報学専攻　修士課程）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	准教授	講師	助教	助手	備考
演習	数理情報学演習Ⅰ	1 通	4				○		8	3	1			
	数理情報学演習Ⅱ	2 通	4				○		8	3	1			
	小計（2科目）	－	8	0	0	－			8	3	1	0	0	
研特究別	数理情報学特別研究	1～2 通	8				○		8	3	1			集中
	小計（1科目）	－	8	0	0	－			8	3	1	0	0	
合計（58科目）		－	16	134	4	－			8	3	1	0	0	兼 46

学位又は称号	修士(理学)	学位又は学科の分野	理学関係

修了要件及び履修方法	授業期間等	
特論から16単位以上（他専攻科目は4科目8単位を上限とする）、演習8単位、特別研究8単位を修得し、合計32単位以上を修得すること。 （履修科目登録上限：なし）	1学年の学期区分	2学期
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業時間	90分

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（理工学研究科　電子情報学専攻　修士課程）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
特論	電子情報学専攻科目	応用数学特論	1 前		2		○			1						
		光学特論	1 前		2		○			1						
		オートマトン理論特論	1 前		2		○				1					
		画像処理特論	1 後		2		○					1				
		パターン情報システム特論	1 前		2		○			1						
		情報通信システム特論	1 前		2		○			1						
		生体システム特論	1 後		2		○			1						
		電子ディスプレイ特論	1 前		2		○			1						
		マイクロ波通信工学特論	1 前		2		○			1						
		電子物性特論	1 後		2		○			1						
		情報通信工学特論	1 前		2		○				1					
		知能情報特論	1 前		2		○			1						
		数値解析特論	1 前		2		○					1				
		量子力学特論	1 前		2		○			1						
		電磁波計測特論	1 前		2		○			1						
		電子情報数学特論	1 後		2		○					1				
		システム制御工学特論	1 前		2		○					1				
		人間情報処理特論	1 後		2		○				1					
		ナノ計測工学特論	1 後		2		○				1					
		科学技術英語特論・演習	1 前	2			○	※		2					兼 3	オムニバス ※演習
	他専攻科目	物性物理学特論	1 前		2		○								兼 1	
		数理モデル特論	1 後		2		○								兼 1	
		視覚認知計算特論	1 前		2		○								兼 1	
		数理科学特論	1 後		2		○								兼 1	
		ソフトウェア理論特論	1 後		2		○								兼 1	
		自然言語処理特論	1 前		2		○								兼 1	
		ロボット工学特論	1 前		2		○								兼 1	
		知能制御特論	1 後		2		○								兼 1	
		知能システム特論	1 前		2		○								兼 1	
		材料物性特論	1 後		2		○								兼 1	
		計算生体力学特論	1 後		2		○								兼 1	
		ＲＵＢｅＣ演習Ⅰ	1 通		4			○							兼 4	集中・共同
		ＲＵＢｅＣ演習Ⅱ	2 通			4		○							兼 4	集中・共同
		パターン情報特論	1 前		2		○								兼 1	
		情報環境特論	1 後		2		○								兼 1	
		知的情報処理特論	1 前		2		○								兼 1	
		音楽情報処理特論	1 前		2		○								兼 1	
		ヒューマンインタフェース特論	1 前		2		○								兼 1	
		音声・音響信号処理特論	1 前		2		○								兼 1	
	単位互換科目	明治大学大学院単位互換科目	1 前		10		○									詳細は別途規定
		広島大学大学院単位互換科目	1 前		10		○									詳細は別途規定
		奈良先端科学技術大学院大学単位互換科目	1 前		10		○									詳細は別途規定
		小計(42科目)	－	2	106	4	－			8	3	1	0	0	兼 28	
演習		電子情報学演習Ⅰ	1 通	4				○		7	3	1				
		電子情報学演習Ⅱ	2 通	4				○		7	3	1				
		小計（2科目）	－	8	0	0	－			7	3	1	0	0		
研特究別		電子情報学特別研究	1～2 通	8				○		7	3	1				集中
		小計（1科目）	－	8	0	0	－			7	3	1	0	0		
合計（45科目）			－	18	106	4	－			8	3	1	0	0	兼 28	

学位又は称号	修士(工学)	学位又は学科の分野	工学関係

修了要件及び履修方法	授業期間等	
特論から16単位以上（「科学技術英語特論・演習」2単位必修、他専攻科目は2科目4単位を上限とする）、演習8単位、特別研究8単位を修得し、合計32単位以上を修得すること。 （履修科目登録上限：なし）	1学年の学期区分	2学期
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業時間	90分

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（理工学研究科　機械システム工学専攻　修士課程）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
特論	機械システム工学専攻科目	材料強度・解析学特論	1 前		2		○			1						
		機械力学特論	1 前		2		○			1						
		計算生体力学特論	1 後		2		○			1						
		熱流体工学特論	1 前		2		○			1						
		エネルギー工学特論	1 後		2		○					1				
		流体力学特論	1 後		2		○			1						
		材料物性特論	1 後		2		○					1				
		材料・加工特論	1 前		2		○			1						
		ロボット工学特論	1 前		2		○			1						
		知能制御特論	1 後		2		○				1					
		知能システム特論	1 前		2		○			1						
		計測システム特論	1 後		2		○			1						
		精密加工学特論	1 後		2		○			1						
	他専攻科目	物性物理学特論	1 前		2		○								兼 1	
		応用数学特論	1 前		2										兼 1	
		電子物性特論	1 後		2		○								兼 1	
		無機機能材料化学特論	1 前		2		○								兼 1	
		材料物性測定学特論	1 前		2		○								兼 1	
		ＲＵＢｅＣ演習Ⅰ	1 通		4			○		1		1			兼 2	集中・共同
		ＲＵＢｅＣ演習Ⅱ	2 通			4		○		1		1			兼 2	集中・共同
		パターン情報特論	1 前		2		○								兼 1	
		音楽情報処理特論	1 前		2		○								兼 1	
		ヒューマンインタフェース特論	1 前		2		○								兼 1	
		音声・音響信号処理特論	1 前		2		○								兼 1	
		廃棄物工学特論	1 前		2		○								兼 1	
		水道工学特論	1 前		2		○								兼 1	
		水域水質管理学特論Ａ	1 前		2		○								兼 1	
		水域水質管理学特論Ｂ	1 前		2		○								兼 1	
	単位互換科目	明治大学大学院単位互換科目	1 前		10		○									詳細は別途規定
		広島大学大学院単位互換科目	1 前		10		○									詳細は別途規定
		奈良先端科学技術大学院大学単位互換科目	1 前		10		○									詳細は別途規定
		小計(31科目)	－	0	86	4	－			10	1	2	0	0	兼 17	
演習		機械システム工学演習Ⅰ	1 通	4				○		10	1	2				
		機械システム工学演習Ⅱ	2 通	4				○		10	1	2				
		小計（2科目）	－	8	0	0	－			10	1	2	0	0		
特別研究		機械システム工学特別研究	1～2 通	8				○		10	1	2				集中
		小計（1科目）	－	8	0	0	－			10	1	2	0	0		
合計（34科目）			－	16	86	4	－			10	1	2	0	0	兼 17	

学位又は称号	修士(工学)	学位又は学科の分野	工学関係

修了要件及び履修方法	授業期間等	
特論から16単位以上（他専攻科目は4科目8単位を上限とする）、演習8単位、特別研究8単位を修得し、合計32単位以上を修得すること。 （履修科目登録上限：なし）	1学年の学期区分	2学期
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業時間	90分

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（理工学研究科　物質化学専攻　修士課程）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
特論	物質化学専攻科目	共生学特論	1 前		2		○			2					兼 1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		分析科学特論	1 後		2		○			1						
		固体電子構造化学特論	1 後		2		○				1					
		生物化学特論	1 後		2		○			1						
		生物機能化学特論	1 後		2		○			1						
		材料物性測定学特論	1 前		2		○					1				
		固体化学特論	1 前		2		○			1						
		無機機能材料化学特論	1 前		2		○			1						
		有機合成化学特論	1 前		2		○			1						
		有機機能材料化学特論	1 後		2		○			1					兼 1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		高分子材料工学特論	1 後		2		○			1						
		高分子物理化学特論	1 前		2		○			1						
		電気化学特論	1 後		2		○					1				
		英語プレゼンテーション特論Ⅰ	1 前		2		○				1					
		英語プレゼンテーション特論Ⅱ	1 後		2		○				1					
		物質化学特論Ⅰ	1 通		2		○			2					兼 4	集中・ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		物質化学特論Ⅱ	1 通		2		○								兼 2	集中・ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		物質化学特論Ⅲ	1 通		2		○									集中
		物質化学特論Ⅳ	1 通		2		○									集中
		高度物質化学特論・演習	1 通		2		○	※		2						※演習
		高度物質化学実験・演習	1 通		2			※	○	3		1				※演習
		ＲＵＢｅＣ演習Ⅰ	1 通		4			○		1					兼 3	集中・共同
		ＲＵＢｅＣ演習Ⅱ	2 通			4		○		1					兼 3	集中・共同
	他専攻科目	材料強度・解析学特論	1 前		2		○								兼 1	
		材料物性特論	1 後		2		○								兼 1	
		計測システム特論	1 後		2		○								兼 1	
		廃棄物工学特論	1 前		2		○								兼 1	
		水道工学特論	1 前		2		○								兼 1	
		下水道工学特論	1 前		2		○								兼 1	
		水域水質管理学特論Ａ	1 前		2		○								兼 1	
		水域水質管理学特論Ｂ	1 前		2		○								兼 1	
		環境システム解析学特論	1 前		2		○								兼 1	
		水処理工学特論	1 前		2		○								兼 1	
		環境微生物工学特論	1 後		2		○								兼 1	
		地域循環資源処理工学特論	1 前		2		○								兼 1	
		生物圏資源循環工学特論	1 前		2		○								兼 1	
	単位互換科目	明治大学大学院単位互換科目	1 前		10		○									詳細は別途規定
		広島大学大学院単位互換科目	1 前		10		○									詳細は別途規定
		奈良先端科学技術大学院大学単位互換科目	1 前		10		○									詳細は別途規定
		小計(39科目)	－	0	102	4	－			9	2	2	0	0	兼 27	
演習		物質化学演習Ⅰ	1 通	4				○		9	1	2				
		物質化学演習Ⅱ	2 通	4				○		9	1	2				
		小計（2科目）	－	8	0	0	－			9	1	2	0	0		
研特究別		物質化学特別研究	1～2 通	8				○		9	1	2				集中
		小計（1科目）	－	8	0	0	－			9	1	2	0	0		
合計（42科目）			－	16	102	4	－			9	2	2	0	0	兼 27	

学位又は称号	修士(工学)	学位又は学科の分野	工学関係

修了要件及び履修方法	授業期間等	
特論から16単位以上（他専攻科目は2科目4単位を上限とする）、演習8単位、特別研究8単位を修得し、合計32単位以上を修得すること。 （履修科目登録上限：なし）	1学年の学期区分	2学期
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業時間	90分

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（理工学研究科　情報メディア学専攻　修士課程）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
特論	情報メディア学専攻科目	パターン情報特論	1 前		2		○			1						
		ソフトウェア開発特論	1 前		2		○				1					
		情報環境特論	1 後		2		○			1						
		情報システム特論	1 後		2		○			1						
		知的情報処理特論	1 前		2		○			1						
		メディア処理特論	1 前		2		○			1						
		ソフトウェア科学特論	1 後		2		○			1						
		言語情報処理特論	1 前		2		○				1					
		メディア構成特論	1 後		2		○					1				
		ヒューマンインタフェース特論	1 前		2		○					1				
		推薦システム特論	1 後		2		○					1				
		コンピュータグラフィックス特論	1 後		2		○				1					
		音声・音響信号処理特論	1 前		2		○			1						
	他専攻科目	自然言語処理特論	1 前		2		○								兼 1	
		ソフトウェア理論特論	1 後		2		○								兼 1	
		オートマトン理論特論	1 前		2		○								兼 1	
		情報通信システム特論	1 前		2		○								兼 1	
		電子ディスプレイ特論	1 前		2		○								兼 1	
		知能システム特論	1 前		2		○								兼 1	
		ＲＵＢｅＣ演習Ⅰ	1 通		4			○			1				兼 3	集中・共同
		ＲＵＢｅＣ演習Ⅱ	2 通			4		○			1				兼 3	集中・共同
	単位互換科目	明治大学大学院単位互換科目	1 前		10		○									詳細は別途規定
		広島大学大学院単位互換科目	1 前		10		○									詳細は別途規定
		奈良先端科学技術大学院大学単位互換科目	1 前		10		○									詳細は別途規定
		小計(24科目)	－	0	72	4	－			6	3	2	0	0	兼 12	
演習		情報メディア学演習Ⅰ	1 通	4				○		6	3	2				
		情報メディア学演習Ⅱ	2 通	4				○		6	3	2				
		小計（2科目）	－	8	0	0	－			6	3	2	0	0		
研特究別		情報メディア学特別研究	1～2 通	8				○		6	3	2				集中
		小計（1科目）	－	8	0	0	－			6	3	2	0	0		
合計（27科目）			－	16	72	4	－			6	3	2	0	0	兼 12	

学位又は称号	修士(工学)	学位又は学科の分野	工学関係

修了要件及び履修方法	授業期間等	
特論から16単位以上（他専攻科目は4科目8単位を上限とする）、演習8単位、特別研究8単位を修得し、合計32単位以上を修得すること。 （履修科目登録上限：なし）	1学年の学期区分	2学期
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業時間	90分

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（理工学研究科　環境ソリューション工学専攻　修士課程）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
特論	環境ソリューション工学専攻科目	水道工学特論	1 前		2		○					1				隔年
		下水道工学特論	1 前		2		○					1				隔年
		植物生理生態学特論	1 後		2		○			1						
		環境技術英語特論	1 前		2		○			1						
		生産生態学特論	1 後		2		○			1						
		環境生態学特論Ａ	1 前		2		○				1					隔年
		環境生態学特論Ｂ	1 前		2		○				1					隔年
		環境システム解析学特論	1 前		2		○			1						隔年
		水処理工学特論	1 前		2		○			1						隔年
		環境微生物工学特論	1 後		2		○				1					
		資源エネルギー循環特論	1 後		2		○			1						隔年
		廃棄物処理工学特論	1 後		2		○			1						隔年
		燃焼工学特論	1 前		2		○					1				
		大気環境工学特論	1 前		2		○				1					
		理論生態学特論Ａ	1 前		2		○			1						隔年
		理論生態学特論Ｂ	1 前		2		○			1						隔年
		保全生物学特論	1 後		2		○				1					隔年
		多様性生物学特論	1 後		2		○				1					隔年
		動物生態学特論Ｂ	1 後		2		○			1						隔年
		動物生態学特論Ａ	1 後		2		○			1						隔年
		資源利活用特論	1 前		2		○			1						
		環境ソリューション工学特論Ⅰ	1 通		2		○					1			兼 1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
		環境ソリューション工学特論Ⅱ	1 通		2		○			1	1				兼 1	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	他専攻科目	非線形数学特論	1 前		2		○								兼 1	
		数理モデル特論	1 後		2		○								兼 1	
		応用数学特論	1 前		2		○								兼 1	
		エネルギー工学特論	1 後		2		○								兼 1	
		流体力学特論	1 後		2		○								兼 1	
		無機機能材料化学特論	1 前		2		○								兼 1	
		生物化学特論	1 後		2		○								兼 1	
		分析科学特論	1 後		2		○								兼 1	
		電気化学特論	1 後		2		○								兼 1	
		ＲＵＢｅＣ演習Ⅰ	1 通		4			○							兼 4	集中・共同
		ＲＵＢｅＣ演習Ⅱ	2 通			4		○							兼 4	集中・共同
	単位互換科目	明治大学大学院単位互換科目	1 前		10		○									詳細は別途規定
		広島大学大学院単位互換科目	1 前		10		○									詳細は別途規定
		奈良先端科学技術大学院大学単位互換科目	1 前		10		○									詳細は別途規定
		小計(37科目)	－	0	98	4	－			6	4	2	0	0	兼 19	
演習		環境ソリューション工学演習Ⅰ	1 通	4				○		6	5	3				
		環境ソリューション工学演習Ⅱ	2 通	4				○		6	5	3				
		小計（2科目）	－	8	0	0	－			6	5	3	0	0		
研特究別		環境ソリューション工学特別研究	1～2 通	8				○		6	5	3				集中
		小計（1科目）	－	8	0	0	－			6	5	3	0	0		
合計（40科目）			－	16	98	4	－			6	5	3	0	0	兼 19	

学位又は称号	修士(工学)	学位又は学科の分野	工学関係

修了要件及び履修方法	授業期間等	
特論から16単位以上（他専攻科目は4科目8単位を上限とする）、演習8単位、特別研究8単位を修得し、合計32単位以上を修得すること。 （履修科目登録上限：なし）	1学年の学期区分	2学期
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業時間	90分

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（理工学研究科　数理情報学専攻　博士後期課程）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
特別講義	数理解析特別講義Ⅰ	1 前		2		○			2						
	数理解析特別講義Ⅱ	1 前		2		○				1					
	応用数理特別講義Ⅰ	1 前		2		○			1	1					
	応用数理特別講義Ⅱ	1 前		2		○			2						
	情報科学特別講義Ⅰ	1 前		2		○			1	1					
	情報科学特別講義Ⅱ	1 前		2		○			2						
	高度専門研究特別講義	1 前		2		○			8	3					
	理工学概論特別講義A	1 前		2		○			8	3					
	理工学概論特別講義B	1 前		2		○			8	3					
	小計（9科目）	－	0	18	0	－			8	3	0	0	0		
特別研究	数理解析特別研究	1～3 通	12				○		2	1					集中
	応用数理特別研究	1～3 通	12				○		3	1					集中
	情報科学特別研究	1～3 通	12				○		3	1					集中
	小計（3科目）	－	36	0	0	－			8	3	0	0	0		
合計（12科目）		－	36	18	0	－			8	3	0	0	0	兼 0	

学位又は称号	博士(理学)	学位又は学科の分野	理学関係

修了要件及び履修方法	授業期間等	
指導教員の指導により専攻する分野の「特別研究」12単位を修得し、博士論文を提出してその審査及び最終試験に合格すること。 なお、在学期間を短縮し修了する場合には、これらに加えて、「高度専門研究特別講義」2単位を必修とする。 （履修科目登録上限：なし）	１学年の学期区分	2学期
	１学期の授業期間	15週
	１時限の授業時間	90分

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（理工学研究科　電子情報学専攻　博士後期課程）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
特別講義	電子情報基礎特別講義Ⅰ	1 前		2		○			2						
	電子情報基礎特別講義Ⅱ	1 前		2		○			1	1					
	情報処理機構特別講義Ⅰ	1 前		2		○			1						
	情報処理機構特別講義Ⅱ	1 前		2		○			1	1					
	情報システム特別講義Ⅰ	1 前		2		○			1						
	情報システム特別講義Ⅱ	1 前		2		○			1	1					
	高度専門研究特別講義	1 前		2		○			7	3					
	理工学概論特別講義A	1 前		2		○			7	3					
	理工学概論特別講義B	1 前		2		○			7	3					
	小計（9科目）	－	0	18	0	－			7	3	0	0	0		
特別研究	電子情報基礎特別研究	1～3 通	12				○		3	1					集中
	情報処理機構特別研究	1～3 通	12				○		2	1					集中
	情報科学特別研究	1～3 通	12				○		2	1					集中
	小計（3科目）	－	36	0	0	－			7	3	0	0	0		
合計（12科目）		－	36	18	0	－			7	3	0	0	0	兼 0	

学位又は称号	博士(工学)	学位又は学科の分野	工学関係

修了要件及び履修方法	授業期間等	
指導教員の指導により専攻する分野の「特別研究」12単位を修得し、博士論文を提出してその審査及び最終試験に合格すること。 なお、在学期間を短縮し修了する場合には、これらに加えて、「高度専門研究特別講義」2単位を必修とする。 （履修科目登録上限：なし）	１学年の学期区分	2学期
	１学期の授業期間	15週
	１時限の授業時間	90分

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（理工学研究科　機械システム工学専攻　博士後期課程）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
特別講義	力学特別講義Ⅰ	1 前		2		○			2						
	力学特別講義Ⅱ	1 前		2		○			2						
	エネルギー特別講義Ⅰ	1 前		2		○			1						
	エネルギー特別講義Ⅱ	1 前		2		○			1						
	システム特別講義Ⅰ	1 前		2		○			2						
	システム特別講義Ⅱ	1 前		2		○			2	1					
	高度専門研究特別講義	1 前		2		○			10	1					
	理工学概論特別講義A	1 前		2		○			10	1					
	理工学概論特別講義B	1 前		2		○			10	1					
	小計（9科目）	－	0	18	0	－			10	1	0	0	0		
特別研究	力学特別研究	1～3 通	12				○		4						集中
	エネルギー特別研究	1～3 通	12				○		2						集中
	システム特別研究	1～3 通	12				○		4	1					集中
	小計（3科目）	－	36	0	0	－			10	1	0	0	0		
合計（12科目）		－	36	18	0	－			10	1	0	0	0	兼 0	

学位又は称号	博士(工学)	学位又は学科の分野	工学関係

修了要件及び履修方法	授業期間等	
指導教員の指導により専攻する分野の「特別研究」12単位を修得し、博士論文を提出してその審査及び最終試験に合格すること。 なお、在学期間を短縮し修了する場合には、これらに加えて、「高度専門研究特別講義」2単位を必修とする。 （履修科目登録上限：なし）	１学年の学期区分	2学期
	１学期の授業期間	15週
	１時限の授業時間	90分

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（理工学研究科　物質化学専攻　博士後期課程）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
特別講義	物質評価法特別講義Ⅰ	1 前		2		○			1						
	物質評価法特別講義Ⅱ	1 前		2		○			1						
	無機材料特別講義Ⅰ	1 前		2		○				1					
	無機材料特別講義Ⅱ	1 前		2		○			2						
	有機・高分子材料特別講義Ⅰ	1 前		2		○			2						
	有機・高分子材料特別講義Ⅱ	1 前		2		○			3						
	高度専門研究特別講義	1 前		2		○			9	1					
	RUBeC高度特別講義・演習Ⅰ	1 通		4			○		1					兼 3	集中・共同
	RUBeC高度特別講義・演習Ⅱ	2 通			4		○		1					兼 3	集中・共同
	理工学概論特別講義A	1 前		2		○			9	1					
	理工学概論特別講義B	1 前		2		○			9	1					
	小計（11科目）	－	0	22	4	－			9	1	0	0	0	兼 3	
特別研究	物質評価法特別研究	1～3 通	12				○		2						集中
	無機材料特別研究	1～3 通	12				○		2	1					集中
	有機・高分子材料特別研究	1～3 通	12				○		5						集中
	小計（3科目）	－	36	0	0	－			9	1	0	0	0		
合計（14科目）		－	36	22	4	－			9	1	0	0	0	兼 3	

学位又は称号	博士(工学)	学位又は学科の分野	工学関係

修了要件及び履修方法	授業期間等	
指導教員の指導により専攻する分野の「特別研究」12単位を修得し、博士論文を提出してその審査及び最終試験に合格すること。 なお、在学期間を短縮し修了する場合には、これらに加えて、「高度専門研究特別講義」2単位を必修とする。 （履修科目登録上限：なし）	１学年の学期区分	2学期
	１学期の授業期間	15週
	１時限の授業時間	90分

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（理工学研究科　情報メディア学専攻　博士後期課程）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
特別講義	ソフトウェア科学特別講義Ⅰ	1 前		2		○			1	1					
	ソフトウェア科学特別講義Ⅱ	1 前		2		○			1	1					
	メディア工学特別講義Ⅰ	1 前		2		○			1						
	メディア工学特別講義Ⅱ	1 前		2		○			1	1					
	情報システム特別講義Ⅰ	1 前		2		○			1						
	情報システム特別講義Ⅱ	1 前		2		○			2						
	高度専門研究特別講義	1 前		2		○			6	3					
	理工学概論特別講義A	1 前		2		○			6	3					
	理工学概論特別講義B	1 前		2		○			6	3					
	小計（9科目）	－	0	18	0	－			6	3	0	0	0		
特別研究	ソフトウェア科学特別研究	1～3 通	12				○		2	2					集中
	メディア工学特別研究	1～3 通	12				○		1	1					集中
	情報システム特別研究	1～3 通	12				○		3						集中
	小計（3科目）	－	36	0	0	－			6	3	0	0	0		
合計（12科目）		－	36	18	0	－			6	3	0	0	0	兼 0	

学位又は称号	博士(工学)	学位又は学科の分野	工学関係

修了要件及び履修方法	授業期間等	
指導教員の指導により専攻する分野の「特別研究」12単位を修得し、博士論文を提出してその審査及び最終試験に合格すること。 なお、在学期間を短縮し修了する場合には、これらに加えて、「高度専門研究特別講義」2単位を必修とする。 （履修科目登録上限：なし）	１学年の学期区分	2学期
	１学期の授業期間	15週
	１時限の授業時間	90分

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本工業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（理工学研究科　環境ソリューション工学専攻　博士後期課程）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
特別講義	エコロジー工学特別講義Ⅰ	1 前		2		○			3	2					
	エコロジー工学特別講義Ⅱ	1 前		2		○			3	2					
	生態学特別講義Ⅰ	1 前		2		○			3	3					
	生態学特別講義Ⅱ	1 前		2		○			3	3					
	高度専門研究特別講義	1 前		2		○			6	5					
	理工学概論特別講義A	1 前		2		○			6	5					
	理工学概論特別講義B	1 前		2		○			6	5					
	小計（7科目）	－	0	14	0	－			6	5	0	0	0		
特別研究	エコロジー工学特別研究	1～3 通	12				○		3	2					集中
	生態学特別研究	1～3 通	12				○		3	3					集中
	小計（2科目）	－	24	0	0	－			6	5	0	0	0		
合計（9科目）		－	24	14	0	－			6	5	0	0	0	兼 0	

学位又は称号	博士(工学)	学位又は学科の分野	工学関係

修了要件及び履修方法	授業期間等	
指導教員の指導により専攻する分野の「特別研究」12単位を修得し、博士論文を提出してその審査及び最終試験に合格すること。 なお、在学期間を短縮し修了する場合には、これらに加えて、「高度専門研究特別講義」2単位を必修とする。 （履修科目登録上限：なし）	１学年の学期区分	2学期
	１学期の授業期間	15週
	１時限の授業時間	90分

別記様式第2号（その3の1）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（先端理工学研究科　先端理工学専攻　修士課程）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院教養科目	先端理工学基礎演習Ⅰ	修士課程1年生対象の科目である。所属する研究室の各指導教員によるきめ細かい指導の下で、研究テーマに関する調査、専門的な検討等を通じ、修士課程にふさわしい学問的かつ技術的に高度な専門分野の知識を身につけるとともに、高度専門職人材または研究者として社会で活躍するための基礎となる研究実践力、研究倫理、プレゼンテーションの能力が身につくよう指導する。	
	先端理工学基礎演習Ⅱ	先端理工学基礎演習Ⅰに引き続いて行われる。所属する研究室の各指導教員によるきめ細かい指導の下で、研究テーマに関するより高度で広範な調査、専門的な検討等を通じ、修士課程にふさわしい学問的かつ技術的に高度な専門分野の知識を身につけるとともに、高度専門職人材または研究者として社会で活躍するための基礎となる研究実践力、研究倫理、プレゼンテーションの能力が身につくよう指導する。	
	英語プレゼンテーションⅠ	This class will give science and engineering students the opportunity to strengthen their presentation skills that could be useful in symposiums and collaborative projects in which participants will be required to describe their field of research. To deliver effective presentations, students will learn how to convey their focal point of their research topic. Particular emphasis will be placed on useful expressions, pronunciation and audience interaction. Whether one is speaking of science or humanities, English is an invaluable tool for conducting research with scholars from various countries. The instructor will give students a solid foundation that will help them develop their presentation skills. The order of lectures may change. （和訳） 本講義は、理工系の学生が、シンポジウムや共同プロジェクトなど、自分の研究分野を説明する際に役立つプレゼンテーション能力を強化することを目的としている。授業においては、自分の研究テーマがどのようなものであるか、どのように伝えれば効果的であるかを学ぶ。特に、有用な表現、発音、聴衆との対話に重点を置く。理系であれ文系であれ、英語は様々な国の研究者と研究を進める上で非常に重要なツールである。本講義では、受講生がプレゼンテーション能力を向上させるための確固たる基礎を提供する。	
	英語プレゼンテーションⅡ	Continuing from "English presentation I",this class will give science and engineering students the opportunity to strengthen their presentation skills that could be useful in symposiums and collaborative projects in which participants will be required to describe their field of research. To deliver effective presentations, students will learn how to convey their focal point of their research topic. Particular emphasis will be placed on useful expressions, pronunciation and audience interaction. Whether one is speaking of science or humanities, English is an invaluable tool for conducting research with scholars from various countries. The instructor will give students a solid foundation that will help them develop their presentation skills. The order of lectures may change. （和訳） 「英語プレゼンテーションⅠ」に引き続き、理工系の学生を対象に、シンポジウムや共同プロジェクトなど、自分の研究分野を説明する際に役立つプレゼンテーション能力の強化を図る。本講義では、自分の研究テーマがどのようなものであるのか、どのように伝えればよいのかを学ぶ。特に、有用な表現、発音、聴衆との対話に重点を置く。理系であれ文系であれ、英語は様々な国の研究者と研究を進める上で非常に重要なツールである。本講義では、受講生がプレゼンテーション能力を向上させるための確固たる基礎を提供する。	
	科学哲学・科学史	「科学哲学は鳥類学が鳥にとって役に立つ程度しか科学者にとって役に立たない」とはリチャード・ファインマンの言葉とされているが、「科学」がいかにして可能かという問いには意味が有る。この講義では「人物でたどる科学史（数学史）」を概観し、「科学」という行為は、数学の公理・公準から演繹的に展開するという構造を元に考えられたこと、公理・公準に相当するものが「法則」という前提から、「法則」を「真理」とするには限界があり、大きな修正は「科学革命」とも言われる「パラダイムシフト」を通して行われることを、歴史的事例を用いて説明する。講義形式は対面あるいはオンデマンドで行い、評価はレポートにて行う。学習到達目標としては、科学史の知識、イデアの理解、帰納法、演繹法の正しい理解、ヒュームの因果律と枚挙的帰納法への批判への理解、ポパーの反証主義の理解、クーンのパラダイム論の理解が挙げられる。	

別記様式第2号（その3の1）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（先端理工学研究科　先端理工学専攻　修士課程）

大学院教養科目		RUBeC演習	アメリカ・バークレーにある本学北米拠点RUBeCで実施する科目で、英語によるテクニカルライティングとプレゼンテーションの学習、ならびにバークレー近郊の企業視察を行う。テクニカルライティングでは、自身の研究内容を英語でまとめ、学術誌等へ投稿できる内容に仕上げるための指導を行う。英語プレゼンテーションでは、国際会議等で発表できるようにパワーポイント等のプレゼンテーション用資料の作成や、英語の発音を含むプレゼンテーションの技術を指導する。以上の語学に関する部分はネイティブスピーカーによる指導に加え、科学技術に関する部分は先端理工学研究科教員が現地に赴き指導する。また、企業視察については、RUBeCの立地条件を活かし、シリコンバレーを中心とするベイエリアの企業・公的機関等を訪問し、企業でのプロジェクトの企画、運営方法について、具体的な開発実績を例にしたケーススタディーを学習する。 （6　大津　広敬） 国際会議における口頭発表を目的として、学生の研究テーマに基づいて英語プレゼンテーション資料および発表文章を作成し、実際にプレゼンテーションを行うための手法などについて講義する。 （13　河内　岳大） 国際会議の投稿論文作成を目的として、学生の研究テーマに基づいて英語アブストラクトを作成し、その英文を校正するための方法などの講義を行う。 （52　曽我　麻佐子） 国際会議の投稿論文作成を目的とした、英語アブストラクト作成のための、基本的な英文構成方法などについて講義する。 （70　野口　佳樹） 国際会議における口頭発表を目的とした、英語によるプレゼンテーション資料作成のための、基本的な英文構成方法および発表資料の作成方法について講義する。	共同
特論	数理・情報科学コース科目	先端理工学研究（数理・情報科学コース）	（概要） 数理・情報科学分野における世界最先端の研究内容についてのリレー講義である。様々な最先端の研究の成果に触れることで、幅広い知識と素養を涵養する。また、いかに発想が生まれ、研究が遂行され、成果に結びついたのか、研究の一連の流れを学ぶことで、自身の研究の位置付けを確認し、研究の実践に役立つ研究指針を得る。 （オムニバス方式／全8回） （2　飯田　晋司/0.5回） 物性理論に関する先端的な研究紹介を行う。 （11　角川　裕次/0.5回） アルゴリズム論に関する先端的な研究紹介を行う。 （14　川上　竜樹/1回） 非線形偏微分方程式に関する先端的な研究紹介を行う。 （32　中野　浩/0.5回） プログラミング言語理論に関する先端的な研究紹介を行う。 （34　深尾　武史/0.5回） 発展方程式に関する先端的な研究紹介を行う。 （37　馬　青/1回） 自然言語処理に関する先端的な研究紹介を行う。 （38　松木平　淳太/0.5回） 離散数理モデルに関する先端的な研究紹介を行う。 （44　村川　秀樹/0.5回） 数値解析学に関する先端的な研究紹介を行う。 （53　高橋　隆史/1回） 機械学習およびパターン認識に関する先端的な研究紹介を行う。 （55　樋口　三郎/1回） 統計モデリングに関する先端的な研究紹介を行う。 （58　山岸　義和/0.5回） 応用幾何に関する先端的な研究紹介を行う。 （67　阪井　一繁/0.5回） 数理科学に関する先端的な研究紹介を行う。	オムニバス方式

別記様式第2号（その3の1）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（先端理工学研究科　先端理工学専攻　修士課程）

特論	数理・情報科学コース科目	計算科学特論Ⅰ	機械学習におけるベイズ推論、その背景にあるベイズ統計学と階層ベイズモデルを説明する。現象に即した階層ベイズモデルを構築し、計算機上でライブラリを使用して母数のベイズ推定を行い、その結果が評価できることを目標とする。フィッシャー流統計学を仮定せずにベイズ統計学を展開し、事前事後分布、共役分布、信用区間などの概念を導入し、機械学習の立場から見直した後、一般化線形モデル、混合モデル、階層ベイズモデルを説明する。	
		計算科学特論Ⅱ	ベイズ統計学や統計力学で期待値の推定に利用される計算手法であるマルコフ連鎖モンテカルロ法の原理を説明する。計算機上でマルコフ連鎖モンテカルロ法のライブラリを正しく使用し、出力を分析して正しく解釈できるようにすることを目標とする。確率過程、マルコフ連鎖、定常分布などの概念から出発し、実際の解析を例に説明する。ギブズサンプリング、レプリカ交換モンテカルロ法などにも触れる。	
		機械学習特論Ⅰ	機械学習の基礎と応用に関する講義を行う。一部の時間はプログラミングをともなう実習の形態として、単に知識を身につけるだけでなく、実際の機械学習の問題を解く過程を経験し、より深く理解することを目標とする。回帰や識別のための基礎的な学習アルゴリズムについて、学部の機械学習関連科目で学んだものより踏み込んだ内容を説明することから始め、ニューラルネットワーク・深層学習の基礎について学ぶ。また、畳み込みニューラルネットワークについて、特に画像認識等への応用を中心に触れる。	
		機械学習特論Ⅱ	「機械学習特論Ⅰ」に引き続き、機械学習の基礎と応用に関する講義を行う。一部の時間はプログラミングをともなう実習の形態として、単に知識を身につけるだけでなく、実際の機械学習の問題を解く過程を経験し、より深く理解することを目標とする。統計的パターン認識の基礎として多変量正規分布の最尤推定について説明することから始め、ニューラルネットワーク・深層学習を含む様々な学習手法・アルゴリズムについて学ぶ。近年の発展が著しい、深層生成モデルや Transformer についても触れる。	
		自然言語処理特論Ⅰ	自然言語処理は情報処理の基幹技術であり、高度化した情報社会を快適なものにするには極めて重要な役割を果たす。本講義では、まず、自然言語処理の要素技術である形態素解析についてそれぞれルールベース、確率言語モデル、機械学習に基づくアプローチを解説する。次に同じ要素技術である構文解析・係り受け解析・並列構造解析について、CYK法やチャート法、さらに機械学習手法を詳述する。最後に、自然言語処理の応用例として、情報検索（全文検索・内容型検索）の技術とシステム開発とその評価について紹介する。	
		自然言語処理特論Ⅱ	自然言語処理は情報処理の基幹技術であり、高度化した情報社会を快適なものにするには極めて重要な役割を果たす。本講義では、自然言語処理特論Ⅰに引き続き、まず、当分野の主要アプローチとなっている機械学習と機械学習に基づく自然言語処理を概説する。次に機械学習のサポートベクターマシン、深層学習ブームの火付け役であったニューラルネットRBM、DBN、SdA、さらには高性能で汎用的な言語モデルとなったTransformer、BERTについて詳述する。最後に具体的な自然言語処理課題を用いてそれらの機械学習の適用方法について紹介する。	
		数学解析特論Ⅰ	この講義では関数解析の基礎を解説する。具体的には、線型空間の復習から始め、ノルム空間について例を交えながら紹介し、バナッハ空間について解説する。この講義を通して、有限次元空間と無限次元空間の違いを認識できる様になるとともに、バナッハ空間の典型例である数列空間及びp乗可積分空間についての理解を深めることを目的とする。なお、講義は基本的に座学で行い、適宜演習問題を課すことで理解を促す。	
		数学解析特論Ⅱ	この講義では、数学解析特論Ⅰに引き続き、関数解析の基礎を解説する。具体的には、ヒルベルト空間の導入、線形作用素、及び関数解析の3大定理（一様有界性原理、閉グラフ定理、ハーン・バナッハの定理）を中心に最終的にはリースの表現定理の理解を目指す。また、有限次元空間における行列の固有値に相当するスペクトルとレゾルベントについても可能な範囲で解説する。なお、講義は基本的に座学で行い、適宜演習問題を課すことで理解を促す。	
		アルゴリズム理論特論Ⅰ	各種の組み合わせ問題に対する離散アルゴリズムを中心に解説する。特に、厳密解法である動的計画法、近似比の理論的保障のある近似アルゴリズム、ヒューリスティック手法である局所探索法やシミュレーティッドアニーリングなどの組み合わせ最適化手法のほか、ゼロサプレス型二部決定グラフなど、アルゴリズム実装の基盤となるデータ構造について紹介する。特定のプログラミング言語は想定せず、アルゴリズムの設計法や、問題の複雑さを計算量の観点から議論する。講義は座学で行う。	

別記様式第2号（その3の1）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（先端理工学研究科　先端理工学専攻　修士課程）

特論	数理・情報科学コース科目	アルゴリズム理論特論Ⅱ	コンピュータネットワークに接続されたコンピューター群が相互に連携しあって動作するアルゴリズムである分散アルゴリズムを解説する。特に、計算モデル、リーダー選択、分散相互排除、スナップショット、自己安定など、分散システム構築のための理論、ならびにソフトウエア設計技法の基礎となる各種話題を、アルゴリズムの詳細とともに解説する。特定のプログラミング言語や環境は想定せず、理論的な計算モデルの上でアルゴリズムを検討し、その性能をメッセージ複雑度の観点で議論する。特に、非同期メッセージパッシングモデルを想定したアルゴリズムを紹介する。講義は座学で行う。	
		反応拡散系特論Ⅰ	各回60分程度の講義と30分程度の演習から成る。この講義では、反応と拡散を主要因とする様々な現象を数理モデリングの観点から学ぶ。反応拡散系特論Ⅰでは、特に、生態系の問題を扱う。生物の拡散や生物の増殖についての数学的な記述について学び、外来種の侵入や伝播、複数生物種の競争や協調、捕食、被食等について、数理モデル（偏微分方程式）を導出する。これらの数理モデルに対する数値計算を行うことにより、解の振る舞いを体感し、実際の現象と比較することで偏微分方程式への理解を深める。微分方程式の意味を理解することができるようになること、反応と拡散を主要因とする現象に対して数理モデリングができるようになること、偏微分方程式に対する数値計算ができるようになることを目標とする。	
		反応拡散系特論Ⅱ	各回60分程度の講義と30分程度の演習から成る。この講義では、反応と拡散を主要因とする様々な現象を数理モデリングの観点から学ぶ。反応拡散系特論Ⅱでは、毎回異なる現象を扱う。拡散を伴う化学物質の反応、神経線維上を伝わる電気信号の伝播、動物の表皮模様の形成、結晶成長、移流を伴う拡散現象、走化性を示す生物種のパターン形成、流体の挙動など、様々な問題である。これらの現象について、数理モデル（偏微分方程式）を導出し、数値計算を行うことにより、解の振る舞いを体感して、実際の現象と比較することで偏微分方程式への理解を深める。 微分方程式の意味を理解することができるようになること、反応と拡散を主要因とする現象に対して数理モデリングができるようになること、偏微分方程式に対する数値計算ができるようになることを目標とする。	
		ソフトウェア理論特論Ⅰ	プログラミング言語における型は、プログラムやデータの大雑把な仕様と考えることができ、プログラムのより効率的な実行、プログラムが一定の条件を満たすことの保証、プログラムの意図の明確化などの役割を持っており、特に大規模なソフトウェア開発ではなくてはならないものとなっている。この科目では、Java を例として、オブジェクト指向プログラミングにおける型システムの基本的な仕組みと、その型システムがプログラミング言語の仕様にどのように関わってくるのかについて解説する。	
		ソフトウェア理論特論Ⅱ	ソフトウェア理論特論Ⅰに引き続き、Java を例として、オブジェクト指向プログラミングにおける型システムの詳細について解説する。主な話題は、値の型と式の型の違い、静的型チェックと動的型チェック、参照型におけるサブタイプ関係とオブジェクトの代用可能性との関わり、クラスの継承で生じるサブタイプ関係、配列におけるサブタイプ関係、インスタンスメソッドのオーバーライドにかかわる制限とサブタイプ関係の関わり、抽象クラスやインタフェースの意義、総称型の機能と実現方法、例外処理における型の取り扱いなどである。	
		応用幾何特論Ⅰ	格子にまつわるさまざまな数学を紹介する。格子とは、足し算を可能とする最も簡単な代数系の一つであるが、空間や平面における対称性を表す群構造の一つと見なすこともできる。まず準備として Farey 数列、連分数について紹介し、複素平面内の格子や整数格子の基底について説明する。また、一次分数変換、立体射影について紹介し、SL(2、C) などの群構造とリーマン球面の幾何構造との結びつきを説明する。代数的な言葉による説明と、幾何的な空間理解を結びつけて考えられるようになることが目標である。授業は板書を用いた講義を基本とするが、毎回演習課題に取り組むことで理解を深める。	
		応用幾何特論Ⅱ	格子にまつわるさまざまな数学を紹介する。格子とは、足し算を可能とする最も簡単な代数系の一つであるが、空間や平面における対称性を表す群構造の一つと見なすこともできる。複素平面内の格子全体のパラメータ空間に着目することで、双曲平面の幾何構造やモジュラー群の群構造が自然に得られることを説明する。また、ガウスの整数環のイデアルが格子であることを視覚的に理解し、約数倍数の関係が幾何学的に捉えられることを理解する。代数的な言葉による説明と、幾何的な空間理解を結びつけて考えられるようになることが目標である。授業は板書を用いた講義を基本とするが、毎回演習課題に取り組むことで理解を深める。	

別記様式第2号（その3の1）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（先端理工学研究科　先端理工学専攻　修士課程）

特論	数理・情報科学コース科目	数理モデル特論Ⅰ	無限自由度を持つ互いに相互作用する系において、あるパラメータの特定の値を境に、その系の振舞いが質的に変化することがある。そのような変化は相転移と呼ばれ、系の詳細に依らない普遍性を示す。本講義では物理現象における相転移を記述する数理モデルについて解説する。特に相転移点におけるさまざまな物理量が厳密に計算可能な磁性体のモデルであるイジング模型を扱う。この授業に必要な最低限の知識は微積分、線形代数、複素関数論であり、必要とされるより高度な知識については講義中に説明する。	
		数理モデル特論Ⅱ	相転移が起こる数理モデルについて解説する。磁性体のモデルであるイジング模型だけでなく、交通流のモデルであるバーガースセルオートマトンも例として取り上げる。交通流における密度と流量の関係を表す基本図を導入することによって、密度のある値を境に渋滞相転移が起こっていることを示す。そして、交通流の連続モデルであるバーガース方程式を超離散化することによって得られるバーガースセルオートマトンを解析することによって、渋滞相転移を厳密に示すことができることを説明する。この授業に必要な数学的な知識については講義中に説明する。	
		数理科学特論Ⅰ	いろいろな現象を数学や物理の理論を用いて「数理的に」解析する手法について講義する。現象を数学の言葉で表現する手法（モデリング）を様々な例を挙げて解説し、得られた数理モデルを理論的に解析する方法も紹介する。数理科学特論Ⅰでは、「波動現象」を中心に解説し、弦の振動から始まり、流体の波まで、いろいろな場面に現れる波動現象を考察する。また、数理モデルに基づく計算機シミュレーションについても触れ、講義中にシミュレーションの実演も行う。	
		数理科学特論Ⅱ	数理科学特論Ⅰに引き続き、いろいろな現象を「数理的に」解析する手法として、数理モデルの導出方法と関連するトピックを紹介する。数理科学特論Ⅱでは、確率に支配される現象として、拡散や熱伝導に注目する。大学院生には周知の波動方程式や熱方程式と確率過程の関係を考察する。また、計算機シミュレーションにより講義内容の理解の向上を図る。さらに、セルオートマトンモデルやコンタクトプロセスモデルなど、離散的な手法についても紹介する。	
		物性物理学特論Ⅰ	我々が日常、目にする巨視的物体の示す熱的振る舞いの微視的理論である統計力学の基礎を説明する。巨視的物体は原子や分子の莫大な数の集まりであり、これらの微視的粒子の運動状態の詳細を理論で記述することはできない。統計力学では、ある基本的仮定から特定の運動状態が現れる確率を導く。内部エネルギーなど、熱平衡状態の物理量はこの確率を用いた統計平均として計算される。一方、上記の運動状態は、原子や分子の従う運動法則である量子力学を用いて計算される。この講義では熱・統計力学や量子力学を未修の学生も考慮し、まず統計力学の基本的考え方および量子力学の基本的枠組みを説明する。次に、量子統計力学において、熱平衡状態を表す確率分布である正準分布が導かれる過程を説明する。授業は板書やスライドを用いた講義を基本とする。	
		物性物理学特論Ⅱ	物性物理学特論Ⅰに引き続き、理想フェルミ気体と理想ボーズ気体の性質について説明する。同種粒子の識別不可能性のために、粒子間の相互作用を無視する場合にも、粒子は"自由"には振る舞わないことを説明する。理想フェルミ気体の例として金属中の自由電子の比熱の低温展開の計算手順、理想ボーズ気体の例としてボース・アインシュタイン凝縮および電磁波(光子)に対するプランクの放射公式について説明する。授業は板書やスライドを用いた講義を基本とする。	
		非線形解析学特論Ⅰ	無限次元空間上で常微分方程式を考察する発展方程式論は、その抽象度から汎用性が高い。本講義では発展方程式の考え方を偏微分方程式に応用することをめざし、必要な関数空間の理解とともに非線形発展方程式論の基礎を学ぶ。発展方程式論とその応用の理解のためには「常微分方程式の一般論」「ルベーグ空間」「ソボレフ空間」などの知識が必要となる。さらにそれらの理解には、「ルベーグ積分」や「関数解析」などの基礎知識を要する。特論Ⅰではこれらの基礎事項の確認、特に測度論を中心としてルベーグ積分論を学ぶ。	
		非線形解析学特論Ⅱ	無限次元空間上で常微分方程式を考察する発展方程式論は、その抽象度から汎用性が高い。本講義では発展方程式の考え方を偏微分方程式に応用することをめざし、非線形発展方程式論の基礎を学ぶ。微分方程式に関連する多くの科目では、個々の方程式を対象としてその解法、性質の理解や数値解析を行ってきた。発展方程式の考え方は個々の方程式によらない統一的な構造の理解と言える。常微分方程式の適切性を論じる一般論を基礎として、無限次元関数空間上の常微分方程式の理解と、熱方程式を代表とする偏微分方程式への応用をめざす。	

別記様式第2号（その3の1）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（先端理工学研究科　先端理工学専攻　修士課程）

特論	数理・情報科学コース科目	数理情報科学特論Ａ	数理・情報科学分野における最新の研究について、とくに内容を絞って集中講義の形式で講義する。第一線で活躍する学内あるいは学外の研究者を講師とし、通常のカリキュラムではカバーしきれない内容について深く堀り下げる。多様な専門分野の受講者を想定して、できるだけ少ない予備知識を前提とし、入門的な解説から始めて、その研究の考え方の本質的な部分について集中的に時間をかけて理解する。とくにその基礎となる考え方を多角的な観点から捉えることにより理解を深める。新しい視点と問題意識を体感することにより、自身の研究に対する視野を広めることができる。	
		数理情報科学特論Ｂ	数理・情報科学分野における最新の研究について、とくに内容を絞って集中講義の形式で講義する。第一線で活躍する学内あるいは学外の研究者を講師とし、通常のカリキュラムではカバーしきれない内容について深く堀り下げる。多様な専門分野の受講者を想定して、できるだけ少ない予備知識を前提とし、入門的な解説から始めて、その研究の考え方の本質的な部分について集中的に時間をかけて理解する。さらにその発展の方向について多様な視点から検討することにより理解の幅を広げる。新しい視点と問題意識を体感することにより、自身の研究に対する視野を広めることができる。	
	知能情報メディアコース科目	先端理工学研究（知能情報メディアコース）	（概要） 修士課程の学生が大学院での履修・研究を行うために必要な基本と応用についてそれぞれの教員が講述する。担当する教員の専門分野における最新の成果を紹介するとともに、いかに発想が生まれ、研究が遂行され、成果に結びついたのか、研究の一連の流れを学ぶ。これにより、自身の研究の位置付けを確認し、基礎となる学問的研究からその応用に関わる種々の実例まで、修士論文研究の実践に役立つ研究指針を得ることができる。 （オムニバス方式／全8回） （12　片岡　章俊／1回） 音響情報処理に関する先端的な研究紹介を行う。 （26　菅谷　至寛／1回） ウェブ情報学・サービス情報学に関する先端的な研究紹介を行う。 （33　野村　竜也／1回） ヒューマン・ロボット・インタラクションに関する先端的な研究紹介を行う。 （35　藤田　和弘／1回） 画像情報処理に関する先端的な研究紹介を行う。 （43　三好　力／1.5回） 知的情報処理に関する先端的な研究紹介を行う。 （52　曽我　麻佐子／0.5回） コンピュータ・グラフィクスに関する先端的な研究紹介を行う。 （60　山本　哲男／0.5回） ソフトウェア工学に関する先端的な研究紹介を行う。 （62　吉見　毅彦／0.5回） 言語情報処理に関する先端的な研究紹介を行う。 （64　奥　健太／0.5回） 推薦システムに関する先端的な研究紹介を行う。 （73　渡邉　靖彦／0.5回） 情報コミュニケーションに関する先端的な研究紹介を行う。	オムニバス方式
		言語情報処理特論Ⅰ	言語情報処理は、人間が日常使用している言語をコンピュータで扱うための技術である。本講義では、言語情報処理システムを構成する要素技術である形態素解析、構文解析、意味解析、文脈解析、文生成、辞書について解説する。	
		言語情報処理特論Ⅱ	本講義では、要素技術を組み合わせた実際の言語情報処理システムとして、機械翻訳やテキスト要約、外国語学習支援などの技術を紹介する。また、言語情報処理における機械学習に関連する話題として、コーパスから言語知識を自動的に獲得する方法などについて説明する。	
		ソフトウェア科学特論Ⅰ	本講義では、現象に対する仮説を立て、それをコンピュータシミュレーションや 対人実験により検証する手法（仮説演繹法）について、人工知能やマルチエージェントシステムを題材として学習する。Ⅰでは、人間の集団的現象がどのような原因で発生するかを具体的題材として、マルチエージェントシステムを用いたシミュレーションを通して仮説演繹法の実践を行う。	

別記様式第2号（その3の1）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（先端理工学研究科　先端理工学専攻　修士課程）

特論	知能情報メディアコース科目	ソフトウェア科学特論Ⅱ	本講義では、現象に対する仮説を立て、それをコンピュータシミュレーションや対人実験により検証する手法（仮説演繹法）について、人工知能やマルチエージェントシステムを題材として学習する。Ⅱでは、人工知能が人間にどのような心理的影響を与えるかという問題を具体的題材として、対人心理実験と多変量解析による実践を行う。	
		コンピュータグラフィックス特論Ⅰ	3次元コンピュータグラフィックス（CG）に関する基礎知識を習得することを目標とし、CGに必要な数学、CG制作の流れと使われる技術、歴史と応用について概説する。CGを用いたシステム開発に必要な技術として、クオータニオンやIK（インバース・キネマティクス）などの理論を学ぶ。また、近年注目されているCG関連技術や応用事例を対象とし、英語文献の輪講を行う。基本的には講義または輪講形式で実施するが、理解を深めるために一部演習形式も取り入れる。	
		コンピュータグラフィックス特論Ⅱ	3次元コンピュータグラフィックス（CG）のプログラミング手法と人体アニメーションの仕組みについて概説し、様々なプログラミング言語による実装方法を学ぶ。人体アニメーションの仕組みについて理解し、簡単なCGアニメーションが実装できるようになることを目標とする。講義はBYOD端末を用いて実際にプログラミングを行う演習形式で実施する。課題のプログラムまたは作品の作成は授業時間外に行い、最終的には作成したプログラムまたは作品について発表を行う。	
		信号処理特論	統計的信号処理は、信号処理や画像処理の基礎となるものであり、重要な分野のひとつである。この授業では、MITオープンコースウェアのBiomedical Signal and Image Processingの講義資料を用いて、データ取得、フィルタリング、離散フーリエ変換、サンプリング、ランダム信号について、統計的信号処理という観点から論じる。また、実際に、数値解析用ソフトウェアであるOctaveを用いた演習を適宜取り入れながら、授業を進めることで、受講者の理解が深まるように配慮する。この授業の目標は、統計的な信号処理についての基礎的な知識と技術を身に付けることであり、これにより、実社会での信号処理システムの原理や適用範囲、応用などについて理解できるようになる。	
		画像処理特論	統計的な信号処理に基づく画像処理は、画像処理・認識において重要な分野の一つである。この授業では、MITオープンコースウェアのBiomedical Signal and Image Processingの講義資料を用いて、画像処理、画像セグメンテーション、画像レジストレーション、X線画像撮影などに関して、統計的な信号処理に基づく画像処理という観点から論じる。また、実際に、数値解析用ソフトウェアである OctaveおよびNIHが配布している医用画像処理ソフトウェアImageJを用いた演習を適宜取り入れながら、授業を進めることで、受講者の理解が深まるように配慮する。この授業の目標は、統計的な信号処理に基づく画像処理についての基礎的な知識と技術を身に付けることであり、これにより、実社会での画像処理システムの原理や適用範囲、応用などについて理解できるようになる。	
		音響信号処理特論Ⅰ	信号処理は情報を数学的に取り扱い、情報がディジタル化されている現在において重要な技術である。授業では、まずアナログ信号からディジタル信号に変換するためのサンプリング定理、時間-周波数の関係を繋ぐフーリエ変換、z変換などの信号処理に必要な数学的基盤を理解する。また、信号処理を扱う上で必要となる線形システムの概要、ディジタルフィルタや逆フィルタなどの信号処理技術を習得する。	
		音響信号処理特論Ⅱ	音響信号を処理するための基礎的な知識、音の分析、処理、再生の基本となる信号処理技法とその理論について学ぶ。電気音響変換や聴覚などの音響工学の基礎を概観し、音響学の基礎的知識を身につける。音のスペクトル分析、線形予測分析法、高能率符号化法、適応信号処理、アレー信号処理など音響信号処理技術を習得する。	
		知的情報処理特論Ⅰ	機械学習、量子計算、ニューラルネットワーク、進化的アルゴリズム、ファジィ工学等に関連する英語文献を教材とすることにより知的情報処理の最新動向を学習する。授業に先立って、受講者には、課題の英語文献の担当部分を訳読するとともに関連技術分野の調査を行って、日本語のレジメを作成し配布する。レジメを基に問題点、課題などについて議論する。	
		知的情報処理特論Ⅱ	機械学習、量子計算、ニューラルネットワーク、進化的アルゴリズム、ファジィ工学等に関連する英語文献を教材とすることにより知的情報処理の最新動向を学習する。授業では、受講者のうち数名が発表者となってレジメを基に担当部分の内容を発表し、講師や他の受講者との質疑応答を行い、内容の補足、問題点、課題などについて議論する。	

別記様式第2号（その3の1）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要 （先端理工学研究科　先端理工学専攻　修士課程）				
特論	知能情報メディアコース科目	推薦システム特論Ⅰ	推薦システムは、膨大なコンテンツ群の中から、その時、その場、その人に合ったコンテンツを提示するシステムであり、今日の多くのオンラインショッピングサイトで導入されている。当科目では、推薦システムの基本について講義する。	
		推薦システム特論Ⅱ	推薦システム特論Ⅰで学んだ基本をベースに、推薦システムの先端的トピックについて学習する。具体的には、コンテキストアウェア推薦システム、位置情報推薦システム、ソーシャル推薦システム、グループ推薦システム、相互推薦システム、楽曲推薦システム、クロスドメイン推薦システム、説明可能な推薦システム、発見性指向推薦システムなどの先端的トピックについて学ぶ。各トピックについて英語文献を用いて輪講形式で学習する。	
		ソフトウェア工学特論Ⅰ	ソフトウェア開発の計画から保守にいたる各工程で必要とされる手法や技術を、開発方法論と開発プロセスの両面から包括的に捉え全体像を把握する。講義だけでなく演習を取り入れ、ソフトウェア工学が提案するさまざまな手法の有効性などを経験する。	
		ソフトウェア工学特論Ⅱ	ソフトウェア開発において近年重要性を増しつつあるオブジェクト指向分析・設計について講義する。また、ソフトウェアパターンに関する講義も行い、実践的な能力を身に付けられるようにする。講義だけではなく、実例を用いたオブジェクト指向設計演習やオブジェクト指向プログラミングも経験する。	
		情報システム特論Ⅰ	情報システムは情報を効率良く取り扱い伝達するためのシステムであり、コンピュータやネットワーク、プログラムやデータを扱うための仕組みなど、幅広い基礎技術・応用技術を駆使して構成される。本講義では、情報システムにおいてメディア情報を取り扱うための基礎技術や、システムを最適化し問題解決を効率的に行うための基礎理論について学ぶ。	
		情報システム特論Ⅱ	情報システムは情報を効率良く取り扱い伝達するためのシステムであり、コンピュータやネットワーク、プログラムやデータを扱うための仕組みなど、幅広い基礎技術・応用技術を駆使して構成される。本講義では、情報システムを構成する要素技術や、システム設計や問題解決に欠かせない最適化技術の応用について、各自の研究と関連させながら論じる。	
		情報コミュニケーション特論Ⅰ	情報・コミュニケーション技術の発展とグローバル化によって多様化した現代社会で生きるための知識を身につけることを目的に、さまざまなメディアで表現されている「情報」と人と社会をつなぐ「コミュニケーション」を結びつけて学ぶ。まず、さまざまなメディアで記述された情報を有効に利用するためのメディア処理技術についての理論・技術・応用について学ぶ。そして、複合メディア(言語、画像、音声など)を用いたコミュニケーションの仕組みに関する理論・技術・応用について学ぶ。	
		情報コミュニケーション特論Ⅱ	情報・コミュニケーション技術の発展とグローバル化によって多様化した現代社会で生きるための知識を身につけることを目的に、さまざまなメディアで表現されている「情報」と人と社会をつなぐ「コミュニケーション」を結びつけて学ぶ。まず、電子メール、電子掲示板、ブログ、SNSといった情報ネットワーク上のコミュニケーションシステムの特徴について学ぶ。そして、それらのシステムにおけるユーザのコミュニケーション行動について、情報セキュリティやプライバシー保護と関連づけて学ぶ。	

別記様式第2号（その3の1）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（先端理工学研究科　先端理工学専攻　修士課程）

特論	電子情報通信コース科目	先端理工学研究（電子情報通信コース）	（概要） 自分の研究分野だけでなく、幅広く研究分野を分野横断的に俯瞰することで、幅広い知識と素養を身につけさせて、自身の研究の位置付け、重要性について確認することを目的とする。電子情報通信分野に関わる国内外の最先端の研究動向・各教員が最近、力を入れている研究トピックについて、リレー講義の形式で解説を行う。学外からも第一線で活躍する研究者を招聘し、研究に対する興味を深めてもらう。 （オムニバス方式／全8回） （3　石崎　俊雄／0.5回） マイクロ波工学分野に関する先端的な研究紹介を行う。 （10　海川　龍治／0.5回） 薄膜太陽電池・電子物性分野に関する先端的な研究紹介を行う。 （17　木村　昌弘／0.5回） ソーシャルデータ分析・コンピュータ科学分野に関する先端的な研究紹介を行う。 （18　木村　睦／1回） 人工知能・ニューロモーフィックシステム・薄膜デバイス分野に関する先端的な研究紹介を行う。 （19　小堀　聡／0.5回） 生体医工学・認知科学・人工知能分野に関する先端的な研究紹介を行う。 （28　張　陽軍／0.5回） マイクロ波デバイス・電磁波計測分野に関する先端的な研究紹介を行う。 （45　山本　伸一／0.5回） ナノテクノロジー・電子物性・薄膜工学分野に関する先端的な研究紹介を行う。 （46　植村　渉／1回） 無線通信工学・ロボット工学・人工知能分野に関する先端的な研究紹介を行う。 （51　酒田　信親／1回） ヒューマンインタフェース/インタラクション分野に関する先端的な研究紹介を行う。 （57　宮戸　祐治／1回） ナノ計測工学・ナノサイエンス分野に関する先端的な研究紹介を行う。 （69　中川　晃成／1回） データサイエンス分野に関する先端的な研究紹介を行う。	オムニバス方式
		科学技術英語特論・演習	英語を国際的コミュニケーションの手段として用いることを目的とし、読解だけでなく、聞き取り、読み上げ、英作文なども含めて、英語能力の総合的な向上を目指す。初回の講義ではガイダンス等を行い、第2回～第10回の9回の講義では、1）文法の基本、2）スピーキングおよびリスニング、3）科学技術英語の基本と語彙について、担当教員3名によるローテーション（オムニバス方式）で実施する。また、第11回から第15回の5回は、兼任講師2名を加えてクラスを分割（再編）し、少人数でのグループ別の演習として卒論要旨英訳を行う。 （オムニバス方式／全15回） （19　小堀　聡／15回） ローテーション講義では、科学技術英語の基本、語彙などを担当。グループ別の演習では、卒論要旨の英訳を担当する。 （23　里井　久輝／15回） ローテーション講義では、発音、スピーキング、リスニングを担当。グループ別の演習では、卒論要旨の英訳を担当する。 （74　大竹　忠／5回） グループ別の演習では、卒論要旨の英訳を担当する。 （75　泰間　健司／15回） ローテーション講義では、文法の基本を担当。グループ別の演習では、卒論要旨の英訳を担当する。 （77　清水　敦志／5回） グループ別の演習では、卒論要旨の英訳を担当する。	オムニバス方式 講義：10回 演習：5回

別記様式第2号（その3の1）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（先端理工学研究科　先端理工学専攻　修士課程）

特論	電子情報通信コース科目	電子ディスプレイ特論	半導体産業は「産業のコメ」と呼ばれ、現在のIT社会の基礎体力源であるが、一方、電子ディスプレイ産業は「産業のカオ」と呼ばれ、高度化するIT社会で人間と情報機器をつなぐインターフェイスとして、その重要性は急速に増大している。本科目では、電子ディスプレイの理論・基礎・応用について、知識が身につき、理解を深めることができる。この科目で学ぶことは、今後の大学院での研究や、理工系就職先での仕事に、役立たせることができると思われる。講義方法は、まず、テキストの解説を中心とし、付加的なトピックスを話したり、必要に応じて参考文献などからの資料を用いたりしながら、授業をすすめる。つぎに、フィールドワークとして、電子ディスプレイの市場調査を行い、結果を報告する。さらに、電子ディスプレイについての最新の論文を詳読し、各自でその内容を発表する。	
		脳型集積回路特論	従来のノイマン型コンピュータは、厳密な計算を高速に演算することは得意であるが、非構造化ビッグデータの処理や画像・音声・文章などの認識は不得意である。これらを得意とするのが人工知能であるが、従来のコンピュータで実行する人工知能は、マシンサイズが巨大で消費電力も膨大であることが課題である。一方、脳の構造と機能を模倣する脳型集積回路は、コンパクトで低消費電力の人工知能として期待されている。本科目では、脳型集積回路の理論・基礎・応用について、知識が身につき、理解を深めることができる。この科目で学ぶことは、今後の大学院での研究や、理工系就職先での仕事に、役立たせることができると思われる。講義方法は、まず、テキストの解説を中心とし、付加的なトピックスを話したり、必要に応じて参考文献などからの資料を用いたりしながら、授業をすすめる。	
		電磁波計測特論Ⅰ	近年、移動通信、衛星放送、無線LAN、無線電力伝送などわれわれの周囲の空間にマイクロ波、ミリ波の利用技術が大きく発展した。こられの電波を利用する各種デバイスやEMC材料等の研究・開発において、電磁波計測および材料定数測定の必要性がますます高くなってきている。本講義では、電磁波と物質の相互作用、電波の発生・伝搬メカニズム、ならびに電磁波諸量の測定原理および電磁波を利用して材料定数の測定方法について講述する。本講義の履修を通して、履修生はマクスウェルの方程式を基礎に電磁波と物質の相互作用を論じることができ、電磁波諸量の測定原理、測定方法の知識を身につける。	
		電磁波計測特論Ⅱ	近年、マイクロ波、ミリ波の利用技術の大きな発展に伴い、こられの電波を利用する各種デバイスやEMC材料等の研究・開発において、電磁波計測および材料定数測定の必要性がますます高くなってきている。本講義では、報告された最新の測定論文を紹介し、電磁波計測が実際の応用分野でどのように使われているかを重点的に取り上げる。本講義を履修することで、学生はマイクロ波・ミリ波領域における材料定数の測定原理、測定方法の知識を身につける。	
		知能情報特論Ⅰ	近年、World Wide Webの進化により、多種多様な情報がネットワーク情報空間内に大量に蓄積されるようになってきた。そして、このような多様で膨大なデータからどのようにして有用な知識を抽出するかという、データマイニングの研究が注目されてきている。データに内在する概念やメカニズムを抽出する機械学習は、その有力な解決アプローチとして期待されている。本講義では、統計的機械学習の基礎として、確率・統計やベクトル解析など、その数学的基礎についての復習からはじめて、ベイズ決定理論や最尤推定法の基本概念について解説する。	
		知能情報特論Ⅱ	近年、World Wide Webの進化により、多種多様な情報がネットワーク情報空間内に大量に蓄積されるようになってきた。そして、このような多様で膨大なデータからどのようにして有用な知識を抽出するかという、データマイニングの研究が注目されてきている。データに内在する概念やメカニズムを抽出する機械学習は、その有力な解決アプローチとして期待されている。本講義では、知能情報特論Ⅰに引き続き、最尤推定法の理論的性質、モデル選択、EMアルゴリズム、ベイズ推定法、カーネル密度推定法など、統計的機械学習の主要概念について解説する。	
		強化学習特論Ⅰ	本科目では機械学習の一つである強化学習について勉強する。特論Ⅰでは、R.S.Sutton先生の「Reinforcement Learning - An introduction」の訳書である「強化学習」を用いて講義を行う。教科書の1章から3章を1回あたり3節ずつ順番に読み、解説を行う。練習問題はレポートとする。	
		強化学習特論Ⅱ	本科目では機械学習の一つである強化学習について勉強する。特論Ⅱでは、R.S.Sutton先生の「Reinforcement Learning - An introduction」の第2版を輪読する。教科書の2章と3章のうち第1版と異なる部分を用いる。1回あたり2節程度を受講者が順番に読み、解説を行う。練習問題は、第1版と異なる問題のみをレポートとする。	

別記様式第2号（その3の1）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（先端理工学研究科　先端理工学専攻　修士課程）

特論	電子情報通信コース科目	量子工学特論	現在の人類は、自ら原子分子に相当する「ミクロ(極微)な物質を作り出し操作する」、「量子・メゾスコピック効果を操る」という時代の入り口にいる。そのため材料の物性的性質を理解するには、材料の究極の構成要素である原子、およびその集団の性質を理解しなければならない。量子論・量子力学は、原子・分子といったミクロの世界を支配する重要な理論でありながら、それがなぜ必要とされるかという理由から順を追って学ぶことで、真の理解を促す。量子論や相対性理論の概念を理解することで、ナノサイエンスやナノエレクトロニクス応用を理解することを目指す。	
		ナノテクノロジー工学特論	材料の物性的性質を理解するには、材料の究極の構成要素である原子、およびその集団の性質を理解しなければならない。微細構造のスケールが1～100 nmの範囲であると、物理現象の確認できる臨界（限界）長さスケールと同程度になり、いわゆる「サイズ効果」が現れる。この効果によって他に見られない独特の物性が生まれるため、ナノ構造材料を用いた新しい用途や素子への応用研究が行われている。ナノスケールで起こる現象は、物理学者、化学者、生物学者、電気・機械エンジニア、およびコンピューター科学など様々な分野における技術者の研究対象であり、ナノテクノロジーは材料科学の中の最先端の研究の一つと捉え学習してほしい。	
		マイクロ波通信工学特論Ⅰ	この講義では、電磁界を表現するマクスウェル方程式を構成する各式がどのように導き出されたのかを完全に理解し、これらの方程式の解を得る方法を学ぶ。学部で学んだ高周波回路技術の基礎を一段と高い立場から整理して、それらの有機的な関係を学ぶものである。よく知られた電磁気学の方程式を微分形に変換し、また、変位電流について理解する。これらの知識は、アナログ高周波回路技術者に限らず、高速ディジタル回路技術者にも強く求められている不可欠な知識である。	
		マイクロ波通信工学特論Ⅱ	マイクロ波回路では、回路素子を抵抗やコンデンサなどで表現する事が困難となり、伝送線路を基にした分布定数素子として扱う事が多い。この講義では、マクスウェル方程式から出発する事によって、回路を電磁気学的に理解でき、回路素子の一般的関係式を導出できるようになることを目的とする。マイクロ波回路や高速ディジタル回路における波の反射やインピーダンス整合の物理的な意味が理解できるようになる。現在、電子機器メーカが強く求めているアナログ高周波回路技術者や高速ディジタル回路技術者に不可欠な知識を与える。	
		人間情報処理特論Ⅰ	人間とコンピュータのインタラクションシステムに関し、人間がどのように外からの情報を取り入れ・処理し・出力をしているかを俯瞰する。そして人間の情報処理特性を踏まえて、どのような要素技術が存在するかを解説する。	
		人間情報処理特論Ⅱ	人間とコンピュータのインタラクションシステムに関し、人間がどのように外からの情報を取り入れ・処理し・出力をしているかを俯瞰する。そして人間の情報処理特性を踏まえた要素技術の未来を予測し、どのようなヒューマンコンピュータインタラクションが可能であるかを考える。	
		ナノ計測工学特論Ⅰ	現在、ナノテクノロジーの発展により、ナノスケールおよびアトムスケールで物質を観察・評価することの重要性が増している。これを行うための各種計測手法において、基礎となる計測理論について講義する。特に、誤差論、計測に必要なアナログ電子回路、アナログデジタル変換など広範囲の計測技術について解説する。	
		ナノ計測工学特論Ⅱ	現在、ナノテクノロジーの発展により、ナノスケールおよびアトムスケールで物質を観察・評価することの重要性が増している。これを可能にする高分解能の顕微鏡技術の進展はめざましく、様々な方式が開発されている。本講義では、特に走査プローブ顕微鏡に係るナノ計測技術について講義するが、他の手法についても説明する予定であり、計測全般に応用の効く知識を身につけてもらいたい。	
		電子情報数学特論	学部において配当され履修済みである数学系の科目の基礎の上に立って、自然の言語としての数学の構造を理解することを通し、そのより深い数学的素養を身につけることを目的とする。特に、電子情報通信分野において用いられる種々の微分方程式やその解法に関連する分野を中心に、学部においては時間的制約や理解度のため単なる技法の解説に終わりがちであった点について、より高度な立場からのその数理的な構造の理解を深める。そのためには、応用的課題も視野に置きつつ、一般論を構成するに典型となるような具体的な例題を多用して、数学的に多面的な把握が可能であることを認識できるようにする。	
		景観情報学特論	情報学・景観論・歴史学・地理学・社会学などを横断し、文理融合の新しい学問である景観情報学を講述する。景観を人とのかかわりにおける地上の事物のあり方ととらえるとき、それは自然形象のもとにおける人為的作用の総体であり、特に歴史的重層がまたその機能的重層にも反映され、それぞれが固有の性格を持ち個別の様相を呈することの起源となっている。そうした多様な独自性を踏まえたうえで、なおそこに通底する景観の論理を看取しあるいはその析出を行うための精緻の論としての景観情報学の可能性を多角的な立場から考える。	

別記様式第2号（その3の1）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（先端理工学研究科　先端理工学専攻　修士課程）

特論	電子情報通信コース科目	生体システム特論Ⅰ	人間はさまざまな機能をさまざまなシステムにより実現しているといえる。本講義では、人間をシステムとしてとらえる考え方を導入し、その観点から人間の生体機能と知能機能について解説するとともに、それらの機能がどのような理論・手法で解析され、表現されるのかについても述べる。本講義では、具体的には、遺伝子、細胞のレベルから、知能や感情、社会システムに至るまでについて講じる。	
		生体システム特論Ⅱ	人間はさまざまな機能をさまざまなシステムにより実現しているといえる。本講義では、人間をシステムとしてとらえる考え方を導入し、その観点から人間の生体機能と知能機能について解説するとともに、それらの機能がどのような理論・手法で解析され、表現されるのかについても述べる。本講義では、具体的には、サブシステムとして、感覚系と運動系について講じるが、その中でも特に視覚系・聴覚系に重点をおいて解説する。	
		電子物性特論Ⅰ	電子デバイスの研究は、近年目覚しい発展が見られる。これらの研究の基礎となるのが物性論である。物性とは物の性質を取り扱う物理学で、主として電子の状態に関するものを論じる。電子物性論は電磁気学、統計力学、量子力学を基本として成り立っている。したがってこれらの知識があらかじめ必要であるが、本特論ではなるべく量子力学、統計力学の予備知識無しでも理解できるよう、講義・演習を行う予定である。	
		電子物性特論Ⅱ	電子デバイスの研究は、近年目覚しい発展が見られる。これらの研究の基礎となるのが物性論である。物性とは物の性質を取り扱う物理学で、主として電子の状態に関するものを論じる。電子物性論は、電磁気学、統計力学、量子力学を基本として成り立っている。これらの学問を十分理解した上で、本講義を受講する必要がある。	
	機械工学・ロボティクスコース科目	先端理工学研究（機械工学・ロボティクスコース）	（概要） 機械工学をベースとする高度なエンジニアになるためには、幅広い知識と素養を身につけ、それらを融合して縦横無尽に活用できるようになることが重要である。本講義では、機械工学・ロボティクス分野に関わる国内外の最新の研究動向や各教員が取り組んでいる研究トピックスなどについて、リレー形式で解説を行う。また、機会があれば、学外の研究者を招聘し、先端の研究内容に触れさせることで、研究に対する意欲を涵養する。 （オムニバス方式／全8回） （6　大津　広敬／1回） 航空宇宙工学に関する先端的な研究紹介を行う。 （8　小川　圭二／1回） 材料加工学に関する先端的な研究紹介を行う。 （20　譽田　登／0.5回） 材料強度学に関する先端的な研究紹介を行う。 （21　坂上　憲光／0.5回） システム工学に関する先端的な研究紹介を行う。 （22　左近　拓男／0.5回） 物性工学に関する先端的な研究紹介を行う。 （24　塩見　洋一／0.5回） 熱流体工学に関する先端的な研究紹介を行う。 （25　渋谷　恒司／1回） ロボット工学に関する先端的な研究紹介を行う。 （27　田原　大輔／1回） バイオメカニクスに関する先端的な研究紹介を行う。 （29　辻上　哲也／0.5回） 複合材料力学に関する先端的な研究紹介を行う。 （54　永瀬　純也／0.5回） ロボットのダイナミクス・メカニズムに関する先端的な研究紹介を行う。 （70　野口　佳樹／0.5回） 燃焼工学に関する先端的な研究紹介を行う。 （72　森　正和／0.5回） 材料工学に関する先端的な研究紹介を行う。	オムニバス方式

別記様式第2号（その3の1）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（先端理工学研究科　先端理工学専攻　修士課程）

特論	機械工学・ロボティクスコース科目	エネルギー工学特論	エネルギーは種々の形態をとるが不生不滅である。日本ではその大部分を海外に依存しているので、小資源国である。1番重要な石油は政治情勢が不安定な中近東からの輸入に頼っている。原子力発電に用いられるウランにしてもまたしかりである。そこで、第一に省エネルギーに努めなければならないが、このことは気候変動への懸念と密接に関連している。本講義では熱力学の基本法則と有効エネルギー(エクセルギー)の概念、各種のエネルギー変換の原理、手法および関連した環境保全の問題について取り扱う。	
		燃焼特論	近年、気候変動への懸念から、化石燃料に代わって再生可能エネルギーなどの二酸化炭素を排出しないエネルギー源に注目が集まっているが、エネルギー密度などの問題やコストなどの面からエネルギー源の主役は未だ燃焼による熱エネルギーであり、約8割を担っている。燃焼するときに発生する熱エネルギーを大気汚染物質の排出を抑えつつ有効に利用するため、また、火災や爆発を予防したり、それらによる被害を少なくするためには、燃焼に関する知識が必要である。本講義では、様々な燃焼現象を事例とともに、燃焼現象の基となる、熱の移動、物質の移動、化学反応についての基礎的な式を理解する。また、燃焼を利用した燃焼機器の機能要素、大気汚染物質の発生機構についても取り扱う。	
		高速空気力学特論	スペースシャトルやはやぶさ再突入カプセルなどにみられる超音速で飛行する飛行体の設計・開発には、圧縮性や衝撃波に関連した高速流体の様々な現象を正しく理解しておく必要がある。本講義では、これまで学んできた流体力学の発展系として、圧縮性流体に関連した現象について講義する。特に、衝撃波などを含む超音速流れについて詳しく講義する。また、圧縮性に伴う高温流体や非平衡流れの現象についても一部紹介する。	
		航空宇宙工学特論	本講義では、高速空気力学特論で学んだ知識を用いて、高速飛行体の飛行に関連した様々な現象について講義する。具体的には、飛行体の姿勢安定性や飛行経路の推定方法などについて講義する。また、講義で学んだ知識を用いて、飛行体の形状を設計し、その設計した飛行体の飛行経路を設計することにより、宇宙飛行体の飛行の様子を理解することを目指す。	
		有限要素法特論	これまで学んできた力学、材料力学、弾性力学、構造力学の理解を再確認するとともに、実際の機械・構造設計を行うために必要な三次元物体の変形・ひずみ・応力場および、その強力な解析方法である有限要素法の取扱いを解説する。有限要素法の基礎理論を理解した上で、基本的な線形弾性域の範囲の構造解析の問題に対し、適切な解析問題の設定、解析結果の信頼性の検証ができるようになることを目指す。日本機械学会の計算力学技術者(2級)(固体力学分野の有限要素法解析技術者)に相当する知識を修得することを目標とする。	
		計算生体力学特論	重力下で力学的適応を達成している生体の構造・機能を理解し、そのメカニズムを機械設計に応用するには、生体の構造と力学的挙動の関連を明らかにすることが重要である。本講義では、生体システムにおける力学的問題を理解し、それらの力学的事象を説明できる力を修得することを目指す。また、生体の力学解析のための方法や、機械工学および、医療・福祉・健康分野における応用について学ぶ。さらに、生体力学分野でも広く適用される有限要素法について、生体に対する計算・解析の位置づけを考える。有限要素法の演習を交えて再確認する。	
		知能制御特論Ⅰ	初めに現代制御理論の概要について、古典制御理論との比較を行いながら説明する。その後、制御対象を状態空間表現で表す方法について説明する。また、状態空間表現を状態変数線図で表す方法、状態空間表現における状態方程式の解の導出、およびシステムの安定性についての講義を行う。さらに、システムの可制御性を評価する方法について解説する。また上記について、時折、制御シミュレーションを行うことで現代制御理論についての理解を深める。	
		知能制御特論Ⅱ	現代制御の制御系設計法に関する講義を行う。具体的にはまず、状態方程式から極を求め極配置法によって状態フィードバックゲインを設計する方法について解説する。また、システムの極と安定性との関係性について説明する。次に、状態を推定するための同一次元オブザーバの設計方法について解説する。その後、オブザーバを用いてサーボ系を設計する方法を講義する。最後に、最適制御について、評価関数による制御性能と入力の評価、評価関数を最小にする最適制御測、および折り返し法による最適レギュレータの設計方法について解説する。	
		計測システム特論Ⅰ	電磁気学や近代的な量子力学、エレクトロニクスを基礎とした固体物性物理学の基礎について講義し、局在電子系ならびに遍歴電子系の物性・磁性物理学の概説を行なう。結晶中のフォノンやフェルミオン(電子)に関する現象を物理的に理解し、基本的な問題を解くことができる。授業計画:結晶構造、逆格子、X線や中性子線による結晶構造解析。フォノン、格子振動、固体の弾性率、遍歴電子系、自由電子フェルミ気体、エネルギーバンド、フェルミ面に関する講義。なお、本科目に必要な統計力学や量子力学の基礎は授業中に講義する。	

別記様式第2号（その3の1）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（先端理工学研究科　先端理工学専攻　修士課程）

特論	機械工学・ロボティクスコース科目	計測システム特論Ⅱ	エレクトロニクス分野やロボットなどの制御の基礎となる物性物理学、磁性物理学とそれらの研究に必要な物理計測法について講義する。計測システム特論Ⅰで学んだ物性・磁性物理学の基本をもとに、物理計測である力、電気抵抗、磁化、磁化率等のマクロな量の計測について実験結果やそこから導かれる物性や磁性について概観し、次いでミクロに物を見る磁気共鳴、特に核磁気共鳴(NMR)や電子磁気共鳴(ESR)に注目し、その原理や特徴、金属におけるナイトシフトや磁性体における内部磁場、局所的対称性の低い物質における電場勾配、スピン格子緩和時間の測定法、それらのデータの解析法について講義する。また、同じくミクロ計測である中性子散乱実験による電子系の磁気秩序状態についても解説する。講義計画：金属、半導体の物性と磁性、磁気測定法、光電子分光、核磁気共鳴(NMR)、電子磁気共鳴(ESR)、中性子散乱、高機能磁性材料についての講義。	
		精密加工学特論Ⅰ	自動車部品から航空宇宙機器に至るまで、生産材・消費材のすべては、加工を経て初めて最終製品として我々の前に現れる。すなわち、機械加工は多くの製造分野に関与する基盤技術である。本講義では、機械加工の中でも、素形材からの不要な部分を取り除いて仕上げる除去加工法の一つである切削加工について学ぶ。まずは、機械加工と機械設計の関係について解説し、精密さの必要性と精密さを保証するための評価法について説明する。そして、精密切削加工を実現するための工具、工作機械、加工面創製機構、精密切削加工の実用事例を紹介する。	
		精密加工学特論Ⅱ	精密加工の中でも、研削加工、研磨加工、そして特殊加工について講義する。各加工法の加工面創製機構について説明し、その違いについて学ぶ。精密加工を実現するための工具や工作機械について解説し、これら加工法を用いた精密加工事例を紹介する。また、精密加工を実現するためのシステムについても説明する。最新の精密加工技術について調査してレポート課題にする。そして、その内容について発表を行い、議論することで理解を深める。	
		材料加工特論	産業界において広く用いられている塑性加工を対象に、材料力学の観点から定量的な解析法を解説する。講義では、材料力学に関する基礎的な事項を初めに丁寧に復習した後、3軸応力状態における材料の塑性開始条件と塑性開始後の変形進行に関する解析法を講義する。到達目標は、塑性力学問題に対する解析的な取り扱い方法を理解し、説明できることである。さらに、代表的な塑性力学問題に対しては、自ら定式化と解の導出ができ、解析結果を解釈する能力を修得することを目標とする。	
		強度評価学特論	産業界において人命上、経済上、破壊防止を徹底することは極めて重要である。破壊はき裂を起点とすることが多い。そこで、き裂が存在する材料の強度評価に不可欠なツールである破壊力学を講義する。初めに弾性力学を復習し、次に切欠き材に対する材料力学的な取扱いを紹介するとともにその限界を示し、その後、破壊力学の説明に入る。到達目標は、き裂を有する材料の力学的な取扱いを理解し、説明することができることである。さらに、代表的なき裂問題に対しは、定量的な説明もでき、破壊力学的観点から過去の破壊事例を解釈できることを目標とする。	
		熱流体工学特論Ⅰ	近年のコンピュータの急速な発達に伴い、基礎方程式やモデル方程式をコンピュータで解くことによって流体力学の諸問題を解決する数値流体力学が実験と同様に強力な道具として実用化されつつある。そこで、差分法の基礎をまず理解し、差分法を用いて流体力学で重要な連続の式ならびにナビエ・ストークス方程式の数値解法ならびに乱流の計算法について講義を行う。これらによって得られた計算結果が実現象と齟齬がないかという視点を得ることを目標とする。	
		熱流体工学特論Ⅱ	気体と液体が混在して流れる流れである気液二相流は、火力発電所、原子力発電所などのエネルギー関連装置、化学プラント、空調機器など広範囲の分野で見られる現象であり、これらの装置の計画、設計および運転において、その特性を把握することは非常に重要である。これらは2つの流体の単純な重ね合わせでは表すことができない上に、熱を取り扱わなければならないことが多い。本講義では、気液二相流と冷凍サイクルの基本的なことを講義した後、それらに関する応用と問題も含めて具体的に解説する。これらによって気液二相流が実機でどのように利用されているのかを理解することを目的とする。	
		知能システム特論Ⅰ	ロボットや機械システムを全体として巧みに制御するためには、各構成要素をシステム論的に取り扱うことが必須である。さらにまた、システム自身や環境の変化に対して、システムによる知覚から運動生成に至るまでのコネクションをどのように構築するかも知能化の観点から重要である。本特論では、システムを知能化するため、まずはロボットを題材に、その運動方程式の構造と主要な制御法の概要について講述する。ロバスト性、適応能力、学習能力を有する知能システムの構築法を理解でき、そうしたシステムが具体的にどのような性能を発揮し得るかについて理解できるようになることを目標とする。	

別記様式第2号（その3の1）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（先端理工学研究科　先端理工学専攻　修士課程）

特論	機械工学・ロボティクスコース科目	知能システム特論Ⅱ	本特論では、知能システム特論Ⅰの学習内容を基礎に、システムを知能化するための応用について学ぶ。特に、システム自身や環境の変化に対して、システムによる知覚から運動生成に至るまでのコネクションをどのように構築するかが知能化の観点から重要である。ここでは、多自由度ロボットや水中ロボットを題材にその制御法のいくつかを取り上げ、それらの安定性や実例などについて講述する。ロバスト性、適応能力、学習能力、人間との協調性能を有する知能システムの構築法を理解でき、そうしたシステムが具体的にどのような性能を発揮し得るかについて理解できるようになることを目標とする。	
		複合材料力学特論Ⅰ	複合材料は、種々の材料を組み合わせて、素材単体よりも優れた特性を有する材料と定義できる。自然界においても、竹わらや樹木等の植物、血管や心臓、筋肉、骨などの生体材料は、巧みな複合材料と考えることもできる。現在では、ガラス繊維や炭素繊維に代表される弾性率や強度に優れた強化材が研究・開発され、これらの強化材と樹脂を組み合わせた繊維強化プラスチック（FRP）が広い分野で使用されている。複合材料は、等方性とみなせる金属材料やプラスチック材料とは異なり、異種材料及び異方性を考慮した力学的取り扱いが必須となる。本講義では、一般的に広く利用されるようになってきた複合材料の材料力学を基礎とした基本的な取り扱い方法について講義する。	
		複合材料力学特論Ⅱ	繊維強化複合材料は、ガラス繊維や炭素繊維の繊維束を樹脂で固めた複合材料で、先進複合材料と言われる。軽量かつ高い強度を有し、熱膨張性が低いことなどから、宇宙航空機や自動車、建材、スポーツ製品など様々な分野で活用されている。繊維強化複合材料は、直交異方性を有する単層板を積層した積層材料として利用されることが多く、機械構造部材の設計において異方性理論や積層理論の知識は欠かせないものとなる。本講義では、積層材料として用いられることが多い異方性平板（2次元）の弾性力学的取り扱い方法について講義する。	
		材料工学特論Ⅰ	機械構造物は、種々の材料の組み合わせにより製造されている。機械構造物の耐久性は、それを構成する材料の性質に強く依存する。機械構造物を設計するためには、材料の性質に関する幅広い専門知識が必要である。本講義では学部で学んだ機械材料に関する専門知識を元に、材料の構成要素、結晶性固体の構造および材料の微細組織に関する講義を行う。さらに、拡散、相変態および状態図に関する講義を行う。これらの講義を通して、機械材料に限らず、様々な材料の性質や強度を制御するための専門知識を理解することが目的である。	
		材料工学特論Ⅱ	機械構造物は、種々の材料の組み合わせにより製造されている。機械構造物の耐久性は、それを構成する材料の性質に強く依存する。機械構造物を設計するためには、材料の性質に関する幅広い専門知識が必要である。本講義では学部で学んだ機械材料や材料強度学に関する専門知識を元に、材料の強化機構を転位の運動の観点から理解することを目指した講義を行う。さらに、鉄鋼材料の微細組織と強度、鉄鋼材料の組織制御に関する講義を行う。これらの講義を通して、機械材料に限らず、様々な材料の性質や強度を制御するための専門知識を理解することが目的である。	
		ロボット工学特論Ⅰ	本講義では、ロボット要素であるセンサとアクチュエータ、およびロボットアームの運動学について詳説する。ロボットを設計し駆動するためには、センサとアクチュエータの知識と理論的な背景の理解は欠かせない。そこで、本講義では、主要なセンサの原理、および、代表的なアクチュエータであるDCモータの特性とその制御方法について解説する。また、ロボットアームの運動学はロボット工学の根幹をなす理論である。特に3次元における運動学および逆運動学の理解は、ロボットの運動解析には必須であると言える。本講義ではその導出過程およびその適用方法を解説する。	
		ロボット工学特論Ⅱ	本講義では、ロボット工学Ⅰで学んだことを基礎に、ロボットアームの動力学について詳説する。ロボットの動力学は主にラグランジュ法とニュートンオイラー法に大別される。ラグランジュ法は解析力学と呼ばれる分野の方法であり、まずこれを基礎から解説する。そして、それを基にロボットアームの動力学方程式を導出する。次に、ニュートンオイラー法により動力学方程式を導出し、それがラグランジュ法で導出した方程式と同じであることを確認する。さらに、ロボットアームの制御理論について概説する。	

別記様式第2号（その3の1）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（先端理工学研究科　先端理工学専攻　修士課程）

特論	応用化学コース科目	先端理工学研究（応用化学コース）	（概要） 修士課程の学生が大学院での履修・研究を行うために必要な化学の基本と応用についてそれぞれの教員が講述する。担当する教員の専門分野における最新の成果を紹介するとともに、その成果がどのような発想から展開され達成されたかを詳しく説明する。学問の本質に迫る種々の実例から、2年間の修士論文研究の実践に役立つ研究指針を得ることができる。 （オムニバス方式／全8回） （1　青井　芳史／0.5回） 無機機能性材料に関する先端的な研究紹介を行う。 （4　岩澤　哲郎／1回） 有機合成化学に関する先端的な研究紹介を行う。 （5　内田　欣吾／0.5回） 有機機能材料化学に関する先端的な研究紹介を行う。 （7　大柳　満之／0.5回） 固体化学に関する先端的な研究紹介を行う。 （13　河内　岳大／1回） 高分子精密合成に関する先端的な研究紹介を行う。 （30　富﨑　欣也／0.5回） 生体機能関連化学に関する先端的な研究紹介を行う。 （31　中沖　隆彦／0.5回） 高分子材料化学に関する先端的な研究紹介を行う。 （36　藤原　学／0.5回） 機器分析化学に関する先端的な研究紹介を行う。 （42　宮武　智弘／0.5回） 生物有機化学に関する先端的な研究紹介を行う。 （50　小寺　康博／1回） 固体物性化学に関する先端的な研究紹介を行う。 （65　糟野　潤／1回） 電気化学分析に関する先端的な研究紹介を行う。 （68　白神　達也／0.5回） コンクリート・セメントに関する先端的な研究紹介を行う。	オムニバス方式
		生物化学特論Ⅰ	生体にみられる様々な分子の構造や性質、および生体内での役割について考え、生体分子が有している特異的な分子構造ならびに性質について講義形式で解説するとともに、受講生はそれについて深く考え、自らの考えを取りまとめる。糖、アミノ酸・タンパク質、核酸、脂質のそれぞれについて、その分子の構造的な特徴と、そこから導かれる物理的・化学的な性質を、化学の知識とむすびつけながら考えることで、生命の長い歴史の中で選択されてきた生体分子の本質を理解し、それを説明できるようになることを目指す。	
		生物化学特論Ⅱ	生体分子は、分子集合体を形成することで機能発現している。本講義では、こうした生体分子の「超分子化学」について講義形式で解説するとともに、受講生はそれについて深く考え、自らの考えを取りまとめる。分子そのものが有している、様々な種類の分子間の相互作用を、特異的な分子構造をもつ生体分子に当てはめて考え、生体分子がつくる高次な分子集合体の構造、およびそれらが持つ性質や機能を考察する。生体分子が特異的に集合した系を考え、分子が集積化した生体組織の仕組みを分子レベルで考えることができるようになることを目指す。	
		電気化学特論Ⅰ	電気化学は、溶液論、電極論を中心とした理論の組み立てに始まり、物理化学を基礎として、無機化学、有機化学、分析化学、生化学といったあらゆる化学の諸分野と密接に関係している。また、酸化還元反応に伴って生じる電子移動反応は生命科学の根幹をなしており、電気化学の概念は生命現象の解明やそれを模した応用展開においても非常に重要である。本講義では、電気化学の基礎となる電解質溶液論、電極電位、（ネルンスト式）、電極反応速度について学修し、溶液論および電極論の原理について理解することを目指す。	
		電気化学特論Ⅱ	電気化学は、電気エネルギーと化学エネルギーの変換を扱う分野である。エネルギー変換の技術は、電池、めっき、工業電解、半導体、センサーなど工業面でも広く関与しており、資源・環境問題等の観点からも電気化学のこれらの分野に対する重要性は増している。本講義では、関連科目である電気化学特論Ⅰの基礎概念に基づいて、電気化学関連の測定法や実用的手法・技術について講義する。	

別記様式第2号（その3の1）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（先端理工学研究科　先端理工学専攻　修士課程）

特論	応用化学コース科目	生体分子工学特論	生体システムは、長い進化の過程で高効率・高選択的な化学反応の時空間制御メカニズムを獲得してきた。そのような優れた生体機能に関する課題に取り組むためには、生体分子の構造と機能との関連性を分子レベルで理解することが重要である。本講義では、生体システムを構成するアミノ酸、ペプチド、タンパク質（酵素を含む）、核酸の生体分子の構造と物理化学的性質を理解するとともに、それらの調製法について学修する。また、関連科目であるバイオ計測工学特論を受講することで、生命現象の理解に大いに役立つ。	
		バイオ計測工学特論	生体システムは、長い進化の過程で高効率・高選択的な化学反応の時空間制御メカニズムを獲得してきた。そのような優れた生体機能に関する課題に取り組むためには、生体分子の構造と機能との関連性を分子レベルで理解することが重要である。本講義では、関連科目である生体分子工学特論で学修した生体分子の特徴を活かして、生命現象の根幹である分子間相互作用を検出するバイオ計測技術について学修する。	
		有機合成化学特論Ⅰ	授業形態は、対面とオンライン（ライブ・オンデマンド）形式を併用する予定である。目標は、有機化学反応や有機化合物合成の反応機構について、有機電子論に基づいた電子の動き中心に据えて、基礎事項を習得することに据える。また、グリーンケミストリーの観点から、電子の動きを効率よく動かしたり、反応剤の添加によって円滑に変換反応が進行したりする経路を考えることが重要であることについても学ぶ。講義計画として、矢印の動かし方の基本的事項から始めて、有機化学の教科書で取り上げられている基本的な反応や反応剤を中心に講述する。	
		有機合成化学特論Ⅱ	授業形態は、対面とオンライン（ライブ・オンデマンド）形式を併用する予定である。目標は、有機化学反応や有機化合物合成の反応機構について、有機電子論に基づいた電子の動きだけでなく、軌道論にも基づいたメカニズムを学ぶことにも据える。また、大学研究者だけではなく、企業研究者の立場からの合成化学的応用についても紹介して、実際のプロセス化学現場における物質合成についても学ぶ。講義計画として、歴史的に有名な反応の機構を解説しつつ、最近の反応や化合物合成までをカバーした内容のメカニズムについても講述する。	
		高分子機能科学特論Ⅰ	高分子特有の性質、すなわち高分子性が、繰返し単位の化学構造のみならず、連結様式やその集合状態とのかかわりのもとで、どのように理解されるかについて詳説し、高分子の精密分子設計に必要な専門知識ならびに考え方を教授する。一次構造制御を目指した精密高分子合成について述べ、その複雑な分子構造の特性解析について解説する。さらに、分子鎖のコンフォメーション（二次構造）から高次構造に至る集合状態までの階層構造制御について述べ、それらが発現する機能について詳述する。	
		高分子機能科学特論Ⅱ	ガラス転移温度や粘弾性、ゴム弾性など、高分子特有の熱的及び力学的性質について述べ、それらと構造との相関について詳述する。特に、構造解析と物性評価では様々な分析装置を使用することから、測定原理からデータの取り扱いまでを解説する。本講義では、階層的な高分子の構造と各諸物性との相関を総合的に理解し、要求される物性を得るためにはどのような分子設計を行うべきかに関する系統的な知識およびデザイン能力・説明能力を身につけることを目指す。	
		固体物性化学特論Ⅰ	本講義では材料の色及び光学物性そして熱的物性について、教科書「Physical Properties of Materials」を用いて講述する。材料の色及び光学物性そして熱的物性は、見た目や触るなどの感覚的に違いが分かりやすく、理論とうまく関連付けながら講義を行う。物性だけではなく、物性と結晶・微細構造、そして各種製造プロセスの関係の理解を深めるように議論する。さらに、今講義で取り扱う材料の国際マーケットや業界の動向などについてもカバーする。英語コミュニケーション能力の向上をめざし、英語でのグループディスカッションを行う。	
		固体物性化学特論Ⅱ	本講義では材料の電気及び磁気物性そして機械的物性について、教科書「Physical Properties of Materials」を用いて講述する。材料の電気及び磁気物性は直感的に見た目ではわかりにくいが、測定データを用いて理論が身につきやすいように講義を行う。物性だけではなく、物性と結晶・微細構造、そして各種製造プロセスの関係の理解を深めるように議論する。さらに、今講義で取り扱う材料の国際マーケットや業界の動向などについてもカバーする。英語コミュニケーション能力の向上をめざし、英語でのグループディスカッションを行う。	
		固体化学特論Ⅰ	無機固体材料の作製には、各種の化学プロセスが使われる。これらの学問的基盤の一つである固体化学を通して、無機材料のプロセッシングについて論じる。まず、固体化学に関連する熱力学の第1法則と第2法則の内実を復習し、多成分多相系の平衡条件からギブスの相律を検討する。次に2成分系における混合による自由エネルギー、エタルロピーとエントロピー変化から、混合に基づく熱移動が無視できる系や熱移動が発生する系において、混合によるエントロピー増大に基づく自由エネルギーの低下と相平衡状態図との関係を幾つかの典型的なパターンに分けて講述する。また、焼結現象の熱力学や動力学、固体の欠陥の化学についても説明する。	

別記様式第2号（その3の1）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（先端理工学研究科　先端理工学専攻　修士課程）

特論	応用化学コース科目	固体化学特論Ⅱ	無機固体材料の特性は、各種の固体における原子やイオンの拡散により生成する組織、物性などが大きく関わる。固体化学特論Ⅰでは、基礎科学をベースにこれを論じたが、固体化学特論Ⅱでは、材料科学への入門書として米国を中心に世界的にも知られている「Introduction to Materials Science for Engineer」を基に固体材料の機械的性質、熱的性質、破壊の解析、相平衡と組織、熱処理による速度解析などを論述する。テキストに掲載されている問題を用いて演習を行いながら、固体化学の理解を深める。	
		分析科学特論Ⅰ	最近の機器分析装置は、高機能化するとともに非常に簡便に使用できるようになっている。この中で固体表面を分析する場合が増えており、種々の表面分析が開発されている。本講義では、無機化合物を対象にした代表的に表面分析法について詳述する。エネルギー源（一次量子）ならびにそれに対する応答として得られる二次量子として光・電子・イオンなどが組み合わされて使われているが、それぞれの特徴を明らかにし、多くの実例を紹介しながら機器分析法としての評価を行う。	
		分析科学特論Ⅱ	本講義では、有機・高分子材料ならびに生体試料を対象にした代表的な分析法について講述する。無機化合物においては、X線との相互作用が強いためX線分析が最も多用されている。それに対し、有機化合物においてはX線分析から得られる情報は限られている。生体試料などにおいては、混合複雑系であり、前処理として分離操作を行う必要がある。これらの実例を通じて、対象とする試料に対し最適の機器分析法を選択し、そこから有用な情報を抽出するための解析法を講述する。	
		高分子材料工学特論Ⅰ	近代産業において高分子材料の発展は目覚しく、我々の身近なところにも高分子を材料とした様々な製品があふれかえっている。特に材料設計においてはミクロな視点から見た分子の凝集状態とマクロな物性は密接な関係があり、材料の機能化を行うに当たっては重要なファクターである。本講義では日常的な汎用高分子材料を中心に取り上げ、基礎的な材料設計の概念から応用技術、実用性について解説する。	
		高分子材料工学特論Ⅱ	「高分子材料工学特論Ⅰ」では基礎的な材料を扱うが、Ⅱでは応用範囲が広く、また特異な材料物性を示す材料について、最新の情報を交えながら解説する。トピックとしては、瞬間接着剤をはじめとする「接着剤」、海洋マイクロプラスチックの解決の糸口となる「生分解性プラスチック」、海水から真水を抽出する「逆浸透膜」、電気を通す軽量な素材の「導電性高分子」などについて、原理と実用化の現状について解説する。特に近年注目されているプラスチックと環境の問題との関連についての現状を交えながら考察する。	
		材料物性測定学特論Ⅰ	温度は基本単位の中で唯一、物性に準拠した単位であり、その測定には物性を利用することが不可欠である。この講義ではまず温度概念および温度目盛について説明し、それがもっとも本質となる測定である熱分析、熱測定について実例を挙げて説明を行う。また、温度依存性を測定することが必要ないくつかの物性測定について説明を行い、特に固体について構造と物性の関連について説明する。講義形式は対面あるいはオンデマンドで行い、評価はレポートとテストで行う。学習到達目標としては、物性と構造についての温度変化を中心とした関係に関する理解を目標とする。	
		材料物性測定学特論Ⅱ	材料の物性は定量的に評価されるべきものであり、同じ材料でもその使用目的により評価法は異なる。知りたい物性と他の物性との間に強い相関がある時に、思わぬ本質的関連があるものである。この講義ではⅠの内容の続きに加え、院生に教えて欲しいテーマを募り、その講義を行う。カント流"物自体"のとらえ方は今も有効性を失ってはいない。講義形式は対面あるいはオンデマンドで行い、評価はレポートとテストにて行う。学習到達目標としては、自身の課題解決につながる知識を積極的に掴むことを目標とする。	
		無機機能材料化学特論Ⅰ	セラミックスをはじめとする無機物質は、現在様々な場面 において機能性材料として利用されている。これら無機物質を機能性材料として利用するためには、その物質の各種物性のみならず、その構造はいかに制御して機能性を付与するか、またその物質をどのような形態（バルク体、粉体、薄膜等）で利用するかといったことも問題となってくる。 本講義では、特に炭素材料について取り扱い、炭素の持つ多様性の起源について講義し、その後多様な構造を有する炭素材料の特性、応用例、作成法について詳細に講義する。この講義を学ぶことにより、無機機能性材料に関して、その特性、作製プロセス、分析・解析について理解し、身につけることが出来る。	

別記様式第2号（その3の1）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（先端理工学研究科　先端理工学専攻　修士課程）

特論	応用化学コース科目	無機機能材料化学特論Ⅱ	この講義では、特に薄膜という形態を有する材料に着目し、それら材料の作製プロセスの基礎となる、真空工学・プラズマ工学について解説し、その後具体的な薄膜作成プロセスについて講義する。また、各種薄膜材料の分析法について、光電子分光法、オージェ電子分光法、電子エネルギー損失分光法、電子顕微鏡法等についてその原理について学部での取り扱いよりも詳細な講義をする。この講義を学ぶことにより、無機機能性材料に関して、その特性、作製プロセス、分析・解析について理解し、身につけることが出来る。	
		有機機能材料化学特論Ⅰ	現在の有機機能材料化学の発展に伴い、有機材料の基本を学ぶことは重要である。本講義では、有機機能材料化学でいう機能材料とは何かという考え方から、近年発展している有機機能材料について概説する。さらに光機能に特化するため、光化学の基本を復習するとともに、代表的な光機能材料について述べる。光スイッチの研究や、実用化された有機ELや液晶は代表的な有機機能材料でありこれらに関する原理や応用について解説する。	
		有機機能材料化学特論Ⅱ	有機機能材料の中で光を用いる機能材料の発展は著しい。フォトクロミック材料は、2000年までに分子レベルの記録材用のデバイスとしての応用が期待されたが、現在は、多彩な光応答材料として発展している。有機機能材料化学特論Ⅱでは、有機結晶の光応答について、詳しく解説する。結晶の光屈曲、光分解、相転移、などの多彩な応答は、今まで考えられなかった現象である。こういった最新の研究について解説する。	
	環境科学コース科目	先端理工学研究（環境科学コース）	（概要） 修士課程の学生が大学院での履修・研究を行うために必要な環境学の基本と応用についてそれぞれの教員が講述する。担当する教員の専門分野における最新の成果を紹介するとともに、その成果が生まれるに至った着想から研究計画立案、実施と研究発表、さらには社会にその知見をどのように生かしていくのかまで含めて研究事例を詳述する。基礎となる学問的研究からその応用に関わる種々の実例まで、2年間の修士論文研究の実践に役立つ研究指針を得ることができる。 （オムニバス方式／全8回） （9　奥田　哲士／0.5回） 環境計量に関する先端的な研究紹介を行う。 （15　菊池　隆之助／0.5回） 資源利用・活用に関する先端的な研究紹介を行う。 （16　岸本　直之／0.5回） 水質システム工学に関する先端的な研究紹介を行う。 （39　丸山　敦／0.5回） 水域環境学に関する先端的な研究紹介を行う。 （40　三木　健／0.5回） 理論生態学に関する先端的な研究紹介を行う。 （41　宮浦　富保／0.5回） 森林生態学に関する先端的な研究紹介を行う。 （48　岸本　圭子／0.5回） 環境動物昆虫学に関する先端的な研究紹介を行う。 （49　越川　博元／0.5回） 環境微生物学に関する先端的な研究紹介を行う。 （56　藤森　崇／0.5回） 環境影響評価に関する先端的な研究紹介を行う。 （59　山中　裕樹／1回） 環境DNA学に関する先端的な研究紹介を行う。 （61　横田　岳人／0.5回） 保全生態学に関する先端的な研究紹介を行う。 （63　浅野　昌弘／0.5回） 上下水道工学に関する先端的な研究紹介を行う。 （66　鎌倉　真依／0.5回） 植物生理生態学に関する先端的な研究紹介を行う。 （71　水原　詞治／1回） 廃棄物工学に関する先端的な研究紹介を行う。	オムニバス方式

別記様式第2号（その3の1）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（先端理工学研究科　先端理工学専攻　修士課程）

特論	環境科学コース科目	生産生態学特論Ⅰ	生産生態学では、生態系内での物質やエネルギーの流れを主な関心事としている。生態系内の物質やエネルギーの流れを知るためには、生態系内外で起こっている多くの事象を把握し、それらを統合することが必要となる。森林生態系を中心として、一次生産を左右する要因、群集内でのエネルギーの動き、成長とサイズ分布、バイオマスについて、測定方法、解析・分析・評価手法を講義し、生態系の構造と機能について深く理解できることを目指す。	
		生産生態学特論Ⅱ	生産生態学では、生態系内での物質やエネルギーの流れを主な関心事としている。生態系内の物質やエネルギーの流れを知るためには、生態系内外で起こっている多くの事象を把握し、それらを統合することが必要となる。森林生態系を中心として、遷移と更新、密度効果、Logistic理論、自然間引き、物質生産のプロセス、光合成理論などを講義する。生態系の構造と機能がどのように維持されているのかを主として物質生産の観点から深く考察する。	
		水道工学特論Ⅰ	わたしたちの日々の生活を営む上で必要不可欠な環境インフラである上水道(水道)の重要性を再度認識すると共に、同インフラを今後も利用するにあたり解決をしなければならない様々な課題等について、学生と共に考えていくことをめざす。水道工学特論Ⅰでは、水道の設置に関する歴史的背景と、わが国の水道の設置において必要となる基礎知識(水道法をはじめとした水道に関わる法律の整備状況・水道事業運営のための水道基本計画の企画と立案・(水道を構成する)各施設の設計指針)に関わる講義を行う。	隔年
		水道工学特論Ⅱ	水道工学特論Ⅱでは、国内に設置されている水道の状況(水道を構成する各施設の運用状況・様々な方法の下での上水処理の実施状況)についての解説を先ず行い、続いて、今日の水道が抱える様々な課題(給水人口の減少に伴う水道事業継続の難しさ・老朽化した(水道を構成する)各施設の更新あるいは耐震化・水道事業に関わる人材の新たな育成)について、事例を交えて紹介する。講義の終盤においては、これらの課題をどの様に解決をしていくべきかを、学生と共に考えていく。	隔年
		下水道工学特論Ⅰ	わたしたちの日々の生活を営む上で必要不可欠な環境インフラである下水道の重要性を再度認識すると共に、同インフラを今後も利用するにあたり解決をしなければならない様々な課題等について、学生と共に考えて行くことをめざす。下水道工学特論Ⅰでは、下水道の設置に関する歴史的背景と、わが国の下水道の設置に関わる基礎知識(下水道法をはじめとした下水道に関わる法律の整備状況・下水道事業運営のための流域別下水道整備総合計画ならびに下水道計画の企画と立案・(下水道を構成する)各施設の設計指針)に関わる講義を行う。	隔年
		下水道工学特論Ⅱ	下水道工学特論Ⅱでは、国内に設置された下水道の状況(下水道を構成する各施設の運用状況・様々な方法の下での下水処理の実施状況)についての解説を先ず行い、続いて、今日のわが国の下水道が抱える様々な課題(処理対象となる下水水量の減少に伴う下水道事業継続の難しさ・老朽化した(下水道を構成する)各施設の更新あるいは耐震化・下水道事業に関わる人材の新たな育成)について事例を交えて紹介する。講義の終盤においては、これらの課題をどの様に解決をしていくべきかを、学生と共に考えていく。	隔年
		水処理工学特論	水処理プロセスは浄水場や下水処理場のみならず、工場用水・排水処理などに用いられている。また、水の再生利用のためのキーテクノロジーとして、近年、その重要性が高まっている。本科目では、水質管理・水質システム解析業務経験を有する教員が、現在用いられている水処理技術や研究開発が進められている水処理技術の特徴や仕組みを講述するとともに、それらを体系的に整理し、演習を通じて合理的水処理プロセス設計の考え方を習得する。	
		物質移動現象特論	自然環境における生物・物理・化学作用や環境装置内で起こる様々な現象は物質変化や外界との物質移動を伴う一つの系(環境システム)として捉えることができる。本科目では、水質管理・水質システム解析業務経験を有する教員が、環境システムを定量的に記述・解析するための基本的考え方および手法について、特に物質拡散移動現象（拡散方程式、境膜モデル、球からの拡散、均質膜中の拡散、荷電粒子の拡散など）に焦点を当てて講述するとともに、演習を通じて講述した知識の定着を図る。	
		多様性生物学特論Ⅰ	生物多様性の認識の基本は種多様性であるが、種を分類するとはどういう意味を持つのか、種分類を通じて系統関係をまとめ上げる考え方についての理解を得ることを目的に、分類学の歴史を紐解きながら、講義形式の授業で教授する。種と種の違いを認識する中で、種内の同一性の範囲を確認してまとめ上げる作業が種を分類する作業となる。分ける事とまとめる事を同時に行うのが分類の本質であることを理解して、生物分類の特徴を把握するのが、この科目の目標である。	隔年

別記様式第2号（その3の1）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（先端理工学研究科　先端理工学専攻　修士課程）

特論	環境科学コース科目	多様性生物学特論Ⅱ	保全生物学を、生物多様性を理解し保全するための科学と位置づけ、保全生物学の成立から、希少種や普通種の保全、生態系の保全、進化プロセスの保全、そして生態学的復元についての理論と実践を事例を紹介しながら講義する。生態系保全の実例を可能な限り個々の学生の研究テーマと関連付けて紹介し、保全生物学の営みと各自の研究内容を関連付けて理解することがこの科目の目標である。	隔年
		保全生物学特論Ⅰ	保全生物学を、生物多様性を理解し保全するための科学と位置づけ、保全生物学の成立から、希少種や普通種の保全、生態系の保全、進化プロセスの保全、そして生態学的復元についての理論と実践を事例を紹介しながら講義する。保全生物学は目的を持った学問であり、保全という価値を織り込んだ学問である。そのため、生物科学に加えて倫理基準や政策決定などの社会科学的側面が重要となる。そのような学問の特性を理解し、深い専門性と幅広い教養の必要性を理解するのがこの科目の目標である。	隔年
		保全生物学特論Ⅱ	保全生物学を、生物多様性を理解し保全するための科学と位置づけ、保全生物学の成立から、希少種や普通種の保全、生態系の保全、進化プロセスの保全、そして生態学的復元についての理論と実践を事例を紹介しながら講義する。生態系保全の実例を可能な限り個々の学生の研究テーマと関連付けて紹介し、保全生物学の営みと各自の研究内容を関連付けて理解することがこの科目の目標である。	隔年
		生態学とその周辺の先端分析に関する特論Ⅰ	生態学および環境学全般における重要な学説がどのように検証されてきたか、とりわけ、どのような分析方法が活用されたかを概観し、生態学的自然現象のより深い理解を目指す。特に、近年注目されている先端技術（安定同位体分析、環境DNA分析ほか）を用いた生態学的研究について紹介する。主に、食物網や生物群集の研究を中心とした生態学を扱うが、受講生が大学院で取り組む研究との関連を重視し、受講生による主体的な発表と議論も求める。	隔年
		生態学とその周辺の先端分析に関する特論Ⅱ	生態学および環境学全般における重要な学説がどのように検証されてきたか、とりわけ、どのような分析方法が活用されたかを概観し、生態学的自然現象のより深い理解を目指す。特に、近年注目されている先端技術（安定同位体分析、環境DNA分析ほか）を用いた生態学的研究について紹介する。主に、生活史や個体群の研究を中心とした生態学を扱うが、受講生が大学院で取り組む研究との関連を重視し、受講生による主体的な発表と議論も求める。	隔年
		生態学における実証とデータ解析に関する特論Ⅰ	生態学および環境学全般における重要な学説がどのように検証されてきたか、とりわけ、どのようなデータ解析方法が活用されたかを概観し、生態学的自然現象のより深い理解を目指す。特に、実証研究などで重要な統計学的検定について具体的に紹介しあうことで、実践的な知見の共有を目指す。主に、生活史や個体群の研究を中心とした生態学を扱うが、受講生が大学院で取り組む研究との関連を重視し、受講生による主体的な発表と議論も求める。	隔年
		生態学における実証とデータ解析に関する特論Ⅱ	生態学および環境学全般における重要な学説がどのように検証されてきたか、とりわけ、どのようなデータ解析方法が活用されたかを概観し、生態学的自然現象のより深い理解を目指す。特に、実証研究などで重要な統計学的検定について具体的に紹介しあうことで、実践的な知見の共有を目指す。主に、食物網や生物群集の研究を中心とした生態学を扱うが、受講生が大学院で取り組む研究との関連を重視し、受講生による主体的な発表と議論も求める。	隔年
		環境生態学特論ＡⅠ	生物の分布は人為的な影響も含めた環境要因に応答する形で決定される。分布の変化が起こる過程には、環境条件の変化による生物の生理学的状態や行動様式の変化というより短時間の応答が介在しており、そのメカニズムの理解は環境変化とその帰結を結び付けて捉えるために不可欠である。本科目では生物の生理状態や行動の調査手法やデータの解析技術について手法や理論の基礎について講述するとともに、最新の研究例を参照して受講生による紹介と議論によって理解を深める。環境要因と生物の生理・行動の関連性について適切に調査する方法論を身に着ける。	隔年
		環境生態学特論ＡⅡ	生物の分布は人為的な影響も含めた環境要因に応答する形で決定される。分布の変化が起こる過程には、環境条件の変化による生物の生理学的状態や行動様式の変化というより短時間の応答が介在しており、そのメカニズムの理解は環境変化とその帰結を結び付けて捉えるために不可欠である。本科目では生物の生理状態や行動の調査手法やデータの解析技術について手法や理論の基礎について講述するとともに、演習によって環境要因との関連性を明らかにするデータ解析手法を習得する。環境要因と生物の生理・行動の関連性について適切に記述する方法論を身に着ける。	隔年
		環境生態学特論ＢⅠ	生物の分布は人為的な影響も含めた環境要因に応答する形で決定される。生態学的研究やその応用である保全生態学および資源管理学においては生物の分布情報は最も基礎となる情報であり、本科目では生物分布の調査手法やデータの解析技術について手法や理論の基礎について講述するとともに、最新の研究例を参照して受講生による紹介と議論によって理解を深める。環境要因によって規定される生物分布について適切に調査する方法論を身に着ける。	隔年

別記様式第2号（その3の1）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（先端理工学研究科　先端理工学専攻　修士課程）

特論	環境科学コース科目	環境生態学特論ＢⅡ	生物の分布は人為的な影響も含めた環境要因に応答する形で決定される。生態学的研究やその応用である保全生態学および資源管理学においては生物の分布情報は最も基礎となる情報であり、本科目では生物分布の調査手法やデータの解析技術について手法や理論の基礎について講述するとともに、演習によって環境要因との関連性を明らかにするデータ解析手法を習得する。環境要因によって規定される生物分布について適切に記述する方法論を身に着ける。	隔年
		数理モデリング特論Ⅰ	生態学における数理モデリングとは研究すべき対象、対象の特定の振る舞い、それを説明するための問いとその問いに対する理論的な回答を与えるための研究手法であり、生態学理論の一部を成すものである。本科目では、主要な生態学理論の土台となる標準的モデルに関して、モデリングの課程を詳細に解説するとともにRプログラミングを用いて数理モデルを数値的に分析する手法についての理解を目指す。講義に加えて適宜演習を行うことによって自ら数理モデルを開発する基盤となる知見の習得が到達点である。	隔年
		数理モデリング特論Ⅱ	生態学における数理モデリングとは研究すべき対象、対象の特定の振る舞い、それを説明するための問いとその問いに対する理論的な回答を与えるための研究手法であり、生態学理論の一部を成すものである。本科目では、受講者自らが研究すべき対象、対象の特定の振る舞いを選定し、それを説明するための問いと仮説を立てるプロセスと仮説について理論的検証するための新しい数理モデルをゼロから作る方法の理解を目指す。その方法を講義により解説するとともにその知見を土台として受講者自らが数理モデリングを体験し、プレゼンテーションと受講者全員での討議によって数理モデリングに関する知見と経験を深めることが到達点である。	隔年
		理論生態学特論Ⅰ	生態学における理論とは、研究すべき対象、対象の特定の振る舞い、それを説明するための問いと問いに対する回答としての仮説がセットになったものである。本科目では、生態学の基盤をなす主要な理論的研究である個体群の安定性維持機構、生物多様性の創出・維持機構、生物と環境のフィードバック機構に関する古典的な論文の精読を行うとともに、現代の生態学においてどのように展開してきたかについて最新の知見も解説しながら、理解を深めることが到達点である。これにより生態学における理論の役割について俯瞰的な理解を目指す。	隔年
		理論生態学特論Ⅱ	生態学における理論とは、研究すべき対象、対象の特定の振る舞い、それを説明するための問いと問いに対する回答としての仮説がセットになったものである。本科目では、生態学の基盤をなす主要な理論的研究と受講者自らが取り組む研究分野・研究テーマの関係について、関連する最新の知見について学習するとともに受講者によるプレゼンテーションと受講者全員での討議を行う。これにより受講者の研究の意義や分野内での相対的位置について理解を深めることが到達点である。	隔年
		燃焼工学特論Ⅰ	燃焼は熱と光の発生を伴う酸化反応であり、燃焼により発生する熱エネルギーが様々な分野で利用されており、燃焼現象を化学的・物理学的側面から理解することを目指す。本科目では、各種燃料の特性や燃焼形態、燃焼反応といった基本的特性や燃焼工学で重要な燃焼計算などについて解説する。燃焼に必要となる燃料の種類、燃焼計算の方法などについては適宜演習課題を行うとともに、燃料の実際の使用事例など例題を取り入れながら講義を行う。	
		燃焼工学特論Ⅱ	燃焼は熱と光の発生を伴う酸化反応であり、燃焼により発生する熱エネルギーが様々な分野で利用されており、燃焼現象を化学的・物理学的側面から理解することを目指す。本科目では、燃焼に伴う有害物質の生成および低減技術、燃焼管理方法、汚染物質生成等の環境への影響などについて解説する。また、燃焼に伴う有害物質の生成や環境への影響について例題を取り上げながら解説するとともに、廃棄物の焼却処理および排ガス処理技術についても解説する。	
		資源利活用特論Ⅰ	資源枯渇は昨今の世界的な関心事となっている。未利用・生物資源などの他に、廃棄物も適正処理すれば資源となりうる。こうした各種の資源の利活用は「持続的な開発」の統括的な解釈に基づけば、環境・理工学的な要素ばかりではなく、社会（経済）的・倫理的な要素も含まれる。資源利活用特論Iでは、社会（経済）的・倫理的な側面を主たるテーマとし、解説・ケーススタディー・演習などの授業を通して、「持続的な開発」の統括的な概念における資源利活用を理解することを到達目標とする。	
		資源利活用特論Ⅱ	資源枯渇は昨今の世界的な関心事となっている。未利用・生物資源などの他に、廃棄物も適正処理すれば資源となりうる。こうした各種の資源の利活用は「持続的な開発」の統括的な解釈に基づけば、社会学・経済的な要素の他に、環境・理工学的な要素との融合も必要となってくる。そこで、資源利活用特論IIでは、環境工学（環境配慮型・省エネ）やコストエンジニアリング的な側面を主たるテーマとし、解説・ケーススタディー・演習などの授業を通して、資源利活用に関連した理工学的な知識の習得を到達目標とする。	

別記様式第2号（その3の1）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（先端理工学研究科　先端理工学専攻　修士課程）

特論	環境科学コース科目	環境計量特論Ⅰ	環境計量は、自然や生活環境の状態を正しく把握し、共生や適切な管理のために重要であり、必須である。具体的には環境基準の実際の測定技術や管理などがあるが、本講義ではそれらの技術や管理法の概要を把握するとともに、関連する法規についても解説する。授業形態は講義形式を基本とするが、実際の分析機器に触れたり管理のための統計手法についての実習も行う。環境計量に関連する化学基礎と計量法を関連付けて深く理解することを目標とし、環境計量士試験合格の基礎となるレベルを目指す。	隔年
		環境計量特論Ⅱ	環境計量は、自然や生活環境の状態を正しく把握し、共生や適切な管理のために重要であり、必須である。具体的には環境基準の実際の測定技術や管理などがあるが、本講義ではそれらの技術や管理法の概要を把握するとともに、関連する化学についても復習する。授業形態は講義形式を基本とするが、実際の分析機器に触れたり計測を行う実習も行う。環境計量に関する法規と計量法を関連付けて深く理解することを目標とし、環境計量士試験合格の基礎となるレベルを目指す。	隔年
		資源循環工学特論	炭素や窒素、資源やエネルギーとそれらの＜移動＞や＜循環＞について、「持続可能社会」の要素となる「循環型社会」「低炭素社会」の物質フローについて考え、その後、定量的解析を行う。その定量化ツールとして有効な物質フロー分析（MFA：物質収支解析）の作成や様々な例、それらのデータを基にした指標も解説し、各種資料からデータを集めたり、それを集計や推計する実習も行う。さらに関連する論文調査、発表なども行い、スキルとしてMFAが身につくレベルを目指す。	隔年
		廃棄物処理技術特論	「持続可能社会」の要素となる「循環型社会」に関連する廃棄物の管理および処理技術について、最先端の技術や開発中の研究紹介も含めて解説する。対象とする廃棄物は、無機性の対象としてレアメタルを含有する家電などから、有機性のものとしては食品廃棄物まで幅広く取り上げ、技術についても生物、物理、化学の要素を含んだ網羅的な紹介を行なう。プロセスやフローについて、また、システム、ITを用いた管理法なども取り上げるとともに、将来の廃棄物やその処理方法について議論する。廃棄物やリサイクルにかかわる技術を幅広く理解し、対象により選定できるレベルを目指す。	隔年
		環境影響評価特論Ⅰ	環境影響の予測、評価の技術を身につけるために発表・討論する。「環境影響評価」の学問的な枠組みに関する教科書的な理解だけでなく、実践的な調査活動を行う。大学院の科目として、受講生自身の研究課題と連動した問題解決能力の涵養を目指すことから、主体的な姿勢で環境影響評価に関わる文献調査や課題に取り組んでもらう。特論Ⅰでは、関連研究の調査、情報源の探索、課題設定を通じて、対象課題への理解を深める。	
		環境影響評価特論Ⅱ	環境影響の予測、評価の技術を身につけるために発表・討論する。「環境影響評価」の学問的な枠組みに関する教科書的な理解だけでなく、実践的な調査活動を行う。大学院の科目として、受講生自身の研究課題と連動した問題解決能力の涵養を目指すことから、主体的な姿勢で環境影響評価に関わる文献調査や課題に取り組んでもらう。特論Ⅱでは、課題対象についての発表・討論を実施し、それぞれの内容の相互関係の整理や最終まとめを行う。	
		環境微生物工学特論Ⅰ	環境中に存在する微生物はヒトにとって、有益な側面と微生物学的安全性の面から問題がある場合の両面性がある。このため、分子生物学的理解も必要になってきている。本授業では分子生物学的な実験とその事前説明、および事後の解説をおこない、理解と実験手技の向上を目指している。特論Ⅰでは、おもに大腸菌におけるタンパク質発現やその精製についておこなう。	
		環境微生物工学特論Ⅱ	特論Ⅱでも、実験とその前後の解説により、環境微生物学の分子生物学的な理解を中心に進めていく。本授業では、おもに遺伝子に関した実験を中心に進めていく。これにより単なる教科書的な知識の蓄積だけではなく、実感として分子生物学や遺伝子の取り扱いなどの経験を重ねていくことを目的としている。	
		環境動物昆虫学特論Ⅰ	地球上の生物種の半数以上を占める昆虫やその他の小型無脊椎動物は様々な生態系において他の生物や環境と相互に作用しながら生物群集・生態系を支えている重要なグループである。本科目は各生態系におけるそれら昆虫や動物と、人間活動との関わりに着目し、持続的な自然資源利用や生物多様性保全に必要な知識を身につけることを目標とする。各生態系とそれらの構成要素である昆虫・動物の生活史特性や機能、環境への応答様式について教科書や最新の研究成果を通じて学ぶ。	隔年
		環境動物昆虫学特論Ⅱ	地球上の生物種の半数以上を占める昆虫やその他の小型無脊椎動物は様々な生態系において他の生物や環境と相互に作用しながら生物群集・生態系を支えている重要なグループである。本科目は各生態系におけるそれら昆虫や動物と、人間活動との関わりに着目し、持続的な自然資源利用や生物多様性保全に必要な技術を習得する。各生態系とそれらの構成要素である昆虫・動物を対象にしたモニタリング手法について教科書や論文を通じて学ぶとともに、実地で調査を行う。	隔年

別記様式第2号（その3の1）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（先端理工学研究科　先端理工学専攻　修士課程）

特論	環境科学コース科目	動物生態学特論Ⅰ	将来ますます増えると予想される絶滅危惧種の保全や環境配慮事業、自然再生といった現場において、生態学の基本的な知識は不可欠である。本科目は、主に動物が関わる生物間相互作用や群集の維持機構に関する知識と、それらに関する学説への理解を深めるとともに、環境に関する諸問題に対して、生態学に立脚した考えを組み立てることができる力を身につける。主に生物間相互作用や群集の維持機構に関する最近の研究成果と応用事例について学ぶ。	隔年
		動物生態学特論Ⅱ	将来ますます増えると予想される絶滅危惧種の保全や環境配慮事業、自然再生といった現場において、生態学の基本的な知識は不可欠である。本科目は、主に動物が関わる生物間相互作用や群集の維持機構に関する知識を身につけ、それらに関する学説への理解を深めるとともに、環境に関する諸問題に対して、生態学に立脚した考えを組み立て論じることができる応用力を身につける。主に生物間相互作用や群集の維持機構に関する最近の研究成果と応用事例に関する研究論文を精読し、受講者によるプレゼンテーションと受講者全員による議論を行う。	隔年
演習	数理・情報科学コース	数理・情報科学演習	先端理工学基礎演習Ⅰ・Ⅱの内容をさらに進め、「数理・情報科学特別研究」における修士論文作成へ向け、指導教員の研究室において、専門分野の研究に関する演習・セミナーを行う。研究計画を立て、遂行し、進捗状況や成果を逐一報告する。この際、指導教員のみならず研究室のメンバーと相互に意見交換することにより、他者に正しく伝えるための説明技術を身につけると共に、自身の研究についての理解を深める。	
	知能情報メディアコース	知能情報メディア特別演習	修士課程2年生対象の科目である。「知能情報メディア特別研究」における修士論文作成へ向け、希望して所属する研究室の各指導教員によるきめ細かい指導の下で、研究テーマに関して、国内・海外の関連分野の調査を行い、特に海外の文献の理解、専門的な検討を通じて、知能情報メディア特別研究を行うための重要な指針を得ることを目指す。研究進捗にあわせて学会などで対外発表も行う。	
	電子情報通信コース	電子情報通信演習	修士課程1年次の先端理工学基礎演習Ⅰ・Ⅱに引き続き、「電子情報通信特別研究」における修士論文作成へ向け、さらに研究内容を深く進めていく。修士論文完成の年次でもあり、対外的に研究成果を発表し、成果に対する研究討論をするとともに評価を仰ぎながら、指導教員との間でより綿密な討論を行う。	
	機械工学・ロボティクスコース	機械工学・ロボティクス演習	修士1年次の先端理工学基礎演習Ⅰ、先端理工学基礎演習Ⅱに続く演習で、「機械工学・ロボティクス特別研究」における修士論文作成へ向け、研究内容をさらに高度なものとし、自身の専門性をより高められるようにする。修士2年次は修士論文完成の年度でもあり、研究成果に対する議論を深め、修士論文の完成を見据えたより綿密な指導を行う。	
	応用化学コース	応用化学演習	所属研究室の指導教員によるきめ細かい指導の下で、「応用化学特別研究」における修士論文作成へ向け、専攻分野や特別研究の関連分野・領域に関する国内外の学術論文や技術レポート等に関して、より高度で広範な調査・精読・分析・発表・討論を行う。これらのことを通じて、自らの特別研究の背景や意義、使用する実験手法・分析機器の原理などをより深く理解できるようになる。また、指導教員は、受講生が新しい研究課題を見つけ出し、「応用化学特別研究」においてそれに挑戦することを促す。	
	環境科学コース	環境科学演習	「環境科学特別研究」における修士論文作成へ向け、実施している研究について指導教員のみならず他の研究室メンバーと相互に意見交換することで、研究を深める助けとする。具体的には自らの研究の計画や進捗、結果の紹介を行うことで、他者に正しく伝わるデータの表現手法や説明する技術を身に着ける。調査・分析手法やデータ処理・統計解析の手法等について詳細に解説を行い、知識と技術の共有・交流を促進し、それぞれの研究計画や細かな手法について修正や新たな展開を進める機会とする。	

別記様式第2号（その3の1）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（先端理工学研究科　先端理工学専攻　修士課程）

特別研究	数理・情報科学コース	数理・情報科学特別研究	（概要） 設定したテーマについて修士課程の2年間を通じて研究を行い、修士論文としてその成果をまとめる。研究テーマに関連する調査、文献講読、実験、成果発表等を、自主的、計画的、具体的に実践できるように、指導教員からきめの細かい指導・助言を受ける。また、研究室内はもちろん、他の教員・研究者との議論を通じて理解を深め、得られた成果は修士論文や国内外の学会・研究会において発表する。修士課程を通じて培った専門知識を基礎に、未解決の問題・課題を見い出すことができるようになること、その解決をはかる方法を発見・考案することができるようになること、更に、得られた研究成果を学術論文としてまとめ発表することができるようになることを目標とする。 （2　飯田　晋司） 現象の数理モデリング、特に確率を含むモデルについて研究する。現象の示す統計的性質に個々のモデルの特質と普遍的な性質がどのように絡み合って現れるかを明らかにしたい。 （11　角川　裕次） 分散アルゴリズムや組み合わせアルゴリズムなどを中心に、アルゴリズムの設計、解析、シミュレーション評価実験等を理論的あるいは工学的側面から研究する。 （14　川上　竜樹） 偏微分方程式論、特に非線形拡散や異常拡散現象を記述する非線形放物型方程式の解の定性理論及びそれに付随する定常問題（非線形楕円型方程式）や変分問題の数学解析を行う。 （32　中野　浩） ソフトウェアおよびその開発に関する基礎理論(プログラミングの形式的取り扱い、プログラムの意味論、プログラミング言語の型理論、型付きラムダ計算など)に関する研究を行う。 （34　深尾　武史） 「ルベーグ空間」「シュワルツ超関数」「ソボレフ空間」などの既存の理論を学んだ上で抽象発展方程式論の非線形偏微分方程式への応用について研究を行う。 （37　馬　青） 自然言語で表現される情報や知識に焦点を当て、形態素解析や構文解析といった自然言語処理技術と、深層学習を代表とする機械学習や統計のアプローチに基づき、情報抽出や文書要約といった要素技術から、快適なネット社会の実現に資する応用まで、さまざまな言語処理課題に取り組む。 （38　松木平　淳太） 現象を記述する離散モデルの数理的構造について、数値計算、数式処理による手法を用いて研究する。研究の進捗状況によっては、理論的手法によって数理的構造を明らかにすることも目指す。 （44　村川　秀樹） 興味のある現象1つに焦点を絞り、その数理モデリングから数理モデルの解析、数値解析、数値シミュレーション、応用までを包括的に研究する。これらの方法の内、いずれかについて深く探求してもよい。 （53　高橋　隆史） 機械学習とその画像認識やコンピュータビジョン等の問題への応用をテーマとする。近年発達が著しい深層学習およびその延長線上にある手法と統計的パターン認識の手法を組み合わせた手法を検討する。 （55　樋口　三郎） 統計モデリングにより、確率的な多自由度系の性質を研究する。必要に応じて、数値的な手法の開発、データの取得・変換・可視化手法の開発、広く使用可能なシステムとしての実装を行う。 （58　山岸　義和） 離散集合の局所的な幾何学的性質について研究する。離散的な点集合としてはさまざまなものが考えられるため、それぞれの性質に応じた数学的枠組を利用あるいは構築して考える。適切な距離を与えることにより、パラメータ空間を構築することができる。これらを通して数論および幾何学における周辺分野の諸結果および諸問題に触れ、その関連について理解する。 （67　阪井　一繁） ある現象に注目して、そのメカニズムを表現する数理モデルを開発する。それは、教科書や他の論文の応用と考えればよいものもあるが、それでは現実とかけ離れしまうので新たなモデリング手法を考えなければならないかもしれない。計算機シミュレーションも駆使しながら自由な発想で試行錯誤しながら現象のモデリングに挑戦する。	

別記様式第2号（その3の1）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（先端理工学研究科　先端理工学専攻　修士課程）

特別研究	知能情報メディアコース	知能情報メディア特別研究	（概要） 修士課程2年間にまたがる科目である。希望して所属する研究室の各指導教員によるきめ細かい指導の下で、学部で学んだ基礎学問を究め、応用することを目的として、各自の研究テーマについて研究を行う。各研究課題については、それぞれ配属先研究室の専門の教員が指導にあたる。1年次の終わりには中間報告を行うとともに、2年次の終わりに最終的に研究成果を修士論文として提出し、修士論文公聴会において発表する。提出された修士論文は2名の教員による審査員によって審査される。 （12　片岡　章俊） 信号処理および機械学習の手法を用いて音声信号及び音響信号を対象として、収音・再生技術の課題に関する研究を行う。雑音や残響が存在する環境から会話の妨害となる雑音や残響を除去し、目的音声のみを高品質に抽出する収音技術や、空間上に仮想の音像を定位させる、あるいは特定のエリアだけ音が聞こえないような空間を作り出す再生技術を確立する。自ら問題設定し、その課題解決のための研究活動を通じて問題解決能力や、学会での発表を通じてプレゼンテーション能力の向上を図る。 （26　菅谷　至寛） 主に画像処理や画像認識・理解、センサ情報を活用した情報システムや、知能情報システムを実現するために必要となる人工知能アルゴリズムに関して、研究の実践のための指導、および論文指導を行う。自身の研究に関連する海外の文献を理解する能力、問題解決方法を自主的に解決する能力、および研究成果を発信・説明する能力を養う。 （33　野村　竜也） 学部で修得した知識や能力を基礎として、特定のテーマについて研究を行ない、課題を自主的に企画・設定する能力、課題の解決策を考案する能力、研究成果を発信・説明する能力を養う。開始1年後の中間発表における進捗状況報告に加え、学会等外部の場で研究結果の発表を行った上で、最終的には研究成果を修士論文としてまとめ、修士論文公聴会において口頭で発表する。研究内容は、担当教員の専門研究領域である「人とコンピュータ・人工知能・ロボットとの対話に関する実験心理学的研究および質問紙を用いた調査研究」を主題とする。また、実験のためのシステム構築とデータ分析を通してプログラミングおよび多変量解析の手法を習得する。 （35　藤田　和弘） 画像および劣化過程に対する数学モデルを仮定した上での劣化画像のパラメータ の推定および劣化画像復元に対する画像処理手法などの統計的信号処理手法を用いた画像処理についての研究指導を行う。画像の幾何学的な特徴量などに対するランダムフォレストやサポートベクトルマシンなどの手法による画像識別やディープラーニングを用いた画像識別および劣化画像復元、そして、アンサンブル学習を用いた画像識別などの機械学習手法を用いた画像の認識・識別および画像処理に関する研究指導を行う。 （43　三好　力） 修士課程では、学部で修得した知識や能力を基礎として、課題を自ら設定する能力、解決策を考案し実施する能力、及び学会等での発表を通じてプレゼンテーション能力の向上を図る。中間発表における進捗状況報告、学会等外部の場で研究結果の発表を行い、研究成果を修士論文としてまとめた上で、修士論文公聴会において口頭発表を行う。研究分野は、情報ネットワークと機械学習を中心に、知的情報処理の観点からアルゴリズム、情報システム設計、シミュレーション技術等に関する研究指導を行う。 （52　曽我　麻佐子） 特別研究に取り組むことによって、課題を自主的に企画・設定する能力、課題の解決方法を考案する能力、研究成果を発信・説明する能力を養う。学生の能力、興味、専門にしたい分野を踏まえて、主に3次元コンピュータグラフィックスまたは人体モーションに関するテーマを設定する。学外での研究発表を目標とし、定期的に進捗状況の確認およびディスカッションを行う。最終的に研究成果を論文としてまとめるための指導を行う。 （60　山本　哲男） 修士課程では、課題の解決方法を設計して実施する能力を養い、修士論文としてまとめて発表する能力を身につける。さらに、学外での発表を通じて、研究内容を説明できる能力を身につける。担当教員の研究分野はソフトウェア工学である。その中でも、プログラムの解析技術やテスト・デバッグ工程の支援環境に関する研究であるが、その工程と関連する研究内容を実施することも可能である。	

別記様式第2号（その3の1）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（先端理工学研究科　先端理工学専攻　修士課程）

特別研究	知能情報メディアコース	知能情報メディア特別研究	(62 吉見 毅彦) 人間の書き言葉や話し言葉を対象とした言語情報処理を研究テーマとして受講生は次の手順1。～7。に沿って研究を行う:1。長期目標(根本的課題)の検討、2。従来研究の問題点の調査、3。短期目標(研究目的)の設定、4。解決法の提案、5。解決法の検証実験、6。実験結果に対する考察、7。論文の執筆。これらを通じて問題発見能力や課題解決能力、成果発表能力などを身につける。 (64 奥 健太) 学部で学んだ推薦システムの基礎を軸とし、より高い専門性を修得しながら、自身の興味を深く掘り下げていく。興味のあるドメインを対象とした推薦システムを研究テーマとして設定する。学術論文や国際会議論文を調査しながら、そのドメインにおける研究課題を把握し、自身の研究の位置付けを明確にする。指導教員と定期的な研究ミーティングを積み重ね、研究を進めていく。他大学との合同研究会において研究の進捗状況を報告し、そこでの議論を踏まえ、研究内容をブラッシュアップしていく。研究の成果を学会発表や論文誌への論文投稿を通じて公表し、学術的な貢献を目指す。 (73 渡邉 靖彦) ソーシャルネットサービス(SNS)でやりとりされるメッセージや集合知によって生み出されたテキストなどを対象に、言語メディアデータの収集およびそれらの機械学習や統計解析による分析に関して、研究の実践・指導を行い、自然言語処理やメディア解析についての論文指導を行う。また、保健管理センターや学生支援室と連携して、携帯情報端末を利用した学習支援システムに関する研究指導を行う。研究成果は国内外で積極的に発表するように指導する。	
	電子情報通信コース	電子情報通信特別研究	(概要) 修士課程2年間を通じて、修士論文を完成させるための研究の全過程を担当教員が指導するものである。修士課程の各学年の固有テーマに関して、日常的に、研究経過、実験成果、文献調査内容などの報告について、研究指導を行う。 (3 石崎 俊雄) 学部で修得したマイクロ波工学の知識に基づき、更なる高度な研究テーマについて解析、実験、考察を行い、それらの研究結果を修士論文にまとめる。研究テーマはマイクロ波通信デバイス、ミリ波通信システム、マイクロ波加熱システム、無線電力伝送システムに関する研究である。このような研究を通じて、課題の解決方法を修得し、あらゆる技術課題に対するアプローチの仕方を身に付ける。 (10 海川 龍治) 薄膜太陽電池などの研究を修士課程2年間を通じて、修士論文を完成させるための指導をする。修士課程の各学年の固有テーマに関して、日常的に、研究経過、実験成果、文献調査内容などの報告について、研究指導を行う。 (17 木村 昌弘) 機械学習、データマイニング、Web情報学、複雑ネットワーク科学、知能情報学に関わる研究分野において、数理モデリングを土台としたソーシャルデータ分析の研究を指導する。修士課程2年間を通じて、修士論文を完成させるための研究の全過程を指導するものである。修士課程の各学生の固有テーマに関して、日常的に、研究経過、実験成果、文献調査内容などの報告について、研究指導を行う。そして、研究成果を国内の研究会や国際会議で発表することを目指す。 (18 木村 睦) 薄膜デバイス・ニューロモーフィックシステムを研究テーマとして、(概要)に記載の内容を行う。薄膜デバイスは、今後のエレクトロニクスを支える半導体デバイスとして、おおいに期待されているものであり、また、ニューロモーフィックシステムは、人工知能をハードウェアで実現する試みであり、未来の社会のキーテクノロジとなるべきものである。これらの研究に携わることは、学生にとっておおきなメリットとなる。 (19 小堀 聡) 人間のさまざまな生体機能、すなわち生理的な反応から知的な機能までの機構を、被験者実験やシミュレーションなどにより総合的に解析する手法について研究指導を行う。具体的には、人間の基本的な動作の学習と視覚系との関係、問題解決や記憶・学習といった知的機能の解析に焦点を当てた研究を対象とする。また、それらの研究をもとに実用的なシステムを構築することも目指す。 (28 張 陽軍) 学部で履修した電子通信情報学の知識に基づき、更なる高度な研究テーマについて解析、実験、考察を行い、それらの研究結果を論文にまとめる。また、研究成果を発表会において発表する。研究テーマはマイクロ波通信デバイス、高周波応用システム、電磁界シミュレーション、マイクロ波計測に関する研究となる。このような研究を通じて、課題の発見方法を理解し、文献調査や実験評価、理論考察などの問題解決の能力を修得するとともに、科学技術論文の作成を着実に推進する。	

別記様式第2号（その3の1）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（先端理工学研究科　先端理工学専攻　修士課程）

特別研究	電子情報通信コース	電子情報通信特別研究	(45 山本 伸一) 原子・分子領域の基礎レベルから製造技術開発に至るまで、持続可能な社会構築に関連するあらゆる科学技術を広汎に取り扱うことで、総合的な融合教育研究を実施する。学生一人ひとりが、現代の科学と技術の最新のかつ未解決の問題に取り組み、自ら解を見出していく方法を身につけることを目指す。各自固有テーマに関して、研究経過、実験結果、文献調査などの報告についての研究指導を日々行う。 (46 植村 渉) 可視光通信の分野において、変調方式といった基礎的な研究から応用に関する研究まで幅広い範囲で研究テーマを設定して研究を行う。また、ロボットの制御に関する研究も同様に行い、移動式ロボットやアーム型ロボットを対象として、強化学習の適用を目指す。国内の研究会での発表から始まり、国際学会にて成果を発表し、最終的に修士論文としてまとめる。そのために日常的に研究経過、実験成果、文献調査内容などの報告を通して、研究指導を行う。 (51 酒田 信親) 人間とコンピュータのインタラクションシステムに関し、人間がどのように外からの情報を取り入れ・処理し・出力をしているかを理解し、コンピュータから人間への情報伝達手法に関して要素技術が存在し、そしてどのように発展してきたかを把握し、それらに基づいて新たなコンピュータインタラクションシステムの研究を実践する。これらの過程で、文献調査、研究進捗報告、学会発表、論文執筆を通じて研究指導を行う。 (57 宮戸 祐治) 計測工学に関わる分野において、ナノスケール物性評価および分析手法の開発を主な研究テーマとして研究活動を行う。日常的に、実験結果の整理および研究進捗報告、文献調査内容などの発表を通じて、研究指導を行う。こうして得られた研究成果を学会発表や学術論文誌に投稿することを目指す。 (69 中川 晃成) データサイエンスとその関連領域について広く研究対象とする。単なる個別事例の検討や分析にとどまらず、その固有性における普遍を析出することも視野に入れて、中長期的な視点や空間的に広範な視点に立ち、対象についてのより総合的な把握を目指す。あわせて、こうした研究活動の持つ俯瞰的・学際的な立脚点が関連諸分野の活性化にも資することも企図する。修士課程の各人の固有テーマに関する研究経過や文献調査などの報告についての研究指導を行う。	
	機械工学・ロボティクスコース	機械工学・ロボティクス特別研究	(概要) 修士課程2年間を通じて、所属する研究室の各指導教員の下で、各自の研究テーマについて研究を行い、修士学位論文を完成させる。各研究テーマに関して、配属先研究室の教員に日常的に研究の進捗や課題などの報告を行い、議論の上研究を進める。1年次の終わりには中間報告を行うとともに、2年次の終わりに最終的に研究成果を修士論文として提出し、修士論文公聴会において発表する。提出された修士論文は2名の教員による審査員によって審査される。 (6 大津 広敬) 宇宙飛行体や航空機、流体機械に関連した様々な流体モデルについて考究し、数値流体解析技術や風洞実験における流れの可視化などを用いて、飛行体の空力特性、流体機械の効率向上に関する課題の研究指導を行う。 (8 小川 圭二) 生産加工技術やそのシステムを機械加工とレーザ加工の観点から考究し、切削動力や温度などの精密計測技術や電子顕微鏡などによる表面分析技術を用いて、生産加工技術やシステムの開発に関する課題の研究指導を行う。 (20 譽田 登) 鉄鋼材料、非鉄金属材料、ガラス、樹脂などの構造材料の破壊メカニズムを解明することにより、材料強度評価の観点から、破壊駆動力ならびに破壊抵抗力を解析し、強度健全性を改善する研究指導を行う。 (21 坂上 憲光) フィールドでの活用を目指すロボットやその要素技術を対象に、基礎理論の構築、数値解析や制御シミュレーションを行い、実現可能性を確認した上で、ハードウェアを設計・製作し、その有効性を実験的に検証する。この一連の研究活動を通してロボットに関する知識と技術を身に付ける。 (22 左近 拓男) 機能性磁性材料の磁気的・力学的性質を磁気測定や力学的測定により実験的に導き出し、それらの磁気的機能性や力学的機能性についての特徴を導き出す課題についての研究指導を行う。	

別記様式第2号（その3の1）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（先端理工学研究科　先端理工学専攻　修士課程）

特別研究	機械工学・ロボティクスコース	機械工学・ロボティクス特別研究	(24 塩見 洋一) 混相流や熱流体に関する現象を対象とし、シミュレーションや実験を用いて圧力、流速、温度などから現象を把握して、その特性を明らかにするための研究指導を行う。 (25 渋谷 恒司) 生物の形態や機能を手本に新たなメカニズムや制御方法を探求・考案するとともに、ロボットシステムによる実験やシミュレーションを通して、考案したメカ ニズムや制御方法を検証するよう、研究指導を行う。 (27 田原 大輔) バイオメカニクス、計算力学を基盤として、生体組織の形と力学的な役割の関連をミクロ・マクロの両スケールの視点から解明し、機械・構造物の適切な設計手法の抽出と医工学技術の開拓につなげるための課題の研究指導を行う。 (29 辻上 哲也) 複合材料をマクロ、メゾ、マイクロの視点から考究し、有限要素法を主として用いたシミュレーション技術や材料試験時に画像相関法などによるひずみ測定手法を用いて、複合材料の力学的挙動評価に関する課題の研究指導を行う。 (54 永瀬 純也) 生き物のダイナミクスやメカニズムを明らかにしロボット技術に組み込むことにより高機能・高性能なロボット技術を開発するための研究指導を行う。 (70 野口 佳樹) 高分解能なイオンプローブを用いた燃焼促進現象の解明や高Taylor数での伝熱に関する研究、火炎のフラクタル解析によるガス爆発に関する研究などを通して、高効率、安全をキーワードに熱工学に関する課題の研究指導を行う。 (72 森 正和) 優れた材料特性を有する材料を創製するための材料プロセスに関する研究に取り組む。各種顕微鏡による微細組織観察から、引張強さや硬さなどの機械的性質評価まで実施し、材料特性と微細組織の相関性を解明するための課題の研究指導を行う。	
	応用化学コース	応用化学特別研究	(概要) 修士課程2年間にまたがる科目であり、希望して所属する研究室の各指導教員によるきめ細かい指導の下で最新の理論と手法を学び、それを活かした研究を行う。学部で身につけた基礎知識・能力をもとに、より高度な科学技術的な問題を分析し、課題を設定・解決できる能力を養うことを目的としている。体系的な指導のため、英語論文紹介・報告会・集中ゼミなどが研究室ごとに適切な方法で行われる。さらに、個別の密接な指導・監督のもとに、各自が主体性を持って研究を遂行する。研究経過は1年次終了時のコース内での中間発表で報告し、最終の研究成果は修士論文として提出し、コース所属全教員参加の修士論文公聴会で発表し、一定の基準で審査される。 (1 青井 芳史) 修士課程2年間にまたがる科目であり、無機機能性材料に関する最新の理論と手法を学び、それを活かした研究を行う。学部で身につけた基礎知識・能力をもとに、無機機能性材料に関するより高度な科学技術的な問題を分析し、課題を設定・解決できる能力を養うことを目的としている。体系的な指導のため、英語論文紹介・報告会・集中ゼミなど行われる。さらに、個別の密接な指導・監督のもとに、各自が主体性を持って研究を遂行する。研究経過は1年次終了時のコース内での中間発表で報告し、最終の研究成果は修士論文として提出し、コース所属全教員参加の修士論文公聴会で発表し、一定の基準で審査される。 (4 岩澤 哲郎) 新規性のある有機分子の合成を通して、未解決な合成化学上の課題に挑戦する。実学に直結可能な有機化学研究に独自分子で切り込むことを中心に据える。研究テーマは、比較的小さい多環芳香族炭化水素を核として、バックミンスターフラーレンやグラフェンの断片構造の合成を行い、いずれは新しい分子化学の構築につなげることである。基礎となる分子化学としての要素に焦点を据えた基礎研究を中心にして、安く大量に、安全かつ高品質に調製する反応経路や方法論の構築に取り組む。	

別記様式第2号（その3の1）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（先端理工学研究科　先端理工学専攻　修士課程）

特別研究	応用化学コース	応用化学特別研究	（5　内田　欣吾） 光化学および有機化学の基礎を理解し、分子や分子集合体を用いた光応答システムへ応用ができるように学習指導する。そして、実際に試薬を用いた有機合成を安全に行い、得られた化合物の各種スペクトル測定を自力で行い、結果を解析できるようにする。さらに、英文論文を理解する能力と、新しい情報を日々アップデートする習慣を身に着けるように指導する。最後に、実験で得られたデータの処理と、それらをまとめ結論に導く手法を身に着けさせる。最終的には、レポートにまとめ、学会などで発表する力を身に着けさせる。有機光機能材料分野の発展の一助となるような結果を残したい。 （7　大柳　満之） 毎週決められた時間に定期的に時間を設けて研究指導と研究打ち合わせを行うことを基本にするが、特別研究という授業の特性上、それ以外であっても随時研究指導と研究打ち合わせを行う。また、定期的に研究内容をまとめる訓練を行い研究概要をWORDによる書面報告書とPPTを用いた発表を課す。研究内容がまとまれば適切な時期に学会発表を奨励する。研究の専門領域は、無機材料合成化学で、固体材料の作製と物性評価を行う課題と欠陥を積極的に含むナノ複合酸化物を合成し触媒として利用する課題がある。 （13　河内　岳大） 高分子は、ある構成単位（モノマーユニット）が数多く繰り返し連結した構造を有している。タンパク質やDNAに代表される生体分子の多くも高分子であり、化学構造、分子量、分子量分布、末端基などの一次構造が精密に制御されている。この一次構造に基づいて、αヘリックスやβ-シート、二重らせんなどの二次構造を形成し、さらにそれらが精緻に配置・相関した集合構造を時空間特異的に形成することで触媒や情報保存・転写などの極めて高度な機能を発現する。この生体分子システムの階層的構造制御に迫るべく、本質的に構造分布を有する合成高分子において一次構造を精密制御し、その集積化プロセスまでを合目的にコントロールすることで、分子機能を発現する高分子システム・材料を創製することを目指す。修士課程においては教員との綿密なディスカッションを行い、①一次構造を制御する重合系の開発、②構造制御した高分子の特性評価、③分子を集積化した機能材料の創製に関する研究を遂行する。 （30　富﨑　欣也） 生体分子の中でもペプチドは、化学合成法によって様々な機能性基を位置特異的に配置可能であることと、自己集合化によってナノからマイクロメートルスケールのボトムアップ型材料合成に適していることから注目を集めている。ここでは特に短いペプチドの自己集合現象を研究対象とし、これらを鋳型とする有機―無機複合材料および薬物送達システムに関する研究を行う。 （31　中沖　隆彦） 高分子の分子構造解析や材料創成についてオリジナルなアイディアを出して一人で研究を進められるように指導する。英語学術論文を読みこなして、研究の背景を十分に理解して学生自身の研究の位置づけを明確にする。研究成果は外部での公表を行いプレゼンテーションスキルの向上と質疑応答に対するスキルも磨いていく。 （36　藤原　学） 修士課程2年間にまたがる科目であり、希望して所属する研究室の指導教員によるきめ細かい指導の下で主に最新の機器分析化学の学習・研究を行う。学部で身につけた基礎知識・能力をもとに、より高度なX線分析手法と分析対象物質に関する科学技術的な問題を分析し、課題を設定・解決できる能力を養うことを目的としている。特別研究全体の体系的な指導を行う目的で、中間報告会などを行う。ここでは、日本語と英語による科学論文の作文・添削・演習なども実施する。特別研究は、個別の密接な指導・監督のもとに、各自が自らの主体性を持って研究を遂行する。研究経過は1年次終了時の中間発表で報告し、最終の研究成果は修士論文として提出し、修士論文公聴会で発表する。他に専門学会での発表や論文投稿を推奨している。 （42　宮武　智弘） 生体分子の多くは分子集合体を形成することで、生命活動を維持するために必要な機能を発現している。このとき、生体分子の特異的な分子構造が、その分子集合体の構造と機能に大きく影響する。ここでは、光合成色素であるクロロフィル分子などを対象にし、効果的に分子集合する系を設計する。そして、その分子集合体の構造と物性を評価し、分子間相互作用が物性に及ぼす影響について検討する。そして、学会発表等を通じて他の研究者との議論を深めつつ、研究成果を修士論文にまとめる。	

別記様式第2号（その3の1）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（先端理工学研究科　先端理工学専攻　修士課程）

特別研究	応用化学コース	応用化学特別研究	(50　小寺　康博) 平衡状態から外れた微細構造や結晶構造を有する機能性無機材料に関する内容を主に指導する。上記の構造を作成するための物質合成・加工方法やその評価方法について議論する。無機化学、化学平衡、熱力学、速度論、結晶学などの基礎から、ターゲットとしている物質の合成・加工を研究する。微細・結晶構造解析、元素分析、化学状態分析を行い、磁気的・光学的特性との関連性を議論する。最新の理論と手法を論文や国際会議や発表などから積極的に取り入れて世界レベルの研究を行う。 (65　糟野　潤) 新しい電気分析法の開発を目指して、電気化学の理論や測定法を学ぶとともに、電極材料の開発や物性評価なども行う。指導教員と綿密に議論しながら、主に①水と混じり合わない有機溶液と水溶液の界面での電荷移動反応の解析{分析化学的視点（イオンの分離定量）と生化学的視点（有機溶液を生体膜と見立てる）に基づく}、②新しい迅速全電解用フローセルの開発とその性能評価、③光合成生物を用いた光-電気エネルギー変換反応と有害物質センサへの応用に関する研究を進める。得られた研究成果を毎週報告書として提出するとともに、研究室での報告会や学会等で発表する力を身に着ける。 (68　白神　達也) 修士課程2年間にまたがる科目である。学部で身につけた基礎知識・能力をもとに、より高度な科学技術的な問題を分析し、課題を設定・解決できる能力を養うことを目的としている。8単位の特別研究（授業部分）と単位化されていない特別研究（研究部分）（32単位相当の研究量）とからなっている。特別研究（授業部分）は特別研究全体の体系的な指導を行う目的で、研究会・報告会・集中ゼミなどで行われる。また、この中にはテクニカルライティングが含まれており、英語による科学論文の作文・添削・演習を行う。特別研究（研究部分）は、個別の密接な指導・監督のもとに、各自が自らの主体性を持って研究を遂行する。このときにRIETANによる構造精密化、TG-DTA、ラマン散乱分光、蛍光分析などの機器分析のスキルを養う。研究経過は1年次終了時の中間発表で報告し、最終の研究成果は修士論文として提出し、修士論文発表会で発表する。	
	環境科学コース	環境科学特別研究	(概要) 修士課程の2年間にまたがる科目である。自分のテーマに関する文献調査から計画の立案、調査・実験、データ処理・統計、計画の修正といった一連の研究活動を自立的に実施する技術を修得する。初年次に指導計画を策定し、指導教員によるきめ細かい指導のもとで、研究進捗状況の確認や計画修正についての議論等を定期的に行う。適切に情報を取りまとめて表現する力、建設的かつ論理的な議論を行う力も養う。最終的な成果物として学問的かつ技術的に高い水準の修士論文の作成を行う。 (9　奥田　哲士) 環境計測、水処理、廃棄物管理の分野において問題点や改善点を認識し、化学工学的および応用化学的な手法を駆使して、課題の解決やそのための調査・技術開発などの研究指導を行う。 (15　菊池　隆之助) マテリアルフローやLCAやリサイクルの概念と技術を基調にし、社会（倫理）・経済・環境を統括する観点からのアプローチに基づき、研究指導を行う。 (16　岸本　直之) 物質収支解析や反応速度論などの反応工学的手法を用いて、水処理プロセス開発や流域水質管理に関する各種課題の研究指導を行う。 (39　丸山　敦) 必要に即した先端分析技術を用いて、水域環境や自然人類学に関する研究領域における各種課題の研究指導を行う。 (40　三木　健) 数理モデリングおよび統計モデリング等のデータサイエンス技術と野外観察・室内実験を組み合わせ、生物多様性科学および生態系科学における各種課題の研究指導を行う。 (41　宮浦　富保) 森林生態系の構造と機能を理解し、解析するための基礎的事項を教授し、森林における物質生産の諸過程や樹木個体群の動態を研究するための技術的・専門的な手法を指導する。研究の進行に伴い、論文作成や研究成果発表などのスキルが身に着くように、随時コンタクトしつつ、最終的には修士論文として成果をまとめることを目指す。	

別記様式第2号（その3の1）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（先端理工学研究科　先端理工学専攻　修士課程）

特別研究	環境科学コース	環境科学特別研究	（48 岸本 圭子） 群集生態学的アプローチをもとに、動物群集の維持機構及び環境変動に対する群集の反応様式に関する各種課題の研究指導を行う。 （49 越川 博元） この授業では、個々の研究課題に基づいた研究方法の立案、実施、得られた結果の解釈や評価、これらを元に次の研究計画への反映という一連のサイクルを実行すること、およびこれによって研究を推進することを目的としている。このサイクルにより当該の研究課題のみならず、修了後においても同様な流れで社会に貢献することを期待している。具体的には培養などの微生物工学手法や酵素・遺伝子工学的手法を用いるなどにより、環境における微生物学的安全性に関する各種課題の研究指導を行い、この目的を達成する。 （56 藤森 崇） 環境影響評価の枠組みのなかで、環境化学、分析化学、環境工学、リスク評価などの学問分野を横断し、物質の挙動理解を念頭に置いた研究指導を行う。 （59 山中 裕樹） 分子生物学的な手法による生物情報の分析技術を用いて、生物多様性科学および生物資源管理学における各種課題の研究指導を行う。 （61 横田 岳人） 森林生態系の維持機構を物質生産と生物間相互作用の側面から明らかにすることを中心に、技術的・専門的な指導を行い、生態系科学における各種課題の研究指導を行う。 （63 浅野 昌弘） 物理化学や反応工学といった化学工学的手法を活用の下での水処理技術の開発や、水環境の保全に関わる各種課題の解決を目標とした研究指導を行う。 （66 鎌倉 真依） 国内外の様々な森林をフィールドとし、野外観測と室内実験を組み合わせて、森林内で生じる生理生態学的なプロセスの実態解明と将来予測を行うための各種課題の研究指導を行う。 （71 水原 詞治） 焼却や炭化などの熱処理技術および磁力などの選別技術を用いて、廃棄物工学における各種課題の研究指導を行う。	

別記様式第2号（その3の1）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（先端理工学研究科　先端理工学専攻　博士後期課程）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究科共通科目		サイエンスコミュニケーション	高度の専門知識を備えながらも、専門の枠にとらわれず広い視野により多角的な問題解決能力を有する科学技術者を育成するという先端理工学研究科の理念を具現化するため、所属コースの垣根を超えて、博士後期課程学生が自身の研究内容を互いに紹介し、ディスカッションを行う。話題提供者は、博士後期課程学生に加え、学外講師・学内専任教員が担当する等幅広く設定する。	
特別講義	数理・情報科学コース科目	数理解析特別講義Ⅰ	非線形偏微分方程式に関して、特に非線形拡散方程式の解の定性理論に関する最新の研究についての講義を行う。特に通常の拡散現象と異なる異常拡散現象を記述する分数冪拡散方程式や時間非整数階微分を含む拡散問題、領域の境界上での時間発展も考慮に入れた動的境界条件を有する問題を中心的な対象として、解の存在や漸近挙動、非線形問題における臨界指数について紹介する。 また、劣微分作用素に支配される抽象発展方程式論は、凸汎関数の勾配系との対応から幅広く応用が可能である。劣微分作用素について凸解析との関連を中心に既存の理論や最新の話題を紹介する。まずは最も簡単な実数値関数に対して、微分の拡張となる劣微分を定義から確認し、その性質の理解をめざす。	
		数理解析特別講義Ⅱ	準周期的集合の幾何学的性質に関する最近の話題について講義する。切断射影集合、置換え規則に関する自己相似性、タイル張り、ボロノイ分割と円充填、斜列対と有理数近似、格子の変形とパラメータ空間上の測地流、螺旋格子の局所化、ファンイテルソンの分岐図、リマソンの相対距離について説明する。また、球充填に関するケプラーの問題、格子暗号、マルコフ数の一意性予想、螺旋葉序について紹介し、周辺分野の諸問題との関連について説明する。	
		応用数理特別講義Ⅰ	多自由度系の統計的性質を解析するためのランダムアルゴリズム、特にマルコフ連鎖モンテカルロ法とそれに関係する数値的方法に習熟することを目標とする。主に統計物理の古典スピン系に対して適用されるいくつかの手法について、確率過程論の言葉を用いてアルゴリズムを説明する。実際にアルゴリズムを具体的な系に適用することで理解を深める。アルゴリズムの性能評価について、理論的評価、シミュレーションによる推定の方法を具体例とともに説明する。	
		応用数理特別講義Ⅱ	非線形方程式のうち、解を厳密に求めることができる可積分系の数理的構造については、時間、空間に関して連続である偏微分方程式 (KdV方程式、KP方程式)から出発し、空間が離散化された戸田方程式、時間、空間が離散化された離散戸田方程式について解説する。さらに超離散化の手法を用いて、それらから箱玉系などのセルオートマトンモデルが得ることを学ぶ。また、一般のセルオートマトンモデルを代数的に扱うために用いる束論などの最先端の研究内容についても紹介する。 また、非線形偏微分方程式の数理解析、数値解析、応用に関しては、古典的な問題や方法から最先端の研究内容まで包括的に解説し、特に、氷の融解、水の凝固の問題、地下水の流れの問題、生物の動的な干渉作用の問題などを記述する退化拡散問題や交差拡散系と呼ばれる問題について学ぶ。	
		情報科学特別講義Ⅰ	機械学習・パターン認識・コンピュータビジョン分野に関して、研究動向を理解し、自らの研究に活かせるようになることを目標として、これらの分野における最新のトピックからいくつかを選んで解説する。 また、自然言語処理については、形態素解析・構文解析・意味文脈解析といった基本技術、深層学習・統計など本分野の主要アプローチ、情報アクセス、ニューラル機械翻訳といった最先端の応用を、インタラクティブに学ぶ。	
		情報科学特別講義Ⅱ	ソフトウェア理論に関しては、数理論理学を基礎とするプログラム理論(プログラムの意味論、プログラミング言語の型理論、型付きラムダ計算、ホーア論理、セパレーション論理、形式的証明によるプログラム導出など)の中から、いくつかのテーマを選んで解説する。必要に応じて、これらの理論の基礎となっている述語論理などの数理論理学分野の基本的な事項についても説明する。 また、アルゴリズム理論に関しては、分散アルゴリズム理論におけるいくつかのテーマを選び、アルゴリズムの設計と解析の技法の基礎を解説する。特に、数理的な計算モデルのひとつである非同期メッセージパッシング型分散システムのモデル上で、各種分散問題の可解性、計算複雑度の解析、アルゴリズム設計、アルゴリズムの正当性の証明などを説明する。また、分散システムの故障耐性や動的ネットワークなど、現代の分散システムにおける重要なテーマに関しても説明を行う。	

別記様式第2号（その3の1）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（先端理工学研究科　先端理工学専攻　博士後期課程）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別講義	知能情報メディアコース科目	知能情報システム特別講義Ⅰ	知能情報システムを構築するために必要な、画像処理、画像認識・理解、人工知能アルゴリズムと応用について論じる。専攻分野や特別研究の関連分野・領域に関する国内外の学術論文や技術レポート等の調査・精読・分析・発表・討論を行う。	
		知能情報システム特別講義Ⅱ	知能情報システムに必要なマルチメディア情報処理の内、音響・音声処理の知識として音の分析・処理、再生に関する理論と信号処理法について学ぶ。また、電気音響変換や聴覚などの音響工学の基礎を概観し、電気工学、通信工学、情報工学に幅広く関連した音響学の知識を身につける。音の基本的な性質、スペクトル分析である線形予測分析法、高能率符号化法、適応信号処理など、音響信号、音声信号処理技術を習得する。	
		ソフトウェア科学特別講義Ⅰ	知的情報処理の観点から、機械学習、量子計算、ニューラルネットワーク、進化的アルゴリズム、ファジィ工学、アドホックネットワーク、センサーネットワーク等に関連する論文を精読し、受講生の研究テーマに関連する近年の研究動向について高度な解説を行う。 また、ソフトウェア開発については、ソフトウェアの大規模化や複雑化に伴い、要求を的確に捉えることやチーム間での共通認識などが重要な要素となってきていることから、ソフトウェアの開発全体を概観すると共に、最近の開発の問題点やその問題点をどのように解決しているのかについて、近年の研究動向を説明する。	
		ソフトウェア科学特別講義Ⅱ	人とロボットとの対話に関する学問領域であるHuman-Robot Interaction (HRI)について、人間側に喚起される心理状態や、その心理状態が対話に与える影響について、心理学的側面から概説を行う。特に、人がロボットに対して抱く不安や様々な否定的感情について取り上げ、このような感情に影響する個人要因（ジェンダー、年齢、経験、文化等）について解説を行う。さらに、このようなロボットが社会に与える影響について、科学技術社会論の観点から概説する。 また、言語情報処理については、国際会議録や国内外の論文誌から言語情報処理に関連する論文を取り上げ、論文精読を行うことで、受講生の研究テーマに関する最新技術について解説する。	
		メディア工学特別講義Ⅰ	画像データなどを扱う上で、統計的信号処理手法が有益であり、平均自乗誤差最小予測などの手法が従来より用いられてきた。また、その際の画像データに対するモデルとしては、1次元の確率過程を基礎として、それを2次元に拡張した確率モデルが用いられることがある。この講義では、そのような従来の基礎的な統計的信号処理手法の基礎理論を議論した後、主成分分析について議論する。その後、主成分分析の発展としてのカーネル主成分分析、独立成分分析、スパースモデリングなどについて議論する。	
		メディア工学特別講義Ⅱ	3次元コンピュータグラフィックス(CG)、Virtual Reality(VR)、人体モーションを主な対象として、3次元の時空間データの情報処理に関する講義を行う。基礎的な理論について英語の文献調査を行い、最新応用技術および課題についてディスカッションを行う。	

別記様式第2号（その3の1）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（先端理工学研究科　先端理工学専攻　博士後期課程）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別講義	電子情報通信コース科目	電子情報基礎特別講義Ⅰ	薄膜デバイス・ニューロモーフィックシステムについて、基礎から応用まで学修・議論する。薄膜デバイスは、今後のエレクトロニクスを支える半導体デバイスとして、おおいに期待されているものであり、また、ニューロモーフィックシステムは、人工知能をハードウェアで実現する試みであり、未来の社会のキーテクノロジとなるべきものである。これらを学修・議論することは、学生にとっておおきなメリットとなる。 また、現代のマテリアルサイエンスにおいて、ナノサイエンス・テクノロジーはコア概念・技術となっている。無機・有機を問わずに原子・分子レベルで制御された新奇ナノマテリアルと、それらを複合的に用いた革新的デバイス・センシング技術を学習する。創発的ナノマテリアルの合成・成長、先端的手法を講義することで、マテリアルサイエンスの新展開を学ぶこととする。	
		電子情報基礎特別講義Ⅱ	電子デバイスの研究は、近年目覚しい発展が見られる。物性とは物の性質を取り扱う物理学で、主として電子の状態に関するものを論じる。電子物性論は電磁気学、統計力学、量子力学を基本として成り立っており、これらの学問と共に電子デバイスの全般的な理解を深めることを目的とする。 また、計測工学分野においては、特にナノスケール物性評価や分析手法の開発を実施するにあたり、必要となる高度な知識や技能について、講義形式で専門書・最新の論文などの解説も行いつつ、互いに議論をすることで、共通理解を深めるとともに、問題点や解決すべき課題の発見を目的とする。	
		情報処理機構特別講義Ⅰ	情報処理機構分野の研究として、機械学習、データマイニング、Web情報学、複雑ネットワーク科学、知能情報学に関わる研究分野に対し、数理モデリングを土台としたソーシャルデータ分析の研究を遂行するにあたり、必要となる高度な知識や技術について講義する。また、最新の研究動向について、学術論文に基づいた解説を行うとともに、博士後期課程の学生との共通理解を深めるために、現状の問題点や解決すべき課題の発見を目的としたディスカッションを行う。	
		情報処理機構特別講義Ⅱ	生体・知能システムについては、モデル化とその応用に関する研究に対して、高度な専門知識を身につける。情報科学の概念に基づいて、情報を受け取り、記憶し、変換し、生成し、出力することによって行動するシステム、すなわち、情報の処理を通じて環境との相互作用を行うシステムとして人間を理解する方法論を講述する。また、この方法論がさまざまな情報処理技術への応用と結びついている点についても講義する。 また、人間とコンピュータのインタラクションシステムに関しては、人間がどのように外からの情報を取り入れ・処理し・出力をしているかを理解し、コンピュータから人間への情報伝達手法に関して要素技術が存在し、そしてどのように発展してきたかを把握する。最新の研究動向について学術論文を通して把握し、それに基づいた新たなインタラクション手法について議論を行う。	
		情報システム特別講義Ⅰ	現在半導体の進歩、計算機技術の向上、微細技術の利用などによって、情報通信社会に適用できるデバイスの開発方法は発展しつつある。本講義では、このような最先端のデバイスを開発するために基礎となる分布定数回路論、電磁波回路論、アンテナ基礎を講義する。さらにデバイスの高性能化に関して材料のパラメータの精密な計算や最新の電磁波のシミュレーション技術を講義する。	
		情報システム特別講義Ⅱ	近年の通信工学の進歩に合わせて、新しいマイクロ波通信デバイスの開発が期待されている。本講義では、このような最先端の通信デバイスを開発するために必要となるマイクロ波工学の知識を修得する。電磁界理論や伝送線路理論を学修すると共に、シミュレーション技術などを身に付ける。 また、無線通信工学もしくはロボット工学または人工知能分野においては、必要となる高度な知識や技能について、講義形式で専門・最新の論文などの解説も行いつつ、互いに議論をすることで、共通理解を深めるとともに、問題点や解決すべき課題の発見を目的とする。	

別記様式第2号（その3の1）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（先端理工学研究科　先端理工学専攻　博士後期課程）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別講義	機械工学・ロボティクスコース科目	力学特別講義Ⅰ	材料強度・解析学分野においては、最新の論文講読を行うとともに、複合材料の階層的モデル化とそれに関連する構造解析手法を中心に、その応用としての最適設計、破壊力学的取扱いなどについて講述する。 また、計算生体力学分野においては、バイオメカニクス、計算力学分野の最新論文の講読と研究発表・交流等を通じ、研究動向と課題解決のアプローチの最前線を理解するとともに、生体組織の力学的適応現象を評価・解明する計算・実験手法の取扱い、バイオニックデザインについて講述する。	
		力学特別講義Ⅱ	材料強度評価の研究分野に関連する国内外の主要な研究論文を具体的に紹介し、読み合わせることにより現時点における研究状況をまず詳細に理解する。その上で、将来において公共インフラなど重要構造物の構造材料として新たに適用される材料を検討し、その材料に対し未だ十分には解明されていない現象や物性を抽出して、今後のあるべき研究動向を議論する。その際、構造材料単体だけでなく、構造物を建造する上で、切断されたり接合されたりすることも考慮し、最弱部の推定も行う。評価装置や計測機器の近年の進歩も踏まえ、材料強度評価の観点から革新的な研究を展開するための具体的研究手法を考察できるように講義する。	
		エネルギー特別講義Ⅰ	火力発電所、原子力発電所などのエネルギー関連装置、化学プラント、空調機器などの熱交換器の設計やエネルギー機器の開発に適用できる熱力学、熱工学、伝熱工学に基づいたエネルギー変換工学、エクセルギー理論などについて講述する。	
		エネルギー特別講義Ⅱ	研究分野に関する最新の論文購読を行うとともに、宇宙飛行体や航空機、風車や流体機械に関連した数値流体シミュレーション手法やシミュレーションに用いる熱化学モデルの構築方法、様々な乱流モデルの取り扱いを中心に講述する。また、その応用として、衝撃波や化学反応、熱化学非平衡性を伴う宇宙飛行体まわりの流れ場の解析手法や、形状の変形と流体への影響を取り扱う流体・構造連成解析手法、垂直軸風力発電装置の最適設計方法などについて講述する。	
		システム特別講義Ⅰ	研究分野に関する最新の論文講読を行うとともに、柔軟素材を用いたソフトロボット、脚式移動ロボット、楽器演奏ロボットなどの、ロボット工学に関する最新トピックについて講述する。 また、ロボットシステムのモデル化、解析手法、制御技術、ハードウェア・ソフトウェア技術、具体的な活用事例を学ぶとともに、その分野における自身の研究テーマの位置付けも明確にする。	
		システム特別講義Ⅱ	研究分野に関する最新の論文購読を行うとともに、機能性磁性材料に関連する磁気物理学、物性物理学の理論的・実験的考察手法を統計力学や量子力学を用いて解説し、対象とする磁性材料の磁性や物性、熱力学的特性について論述する。 また、高度な生産加工技術やそのシステムに関連する切削加工などの機械加工、レーザ加工、そしてサスティナブル・マニュファクチャリングなどについて、応用事例を交えて講述する。ロボットのダイナミクスを解析するための強力なツールである非線形力学系理論(Nonlinear Dynamical Systems)の基礎について講述するとともに、それを応用した最先端研究に関して議論する。	

別記様式第2号（その3の1）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（先端理工学研究科　先端理工学専攻　博士後期課程）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別講義	応用化学コース科目	物質評価法特別講義Ⅰ	分子の集合体は、その分子の配列や、会合分子数、分子集合体の大きさによって、その性質が変化することが多く分子集合体の構造や性質を評価することは非常に興味深い。ここでは、種々の分子集合体のナノレベルの構造、分子配列を解析する手法、ならびに分子集合体の分光学的特性などの物性を評価する方法について解説する。また、分子が集合することによって生じる物性の変化は、分子配列や分子間の相互作用に大きく依存する。こうした分子間相互作用と物性との関係についても解説する。	
		物質評価法特別講義Ⅱ	光・電子・粒子（イオン）などの一次量子を試料に照射し、試料を構成する各原子からの応答を二次量子として検出する、一般的な機器分析法を紹介し、それぞれの手法の特徴について講述する。さらに、最新の分析機器の開発状況から、さらに高機能化するための指針を示し、自らの分析対象試料について具体的な評価手順を考えさせる。また、ケーススタディとして分析困難な試料に対しての機器分析法の改善策を考案させ、それぞれの機器分析法の評価を行わせる。これにより、新規の物質や材料の分析を行う際の試料の採取方法・前処理・機器分析法の選択・測定条件などを決定できることを目指す。	
		無機材料特別講義Ⅰ	平衡状態から外れたナノ粒子や准安定相といった微細構造や結晶構造を有する機能性無機材料に関する内容を指導する。上記の構造を作成するための物質合成。加工方法やその評価方法について議論する。無機化学、化学平衡、熱力学、速度論、結晶学などの基礎から、ターゲットとしている物質の合成・加工を講義する。微細・結晶構造解析、元素分析、化学状態分析を行い、磁気的・光学的特性との関連性を議論する。最新の理論と手法を論文や国際会議や発表などから積極的にトピックスとして取り入れる。	
		無機材料特別講義Ⅱ	最新の科学技術の動向に常に目を向ける習慣を修得し、専攻分野や関連分野・領域に関する幅広い知識と認識を修得する。特に先端ナノセラミックスの合成から物性、応用まで幅広い固体化学の知識を活用する力をつけられるよう講義と演習を織り交ぜて実施する。 また、無機材料の分野では、単に物質を合成するだけではなく、その物質に適切な形態を付与することが重要であり、その形態が材料の物性を支配することがよくある。特に薄膜という形態を有する材料に着目し、薄膜作製プロセスの基礎となる、真空工学・プラズマ工学について最新の高度な理論について解説し、重要な薄膜作成プロセスについて講義する。さらに、薄膜材料についての各種物性について最新の理論について概説することにより、無機薄膜材料に関して、その特性、作製プロセス、分析・解析について最新の理論、技術を理解し、身につけることが出来る。	
		有機・高分子材料特別講義Ⅰ	これまでに身につけた基礎知識・能力をもとに、より高度な科学技術的な問題を分析し、課題を設定。解決できる能力を養うことを目的としている。特に光応答機能材料の最新の研究論文や最近の研究動向を中心に議論し、講義も行う。論文紹介などの実習も含まれ、ここでは専門分野から離れた論文の紹介も義務付け、独創性のある研究テーマ設定のための機会にする。 また、分子化学の多様性と規律性を学び、実際の研究活動に生かせるように学び取るとともに、広範な知識、論理的な化学的な思考、独創的な発想や研究課題の設定を行う能力、この3点に力点を置いた講義展開をはかる。	
		有機・高分子材料特別講義Ⅱ	生体機能関連化学分野においては、特に、アミノ酸、ペプチド、タンパク質、核酸、糖類といった生体分子を用いる材料合成と機能について、最新の研究成果をもとに講義を進める。 高分子固体構造解析については、高度な分析方法の原理と応用例について講義を行う。近年の環境問題への意識が高まっていることから、生分解性高分子などの材料の基礎を講義するとともに、環境の視点に立った考え方ができるように指導する。 また、高分子材料・システムについては、最新の研究動向に基づき、高分子の一次構造から高次構造に至る階層構造制御について教示し、構造－物性・機能相関について述べる。また、現時点での高分子科学の到達点を見極めるだけでなく、生命科学などの他分野にも目を向け、自らの研究の位置づけを明確化することを目指す。	

別記様式第2号（その3の1）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（先端理工学研究科　先端理工学専攻　博士後期課程）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別講義	環境科学コース科目	生態学特別講義Ⅰ	個生態学から生態系生態学に至る、生態学が包含する学問分野について各種の基礎的な概念や最新の研究事例について学ぶ。また、生物多様性保全に関わる研究の進展や技術の応用など、実務分野での社会的な進展についても適宜アップデートを行う。学生は特に興味のある特定のテーマについて文献調査を行い、内容や研究手法、残された課題について討議する。講義や文献調査、討論を通して、当該分野の知識を深めるとともに、様々な研究成果や事例を生態学的視点に基づき検証する姿勢を養う。	
		生態学特別講義Ⅱ	個生態学から生態系生態学に至る、生態学が包含する学問分野について各種の基礎的な概念や最新の研究事例について学ぶ。また、生物多様性保全に関わる研究の進展や技術の応用など、実務分野での社会的な進展についても適宜アップデートを行う。学生は野外調査及び観測、実験室における試料分析、数理モデリングや統計解析の各種研究技術を統合的に扱って、生態学的な研究テーマに柔軟に取り組む知識を深める。その上で、独自の生態学的研究に展開するために必要な指導と助言を行う。	
		エコロジー工学特別講義Ⅰ	環境計測、環境影響評価、水処理、廃棄物管理などに関連した基礎的な概念、最新の研究事例などについて講義する。また、文献調査を実施し、その内容や課題・問題点について批判的に討論を行う。これらの文献調査や討論を通して、各分野の最新の状況や問題点と概念を理解させるとともに、様々な研究成果や事例を批判的に検証する姿勢を養う。特別講義Ⅰでは、特に文献調査やデータ整理に関する基本について講述し、進捗に関する討論を実施することで、エコロジー工学分野の研究開発を展開するために必要な指導と助言を行う。	
		エコロジー工学特別講義Ⅱ	環境計測、環境影響評価、水処理、廃棄物管理などに関連した基礎的な概念、最新の研究事例などについて講義する。また、文献調査を実施し、その内容や課題・問題点について批判的に討論を行う。これらの文献調査や討論を通して、各分野の最新の状況や問題点と概念を理解させるとともに、様々な研究成果や事例を批判的に検証する姿勢を養う。特別講義Ⅱでは、これらの文献調査や討論を通して、エコロジー工学分野の研究開発を展開する上で必要な情報統合解析能力および論理的思考能力を養う。	
		高度専門研究特別講義	博士後期課程在学期間を短縮して修了する場合の履修科目である。 本講義では、受講生の研究成果を題材として、博士後期課程の研究内容にふさわしい一つの主題にそった内容に統合し、かつ、今後進むべき研究の方向付けを行う。教員が専門の立場から関連する内容を講義し、適切な指導と助言を行う。指導教員は、題材として取り上げる内容に関連する研究分野の教員が担当する。	

別記様式第2号（その3の1）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（先端理工学研究科　先端理工学専攻　博士後期課程）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別研究	数理・情報科学コース	数理解析特別研究	（概要） 博士後期課程3年間を通じて数理解析に関する研究を進め、博士論文を作成する。設定したテーマに対して、調査、文献講読、実験、研究・開発等を自主的、計画的、具体的に実践できるように、指導教員からきめの細かい指導・助言を受ける。また、学内外の教員・研究者との共同研究等を通じて理解を深める。博士後期課程を通じて培った専門知識を基礎に、現代の科学技術で未解決の問題を見いだし、その解決をはかり、学問的、技術的にレベルの高い博士論文を完成させることを目標とする。得られた研究成果を国内外の学会・研究会において発表する。 （13　川上　竜樹） 偏微分方程式論、特に非線形拡散や異常拡散現象を記述する非線形放物型方程式の解の定性理論及びそれに付随する定常問題（非線形楕円型方程式）や変分問題の数学解析を行う。 （32　深尾　武史） 極大単調作用素の基礎理論を学習した後、劣微分作用素に支配される抽象発展方程式の既存理論を確認する。その応用研究として、自然科学に現れる様々な非線形現象を記述する微分方程式に注目し、その適切性を抽象論から導く。 （54　山岸　義和） 準周期的集合が作るボロノイ分割および球充填とその変形について研究する。ボロノイ分割の分岐図と円充填の分岐図との双対性、パラメータ空間上の流れを利用した結晶粒および結晶粒界の定式化、準周期的集合の局所線形化問題などについて考える。	
		応用数理特別研究	（概要） 博士後期課程3年間を通じて応用数理に関する研究を進め、博士論文を作成する。設定したテーマに対して、調査、文献講読、実験、研究・開発等を自主的、計画的、具体的に実践できるように、指導教員からきめの細かい指導・助言を受ける。また、学内外の教員・研究者との共同研究等を通じて理解を深める。博士後期課程を通じて培った専門知識を基礎に、現代の科学技術で未解決の問題を見いだし、その解決をはかり、学問的、技術的にレベルの高い博士論文を完成させることを目標とする。得られた研究成果を国内外の学会・研究会において発表する。 （36　松木平　淳太） セルオートマトンモデルの数理的構造を超離散化、Max-Plus 代数、束論等の手法を用いて研究する。各モデルに対して数式処理言語システムを用いたシミュレーションを行うことによって、その数理的構造を解明する。 （41　村川　秀樹） 興味のある現象1つに焦点を絞り、その数理モデリングから数理モデルの解析、数値解析、数値シミュレーション、応用までを包括的に研究する。これらの方法の内、いずれかについて深く探求してもよい。 （51　樋口　三郎） 多自由度系の統計的性質を解析するためのランダムアルゴリズム、特にマルコフ連鎖モンテカルロ法とそれに関係する数値的方法を研究する。手法の提案、性能の理論的・実験的評価、手法を用いた多自由度系の解析を行う。	

別記様式第2号（その3の1）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（先端理工学研究科　先端理工学専攻　博士後期課程）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別研究	数理・情報科学コース	情報科学特別研究	（概要） 博士後期課程3年間を通じて情報科学に関する研究を進め、博士論文を作成する。設定したテーマに対して、調査、文献講読、実験、研究・開発等を自主的、計画的、具体的に実践できるように、指導教員からきめの細かい指導・助言を受ける。また、学内外の教員・研究者との共同研究等を通じて理解を深める。博士後期課程を通じて培った専門知識を基礎に、現代の科学技術で未解決の問題を見いだし、その解決をはかり、学問的、技術的にレベルの高い博士論文を完成させることを目標とする。得られた研究成果を国内外の学会・研究会において発表する。 （10　角川　裕次） 分散アルゴリズムや組み合わせアルゴリズムなどを中心に、アルゴリズムの設計、解析、シミュレーション評価実験等を理論的あるいは工学的側面から研究する。 （30　中野　浩） ソフトウェアおよびその開発に関する基礎理論(プログラミングの形式的取り扱い、プログラムの意味論、プログラミング言語の型理論、型付きラムダ計算など)の研究を行う。 （35　馬　青） 自然言語で表現される情報や知識に焦点を当て、形態素解析や構文解析といった自然言語処理技術と、深層学習を代表とする機械学習や統計のアプローチに基づき、情報抽出や文書要約といった要素技術から、快適なネット社会の実現に資する応用まで、さまざまな言語処理課題に取り組む。 （49　高橋　隆史） 機械学習とその画像認識やコンピュータビジョン等の問題への応用をテーマとする。近年発達が著しい深層学習およびその延長線上にある手法と統計的パターン認識の手法とを複合させた新たな手法を検討する。	
	知能情報メディアコース	知能情報システム特別研究	（概要） 知能情報システムを実現するために必要な、画像処理・画像認識と理解、音響・音声処理と理解、それらに関連するヒューマンインタフェース、人工知能アルゴリズムの開発・実装などの分野に関し、基礎から応用までを研究指導する。研究成果は、内外への研究発表を勧めるとともに学位論文の作成を指導する。 （11　片岡　章俊） 音響・音声処理をベースとした知能情報システムや音声を入出力とするヒューマンインタフェースに関する研究の指導、学会発表に向けたプレゼンテーション能力の向上及び論文作成に関する指導を行う。特に研究指導では、自ら課題を設定し、その課題解決に向けて自立的に研究を行う能力を養う。 （24　菅谷　至寛） 主に画像処理や画像認識・理解、センサ情報を活用した情報システムや、知能情報システムを実現するために必要となる人工知能アルゴリズムに関して、研究の実践のための指導、および論文指導を行う。自ら問題を設定し、自立して研究活動を遂行する能力、自身の研究に関連する海外の文献を理解する能力、および研究成果を英語で内外に発信・説明する能力を養う。	

別記様式第2号（その3の1）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（先端理工学研究科　先端理工学専攻　博士後期課程）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別研究	知能情報メディアコース	ソフトウェア科学特別研究	（概要） 知能情報処理を行うために必要な、ソフトウェアシステムの開発・実装、機械学習や自然言語処理を始めとする人工知能に関連するアルゴリズムの開発・実装、人工知能の心理的影響など分野における基礎から応用までを研究指導する。研究成果は、内外への研究発表を勧めるとともに学位論文の作成を指導する。 （31　野村　竜也） 修士課程を含むこれまでの研究成果をさらに発展させ、学術テーマをより広く選定し、かつより深く掘り下げる形で研究を遂行し、最終的に博士論文としてまとめあげ、博士論文公聴会にて発表を行う。国際会議での口頭発表を念頭に研究計画を進め、さらにそれらを査読付き学術論文誌において発表する。研究内容は、担当教員の専門研究領域である「人とコンピュータ・人工知能・ロボットとの対話に関する実験心理学的研究および質問紙を用いた調査研究」を主題とするが、そこからさらに派生した研究内容を遂行することも推奨する。 （40　三好　力） 博士後期課程では、修士課程で得られた研究成果を更に発展させるとともに、習得した能力のさらなる向上を図る。中間発表における進捗状況報告、国内外の学会等で研究結果の外部発表を行い、研究成果を博士論文としてまとめた上で、博士論文公聴会において口頭発表を行う。研究分野は、情報ネットワークと機械学習を中心に、知的情報処理の観点からアルゴリズム、情報システム設計、シミュレーション技術等に関する高度な研究指導を行う。 （56　山本　哲男） 博士後期課程では、研究課題を自ら考える能力とその課題の解決方法を設計して実施する能力を養い、研究論文としてまとめて発信して発表する能力を身につける。さらに、国内外での発表を通じて多くの研究者との交流をもつことで、自身の研究の発展を目指す。担当教員の研究分野はソフトウェア工学である。その中でも、プログラムの解析技術やテスト・デバッグ工程の支援環境に関する研究である。 （58　吉見　毅彦） 人間の書き言葉や話し言葉を対象とした言語情報処理に関して、学生が最終目標を設定し、3年間を6期に分けた研究計画を立て、研究成果発表を行う。研究発表は、査読つき学術論文3編を目標とする。教員の研究指導する専門領域は、自然言語処理である。教員の研究テーマの概要は、人間の言語活動を支援するシステムの実現をめざして、言語の解析技術に関する研究や機械翻訳に関する研究、第2言語学習支援システムに関する研究などである。	
		メディア工学特別研究	（概要） 学際的な学問体系である「情報メディア学」を、具体的なシステム開発を通じて、人間およびコンピュータの密接な関係について視覚情報処理の基礎から応用までを研究指導する。研究成果は、国内外の学会での公表を勧めるとともに学位論文の作成を指導する。 （33　藤田　和弘） 視覚情報として画像データを主な対象として、統計的信号処理手法、機械学習手法および深層学習を基礎とした視覚情報処理に関する研究指導を行う。また、基礎的な理論から画像処理アルゴリズムの研究開発を行い、視覚情報システムのプロトタイプ開発までを目標とする。 （48　曽我　麻佐子） 3次元コンピュータグラフィックスまたは人体モーションを主な対象として、3次元データの情報処理に関する研究指導を行う。3次元時空間データの蓄積・加工・分析・提示に関する手法の提案およびプロトタイプシステムの開発を行い、公開および評価実験を行うことで研究活動サイクルを実践する。	

別記様式第2号（その3の1）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（先端理工学研究科　先端理工学専攻　博士後期課程）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別研究	電子情報通信コース	電子情報基礎特別研究	（概要） 博士後期課程3年間を通じて、博士論文を完成させるための研究の全過程を電子情報基礎分野の担当教員が指導するものである。博士後期課程の各学年の固有テーマに関して、日常的に、研究経過、実験成果、文献調査内容などの報告について、研究指導を行う。 （9　海川　龍治） 薄膜太陽電池の研究など、博士後期課程3年間を通じて、博士論文を完成させるための研究の全過程を指導する。博士後期課程の各学年の固有テーマに関して、日常的に、研究経過、実験成果、文献調査内容などの報告について、研究指導を行う。 （17　木村　睦） 薄膜デバイス・ニューロモーフィックシステムを研究テーマとする。薄膜デバイスは、今後のエレクトロニクスを支える半導体デバイスとして、おおいに期待されているものであり、また、ニューロモーフィックシステムは、人工知能をハードウェアで実現する試みであり、未来の社会のキーテクノロジとなるべきものである。これらの研究に携わることは、学生にとっておおきなメリットとなる。 （42　山本　伸一） 原子・分子領域の基礎レベルから製造技術開発に至るまで、持続可能な社会構築に関連するあらゆる科学技術を広汎に取り扱うことで、総合的な融合教育研究を実施する。学生一人ひとりが、現代の科学と技術の最新のかつ未解決の問題に取り組み、自ら解を見出していく方法を身につけることを目指す。各自固有テーマに関して、研究経過、実験結果、文献調査などの報告についての研究指導を日々行う。原則として、新しい研究成果を、国内外の学会、研究会において研究発表を行うことを目標とする。 （53　宮戸　祐治） 計測工学に関わる分野において、ナノスケール物性評価および分析手法の開発を主な研究テーマとして研究活動を行う。日常的に、実験整理および研究進捗報告、文献調査内容などの報告を通じて、研究指導を行う。こうして得られた研究成果を学会発表や学術論文誌に積極的に投稿する。	
		情報処理機構特別研究	（概要） 博士後期課程3年間を通じて、博士論文を完成させるための研究の全過程を情報処理機構分野の担当教員が指導するものである。博士後期課程の各学年の固有テーマに関して、日常的に、研究経過、実験成果、文献調査内容などの報告について、研究指導を行う。 （16　木村　昌弘） 情報処理機構分野の研究として、機械学習、データマイニング、Web情報学、複雑ネットワーク科学、知能情報学に関わる研究分野に対し、数理モデリングを土台としたソーシャルデータ分析の研究を指導する。博士後期課程3年間を通じて、博士論文を完成させるための研究の全過程を指導するものである。博士後期課程の各学生の固有テーマに関して、日常的に、研究経過、実験成果、文献調査内容などの報告について、研究指導を行う。そして、研究成果を国内の研究会、国際会議および学術論文誌に発表することを目指す。 （18　小堀　聡） 情報処理機構の観点から、人間のさまざまな生体機能、すなわち生理的な反応から知的な機能までの機構を、被験者実験やシミュレーションなどにより総合的に解析する手法について研究指導を行う。具体的には、人間の基本的な動作の学習と視覚系との関係、問題解決や記憶・学習といった知的機能の解析に焦点を当てた研究を対象とする。また、それらの研究をもとに実用的なシステムを構築することも含めて研究指導を行い、高度な論文の作成を着実に推進させる。 （47　酒田　信親） 人間とコンピュータのインタラクションシステムに関し、人間がどのように外からの情報を取り入れ、処理し、出力をしているかを理解し、コンピュータから人間への情報伝達手法に関して要素技術が存在し、そしてどのように発展してきたかを把握し、それらに基づいて新たなコンピュータインタラクションシステムの研究を実践する。博士後期課程では、国際会議発表、査読付き論文誌投稿を重視した研究指導を行う。	

別記様式第2号（その3の1）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（先端理工学研究科　先端理工学専攻　博士後期課程）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別研究	電子情報通信コース	情報システム特別研究	（概要） 博士後期課程3年間を通じて、博士論文を完成させるための研究の全過程を情報システム分野の担当教員が指導するものである。博士後期課程の各学年の固有テーマに関して、日常的に、研究経過、実験成果、文献調査内容などの報告について、研究指導を行う。 （2　石崎　俊雄） 修士課程で修得したマイクロ波工学の知識をさらに発展させた高度な研究テーマについて解析、実験、考察を行い、それらの研究結果を博士論文にまとめる。研究テーマはマイクロ波通信デバイス、ミリ波通信システム、マイクロ波加熱システム、無線電力伝送システムに関する研究である。このような研究を通じて、課題の解決方法を修得し、あらゆる技術課題に対するアプローチの仕方を身に付ける。 （26　張　陽軍） 移動通信や電磁波のエネルギーの応用に伴い、空間や生体に放射された電磁波の電磁界に関する様々の量を正確に測定し、そしてそれらの情報を他の端末へ迅速に伝達することの必要性と重要性が高まっている。この特別研究では、主としてマイクロ波周波数におけるセンシング技術、計測システムと情報通信システムの構築、および情報システムの回路素子の設計について研究指導を行い、高度な論文の作成を着実に推進させる。 （43　植村　渉） 可視光通信の分野において、変調方式といった基礎的な研究から応用に関する研究まで幅広い範囲で研究テーマを設定して研究を行う。また、ロボットの制御に関する研究も同様に行い、移動式ロボットやアーム型ロボットを対象として、強化学習の適用を目指す。国内の研究会での発表から始まり、国際学会にて成果を発表し、査読あり論文誌に載せることを目指し、最終的に博士論文としてまとめる。そのために日常的に研究経過、実験成果、文献調査内容などの報告を通して、研究指導を行う。	
	機械工学・ロボティクスコース	力学特別研究	（概要） 博士後期課程3年間を通じて、所属する研究室の各指導教員の下で、力学分野に関する各自の研究テーマについて研究を行い、博士学位論文を完成させる。各研究テーマに関して、配属先研究室の教員に日常的に研究の進捗や課題などの報告を行い、議論の上研究を進める。1年次と2年次の終わりには中間報告を行うとともに、3年次の終わりに最終的に研究成果を博士論文として提出し、博士論文公聴会において発表する。提出された博士論文は3名の審査員と2名の口述試験委員によって審査される。 （19　譽田　登） 鉄鋼材料溶接部の疲労損傷機構を、巨視的および微視的に観察・解析することにより、疲労破壊駆動力ならびに疲労破壊抵抗力を定量的に解明し、疲労強度向上の指針導出に関する研究の指導を行う。 （25　田原　大輔） マルチスケールで階層的に展開される生体組織の力学的適応の解明、モデル化、予測を高度な計算力学シミュレーションと実験の有機的連携により行い、先進的な機械・構造物の設計手法の抽出・提示と、医療応用可能な技術開発のための研究指導を行う。 （27　辻上　哲也） 複合材料のメゾ、ミクロ領域における応力、ひずみ評価のための高度な連成シミュレーション技術や高レベル測定技術を用いることにより、静的材料特性および破壊特性に優れた高機能複合材料を開発するための先進的な研究指導を行う。	

別記様式第2号（その3の1）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（先端理工学研究科　先端理工学専攻　博士後期課程）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別研究	機械工学・ロボティクスコース	エネルギー特別研究	（概要） 博士後期課程3年間を通じて、所属する研究室の各指導教員の下で、エネルギー分野に関する各自の研究テーマについて研究を行い、博士学位論文を完成させる。各研究テーマに関して、配属先研究室の教員に日常的に研究の進捗や課題などの報告を行い、議論の上研究を進める。1年次と2年次の終わりには中間報告を行うとともに、3年次の終わりに最終的に研究成果を博士論文として提出し、博士論文公聴会において発表する。提出された博士論文は3名の審査員と2名の口述試験委員によって審査される。 （5　大津　広敬） 宇宙飛行体や航空機、流体機械に関連した様々な新しい流体モデルについて考究し、高度な数値流体解析技術や風洞実験における新しい可視化方法などを用いて、飛行体の空力特性、流体機械の効率向上を目指した先進的な研究指導を行う。 （22　塩見　洋一） 混相流や熱流体の様々な現象の理論的考察を行い、シミュレーションとの比較からその有効性を確認して、実験等では把握することが困難な諸量を用いてその特性を明らかにするための先進的な研究指導を行う。	
		システム特別研究	（概要） 博士後期課程3年間を通じて、所属する研究室の各指導教員の下で、システム分野に関する各自の研究テーマについて研究を行い、博士学位論文を完成させる。各研究テーマに関して、配属先研究室の教員に日常的に研究の進捗や課題などの報告を行い、議論の上研究を進める。1年次と2年次の終わりには中間報告を行うとともに、3年次の終わりに最終的に研究成果を博士論文として提出し、博士論文公聴会において発表する。提出された博士論文は3名の審査員と2名の口述試験委員によって審査される。 （7　小川　圭二） 精密計測技術を活用した機械加工現象の可視化やレーザ加工における光と材料の相互作用の解析を通じて、高度な生産加工技術やそのシステムを開発するための先進的な研究指導を行う。 （20　坂上　憲光） フィールドでの活用を目指すロボットを対象に、理論構築、数値解析や運動制御の安定性解析を行い、実現可能性を検証した上で、ロボットを設計・開発し、基礎実験およびフィールド実験を通してその有効性を検証する。この一連の研究活動、学会発表、論文執筆等を通してロボット研究者としての素養を身に付ける。 （21　左近　拓男） 機能性磁性材料の磁気的・力学的性質について磁気測定や電気測定、熱測定、力学的測定により実験的に導き出し、それらの物性の原子・電子レベルの、ナノスケールの物理学的起源を導き出す課題についての研究指導を行う。 （23　渋谷　恒司） 生物の形態や機能を手本に、ロボットシステムに応用可能な学術的に新たな理論の構築を目指すとともに、実験とシミュレーションを通してその理論を検証し、その理論に基づく新たな技術を創出できるように、先進的な研究指導を行う。 （50　永瀬　純也） 生き物やロボットのダイナミクスおよびメカニズムについて、機械工学のみならず、数学(幾何学)、生物学、運動生理学などの複数の領域からアプローチすることでその本質を明らかにし、それらを基に革新的なロボット技術を創成するための先進的な研究指導を行う。	

別記様式第2号（その3の1）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（先端理工学研究科　先端理工学専攻　博士後期課程）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別研究	応用化学コース	物質評価法特別研究	（概要） 博士後期課程3年間にまたがる科目であり、物質評価法の分野において、希望して所属する研究室の各指導教員によるきめ細かい指導の下で最新の理論と手法を学び、それを活かした研究を行う。修士で身につけたより高度な科学技術的な問題を分析し、課題を設定、解決できる能力をさらに引延し、研究者として独り立ちできる素養を養うことを目的としている。体系的な指導のため、英語論文紹介、報告会、集中ゼミなどが各研究室ごとに適切な方法で行われる。さらに、個別の密接な指導・監督のもとに、各自が主体性を持って研究を遂行する。研究経過は毎年、年度終了時のコース内での中間発表で報告し、最終の研究成果は博士論文として提出し、コース所属全教員参加の博士論文公聴会で発表し、一定の基準で審査する。 （34　藤原　学） 博士後期課程3年間にまたがる科目であり、希望して所属する研究室の指導教員によるきめ細かい指導の下で主に最新の機器分析化学の研究を行う。学部および修士課程で身につけた知識・能力をもとに、最先端のX線分析手法と分析対象物質に関する喫緊の科学技術的な課題を導き出し、自らの発想と工夫から課題解決の手法をつくり、それを用いて解決できる能力を養うことを目的としている。研究成果は、関連する学術学会で複数回発表し、多くの研究者からの評価をいただく。日本語と英語による科学論文を作成し、学術専門誌への掲載を目指す。特別研究は、自らの主体性を持って研究を遂行することを求め、教員はアドバイス役に徹する。研究経過は1年次および2年次終了時の中間発表で報告するとともに、最終の研究成果は博士論文として提出し、博士論文公聴会で発表する。 （39　宮武　智弘） 生体分子の多くは分子集合体を形成することで、生命活動を維持するために必要な機能を発現している。このとき、生体分子の特異的な分子構造が、その分子集合体の構造と機能に大きく影響する。ここでは、光合成色素であるクロロフィル分子などを対象にし、効果的に分子集合する系を設計する。そして、その分子集合体の構造と物性を評価し、分子間相互作用が物性に及ぼす影響について検討するとともに、分子集合体が発現する機能について検討を重ねる。学会発表等を通じて他の研究者との議論を深めつつ、研究成果を論文にまとめ学術誌への掲載を行う。そして、得られた研究成果を体系的にとりまとめた博士論文を作成する。	
		無機材料特別研究	（概要） 博士後期課程3年間にまたがる科目であり、無機材料の分野において、希望して所属する研究室の各指導教員によるきめ細かい指導の下で最新の理論と手法を学び、それを活かした研究を行う。修士で身につけたより高度な科学技術的な問題を分析し、課題を設定、解決できる能力をさらに引延し、研究者として独り立ちできる素養を養うことを目的としている。体系的な指導のため、英語論文紹介、報告会、集中ゼミなどが各研究室ごとに適切な方法で行われる。さらに、個別の密接な指導・監督のもとに、各自が主体性を持って研究を遂行する。研究経過は毎年、年度終了時のコース内での中間発表で報告し、最終の研究成果は博士論文として提出し、コース所属全教員参加の博士論文公聴会で発表し、一定の基準で審査する。 （1　青井　芳史） 薄膜材料を中心とした無機機能性材料に関する研究について指導する。特に、気相法による炭素系薄膜材料(アモルファス炭素、窒化炭素、炭窒化ケイ素等)の作製とその物性評価、応用、液相析出法による金属酸化物薄膜の作製とその物性評価、応用に関する研究を通じて、無機機能性材料に関する高度な科学技術的な問題を分析し、課題を設定。解決できる能力を養う。 （6　大柳　満之） 毎週決められた時間に定期的に時間を設けて研究指導と研究打ち合わせを行うことを基本にするが、特別研究という授業の特性上、それ以外であっても随時研究指導と研究打ち合わせを行う。また、定期的に研究内容をまとめる訓練を行い研究概要をWORDによる書面報告書とPPTを用いた発表を課す。研究内容がまとまれば適切な時期に国内だけでなく国外においても英語で学会発表を行う訓練をする。研究の専門領域は、無機材料合成化学で、固体材料の作製と物性評価を行う課題と欠陥を積極的に含むナノ複合酸化物を合成し触媒として利用する課題がある。特に前者ではセラミックス長繊維強化セラミックス複合材料やモザイク組織を持つナノセラミックス複合材料を中心に、後者では欠陥を持つナノセラミックス複合酸化物の水素分子の解離触媒としての研究を中心に行う。	

別記様式第2号（その3の1）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（先端理工学研究科　先端理工学専攻　博士後期課程）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別研究	応用化学コース	無機材料特別研究	（46　小寺　康博） 平衡状態から外れた微細構造や結晶構造を有する機能性無機材料に関する内容を主に指導する。上記の構造を作成するための物質合成、加工方法やその評価方法について議論する。無機化学、化学平衡、熱力学、速度論、結晶学などの基礎から、ターゲットとしている物質の合成、加工を研究する。微細・結晶構造解析、元素分析、化学状態分析を行い、磁気的・光学的特性との関連性を議論する。最新の理論と手法を論文や国際会議や発表などから積極的に取り入れて世界レベルの研究を行う。得られた研究成果を論文や国際会議などで積極的に報告する。	
		有機・高分子材料特別研究	（概要） 博士後期課程3年間にまたがる科目であり、有機・高分子材料の分野において、希望して所属する研究室の各指導教員によるきめ細かい指導の下で最新の理論と手法を学び、それを活かした研究を行う。修士で身につけたより高度な科学技術的な問題を分析し、課題を設定、解決できる能力をさらに引延し、研究者として独り立ちできる素養を養うことを目的としている。体系的な指導のため、英語論文紹介、報告会、集中ゼミなどが各研究室ごとに適切な方法で行われる。さらに、個別の密接な指導・監督のもとに、各自が主体性を持って研究を遂行する。研究経過は毎年、年度終了時のコース内での中間発表で報告し、最終の研究成果は博士論文として提出し、コース所属全教員参加の博士論文公聴会で発表し、一定の基準で審査する。 （3　岩澤　哲郎） 新規性のある有機分子の合成を通して、合成化学上の課題を解決する。目的志向型の研究スタイルをベースとして、独自の方法や化合物を中心に据えて問題解決に臨む。研究テーマの範疇は、比較的小さい多環芳香族炭化水素を核とした、ボトムアップ型液相合成による新物質創成に置く。基礎となる分子化学としての要素に焦点を据えた基礎研究を中心にして、画期的な分子化学の構築に取り組み、新しい課題の発見にまで踏み込む。 （4　内田　欣吾） 光化学および有機化学の基礎の理解の上に、分子や分子集合体を用いた斬新な光応答システムを考え、テーマを設定し研究を行う。これまでに身につけた基礎知識・能力をもとに、より高度な科学技術的な問題を分析し、課題を設定・解決する必要がある。修士課程とは異なり、研究テーマも自分自身で考えることができるように、現時点での既知の成果を考慮し、斬新さとオリジナリティを備えたテーマが構築できるようアドバイスを与える。特に光応答機能材料の最新の研究論文や最近の研究動向を中心に議論し、研究を進める。国内外の学会発表の機会を与え、プレゼンテーション能力を高めるとともに、外部の研究者とも議論する機会を与え、研究者としての成長を促す。3年間で博士論文をまとめられるよう、研究遂行をサポートし、3年後には公聴会を開催できるよう指導する。 （12　河内　岳大） 生命機能の根幹を成すタンパク質やDNAなどの生体高分子は、構成単位の化学構造、分子量、分子量分布、末端基などの一次構造が精密に制御されており、この精密一次構造に基づいて二次構造を形成し、さらにそれらが精緻に配置・相関した集合構造を時空間特異的に形成することで触媒や情報保存・転写などの極めて高度な機能を発現する。この生体高分子システムの階層的構造制御に迫るべく、本質的に構造分布を有する合成高分子において一次構造を精密制御し、その集積化プロセスまでを合目的にコントロールすることで、分子機能を発現する高分子システム・材料を創製することを目指す。博士後期課程においては、教員との綿密なディスカッションのもと、本分野における未踏領域を把握し、実施すべき研究課題を自ら設定する。 （28　富﨑　欣也） 生体分子の中でもペプチドは、化学合成法によって様々な機能性基を位置特異的に配置可能であることと、自己集合化によってナノからマイクロメートルスケールのボトムアップ型材料合成に適していることから注目を集めている。ここでは特に短いペプチドの自己集合現象を研究対象とし、これらを鋳型とする有機―無機複合材料および薬物送達システムに関する独自の研究分野の開拓を行う。 （29　中沖　隆彦） 高分子固体構造や生分解性高分子材料について、材料合成ばかりでなく、分子構造解析や力学物性などの測定により基礎的な知見を蓄積して世界レベルで対応可能な独創的で新規なアイディアを学生自身で考え提案してもらう。それについてディスカッションを繰り返し、国内ばかりでなく国際的な学会でも公表し、最終的には審査付き学術雑誌への投稿を目指す。	

別記様式第2号（その3の1）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（先端理工学研究科　先端理工学専攻　博士後期課程）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別研究	環境科学コース	生態学特別研究	（概要） 博士後期課程の3年間にまたがる科目である。自らの研究テーマに関する文献調査から計画の立案、調査・実験、データ処理・統計、計画の修正といった一連の研究活動を自立的に実施する知識と技術を修得する。初年次に指導計画を策定し、指導教員によるきめ細かい指導のもとで、研究進捗状況の確認や計画修正についての議論等を定期的に行う。適切に情報を取りまとめて表現する力、建設的かつ論理的な議論を行う力も養う。学内外の他の研究者との共同研究や対外的な学術成果の発表も適宜実施し、3年間をかけて当該学術分野の専門家として十分な経験を積む。最終的な成果物として学問的かつ技術的に高い水準の博士論文の作成を行う。 （37　丸山　敦） 必要に即して先端技術に触れさせつつ、水域環境や自然人類学に関する研究領域において専門家として自立して行えるよう研究指導を行う。 （38　三木　健） 数理モデリングおよび統計モデリング等のデータサイエンス技術と野外観察・室内実験を組み合わせ、生物多様性科学および生態系科学における各種課題の研究を当該学術分野における専門家として自立して行えるよう指導する。 （44　岸本　圭子） 群集生態学的アプローチをもとに、動物群集の維持機構及び環境変動に対する群集の反応様式に関する各種課題の研究を、専門家として自律的に行うことができるよう指導する。 （55　山中　裕樹） 分子生物学的な手法による生物情報の分析技術を用いて、生物多様性科学および生物資源管理学における各種課題の研究を当該学術分野における専門家として自立して行えるよう指導する。 （57　横田　岳人） 森林生態系の維持機構を物質生産と生物間相互作用の側面から明らかにすることを中心に、関連する周辺分野の知見を取り上げながら、技術的・専門的な指導を行い、生態系科学における各種課題の研究を当該学術分野における専門家として自立して行えるよう指導する。	
		エコロジー工学特別研究	（概要） 博士後期課程の3年間にまたがる科目である。指導教員によるきめ細かい指導のもとで、自分の研究テーマに関する調査、論文精読、実験、研究・開発を自主的、計画的かつ具体的に実践する知識と技術を修得する。初年次に指導計画を策定し、研究進捗状況の確認や計画修正についての議論等を定期的に行う。適切に情報を取りまとめて表現する力、建設的かつ論理的な議論を行う力も養う。分野横断的な先端研究事例の知見集積を行い、技術者として求められる客観的な思考および表現力を高め、最終的な成果物として学問的かつ技術的に高い水準の博士論文の作成を行う。 （8　奥田　哲士） 環境計測、水処理、廃棄物管理の分野において自ら課題を見つけ、化学工学および応用化学を基盤に、他の分野も取り込みながら課題を解決する手法やアプローチを複数発案し、その中から最も可能性の高いものを選んだり試験の優先順位やスケジュールを管理しながら、課題解決を自立して行えるよう指導する。さらに、得られた成果を社会に還元する能力の養成も行う。 （14　菊池　隆之助） マテリアルフローやLCAやリサイクルの概念と技術を基調にし、社会（倫理）・経済・環境を統括する観点からのアプローチに基づき、研究指導を行う。特に、自主的な研究への取り組みを通して、循環型社会形成の一助となるような査読論文の執筆作成する専門性を重視する。	

別記様式第2号（その3の1）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（先端理工学研究科　先端理工学専攻　博士後期課程）

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別研究	環境科学コース	エコロジー工学特別研究	(15　岸本　直之) 物質収支解析や反応速度論などの反応工学的手法を用いて、水処理プロセス開発や流域水質管理に関する各種課題の研究を当該学術分野における専門家として自立して行えるよう指導する。 (45　越川　博元) 環境、特に水環境および大気環境における微生物学的安全性とその確保の視点から、微生物学、酵素・遺伝子工学手法、また化学分析を援用してその評価や工学的な問題解決を目指した研究指導を行う。この目的のため、専門分野における研究計画の作成、その実施と結果の解析を行う専門性の育成、得られた結果や結論を論文の公表という形で成果を社会に還元する能力の養成を目指す。 (52　藤森　崇) 環境影響評価の枠組みのなかで、環境化学、分析化学、環境工学、リスク評価などの学問分野を横断し、物質の挙動理解を念頭に置き研究指導を行う。特に、当該専門分野における計画・実施・論文化までの一連の研究活動を自律的に行う能力の養成を目指す。	

京都府・滋賀県内における位置関係図



龍谷大学　大宮学舎

京都市下京区七条通大宮東入
大工町 125 番地の 1

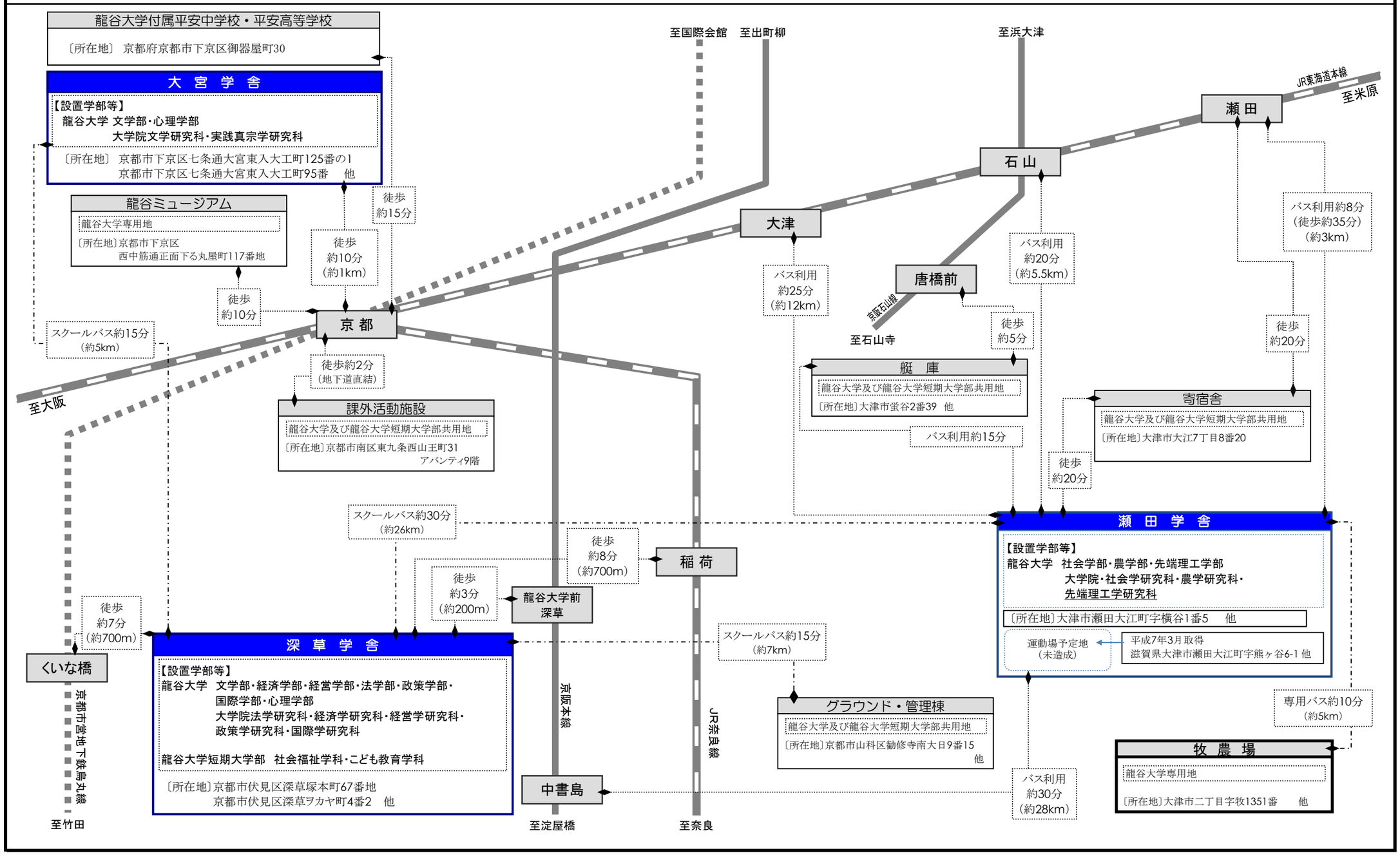
龍谷大学　深草学舎

京都市伏見区深草塚本町 67 番地

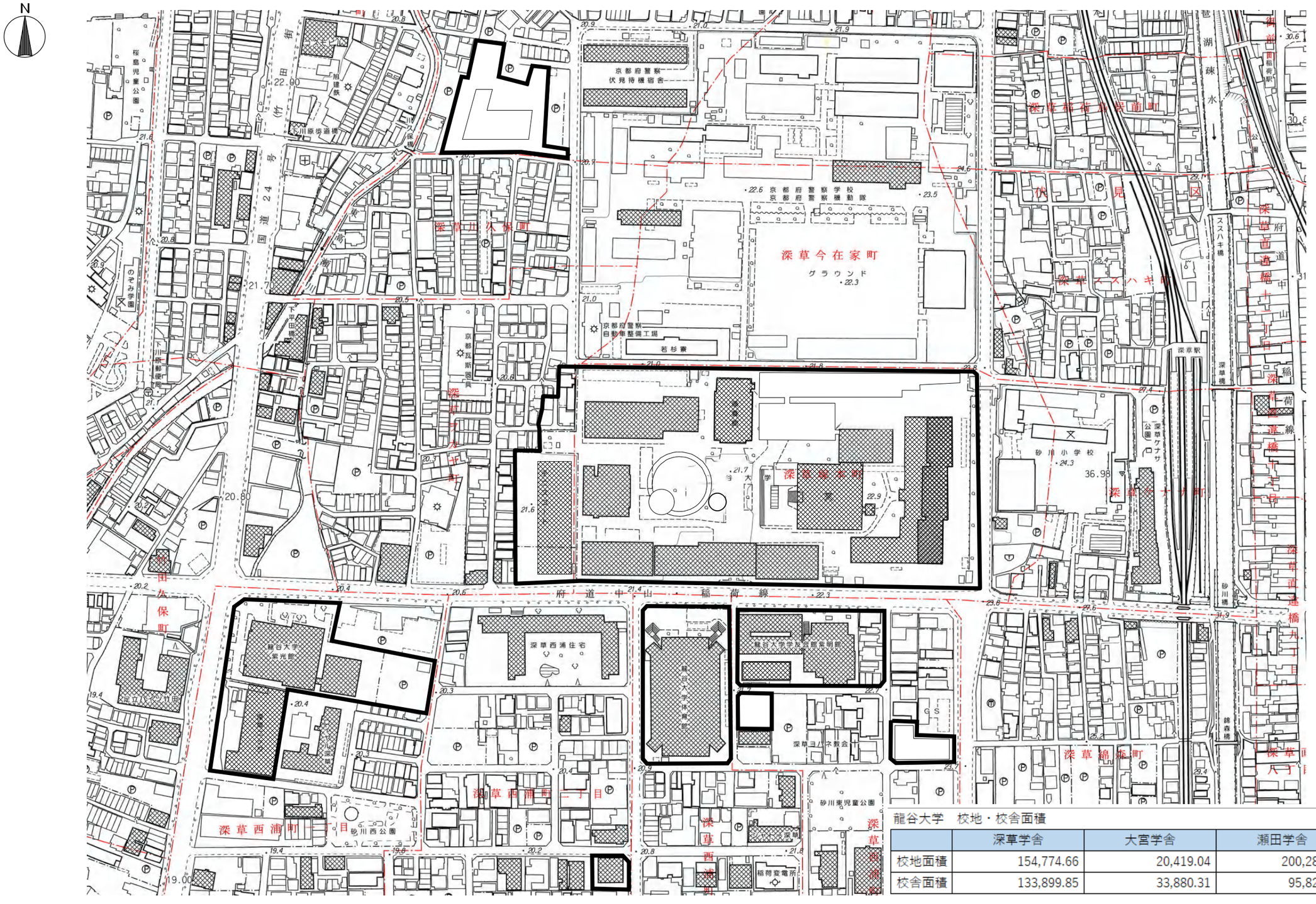
龍谷大学　瀬田学舎

滋賀県大津市瀬田大江町横谷 1 番 5

最寄り駅からの距離や交通機関の概要



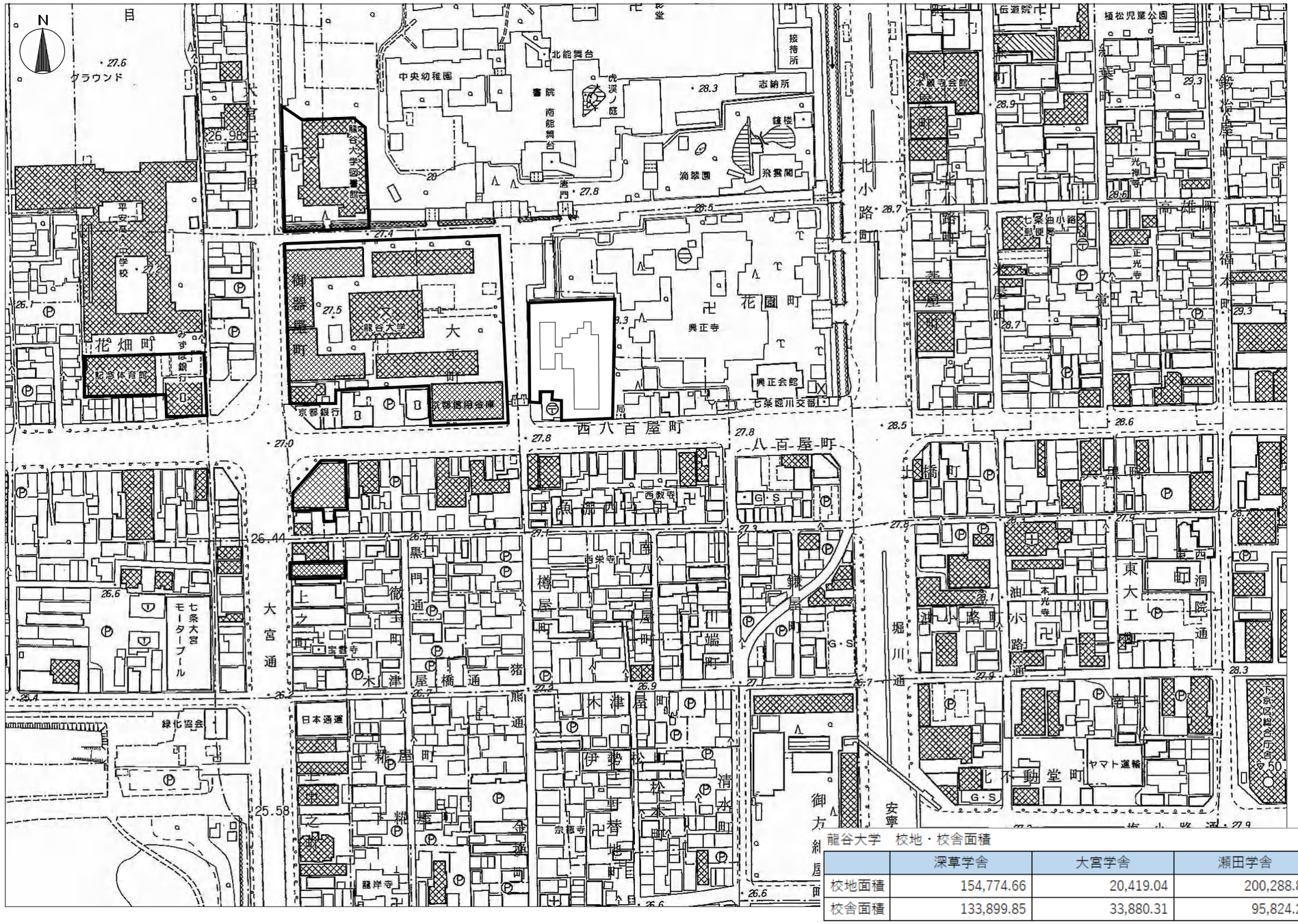
図面 - 2



龍谷大学　校地・校舎面積　㎡

	深草学舎	大宮学舎	瀬田学舎
校地面積	154,774.66	20,419.04	200,288.87
校舎面積	133,899.85	33,880.31	95,824.29

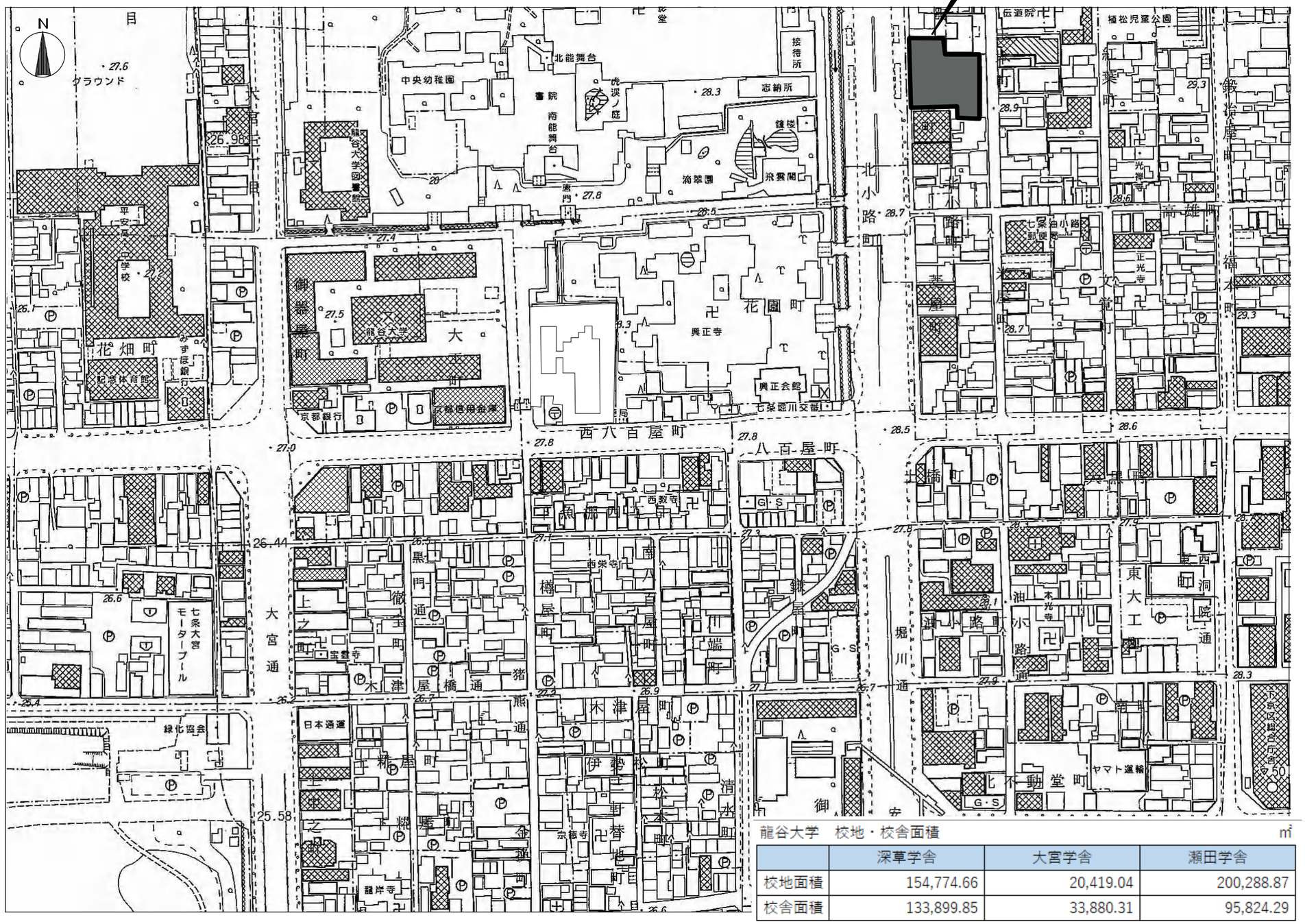
設計名称	学校法人　龍谷大学　深草学舎　校地・校舎	学校法人　龍谷大学　財務部		図面名称	付近見取図
				縮　尺	
				図面番号	



龍谷大学　校地・校舎面積　㎡

	深草学舎	大宮学舎	瀬田学舎
校地面積	154,774.66	20,419.04	200,288.87
校舎面積	133,899.85	33,880.31	95,824.29

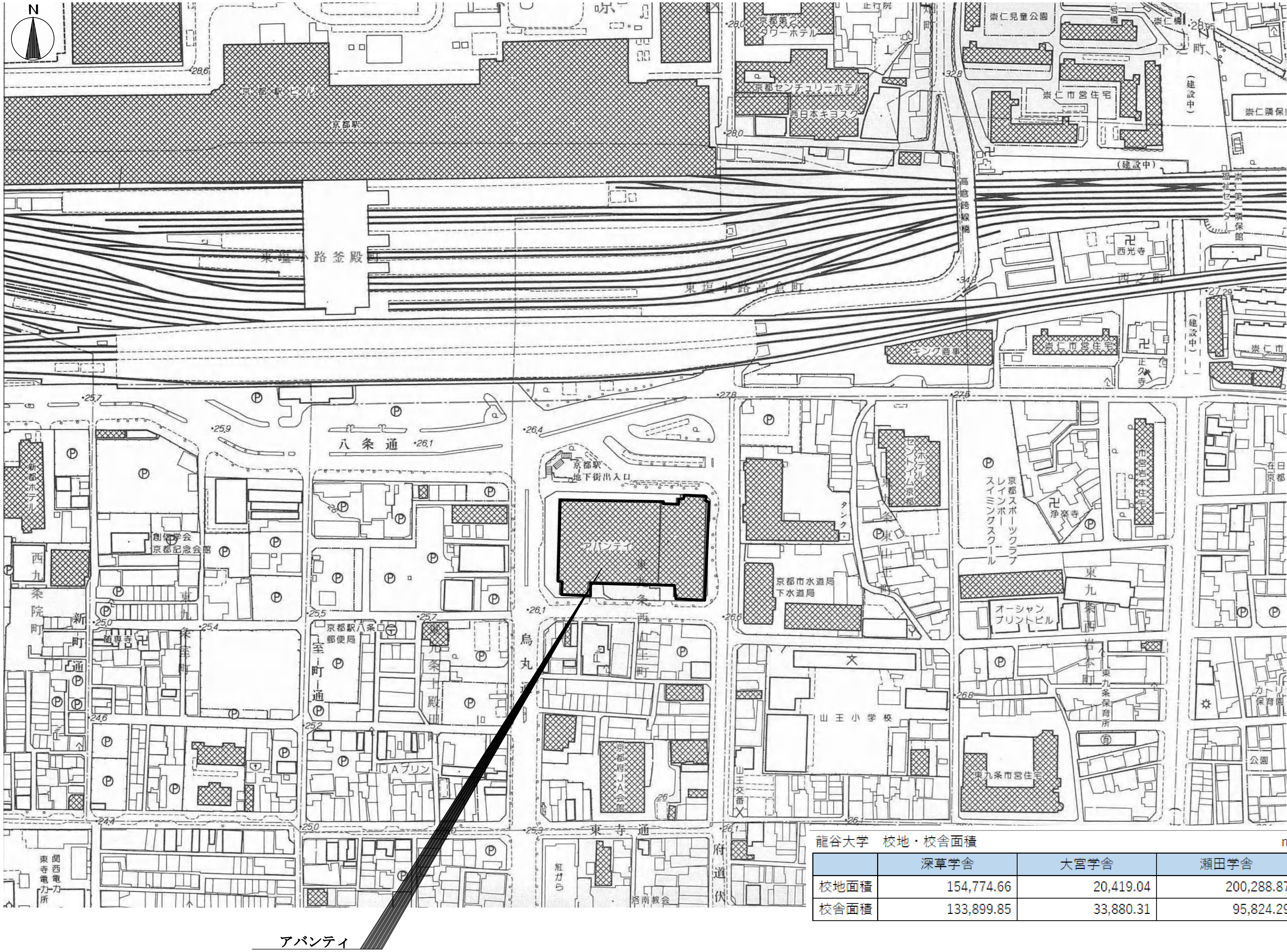
設計名称	学校法人　龍谷大学　大宮学舎　校地・校舎	学校法人　龍谷大学　財務部		図面名称	付近見取図
				縮　尺	図面番号



龍谷大学　校地・校舎面積　㎡

	深草学舎	大宮学舎	瀬田学舎
校地面積	154,774.66	20,419.04	200,288.87
校舎面積	133,899.85	33,880.31	95,824.29

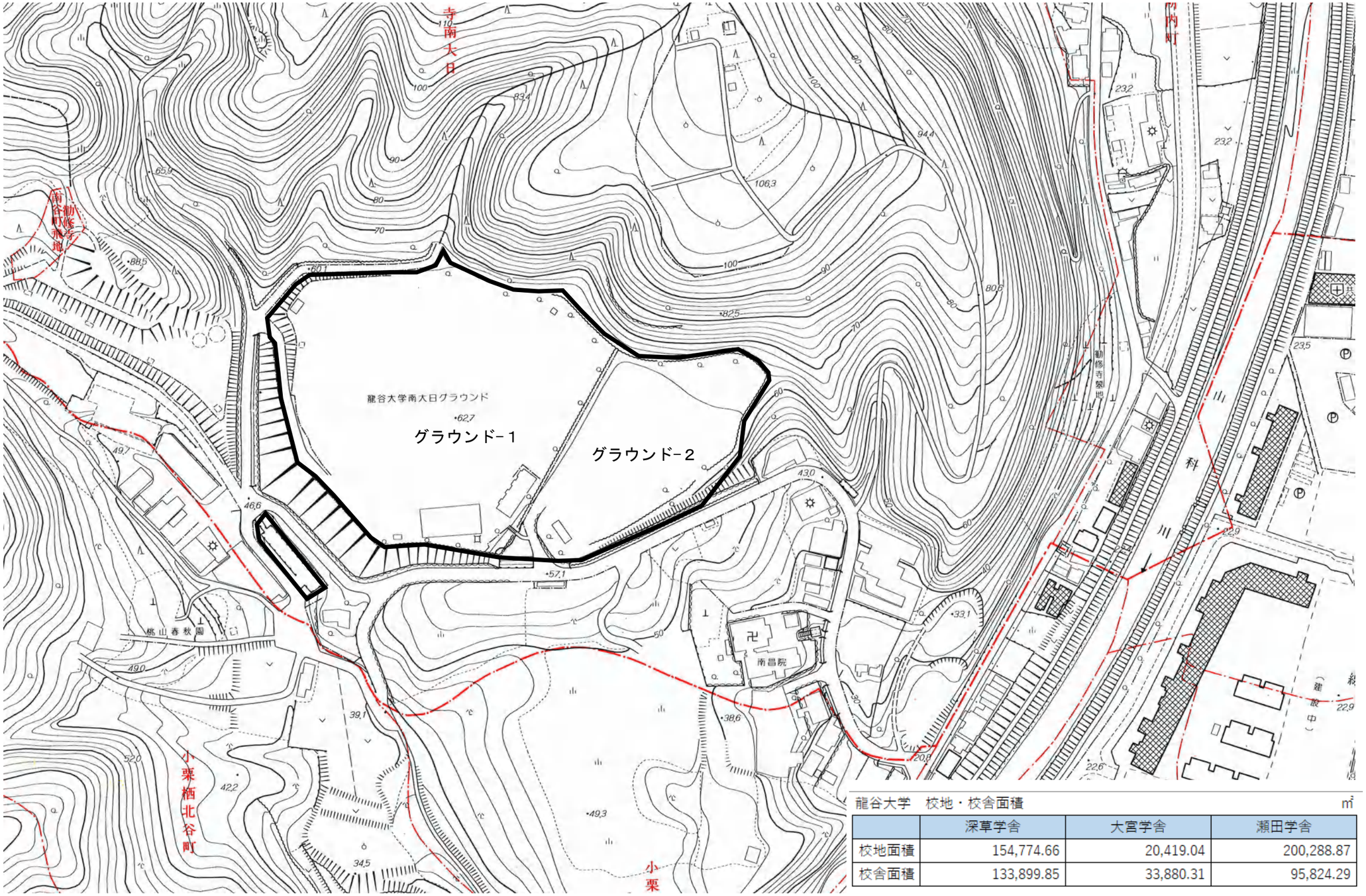
設計名称	学校法人　龍谷大学　大宮学舎　校地・校舎	学校法人　龍谷大学　財務部		図面名称	付近見取図
				縮　尺	図面番号



龍谷大学　校地・校舎面積　㎡

	深草学舎	大宮学舎	瀬田学舎
校地面積	154,774.66	20,419.04	200,288.87
校舎面積	133,899.85	33,880.31	95,824.29

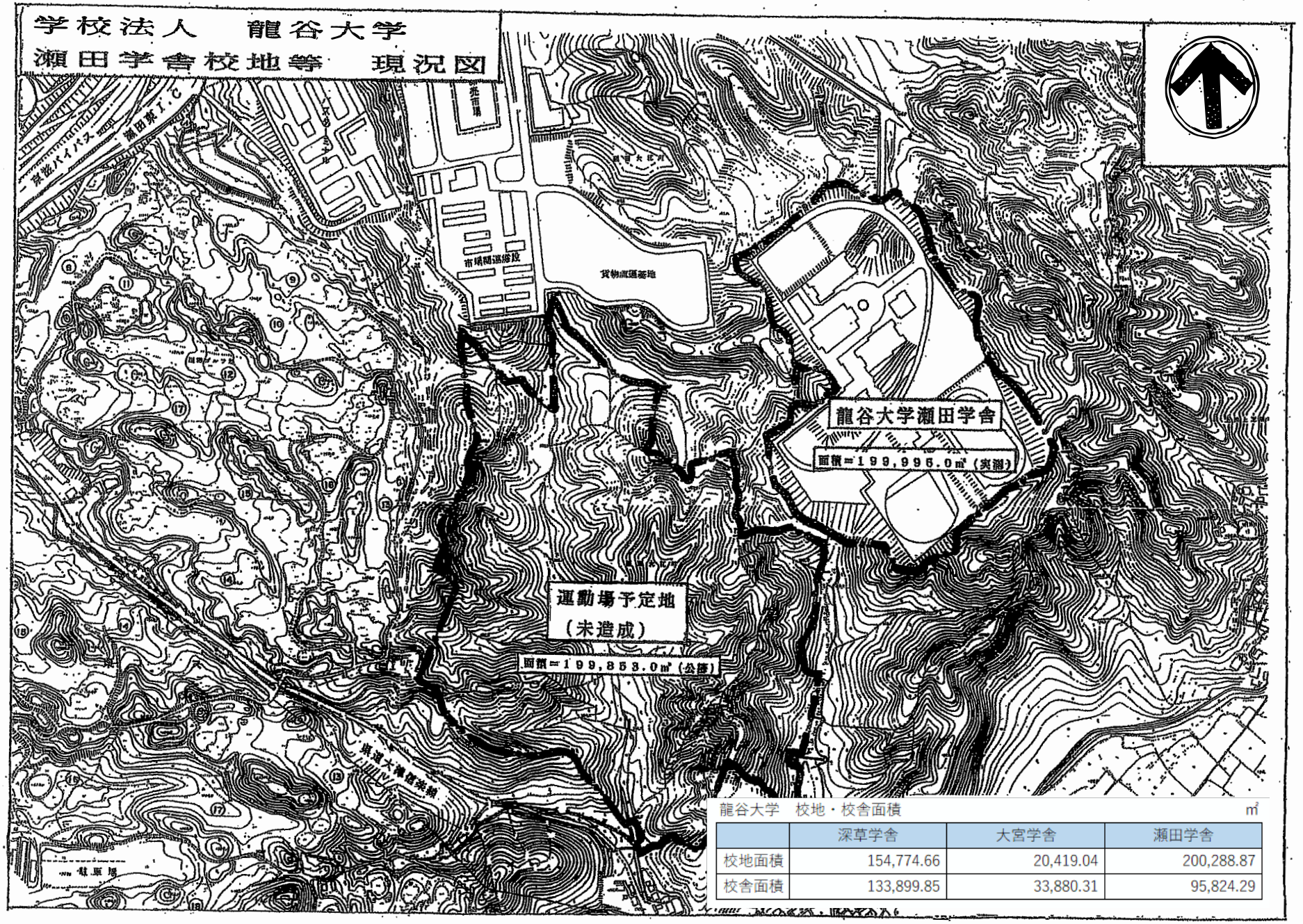
設計名称　学校法人　龍谷大学　アバンティ　校地・校舎	学校法人　龍谷大学　財務部	図面名称　付近見取図 縮尺	図面番号



龍谷大学　校地・校舎面積　㎡

	深草学舎	大宮学舎	瀬田学舎
校地面積	154,774.66	20,419.04	200,288.87
校舎面積	133,899.85	33,880.31	95,824.29

設計名称	学校法人　龍谷大学　南大日校地（運動場）校舎	学校法人　龍谷大学　財務部		図面名称	付近見取図
				縮　尺	図面番号

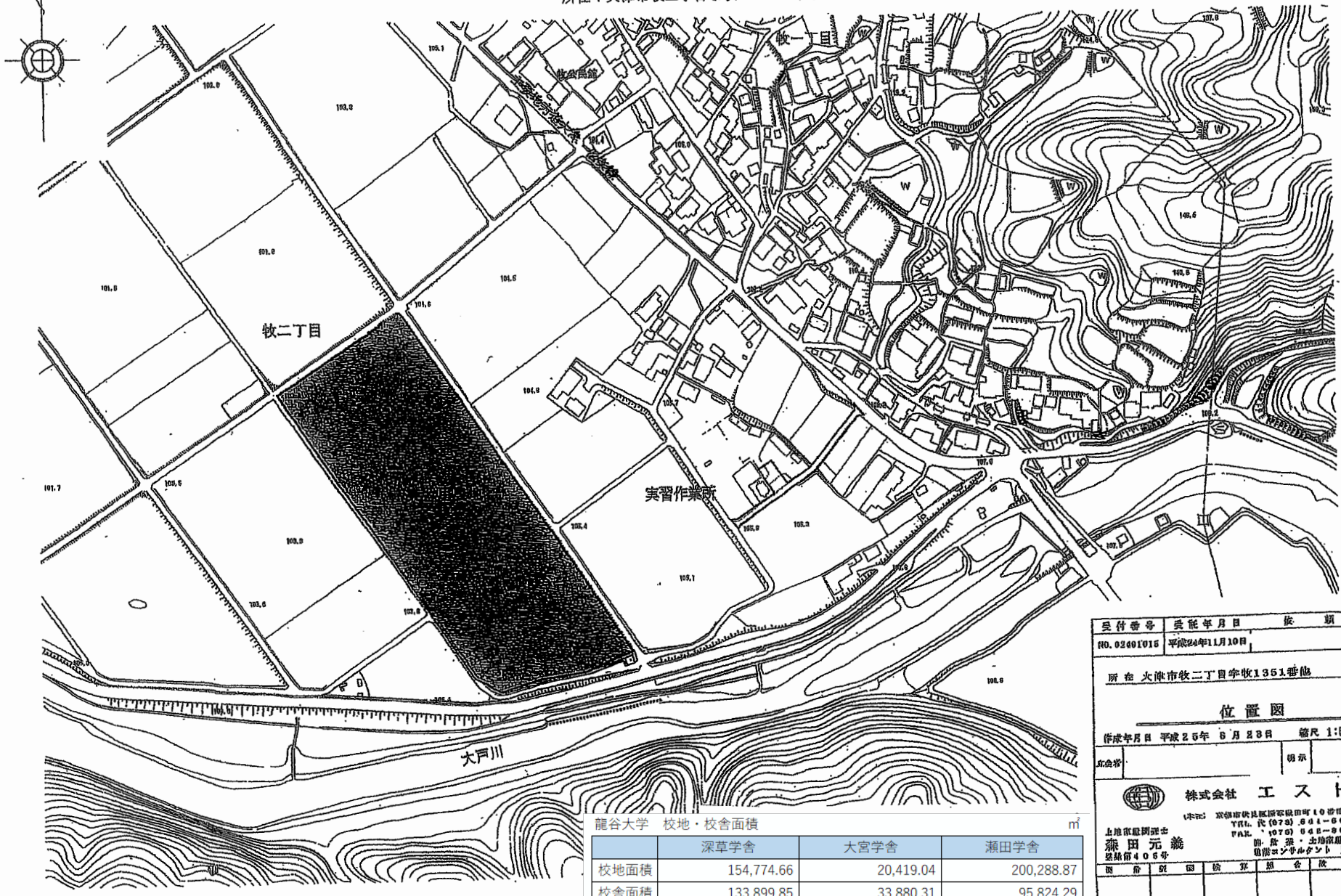


龍谷大学　校地・校舎面積　㎡

	深草学舎	大宮学舎	瀬田学舎
校地面積	154,774.66	20,419.04	200,288.87
校舎面積	133,899.85	33,880.31	95,824.29

位置図

所在：大津市牧二丁目字牧１３５１番他



龍谷大学　校地・校舎面積　㎡

	深草学舎	大宮学舎	瀬田学舎
校地面積	154,774.66	20,419.04	200,288.87
校舎面積	133,899.85	33,880.31	95,824.29

受付番号	受託年月日	依頼者
NO. 02401015	平成24年11月10日	様

所在 大津市牧二丁目字牧1351番他

位置図

作成年月日 平成25年 6月28日　縮尺 1:5,000

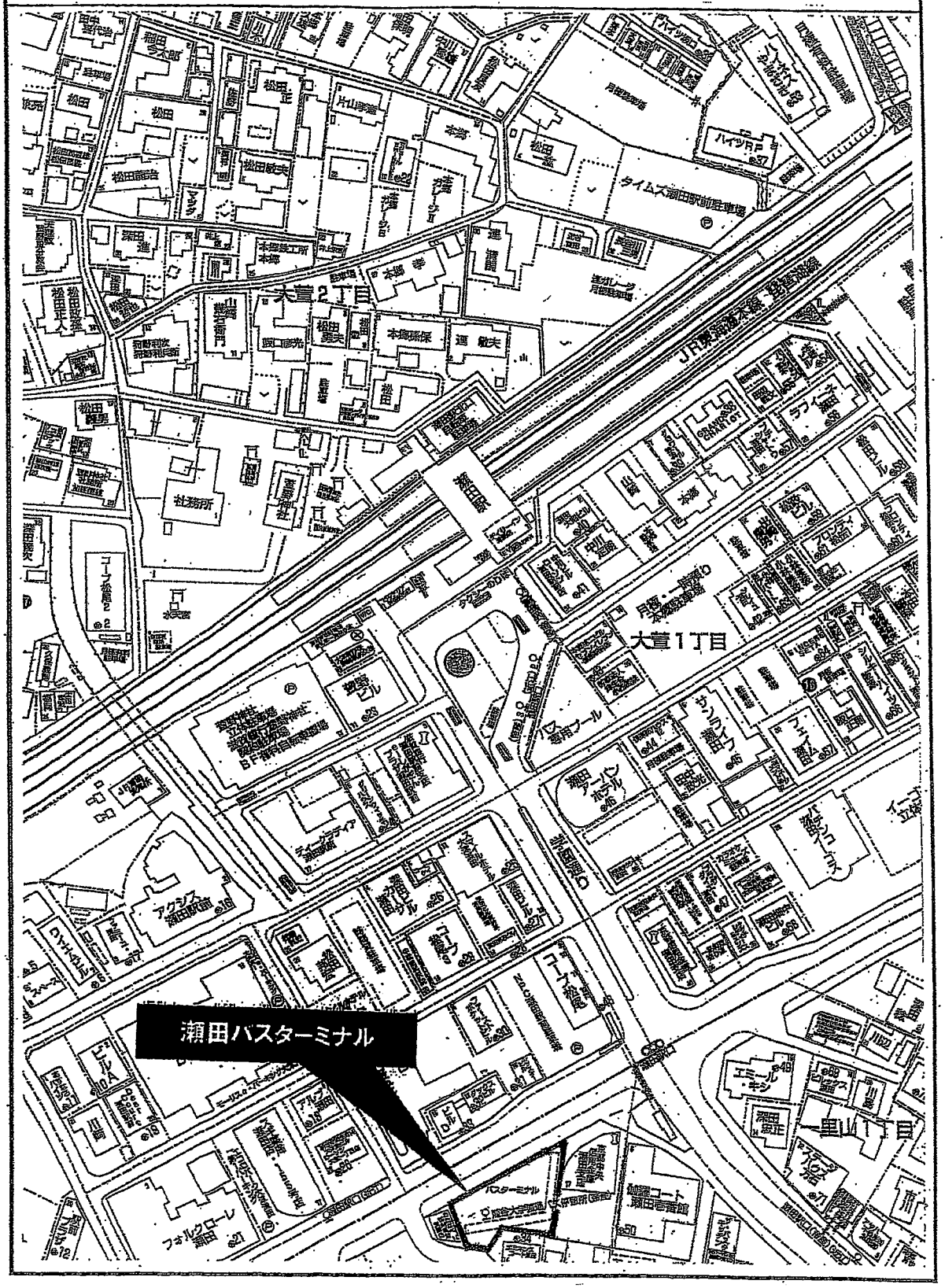
立会者　　明示

株式会社 エスト
〒520-0806 京都市伏見区深草根田町10番地の1
TEL. (075) 641-6669
FAX. (075) 642-9669
土地家屋調査士 蒲田元義
登録第406号
測量コンサルタント 堀江 郁夫

図番	級図	検算	組合	成果	位置求積

図面 - 9

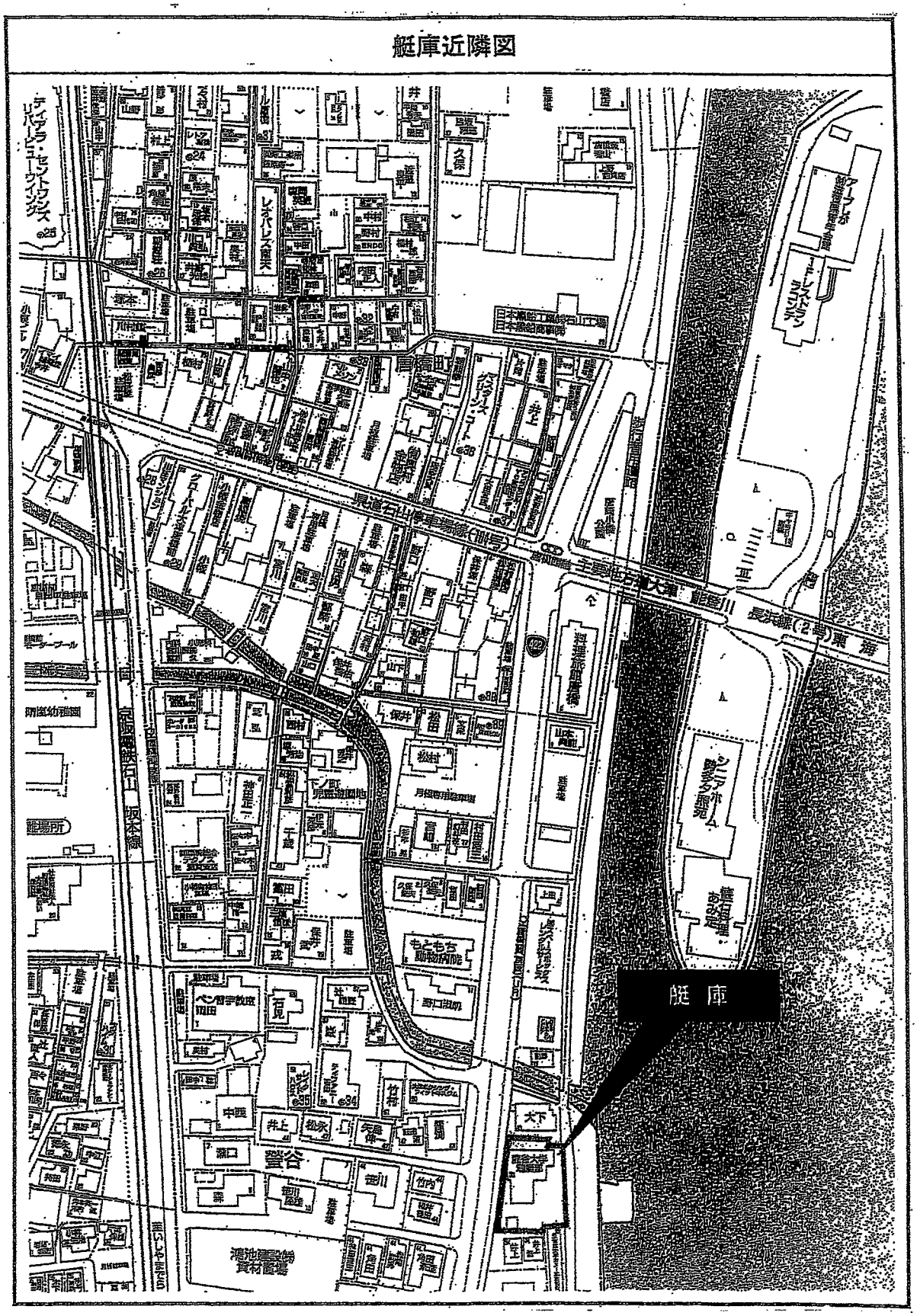
瀬田バスターミナル近隣図



龍谷大学　校地・校舎面積　㎡

	深草学舎	大宮学舎	瀬田学舎
校地面積	154,774.66	20,419.04	200,288.87
校舎面積	133,899.85	33,880.31	95,824.29

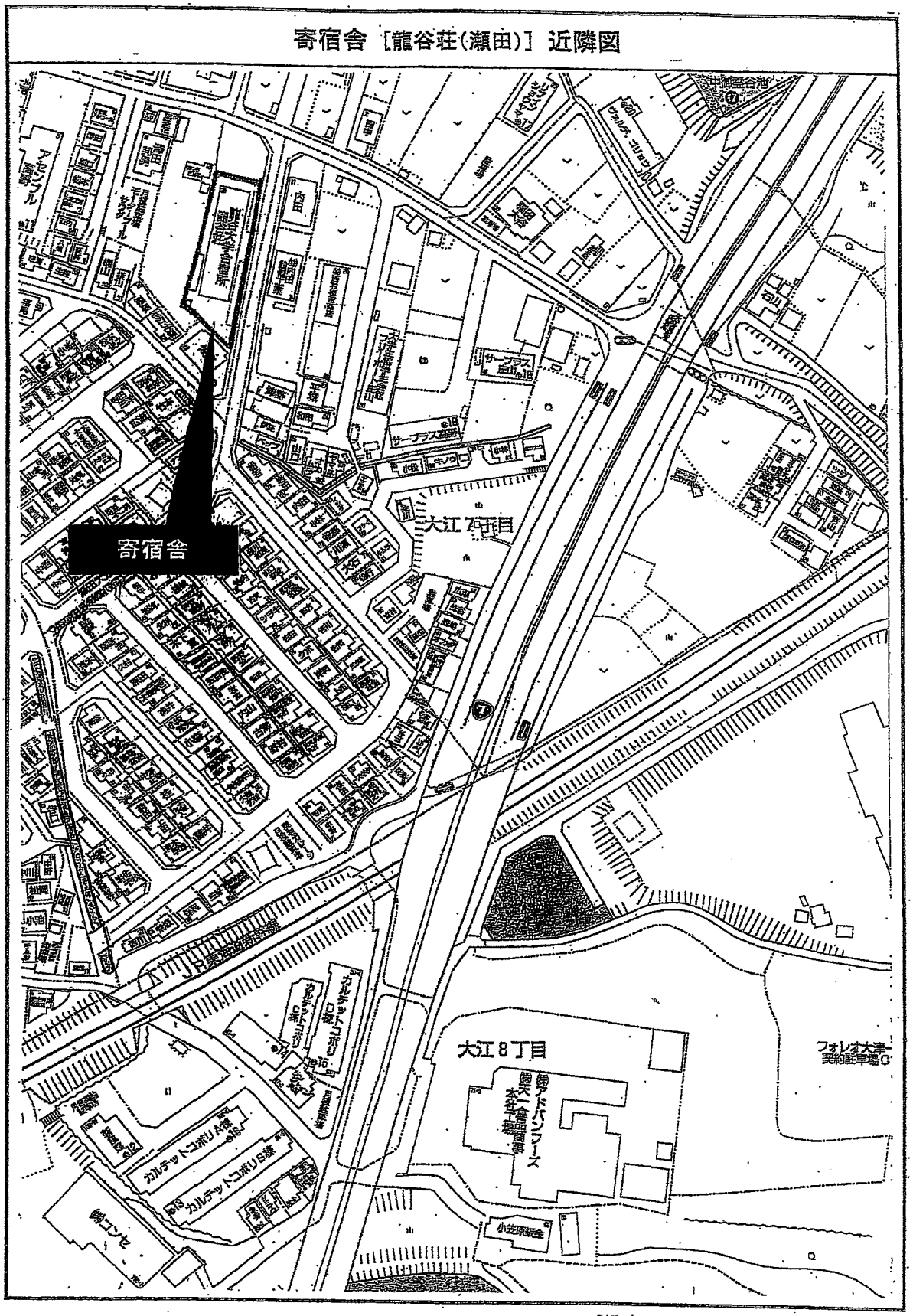
艇庫近隣図



龍谷大学　校地・校舎面積　㎡

	深草学舎	大宮学舎	瀬田学舎
校地面積	154,774.66	20,419.04	200,288.87
校舎面積	133,899.85	33,880.31	95,824.29

寄宿舎［龍谷荘(瀬田)］近隣図



龍谷大学　校地・校舎面積　㎡

	深草学舎	大宮学舎	瀬田学舎
校地面積	154,774.66	20,419.04	200,288.87
校舎面積	133,899.85	33,880.31	95,824.29

○龍谷大学大学院学則

昭和50年３月31日

第１章　総則及び修業年限等

第１条　本学大学院は，人文，社会及び自然に関する学術の理論及び応用を教授研究しその深奥を究めること，又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培うことをもって，文化の進展に寄与することを目的とする。

第１条の２　本学大学院は，教育研究の向上をはかり，前条の目的を達成するため，自らの点検・評価を行う。

２　前項の目的を達成するため，点検の項目，実施体制は別に定める。

第２条　本学大学院の課程は，修士課程及び博士課程とする。

第２条の２　本学大学院の標準修業年限は，博士課程は５年，修士課程は２年とする。ただし，実践真宗学研究科（修士課程）の標準修業年限は，３年とする。

２　博士課程は，これを前期２年及び後期３年の課程に区分し，前期２年の課程は，これを修士課程として取り扱うものとする。

３　この学則において，前項の前期２年の課程は「修士課程」といい，後期３年の課程は「博士後期課程」という。

４　修士課程は，本学の学部における一般的並びに専門的教養の基礎の上にさらに広い視野に立って精深な学識を授け，専攻分野における研究能力又は高度専門性を要する職業等に必要な高度の能力を養うことを目的とする。

５　博士後期課程は，専攻分野について研究者として自立して研究活動を行うに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。

６　第１項の規定にかかわらず，修士課程においては，主として実務の経験を有する者に対して教育を行う場合であって，教育研究上の必要があり，かつ，昼間と併せて夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適切な方法により教育上支障を生じないときは，研究科，専攻又は学生の履修上の区分に応じ，標準修業年限を１年以上２年未満の期間とすることができる。

７　第１項及び第２項の規定にかかわらず，職業を有しているなどの事情により，当該課程の標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し，課程を修了することを希望する者がその旨を申し出たときは，別に定めるところにより，その計画的な履修を修士課程，博士後期課程ともに６年まで認めることができる。

第２章　研究科の組織

第３条　本学大学院に文学研究科，法学研究科，経済学研究科，経営学研究科，社会学研究科，実践真宗学研究科，政策学研究科，農学研究科，国際学研究科及び先端理工学研究科を設ける。

２　文学研究科の専攻及び課程は，次の表のとおりである。

専攻	課程
真宗学専攻	博士課程
仏教学専攻	博士課程
哲学専攻	博士課程
教育学専攻	博士課程
臨床心理学専攻	博士課程
日本史学専攻	博士課程
東洋史学専攻	博士課程
日本語日本文学専攻	博士課程
英語英米文学専攻	博士課程

３　法学研究科の専攻及び課程は，次の表のとおりである。

専攻	課程
法律学専攻	博士課程

４　経済学研究科の専攻及び課程は，次の表のとおりである。

専攻	課程
経済学専攻	博士課程

５　経営学研究科の専攻及び課程は，次の表のとおりである。

専攻	課程
経営学専攻	博士課程

６　社会学研究科の専攻及び課程は，次の表のとおりである。

専攻	課程
社会学専攻	博士課程
社会福祉学専攻	博士課程

７　実践真宗学研究科の専攻及び課程は，次の表のとおりである。

専攻	課程

実践真宗学専攻	修士課程

8　政策学研究科の専攻及び課程は，次の表のとおりである。

専攻	課程
政策学専攻	博士課程

9　農学研究科の専攻及び課程は，次の表のとおりである。

専攻	課程
食農科学専攻	博士課程

10　国際学研究科の専攻及び課程は，次の表のとおりである。

専攻	課程
国際文化学専攻	博士課程
グローバルスタディーズ専攻	博士課程
言語コミュニケーション専攻	修士課程

11　先端理工学研究科の専攻及び課程は、次の表のとおりである。

専攻	課程
先端理工学専攻	博士課程

第３条の２　大学院各研究科の教育理念・目的は，次のとおりである。

研究科名	専攻名	課程	教育理念・目的
文学研究科			建学の精神に基づき，各専攻領域に関わる文献資料・史料に依拠し，確固たる基礎学力を基盤として独創的かつ精緻な研究を継承発展させ，自立して研究活動を行うのに必要な高度な研究能力，又は高度の専門性を要する職業等に必要な能力を培い，学術の振興と文化の発展に寄与することを目的とする。
	真宗学専攻	修士課程	インド・中国・日本にわたる浄土教思想の流れ，親鸞の教義とその伝道，真宗教学の歴史的変遷の3分野について研究・教育することを目的とし，広い視野に立って真宗教学の真理性を究め，現代社会の諸問題に対応できる人材を養成する。
		博士後期課程	3分野を基軸として，諸文献を書誌学的・思想的に深く研究し，専門的な知識と高い研究能力を身につけることを目的とし，他の学問領域との関連交流をふまえ，現代社会の諸問題に対応できる人材を養

			成する。
	仏教学専攻	修士課程	インド・中国・日本などの諸地域におよぶ仏教学を多角的視野から学ぶことによって専門的知識と論理的洞察力を修得することを目的とし，異思想や異文化あるいは現代社会の諸問題にも対応できる学識豊かな人材を養成する。
		博士後期課程	仏教学に関するより高度な専門的知識と研究能力を修得することを目的とし，進取の気概を持って広い視野より分析研究できる人材を養成する。
	哲学専攻	修士課程	哲学の歴史を深く学び，基本的な文献を原語で読解する能力を育成するとともに，諸科学の歴史や現代の動向にも目を配った広い視野を養うことを目的とし，論理的洞察力に富んだ人材を養成する。
		博士後期課程	専門の文献読解能力の向上と，諸科学の知識の吸収につとめつつ，現代の学界の情勢をも把握して，論文執筆に関連する諸能力を育てることを目的とし，高度に専門的な研究のできる人材を養成する。
	教育学専攻	修士課程	教育学と教育心理学の領域で，教育の本質・方法や社会・文化との関係，発達や学習などについて研究・教育を行うことを目的とし，実践的課題に専門的に応えられる人材を養成する。
		博士後期課程	修士課程と同じく2領域の問題の所在や課題解決の方途を解明するため，先行研究を批判的に検討しながら新たな知見を見いだせる研究・教育を行うことを目的とし，高度に専門的な研究のできる人材を養成する。
	臨床心理学専攻	修士課程	建学の精神にある共生の精神を持ちながら，近接する心理的支援の現場において共働的な臨床実践を実現するため，被支援者にかかわる人間関係を適切に把握し，高度な臨床心理学的専門性を発揮できる人材を養成する。
		博士後期課程	建学の精神にある共生の精神を持ちながら，修士課程での研究を発展させ，臨床心理学における社会的な要請に応えるための高度な研究に取り組み，臨床心理学における研究者としての人材を育成する。
	日本史学専攻	修士課程	日本史学の諸分野において，基本的研究能力と専門知識・技能を修得し，洞察力と柔軟性に富み，歴史的主体として現代社会に貢献できる人材を養成する。

		博士後期課程	日本史学の専門知識・技能において特に優れ，かつ洞察力と柔軟性に富み，専門性を発揮する職業人として，また歴史的主体として，現代社会に貢献できる人材を養成する。
	東洋史学専攻	修士課程	中国をはじめアジア諸地域の歴史に関する専門的な知識と技能を修得することを目的とし，広い視野に立ってアジア全体を深く洞察できる人材を養成する。
		博士後期課程	アジア諸地域の言語や歴史に関する高度で専門的な知識と技能を修得することを目的とし，研究者として広い視野に立ってアジア全体を深く分析研究できる人材を養成する。
	日本語日本文学専攻	修士課程	広い視野に立って日本の言語と言語文化に関する豊かな学識と高い研究能力を身につけ，日本語・日本文学についての専門性が求められる職業を担い得る卓越した能力を培うことを目的とし，言語文化の側面から現代社会に貢献できる人材を養成する。
		博士後期課程	日本の言語と言語文化に関する専門的な視野に立って進取の気概を持って研究を推進し，自立した有為の研究者として独創的な成果をあげる能力を培うことを目的とし，日本語・日本文学の専門研究の立場から現代社会に貢献できる人材を養成する。
	英語英米文学専攻	修士課程	英米文学・英語学・英米文化を広い視野から学ぶと同時にそれぞれの分野での専門的知識を修得することを目的とし，国際化する現代社会の諸問題に対応できる人材を養成する。
		博士後期課程	英米の文学や言語，文化に関する専門的知識の修得を目的とし，将来は広い角度からそれぞれの分野の問題を研究していける人材を養成する。
法学研究科			「真実を求め真実に生きる」という建学の精神と日本国憲法の理念を基礎に，法学・政治学の領域で高度な研究・教育を通じ，世界と地域で活躍し，共生（ともいき）の社会を担う，人権感覚に溢れた研究者及び専門職業人の養成を目的とする。
	法律学専攻	修士課程	大学における4年間の学修によって獲得された一般的教養と専門的教養の基礎の上に，さらに広い視野に立った深い学識と専攻分野における研究能力を育むことを通じて，研究者及び高度の専門性を要する職業人に必要な能力を涵養する。

		博士後期課程	修士課程における学修によって獲得された深い学識と研究能力の基礎の上に，専攻分野において，研究者及び高度な専門知識を有する専門職業人として自立して研究活動を遂行するのに必要な高度の研究能力と，その基礎となる豊かな学識を涵養する。
経済学研究科			世界と地域社会における対話と共生に基づく平和と発展に貢献することを目指して，世界に対する深い理解と創造的な理論構築あるいは応用分析の能力を備えた研究者，高邁な理想と経済学的知識に裏打ちされた高い実践能力を持つ専門職業人等を育成することを目的とする。
	経済学専攻	修士課程	激変する現代社会の諸問題に応えることができる人材の育成を目標とし，特に世界に対する深い理解と創造的な理論構築あるいは応用分析の能力を備えた研究者，高邁な理想と経済学的知識に裏打ちされた高い実践能力を持つ専門職業人等の人材を育成する。
		博士後期課程	修士課程における学修による深い学識と研究能力の基礎の上に立って，専門分野における研究者として自立して研究活動を行うに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目標として，国際的水準の創造的研究を実現できる研究者等の人材を育成する。
経営学研究科			建学の精神をふまえつつ，経営学の高度で専門的な知識を会得するための研究の推進及び応用能力の涵養を通じて，複雑な構造と機能をそなえた現代社会の要請にこたえる専門職業人及び研究者を育成することを目的とする。
	経営学専攻	修士課程	建学の精神をふまえつつ，経営学の高度で専門的な知識を会得するための研究の推進及び応用能力の涵養を通じて，複雑な構造と機能をそなえた現代社会の要請にこたえる専門職業人及び研究者を育成することを目的とする。
		博士後期課程	建学の精神をふまえつつ，経営学の高度で専門的な知識を会得するための研究の推進及び応用能力の涵養を通じて，複雑な構造と機能をそなえた現代社会の要請にこたえる自立した研究者を育成することを目的とする。
社会学研究			多様な価値が錯綜する現代社会において，社会学・社会福祉学分野

科			への社会的期待が高まる中，建学の精神に基づき，社会的現実と理論的分析の往還を促す現場主義の教育を通じて，高度の専門性と実践性を兼ね備えたバランスのとれた高度専門職業人，研究者及び教育者としての能力をもつ人材を養成することを目的とする。
	社会学専攻	修士課程	複雑で多様な現代社会の諸問題を分析できる社会学的な学識と能力を有する専門社会調査士や職業ジャーナリストのような高度専門職業人及び研究者を育成することを目的とし，現実社会に対応した研究能力と幅広い実践能力をもつ人材を養成する。
		博士後期課程	高度で創造的研究を行うことのできる自立した研究者を育成することを目的とし，社会学の研究領域で価値ありと認められる研究成果を生み出す能力を有する人材を養成する。
	社会福祉学専攻	修士課程	現代社会における社会福祉学の専門性と実践性を兼ね備えた高度専門職業人及び研究者を育成することを目的とし，現実の社会福祉問題に直結した研究能力と幅広い実践能力をもつ人材を養成する。
		博士後期課程	社会福祉学の研究方法を身につけ，創造的で自立した研究者を育成することを目的とし，社会福祉問題の分析における高度の研究能力を有する人材を養成する。
実践真宗学研究科	実践真宗学専攻	修士課程	本学の建学の精神である浄土真宗の教えに基づき，釈尊の教示した仏教，及び親鸞の宗教を，世界的視野，かつまた地域的視点より実践的に領解し，現代における人間存在の根本問題，並びに社会的存在として惹起する諸問題に，具体的に対応できる宗教的実践者としての能力を養成することを目的とする。
政策学研究科			建学の精神に基づいて，共生の哲学を基礎に，現代的で人類的な課題に対する専門知識に支えられた市民的思考力と，協働による課題解決アプローチを構想できる政策研究能力を修得し，政策の立案実施にかかる能力を持った人材を養成することを目的とする。
	政策学専攻	修士課程	市民的公共性と持続可能な発展への貢献を志向性として獲得し，地域がかかえる具体的課題を政策分析の対象として扱うことができる政策学の学問的知識を修得し，地域の課題を設定して解決できる能力を有する専門的職業人及び研究者を養成する。
		博士	市民的公共性と持続可能な発展という考え方を自ら考察でき，地域

		後期課程	課題を包括的で統合的な政策によって解決できる政策学の知識と構想力を有する研究者及びより高度な専門的職業人を養成する。
農学研究科			建学の精神に基づいて，高い倫理観と高度な専門知識，技能を併せ持ち，「食」と「農」に関わる諸課題の解決と持続可能社会の実現，地域社会の活性化に寄与し，「食」と「農」を対象とした学問研究の発展に貢献できる人材を養成することを目的とする。
	食農科学専攻	修士課程	高度な専門的知識を身に付け，農学本来の姿である「自然科学と社会科学の総合」，「倫理的な価値判断」を意識しながら「食」や「農」に関わるローカル・グローバル双方の問題に対処できる人材，習得した知識・スキルを活用し，地域社会・地域農業の再生・活性化に貢献できる人材，「食」や「農」に関わる実社会・現場において高い専門性や能力が求められる職業を担うことのできる人材を養成する。
		博士後期課程	修士課程の学修で身に付けた深い学識と研究能力，実務で得た知見・技能・経験を土台とし，高度で国際的な水準の創造的研究を行うことのできる自立した研究者，国内外の研究機関で活躍し，農学及び食品科学の発展に貢献できる人材，自然科学及び社会科学の両側面から「食」と「農」を中心とした地域社会の再生に学問として取り組むことのできる人材を養成する。
国際学研究科			建学の精神に基づいて，グローバル化の加速的な進展のなかで，現在の国際社会が直面している諸課題・諸現象と批判的に向き合い，多様な文化が共生する社会の実現に向けて，国際的な舞台でリーダーシップを発揮し活躍できる高度専門職業人・実務家・研究者の養成を目的とする。
	国際文化学専攻	修士課程	相互依存が著しく進む現代世界が直面する新たな諸現象・諸問題を，文化の視座から批判的に考察し，高度な専門的知識と外国語能力を発揮して解決方法を探求することができる人材，また得られた知見を高度専門職業人・実務家・研究者として発信できる人材を養成する。
		博士後期	相互依存が著しく進む現代世界が直面する新たな諸現象・諸問題を，文化の視座から批判的に考察し，高度な専門的知識と外国語能力を

		課程	発揮して，その解決方法を国際的な舞台で提言し，多文化が共生できる社会の創造に高度専門職業人・研究者として貢献できる人材を養成する。
	グローバルスタディーズ専攻	修士課程	グローバル化が急速に進展する現代の国際社会が抱える諸問題を，幅広い視点から複合的かつ批判的に理解し，高度な専門的知識と外国語能力を発揮して，その解決方法を探求することができる人材，また得られた知見を高度専門職業人・実務家・研究者として発信できる人材を養成する。
		博士後期課程	グローバル化が急速に進展する現代の国際社会が抱える諸問題を，幅広い視点から複合的かつ批判的に理解し，高度な専門的知識と外国語能力を発揮して，その解決方法を国際的な舞台で提言し，豊かな社会の創造に高度専門職業人・研究者として貢献できる人材を養成する。
	言語コミュニケーション専攻	修士課程	グローバル化が急速に進展する社会における言語およびコミュニケーションの意義や役割に関する問題意識をもち，主体的かつ自律的に学ぶことによって卓越した専門的知識や技能を習得し，高い語学力・対話力をもってリーダーシップを発揮して高度専門職業人・実務家・研究者として相互理解や多文化理解の推進に貢献できる人材を養成する。
先端理工学研究科			建学の精神に基づいて、自然・社会と科学との調和を重視し、幅広い教養と理工学の各専門分野における高度の専門知識・技能を身につけ、持続可能な社会の発展に貢献できる高い倫理観を持った高度専門職人材・研究者を育成することを目的とする。
	先端理工学専攻	修士課程	高度な専門知識のみならず、幅広い教養と倫理意識を備えた科学技術者を育成し、異分野にも知識の幅を広げ、主体的に学び、創造することのできる人材を養成する。
		博士後期課程	高度の専門知識を備えながらも、専門の枠にとらわれず広い視野により多角的な問題解決能力を有する科学技術者を育成し、日本の社会に貢献すると共に、科学技能をあるべき道に導く指導者を養成する。

第４条　削除

第３章　収容定員

第５条　本学大学院各研究科の収容定員は，次の表のとおりである。

研究科	専攻	修士課程		博士後期課程		合計
		入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	収容定員
文学研究科	真宗学専攻	20名	40名	5名	15名	55名
	仏教学専攻	20	40	5	15	55
	哲学専攻	7	14	2	6	20
	教育学専攻	7	14	3	9	23
	臨床心理学専攻	10	20	2	6	26
	日本史学専攻	7	14	2	6	20
	東洋史学専攻	7	14	2	6	20
	日本語日本文学専攻	7	14	2	6	20
	英語英米文学専攻	7	14	2	6	20
	小計	92	184	25	75	259
法学研究科	法律学専攻	25	50	5	15	65
経済学研究科	経済学専攻	30	60	3	9	69
経営学研究科	経営学専攻	30	60	3	9	69
社会学研究科	社会学専攻	10	20	3	9	29
	社会福祉学専攻	10	20	3	9	29
	小計	20	40	6	18	58
実践真宗学研究科	実践真宗学専攻	30	90	―	―	90
政策学研究科	政策学専攻	20	40	3	9	49

農学研究科	食農科学専攻	30	60	5	15	75
国際学研究科	国際文化学専攻	7	14	2	6	20
	グローバルスタディーズ専攻	4	8	2	6	14
	言語コミュニケーション専攻	4	8	―	―	8
	小計	15	30	4	12	42
先端理工学研究科	先端理工学専攻	100	200	10	30	230
合計		392	814	64	192	1,006

第４章　教育方法及び履修方法等

第６条　本学大学院の教育は,授業科目の授業及び学位論文の作成等に対する指導(以下「研究指導」という。）によって行うものとする。

２　前項に定める教育は，大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例により，夜間その他特定の時間又は時期において行うことができる。

３　第１項に定める教育は，多様なメディアを高度に利用して，当該教育を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

第６条の２　本学において教育職員免許状授与の所要資格を取得しようとする者は,教育職員免許法及び同法施行規則に定める単位を履修しなければならない。

２　本学大学院各研究科の各専攻において取得できる教育職員免許状の種類は,次のとおりとする。

研究科	専攻・コース	教科	免許状の種類
文学研究科	真宗学専攻 仏教学専攻	宗教	高等学校教諭専修免許状 中学校教諭専修免許状
	哲学専攻	公民	高等学校教諭専修免許状
		社会	中学校教諭専修免許状
	教育学専攻	地理歴史 公民	高等学校教諭専修免許状
		社会	中学校教諭専修免許状
	臨床心理学専攻	公民	高等学校教諭専修免許状

	日本史学専攻	地理歴史	高等学校教諭専修免許状
	東洋史学専攻	社会	中学校教諭専修免許状
	日本語日本文学専攻	国語	高等学校教諭専修免許状
	英語英米文学専攻	英語	中学校教諭専修免許状
法学研究科	法律学専攻	公民	高等学校教諭専修免許状
		社会	中学校教諭専修免許状
経済学研究科	経済学専攻	地理歴史 公民	高等学校教諭専修免許状
		社会	中学校教諭専修免許状
経営学研究科	経営学専攻	商業	高等学校教諭専修免許状
社会学研究科	社会学専攻	公民	高等学校教諭専修免許状
	社会福祉学専攻	社会	中学校教諭専修免許状
実践真宗学研究科	実践真宗学専攻	宗教	高等学校教諭専修免許状 中学校教諭専修免許状
政策学研究科	政策学専攻	公民	高等学校教諭専修免許状
		社会	中学校教諭専修免許状
農学研究科	食農科学専攻	農業	高等学校教諭専修免許状
国際学研究科	言語コミュニケーション専攻	英語	高等学校教諭専修免許状 中学校教諭専修免許状
先端理工学研究科	先端理工学専攻（数理・情報科学コース）	数学	高等学校教諭専修免許状 中学校教諭専修免許状
	先端理工学専攻（応用化学コース，環境科学コース）	理科	
	先端理工学専攻（知能情報メディアコース）	情報	高等学校教諭専修免許状
	先端理工学専攻（電子情報通信コース，機械工学・ロボティクスコース）	工業	

第７条　各研究科修士課程の専攻に開設する授業科目・単位数及びその履修方法は次の表のとおりである。

(1)　文学研究科（修士課程）

ア　真宗学専攻

授業科目	単位数	履修方法
真宗学特殊研究	4	左記の授業科目の中から32単位以上を履修しなければならない。
真宗学特殊研究A	2	
真宗学特殊研究B	2	
真宗教学史特殊研究A	2	
真宗教学史特殊研究B	2	
浄土教理史特殊研究A	2	
浄土教理史特殊研究B	2	
真宗学演習	4	
真宗教学史演習	4	
浄土教理史演習	4	
真宗伝道学演習	4	
真宗学文献研究A	2	
真宗学文献研究B	2	
伝道学特殊研究	4	
伝道学特殊研究A	2	
伝道学特殊研究B	2	
真宗伝道学特殊研究	4	
真宗伝道学特殊研究A	2	
真宗伝道学特殊研究B	2	
真宗伝道史特殊研究A	2	
真宗伝道史特殊研究B	2	
宗教法特殊研究A	2	
宗教法特殊研究B	2	
真宗史特殊研究A	2	
真宗史特殊研究B	2	
仏教学特殊研究	4	
仏教学特殊研究A	2	
仏教学特殊研究B	2	

宗教哲学特殊研究ＩA	2	
宗教哲学特殊研究ＩB	2	
宗教哲学特殊研究ⅡA	2	
宗教哲学特殊研究ⅡB	2	
哲学特殊研究ＩA	2	
哲学特殊研究ＩB	2	
哲学特殊研究ⅡA	2	
哲学特殊研究ⅡB	2	
哲学特殊研究ⅢA	2	
哲学特殊研究ⅢB	2	
倫理学特殊研究ＩA	2	
倫理学特殊研究ＩB	2	
倫理学特殊研究ⅡA	2	
倫理学特殊研究ⅡB	2	
教育哲学特殊研究A	2	
教育哲学特殊研究B	2	
東方古典翻訳特殊研究A	2	
東方古典翻訳特殊研究B	2	
真宗学特別研究	10	
アカデミック・ライティング	2	
英語（リーディング）	1	
英語（ライティング）	1	

イ　仏教学専攻

授業科目	単位数	履修方法
仏教学特殊研究	4	左記の授業科目の中から32単位以上を履修しなければならない。
仏教学特殊研究A	2	
仏教学特殊研究B	2	
仏教教学史特殊研究A	2	
仏教教学史特殊研究B	2	
仏教文化学特殊研究	4	

仏教文化学特殊研究A	2
仏教文化学特殊研究B	2
インド哲学特殊研究	4
インド哲学特殊研究A	2
インド哲学特殊研究B	2
仏教学演習	4
仏教教学史演習	4
インド哲学演習	4
仏教学文献研究（サンスクリット）A	2
仏教学文献研究（サンスクリット）B	2
仏教学文献研究（パーリ）A	2
仏教学文献研究（パーリ）B	2
仏教学文献研究（チベット）A	2
仏教学文献研究（チベット）B	2
仏教学文献研究（漢文）A	2
仏教学文献研究（漢文）B	2
宗教法特殊研究A	2
宗教法特殊研究B	2
伝道学特殊研究	4
伝道学特殊研究A	2
伝道学特殊研究B	2
真宗伝道学特殊研究A	2
真宗伝道学特殊研究B	2
日本仏教史特殊研究A	2
日本仏教史特殊研究B	2
東洋仏教史特殊研究A	2
東洋仏教史特殊研究B	2
真宗学特殊研究A	2

真宗学特殊研究B	2	
宗教哲学特殊研究ＩA	2	
宗教哲学特殊研究ＩB	2	
宗教哲学特殊研究ⅡA	2	
宗教哲学特殊研究ⅡB	2	
哲学特殊研究ＩA	2	
哲学特殊研究ＩB	2	
哲学特殊研究ⅡA	2	
哲学特殊研究ⅡB	2	
哲学特殊研究ⅢA	2	
哲学特殊研究ⅢB	2	
倫理学特殊研究ＩA	2	
倫理学特殊研究ＩB	2	
倫理学特殊研究ⅡA	2	
倫理学特殊研究ⅡB	2	
教育哲学特殊研究A	2	
教育哲学特殊研究B	2	
東方古典翻訳特殊研究A	2	
東方古典翻訳特殊研究B	2	
仏教学特別研究	10	
アカデミック・ライティング	2	
英語（リーディング）	1	
英語（ライティング）	1	

ウ　哲学専攻

授業科目	単位数	履修方法
哲学特殊研究ＩA	2	左記の授業科目の中から32単位以上を履修しなければならない。
哲学特殊研究ＩB	2	
哲学特殊研究ⅡA	2	
哲学特殊研究ⅡB	2	
哲学特殊研究ⅢA	2	

哲学特殊研究ⅢB	2	
倫理学特殊研究ＩA	2	
倫理学特殊研究ＩB	2	
倫理学特殊研究ⅡA	2	
倫理学特殊研究ⅡB	2	
宗教哲学特殊研究ＩA	2	
宗教哲学特殊研究ＩB	2	
宗教哲学特殊研究ⅡA	2	
宗教哲学特殊研究ⅡB	2	
哲学演習	4	
倫理学演習	4	
宗教哲学演習	4	
哲学文献研究ＩA	2	
哲学文献研究ＩB	2	
哲学文献研究ⅡA	2	
哲学文献研究ⅡB	2	
真宗学特殊研究A	2	
真宗学特殊研究B	2	
仏教学特殊研究	4	
仏教学特殊研究A	2	
仏教学特殊研究B	2	
教育哲学特殊研究A	2	
教育哲学特殊研究B	2	
社会学特殊研究A	2	
社会学特殊研究B	2	
西洋美術史特殊研究A	2	
西洋美術史特殊研究B	2	
哲学特別研究	10	
アカデミック・ライティング	2	
英語（リーディング）	1	

英語（ライティング）	1	
宗教法特殊研究A	2	
宗教法特殊研究B	2	

エ　教育学専攻

授業科目	単位数	履修方法
教育学特殊研究A	2	左記の授業科目の中から32単位以上を履修しなければならない。
教育学特殊研究B	2	
教育哲学特殊研究A	2	
教育哲学特殊研究B	2	
宗教教育学特殊研究A	2	
宗教教育学特殊研究B	2	
教育方法学特殊研究A	2	
教育方法学特殊研究B	2	
教育行政学特殊研究A	2	
教育行政学特殊研究B	2	
生涯教育学特殊研究A	2	
生涯教育学特殊研究B	2	
異文化間教育学特殊研究A	2	
異文化間教育学特殊研究B	2	
学校経営学特殊研究A	2	
学校経営学特殊研究B	2	
社会教育学特殊研究A	2	
社会教育学特殊研究B	2	
障害者（児）心理学特殊研究	2	
教育学演習	4	
生涯教育学演習	4	
異文化間教育学演習	4	
教育・発達心理学演習	4	
教育学文献研究A	2	
教育学文献研究B	2	

真宗学特殊研究A	2	
真宗学特殊研究B	2	
仏教学特殊研究	4	
仏教学特殊研究A	2	
仏教学特殊研究B	2	
宗教哲学特殊研究ＩA	2	
宗教哲学特殊研究ＩB	2	
宗教哲学特殊研究ⅡA	2	
宗教哲学特殊研究ⅡB	2	
学校心理学特殊研究	2	
学習心理学特殊研究	2	
発達心理学特殊研究	2	
心理教育アセスメント実習	1	
心理教育アセスメント論	2	
学校カウンセリング実習	2	
学校カウンセリング特殊研究	2	
臨床心理学特殊研究	2	
教育学特別研究	10	
アカデミック・ライティング	2	
英語（リーディング）	1	
英語（ライティング）	1	
宗教法特殊研究A	2	
宗教法特殊研究B	2	

オ　臨床心理学専攻

授業科目	単位数	履修方法
臨床心理学特論	4	左記の授業科目の中から32単位以上を履修しなければならない。
臨床心理面接特論	4	
臨床心理査定特論	4	
臨床心理基礎実習	2	
臨床心理実習	2	

臨床心理学文献研究	2	
投映法特論	2	
心理療法特論	2	
教育分野に関する理論と支援の展開（学校臨床心理学特論）	2	
臨床心理地域援助特論	2	
心理学研究法特論	2	
臨床心理学研究法特論	2	
人格心理学特論（心理的アセスメントに関する理論と実践）	2	
学習心理学特論	2	
認知心理学特論	2	
社会心理学特論	2	
産業・労働分野に関する理論と支援の展開	2	
家族心理学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	2	
犯罪心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	2	
人間関係学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	2	
精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	2	
心身医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	2	
老年心理学特論	2	
障害者児心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	2	
精神薬理学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	2	
心理支援に関する理論と実践	2	

司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	2	
心理的アセスメントに関する理論と実践	2	
福祉分野に関する理論と支援の展開	2	
心の健康教育に関する理論と実践	2	
学校カウンセリング（実習）	1	
臨床心理学演習Ⅰ	4	
臨床心理学演習Ⅱ	4	
	4	
心理実践実習Ⅰ		
心理実践実習Ⅱ	4	
臨床心理実習指導Ⅰ	1	
臨床心理実習指導Ⅱ	2	
臨床心理学特別研究	10	
アカデミック・ライティング	2	
英語（リーディング）	1	
英語（ライティング）	1	
宗教法特殊研究A	2	
宗教法特殊研究B	2	

以上の表に掲げる実習演習科目の時間数及び履修方法については別に定める。

カ　日本史学専攻

授業科目	単位数	履修方法
古代史特殊研究A	2	左記の授業科目の中から32単位以上を履修し

古代史特殊研究B	2	なければならない。
中世史特殊研究A	2	
中世史特殊研究B	2	
近世史特殊研究A	2	
近世史特殊研究B	2	
近代史特殊研究A	2	
近代史特殊研究B	2	
日本仏教史特殊研究A	2	
日本仏教史特殊研究B	2	
考古学演習	4	
古代史演習	4	
中世史演習	4	
近世史演習	4	
近代史演習	4	
日本仏教史演習	4	
文化財科学演習	4	
美術史演習	4	
日本史学文献研究A	2	
日本史学文献研究B	2	
日本仏教史文献研究A	2	
日本仏教史文献研究B	2	
東洋仏教史特殊研究A	2	
東洋仏教史特殊研究B	2	
日本法制史特殊研究A	2	
日本法制史特殊研究B	2	
考古学特殊研究A	2	
考古学特殊研究B	2	
美術史特殊研究A	2	
美術史特殊研究B	2	
民俗学特殊研究A	2	

民俗学特殊研究B	2	
歴史地理学特殊研究A	2	
歴史地理学特殊研究B	2	
文化財科学特殊研究A	2	
文化財科学特殊研究B	2	
日本史学特別研究	10	
アカデミック・ライティング	2	
英語（リーディング）	1	
英語（ライティング）	1	
宗教法特殊研究A	2	
宗教法特殊研究B	2	

キ　東洋史学専攻

授業科目	単位数	履修方法
東洋古代史特殊研究A	2	左記の授業科目の中から32単位以上を履修しなければならない。
東洋古代史特殊研究B	2	
東洋中世史特殊研究A	2	
東洋中世史特殊研究B	2	
東洋近世近代史特殊研究A	2	
東洋近世近代史特殊研究B	2	
東洋仏教史特殊研究A	2	
東洋仏教史特殊研究B	2	
東洋古代史演習	4	
東洋中世史演習	4	
東洋近世近代史演習	4	
東洋仏教史演習	4	
東洋史文献研究A	2	
東洋史文献研究B	2	
東洋仏教史文献研究A	2	
東洋仏教史文献研究B	2	
日本仏教史特殊研究A	2	

日本仏教史特殊研究B	2	
考古学特殊研究A	2	
考古学特殊研究B	2	
美術史特殊研究A	2	
美術史特殊研究B	2	
歴史地理学特殊研究A	2	
歴史地理学特殊研究B	2	
民俗学特殊研究A	2	
民俗学特殊研究B	2	
文化財科学特殊研究A	2	
文化財科学特殊研究B	2	
仏教文化学特殊研究	4	
仏教文化学特殊研究A	2	
仏教文化学特殊研究B	2	
中国文学特殊研究A	2	
中国文学特殊研究B	2	
東洋史学特別研究	10	
アカデミック・ライティング	2	
英語（リーディング）	1	
英語（ライティング）	1	
宗教法特殊研究A	2	
宗教法特殊研究B	2	

ク　日本語日本文学専攻

授業科目	単位数	履修方法
古典文学特殊研究A	2	左記の授業科目の中から32単位以上を履修しなければならない。
古典文学特殊研究B	2	
近代文学特殊研究A	2	
近代文学特殊研究B	2	
情報出版学特殊研究A	2	
情報出版学特殊研究B	2	

日本語学特殊研究A	2	
日本語学特殊研究B	2	
中国文学特殊研究A	2	
中国文学特殊研究B	2	
言語情報処理特殊研究A	2	
言語情報処理特殊研究B	2	
日本仏教史特殊研究A	2	
日本仏教史特殊研究B	2	
民俗学特殊研究A	2	
民俗学特殊研究B	2	
美術史特殊研究A	2	
美術史特殊研究B	2	
古典文学演習	4	
近代文学演習	4	
情報出版学演習	4	
日本語学演習	4	
古典文学文献研究A	2	
古典文学文献研究B	2	
近代文学文献研究A	2	
近代文学文献研究B	2	
情報出版学文献研究A	2	
情報出版学文献研究B	2	
日本語学文献研究A	2	
日本語学文献研究B	2	
中国文学文献研究A	2	
中国文学文献研究B	2	
日本語日本文学特別研究	10	
アカデミック・ライティング	2	
英語（リーディング）	1	
英語（ライティング）	1	

宗教法特殊研究A	2	
宗教法特殊研究B	2	

ケ　英語英米文学専攻

授業科目	単位数	履修方法
英文学特殊研究A	2	左記の授業科目の中から32単位以上を履修しなければならない。
英文学特殊研究B	2	
米文学特殊研究A	2	
米文学特殊研究B	2	
英語学特殊研究A	2	
英語学特殊研究B	2	
英米文化特殊研究A	2	
英米文化特殊研究B	2	
英文学演習	4	
米文学演習	4	
英語学演習	4	
英米文化演習	4	
英米文学文献研究A	2	
英米文学文献研究B	2	
英語学文献研究A	2	
英語学文献研究B	2	
英米文化文献研究A	2	
英米文化文献研究B	2	
言語情報処理特殊研究A	2	
言語情報処理特殊研究B	2	
西洋美術史特殊研究A	2	
西洋美術史特殊研究B	2	
宗教哲学特殊研究ＩA	2	
宗教哲学特殊研究ＩB	2	
宗教哲学特殊研究ⅡA	2	
宗教哲学特殊研究ⅡB	2	

異文化間教育学特殊研究A	2	
異文化間教育学特殊研究B	2	
東方古典翻訳特殊研究A	2	
東方古典翻訳特殊研究B	2	
英語英米文学特別研究	10	
アカデミック・ライティング	2	
英語（リーディング）	1	
英語（ライティング）	1	
宗教法特殊研究A	2	
宗教法特殊研究B	2	

以上の表に掲げる授業科目のほか, 文学研究科委員会が教育上必要であると認めるときは別になお，他の授業科目を設けることができる。

(2) 法学研究科（修士課程）

ア 法律学専攻

授業科目	単位数	履修方法
法哲学研究Ⅰ	2	左記の授業科目中から32単位以上を履修しなければならない。 ただし、「地域公共人材特別演習」は含まない。
法哲学研究Ⅱ	2	
法史学研究Ⅰ	2	
法史学研究Ⅱ	2	
外国法研究Ⅰ	2	
外国法研究Ⅱ	2	
外国法研究Ⅲ	2	
外国法研究Ⅳ	2	
憲法研究Ⅰ	2	
憲法研究Ⅱ	2	
憲法研究Ⅲ	2	
宗教法研究	2	
行政法研究Ⅰ	2	
行政法研究Ⅱ	2	
地方自治法研究	2	

自治体法務研究	2	
税法研究Ⅰ	2	
税法研究Ⅱ	2	
税法研究Ⅲ	2	
税法特別研究Ⅰ	2	
税法特別研究Ⅱ	2	
税法特別研究Ⅲ	2	
国際法研究Ⅰ	2	
国際法研究Ⅱ	2	
国際人権法研究Ⅰ	2	
国際人権法研究Ⅱ	2	
国際環境法研究Ⅰ	2	
国際環境法研究Ⅱ	2	
刑法研究Ⅰ	2	
刑法研究Ⅱ	2	
刑法研究Ⅲ	2	
刑法研究Ⅳ	2	
刑事訴訟法研究Ⅰ	2	
刑事訴訟法研究Ⅱ	2	
刑事訴訟法研究Ⅲ	2	
刑事訴訟法研究Ⅳ	2	
刑事学研究Ⅰ	2	
刑事学研究Ⅱ	2	
刑事学研究Ⅲ	2	
刑事学研究Ⅳ	2	
民法研究Ⅰ	2	
民法研究Ⅱ	2	
民法研究Ⅲ	2	
民法研究Ⅳ	2	
民法研究Ⅴ	2	

民法研究Ⅵ	2	
担保物権法研究	2	
契約法研究Ⅰ	2	
契約法研究Ⅱ	2	
不法行為法研究	2	
消費者法研究	2	
商法研究Ⅰ	2	
商法研究Ⅱ	2	
商法研究Ⅲ	2	
商法研究Ⅳ	2	
会社法研究Ⅰ	2	
会社法研究Ⅱ	2	
会社法研究Ⅲ	2	
会社法研究Ⅳ	2	
企業法務論研究Ⅰ	2	
企業法務論研究Ⅱ	2	
企業取引法研究Ⅰ	2	
企業取引法研究Ⅱ	2	
独占禁止法研究Ⅰ	2	
独占禁止法研究Ⅱ	2	
知的財産法研究Ⅰ	2	
知的財産法研究Ⅱ	2	
民事訴訟法研究Ⅰ	2	
民事訴訟法研究Ⅱ	2	
国際私法研究Ⅰ	2	
国際私法研究Ⅱ	2	
国際取引法研究Ⅰ	2	
国際取引法研究Ⅱ	2	
労働法研究Ⅰ	2	
労働法研究Ⅱ	2	

社会保障法研究Ⅰ	2	
社会保障法研究Ⅱ	2	
社会法研究Ⅰ	2	
社会法研究Ⅱ	2	
法律実務論	4	
不動産登記法研究Ⅰ	2	
不動産登記法研究Ⅱ	2	
登記実務研究Ⅰ	2	
登記実務研究Ⅱ	2	
政治学研究	2	
政治思想研究Ⅰ	2	
政治思想研究Ⅱ	2	
日本政治史研究	2	
日本政治外交史研究	2	
政治過程論研究	2	
行政学研究	2	
公共政策学研究	2	
比較社会政策論研究	2	
地方自治体研究	2	
非営利組織研究	2	
都市政策研究	2	
地域開発論研究	2	
地域研究発展演習Ⅰ	2	
地域研究発展演習Ⅱ	2	
地域研究発展演習Ⅲ	2	
地域研究発展演習Ⅳ	2	
経済政策研究	2	
地域経済論研究	2	
社会政策研究	2	
国際政治学研究	2	

国際研究発展演習Ⅰ	2	
国際研究発展演習Ⅱ	2	
比較政治論研究	2	
西洋政治史研究	2	
開発援助論研究	2	
平和・紛争論研究	2	
国家・民族論研究	2	
外交政策論研究	2	
EU政策論研究	2	
第三世界政治論研究	2	
アジア政治論研究	2	
国際政治文献講読	2	
アジアアフリカ総合研究特別演習	2	
中東政治論研究	2	
アジア経済史研究	2	
開発経済学研究	2	
日本経済論研究	2	
アフリカ政治論研究	2	
アフリカ経済論研究	2	
アフリカ社会論研究	2	
民際学概論	2	
経済協力論研究	2	
環境経済論研究	2	
民際学理論研究	2	
国際政治経済学研究	2	
国際経済論研究	2	
多国籍企業論研究	4	
会計原則論研究	4	
国際会計論研究	4	

会計監査論研究	4	
会計情報論研究	4	
中国経済論研究	2	
アジア経済論研究	2	
国際地域経済研究	2	
農業経済論研究	2	
フィールド調査研究	2	
日本研究A	2	
日本研究B	2	
共生社会研究A	2	
共生社会研究B	2	
言語文化研究A	2	
言語文化研究B	2	
宗教文化研究A	2	
宗教文化研究B	2	
芸術・メディア研究A	2	
芸術・メディア研究B	2	
地域公共人材総合研究特別演習	8	
地域リーダーシップ研究	2	
先進的地域政策研究	2	
地方行政実務演習	2	
フィールドワーク特別研究	4	
地域協働研究	2	
地域公共政策実務論研究	2	
協働ワークショップ実践演習	2	
コミュニケーション・ワークショップ実践演習	2	
地域再生可能エネルギー実装演習	2	

まちづくりとコミュニティ研究	2
まちづくりと法研究	2
地域産業政策研究	2
都市計画研究	2
地域公共人材実践演習	4
企業のCSR実践演習	2
ローカルビジネス・イノベーション研究	2
コミュニティメディア研究	2
政策コミュニケーション研究	2
キャリア・コミュニケーション演習	2
グローカル戦略実践演習	2
実践インターンシップ	4
地域公共人材特別演習	1
プロジェクト・サイクル・マネジメント演習	2
外国文献研究Ⅰ	2
外国文献研究Ⅱ	2
外国文献研究Ⅲ	2
外国文献研究Ⅳ	2
特別研究Ⅰ	4
特別研究Ⅱ	4
特別研究Ⅲ	4
特別研究Ⅳ	4
特殊研究	2
特殊研究（Comparative Politics）	2
特殊研究（Asian Politics）	2

特殊研究（African Politics）	2	
特殊研究（International Human Rights LawⅡ）	2	
特殊研究（税法ケース研究Ⅰ）	2	
特殊研究（税法ケース研究Ⅱ）	2	
特殊研究（税法判例研究）	2	
特殊研究（法政応用英語Ⅰ）	2	
特殊研究（法政応用英語Ⅱ）	2	
特殊研究（法政応用英語Ⅲ）	2	
特殊研究（法政応用英語Ⅳ）	2	
特殊研究（ジェンダーの法律学）	2	
特殊研究（民事法発展演習）	2	
特殊研究（民法判例研究）	2	
特殊研究（家族法基礎理論研究）	2	
特殊研究（市民社会と団体）	2	
特殊研究（法学の基礎Ⅰ）	2	
特殊研究（法学の基礎Ⅱ）	2	
特殊研究（憲法実践演習）	2	
放送大学大学院科目	8	

以上の表に掲げる授業科目のほか，法学研究科委員会が教育上必要であると認めるときは別になお，他の授業科目を設けることができる。

(3) 経済学研究科（修士課程）

ア 経済学専攻

授業科目	単位数	履修方法
研究の技法	2	左記の授業科目中から，指導教員の担当する演習8単位を含め，32単位以上を履修しなければならない。
社会経済理論研究	2	
マクロ経済学A	2	
マクロ経済学B	2	

ミクロ経済学A	2	
ミクロ経済学B	2	
経済学史研究	2	
日本経済史研究	2	
ヨーロッパ経済史研究	2	
アジア経済史研究	2	
社会思想史研究	2	
経済思想史研究	2	
経済政策研究	2	
地域経済論研究	2	
国際地域経済研究	2	
中国経済論研究	2	
アジア経済論研究	2	
アフリカ経済論研究	2	
民際学概論	2	
民際学理論研究	2	
国際経済論研究	2	
国際政治経済学研究	2	
経済協力論研究	2	
開発経済学研究	2	
環境経済論研究	2	
日本経済論研究	2	
産業組織論研究	2	
中小企業論研究	2	
農業経済論研究	2	
財政学研究	2	
公共経済学研究	2	
地方財政論研究	2	
金融論研究	2	
国際金融論研究	2	

ファイナンス論研究	2	
計量経済学A	2	
計量経済学B	2	
情報政策論研究	2	
フィールド調査研究	2	
経済情報システム研究	2	
社会政策研究	2	
労働経済学研究	2	
外国文献研究	2	
アジア政治論研究	2	
中東政治論研究	2	
アフリカ政治論研究	2	
アフリカ社会論研究	2	
比較政治論研究	2	
国家・民族論研究	2	
平和・紛争論研究	2	
外交政策論研究	2	
開発援助論研究	2	
国際法研究Ⅰ	2	
国際人権法研究Ⅱ	2	
国際環境法研究Ⅰ	2	
日本研究A	2	
日本研究B	2	
共生社会研究A	2	
共生社会研究B	2	
言語文化研究A	2	
言語文化研究B	2	
宗教文化研究A	2	
宗教文化研究B	2	
芸術・メディア研究A	2	

芸術・メディア研究B	2	
社会科学のための統計分析	2	
特殊研究（法政応用英語Ⅰ）	2	
特殊研究（法政応用英語Ⅱ）	2	
特殊研究（法政応用英語Ⅲ）	2	
特殊研究（法政応用英語Ⅳ）	2	
特殊研究（Asian Politics）	2	
特殊研究（African Politics）	2	
特殊研究（Comparative Politics）	2	
特殊研究（International Human Rights LawⅡ）	2	
特殊研究（日本語教育Ⅰ）	2	
特殊研究（日本語教育Ⅱ）	2	
特殊研究（日本語教育Ⅲ）	2	
特殊研究（日本語教育Ⅳ）	2	
演習Ⅰ	2	
演習Ⅱ	2	
演習Ⅲ	2	
演習Ⅳ	2	
副演習Ⅰ	1	
副演習Ⅱ	1	
副演習Ⅲ	1	
副演習Ⅳ	1	
民際学特別演習	4	
アジアアフリカ総合研究特別演習	2	
放送大学大学院科目	10	

以上の表に掲げる授業科目のほか,経済学研究科委員会が教育上必要であると認めるときは別になお，他の授業科目を設けることができる。

(4)　経営学研究科（修士課程）

ア　経営学専攻

授業科目	単位数	履修方法
経営学原理研究	4	左記の授業科目中から30単位以上を履修しなければならない。
企業論研究	4	
経営管理論研究	4	
企業統治論研究	4	
マーケティング論研究	4	
多国籍企業論研究	4	
アジア企業経営論研究	4	
経営情報システム論研究	4	
経営データ解析研究	4	
会計原則論研究	4	
国際会計論研究	4	
会計監査論研究	4	
会計情報論研究	4	
管理会計論研究	4	
外国文献研究（英語）	4	
外国文献研究（日本語）	4	
大学院演習ⅠA	4	
大学院演習ⅠB	4	
大学院演習ⅡA	4	
大学院演習ⅡB	4	

以上の表に掲げる授業科目のほか,経営学研究科委員会が教育上必要であると認めるときは別になお，他の授業科目を設けることができる。

(5)　社会学研究科（修士課程）

ア　社会学専攻

授業科目	単位数	履修方法
社会理論研究	2	左記の授業科目中から，指導教員の担当する演習8単位を含め,30単位以上を履修しなければならない。
コミュニケーション論研究	2	
地域社会論研究	2	

地域開発論研究	2
環境社会論研究	2
社会問題論研究	2
社会心理論研究	2
比較社会論研究	2
社会病理論研究	2
家族社会学研究	2
社会学説史研究	2
社会調査論研究	2
都市社会論研究	2
社会理論演習Ⅰ	2
社会理論演習Ⅱ	2
コミュニケーション論演習Ⅰ	2
コミュニケーション論演習Ⅱ	2
地域社会論演習Ⅰ	2
地域社会論演習Ⅱ	2
地域開発論演習Ⅰ	2
地域開発論演習Ⅱ	2
環境社会論演習Ⅰ	2
環境社会論演習Ⅱ	2
社会問題論演習Ⅰ	2
社会問題論演習Ⅱ	2
社会心理論演習Ⅰ	2
社会心理論演習Ⅱ	2
比較社会論演習Ⅰ	2
比較社会論演習Ⅱ	2
社会病理論演習Ⅰ	2
社会病理論演習Ⅱ	2
家族社会学演習Ⅰ	2
家族社会学演習Ⅱ	2

都市社会論演習Ⅰ	2	
都市社会論演習Ⅱ	2	
英語文献研究A	2	
英語文献研究B	2	
英語文献研究C	2	
日本語文献研究A	2	
日本語文献研究B	2	
独語文献研究	2	
仏語文献研究	2	
学術日本語ライティング研究Ⅰ	2	
学術日本語ライティング研究Ⅱ	2	
社会調査実習Ⅰ	2	
社会調査実習Ⅱ	2	
ジャーナリズム文献研究	2	
アカデミック・ライティング	2	
地域メディア研究	2	
アジア報道研究	2	
ジャーナリズム史研究	2	
政治コミュニケーション研究	2	
政治報道研究	2	
国際問題報道研究	2	
ジャーナリズム演習Ⅰ	2	
ジャーナリズム演習Ⅱ	2	
国際ジャーナリズム演習Ⅰ	2	
国際ジャーナリズム演習Ⅱ	2	
調査報道・記事制作実習A	2	
調査報道・記事制作実習B	2	
社会学特別研究	10	

イ　社会福祉学専攻

授業科目	単位数	履修方法
社会福祉原論研究	2	左記の授業科目中から，指導教員の担当する演習8単位を含め，30単位以上を履修しなければならない。
仏教社会福祉論研究	2	
社会福祉方法論研究A	2	
社会福祉方法論研究B	2	
医療福祉論研究	2	
児童福祉論研究A	2	
児童福祉論研究B	2	
社会保障論研究	2	
障害者福祉論研究A	2	
障害者福祉論研究B	2	
高齢者福祉論研究	2	
比較福祉論研究	2	
地域福祉論研究A	2	
地域福祉論研究B	2	
市民活動論研究	2	
精神保健福祉論研究	2	
社会福祉調査研究	2	
社会医療論研究	2	
社会福祉原論演習Ⅰ	2	
社会福祉原論演習Ⅱ	2	
仏教社会福祉論演習Ⅰ	2	
仏教社会福祉論演習Ⅱ	2	
社会福祉方法論演習ⅠA	2	
社会福祉方法論演習ⅡA	2	
社会福祉方法論演習ⅠB	2	
社会福祉方法論演習ⅡB	2	
医療福祉論演習Ⅰ	2	
医療福祉論演習Ⅱ	2	

児童福祉論演習ⅠA	2	
児童福祉論演習ⅡA	2	
児童福祉論演習ⅠB	2	
児童福祉論演習ⅡB	2	
社会保障論演習Ⅰ	2	
社会保障論演習Ⅱ	2	
障害者福祉論演習ⅠA	2	
障害者福祉論演習ⅡA	2	
障害者福祉論演習ⅠB	2	
障害者福祉論演習ⅡB	2	
高齢者福祉論演習Ⅰ	2	
高齢者福祉論演習Ⅱ	2	
地域福祉論演習ⅠA	2	
地域福祉論演習ⅡA	2	
地域福祉論演習ⅠB	2	
地域福祉論演習ⅡB	2	
精神保健福祉論演習Ⅰ	2	
精神保健福祉論演習Ⅱ	2	
社会医療論演習Ⅰ	2	
社会医療論演習Ⅱ	2	
英語文献研究A	2	
英語文献研究B	2	
英語文献研究C	2	
日本語文献研究A	2	
日本語文献研究B	2	
独語文献研究	2	
仏語文献研究	2	
学術日本語ライティング研究Ⅰ	2	
学術日本語ライティング研究	2	

Ⅱ		
社会福祉学実習	4	
社会福祉学特別研究	10	

(6) 実践真宗学研究科（修士課程）

ア 実践真宗学専攻

授業科目	単位数	履修方法
実践真宗学総合演習Ⅰ	2	左記の授業科目の中から52単位以上を履修しなければならない。
実践真宗学総合演習Ⅱ	2	
実践真宗学研究	2	
真宗教義学研究	2	
現代宗教論研究	2	
大乗仏教論研究	2	
浄土教思想論研究	2	
現代社会論研究	2	
宗教心理学研究	2	
宗教教育学研究	2	
仏教伝道史研究	2	
真宗伝道史研究	2	
真宗教団論研究	2	
倫理学研究	2	
外国語文献研究	2	
真宗人間論研究	2	
布教伝道論研究	2	
組織活動論研究	2	
メディア伝道論研究	2	
宗教儀礼論研究	2	
仏教音楽論研究	2	
地域・寺院活動論研究	2	
国際伝道論研究	2	
宗教法人運営論研究Ⅰ	2	

宗教法人運営論研究Ⅱ	2	
宗教実践特殊研究(A)	2	
宗教実践特殊研究(B)	2	
宗教実践特殊研究(C)	2	
宗教実践特殊研究(D)	2	
宗教実践特殊研究(E)	2	
宗教実践演習Ⅰ	2	
宗教実践演習Ⅱ	2	
宗教実践演習Ⅲ	2	
宗教実践実習	2	
生命倫理論研究	2	
共生論研究	2	
環境論研究	2	
人権・平和論研究	2	
ビハーラ・スピリチュアルケア論研究	2	
カウンセリング論研究	2	
生涯学習論研究	2	
臨床心理学研究	2	
精神保健学研究	2	
老年心理学研究	2	
心理療法学研究	2	
矯正保護論研究	2	
仏教社会福祉論研究	2	
ボランティア・NPO活動論研究	2	
こども社会学研究	2	
グリーフケア論研究	2	
臨床宗教教育研究	2	
臨床宗教師・傾聴士実習	8	

社会実践特殊研究(A)	2	
社会実践特殊研究(B)	2	
社会実践特殊研究(C)	2	
社会実践特殊研究(D)	2	
社会実践特殊研究(E)	2	
社会実践演習Ⅰ	2	
社会実践演習Ⅱ	2	
社会実践演習Ⅲ	2	
社会実践実習	2	
真宗教団活動論	2	
実践真宗学特別研究	10	

以上の表に掲げる授業科目の他,実践真宗学研究科委員会が教育上必要と認めるときは別になお，他の授業科目を設けることができる。

(7) 政策学研究科（修士課程）

ア　政策学専攻

授業科目	単位数	履修方法
特別研究	4	左記の授業科目中から，「特別研究」4単位を含め，32単位以上を履修し，修士論文ないし課題研究を提出して,その審査に合格しなければならない。 ただし，「地域公共人材特別演習」は含まない。
研究プロジェクト	2	
公共政策研究特別演習	8	
地域公共人材総合研究特別演習	8	
協働ワークショップ実践演習	2	
コミュニケーション・ワークショップ実践演習	2	
地域再生可能エネルギー実装演習	2	
地方行政実務演習	2	
プロジェクト・サイクル・マネジメント演習	2	
海外調査実践英語演習	2	

キャリア・コミュニケーション演習	2
グローカル戦略実践演習	2
企業のCSR実践演習	2
政策学研究発展演習Ⅰ	2
政策学研究発展演習Ⅱ	2
政策学研究発展演習Ⅲ	2
政策学研究発展演習Ⅳ	2
政策実践・探究演習ⅠA(国内)	4
政策実践・探究演習ⅠA(海外)	4
政策実践・探究演習ⅡA(国内)	4
政策実践・探究演習ⅡA(海外)	4
政策実践・探究演習ⅠB(国内)	4
政策実践・探究演習ⅠB(海外)	4
政策実践・探究演習ⅡB(国内)	4
政策実践・探究演習ⅡB(海外)	4
地域公共人材実践演習	4
地域公共人材特別演習	1
地域リーダーシップ研究	2
先進的地域政策研究	2
フィールドワーク特別研究	4
行政学研究	2
公共政策学研究	2
社会政策研究	2
ローカル・ファイナンス研究	2
地方自治体研究	2
都市政策研究	2
農村政策研究	2
地域協働研究	2
まちづくりとコミュニティ研	2

究		
地域産業政策研究	2	
コミュニティメディア研究	2	
政策学外国文献研究	2	
非営利組織研究	2	
政治学研究	2	
政策コミュニケーション研究	2	
実践インターンシップ	4	
海外フィールド研究	4	
財政学・地方財政学研究	2	
地域経済学研究	2	
地域エネルギー政策研究	2	
まちづくりと法研究	2	
環境経済学研究	2	
環境学研究	2	
都市計画研究	2	
社会調査のための情報処理演習	2	
ローカルビジネス・イノベーション研究	2	
社会科学のための調査研究の技法	2	
自治体法務研究	2	
地方自治法研究	2	
国際政治学研究	2	
比較政治論研究	2	
西洋政治史研究	2	
開発援助論研究	2	
平和・紛争論研究	2	
国家・民族論研究	2	

外交政策論研究	2	
EU政策論研究	2	
第三世界政治論研究	2	
アジア政治論研究	2	
アフリカ政治論研究	2	
アフリカ社会論研究	2	
行政法研究Ⅰ	2	
行政法研究Ⅱ	2	
国際環境法研究Ⅰ	2	
国際環境法研究Ⅱ	2	
社会保障法研究Ⅰ	2	
社会保障法研究Ⅱ	2	
知的財産法研究Ⅰ	2	
知的財産法研究Ⅱ	2	
企業法務論研究Ⅰ	2	
企業法務論研究Ⅱ	2	
企業取引法研究Ⅰ	2	
企業取引法研究Ⅱ	2	
環境政策研究	2	
環境課題分析研究	2	
環境社会学研究	2	
都市防災・危機管理研究	2	
特別講座	15	
放送大学大学院科目	8	

以上の表に掲げる授業科目のほか,政策学研究科委員会が教育上必要であると認めるときは別になお，他の授業科目を設けることができる。

(8) 農学研究科（修士課程）

ア 食農科学専攻

授業科目	単位数	履修方法
発酵醸造食品科学特論	2	左記の授業科目の中から，32単位以上を履修

フードサービスと食の流通特論	2	しなければならない。
食・農・環境の技術・経営・倫理特論	2	
植物遺伝・生理学特論	2	
作物保護学特論	2	
分子育種学特論	2	
作物生産科学特論	2	
園芸科学特論	2	
微生物・酵素機能利用学特論	2	
臨床栄養学特論	2	
臨床栄養療法特論	2	
人間栄養学特論	2	
アスリートの食と栄養特論	2	
栄養機能生化学特論	2	
食の嗜好性と生理機能開発の科学特論	2	
管理栄養士特別臨地実習A（臨床栄養学）	2	
管理栄養士特別臨地実習B（公衆栄養学）	2	
管理栄養士特別臨地実習C（給食経営管理論）	2	
地域農業コミュニティ特論	2	
地域環境マネジメント特論	2	
グローカル農業特論	2	
ビジネスマネジメント特論	2	
フードシステム特論	2	
食料消費と食文化特論	2	
食農科学演習Ⅰ	2	

食農科学演習Ⅱ	2	
食農科学演習Ⅲ	2	
食農科学演習Ⅳ	2	
食農科学特別研究	8	

以上の表に掲げる授業科目のほか,農学研究科委員会が教育上必要であると認めるときは別になお，他の授業科目を設けることができる。

(9) 国際学研究科（修士課程）

ア 国際文化学専攻

授業科目	単位数	履修方法
国際文化学	2	左記の授業科目の中から，30単位以上を履修しなければならない。
調査方法論	2	
リサーチセミナーA	2	
リサーチセミナーB	2	
演習Ⅰ	3	
演習Ⅱ	3	
演習Ⅲ	3	
演習Ⅳ	3	
日本研究A	2	
日本研究B	2	
共生社会研究A	2	
共生社会研究B	2	
言語文化研究A	2	
言語文化研究B	2	
宗教文化研究A	2	
宗教文化研究B	2	
芸術・メディア研究A	2	
芸術・メディア研究B	2	
民際学概論	2	
民際学理論研究	2	
アジア経済史研究	2	

フィールド調査研究	2	
日本経済論研究	2	
中国経済論研究	2	
アジア経済論研究	2	
アフリカ経済論研究	2	
国際政治経済学研究	2	
経済協力論研究	2	
環境経済論研究	2	
国際地域経済研究	2	
農業経済論研究	2	
開発経済学研究	2	
アフリカ社会論研究	2	
アジア政治論研究	2	
中東政治論研究	2	
アフリカ政治論研究	2	
比較政治論研究	2	
国家・民族論研究	2	
平和・紛争論研究	2	
外交政策論研究	2	
開発援助論研究	2	
国際法研究Ⅰ	2	
国際人権法研究Ⅱ	2	
国際環境法研究Ⅰ	2	
特殊研究(Asian Politics)	2	
特殊研究(African Politics)	2	
特殊研究(Comparative Politics)	2	
特殊研究(International Human Rights Law Ⅱ)	2	
特殊研究(法政応用英語Ⅰ)	2	

特殊研究(法政応用英語Ⅱ)	2	
特殊研究(法政応用英語Ⅲ)	2	
特殊研究(法政応用英語Ⅳ)	2	
アジアアフリカ総合研究特別演習	2	

イ　グローバルスタディーズ専攻

授業科目	単位数	履修方法
Introduction	2	左記の授業科目の中から，30単位以上を履修しなければならない。
Research Seminar A	2	
Research Seminar B	2	
Research Seminar C	2	
Research Seminar D	2	
Thesis Seminar Ⅰ	3	
Thesis Seminar Ⅱ	3	
Thesis Seminar Ⅲ	3	
Thesis Seminar Ⅳ	3	
Global History	2	
Globalization and Area Studies	2	
Globalization and Social Development	2	
Global Ethics	2	
Global Inequality and Sustainability	2	
Globalization, Conflict and Justice	2	
Global Communicative Competence Studies	2	
Language, Power & Identity	2	

Communication Studies	2	

ウ　言語コミュニケーション専攻

授業科目	単位数	履修方法
Research Methods A	2	左記の授業科目の中から，32単位以上を履修しなければならない。
Research Methods B	2	
言語コミュニケーション演習Ⅰ	2	
言語コミュニケーション演習Ⅱ	2	
言語コミュニケーション演習Ⅲ	2	
言語コミュニケーション演習Ⅳ	2	
通訳・翻訳研究A	2	
通訳・翻訳研究B	2	
日英通訳・翻訳研究	2	
通訳・翻訳セミナー	2	
Psychology and Language Learning	2	
外国語学習方法論	2	
言語政策論	2	
Language Testing and Assessment	2	
Pragmatics in Language Learning and Teaching	2	
Communication Studies	2	
Language, Power & Identity	2	
Global Communicative Competence Studies	2	

Second Language Teacher Education	2	
Global History	2	
Global Ethics	2	

以上の表に掲げる授業科目のほか,国際学研究科委員会が教育上必要であると認めるときは別になお，他の授業科目を設けることができる。

(10) 先端理工学研究科（修士課程）

ア 先端理工学専攻

授業科目	単位数	履修方法
先端理工学基礎演習Ⅰ	2	左記の授業科目中から，32単位以上を履修しなければならない。
先端理工学基礎演習Ⅱ	2	
英語プレゼンテーションⅠ	1	
英語プレゼンテーションⅡ	1	
科学哲学・科学史	1	
RUBeC演習	4	
先端理工学研究（数理・情報科学コース）	1	
計算科学特論Ⅰ	1	
計算科学特論Ⅱ	1	
機械学習特論Ⅰ	1	
機械学習特論Ⅱ	1	
自然言語処理特論Ⅰ	1	
自然言語処理特論Ⅱ	1	
数学解析特論Ⅰ	1	
数学解析特論Ⅱ	1	
アルゴリズム理論特論Ⅰ	1	
アルゴリズム理論特論Ⅱ	1	
反応拡散系特論Ⅰ	1	
反応拡散系特論Ⅱ	1	
ソフトウェア理論特論Ⅰ	1	

ソフトウェア理論特論Ⅱ	1	
応用幾何特論Ⅰ	1	
応用幾何特論Ⅱ	1	
数理モデル特論Ⅰ	1	
数理モデル特論Ⅱ	1	
数理科学特論Ⅰ	1	
数理科学特論Ⅱ	1	
物性物理学特論Ⅰ	1	
物性物理学特論Ⅱ	1	
非線形解析学特論Ⅰ	1	
非線形解析学特論Ⅱ	1	
数理情報科学特論A	1	
数理情報科学特論B	1	
先端理工学研究（知能情報メディアコース）	1	
言語情報処理特論Ⅰ	1	
言語情報処理特論Ⅱ	1	
ソフトウェア科学特論Ⅰ	1	
ソフトウェア科学特論Ⅱ	1	
コンピュータグラフィックス特論Ⅰ	1	
コンピュータグラフィックス特論Ⅱ	1	
信号処理特論	1	
画像処理特論	1	
音響信号処理特論Ⅰ	1	
音響信号処理特論Ⅱ	1	
知的情報処理特論Ⅰ	1	
知的情報処理特論Ⅱ	1	
推薦システム特論Ⅰ	1	

推薦システム特論Ⅱ	1	
ソフトウェア工学特論Ⅰ	1	
ソフトウェア工学特論Ⅱ	1	
情報システム特論Ⅰ	1	
情報システム特論Ⅱ	1	
情報コミュニケーション特論Ⅰ	1	
情報コミュニケーション特論Ⅱ	1	
先端理工学研究（電子情報通信コース）	1	
科学技術英語特論・演習	2	
電子ディスプレイ特論	1	
脳型集積回路特論	1	
電磁波計測特論Ⅰ	1	
電磁波計測特論Ⅱ	1	
知能情報特論Ⅰ	1	
知能情報特論Ⅱ	1	
強化学習特論Ⅰ	1	
強化学習特論Ⅱ	1	
量子工学特論	1	
ナノテクノロジー工学特論	1	
マイクロ波通信工学特論Ⅰ	1	
マイクロ波通信工学特論Ⅱ	1	
人間情報処理特論Ⅰ	1	
人間情報処理特論Ⅱ	1	
ナノ計測工学特論Ⅰ	1	
ナノ計測工学特論Ⅱ	1	
電子情報数学特論	1	
景観情報学特論	1	

生体システム特論Ⅰ	1	
生体システム特論Ⅱ	1	
電子物性特論Ⅰ	1	
電子物性特論Ⅱ	1	
先端理工学研究（機械工学・ロボティクスコース）	1	
エネルギー工学特論	1	
燃焼特論	1	
高速空気力学特論	1	
航空宇宙工学特論	1	
有限要素法特論	1	
計算生体力学特論	1	
知能制御特論Ⅰ	1	
知能制御特論Ⅱ	1	
計測システム特論Ⅰ	1	
計測システム特論Ⅱ	1	
精密加工学特論Ⅰ	1	
精密加工学特論Ⅱ	1	
材料加工特論	1	
強度評価学特論	1	
熱流体工学特論Ⅰ	1	
熱流体工学特論Ⅱ	1	
知能システム特論Ⅰ	1	
知能システム特論Ⅱ	1	
複合材料力学特論Ⅰ	1	
複合材料力学特論Ⅱ	1	
材料工学特論Ⅰ	1	
材料工学特論Ⅱ	1	
ロボット工学特論Ⅰ	1	
ロボット工学特論Ⅱ	1	

先端理工学研究（応用化学コース）	1	
生物化学特論Ⅰ	1	
生物化学特論Ⅱ	1	
電気化学特論Ⅰ	1	
電気化学特論Ⅱ	1	
生体分子工学特論	1	
バイオ計測工学特論	1	
有機合成化学特論Ⅰ	1	
有機合成化学特論Ⅱ	1	
高分子機能科学特論Ⅰ	1	
高分子機能科学特論Ⅱ	1	
固体物性化学特論Ⅰ	1	
固体物性化学特論Ⅱ	1	
固体化学特論Ⅰ	1	
固体化学特論Ⅱ	1	
分析科学特論Ⅰ	1	
分析科学特論Ⅱ	1	
高分子材料工学特論Ⅰ	1	
高分子材料工学特論Ⅱ	1	
材料物性測定学特論Ⅰ	1	
材料物性測定学特論Ⅱ	1	
無機機能材料化学特論Ⅰ	1	
無機機能材料化学特論Ⅱ	1	
有機機能材料化学特論Ⅰ	1	
有機機能材料化学特論Ⅱ	1	
先端理工学研究（環境科学コース）	1	
生産生態学特論Ⅰ	1	
生産生態学特論Ⅱ	1	

水道工学特論Ⅰ	1	
水道工学特論Ⅱ	1	
下水道工学特論Ⅰ	1	
下水道工学特論Ⅱ	1	
水処理工学特論	1	
物質移動現象特論	1	
多様性生物学特論Ⅰ	1	
多様性生物学特論Ⅱ	1	
保全生物学特論Ⅰ	1	
保全生物学特論Ⅱ	1	
生態学とその周辺の先端分析に関する特論Ⅰ	1	
生態学とその周辺の先端分析に関する特論Ⅱ	1	
生態学における実証とデータ解析に関する特論Ⅰ	1	
生態学における実証とデータ解析に関する特論Ⅱ	1	
環境生態学特論ＡⅠ	1	
環境生態学特論ＡⅡ	1	
環境生態学特論ＢⅠ	1	
環境生態学特論ＢⅡ	1	
数理モデリング特論Ⅰ	1	
数理モデリング特論Ⅱ	1	
理論生態学特論Ⅰ	1	
理論生態学特論Ⅱ	1	
燃焼工学特論Ⅰ	1	
燃焼工学特論Ⅱ	1	
資源利活用特論Ⅰ	1	
資源利活用特論Ⅱ	1	

環境計量特論Ⅰ	1	
環境計量特論Ⅱ	1	
資源循環工学特論	1	
廃棄物処理技術特論	1	
環境影響評価特論Ⅰ	1	
環境影響評価特論Ⅱ	1	
環境微生物工学特論Ⅰ	1	
環境微生物工学特論Ⅱ	1	
環境動物昆虫学特論Ⅰ	1	
環境動物昆虫学特論Ⅱ	1	
動物生態学特論Ⅰ	1	
動物生態学特論Ⅱ	1	
数理・情報科学演習	4	
知能情報メディア特別演習	4	
電子情報通信演習	4	
機械工学・ロボティクス演習	4	
応用化学演習	4	
環境科学演習	4	
数理・情報科学特別研究	8	
知能情報メディア特別研究	8	
電子情報通信特別研究	8	
機械工学・ロボティクス特別研究	8	
応用化学特別研究	8	
環境科学特別研究	8	

以上の表に掲げる授業科目の他，先端理工学研究科委員会が教育上必要と認めるときは別になお，他の授業科目を設けることができる。

第８条　各研究科博士後期課程の教育は，主として研究指導によるものとするが，あわせて，授業科目の授業による教育をもってこれを補うものとする。

２　文学研究科博士後期課程の各専攻に開設する授業科目・単位数及びその履修方法は，次の表のとおりである。

専攻	授業科目	単位数	履修方法
真宗学専攻			
	真宗学演習Ⅰ	4	3科目12単位必修
	真宗学演習Ⅱ	4	
	真宗学演習Ⅲ	4	
仏教学専攻			
	仏教学演習Ⅰ	4	3科目12単位必修
	仏教学演習Ⅱ	4	
	仏教学演習Ⅲ	4	
哲学専攻			
	哲学演習Ⅰ	4	3科目12単位必修
	哲学演習Ⅱ	4	
	哲学演習Ⅲ	4	
教育学専攻			
	教育学演習Ⅰ	4	いずれか3科目12単位必修
	教育学演習Ⅱ	4	
	教育学演習Ⅲ	4	
	教育心理学演習Ⅰ	4	
	教育心理学演習Ⅱ	4	
	教育心理学演習Ⅲ	4	
臨床心理学専攻			
	臨床心理学演習Ⅰ	4	3科目12単位必修
	臨床心理学演習Ⅱ	4	
	臨床心理学演習Ⅲ	4	
	臨床心理学特殊研究Ⅰ	2	
	臨床心理学特殊研究Ⅱ	2	
	臨床心理学特殊研究Ⅲ	2	

日本史学専攻			
	日本史学演習Ⅰ	4	3科目12単位必修
	日本史学演習Ⅱ	4	
	日本史学演習Ⅲ	4	
東洋史学専攻			
	東洋史学演習Ⅰ	4	3科目12単位必修
	東洋史学演習Ⅱ	4	
	東洋史学演習Ⅲ	4	
日本語日本文学専攻			
	日本語日本文学演習Ⅰ	4	3科目12単位必修
	日本語日本文学演習Ⅱ	4	
	日本語日本文学演習Ⅲ	4	
英語英米文学専攻			
	英語英米文学演習Ⅰ	4	3科目12単位必修
	英語英米文学演習Ⅱ	4	
	英語英米文学演習Ⅲ	4	

3　法学研究科博士後期課程の専攻に開設する授業科目・単位数及びその履修方法は，次の表のとおりである。

専攻	授業科目	単位数	履修方法
法律学専攻			
	特別演習Ⅰ	4	12単位必修
	特別演習Ⅱ	4	
	特別演習Ⅲ	4	
	法政研究Ⅰ	4	
	法政研究Ⅱ	2	
	法政研究Ⅲ	2	

4　経済学研究科経済学専攻博士後期課程に開設する授業科目・単位数及びその履修方法は，次の表のとおりである。

授業科目	単位数	履修方法
特殊演習Ⅰ	4	3科目12単位必修
特殊演習Ⅱ	4	
特殊演習Ⅲ	4	

5　経営学研究科経営学専攻博士後期課程に開設する授業科目・単位数及びその履修方法は，次の表のとおりである。

授業科目	単位数	履修方法
特殊研究	4	左記の授業科目中から特殊演習12単位を含め，12単位以上を履修しなければならない。
特殊演習	12	

6　社会学研究科博士後期課程の各専攻に開設する授業科目・単位数及びその履修方法は，次の表のとおりである。

ア　社会学専攻

授業科目	単位数	履修方法
社会学特殊演習ＩＡ	2	12単位必修
社会学特殊演習ＩＢ	2	
社会学特殊演習ⅡＡ	2	
社会学特殊演習ⅡＢ	2	
社会学特殊演習ⅢA	2	
社会学特殊演習ⅢB	2	
社会学特殊演習ⅣA	2	
社会学特殊演習ⅣB	2	
社会学特殊演習ＶＡ	2	
社会学特殊演習ＶＢ	2	
社会学特殊演習ⅥA	2	
社会学特殊演習ⅥB	2	
社会学特殊演習ⅦA	2	
社会学特殊演習ⅦB	2	
社会学特殊演習ⅧA	2	
社会学特殊演習ⅧB	2	
英語特殊文献研究ＩＡ	2	

英語特殊文献研究ⅡA	2	
英語特殊文献研究ⅠB	2	
英語特殊文献研究ⅡB	2	
独語特殊文献研究	2	
仏語特殊文献研究	2	

イ　社会福祉学専攻

授業科目	単位数	履修方法
社会福祉学特殊演習ⅠA	2	12単位必修
社会福祉学特殊演習ⅠB	2	
社会福祉学特殊演習ⅡA	2	
社会福祉学特殊演習ⅡB	2	
社会福祉学特殊演習ⅢA	2	
社会福祉学特殊演習ⅢB	2	
社会福祉学特殊演習ⅣA	2	
社会福祉学特殊演習ⅣB	2	
社会福祉学特殊演習ⅤA	2	
社会福祉学特殊演習ⅤB	2	
社会福祉学特殊演習ⅥA	2	
社会福祉学特殊演習ⅥB	2	
社会福祉学特殊演習ⅦA	2	
社会福祉学特殊演習ⅦB	2	
社会福祉学特殊演習ⅧA	2	
社会福祉学特殊演習ⅧB	2	
英語特殊文献研究ⅠA	2	
英語特殊文献研究ⅡA	2	
英語特殊文献研究ⅠB	2	
英語特殊文献研究ⅡB	2	
独語特殊文献研究	2	
仏語特殊文献研究	2	

7　政策学研究科政策学専攻博士後期課程に開設する授業科目・単位数及びその履修方法は,

次の表のとおりである。

授業科目	単位数	履修方法
特別演習Ⅰ	4	「特別演習Ⅰ」，「特別演習Ⅱ」及び「特別演習Ⅲ」を含む12単位以上を修得し，必要な研究指導を受けた上で，博士論文を提出してその審査及び最終試験に合格しなければならない。
特別演習Ⅱ	4	
特別演習Ⅲ	4	
特別演習Ⅳ	2	
特別演習Ⅴ	2	
政策学研究Ⅰ	4	
政策学研究Ⅱ	4	
政策学研究Ⅲ	4	
プロジェクト型研究Ⅰ	4	
プロジェクト型研究Ⅱ	4	
プロジェクト型研究Ⅲ	4	
学術研究の方法A	2	
学術研究の方法B	2	
プロジェクト・サイクル・マネジメント研究	2	
政策学外国文献研究	2	
海外調査実践英語演習	2	

8　農学研究科食農科学専攻博士後期課程に開設する授業科目・単位数及びその履修方法は，次の表のとおりである。

授業科目	単位数	履修方法
食農科学特別講義	2	左記の授業科目の中から，14単位以上を履修しなければならない。
農業生産科学特別演習Ⅰ	4	
農業生産科学特別演習Ⅱ	4	
農業生産科学特別演習Ⅲ	4	
食品栄養科学特別演習Ⅰ	4	
食品栄養科学特別演習Ⅱ	4	
食品栄養科学特別演習Ⅲ	4	
地域社会農学特別演習Ⅰ	4	

地域社会農学特別演習Ⅱ	4	
地域社会農学特別演習Ⅲ	4	

9　国際学研究科博士後期課程の各専攻に開設する授業科目・単位数及びその履修方法は，次の表のとおりである。

ア　国際文化学専攻

授業科目	単位数	履修方法
演習Ⅰ	2	12単位必修
演習Ⅱ	2	
演習Ⅲ	2	
演習Ⅳ	2	
演習Ⅴ	2	
演習Ⅵ	2	

イ　グローバルスタディーズ専攻

授業科目	単位数	履修方法
Thesis Seminar Ⅰ	2	14単位必修
Thesis SeminarⅡ	2	
Thesis SeminarⅢ	2	
Thesis SeminarⅣ	2	
Thesis SeminarⅤ	2	
Thesis SeminarⅥ	2	
PhD Research Seminar	2	

10　先端理工学研究科先端理工学専攻博士後期課程に開設する授業科目・単位数及びその履修方法は，次の表のとおりである。

授業科目	単位数	履修方法
サイエンスコミュニケーション	2	サイエンスコミュニケーション2単位及び指導教授の指導により専攻する分野の特別研究12単位を修得しなければならない。さらに指導教授の指示を受け特別講義を履修するものとし博士論文を提出してその審査及び最終試験に合格しなければならない。なお，在学期間を短
数理解析特別研究	12	
応用数理特別研究	12	
情報科学特別研究	12	
知能情報システム特別研究	12	

ソフトウェア科学特別研究	12	縮し修了する場合には，これらに加えて，「高
メディア工学特別研究	12	度専門研究特別講義」2単位を必修とする。
電子情報基礎特別研究	12	
情報処理機構特別研究	12	
情報システム特別研究	12	
力学特別研究	12	
エネルギー特別研究	12	
システム特別研究	12	
物質評価法特別研究	12	
無機材料特別研究	12	
有機・高分子材料特別研究	12	
生態学特別研究	12	
エコロジー工学特別研究	12	
数理解析特別講義Ⅰ	2	
数理解析特別講義Ⅱ	2	
応用数理特別講義Ⅰ	2	
応用数理特別講義Ⅱ	2	
情報科学特別講義Ⅰ	2	
情報科学特別講義Ⅱ	2	
知能情報システム特別講義Ⅰ	2	
知能情報システム特別講義Ⅱ	2	
ソフトウェア科学特別講義Ⅰ	2	
ソフトウェア科学特別講義Ⅱ	2	
メディア工学特別講義Ⅰ	2	
メディア工学特別講義Ⅱ	2	
電子情報基礎特別講義Ⅰ	2	
電子情報基礎特別講義Ⅱ	2	
情報処理機構特別講義Ⅰ	2	
情報処理機構特別講義Ⅱ	2	
情報システム特別講義Ⅰ	2	

情報システム特別講義Ⅱ	2	
力学特別講義Ⅰ	2	
力学特別講義Ⅱ	2	
エネルギー特別講義Ⅰ	2	
エネルギー特別講義Ⅱ	2	
システム特別講義Ⅰ	2	
システム特別講義Ⅱ	2	
物質評価法特別講義Ⅰ	2	
物質評価法特別講義Ⅱ	2	
無機材料特別講義Ⅰ	2	
無機材料特別講義Ⅱ	2	
有機・高分子材料特別講義Ⅰ	2	
有機・高分子材料特別講義Ⅱ	2	
生態学特別講義Ⅰ	2	
生態学特別講義Ⅱ	2	
エコロジー工学特別講義Ⅰ	2	
エコロジー工学特別講義Ⅱ	2	
高度専門研究特別講義	2	

第８条の２　本章に規定するほか，授業科目の配当年次等，履修すべき科目等履修に必要な事項は，各研究科の履修要項で定める。

第９条　本学大学院各研究科において教育研究上有益と認めるときは，他大学の大学院と予め協議のうえ，当該他大学の大学院の授業科目を履修させることができる。なお，本学大学院研究科相互の間における授業科目の履修についても，これに準ずるものとする。

２　前項の規定により修得した授業科目の単位は，15単位を超えない範囲で，本学大学院各研究科において修得したものとみなすことができる。

３　前項の規定は，第29条の２により学生が外国の大学等に留学する場合に準用する。

第９条の２　大学院各研究科が教育上有益と認めるときは，学生が入学前に本学又は他大学の大学院において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）（以下「既修得単位」という。）を本学大学院各研究科において修得したものとみなすことができる。

２　前項により与えることができる単位数は，前条第２項及び第３項によるものとは別に15単位を超えない範囲で修得したものとみなすことができる。

３　前２項の既修得単位の取扱については別に定める。

第９条の３　前２条の規定により，本学大学院各研究科において修得したものとみなすことができる単位数は，合わせて20単位を超えないものとする。

第10条　所定の授業科目を履修した者に対しては，試験のうえ，その合格者に所定の単位を与える。

第11条　本学大学院各研究科における研究指導については，各研究科において別に定める。

２　各研究科において教育研究上有益と認めるときは，他大学の大学院等と予め協議のうえ，博士後期課程の学生に，当該他大学の大学院等において必要な研究指導を受けさせることができる。本学大学院各研究科相互の間における研究指導についても，これに準ずるものとする。

第５章　課程修了の認定

第12条　修士の学位を得ようとする者は，修士課程に２年以上（実践真宗学研究科にあっては，３年以上）在学し，各研究科修士課程所定の単位を修得し，かつ，必要な研究指導を受けたうえ，修士論文を提出してその審査及び最終試験に合格しなければならない。ただし，在学期間は，各研究科委員会が優れた業績を上げたと認めた者については，大学院に１年以上在学すれば足りるものとする。

２　前項において各修士課程の目的に応じ各研究科委員会が適当と認める時は，特定の課題についての研究の成果の審査をもって修士論文の審査に代えることができる。

３　前２項の課程修了に必要な外国語等の認定方法については，各研究科委員会の定めるところによる。

４　修士論文は，広い視野に立つ精深な学識をそなえ，かつその専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要な高度の能力を有することを立証するに足るものであることが必要で，２年間（実践真宗学研究科にあっては，３年間）広い視野のもとに専攻分野の研究をした成果に相当するものでなければならない。

５　第９条の２の規定により，本学大学院に入学する前に修得した単位（学校教育法第102条第１項の規定により入学資格を有した後，修得したものに限る。）を本学大学院において修得したものとみなす場合であって，当該単位の修得により本学修士課程の教育課程の一部を履修したと認めるときは，当該単位数，その修得に要した期間その他を勘案して１年を超えない範囲で本学大学院が定める期間在学したものとみなすことができる。ただし，

この場合においても，当該課程に少なくとも１年以上在学するものとする。

第13条　博士の学位を得ようとする者は，博士課程に５年（修士課程を修了した者にあっては当該課程における２年の在学期間を含む。）以上在学し，各研究科の所定の授業科目について12単位（先端理工学研究科にあっては14単位，農学研究科及び国際学研究科グローバルスタディーズ専攻の１年修了制にあっては14単位，先端理工学研究科の１年修了制にあっては16単位）以上を修得し，かつ，必要な研究指導を受けたうえ，博士論文を提出してその審査及び最終試験に合格しなければならない。ただし，在学期間に関しては，優れた研究業績を上げた者にあっては，博士課程に３年（修士課程を修了した者にあっては，当該課程における２年の在学期間を含む。）以上在学すれば足りるものとする。

２　前項の規定にかかわらず，前条第１項ただし書きによる在学期間をもって修士課程を修了した者の博士課程の修了の要件については，前項中「５年（修士課程を修了した者にあっては当該課程における２年の在学期間を含む。）とあるのは「修士課程における在学期間に３年を加えた期間」と，「３年（修士課程を修了した者にあっては，当該課程における２年の在学期間を含む。）」とあるのは「３年（修士課程における在学期間を含む。）」と読み替え，同項の規定を適用する。

３　第１項及び前項の規定にかかわらず，大学院の入学資格に関し修士の学位若しくは専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者又は専門職学位課程を修了した者が，博士後期課程に入学した場合の博士課程の修了の要件は，大学院に３年（法科大学院の課程を修了した者にあっては，２年）以上在学し，各研究科の所定の授業科目について12単位（農学研究科及び国際学研究科グローバルスタディーズ専攻並びに理工学研究科各専攻の１年修了制にあっては14以上を修得し，かつ，必要な研究指導を受けたうえ，博士論文を提出してその審査及び最終試験に合格しなければならない。ただし，在学期間に関しては，優れた研究業績を上げた者にあっては，博士課程に１年（標準修業年限が１年以上２年未満の専門職学位課程を修了した者にあっては，３年から当該１年以上２年未満の期間を減じた期間）以上在学すれば足りるものとする。

４　前３項の課程修了に必要な外国語等の認定方法については，各研究科委員会の定めるところによる。

５　博士論文は，その専攻分野について研究者として自立して研究活動を行うに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を有することを立証するに足るものでなくてはならない。

第14条　修士論文及び博士論文の審査は，別に定めるところによる。

第15条　第12条第１項及び第13条第１項及び第３項に規定する最終試験は，論文を中心とし，これに関連する授業科目について行われる試問とする。

第16条　修士課程並びに博士課程修了の認定は，本学大学院各研究科委員会がこれを行う。

２　課程修了の認定の時期は，学年末とする。ただし，学長が特別の事情があると認める者に対しては，学期の末とすることができる。

第６章　学位の授与

第17条　本学大学院の各研究科において修士課程を修了した者には，修士の学位を授与する。

２　本学大学院の各研究科において博士課程を修了した者には，博士の学位を授与する。

３　本学大学院に博士の学位論文を提出した者には，各研究科委員会の審議を経て，博士の学位を授与することができる。

４　学位の授与に関し必要な事項は，別に定める本学学位規程によるものとする。

第７章　学年・学期及び休業日

第18条　本学大学院の学年は，４月１日に始まり，翌年３月31日に終る。

第19条　学年を原則として次の２学期に分ける。

第１学期　４月１日から９月30日まで

第２学期　10月１日から翌年３月31日まで

第20条　本学大学院の休業日は，次のとおりとする。

(1)　日曜日

(2)　「国民の祝日に関する法律」に規定する休日

(3)　創立記念日　５月21日

(4)　春期休業、夏期休業及び冬期休業（当該年度の学年暦において定める。）

２　前項の休業日については,事情によって変更することがあり､授業を行うことができる。

３　臨時休業については，学長がそのつど定める。

第８章　入学・休学・退学・留学及び除籍

第21条　本学大学院への入学は，毎学年の始めとする。ただし，特別の事情のある場合は，学期の始めとすることができる。

第22条　本学大学院修士課程に入学し得る者は，次の各号のいずれかに該当し，所定の入学試験に合格しなければならない。ただし，既往の学業成績を調査しこれを参考にすることがある。

(1)　学校教育法第102条に定める大学を卒業した者

(2)　外国において学校教育における16年の課程を修了した者

(3)　学校教育法施行規則第155条第１項に規定する者

(4)　本学大学院各研究科において，大学に３年以上在学し，所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者

第23条　本学大学院博士後期課程に入学することのできる者は，修士の学位又は専門職学位を有する者又は学校教育法施行規則第156条に規定する者とする。

第24条　博士後期課程へ入学を志願する者については，本学大学院各研究科の定めるところにより，選抜試験を行い，許可又は不許可を決定する。ただし，決定にあたっては，既往の学業成績を調査しこれを参考にすることができる。

２　本学大学院各研究科の修士課程を修了し，当該研究科の博士後期課程へ進学を志願する者についても，同様とする。

第25条　入学志願者は，指定の期日までに，所定の書式に従い，入学願書・履歴書・学業成績調査書・写真その他必要な書類を提出しなければならない。

第26条　入学の許可を得た者は，所定の入学宣誓・保証書及び住民票記載事項証明書を提出しなければならない。なお，保証人は１名とする。

２　保証人は，その学生の在学中に係る一切の事件について責任を負わねばならない。

第27条　保証人が転居・改印などしたときは，ただちにその旨を届出なければならない。

２　保証人の変更をする場合は，新たに保証書を提出しなければならない。

第28条　学生が疾病又はやむを得ない事由により，３月以上就学を中止しようとするときは，学長の許可を得て１学期間又は１学年間休学することができる。休学期間は，所定の在学期間に算入しない。

２　休学中の者が引き続き休学を希望するときは，休学期間の延長をすることができる。

３　休学期間は，修士課程は連続して２年，通算して２年（実践真宗学研究科は３年）を超えることはできない。博士後期課程は連続して２年，通算して３年を超えることはできない。

４　休学の事由が消滅したときは，学長の許可を得て，復学することができる。

第29条　疾病又はその他の事由で退学しようとするときは，保証人と連署して願出なければならない。

２　前項により退学した者がさらに入学を願出たときは，その事情を調査のうえ，原年次又はその以下の年次に入学を許可することがある。

３　本条第１項によって退学した者のうち，博士後期課程に所定の期間在学し，所定の単位

を修得して退学した者は，学位論文提出のためにさらに入学を願出ることができる。ただし，さらに入学できる期間は，退学した翌学期から起算して５学期を超えることはできない。

第29条の２　外国の大学で学修することを志願する者は，学長の許可を得て留学することができる。

第30条　学生が次の各号の１に該当するときは，これを除籍する。

(1)　定められた期間内に学費を納入しない者

(2)　次条に定める期間に修了できない者

(3)　第28条に定める休学期間を終えても復学できない者

２　前項に規定するほか，死亡したときも除籍する。

３　第１項第１号により除籍された者が，ふたたび入学を願出たときは，その事情を調査のうえ，原年次に入学を許可することがある。

第31条　本学大学院における最長在学年数は，修士課程にあっては５年（実践真宗学研究科にあっては，６年），博士後期課程にあっては６年とする。

２　前項にかかわらず，修士課程において第２条の２第７項の規定により計画的な履修が認められた者については，最長在学年数を６年とする。

第９章　外国人留学生・外国人特別生・委託生及び科目等履修生

第31条の２　外国人で，大学において教育を受ける目的をもって入国し，本学に入学を志願する者があるときは，選考のうえ，外国人留学生として入学を許可することができる。

第32条　第22条又は第23条に規定する入学資格のない外国人で当該外国公館等の推薦等がある者は，それぞれ当該課程に，外国人特別生としての入学を許可することができる。

第33条　他大学の大学院学生にして，その大学院の委託により，本学大学院修士又は博士後期課程における授業科目につき専修を希望する者があるときは，欠員がある場合に限って，委託生として修学を許可することがある。

第34条　大学院における授業科目のうち１科目又は数科目につき履修を希望する者があるときは，その学力を考査し，科目等履修生として履修を許可することがある。

２　科目等履修生に対し，第10条の規定を準用し単位を認定する。

第34条の２　他大学の大学院生で，本学大学院各研究科において授業科目を履修することを志願する者があるときは，当該大学院との協議に基づき，科目等特別履修生として履修を許可することがある。

２　科目等特別履修生に関して必要な事項については，別に定める。

第35条　外国人特別生，委託生及び科目等履修生が履修科目の試験に合格したときは，その科目の修了証明書を授与する。

第36条　外国人特別生及び委託生には，本学則を準用する。ただし，第17条はこれを除く。

第９章の２　研究生及び特別専攻生

第36条の２　本学大学院博士後期課程に３年以上在学して退学した者で，さらに，大学院において博士論文作成のための研究継続を希望する者は,研究生として研究を継続することができる。

第36条の３　研究生となることを希望する者は，所定の願書に研究計画その他必要事項を記載し，当該研究科長に願出なければならない。

２　研究生は，当該研究科委員会の選考により，学長が決定する。

第36条の４　研究生の期間は，１学年間又は１学期間とする。

２　研究の継続を希望する者は，期間の更新を願出ることができる。ただし，通算して３年を超えることはできない。

第36条の５　研究生は，研修費として年額２万円を大学に納入しなければならない。ただし，先端理工学研究科については，年額３万円とする。

２　１学期間在籍の場合，研修費については，前項に定める年額の２分の１の金額を納入する。

第36条の６　研究生は，当該研究科委員会の定めるところにより，次の待遇を受けることができる。

(1)　教授の指導を受けること。

(2)　大学院学生の研究を妨げない範囲で，研究施設を利用すること。

(3)　大学院学生の研究を妨げない範囲で，特定の科目を聴講すること。

第36条の７　研究生には，身分証明書を交付する。

第36条の８　研究生については，別に定めるところによるほか，本学則を準用する。ただし，第17条はこれを除く。

第36条の９　本大学院に特別専攻生の制度を置くことができる。

２　特別専攻生の制度については別に定める。

第10章　受験科・入学金・授業料・施設費等学費その他納付金

第37条　入学志願者の受験料は35,000円とする。

第38条　入学金・授業料・実験実習料・施設費等学費は次のとおりとする。

（単位　円）

種類	金額				備考
	文学研究科 法学研究科 経済学研究科 経営学研究科 社会学研究科 政策学研究科 国際学研究科	先端理工学研究科	実践真宗学研究科	農学研究科	
入学金	200,000	200,000	200,000	200,000	本学学部出身者は，150,000円とし，本学研究科の課程出身者は，免除とする。 ただし，本学学部出身者であっても，社会人入学試験によって経営学研究科（博士課程を除く。）に入学した場合も，免除とする。
授業料	363,000	571,000	550,000	471,000	
実験実習料	—	143,600	150,000	163,600	文学研究科修士課程臨床心理学専攻学生の実験実習料は，100,000円とする。
施設費	200,000	280,000	200,000	320,000	本学学部及び研究科の課程出身者は，4分の3とする。

2　学年の途中で退学した者の当該学期分の学費は徴収する。

3　停学期間中の学費は，納入しなければならない。

4　休学者の学費は，当該学期の休学在籍料を納入しなければならない。休学在籍料は，年額50,000円とする。

5　通常学費を適用し，本学修士課程に２年（実践真宗学研究科にあっては，３年）を超えて在学している者が，修士の学位を取得するために修士論文若しくは課題研究又は修士論文等の審査を含む科目のみを残し，引き続き在学する場合は，授業料及び施設費について当該学期納入額の50％を減額納入することができる。

6　本学大学院博士後期課程に３年を超えて在学し，所定の授業科目について12単位以上

を修得した後，引き続き在学する者は授業料及び施設費について当該学期納入額の50％を減額納入することができる。

7　第１項の規定にかかわらず，第２条の２第７項に規定する一定の期間にわたり計画的な教育課程の履修を認められた者（以下「長期履修学生」という。）の入学金以外の学費は，長期履修学生として教育課程を履修することを認められた期間（以下「長期履修期間」という。）に限り，第１項に定める入学金以外の学費の標準修業年限までの合計額（長期履修学生となる以前の額は含まない。）を長期履修期間の年数で除した額（その額に千円未満の端数があるときは，これを切り下げ，その切り下げた端数の合計額は，適用する最初の年次に加算する。以下同様とする。）とする。

8　長期履修学生が，履修期間の変更（短縮又は延長）を認められた場合の入学金以外の学費は，第１項に規定する入学金以外の学費に当該研究科の標準修業年限までの合計額から既に納入した総額を控除して得た額を変更後の履修期間の年数で除して得た額とする。

9　長期履修期間を超えて在学する場合は，前２項を適用せず，入学金以外の通常学費によるものとし，第５項又は第６項の規定を適用する。なお，第５項中「２年（実践真宗学研究科にあっては，３年）」及び第６項中「３年」は，「認められた長期履修期間」と読み替えるものとする。

10　本学大学院博士後期課程に所定の期間在学し，所定の単位を修得して退学し，課程修了のための学位論文提出のためにさらに入学した者の学費は，論文審査在籍料のみとし，その額は30,000円とする。ただし，先端理工学研究科の論文審査在籍料は40,000円とする。

第38条の２　社会人入学試験によって入学した者（博士後期課程を除く。）及び地域公共人材総合研究プログラム推薦入学試験によって入学した者は，入学時に，前条第１項に定める学費（通常学費）又は第38条の３に定める学費（単位制学費）のどちらか一方を選択しなければならない。

2　前項によって選択した学費については，入学後，一切変更することはできない。

3　前２項の規定にかかわらず，地域公共人材総合研究プログラム推薦入学試験によって入学した者のうち地域人材育成学費援助奨学生となる者の学費は，前条第１項に定める学費（通常学費）とする。ただし，標準修業年限を超えて在籍する期間の学費は，第38条の３に定める学費（単位制学費）とする。

4　経営学研究科においては，第１項の規定にかかわらず，社会人入学試験によって入学した者（博士後期課程を除く。）のうち第９条の規定に基づく他大学との単位互換制度を利

用する者の学費は，第38条の３に定める学費（単位制学費）とする。

第38条の３　前条に規定する単位制学費は，次のとおりとする。

（単位　円）

種類	金額				備考
	文学研究科 法学研究科 経済学研究科 経営学研究科 社会学研究科 政策学研究科 国際学研究科	先端理工学研究科	実践真宗学研究科	農学研究科	
入学金	200,000	200,000	200,000	200,000	本学学部出身者は，150,000円とし，本学研究科の課程出身者は，免除とする。ただし，経営学研究科については，本学学部出身者も，免除とする。
授業料					
在籍料	50,000	50,000	50,000	50,000	
登録料（1単位あたり）	32,000	57,800	49,000	54,700	
実験実習料	—	—	—	—	文学研究科修士課程臨床心理学専攻学生の実験実習料は，100,000円とする。

２　学年の途中で退学した者の当該学期分の学費は徴収する。

３　停学期間中の学費は，納入しなければならない。

４　休学者の学費は，当該学期の休学在籍料を納入しなければならない。休学在籍料は，年額50,000円とする。

第39条　第17条第３項に規定する博士論文の審査料は，50,000円とする。

第40条　削除

第41条　入学金及び学費の納入方法，受験料・学費その他の納付金並びにその納入方法等については，本章に規定するほか，別に定める学費等納入規程による。

第11章　懲戒

第42条　本学大学院学生が本学の秩序を乱し，その他学生の本分に反した場合，その内容，

軽重等を考慮し，別に定める学生懲戒規程により，次の懲戒を加える。

(1)　戒告

(2)　停学

(3)　退学

第43条　削除

第12章　職員組織

第44条　本学大学院において，学長は校務をつかさどり，所属職員を統督する。

２　本学大学院の職務は，大学院各研究科長がこれにあたる。

第45条　本学大学院における授業並びに研究指導は，本学職員の中から，若干名の教授・准教授・講師及び助教がこれを担当する。

第46条　本学大学院の事務を処理するため，事務組織を設ける。

第13章　研究科委員会・大学院教学会議

第47条　本学大学院各研究科に，研究科委員会をおく。

２　研究科委員会は，科長及び大学院授業担当の教員若干名をもって組織し，科長を議長とする。科長は，各研究科において別に定める科長選挙規程によってこれを選出する。

３　研究科委員会は，その研究科に関する次の事項について審議する。

(1)　学生の入学及び課程の修了

(2)　学位の授与

(3)　前２号に掲げるもののほか，教育研究に関する重要な事項で，研究科委員会の審議決定が必要なものとして学長が定めるもの

４　前項第３号に基づく事項は，次のとおりとする。

(1)　大学院の授業担当に関する事項

(2)　授業及び研究指導に関する事項

(3)　試験に関する事項

(4)　退学その他学生の身分に関する事項

(5)　その他必要な事項

５　研究科委員会は，前２項に規定するもののほか，学長及び研究科長がつかさどる教育研究に関する事項並びに学長から諮問された事項について，審議することができる。

第48条　本学大学院に大学院教学会議を置く。

２　大学院教学会議の議長は，学長が指名する副学長がこれにあたる。

３　大学院教学会議は，学長が指名する副学長，研究科長，教学部長，瀬田教学部長，教学

企画部長，教学部事務部長，瀬田教学部事務部長及び教学企画部事務部長をもって組織する。

４　大学院教学会議は，次の各号の事項を審議する。

(1)　大学院学則等，教学に係る諸規則に関する事項

(2)　研究科等の設置・廃止に関する事項

(3)　課程修了の認定・学位授与に関する事項

(4)　全学教学政策会議から委任を受けた大学院政策等に関する事項

(5)　その他各研究科に共通する重要事項

５　その他大学院教学会議に関する事項は，別に定める教学運営規程による。

第14章　研究施設及び設備等

第49条　本学大学院には，教育研究に必要な施設・設備・図書及び学術雑誌等を備える。

第50条　本学大学院は，教育研究上支障を生じない限りにおいて，本学学部及び本学付置の研究所等の施設並びに設備を共用する。

第51条　本学大学院学生は，研究のため，本学の諸施設及び諸設備を利用することができる。

第52条　本学大学院学生は，本学の福利厚生諸施設等を利用することができる。

第15章　雑則

（京都教育大学大学院連合教職実践研究科の教育研究の実施）

第53条　本学は，京都教育大学大学院連合教職実践研究科の教育研究の実施に当たっては，別に定める協定書に記載の大学等とともに協力するものとする。

付　則

第１条　この学則は，昭和50年４月１日から施行する。

第２条　従前の「龍谷大学大学院学則」は，昭和50年３月31日をもって廃止する。

付　則（昭和51年２月23日第29条，第30条改正）

第１条　この学則は，昭和51年２月23日から施行する。

付　則（昭和52年３月９日第７条，第13条改正，第29条の２，第31条の２新設）

第１条　この学則は，昭和52年４月１日から施行する。

付　則（昭和53年３月24日第37条，第38条改正）

第１条　この学則は，昭和53年４月１日から施行する。

付　則（昭和56年４月１日第８条，第13条改正）

第１条　この学則は，昭和56年４月１日から施行する。

付　則（昭和57年４月１日第３条，第５条，第７条，第26条改正，第６条の２新設）

第１条　この学則は，昭和57年４月１日から施行する。

付　則（昭和58年４月１日第38条改正）

この学則は，昭和58年４月１日から施行する。ただし，第38条第１項の改正規定は，昭和57年度以前の入学者については，なお従前の規定を適用する。

付　則（昭和59年４月１日第３条，第５条，第６条の２，第７条，第８条改正，第９章，第36条の２～第36条の８新設）

第１条　この学則は，昭和59年４月１日から施行する。ただし，第３条第２項，第５条第１項，第６条の２第２項，第７条第１号の改正規定は，昭和58年度以前入学生については，なお従前の規定を適用する。

付　則（昭和60年４月１日第２条，第３条第４項及び同条第５項，第４条，第５条第１項，第７条第２号～第４号，第17条第２項及び同条第３項改正，第８条第４項及び同条第５項追加）

第１条　この学則は，昭和60年４月１日から施行する。ただし，第２条，第３条第４項及び第５項，第４条，第５条第１項，第８条第４項及び第５項，第17条第２項及び第３項の改正規定は，文部大臣の設置認可の日（昭和60年３月22日）から適用する。

第２条　第７条第２号の改正規定は，昭和59年度以前の入学生については，なお従前の規定を適用する。

付　則（昭和61年７月31日第37条削除，第38条第１項，第40条及び第41条改正）

第１条　この学則は，昭和61年７月31日から施行し，昭和62年度入学生から適用する。ただし，昭和61年度以前の入学者については，なお従前の規定を適用する。

付　則（昭和62年３月23日第７条第１項第２号改正）

この学則は，昭和62年４月１日から施行する。

付　則（昭和62年５月15日第36条の９新設）

この学則は，昭和62年４月１日から施行する。

付　則（抄）（昭和63年４月１日全部改正）

この学則は，昭和63年４月１日から施行する。

付　則（平成元年４月１日第７条，第10章，第37条，第38条改正）

この学則は，平成元年４月１日から施行する。

附　則（平成２年３月27日第６条の２第２項，第７条，第38条，第39条改正）

この学則は，平成２年４月１日から施行する。ただし，第７条第２号の改正規定は，平成

元年度以前の入学者についても適用する。

付　則（平成３年３月25日第３条第１項及び同条第２項，第５条，第６条の２第２項，第７条，第８条第２項及び同条第４項，第17条第１項，同条第２項及び同条第３項，第38条改正，第３条第６項及び第８条第６項追加）

1　この学則は，平成３年４月１日から施行する。

2　第７条第３号ア，第８条第４項改正規定中，授業科目については平成３年度以前の入学者についても適用する。

付　則（平成４年３月21日第１条の２新設，第７条第３号ア及び同条第４号ア，第17条，第22条及び第38条改正）

1　この学則は，平成４年４月１日から施行する。ただし，第17条第１項，第２項，第３項，第４項については，平成３年７月１日から施行し，第22条第４号については，平成４年２月１日から施行する。

2　第７条第３号ア及び第４号アの改正規定中の授業科目については平成３年以前入学者についても適用する。

付　則（平成５年３月25日第１条，第２条第１項，第３条第１項，第３章，第５条，第６条の２第２項，第７条第２号及び同条第４号，第８条第５項，第37条，第38条第１項改正，第３条第７項，第７条第６号追加）

1　この学則は，平成５年４月１日から施行する。ただし，第１条，第２条第１項，第３条第１項，第５条，第６条の２第２項，第７条，第38条改正，第３条第７項追加の改正規定は，文部大臣の設置認可の日（平成５年３月19日）から適用する。

2　第７条第２号ア，第３号ア，第４号ア及び第８条第５項の改正規定中の授業科目については，平成４年度以前の入学生についても適用する。

付　則（平成６年３月24日第２条第２項，第３条第２項，第５条，第６条の２第２項，第７条第１号～第４号，第12条第１項，同条第３項及び同条第４項，第13条第１項，第９章，第34条第１項，第35条，第36条，第38条第１項及び同条第４項，第48条第１項及び同条第３項改正，第38条の２新設，第12条第２項，第34条第２項追加）

1　この学則は，平成６年４月１日から施行する。ただし，第３条第２項，第５条，第６条の２第２項，第７条の改正規定は，文部大臣の設置認可の日（平成６年３月16日）から適用する。

2　第48条第３項の副学長に関する規定は，学校法人龍谷大学寄附行為の変更が文部大臣

により認可された日（平成６年５月12日）から施行する。

3　平成５年度以前の入学生に対して，研究科委員会が履修を認める必要があると判断するときは，研究科委員会が定めるところにより，この学則の定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

付　則（平成７年３月27日第３条第７項，第５条，第７条第４号，同条第５号及び同条第６号改正，第８条第５項，第38条第１項及び第４項，第38条の２第１項及び同条第４項改正，第８条第７項追加）

1　この学則は，平成７年４月１日から施行する。

2　第７条第４号ア，第５号ア，イ，第６号ア，イ，ウの改正規定中の授業科目については，平成６年度以前の入学生についても適用する。

3　第８条第５項の改正規定中の授業科目については，平成６年度以前の入学生についても適用する。

付　則（平成８年３月25日第３条第２項，第５条，第６条の２第２項，第７条第１号及び同条第６号，第８条第２項，第19条，第21条，第31条，第38条第１項，第38条の２第１項改正）

1　この学則は，平成８年４月１日から施行する。

2　第７条第６号ア及びウの改正規定中の新設授業科目については，平成７年度以前の入学生についても適用する。

付　則（平成９年３月25日第７条第１号及び同条第４号，第12条第３項，第13条第２項，第17条第３項，第26条第１項，第38条第１項，第38条の２第１項改正）

1　この学則は，平成９年４月１日から施行する。

2　第７条第４号アの改正規定中の授業科目については，平成８年度以前入学生についても適用する。

付　則（平成10年３月26日第７条第１号，同条第３号，同条第４号及び同条第６号，第８条第５項，第38条第１項，第38条の２第１項改正，第16条第２項追加）

1　この学則は，平成10年４月１日から施行する。

2　第７条第１項第１号，第３号，第４号及び第６号並びに第８条第５項及び第16条第２項の改正規定は，平成９年度以前入学生についても適用する。

付　則（平成11年３月25日第７条第１号，同条第２号，同条第４号及び同条第６号，第32条，第38条第１項，第38条の２第１項改正，第９条の２新設）

1　この学則は，平成11年４月１日から施行する。

2　第７条第１号，第２号，第４号及び第６号の改正規定，並びに第９条の２の追加規定は，平成10年度以前入学生についても適用する。

付　則（平成12年３月23日第３条第１項及び同条第２項，第５条，第７条第２号及び同条第４号，第８条第２項，第38条第１項，第38条の２第１項改正，第３条第８項，第７条第７号追加）

1　この学則は平成12年４月１日から施行する。

2　第７条第２号の改正規定は，平成11年度以前入学生についても適用する。

付　則（平成13年３月23日第７条第２号，同条第３号，同条第５号及び同条第６号，第８条第４項，第22条第３号，第36条の４，第36条の５，第38条第１項，第38条の２第１項改正）

1　この学則は平成13年４月１日から施行する。

2　第７条第２号及び第５号の改正規定は，平成12年度以前入学生についても適用する。

付　則（平成14年３月25日第３条第８項，第５条，第７条第１号～第４号及び同条第６号，第８条第４項，第28条第１項及び同条第３項，第38条第１項，第38条の２第１項改正，第８条第８項，第９条第３項，第28条第２項追加）

1　この学則は平成14年４月１日から施行する。

2　第７条第１号，第２号，第３号，第４号及び第６号の改正規定，第８条第４項の改正規定並びに第28条第１項，第２項及び第３項の改正規定は，平成13年度以前入学生についても適用する。

付　則（平成15年３月26日第７条，第８条第３項，第12条第１項，第38条第１項，第38条の２第１項，第40条改正）

1　この学則は平成15年４月１日から施行する。

2　第７条第１号及び第５号の改正規定については，平成14年度入学生から適用する。

3　第７条第２号及び第６号並びに第８条第３項の改正規定については，平成14年度以前入学生から適用する。

4　第７条第４号及び第７号の改正規定中の授業科目については，平成14年度以前入学生についても適用する。

付　則（平成15年５月23日第38条の２第１項改正）

1　この学則は，平成15年５月23日から施行し，平成15年度在学生から適用する。

付　則（平成16年３月12日第６条の２第２項，第７条第２号，同条第３号，同条第６号，同条第７号，第８条第６項，第38条第１項改正，旧第38条の２繰下・改正，

第38条の２新設）

1　この学則は平成16年４月１日から施行する。

2　第７条第２号の改正規定については，平成15年度以前入学生から適用する。

3　第７条第６号の改正規定中の授業科目については，平成15年度以前入学生から適用する。

4　平成15年度入学のNPO・地方行政研究コース推薦入学試験による入学者の学費については，第38条第１項の学費（通常学費）を適用する。

付　則（平成17年３月25日第１条，第２条第１項及び同条第２項，第７条第１号，同条第２号及び同条第５号～第７号，第８条第７項，第13条第１項，同条第４項及び同条第５項，第15条，第23条，第33条，第35条，第48条第３項及び同条第４項第１号，同項第２号，同項第４号改正，第２条の２新設，第13条第２項及び同条第３項追加，第２条第３項～第６項削除）

1　この学則は平成17年４月１日から施行する。

2　第７条第１号，第２号，第５号，第６号並びに第７号の改正規定については，平成16年度以前入学生についても適用する。

3　平成15年度入学のNPO・地方行政研究コース推薦入学試験による入学者の学費については，第38条第１項の学費（通常学費）を適用する。

付　則（平成18年３月27日第７条第１号及び同条第４号～第７号，第８条第８項，第９条の２第１項，第22条第３号及び第５号，第23条，第38条第１項改正，第34条の２新設，第38条の２第４項追加）

1　この学則は平成18年４月１日から施行する。

2　第７条第６号ア及び第７号並びに第８条第８項の改正規定中の授業科目については，平成17年度以前入学生についても適用する。

付　則（平成18年12月21日第45条改正，第３条の２新設）

この学則は平成19年４月１日から施行する。

付　則（平成19年３月27日第３条第７項，第５条，第６条の２第２項，第７条第１号～第７号，第42条改正，第８条の２新設，第42条第１号～第３号追加，第43条削除）

1　この学則は平成19年４月１日から施行する。

2　平成18年度以前の入学生に対して，研究科委員会が履修を認める必要があると判断するときは，研究科委員会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

付　則（平成20年３月26日第７条第１号～第６号，第８条第７項，第38条第１項，第38条の３第１項，第48条第３項改正，第15章，第53条新設）

1　この学則は，平成20年４月１日から施行する。

2　平成19年度以前の入学生に対して，研究科委員会が履修を認める必要があると判断するときは，研究科委員会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

3　第38条及び第38条の３の改正規定は，平成20年度入学生から適用する。

付　則（平成21年３月26日第２条の２第１項，第３条第１項及び同条第７項，第３条の２，第５条，第６条の２第２項，第７条第２号～第６号，第８条第７項及び同条第８項，第12条第１項及び同条第４項，第31条，第38条第１項及び同条第５項，第38条の３第１項，第48条第３項及び同条第４項改正，第３条第９項，第７条第８号，第38条第５項，第48条第４項第１号，同条第５項及び同条第６項追加）

1　この学則は，平成21年４月１日から施行する。

2　平成20年度以前の入学生に対して，研究科委員会が履修を認める必要があると判断するときは，研究科委員会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

3　第７条第６号エの改正規定中の履修方法については，平成20年度入学生から適用する。

付　則（平成22年３月24日第３条の２，第７条第１号～第６号，第８条第６項改正）

1　この学則は，平成22年４月１日から施行する。

2　平成21年度以前の入学生に対して，研究科委員会が履修を認める必要があると判断するときは，研究科委員会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

付　則（平成23年３月28日第３条第１項，第３条の２，第５条，第６条の２第２項，第７条第１号ア～ク，同条第２号ア，同条第３号ア，同条第４号ア，同条第５号ア及び同条同号イ，同条第６号ア及び同条同号ウ～カ，同条第７号ア及び同条第８号ア，第８条第６項ア及び同条同項イ，第17条第３項，第38条第１項及び同条第５項，第38条の３第１項改正，第３条第10項，第７条第９号ア，第８条第９項追加）

1　この学則は，平成23年４月１日から施行する。

2　平成22年度以前の入学生に対して，研究科委員会が履修を認める必要があると判断するときは，研究科委員会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

付　則（平成24年３月26日第３条第２項，第３条の２，第５条，第６条の２第２項，第７条第１号エ，同条第２号ア，同条第３号ア，同条第６号ア～カ，同条第７号ア，同条第８号ア，同条第９号ア，第８条第２項，同条第７項ア～カ，第38条第１項，第38条の３第１項改正，第７条第１号カ繰下，第７条第１号オ，同条同号キ及びク

繰下・改正，第７条第１号オ追加）

1　この学則は，平成24年４月１日から施行する。

2　平成23年度以前の入学生に対して，研究科委員会が履修を認める必要があると判断するときは，研究科委員会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

3　文学研究科国史学専攻については，変更後の規定にかかわらず，当該学生が在学している間は存続することとし，教育課程については従前の規定を適用する。

4　第38条及び第38条の３の規定にかかわらず，文学研究科修士課程教育学専攻（臨床心理学領域）学生には，従前の実験実習料の規定を適用する。

付　則（平成25年３月25日第３条の２，第７条第１号ア及び同条同号オ，同条第２号ア，同条第３号ア，同条第４号ア，同条第５号ア及び同条同号イ，同条第６号カ，同条第７号ア，同条第９号ア，第48条第５項及び同条第６項改正，第２条の２第６項追加）

1　この学則は，平成25年４月１日から施行する。

2　平成24年度以前の入学生に対して，研究科委員会が履修を認める必要があると判断するときは，研究科委員会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

付　則（平成25年５月27日第２条の２第７項，第31条第２項，第38条第７項～第９項追加）

この学則は，平成25年５月27日から施行する。

付　則（平成25年７月26日第38条第１項，第38条の２第１項及び同条第４項，第38条の３第１項改正）

この学則は平成25年７月26日から施行する。

付　則（平成26年３月28日第７条第１号ア～ケ，同条第２号ア，同条第３号ア，同条第４号ア，同条第５号ア及び同条同号イ，同条第６号ア，同条同号ウ及びカ，同条第７号ア，同条第８号ア，同条第９号ア，第８条第６項ア及び同条同項イ，同条第９項，第38条第１項，第38条の３第１項改正，第６条第２項追加）

1　この学則は平成26年４月１日から施行する。

2　平成25年度以前の入学生に対して，研究科委員会が履修を認める必要があると判断するときは，研究科委員会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

付　則（平成27年３月25日第３条の２，第７条第１号ウ～ケ，同条第２号ア，同条第３号ア，同条第４号ア，同条第５号ア及び同条同号イ，同条第６号ア～エ，同条第７号ア，同条第８号ア，同条第９号ア，第８条第９項，第44条第１項，第47条第３

項改正，第44条第２項，第47条第４項及び同条第５項追加）

１　この学則は，平成27年４月１日から施行する。

２　平成26年度以前の入学生に対して，研究科委員会が履修を認める必要があると判断するときは，研究科委員会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

付　則（平成27年８月７日第38条の２第１項，同条第３項及び同条第４項，第38条の３第１項改正）

この学則は，平成28年４月１日から施行する。

付　則（平成28年３月23日第７条第５号ア及び同条同号イ改正，付則（平成27年３月25日）第１項改正，第２項追加）

この学則は，制定日（平成28年３月23日）から施行し，平成27年４月１日から適用する。

付　則（平成28年３月23日第３条の２，第７条第１号エ，同条第２号ア，同条第３号ア，同条第４号ア，同条第５号ア及び同条同号イ，同条第６号カ，同条第７号ア，同条第８号ア，同条第９号ア，第36条の９改正）

１　この学則は，平成28年４月１日から施行する。

２　平成27年度以前の入学生については，なお従前の規定による。

３　平成27年度以前の入学生に対して，研究科委員会が履修を認める必要があると判断するときは，研究科委員会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

付　則（平成28年12月１日第３条第１項，第３条の２，第５条，第６条の２第２項，第38条第１項，第38条の３第１項改正，第３条第11項，第７条第10号ア，第８条第10項追加）

この学則は，平成30年４月１日から施行する。

付　則（平成29年３月22日第２条第１項，第７条第１号ア～ケ，同条第２号ア，同条第３号ア，同条第４号ア，同条第５号ア及び同条同号イ，同条第６号ア～カ，同条第７号ア，同条第８号ア，同条第９号ア，第８条第４項及び同条第５項，同条第６項ア及び同条同項イ，第13章，第48条第１項～第４項，同条第４項第１号～第５号，同条第５項改正，第２条第２項，第48条第６項削除）

１　この学則は，平成29年４月１日から施行する。

２　平成28年度以前の入学生については，なお従前の規定による。

３　平成28年度以前の入学生に対して，研究科委員会が履修を認める必要があると判断するときは，研究科委員会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

付　則（平成29年７月20日第38条の３第１項改正）

この学則は，平成30年４月１日から施行する。

付　則（平成29年12月14日第３条第１項，第３条の２，第５条，第６条の２第２項，第38条第１項，第38条の３第１項改正，第３条第12項，第７条第11号，第８条第11項追加）

この学則は，平成31年４月１日から施行する。

付　則（平成30年３月22日第７条第１号ウ及び同条同号オ，同条第２号ア，同条第３号ア，同条第４号ア，同条第６号ア及び同条同号イ，同条同号エ及び同条同号オ，同条第７号ア，同条第９号ア，同条第10号ア，第８条第10項改正）

1　この学則は平成30年４月１日から施行する。

2　平成29年度以前の入学生については，なお従前の規定による。

3　平成29年度以前の入学生に対して，研究科委員会が履修を認める必要があると判断するときは，研究科委員会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

付　則（平成30年５月29日第５条改正）

この学則は，平成31年４月１日から施行する。

付　則（平成31年３月20日第３条第１項，同条第９項～第12項，第３条の２，第５条，第７条第１号ア及び同条同号イ，同条同号エ及び同条同号ケ，同条第２号ア，同条第３号ア，同条第４号ア，同条第５号ア，同条第６号ア～カ，同条第８号～第10号，同条第11号ア及び同条同号ウ，第８条第９項～第11項，第38条第１項，第38条の３第１項改正，第29条第３項，第38条第10項追加，第３条第８項，第７条第７号，第８条第８項削除）

1　この学則は平成31年４月１日から施行する。

2　平成30年度以前の入学生については，なお従前の規定による。

3　平成30年度以前の入学生に対して，研究科委員会が履修を認める必要があると判断するときは，研究科委員会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

4　国際文化学研究科については，変更後の規定にかかわらず，当該学生が在学している間及び第36条の２に基づく研究生が在籍している間は存続することとし，教育課程は従前の規定を適用する。

付　則（令和２年３月19日第７条第１号カ，同条第２号ア，同条第３号ア，同条第４号ア，同条第５号イ，同条第６号ア～ウ，同号オ及びカ，同条第８号ア，同条第９号ア，第８条第４項，同条第７項ア～カ，同条第９項，第13条第１項，第28条第３項改正，第28条第３項追加）

1　この学則は，令和２年４月１日から施行する。ただし，第８条第９項中，履修方法に係る改正規定は，令和元年度入学生から適用する。

2　令和元年度以前の入学生については，前項ただし書きを除き，なお従前の規定による。

3　令和元年度以前の入学生に対して，研究科委員会が履修を認める必要があると判断するときは，研究科委員会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

付　則（令和３年３月16日第３条の２，第７条第１号オ～キ，同条第２号ア，同条第４号ア，同条第８号ア，第９条第２項，第９条の２第１項及び同条第２項改正，第９条の３新設，第６条第３項，第12条第５項追加）

1　この学則は，令和３年４月１日から施行する。

2　令和２年度以前の入学生については，第６条の改正規定を除き，なお従前の規定による。

3　令和２年度以前の入学生に対して，研究科委員会が履修を認める必要があると判断するときは，研究科委員会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

付　則（令和４年３月15日第３条の２，第７条第４号ア，同条第６号イ，同条同号オ及び同条同号カ，同条第10号ウ改正）

1　この学則は，令和４年４月１日から施行する。

2　令和３年度以前の入学生については，なお従前の規定による。

3　令和３年度以前の入学生に対して，研究科委員会が履修を認める必要があると判断するときは，研究科委員会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

付　則（令和４年 12 月１日第３条，第３条の２，第５条，第６条の２，第７条，第８条，第 13 条，第 36 条の５，第 38 条，第 38 条の３改正）

1　この学則は，令和６年４月１日から施行する。

2　理工学研究科については，変更後の規定にかかわらず，当該学生が在学している間は存続することとし，教育課程は従前の規定を適用する。

付　則（令和５年３月 22 日第７条，第８条，第９条の２，第 13 条，第 20 条，第 38 条，第 38 条の３改正）

1　この学則は，令和５年４月１日から施行する。

2　令和４年度以前の入学生については，なお従前の規定による。

3　令和４年度以前の入学生に対して，研究科委員会が履修を認める必要があると判断するときは，研究科委員会が定める授業科目の履修を認めることができるものとする。

大 学 院 先 端 理 工 学 研 究 科 委 員 会 規 程

制定　　令和　５年　１月２５日

第１条　研究科委員会は先端理工学研究科の次の事項について審議決定する。ただし全学的に決定を要する事項は除く。

（１）教育職員、教育・研究補佐員・嘱託（教育職）の人事に関する事項
（２）研究科長の選考に関する事項
（３）研究及び教授に関する事項
（４）教育課程の編成、履修の方法及び試験に関する事項
（５）学業評価に関する事項
（６）研究科学生の入学、退学、休学、復学、留学及び卒業、その他学生の身分に関する事項
（７）研究科学生の補導厚生に関する事項
（８）研究科内諸規程の制定改廃に関する事項
（９）称号に関する事項
（１０）その他研究科における重要な事項

第２条　研究科委員会は先端理工学研究科の講義を担当する専任の教授、准教授、講師をもって構成する。

２　前記該当以外の教授・准教授にして、先端理工学研究科委員会が必要と認めた場合は、これを加えることができる。

３　引続き３ヵ月以上研究科委員会に出席できない者は、研究科委員会の議を経て、その期間、研究科委員会の構成員の員数から除外することができる。

第３条　研究科長は、必要あると認めたときは、前条構成員以外の職員を研究科委員会に出席させ報告または意見を求めることができる。ただし表決には加えない。

第４条　研究科委員会は、研究科長がこれを招集し、その議長となる。

２　やむをえない事由のため、研究科長が欠席する場合は、予め研究科長の指名した者が議長となりその職務を代行する。

第５条　研究科長は、研究科委員会構成員の３分の１以上の者から要求のあった場合には、研究科委員会を招集しなければならない。

第６条　研究科委員会は構成員の３分の２以上の出席がなければ開くことができない。

第７条　研究科委員会の議決は、出席者の過半数の同意によらなければならない。

第８条　教育職員の人事に関する事項は、第７条の規定にかかわらず、別に定める。

第９条　本人の不利益に属する人事事項は、第６条に規定する研究科委員会において審議し、その議決は、出席者の５分の４以上の同意によらなければならない。

第１０条　第８条、第９条の人事の審議には、教育職員選考等基準等人事に関する諸規程を参照しなければならない。

第１１条　第８条、第９条の人事に関する事項を議する場合は、議長は当該者の退席を求めることができる。

第１２条　研究科長は、次に掲げる事項については、研究科委員会の意向を聞かなければならない。

（１）予算の新規要求

（２）予算の執行に関する事項

（３）その他研究科長が必要と認めた事項

第１３条　研究科長は、研究科委員会の事務を処理するため、指名する事務職員を出席させることができる。

第１４条　議事録は、研究科長が保管し、研究科委員会構成員の要求があるときはこれを呈示しなければならない。

第１５条　研究科長を補佐するため、各コースにコース主任、また研究科に各１名の教務主任、研究主任、学生生活主任をおく。

第１６条　先端理工学研究科に専攻運営会議、教務委員会、研究委員会、学生生活委員会を常置する。

第１７条　この規程を変更する場合は、研究科委員会構成員の４分の３以上の同意を得なければならない。

付　則

この規程は令和６年４月１日より施行する。

龍谷大学大学院 先端理工学研究科

設置の趣旨等を記載した書類

2023（令和 5）年 4 月

■ 目 次 ■

１．先端理工学研究科設置の趣旨及び必要性・・ 3

２．修士課程までの構想か，又は，博士課程の設置を目指した構想か・・・・・・・・・・・・・・・・・・19

３．研究科・専攻・コースの名称及び学位の名称・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20

４．教育課程の編成の考え方及び特色（教育研究の柱となる領域(分野)の説明も含む）・・21

５．教育方法，履修指導，研究指導の方法及び修了要件・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23

６．基礎となる学部と修士課程・博士後期課程との関係・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27

７．取得可能な資格・・・28

８．入学者選抜の概要・・・28

９．教員組織の編制の考え方及び特色・・31

１０．研究の実施についての考え方，体制，取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・33

１１．施設・設備等の整備計画・・・34

１２．管理運営及び事務組織・・37

１３．自己点検・評価・・・37

１４．情報の公表・・39

１５．教育内容等の改善のための組織的な研修等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・43

１．先端理工学研究科設置の趣旨及び必要性

（１）龍谷大学の沿革

龍谷大学（以下、「本学」という。）は、1639（寛永 16）年に浄土真宗本願寺派に設置された教育機関「学寮」をその起源とする。それ以来、浄土真宗の精神を建学の精神とし、人間性豊かで深い学識と教養を備え、社会の発展向上に貢献する人間を養成することを目的とし発展を遂げてきた。2023（令和 5）年現在では、文学部、経済学部、経営学部、法学部、社会学部、政策学部、国際学部、農学部、先端理工学部及び心理学部の 10 学部並びに文学研究科、実践真宗学研究科、経済学研究科、経営学研究科、法学研究科、社会学研究科、政策学研究科、国際学研究科、農学研究科及び理工学研究科の 10 研究科を設置する総合大学へと発展を遂げている。また、これに短期大学を含めると、10 学部 10 研究科 1 短期大学を擁する。

（２）設置の趣旨及び必要性

グローバル化の進展や経済・社会構造の変動が進み、外部環境は激変している。2008 年のリーマン･ショックに起因する世界経済の混迷や 2011 年の東日本大震災、近年のウクライナ危機などにより既存の社会･経済システムの脆弱性が顕在化し、高度情報化社会の発展によって、個人のプライバシー、財産、安全が脅かされる新たな事態も発生してきている。

さらに、少子高齢化に伴う人口減少社会においては、物質的豊かさを追求する競争社会から、多種多様な価値観が共存する成熟社会への転換が求められており、本学理工学研究科が所在している滋賀県においても、2020（令和 2）年に「人口減少を見据えた未来へと幸せが続く滋賀 総合戦略」が策定され、人口減少の時代に柔軟に適応した活力ある地域づくりを進める方針が示されている。その中では、Society 5.0 を見据えた産業の振興や産業人材の育成、イノベーションの創出と同時に、人生 100 年時代を見据えた共生社会の実現が謳われている。このような、日本を取り巻く少子高齢化、生活の質の向上（人生 100 年、働き方改革、教育改革）、安全・安心な社会システムの構築、環境・エネルギー・食糧問題等の諸課題は、発展途上国も含めたグローバルな社会において相互に関連し合っている。

このような社会状況下において、国連は相互に関連し合う 17 の目標を持続可能な開発のための目標（Sustainable Development Goals、SDGs）として提唱し、2030（令和 12）年に向けた解決を呼びかけている。また、日本政府は、第 5 期科学技術基本計画またそれに続き第 6 期科学技術・イノベーション基本計画において、目指すべき新たな社会像として狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会に続く超スマート社会として Society 5.0 を提唱されている。新たな社会を設計し、その社会で新たな価値創造を進めていくためには、多様な「知」が必要であり、Society 5.0 時代においては、既存の枠組みや従来の延長では対応できない課題に取り組む能力、自ら課

題を発見し解決手法を模索する、探究的な活動を通じて身につく能力・資質が重要となると述べられており、世界に新たな価値を生み出す人材の輩出と、それを実現する教育・人材育成システムの実現が求められている。

一方、20 世紀末から続くグローバリゼーションの流れの中でローカリゼーションの動きも見られ、両者がバランスをとりつつ標準化と多様化が共存する社会の到来も予想される。

こうした社会の将来像を見据えた時、高等教育に期待されるのは、社会の変化に対応し、持続可能な社会に貢献する人材の養成である。文部科学省が設置した大学における工学系教育の在り方に関する検討委員会では、2017（平成 29）年 6 月に「大学における工学系教育の在り方について（中間まとめ)」において、これからの社会を見据えて排出すべき人材の人物像として次の内容が掲げられている。

- ✓ 社会における工学の価値を理解し、自律的に学ぶ姿勢を具備するとともに、原理／原則を理解する力、構想力、アイデア創出能力、問題発見能力、課題設定能力、モデル化能力、課題解決・遂行能力を持つ人材
- ✓ スペシャリストとしての専門の深い知識と同時に、分野の多様性を理解し、他者との協調の下、異分野との融合・学際領域の推進も見据えることができるジェネラリストとしての幅広い知識・俯瞰的視野を持つ人材

要約すれば「専門分野を修めるとともに、異分野にも知識の幅を広げ、主体的に学び、創造することのできる人材」が必要とされていると言える。

今般、新たに設置する「先端理工学研究科」の前身となる理工学研究科は、1993（平成 5）年に数理情報学専攻、電子情報学専攻、機械システム工学専攻、物質化学専攻の 4 専攻で開設され、2007（平成 19）年に情報メディア学専攻、環境ソリューション工学専攻の 2 専攻を新設し、現在に至っている。この間、科学と人間の調和を重視した教育・研究を行い、一定の社会的評価を得てきた。

しかしながら、先述のように、従来のタコ壺型の専門教育から多様な学修ニーズに対応した分野横断型の専門教育へ社会的要請が変化している中で、現行の理工学研究科の教育課程は専攻を中心とした専門深化型の教育課程となっているため、専門深化型の学びに加えて、主体的かつ分野横断型の学びを可能とする教育システムへの転換が必要である。

このような認識に基づき、各専門教育課程を一つの専攻（先端理工学専攻）に統合した上で、先端理工学専攻の下に、数理・情報科学コース、知能情報メディアコース、電子情報通信コース、機械工学・ロボティクスコース、応用化学コース、環境科学コースを配置する「先端理工学研究科」を設置する決断に至った。

なお、本学では、「先端理工学研究科」の設置に先んじて、多様な学修ニーズに対

応した「分野横断型の専門教育」を実現するべく、2020（令和 2）年に理工学部を改組し、国内理工系学部で初となる「課程制」を導入した先端理工学部を設置している。今回の「先端理工学研究科」の設置は、一貫した理念のもとで、学部教育から大学院教育までの有機的な接続を図るものである。

（３）先端理工学研究科における教育理念・目的及び養成する人材像

１）先端理工学研究科の教育理念・目的

建学の精神に基づいて、自然・社会と科学との調和を重視し、幅広い教養と理工学の各専門分野における高度の専門知識・技能を身につけ、持続可能な社会の発展に貢献できる高い倫理観を持った高度専門職人材・研究者を育成することを目的とする。

２）先端理工学研究科において養成する人材像

先端理工学専攻　修士課程

グローバル化の進展や経済・社会構造の変動が進み外部環境が激変する中、高等教育に期待されるのは、社会の変化に対応し、持続可能な社会に貢献できる人材の養成である。こうした社会の要請にこたえるべく、先端理工学研究科においては、高度な専門知識のみならず、幅広い教養と倫理意識を備えた科学技術者を育成するため、自身の専門分野から学際的な分野まで幅広く科目履修が可能となる弾力的なカリキュラムを構築することによって、異分野にも知識の幅を広げ、主体的に学び、創造することのできる人材を養成する。

先端理工学専攻　博士後期課程

修士課程で修得した深い学識や研究能力を基礎として、高度の専門知識を備えながらも、専門の枠にとらわれず広い視野により多角的な問題解決能力を有する科学技術者を育成し、日本の社会に貢献すると共に、科学技術をあるべき道に導く指導者を養成する。

※養成する人材像及び 3 つのポリシーの相関及び整合性については、資料 1「先端理工学研究科先端理工学専攻修士課程 3 つのポリシー相関図」および資料 2「先端理工学研究科先端理工学専攻博士後期課程 3 つのポリシー相関図」参照

（４）先端理工学研究科の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

先端理工学研究科では、次のとおりコースごとに学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を掲げ課程修了が認定された者には、次の学位を授与する。

課程	コース	授与する学位
修士課程	数理・情報科学コース	修士（理学）
	知能情報メディアコース	修士（工学）
	電子情報通信コース	修士（工学）
	機械工学・ロボティクスコース	修士（工学）
	応用化学コース	修士（工学）
	環境科学コース	修士（工学）
博士後期課程	数理・情報科学コース	博士（理学）
	知能情報メディアコース	博士（工学）
	電子情報通信コース	博士（工学）
	機械工学・ロボティクスコース	博士（工学）
	応用化学コース	博士（工学）
	環境科学コース	博士（工学）

先端理工学専攻　修士課程

１）数理・情報科学コース

➢ 大学院学生に保証する基本的な資質

＜備えるべき能力＞

- 高度な数学的・数理科学的素養を身につけ、学部で得た知識や論理を深めていくことができる。
- 情報社会における IT 技術を根底から支える高度な理論、技術を修得することができる。

➢ 学位授与の諸要件

- 修士課程に原則として 2 年以上在学すること。
- 正規の授業を受け、所定の科目について 32 単位以上を修得すること。
- 龍谷大学大学院先端理工学研究科所定の研究指導を受けた上で、修士論文を提出して、その審査および最終試験に合格すること。

２）知能情報メディアコース

➢ 大学院学生に保証する基本的な資質

＜備えるべき能力＞

- 先端的な知能情報メディア技術、新たな情報産業の創出に寄与できる基盤的能力を持ち、知能情報・メディア技術に関する科学・工学に立脚した研究開発を行うことができる。

➢ 学位授与の諸要件

- 修士課程に原則として 2 年以上在学すること。
- 正規の授業を受け、所定の科目について 32 単位以上を修得すること。
- 龍谷大学大学院先端理工学研究科所定の研究指導を受けた上で、修士論文を提出して、その審査および最終試験に合格すること。

３）電子情報通信コース

➢ 大学院学生に保証する基本的な資質

＜備えるべき能力＞

- 電子情報通信技術の急速な進歩に柔軟かつ的確に対応できる。
- 電子情報通信分野における高度な専門的知識と総合的知識を修得し、それに基づいた電子情報通信技術の開発を行うことができる。

➢ 学位授与の諸要件

- 修士課程に原則として 2 年以上在学すること。
- 正規の授業を受け、所定の科目について 32 単位以上を修得すること。
- 龍谷大学大学院先端理工学研究科所定の研究指導を受けた上で、修士論文を提出して、その審査および最終試験に合格すること。

４）機械工学・ロボティクスコース

➢ 大学院学生に保証する基本的な資質

＜備えるべき能力＞

- バランスのとれた機械工学・ロボティクスに関する専門的な知識に基づき、時代が求める機能的な機械システムを構築することができる。

➢ 学位授与の諸要件

- 修士課程に原則として 2 年以上在学すること。
- 正規の授業を受け、所定の科目について 32 単位以上を修得すること。
- 龍谷大学大学院先端理工学研究科所定の研究指導を受けた上で、修士論文を提出して、その審査および最終試験に合格すること。

５）応用化学コース

➢ 大学院学生に保証する基本的な資質

＜備えるべき能力＞

- 物質や材料に関する高度な専門知識を体系的に身につけ、それらを応用することによって、問題解決の方法を見いだすことができる。

➢ 学位授与の諸要件

- 修士課程に原則として 2 年以上在学すること。
- 正規の授業を受け、所定の科目について 32 単位以上を修得すること。
- 龍谷大学大学院先端理工学研究科所定の研究指導を受けた上で、修士論文を提出して、その審査および最終試験に合格すること。

６）環境科学コース

➢ 大学院学生に保証する基本的な資質

＜備えるべき能力＞

- 環境問題の発生源としての人間活動とその背景、および問題となる現象のメカニズムについて幅広く理解することができる。
- フィールドワークにより観測された様々な事象を理解・解釈し、「共生」の観点から再構築することができる。
- 専門分野の枠にとらわれず、環境諸問題の解決に向けた柔軟な思考を有することができる。

➢ 学位授与の諸要件

- 修士課程に原則として 2 年以上在学すること。
- 正規の授業を受け、所定の科目について 32 単位以上を修得すること。
- 龍谷大学大学院先端理工学研究科所定の研究指導を受けた上で、修士論文を提出して、その審査および最終試験に合格すること。

先端理工学専攻　博士後期課程

１）数理・情報科学コース

➢ 大学院学生に保証する基本的な資質

＜備えるべき能力＞

- 修士課程で修得した数学的・数理科学的素養をさらに究め、新たな数理解析の世界を切り開いていくことができる。
- ソフトウェア開発や情報処理に関するより高度な理論を身につけ、新技術開発に貢献することができる。

➢ 学位授与の諸要件

- 博士後期課程に原則として 3 年以上在学すること。
- 正規の授業を受け、所定の科目について 14 単位以上を修得すること。
- 龍谷大学大学院先端理工学研究科所定の研究指導を受けた上、博士論文を提出してその審査および最終試験に合格すること。

２）知能情報メディアコース

- 大学院学生に保証する基本的な資質

＜備えるべき能力＞

- 情報科学・情報工学の高度な知識を用いて、知能情報・メディアに関する新しい解析法・処理法・加工法を自ら提案・展開していくことができる。
- 単一の学問領域に留まらず、様々な学術領域において、知能情報技術およびメディア技術を用い課題解決を行うことができる。

- 学位授与の諸要件

- 博士後期課程に原則として 3 年以上在学すること。
- 正規の授業を受け、所定の科目について 14 単位以上を修得すること。
- 龍谷大学大学院先端理工学研究科所定の研究指導を受けた上、博士論文を提出してその審査および最終試験に合格すること。

３）電子情報通信コース

- 大学院学生に保証する基本的な資質

＜備えるべき能力＞

- 電子工学・通信工学・情報工学の高度な専門的知識を用いて、電子情報通信分野の基盤技術の研究開発を行うことができる。
- 電子情報通信分野において、自ら課題設定・課題分析・課題解決を行い、学術論文として発表できる。

- 学位授与の諸要件

- 博士後期課程に原則として 3 年以上在学すること。
- 正規の授業を受け、所定の科目について 14 単位以上を修得すること。
- 龍谷大学大学院先端理工学研究科所定の研究指導を受けた上、博士論文を提出してその審査および最終試験に合格すること。

４）機械工学・ロボティクスコース

- 大学院学生に保証する基本的な資質

＜備えるべき能力＞

- 機械工学・ロボティクスに関する専門分野の高度な知識や技術を有し、社会に貢献できる機械システムを創造することができる。

- 学位授与の諸要件

- 博士後期課程に原則として 3 年以上在学すること。
- 正規の授業を受け、所定の科目について 14 単位以上を修得すること。

- 龍谷大学大学院先端理工学研究科所定の研究指導を受けた上、博士論文を提出してその審査および最終試験に合格すること。

５）応用化学コース

➢ 大学院学生に保証する基本的な資質

＜備えるべき能力＞

- 物質や材料に関する高度な専門知識とその応用力を身につけ、それらを駆使して科学技術に関する問題を分析・整理し、解決に導くことができる。
- 自身の研究が国際的に占める位置を認識するとともに、その研究領域の中での問題点を発見することができる。

➢ 学位授与の諸要件

- 博士後期課程に原則として 3 年以上在学すること。
- 正規の授業を受け、所定の科目について 14 単位以上を修得すること。
- 龍谷大学大学院先端理工学研究科所定の研究指導を受けた上、博士論文を提出してその審査および最終試験に合格すること。

６）環境科学コース

➢ 大学院学生に保証する基本的な資質

＜備えるべき能力＞

- 既存の公害・環境問題の解決に貢献してきた法律・行政・技術に関する幅広い知識を有する。
- 人間社会のあるべき姿を提示するための生態学的知識と、問題解決のための手段を選択するための工学的センスを身につけることができる。

➢ 学位授与の諸要件

- 博士後期課程に原則として 3 年以上在学すること。
- 正規の授業を受け、所定の科目について 14 単位以上を修得すること。
- 龍谷大学大学院先端理工学研究科所定の研究指導を受けた上、博士論文を提出してその審査および最終試験に合格すること。

（５）先端理工学研究科の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

先端理工学研究科では、次のとおりコースごとに教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を掲げて、教育課程の編成、教育内容・方法の実施、学修成果の評価をおこなう。

先端理工学専攻　修士課程

１）数理・情報科学コース

- 学部で身につけた知識・論理をより深め、新たな課題の発見や解決に挑戦し、社会の発展に貢献できる人材の育成を目指す。特に、スペシャリストとジェネラリストのバランスを重要と考え、数理・情報科学分野における幅広い知識と素養を涵養する。そのために、大学院生として必須である研究倫理や技術表現を習得する大学院教養科目を設け、数理解析・応用数理・情報科学の３分野から周辺の学際的分野にわたる多様な特論科目を設置し、複数の分野を融合して学修できる体制を整えるとともに、それぞれの分野を専門とする教員が担当する演習科目、特別研究を設け、体系的に教育課程を編成する。
- 数理・情報科学特別研究の成果は、修士論文として提出し、その審査に合格することを修了要件に含む。
- 社会の要請に応えられるように、ただし、単に流行に流されることのないように、FD 活動などを通じてカリキュラムを常に見直す。

２）知能情報メディアコース

- 現在の産業構造に対応できるだけでなく、必要とされる先端的な知能情報メディア技術、新たな情報産業の創出に適合することができる人材を育成する。そのため、知能情報メディア分野を中心的な研究対象分野として位置づけ、大学院生としての幅広い教養と倫理意識を涵養する大学院教養科目、自身の専攻分野から周辺の学際的分野まで学修できる多様な特論科目を設置するとともに、研究指導教員が担当する演習科目、特別研究を設け、体系的に教育課程を編成する。
- 特別研究の成果を修士論文として提出し、その審査および最終試験に合格することを求める。
- カリキュラムは FD 活動等を通じて、社会の要請に応えられるように常に見直す。
- 学部における学修の成果を基礎にして、その専門領域の学修の一層の深化をはかり、豊かな見識と専門知識を備えられるように教育課程を整備する。

３）電子情報通信コース

- 電子情報通信に関する高度な専門知識を用いて社会の発展に寄与できる人材を育成するため、先端理工学基礎演習Ⅰ・Ⅱなどの大学院教養科目、および先端理工学研究、必修の科学技術英語特論・演習、電子工学・通信工学・情報工学の３分野、並びに他コースの特論科目とともに、演習科目として研究指導教員が担当する電子情報通信演習、特別研究として電子情報通信特別研究を設け、体系的に教育課程を編成する。

- 電子情報通信特別研究の成果を修士論文として提出し、その審査および最終試験に合格することを求める。
- カリキュラムは FD 活動等を通じて、社会の要請に応えられるように常に見直す。
- 学部における学修の成果を基礎にして、その専門領域の学修の一層の深化をはかり、豊かな見識と専門知識を備えられるように教育課程を整備する。

４）機械工学・ロボティクスコース

- 機械工学・ロボティクスに関する専門知識を用いて社会の発展に寄与できる人材を育成するため、大学院生としての幅広い教養と倫理意識を涵養する大学院教養科目、他コース科目を含めた分野の異なる多数の特論科目とともに、研究指導教員が担当する演習科目や特別研究を設け、幅広い知識を修得できる教育課程を編成する。
- 特別研究の成果を修士論文として提出し、その審査および最終試験に合格することを求める。
- カリキュラムはFD活動等を通じて､社会の要請に応えられるように常に見直す。
- 学部における学修の成果を基礎にして、その専門領域の学修の一層の深化がはかれるように教育課程を整備する。

５）応用化学コース

- 科学技術に関する問題を分析・整理し、解決に導くことのできる人材を育成するため、物質や材料に関する幅広い知識、技術、技術者倫理を「大学院教養科目」で身につける。加えて「無機・セラミックス」、「有機・高分子機能材料」、「生体機能」、「分析評価」の 4 つの専門的なプログラムから周辺の学際的な分野にわたる多様な「特論科目」や、担当教員による「演習科目」を配置することで、高い専門知識とその応用力を身につけられるよう、体系的なカリキュラムを編成する。
- 「特別研究」では、担当教員の指導の下で研究を実施し、中間報告会で進捗状況を報告しながら、最終的に修士論文にまとめるよう指導する。その過程で、テクニカルライティングやプレゼンテーションの演習を実施し、コミュニケーション能力の向上を図る。
- 社会が求める人材を育成するため、FD 活動を通じて、講義・演習内容やカリキュラムを常にアップデートする仕組みを構築する。

６）環境科学コース

- 環境問題の発生源としての人間活動とその背景、および問題となる現象のメカニズムについて幅広く理解できること、フィールドワークにより観測された

様々な事象を理解・解釈し、「共生」の観点から再構築できること、ならびに専門分野の枠にとらわれず、環境諸問題の解決に向けた柔軟な思考を有することのできる人材を育成するため、人間の諸活動から生じる環境問題について工学的な視点から研究を進めてきた「環境工学」と、生物および自然のメカニズムや自然と人との関わり合いについて理学・農学的な視点から研究を進めてきた「生態学」の両分野の環境科学コース科目に加え、他コースを含めた分野の異なる多数の特論科目や大学院教養科目とともに、研究指導教員が担当する演習科目と特別研究を設け、体系的に教育課程を編成する。

- 研究指導教員の指導を受けて特別研究を二年間にわたって計画的に遂行することが求められるが、一年次終了時点において中間報告会を実施し、進捗状況の報告と研究計画の見直しについて審査を課す。最終的には特別研究の成果を修士論文として提出させ、その審査および最終試験に合格することを求める。
- コース内で開催する定期的な FD 会議や授業アンケートの結果を踏まえつつ、社会の要請に応えられるようカリキュラムは常に見直す。
- 少人数教育を基本とし、かつ分野横断型の学びの場を提供することで、専門領域および周辺領域の学修の深化をはかり、豊かな見識を備えられるように教育課程を整備する。

先端理工学専攻　博士後期課程

１）数理・情報科学コース

- 修士課程で修得した知識や論理力を基礎に、さらに高度な専門的知識や技術力を備えるとともに、広い視野により多角的な問題解決能力を有する人材を育成することを目標とする。そのために、異分野を含めた研究者間での議論能力を高めるためのサイエンスコミュニケーション、専門分野を深く学修するための特別講義ならびに研究指導教員が担当する特別研究を設置し、体系的に教育課程を編成する。
- 特別研究における研究成果は、博士論文として提出し、その審査および最終試験に合格することを要求する。
- 修士課程同様、社会の要請、最新の科学技術の動向に応じて、FD 活動等により継続的にカリキュラムの改善を行う。

２）知能情報メディアコース

- 理・工学領域に立脚した知能情報技術およびメディア技術をベースに、現在および将来の産業と社会を牽引する新たな技術・新たな価値を創出することができる人材を育成する。そのため、専門分野に関する特別講義、サイエンスコミュニケーションと研究指導教員が担当する特別研究を設け、体系的に教育課程を編成する。

- 特別研究の成果を博士論文として提出し、その審査および最終試験に合格することを求める。
- カリキュラムは FD 活動等を通じて、最新の科学技術に対応するように改善を行う。
- 研究指導体制の一貫性・継続性を保ち、修士課程における学修の成果をさらに発展させられるように教育課程を整備する。

３）電子情報通信コース

- 電子情報通信のさらに高度な専門知識とその周辺分野の知識を活用して社会に貢献すると共に、科学技術をあるべき道に導くことができる人材を育成するため、サイエンスコミュニケーション、専門分野に関する特別講義（電子情報基礎特別講義Ⅰ・Ⅱ、情報処理機構特別講義Ⅰ・Ⅱ、情報システム特別講義Ⅰ・Ⅱ）と研究指導教員が担当する特別研究を設け、体系的に教育課程を編成する。
- 特別研究の成果を博士論文として提出し、その審査および最終試験に合格することを求める。
- カリキュラムは FD 活動等を通じて、最新の科学技術に対応するように改善を行う。
- 研究指導体制の一貫性・継続性を保ち、修士課程における学修の成果をさらに発展させられるように教育課程を整備する。

４）機械工学・ロボティクスコース

- 機械工学・ロボティクスに関する豊かな見識と高度な専門知識を活用して社会に貢献できる人材を育成するため、研究科共通科目の「サイエンスコミュニケーション」や高度な専門知識を修得するための特別講義と研究指導教員が担当する特別研究を設け、より深い専門知識を修得できる教育課程を編成する。
- 特別研究の成果を博士論文として提出し、その審査および最終試験に合格することを求める。
- カリキュラムは FD 活動等を通じて、最新の科学技術に対応するように改善を行う。
- 研究指導体制の一貫性・継続性を保ち、修士課程における学修成果をさらに発展させられるように教育課程を整備する。

５）応用化学コース

- 科学技術に関する問題を発見・分析・整理し、解決に導くことのできる自立した研究者を育成するため、「サイエンスコミュニケーション」や専門分野に関する「特別講義」と「特別研究」により応用力を身につける。特別研究におい

てはテクニカルライティングやプレゼンテーションの演習をあわせて実施することによってコミュニケーション能力の向上を図るなど体系的な教育課程を編成する。

- 特別研究では、担当教員の下で自らの工夫やアイデアによってオリジナリティのある高度な研究を実施し、その成果を専門学会で発表するとともに学術論文として公表できるように指導する。さらに、中間報告会で進捗状況を報告させながら、最終的に博士論文にまとめるよう指導する。
- 社会が求める人材を育成するため、FD 活動を通じて、講義・演習内容やカリキュラムをアップデートする仕組みを構築する。

６）環境科学コース

- 既存の公害・環境問題の解決に貢献してきた法律・行政・技術に関する幅広い知識を有すること、ならびに人間社会のあるべき姿を提示するための生態学的知識と問題解決のための手段を選択するための工学的センスを身につけた人材を育成する。社会で活躍できる専門家としての素養を身につけるサイエンスコミュニケーション、そして専門分野に関する特別講義と研究指導教員が担当する特別研究を設け、体系的に教育課程を編成する。
- 研究指導教員の指導を受けて、専門分野における先端研究の動向について専門分野での一研究者としての立場から、指導教員とともに情報を収集し、共通理解を深めるとともに問題点や解決すべき課題の発見をするための特別講義を通じて討議の機会を設ける。将来専門分野の技術開発部門において指導的な立場に立つことを期待し、科学者・技術者コミュニティの一員として接するとともに、有益な知見を互いに共有できる双方向のコミュニケーションの場を用意する。環境工学系分野においては、分野横断的な先端研究事例の知見集積を行い、技術者として求められる客観的な思考および表現力を高め、環境に関わる上での自己の哲学を研鑽するよう指導を行う。生態学分野においては、学外の専門家と意見交換することで、研究分野における自らのスタンスを明確にすることを目的として、関連分野の学協会活動への積極的な参加を奨励する。
- 定期的な FD 会議や授業アンケートの結果を踏まえつつ、最新の科学技術に対応するように常にカリキュラムの改善を行う。
- 研究指導体制の一貫性・継続性を保ち、修士課程における学修の成果をさらに発展させられるように教育課程を整備する。

（６）先端理工学研究科の入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

先端理工学研究科では、次のとおりコースごとに入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）を掲げて、入学者選抜を実施する。

先端理工学専攻　修士課程

１）数理・情報科学コース

修士課程では、自立して研究活動を行うに必要な高度の研究能力と専門知識を用いて社会の発展に寄与できる人材の養成を目指す。

このような観点から、次のような人を求めている。

- 数理・情報科学分野における専門領域および周辺領域の基礎知識を充分修得している人
- 専門分野の研究に対し明確な目的意識と強い意欲を持っている人
- 持続的学修を行う習慣を持ち、自己発言能力に優れた人

２）知能情報メディアコース

修士課程では、自立して研究活動を行うに必要な高度の研究能力と専門知識を用いて社会の発展に寄与できる人材の養成を目指す。

このような観点から、次のような人を求めている。

- 知能情報メディア分野における専門領域および周辺領域の基礎知識を充分修得している人
- 専門分野の研究に対し明確な目的意識と強い意欲を持っている人
- 持続的学修を行う習慣を持ち、自己発言能力に優れた人

３）電子情報通信コース

修士課程では、自立して研究活動を行うに必要な高度の研究能力と専門知識を用いて社会の発展に寄与できる人材の養成を目指す。

このような観点から、次のような人を求めている。

- 電子情報通信分野における専門領域および周辺領域の基礎知識を充分修得している人
- 専門分野の研究に対し明確な目的意識と強い意欲を持っている人
- 持続的学修を行う習慣を持ち、自己発言能力に優れた人

４）機械工学・ロボティクスコース

修士課程では、機械工学・ロボティクスに関する専門知識を用いて社会の発展に寄与できる人材の養成を目指す。

このような観点から、次のような人を求めている。

- 機械工学・ロボティクス分野における専門領域および周辺領域の基礎知識を充分修得している人
- 専門分野のより深い知識の修得と研究に対し、明確な目的意識と強い意欲を持っている人
- 持続的学修を行う習慣を持ち、自己発言能力に優れた人

５）応用化学コース

修士課程では、自立して研究活動を行うに必要な高度の研究能力と専門知識を用いて社会の発展に寄与できる人材の養成を目指す。

このような観点から、次のような人を求めている。

- 応用化学分野における専門領域および周辺領域の基礎知識を充分修得している人
- 専門分野の研究に対し明確な目的意識と強い意欲を持っている人
- 持続的学修を行う習慣を持ち、自己発言能力に優れた人

６）環境科学コース

修士課程では、自立して研究活動を行うに必要な高度の研究能力と専門知識を用いて社会の発展に寄与できる人材の養成を目指す。

このような観点から、次のような人を求めている。

- 環境科学分野における専門領域および周辺領域の基礎知識を充分修得している人
- 専門分野の研究に対し明確な目的意識と強い意欲を持っている人
- 持続的学修を行う習慣を持ち、自己発言能力に優れた人

先端理工学専攻　博士後期課程

１）数理・情報科学コース

博士後期課程では、修得したさらに高度な専門知識と周辺分野での知識を活用して社会に貢献すると共に、科学技術をあるべき道に導くことができる人材の養成を目指す。

このような観点から、次のような人を求めている。

- 自立して数理・情報科学分野における専門領域の研究活動を積極的に行うことができる人
- 専門分野および周辺分野についての高度な知識を持っている人
- 科学技術の発展に大いに貢献できる研究者を目指している人

２）知能情報メディアコース

博士後期課程では、修得したさらに高度な専門知識と周辺分野での知識を活用して社会に貢献すると共に、科学技術をあるべき道に導くことができる人材の養成を目指す。

このような観点から、次のような人を求めている。

- 自立して知能情報メディア分野における専門領域の研究活動を積極的に行うことができる人
- 専門分野および周辺分野についての高度の知識を持っている人

- 科学技術の発展に大いに貢献できる研究者を目指している人

３）電子情報通信コース

博士後期課程では、修得したさらに高度な専門知識と周辺分野での知識を活用して社会に貢献すると共に、科学技術をあるべき道に導くことができる人材の養成を目指す。

このような観点から、次のような人を求めている。

- 自立して電子情報通信分野における専門領域の研究活動を積極的に行うことができる人
- 専門分野および周辺分野についての高度の知識を持っている人
- 科学技術の発展に大いに貢献できる研究者を目指している人

４）機械工学・ロボティクスコース

博士後期課程では、自立して研究活動を行うのに必要な高度の研究能力と専門知識を用いて、社会の発展に寄与できる人材の養成を目指す。

このような観点から、次のような人を求めている。

- 機械工学・ロボティクス分野における専門領域および周辺領域の高度な知識を修得している人
- 自立して機械工学・ロボティクス分野における専門領域の研究活動を積極的に行うことができる人
- 科学技術の発展に貢献できる研究者や世界的な活躍を目指している人

５）応用化学コース

博士後期課程では、修得したさらに高度な専門知識と周辺分野での知識を活用して社会に貢献すると共に、科学技術をあるべき道に導くことができる人材の養成を目指す。

このような観点から、次のような人を求めている。

- 自立して応用化学分野における専門領域の研究活動を積極的に行うことができる人
- 専門分野および周辺分野についての高度の知識を持っている人
- 科学技術の発展に大いに貢献できる研究者を目指している人

６）環境科学コース

博士後期課程では、修得したさらに高度な専門知識と周辺分野での知識を活用して社会に貢献すると共に、科学技術をあるべき道に導くことができる人材の養成を目指す。

このような観点から、次のような人を求めている。

- 自立して環境科学分野における専門領域の研究活動を積極的に行うことができる人
- 専門分野および周辺分野についての高度の知識を持っている人
- 科学技術の発展に大いに貢献できる研究者を目指している人

（７）組織として研究対象とする中心的な学問分野

先端理工学研究科先端理工学専攻は、各コースにおける主たる研究対象分野（数理・情報科学コース「数理科学」、知能情報メディアコース「情報科学」、電子情報通信コース「電子工学」、機械工学・ロボティクスコース「機械工学」、応用化学コース「化学」、環境科学コース「環境科学」）を踏まえつつ、研究科全体としては「理工学」を中心的な研究対象とする。理工学は自然科学を探求する理学と物事を実現するための方法・手段・システムを取り扱う工学が融合した学問分野である。従来、自然科学の真理探求を目的とする理学と人間社会における物事の実現を目指す工学は専門分野として明確に区別されていたが、科学技術が高度に発達した現代において、自然科学の探求とその社会実装は密接に関連し、表裏一体を成すようになっている。そのため、理学と工学を融合させ、その相乗作用を引き出しつつ、専門の深い知識と同時に分野の多様性を理解し、他者との協調の下、異分野との融合・学際領域の推進も見据えた研究に取り組む。

２．修士課程までの構想か，又は，博士課程の設置を目指した構想か

先端理工学研究科の設置構想は、修士課程および博士後期課程の同時の設置をめざすものである。

先端理工学研究科の基礎となる先端理工学部は、多様な学修ニーズに対応した「分野横断型の専門教育」を実現するべく、2020（令和 2）年に理工学部を改組し、国内理工系学部で初となる「課程制」を導入した学部として設置した。今般の先端理工学研究科の設置に際しては、その先端理工学部の教学理念を発展継承する形で研究科の再編を図ることとしている。

このような認識に基づき、従来あった専門分野（専攻）間の垣根を低くすべく、各専門教育課程を一つの専攻（先端理工学専攻）に統合した上で、先端理工学専攻の下に、数理・情報科学コース、知能情報メディアコース、電子情報通信コース、機械工学・ロボティクスコース、応用化学コース、環境科学コースを配置している。これらは、先端理工学部における 6 つの課程（数理・情報科学課程、知能情報メディア課程、電子情報通信課程、機械工学・ロボティクス課程、応用化学課程、環境生態工学課程）に連動したものであり、今回の「先端理工学研究科」の設置は、一貫した理念のもとで、学部から大学院修士課程・博士後期課程までの有機的な接続を図るものである。

３．研究科・専攻・コースの名称及び学位の名称

（１）研究科・専攻の名称

研究科・専攻の名称は、「先端理工学部」（Faculty of Advanced Science and Technology）を基礎となる学部として設置することから次のとおりとする。

① 研究科の名称
「先端理工学研究科」(Graduate School of Advanced Science and Technology)

② 専攻の名称
「先端理工学専攻」(Department of Advanced Science and Technology)

（２）コースの名称

先端理工学専攻の下に、以下の 6 つのコースを設ける。コースの名称は、先端理工学部の課程名称を踏まえて次のとおりとする。

① 「数理・情報科学コース」
（Applied Mathematics and Informatics Course）
② 「知能情報メディアコース」（Intelligent Media Informatics Course）
③ 「電子情報通信コース」（Electronics，Information and Communication Engineering Course）
④ 「機械工学・ロボティクスコース」（Mechanical Engineering and Robotics Course）
⑤ 「応用化学コース」（Materials Chemistry Course）
⑥ 「環境科学コース」（Environmental Sciences Course）

（参考）先端理工学部の課程名称
①「数理・情報科学課程」
②「知能情報メディア課程」
③「電子情報通信課程」
④「機械工学・ロボティクス課程」
⑤「応用化学課程」
⑥「環境生態工学課程」

（３）学位の名称

設置の趣旨や育成する人材像及び基礎となる先端理工学部における学位の名称を踏まえ、数理・情報科学コース修士課程修了者は「修士（理学)」、同博士後期課程修了者は「博士（理学)」、知能情報メディアコース、電子情報通信コース、機械工学・ロボティクスコース、応用化学コース及び環境科学コース修士課程修了者は「修士（工学)」、同博士後期課程修了者は「博士（工学)」とする。

英訳名称については、国際的な通用性も担保するため、「修士（理学)」を「Master of Science」、「博士（理学)」を「Doctor of Science」、「修士（工学)」を「Master of Engineering」、「博士（工学)」を「Doctor of Engineering」とする。

（４）どの時点で授与する学位の名称が決定するのか

先端理工学研究科先端理工学専攻においては、入学者選抜の段階でコース別に募集を行うため、入学の時点で学位の名称は決定する。

４．教育課程の編成の考え方及び特色（教育研究の柱となる領域(分野)の説明も含む）

先端理工学専攻　修士課程

前述の「先端理工学研究科の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）」に基づき、資料3「先端理工学研究科修士課程カリキュラム」に示す教育課程を編成し、実施する。

修士課程における教育課程の特色は、次のとおりである。

（１）1専攻6コースの設定

「新時代の大学院教育－国際的に魅力ある大学院教育の構築に向けて－（平成17年9月5日 中央教育審議会答申）」（以下「新時代の大学院教育」という。）においては、「大学院の教育内容としては、学修課題を複数の科目等を通して体系的に履修するコースワーク等により、関連する分野の基礎的素養の涵養を図り、学際的な分野への対応能力を含めた専門的知識を活用・応用する能力（専門応用能力）を培う教育が重要となる。」と述べられている。

このことを踏まえ、先端理工学研究科先端理工学専攻においては、先端理工学部カリキュラムとの整合性を踏まえ、専門分野間の垣根を低くした分野横断型カリキュラムを構築することを念頭に、前身である理工学研究科の6専攻から1専攻（先端理工学専攻）に改編し、その下に6つのコースを設置する。カリキュラムはコースごとに設定する。

現行制度では専門分野以外の領域の学びを深める機会が少なかったが、カリキュラムを弾力化することにより、学生の興味関心に基づき、専門特化型の学びから学際的な学びまで、幅広い学びの形態を可能とし、新たな発想のもとに研究を進めることができるようなる。

（２）大学院教養科目の設置（修了要件：4単位）

「新時代の大学院教育」においては、「高い倫理性や世界の多様な文化・歴史に対する理解力、語学力を含めたコミュニケーション能力などを身に付けさせることも求められる。」と述べられている。

先端理工学研究科先端理工学専攻においては、分野横断型カリキュラムの一つとして、各コースにまたがる大学院教養科目を設置する。専門分野共通のものとして、高度の専門職人材（高度技術者）または研究者として社会で活躍するための基礎となる研究倫理や英語プレゼンテーションなど、科学技術者としての資質や能力を涵養する科目を配置する。

（３）特論科目の設置（修了要件：12単位）

１）「先端理工学研究」の設定（修了要件：1単位）

「新時代の大学院教育」においては、「知識基盤社会においては、最先端の学

理の探求や基礎研究成果を創出し、新たな知識体系を創造・構築していく人材」の育成が求められると述べられている。

このことを踏まえ、先端理工学研究科先端理工学専攻においては、各教員の取り組む最先端の研究内容をリレー講義（オムニバス形式）として教授する特論科目として、「先端理工学研究」を設定する。各コースに1科目設定し、選択したコースの同科目は必修、他コースの同科目は特論の選択科目として受講可能とする。開講日程の自由度を担保するため集中講義とし、適宜、外部講師も招聘する。また、国内・国外・特別研究員（龍谷大学の研究員制度）や付置研究所の研究成果を還元する科目としても位置付ける。

２）「特論科目」の設置（修了要件：11単位）

各コース・指導教員の専門分野に基づいた授業科目として、特論科目を開講する。

特論科目については、学生には自らが選択したコースの科目を一定以上修得することを義務付けることで専門性を担保するとともに、自らの興味関心に基づき、他コースの特論科目も履修可能となる弾力的なカリキュラムを構築することによって、専門特化型の学びから学際的な学びまで、幅広い学びの形態を可能とする。

また、学生の科目選択の自由度を向上させるため、特論科目は、クォーター科目（1単位／1クォーター）として開講することを原則とする。

（４）「演習」「特別研究」の設置（修了要件：12単位）

指導教員による演習科目として「演習」（4単位）、修士論文作成へ向けた研究指導科目として「特別研究」（8単位）を設ける。

（５）「フリーゾーン」の設置（修了要件：4単位）

「大学院教養科目」「特論科目」において、修了要件単位数を超えて履修した単位は、フリーゾーンとして4単位まで修了要件として認める。

（６）「プログラム」科目群の設定

「新時代の大学院教育」においては、多様に発展する社会の様々な分野で活躍する高度で知的な素養のある人材層を確保する観点から、高度な知識・能力を養える体系的な教育課程が求められるとし、「学生の知的好奇心などにこたえた多様かつ豊富な教育プログラムにより幅広い視点を培う教育、又は学修課題を複数の科目等を通して体系的に履修するコースワークを重視して、養成すべき人材を念頭に関連する分野の知識・能力を修得させる教育」が重要となると述べられている。

このことを踏まえ、先端理工学研究科先端理工学専攻においては、学生の知的好奇心にこたえ、修了後の社会への「出口」をイメージしやすいように、特論科目をグループ化した「プログラム」を設定する。このプログラムは、コースの壁をこえて、テーマに基づいた科目グループの設定を行うもので、「出口」をイメージできる系統的科目群として構成し、学生の系統的履修・学際的履修に寄与するものとする。

（資料4「先端理工学研究科プログラム科目一覧」参照）

ただし、この括り（プログラム）は、科目履修を制限するものではなく、あくま

でも社会への「出口」の可視化を目的としたものとなる。

先端理工学専攻　博士後期課程

前述の「先端理工学研究科の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー)」に基づき、資料 5「先端理工学研究科博士後期課程カリキュラム」に示す教育課程を編成し、実施する。

博士後期課程における教育課程の特色は、次のとおりである。

（１）「サイエンスコミュニケーション」の設定（修了要件：2単位）

「分野横断型の専門教育」を促進する先端理工学研究科の理念を具現化するため、コースの垣根を超えて博士後期課程在籍学生が自身の研究内容を互いに紹介し、ディスカッションする科目「サイエンスコミュニケーション」を必修科目として設置する。

（２）「特別講義」の設置

指導教員による専門分野に関する講義として「特別講義」を設ける。

（３）「特別研究」の設置（修了要件：12単位）

指導教員による博士論文作成へ向けた研究指導科目として「特別研究」（12単位）を設ける。

５．教育方法，履修指導，研究指導の方法及び修了要件

（１）学生のコースの決定時期

先端理工学研究科先端理工学専攻においては、入学者選抜の段階でコース別に募集を行うため、入学の時点でコースは決定している。

（２）教育の方法

１）授業の方法

先端理工学専攻　修士課程

先端理工学研究科先端理工学専攻修士課程の授業は、講義と演習から構成される。

各コース共通の「大学院教養科目」においては、講義科目として「科学哲学・科学史」(1 単位)、「英語プレゼンテーションⅠ」「英語プレゼンテーションⅡ」（各 1 単位）を開講する。演習科目としては、大学院生としての研究実践力、研究倫理、プレゼンテーションの能力を身につける「先端理工学基礎演習Ⅰ・Ⅱ」(必修:各 2 単位)、北米における龍谷大学の拠点「RUBeC（Ryukoku University Berkeley Center：ルーベック)」において英語によるテクニカルライティングとプレゼンテーションを学ぶ「RUBeC 演習」（4 単位）を開講する。

各コースにおける専攻科目においては、講義科目（特論科目）として、各教員の取り組む最先端の研究内容をリレー講義（オムニバス形式）で教授する「先端理工学研

究」（1 単位：必修）を開講するとともに、指導教員の専門分野に基づいた「特論」科目（各 1 単位：選択必修）を開講する。演習科目としては、大学院生が個別に設定したテーマによる修士論文の完成を目指す研究を進めるために、指導教員の指導に基づく「演習」（4 単位：必修）、「特別研究」（8 単位：必修）を開講する。

先端理工学専攻　博士後期課程

先端理工学研究科先端理工学専攻博士後期課程の授業は、講義と演習から構成する。

講義科目としては、指導教員の専門分野に基づいた「特別講義」科目（各 2 単位）を開講する。演習科目としては、専門分野の垣根を超えて学生が自身の研究内容を互いに紹介し、ディスカッションする「サイエンスコミュニケーション」（2 単位：必修）、博士論文の完成へ向けた指導教員による「特別研究」（12 単位：必修）を開講する。

２）配当年次の設定

先端理工学専攻　修士課程

大学院での学びを段階的に、また着実に深められるよう、研究者として社会で活躍するための基礎となる研究実践力、研究倫理、プレゼンテーションの能力を身につける「先端理工学基礎演習Ⅰ・Ⅱ」を 1 年次配当としている。また、講義科目「特論」については全て 1 年次配当としており、1 年次の間に必要な授業科目が修得できなかった場合や、2 年次になってから研究の過程で新たな知識の獲得が必要になったときは、2 年次でも「特論」の履修が可能となっている。

また、指導教員による修士論文作成へ向けた「演習」は 2 年次配当、「特別研究」については 1 年次から 2 年次にわたり 2 年間をかけて履修する科目として位置付けている。

（資料6「先端理工学研究科先端理工学専攻修士課程履修モデル」参照）

先端理工学専攻　博士後期課程

専門分野の垣根を超えて学生が自身の研究内容を互いに紹介しディスカッションする「サイエンスコミュニケーション」、講義科目「特別講義」については全て 1 年次配当としている。指導教員による博士論文作成へ向けた「特別研究」については 1 年次から 3 年次にわたり 3 年間をかけて履修する科目として位置付けている。

（資料7「先端理工学研究科先端理工学専攻博士後期課程履修モデル」参照）

３）大学院生数

先端理工学専攻　修士課程

修士課程の入学定員は 100 名である。この定員に対して、修士課程における研究指導教員を 71 名配置しており、綿密で充実した教育を展開することができる体制となっ

ている。講義科目に関しても、受講人数は基本的に 4～7 名程度、多くとも 10 名程度を予定しており、細やかな少人数教育が実現できると考えている。

先端理工学専攻　博士後期課程

博士後期課程の入学定員は 10 名である。この定員に対して、博士後期課程における研究指導教員を 58 名配置しており、演習科目、講義科目とも、綿密で充実した教育を展開することができる体制となっている。

（３）履修指導の方法

先端理工学研究科においては、教員と事務職員が相互に連携しつつ、学生の興味・関心や希望、能力に応じて丁寧に履修指導を行う。その目的は、学生が自身の進路を見定め、そのために必要な各種の科目を円滑に履修し、修了後の進路に向けた準備を効果的に行うことを支援することにある。

修士課程においては、入学と同時に大学院生の研究計画・研究テーマに基づいて指導教員を選任し、その指導教員と相談の上、大学院生の研究テーマを考究するために履修すべき科目を選定する。これにより、大学院生は必要な各種の科目を効率的に履修し、研究を完結させ、その後の進路への準備を円滑に行うことができる。

博士後期課程においても、入学と同時に各大学院生を担当する指導教員を選定する。そして、その指導教員と相談の上、履修すべき科目を選定する。

そして、入学時や各年度初めにおいて、研究科全体及びコース、演習単位での教員または事務職員による履修ガイダンスをきめ細かく実施するとともに、教務課窓口における指導・相談を徹底する。

（４）研究指導の方法

具体的な学位授与までのプロセス、研究指導に係るスケジュールは、資料 8「先端理工学研究科先端理工学専攻　修了までのスケジュール」に記載のとおりである。

先端理工学専攻　修士課程

1 年次の 4 月には研究題目を提出し、指導教員の選定を行う。そして、指導教員と学生が相談の上履修科目を決定するとともに、教員が「研究指導計画書」を作成し、修了までを見越した綿密な計画をたて、その研究指導に当たる。研究指導計画は、研究の進捗状況に応じ、適宜見直しを行う。

また、資料 9「研究活動に係る不正行為の防止及び対応に関する規程」および資料 10「研究活動に係る不正行為の防止及び対応に関する規程第 6 条の 2 にかかる運用細則」に基づき、すべての大学院生に対して、1 年次に研究倫理教育 e ラーニング「APRIN e ラーニングプログラム（CITI Japan)」（管理：一般財団法人公正研究推進協会）の指定講座の修了を義務付けている。

多くの場合、1 年次配当科目は 1 年次に修得し、2 年次では修士論文の作成に専念する場合が多いが、1 年次の間に必要な授業科目が修得できなかった場合や、2 年次になってから研究の過程で新たな知識の獲得が必要になったときは、2 年次でも授業科目の履修が可能となっている。

修士論文の中間発表会を 1 年次後半、もしくは 2 年次進級後に実施し、学生の研究の進捗状況を確認するとともに、修士論文の完成へ向けた課題点等の指導を行う。

そして、2 年次の 12 月に「修士論文審査願」の提出、2 月に「修士論文」の提出及び公聴会を実施し、修士学位授与に係る審査を行い、3 月に学位記授与式を実施する。

修士論文は、社会の要請する学術的あるいは科学技術的課題に対し、当該分野の高度な専門知識および関連分野の幅広い基礎知識を駆使し、与えられた条件の下で課題を分析し、解決に至る手順を示し、実行し、結果を明瞭に表現したものであることが求められており、その審査は、修士課程の特別研究担当の教員を含む 2 名以上の審査員によって実施する。

論文審査にあたっては、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づいて厳格かつ多角的に評価がなされるよう、ルーブリックを用いて評価を行う。

先端理工学専攻　博士後期課程

1 年次の 4 月には研究題目を提出し、指導教員の選定を行う。そして、指導教員と学生が相談の上履修科目を決定するとともに、教員が「研究指導計画書」を作成し、修了までを見越した綿密な計画をたて、その研究指導に当たる。研究指導計画は、研究の進捗状況に応じ、適宜見直しを行う。

また、修士課程と同様に「研究活動に係る不正行為の防止及び対応に関する規程」および「研究活動に係る不正行為の防止及び対応に関する規程第 6 条の 2 にかかる運用細則」に基づき、すべての大学院生に対して、1 年次に研究倫理教育 e ラーニング「APRIN e ラーニングプログラム（CITI Japan)」（管理：一般財団法人公正研究推進協会）の指定講座の修了を義務付けている。

博士論文の中間発表会を年度ごとに実施し、学生の研究の進捗状況を確認するとともに、博士論文の完成へ向けた課題点等の指導を行う。

そして、3 年次の 12 月に「博士論文概要・博士論文審査願」の提出、2 月に「学位申請・博士論文」の提出及び公聴会・口述試験を実施し、博士学位授与に係る審査を行い、3 月に学位記授与式を実施する。

博士論文は、その専攻分野について、研究者・技術者として自立して研究・開発活動を行うに必要な高度の研究・開発能力およびその基礎となる豊かな学識を有することを立証するに足りるものでなければならない。その審査は、博士後期課程授業科目の担当教授および関連のある研究科授業科目担当教授 3 名以上の審査員によって実施する。研究科委員会が必要と認めるときは、龍谷大学大学院他研究科および他大学の大学院等の教員等を審査員に入れることができる。また、論文審査に係る口述試験は、当該論

文の審査員および研究科委員会で承認された他の委員を含む 5 名が担当して実施する。

論文審査にあたっては、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づいて厳格かつ多角的に評価がなされるよう、ルーブリックを用いて評価を行う。

（５）修了要件

先端理工学専攻　修士課程

- 修士課程に 2 年以上在学し、所定の科目を履修しその単位を修得したものに対して研究科委員会が修士課程修了を認定する。ただし在学期間は、研究科委員会が優れた業績を上げたと認めた者については 1 年以上在学すれば足りるものとする。
- 修士課程修了認定を受けるためには、所定の 32 単位以上の単位数を必要とする。
- 修士課程修了認定を受けるためには、修士論文の審査および最終試験に合格しなければならない。

先端理工学専攻　博士後期課程

- 博士後期課程に 3 年以上在学し、所定の科目を履修しその単位を修得したものに対して研究科委員会が博士後期課程修了を認定する。ただし在学期間は、優れた研究業績を上げた者にあっては博士後期課程に 1 年以上在学すれば足りるものとする。
- 博士後期課程修了認定を受けるためには、所定の 14 単位（1 年修了制にあっては 16 単位）以上の単位数を必要とする。
- 博士後期課程修了認定を受けるためには、博士論文の審査および最終試験に合格しなければならない。

６．基礎となる学部と修士課程・博士後期課程との関係

先端理工学研究科の基礎となる先端理工学部は、多様な学修ニーズに対応した「分野横断型の専門教育」を実現するべく、2020（令和 2）年に理工学部を改組し、国内理工系学部で初となる「課程制」を導入した学部として設置したものである。

今般の先端理工学研究科の設置に際しては、その先端理工学部の教学理念を発展継承する形で研究科の再編を図ることとしている。

このような認識に基づき、従来あった専門分野（専攻）間の垣根を低くすべく、各専門教育課程を一つの専攻（先端理工学専攻）に統合した上で、先端理工学専攻の下に、数理・情報科学コース、知能情報メディアコース、電子情報通信コース、機械工学・ロボティクスコース、応用化学コース、環境科学コースを配置している。これらは、先端理工学部における 6 つの課程（数理・情報科学課程、知能情報メディア課程、電子情報

通信課程、機械工学・ロボティクス課程、応用化学課程、環境生態工学課程）に連動したものであり、今回の「先端理工学研究科」の設置は、一貫した理念のもとで、学部教育から大学院教育までの有機的な接続を図るものである（資料 11「基礎となる学部との関係図」参照)。

７．取得可能な資格

先端理工学専攻修士課程において、次の教育職員免許状の取得を可能としている。ただし、資格取得と修了要件は直接的には関連しておらず、学則に規定されている関連科目を履修することにより、資格取得が可能となっている。

＜先端理工学研究科＞

専攻	コース	免許教科	中学校教諭	高等学校教諭
先端理工学専攻	数理・情報科学コース	数学	専修免許状	専修免許状
	知能情報メディアコース	情報	―	専修免許状
	電子情報通信コース	工業	―	専修免許状
	機械工学・ロボティクスコース	工業	―	専修免許状
	応用化学コース	理科	専修免許状	専修免許状
	環境科学コース	理科	専修免許状	専修免許状

８．入学者選抜の概要

先端理工学専攻　修士課程

（１）入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

先端理工学研究科先端理工学専攻は、建学の精神に基づいて、自然・社会と科学との調和を重視し、幅広い教養と理工学の各専門分野における高度の専門知識・技能を身につけ、持続可能な社会の発展に貢献できる高い倫理観を持った高度専門職人材・研究者を育成することを目的としている。

そのため、入学する学生には以下のような能力を求めている。

【修士課程 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）】

自立して研究活動を行うに必要な高度の研究能力と専門知識を用いて社会の発展に寄与できる人材の養成を目指す。

このような観点から、次のような人を求めている。

・専門領域および周辺領域の基礎知識を充分修得している人
・専門分野の研究に対し明確な目的意識と強い意欲を持っている人
・持続的学修を行う習慣を持ち、自己発言能力に優れた人

※コース別の入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）は、1－（6）で

詳述している。

（２）選抜方法

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）に掲げる３項目を多面的に評価し多様な人材を受け入れるべく、以下の入学者選抜を実施する。先端理工学専攻修士課程の入学定員は 100 名であり、入学試験種別ごとの募集人員の比率は、推薦入試 80%、一般入試 20%とする。

１）一般入学試験（募集人員：20 名）

試験科目としては、「英語」、「専門科目」及び「面接」を実施する。「英語」は外部試験の活用により実施し、「専門科目」で志願者が修士課程で専門教育を受けることができるだけの素養や基礎知識を有しているか否を見定めるとともに、志願者の語学力、文章を正確に読み取る能力、文書作成能力・記述力を確認する。さらに「面接」で志願者の志望理由や学修意欲等について確認する。

２）学内推薦入学試験（募集人員：80 名）

本学先端理工学部から本研究科修士課程への進学を希望する成績優秀者を対象に、学内推薦制度を設けて推薦入学試験を実施する。試験科目は「面接」とし、志願者の志望理由や学修意欲等について確認する。

３）外国人留学生入学試験（募集人員：若干名）

外国人留学生入学試験の試験科目は「英語」と「口述試験」とする。「英語」では志願者の語学力を確認する。「口述試験」では志願者の専門領域に関する口頭試問を行うことにより、志願者が取り組む研究領域における基礎的な知識を有するか否かを判断するとともに、志願者のコミュニケーション能力や研究討論のスキルについても確認する。

４）外国人留学生別科修了見込者対象入学試験（募集人員：若干名）

本学留学生別科修了見込者を対象に入学試験を実施する。試験科目は「口述試験」とし、志願者の専門領域に関する口頭試問を行うことにより、志願者が取り組む研究領域における基礎的な知識を有するか否かを判断するとともに、志願者のコミュニケーション能力や研究討論のスキルについても確認する。

５）社会人入学試験（募集人員：若干名）

入学時までに２年以上の就業経験を有すると認めた者を対象に、社会人入学試験を実施する。試験科目は「口述試験」とし、志願者の専門領域に関する口頭試問を行うことにより、志願者が取り組む研究領域における基礎的な知識を有するか否か

を判断するとともに、志願者のコミュニケーション能力や研究討論のスキルについても確認する。

（３）選抜体制

先端理工学研究科が実施し、先端理工学研究科委員会が合否判定を行う。

（４）科目等履修生

一般学生の学修環境に支障が出ない範囲で科目等履修生を受け入れる。定員は若干名とする。

先端理工学専攻　博士後期課程

（１）入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

先端理工学研究科先端理工学専攻では、建学の精神に基づいて、自然・社会と科学との調和を重視し、幅広い教養と理工学の各専門分野における高度の専門知識・技能を身につけ、持続可能な社会の発展に貢献できる高い倫理観を持った高度専門職人材・研究者を育成することを目的としている。

そのため、入学する学生には以下のような能力を求めている。

【博士後期課程　入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）】

さらに高度な専門知識と周辺分野での知識を活用して社会に貢献すると共に、科学技術をあるべき道に導くことができる人材の養成を目指す。

このような観点から、次のような人を求めている。

・自立して専門領域の研究活動を積極的に行うことができる人
・専門分野および周辺分野についての高度な知識を持っている人
・科学技術の発展に大いに貢献できる研究者を目指している人

※コース別の入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）は、１－（６）で詳述している。

（２）選抜方法

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）に掲げる３項目を多面的に評価し多様な人材を受け入れるべく、以下の入学者選抜を実施する。先端理工学専攻博士後期課程の入学定員は 10 名であり、入学試験種別ごとの募集人員の比率は一般入試 100%とする。

１）一般入学試験（募集人員：10 名）

一般入学試験の試験科目は「口述試験」とし、修士論文あるいはそれに相当する学術論文及び今後の研究計画に関して、専門分野の外国語も含めた内容に関する口

頭試問を行うことにより、志願者が取り組む研究領域における基礎的な知識を有するか否かを判断するとともに、志願者のコミュニケーション能力や研究討論のスキルについても確認する。

２）外国人留学生入学試験（募集人員：若干名）

外国人留学生入学試験の試験科目は「口述試験」とし、修士論文あるいはそれに相当する学術論文及び今後の研究計画に関して、専門分野の外国語も含めた内容に関する口頭試問を行うことにより、志願者が取り組む研究領域における基礎的な知識を有するか否かを判断するとともに、志願者のコミュニケーション能力や研究討論のスキルについても確認する。

３）外国人留学生入学試験（書類審査方式）（募集人員：若干名）

外国籍を有し出願時に日本国外に居住している者を対象に、書類審査による入学試験を実施する。出願書類に含まれる研究計画書、修士論文等を精査することにより、志願者が取り組む研究領域における基礎的な知識を有するか否かを判断する。

（３）外国人留学生の支援体制

入学後の外国人留学生に対しては、本学の国際化事業を担当する「グローバル教育推進センター」と協力し、学修面や生活面の支援体制を構築している。また、留学生寮には日本人チューターを配置し、日常生活をサポートする体制を構築している。

なお、本学では、留学生が万一、退学や除籍となった場合は、文部科学省の指導に基づき帰国手続きをサポートするなど、留学生の適切な受入及び在籍管理を徹底している。

９．教員組織の編制の考え方及び特色

（１）先端理工学研究科教員組織の編制の考え方

先端理工学研究科の教員組織は、基礎となる学部である先端理工学部の専任教員を中心に編制する。また、本研究科における教育・研究の継続を担保することを考慮し、博士後期課程を担当する教員は修士課程も担当することとする。

先端理工学研究科の専任教員は、龍谷大学の「教育職員選考基準」（資料 12「教育職員選考基準」参照）に加え、基礎となる学部である先端理工学部の「龍谷大学先端理工学部教員人事規程」（資料 13「龍谷大学先端理工学部教員人事規程」参照）に照らして任用する。先端理工学研究科における専任教員数は、修士課程で 73 名（うち、教授 45 名）、博士後期課程で 58 名（うち、教授 42 名）であり、入学定員（修士課程：100 名、博士後期課程：10 名）に対して、きめ細やかな指導が可能な体制を構築している。また、各コースにおける専門性を担保するため、コースの分野毎に専任教員をバ

ランス良く配置している。

（２）教員組織の研究分野と研究体制

基礎となる学部である先端理工学部においては、所属する専任教員等が会員となり「龍谷大学理工学会」を設置し、研究活動に取り組んでいる。本会は、研究会・コロキュウムの開催、機関誌の出版、学術講演会・シンポジウムの開催等により、相互の学術研究と技術開発に関する情報交流及びコミュニケーションの推進をはかることを目的とする。

また、本学に附置する研究所として、「科学技術共同研究センター」を設置している。当センターは、科学技術およびその関連分野に関する研究・開発を行い、科学技術の創造と発展に寄与し、あわせて研究成果の社会還元を図ることを目的としている。学内外を通じての学術交流を活性化させて高度な学術研究を行うとともに、産業界や官公庁の関連機関と連携を深め、産官学の協力による先駆的共同研究開発体制の推進など、開かれた大学の研究機関としての役割を担っている。

さらに、本学は、科学と人間の調和を重視し「人間・科学・宗教」を主軸に置きつつ日々の研究活動を進めている。その中でも「人間・科学・宗教総合研究センター」のもとに置かれた「革新的材料・プロセス研究センター」、「古典籍・文化財デジタルアーカイブ研究センター」、「里山学研究センター」及び「生物多様性科学研究センター」では、先端理工学部の研究者が中心的に関わり、本学独自の特色ある研究を世界に発信することをめざしており、多くの研究成果を上げ、教育課程に還元している。

（３）教員組織の年齢構成

本学における教員の定年は「職員定年規程」において、教授は満 68 歳、准教授・講師・助教・助手は満 65 歳に達した年度末である旨が定められている（資料 14「職員定年規程」参照）。

先端理工学研究科の完成年度末における教員組織の職階・年齢構成は次表のとおりである。

修士課程（2026 年 3 月 31 日現在）

年齢	教授	准教授	講師	助教	合計
65-68 歳	10	0	0	0	10
60-64 歳	13	2	2	0	17
50-59 歳	18	6	5	0	29
40-49 歳	4	9	4	0	17
30-39 歳	0	0	0	0	0
29 歳以下	0	0	0	0	0
合計	45	17	11	0	73

博士後期課程（2027 年 3 月 31 日現在）

年齢	教授	准教授	講師	助教	合計
65-68 歳	9	0	0	0	9
60-64 歳	13	3	0	0	16
50-59 歳	16	5	0	0	21
40-49 歳	4	8	0	0	12
30-39 歳	0	0	0	0	0
29 歳以下	0	0	0	0	0
合計	42	16	0	0	58

50 歳代および 60 歳代の割合が高くなっていることから、今後の教員補充に関しては、当該教員の専門領域等を勘案しながら、経験豊富な教員とのバランスを鑑み、若い世代の教員を積極的に採用し、年齢層に著しい偏りが生じないよう調整していく。

１０．研究の実施についての考え方，体制，取組

本学は、単に歴史や伝統だけにとらわれることなく、「高度化」「多様化」をキーワードに 21 世紀の科学技術と文化を創造しうる独創的な世界水準の研究を目指している。

本学の建学の精神の礎となっている「仏教」を中心とする伝統的・歴史的な研究資源を活かした研究、最先端の研究環境のもとで次代の科学技術を創造する研究、地域社会やグローバル社会とのつながりのもとでの研究など、未来を見据えて、社会から求められる学術文化の振興に取り組んでいる。また、先端的な研究だけでなく、基盤的な研究も積極的にサポートしていくことにより、人材育成や社会連携等のすそ野の広い研究が行われる大学を目指している。

研究組織としては、資料 15「研究支援の方針」及び「龍谷大学研究活動に関する指

針」に基づき、人間・科学・宗教総合研究センター、世界仏教文化研究センター及び 4 つの付置研究所（社会科学研究所、科学技術共同研究センター、国際社会文化研究所、食と農の総合研究所）を編制している。また、学問水準の向上及び教育の充実発展を図るため、資料 16「研究員規程」に基づき、一定期間研究に専念できる「研究員制度」を設けている。

これら研究活動を支援するため、事務組織として研究部を設置し、深草・大宮・瀬田の 3 キャンパスそれぞれに事務室・研究サポート室等の拠点を設け、研究活動の促進に資する環境の整備を進め、研究支援ガイドの充実を図るなど、研究支援体制の向上を図っている。

また、URA（University Research Administrator）は配置していないが、研究活動をサポートする技術職員として、PC サポート 3 名（深草・大宮担当 2 名、瀬田担当 1 名）を配置している。

１１．施設・設備等の整備計画

（１）校地、運動場の整備計画

先端理工学研究科は瀬田キャンパス（滋賀県大津市）に設置する。瀬田キャンパスの校地面積は 200,289 ㎡であり、現在、そこに 3 学部（先端理工学部、社会学部、農学部）と 3 研究科（理工学研究科、社会学研究科、農学研究科）を設置しているが、先端理工学研究科の開設 2 年目（2025 年度）に社会学部及び社会学研究科を瀬田キャンパスから深草キャンパスに移転する計画である。よって、瀬田キャンパスの収容定員は、開設年度（2024 年度）は 7,023 名、博士後期課程完成年度（2026 年度）には 4,653 名となる。教室や図書館、保健管理センター、学生食堂、福利厚生施設他の各種施設については、既設学部等と十分に共用可能である。

運動施設については、瀬田キャンパス敷地内に体育館（2,736 ㎡）、多目的グラウンド（21,000 ㎡）、野球場（22,900 ㎡）、ドーム型の多目的雨天練習場 SETA DOME（2,053 ㎡）等を設けており、正課及び課外活動等に利用している。これらについても他学部等との共用は十分に可能である。

さらに、学生が休息したり談話したりするスペースについては、学生交流会館や食堂（3 ヶ所）を備えているほか、学生食堂前にテラス席も設置している。

（２）校舎等施設の整備計画

教室については、科目の配置状況やその授業形態、受講者数等を踏まえたうえで必要な数及び規模の教室を確保する。現在、瀬田キャンパスには、学部・研究科を問わず利用できる施設として、講義室 61 室、情報実習室 18 室（パソコン 1,138 台）を整備しており、引き続きこれらの施設を既設学部等と共同で利用する予定で

ある。

瀬田キャンパスには、主に理工学研究科・先端理工学部に資する施設として、1号館（地下1階地上6階建て、延床面積約19,638㎡）、7号館（地下1階地上2階建て、延床面積約7,592㎡）、実験棟（地上2階建て、延床面積約2,015㎡）、第2実験棟（地上1階建て、延床面積約126㎡）があり、引き続き、先端理工学研究科・先端理工学部が中心に活用する。これらの施設は、下表のとおり実験・実習室他を備えており、十分な数と質の施設が確保できているといえる。

建物	区分	室名	室数
1号館	実験室	実験室	50
	研究室・演習室	研究室	57
		演習室	55
	その他	学部長室	1
		研究科長室	1
		教務課	1
		事務室	4
		会議室	3
7号館	実験室	実験室	23
	研究室・演習室	研究室	28
		演習室	23
	その他	事務室	2
実験棟	実験室	実験室	14
第2実験棟	実験室	実験室	1
合　　計	実験室	実験室	88
	研究室・演習室	研究室	85
		演習室	78
	その他	学部長室	1
		研究科長室	1
		教務課	1
		事務室	6
		会議室	3

大学院学生の研究室（自習室）については、指導教員の研究室に隣接する各演習室（1号館約48㎡（2研究室共同）、7号館約24㎡）を整備している。また、先端理工学研究科大学院生専用の合同研究室として、1号館6階に1室（約103㎡）、3階に2室（約104㎡、約51㎡）及び7号館1階に1室（約26㎡）の計4室が整備されており、それらの演習室、合同研究室には、机、椅子、資料書架、プリンター等が整備されており、大学院生の研究活動を支援している（資料17「演習室・大学院合

同研究室の見取り図」参照）。

（３）図書等の資料及び図書館の整備計画

本学は京都府と滋賀県に 3 つのキャンパスを有しており、各キャンパスにそれぞれ図書館を設置している。3 図書館の合計所蔵資料数は、完成年度（2026 年度）において、図書約 221 万冊、学術雑誌約 1 万 6 千種類、視聴覚資料約 5 万 7 千点、電子ジャーナル・データベース約 8 千種類であり、今後も学修や教育・研究に必要な学術情報を適切に選定・収集・整理・保存していく。

各図書館は、各キャンパスの学部構成に応じた蔵書構成をとっており、先端理工学研究科を開設する瀬田キャンパスの図書館には、先端理工学研究科及び先端理工学部の資料の他に社会学部、社会学研究科、農学部、農学研究科の資料があり、所蔵資料の構成は、自然科学系、社会科学系、人文科学系の資料がバランス良く組み合わさったものとなっている。

瀬田図書館の所蔵資料（2023（令和 5）年 3 月末時点の所蔵数：図書約 49 万冊、学術雑誌約 3 千種類、視聴覚資料約 1 万 2 千点、電子ジャーナル・データベースは全学共通で約 8 千種類）は、現時点でも既に量としては十分に蓄積されているが、本学の学生・教職員は、蔵書検索システムを用いて全学の蔵書を検索し、それを自身が位置するキャンパスの図書館から貸出請求することにより、自キャンパスにいながら、大学全体の蔵書を利用することができる。

先端理工学研究科にかかわる図書、資料図書等については、先端理工学部や理工学研究科で蓄積してきた本学図書館保有の蔵書、雑誌、電子ジャーナル・データベースの活用を基本とし、さらに充実させていく予定である（資料 18「学術雑誌等一覧」参照）。

瀬田図書館の閲覧座席数は 880 席、情報検索設備（検索端末台数）は 42 台を設置している。開館時間については、学生の自習時間を確保するために、通常授業期間中の平日は 9 時から 21 時、土曜日も 10 時から 17 時まで開館している。さらに、定期試験前、試験期間中については、日曜日にも 10 時から 17 時まで開館することとしている。

また、学生の主体的な学びが多様に展開される空間として、「龍谷大学ラーニングコモンズ」を開設しており、コモンズは、スチューデントコモンズ、グローバルコモンズおよびナレッジコモンズの 3 つの機能別コモンズで構成されている。図書館内には、ナレッジコモンズとして、図書館の多様な学術情報を積極的に活用しながら、主体的かつ協調的に学び合うオープンスペース「ナレッジスクエア」とグループワークルームを設けており、アクティブに学ぶ空間と読書に適したサイレントな空間をあわせもつ「知の広場」として図書館が機能している。

１２．管理運営及び事務組織

先端理工学研究科では、龍谷大学大学院学則第 47 条にもとづき研究科委員会を設置する。研究科委員会は、先端理工学研究科委員会規程にもとづき、先端理工学研究科の講義を担当する専任の教授、准教授及び講師を構成員とする。

また、先端理工学研究科委員会における審議・決定事項は、以下のとおりとする。

- 教育職員、教育・研究補佐員・嘱託（教育職）の人事に関する事項
- 研究科長の選考に関する事項
- 研究及び教授に関する事項
- 教育課程の編成、履修の方法及び試験に関する事項
- 学業評価に関する事項
- 研究科学生の入学、退学、休学、復学、留学及び卒業、その他学生の身分に関する事項
- 研究科学生の補導厚生に関する事項
- 研究科内諸規程の制定改廃に関する事項
- 称号に関する事項
- その他研究科における重要な事項

研究科委員会は研究科長が招集し議長となり、構成員の 3 分の 2 以上の出席により成立することとし、月 2 回程度の開催を予定している。なお、研究科委員会の円滑な運営のため、学部長、研究科長、教務主任、研究主任、キャリア主任、学生生活主任及び先端理工学部教務課長からなる執行部会議、さらに執行部会議構成員に各コース主任を加えた専攻運営会議を設け、研究科委員会審議事項等の調整を図ることとしている。

１３．自己点検・評価

本学では、建学の精神にもとづく特色ある教育研究活動等を展開し、私立大学としての自主性、自律性を重んじつつ、有為の人間を育成するとともに、学術文化の向上や社会の発展に貢献することを目指している。その実現のため、教育・研究の向上を図り、自らの活動を点検・評価し、独自の方法で教育研究の質を自ら保証すること（内部質保証）が重要であると考えている。

こうした認識のもと、龍谷大学大学院学則第 1 条の 2 に、「本学大学院は、教育研究の向上をはかり、前条の目的を達成するため、自らの点検・評価を行う」と定めるとともに、内部質保証に関する方針として、「龍谷大学内部質保証のあり方について」を定め、「機関（組織）としての自己点検・評価」と本学の教育研究等を支える「教員個人の諸活動に対する自己点検」という 2 つの視点から内部質保証システムを

確立し、教育研究水準の維持・向上に努めている。

内部質保証に関する方針にもとづき、2011（平成 23）年度から実施している自己点検・評価制度においては、その目的として①「質保証のための改革・改善マネジメント（内部質保証システム）の確立」、②「大学活動の重点化と大学業務の改善を推進」、③「自己点検・評価を通した社会に対する説明責任の履行」を掲げている。

実施体制は、「大学評価に関する規程」にもとづき、全学的な自己点検・評価の体制を整備している。具体的には、大学評価に関する重要事項を審議・決定するため、大学執行部である部局長会の下に全学大学評価会議を設置し、その下に、大学評価に関する具体的な事項を審議・決定する大学評価委員会を設置している。さらに、すべての学部・研究科等に自己点検・評価委員会を設置し、日常的な評価・改善活動を行う体制を整えている。点検・評価項目については、基本的には公益財団法人大学基準協会の点検・評価項目に準拠しつつ、本学独自の点検・評価項目も加えている。

制度の内容としては、毎年度、すべての学内機関（組織）が自らの判断と責任においてその諸活動について点検・評価を行い、その結果を「自己点検・評価シート」にまとめ、大学評価委員会による点検・評価を経て、全学大学評価会議が評価結果を決定し、学内各機関（組織）にフィードバックし、改善及び向上を図るものである。

また、以上のような機関（組織）としての自己点検・評価とともに、教員個人の諸活動に対する自己点検として、各教員が、教育、研究、社会貢献、大学管理運営の 4 領域において、年度初めに基本方針を定めた後、年度末までに諸活動について自己点検を行い、改善及び向上を図る「教員活動自己点検」も実施している。

自己点検・評価の結果公表については、本学の内部質保証の方針、自己点検・評価の実施体制、関連規程、制度概要とともに、大学全体に係る自己点検・評価シートと自己点検・評価によって顕在化した全学的課題の一覧をホームページに掲載している。また、認証評価の評価結果、点検・評価報告書についてもホームページで公表している。

本学は、2020（令和 2）年度に、公益財団法人大学基準協会から大学基準に適合していると認定された。認定期間は、2021（令和 3）年 4 月 1 日から 2028（令和 10）年 3 月 31 日までの 7 年間である。なお、評価結果において指摘された改善課題については、その改善方策を検討し、本学の内部質保証システムの中で、さらに改善・改革を重ねる好循環を生み出せるよう、取り組んでいるところである。

本学先端理工学研究科・先端理工学部では、上述のような全学的な自己点検・評価システムを活用し、掲げる理念や目標に照らして、研究科・学部全体の課題共有の機会として、自主的・継続的な自己点検・評価活動を行う。また全学大学評価会議が出す評価結果のフィードバックに対して、研究科・学部内に設ける自己点検・評価委員会が改善・改革の方針を検討し、先端理工学研究科・先端理工学部執行部会議の責任により改善策・改革策を実施する。

１４．情報の公表

本学では、在学生、保護者、卒業生、受験生等に向けて、大学の情報（大学の使命、目的、大学の運営状況、教育・研究活動等）を積極的に発信している。

とりわけ、大学の基本情報については、2011（平成 23）年 4 月 1 日施行の学校教育法施行規則等の一部改正（教育情報の公表の義務化）を踏まえ、情報の公表に関する規程を整備し、また、これに基づいて Web サイト「情報公表（基礎データ）」に関するページ（http://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/index.html）において、関係する情報を取りまとめる等、法人情報及び教育情報の積極的な発信・公表に努めている。

具体的な情報公表の内容は以下のとおりである。

（１）大学の教育研究上の目的及び３つのポリシーに関すること

本学の「寄附行為」、「建学の精神」及び「教育理念・目的と３つの方針」に関する情報をホームページ上へ掲載し、本学の教育研究上の目的、３つのポリシーについて情報公表を行っている。

①「学校法人龍谷大学寄附行為」

HOME ＞ 大学紹介 ＞ 情報公表・大学評価 ＞ 情報公表（基礎データ）
＞ 学則・諸規程等に関する情報
https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/info_11.html

②「建学の精神、使命及び理念」

HOME ＞ 大学紹介 ＞ 龍谷大学について ＞ 建学の精神
https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/spirit.html

③「教育理念・目的と３つの方針」

HOME ＞ 大学紹介 ＞ 龍谷大学について ＞「教育理念・目的」と「３つの方針」
https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/

（２）教育研究上の基本組織に関すること

法人運営を行う役員・評議員や本学の役職者、教育研究組織、研究関連組織、事務組織等に関する情報をホームページ上に掲載している。

①「役員・役職者一覧」

HOME ＞大学紹介＞ 龍谷大学について＞ 組織＞ 役員・役職一覧
＞ 龍谷大学　役職者
https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/organaization/office_list_02.html

②「教育研究組織」

HOME ＞ 大学紹介 ＞ 龍谷大学について ＞ 組織 ＞ 教育研究組織図

https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/organaization/education.html

③「研究関連組織」

HOME ＞ 研究 ＞ 研究所・ 研究センター

https://www.kenkyubu.ryukoku.ac.jp/branches/

④「事務組織」

HOME ＞ 大学紹介 ＞ 龍谷大学について ＞ 組織 ＞ 事務組織図

https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/organaization/office.html

（３）教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

教員データベース内に、教員組織や各教員が有する学位及び業績に関する情報を掲載し、教員数については、職階別、男女別、年齢別の情報をそれぞれホームページ内に掲載している。

①「教員データベース」

HOME ＞ 教員データベース

https://rdb.ryukoku.ac.jp/

②「教員数（職階別・男女別数）」

HOME ＞ 大学紹介 ＞ 情報公表・大学評価 ＞ 情報公表（基礎データ）
＞ 学校法人及び学校の基本情報（建学の精神、沿革、組織、学生数・教員数等）
＞ 教員数（職階別・男女別数）

https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/faculty_1.html

③「教員数（年齢別数）」

HOME ＞ 大学紹介 ＞ 情報公表・大学評価 ＞ 情報公表（基礎データ）
＞ 学校法人及び学校の基本情報（建学の精神、沿革、組織、学生数・教員数等）
＞ 教員数（年齢別数）

https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/faculty_2.html

（４）入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

学部及び研究科毎に定める入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）を、ホームページ内「教育理念・目的と３つの方針」に掲載し、入学者数、収容定員、在

学生数については、ホームページ内「学生数・入学定員・入学者数・収容定員等」へそれぞれ掲載している。

また、卒業生数・修了生数については、ホームページ内「学位授与数」へその情報を掲載し、就職者数その他進学者数、就職に関する情報については、ホームページ内「就職・進路決定率」へそれぞれ掲載している。

①「教育理念・目的と３つの方針」

HOME ＞ 大学紹介 ＞ 龍谷大学について ＞「教育理念・目的」と「３つの方針」

https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy/index.html#rinen

②「学生数・入学定員・入学者数・収容定員等」

HOME ＞ 大学紹介 ＞ 情報公表・大学評価 ＞ 情報公表（基礎データ）

＞ 学生数・入学定員・入学者数・収容定員等

https://www.ryukoku.ac.jp/about/factbook/factbook.html

③「学位授与数」

HOME ＞ 大学紹介 ＞ 情報公表・大学評価 ＞ 情報公表（基礎データ）

＞ 学校法人及び学校の基本情報（建学の精神、沿革、組織、学生数・教員数等）

＞ 学位授与数

https://www.ryukoku.ac.jp/about/factbook/factbook_09.html

④「就職・進路決定率」

HOME ＞ 進路・就職支援 ＞ パンフレット・就職関連統計資料 ＞ 就職・進路決定率

https://career.ryukoku.ac.jp/statistical/statistics.html

（５）授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

授業科目やそれぞれの科目毎の授業方法、内容、年間の授業計画に関する情報について、ホームページ内に設置している「シラバス」に掲載している。

①「シラバス」

HOME ＞ 学部・大学院 ＞ 先端理工学部 ＞ 在学生のみなさんへ ＞ web シラバス

https://capella.ws.ryukoku.ac.jp/RSW/SYLD110Init.do

（６）学修の成果に係る評価及び修了の認定に当たっての基準に関すること

成績評価の方法や基準に関する情報については、ホームページ内「学修の成果に係る評価」に、修了の認定に当たっての基準（卒業・修了要件単位数）は、ホームページ内「教育活動に関する情報」に掲載している。

①「学修の成果に係る評価」

HOME ＞ 大学紹介 ＞ 情報公表・大学評価 ＞ 情報公表（基礎データ）
＞ 学修の成果に係る評価

https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/record.html

②「研究科の卒業・修了要件単位数」

HOME ＞ 大学紹介 ＞ 情報公表・大学評価 ＞ 情報公表（基礎データ）
＞ 教育活動に関する情報 ＞各研究科の修了要件単位数

https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/info_03.html

（７）校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

ホームページ内「校地・校舎等の施設・設備に関する情報」にそれらの情報を掲載している。

①「校地・校舎等の施設・設備に関する情報」

HOME ＞ 大学紹介 ＞ 情報公表・大学評価 ＞ 情報公表（基礎データ）
＞ 校地・校舎等の施設・設備に関する情報

https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/info_08.html

（８）授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること

授業料や施設費、入学金等の学費とその他諸会費に関する情報をホームページ上に掲載する他、次年度の学費について保護者に対して通知すること等により、学生から徴収する費用について情報公表を行っている。

①「学費」

HOME ＞ 学生生活 ＞ 学費・奨学金 ＞ 学費等

https://www.ryukoku.ac.jp/campus_career/expense/school.html

（９）大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

本学が実施している学生生活全般に関する情報については、ホームページ内「学生生活・課外活動に関する情報」に、就職支援等進路選択に関する情報については、ホームページ内「進路・就職に関する情報」にそれぞれ掲載している。

①「学生生活・課外活動に関する情報」

HOME ＞ 大学紹介 ＞ 情報公表・大学評価 ＞ 情報公表（基礎データ）
＞ 学生生活・課外活動に関する情報

https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/info_05.html

②「進路・就職に関する情報」

HOME ＞ 大学紹介 ＞ 情報公表・大学評価 ＞ 情報公表（基礎データ）
＞ 進路・就職支援に関する情報

https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/info_07.html

（１０）学位論文に係る評価に当たっての基準

大学院における学位論文に係る評価に当たっての基準については、ホームページ内、学部・研究科紹介ページの「学位論文審査基準」に掲載している。

HOME ＞ 学部紹介 ＞ 理工学研究科 ＞ 研究科概要 ＞ 学位論文審査基準

https://www.rikou.ryukoku.ac.jp/graduate/about/standard.html

（１１）その他

①「認証評価結果」

HOME ＞ 大学紹介 ＞ 情報公表・大学評価 ＞ 認証評価

https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/accreditation.html

②「自己点検・評価」

HOME ＞ 大学紹介 ＞ 情報公表・大学評価 ＞ 内部質保証

https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/evaluation/evaluation.html

③「学則・諸規程等」

HOME ＞ 大学紹介 ＞ 情報公表・大学評価 ＞ 情報公表（基礎データ）
＞ 学則・諸規程等に関する情報

https://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/info_disclosure/information/info_11.html

また、対外的な情報発信については、大学の広報機能の強化・充実を目的として策定した「広報基本戦略」に基づき、マスメディア等に対して積極的な情報発信を実施している。

この他、受験生向けの大学案内誌や本学学生・教職員の活躍や特色ある取り組みを紹介する広報誌「龍谷」の発行、学生広報スタッフによるメールマガジンの配信等により、幅広いステークホルダーに対して、本学の情報発信を行っている。

１５．教育内容等の改善のための組織的な研修等

（１）授業内容及び方法の改善を図るための組織的な研修の計画

教育改善活動を推進する全学的な組織として、本学における教育活動の向上と発

展に寄与し、FD の全学的推進を目的とした学修支援・教育開発センター（以下、「センター」という。）を置き、学部・大学院教育の充実と質保証に向けた事業を展開している。

そのもとに置かれた学修支援・教育開発センター会議（以下、「センター会議」という。）は、センター長、各学部教務主任及び各研究科から選出する委員で構成し、センター事業について審議・決定している。また、各学部・研究科に設置している「FD 委員会」の活動について、センターのもとに「学部 FD 協議会」と「大学院 FD 協議会」を置き、毎年度、各学部・研究科の教育改善活動の総括と次年度の計画を共有し、各学部・研究科の FD 委員会において検討素材として活用できるようにしている。

また、授業内容・方法等の改善を図る取り組みとして、毎年 2 回（各学期 1 回）「学生による学期末の授業アンケート」を実施している。アンケート結果は、全学の平均値との比較等を行い、各授業科目担当教員にフィードバックし、授業改善に活用できるようにしている。この「学生による学期末の授業アンケート」の学部別等集計結果については、学期ごとにセンター会議で配付し、授業改善に活用できるようにするとともに、ホームページ上でも公開している。

（２）大学職員に必要な知識・技能の習得及び向上の取組み

本学では、大学職員に必要な知識・技能の習得及び向上の取組みとして、教育職員・事務職員共同で、大学職員の資質向上を目指した SD に関する研修会を開催するとともに、事務職員のキャリア形成に向けて、必要な知識と技能を計画的・継続的に修得するための各種の研修制度を用意している。

先端理工学研究科・先端理工学部における教職協働の SD 研修会としては、大学職員としての資質向上へ向けたテーマを設定し、そのテーマに基づいた講師を招いた研修会を定期的に開催している。

また、事務職員の研修制度は、学校法人龍谷大学就業規則及び事務職員研修規程において、「研修は、教育と訓練によって、必要な知識と技能を修得させ、事務職員の資質向上と自己啓発を促し、業務の推進を計る人材を養成することを目的とする」と規定されている。事務職員は、本学の目標である「教育」「研究」「社会連携」を深く理解し、大学目標の実現を積極的に遂行するスタッフであることを認識し、その業務の遂行にあたっては、自ら担当する業務が諸政策遂行の一環業務であることを常に意識し、他の業務担当者との連携をはかり教学と経営の両視点からの政策を提案し得るよう、一業務分野の第一人者として専門知識向上に努めるとともに、マネジメント能力を育成するよう支援するための各種研修を実施している。

以　上

設置の趣旨等を記載した書類

【資料目次】

資料 1　先端理工学研究科 先端理工学専攻 修士課程 3 つのポリシー相関図

資料 2　先端理工学研究科 先端理工学専攻 博士後期課程 3 つのポリシー相関図

資料 3　先端理工学研究科 修士課程 カリキュラム

資料 4　先端理工学研究科 プログラム科目一覧

資料 5　先端理工学研究科 博士後期課程 カリキュラム

資料 6　先端理工学研究科 先端理工学専攻 修士課程 履修モデル

資料 7　先端理工学研究科 先端理工学専攻 博士後期課程 履修モデル

資料 8　先端理工学研究科 先端理工学専攻 修了までのスケジュール

資料 9　研究活動に係る不正行為の防止及び対応に関する規程

資料 10　研究活動に係る不正行為の防止及び対応に関する規程第 6 条の 2 にかかる運用細則

資料 11　基礎となる学部との関係図

資料 12　教育職員選考基準

資料 13　龍谷大学先端理工学部教員人事規程

資料 14　職員定年規程

資料 15　研究支援の方針 及び 龍谷大学研究活動に関する指針

資料 16　研究員規程

資料 17　（省略）演習室・大学院合同研究室の見取り図

資料 18　学術雑誌等一覧

先端理工学研究科先端理工学専攻　修士課程　３つのポリシー相関図

資料1

コース名	教育理念・目的	「学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」	「教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）」	「入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）」
数理・情報科学コース	＜先端理工学研究科全体＞ 建学の精神に基づいて、自然・社会と科学との調和を重視し、幅広い教養と理工学の各専門分野における高度の専門知識・技能を身につけ、持続可能な社会の発展に貢献できる高い倫理観を持った高度専門職人材・研究者を育成することを目的とする。 ＜修士課程全体＞ 高度な専門知識のみならず、幅広い教養と倫理意識を備えた科学技術者を育成し、異分野にも知識の幅を広げ、主体的に学び、創造することのできる人材を養成する。	・高度な数学的・数理科学的素養を身につけ、学部で得た知識や論理を深めていくことができる。 ・情報社会におけるIT技術を根底から支える高度な理論、技術を修得することができる。	・学部で身につけた知識・論理をより深め、新たな課題の発見や解決に挑戦し、社会の発展に貢献できる人材の育成を目指す。特に、スペシャリストとジェネラリストのバランスを重要と考え、数理・情報科学分野における幅広い知識と素養を涵養する。そのために、大学院生として必須である研究倫理や技術表現を習得する大学院教養科目を設け、数理解析・応用数理・情報科学の3分野から周辺の学際的分野にわたる多様な特論科目を設置し、複数の分野を融合して学修できる体制を整えるとともに、それぞれの分野を専門とする教員が担当する演習科目、特別研究を設け、体系的に教育課程を編成する。 ・数理・情報科学特別研究の成果は、修士論文として提出し、その審査に合格することを修了要件に含む。 ・社会の要請に応えられるように、ただし、単に流行に流されることのないように、FD活動などを通じてカリキュラムを常に見直す。	・数理・情報科学分野における専門領域および周辺領域の基礎知識を充分修得している人 ・専門分野の研究に対し明確な目的意識と強い意欲を持っている人 ・持続的学修を行う習慣を持ち、自己発言能力に優れた人
知能情報メディアコース		・先端的な知能情報メディア技術、新たな情報産業の創出に寄与できる基盤的能力を持つ。 ・知能情報・メディア技術に関する科学・工学に立脚した研究開発を行うことができる。	・現在の産業構造に対応できるだけでなく、必要とされる先端的な知能情報メディア技術、新たな情報産業の創出に適合することができる人材を育成する。そのため、知能情報メディア分野を中心的な研究対象分野として位置づけ、大学院生としての幅広い教養と倫理意識を涵養する大学院教養科目、自身の専攻分野から周辺の学際的分野まで学修できる多様な特論科目を設置するとともに、研究指導教員が担当する演習科目、特別研究を設け、体系的に教育課程を編成する。 ・特別研究の成果を修士論文として提出し、その審査および最終試験に合格することを求める。 ・カリキュラムはFD活動等を通じて、社会の要請に応えられるように常に見直す。 ・学部における学修の成果を基礎にして、その専門領域の学修の一層の深化をはかり、豊かな見識と専門知識を備えられるように教育課程を整備する。	・知能情報メディア分野における専門領域および周辺領域の基礎知識を充分修得している人 ・専門分野の研究に対し明確な目的意識と強い意欲を持っている人 ・持続的学修を行う習慣を持ち、自己発言能力に優れた人
電子情報通信コース		・電子情報通信技術の急速な進歩に柔軟かつ的確に対応できる。 ・電子情報通信分野における高度な専門的知識と総合的知識を修得し、それに基づいた電子情報通信技術の開発を行うことができる。	・電子情報通信に関する高度な専門知識を用いて社会の発展に寄与できる人材を育成するため、先端理工学基礎演習Ⅰ・Ⅱなどの大学院教養科目、および先端理工学研究、必修の科学技術英語特論・演習、電子工学・通信工学・情報工学の3分野、並びに他コースの特論科目とともに、演習科目として研究指導教員が担当する電子情報通信演習、特別研究として電子情報通信特別研究を設け、体系的に教育課程を編成する。 ・電子情報通信特別研究の成果を修士論文として提出し、その審査および最終試験に合格することを求める。 ・カリキュラムはFD活動等を通じて、社会の要請に応えられるように常に見直す。 ・学部における学修の成果を基礎にして、その専門領域の学修の一層の深化をはかり、豊かな見識と専門知識を備えられるように教育課程を整備する。	・電子情報通信分野における専門領域および周辺領域の基礎知識を充分修得している人 ・専門分野の研究に対し明確な目的意識と強い意欲を持っている人 ・持続的学修を行う習慣を持ち、自己発言能力に優れた人
機械工学・ロボティクスコース		・バランスのとれた機械工学・ロボティクスに関する専門的な知識を修得する。 ・時代が求める機能的な機械システムを構築することができる。	・機械工学・ロボティクスに関する専門知識を用いて社会の発展に寄与できる人材を育成するため、大学院生としての幅広い教養と倫理意識を涵養する大学院教養科目、他コース科目を含めた分野の異なる多数の特論科目とともに、研究指導教員が担当する演習科目や特別研究を設け、幅広い知識を修得できる教育課程を編成する。 ・特別研究の成果を修士論文として提出し、その審査および最終試験に合格することを求める。 ・カリキュラムはFD活動等を通じて、社会の要請に応えられるように常に見直す。 ・学部における学修の成果を基礎にして、その専門領域の学修の一層の深化がはかれるように教育課程を整備する。	・機械工学・ロボティクス分野における専門領域および周辺領域の基礎知識を充分修得している人 ・専門分野のより深い知識の修得と研究に対し、明確な目的意識と強い意欲を持っている人 ・持続的学修を行う習慣を持ち、自己発言能力に優れた人
応用化学コース		・物質や材料に関する高度な専門知識を体系的に身につける。 ・物質や材料に関する高度な専門知識の応用によって、問題解決の方法を見いだすことができる。	・科学技術に関する問題を分析・整理し、解決に導くことのできる人材を育成するため、物質や材料に関する幅広い知識、技術、技術者倫理を「大学院教養科目」で身につける。加えて「無機・セラミックス」、「有機・高分子機能材料」、「生体機能」、「分析評価」の４つの専門的なプログラムから周辺の学際的な分野にわたる多様な「特論科目」や、担当教員による「演習科目」を配置することで、高い専門知識とその応用力を身につけられるよう、体系的なカリキュラムを編成する。 ・「特別研究」では、担当教員の指導の下で研究を実施し、中間報告会で進捗状況を報告しながら、最終的に修士論文にまとめるよう指導する。その過程で、テクニカルライティングやプレゼンテーションの演習を実施し、コミュニケーション能力の向上を図る。 ・社会が求める人材を育成するため、FD活動を通じて、講義・演習内容やカリキュラムを常にアップデートする仕組みを構築する。	・応用化学分野における専門領域および周辺領域の基礎知識を充分修得している人 ・専門分野の研究に対し明確な目的意識と強い意欲を持っている人 ・持続的学修を行う習慣を持ち、自己発言能力に優れた人
環境科学コース		・環境問題の発生源としての人間活動とその背景、および問題となる現象のメカニズムについて幅広く理解することができる。 ・フィールドワークにより観測された様々な事象を理解・解釈し、「共生」の観点から再構築することができる。 ・専門分野の枠にとらわれず、環境諸問題の解決に向けた柔軟な思考を有することができる。	・環境問題の発生源としての人間活動とその背景、および問題となる現象のメカニズムについて幅広く理解できること、フィールドワークにより観測された様々な事象を理解・解釈し、「共生」の観点から再構築できること、ならびに専門分野の枠にとらわれず、環境諸問題の解決に向けた柔軟な思考を有することのできる人材を育成するため、人間の諸活動から生じる環境問題について工学的な視点から研究を進めてきた「環境工学」と、生物および自然のメカニズムや自然と人との関わり合いについて理学・農学的な視点から研究を進めてきた「生態学」の両分野の環境科学コース科目に加え、他コースを含めた分野の異なる多数の特論科目や大学院教養科目とともに、研究指導教員が担当する演習科目と特別研究を設け、体系的に教育課程を編成する。 ・研究指導教員の指導を受けて特別研究を二年間にわたって計画的に遂行することが求められるが、一年次終了時点において中間報告会を実施し、進捗状況の報告と研究計画の見直しについて審査を課す。最終的には特別研究の成果を修士論文として提出させ、その審査および最終試験に合格することを求める。 ・コース内で開催される定期的なFD会議や授業アンケートの結果を踏まえつつ、社会の要請に応えられるようカリキュラムは常に見直す。 ・少人数教育を基本とし、かつ分野横断型の学びの場を提供することで、専門領域および周辺領域の学修の深化をはかり、豊かな見識を備えられるように教育課程を整備する。	・環境科学分野における専門領域および周辺領域の基礎知識を充分修得している人 ・専門分野の研究に対し明確な目的意識と強い意欲を持っている人 ・持続的学修を行う習慣を持ち、自己発言能力に優れた人

先端理工学研究科先端理工学専攻　博士後期課程　３つのポリシー相関図

資料2

コース名	教育理念・目的	「学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」	「教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）」	「入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）」
数理・情報科学コース	＜先端理工学研究科全体＞ 建学の精神に基づいて、自然・社会と科学との調和を重視し、幅広い教養と理工学の各専門分野における高度の専門知識・技能を身につけ、持続可能な社会の発展に貢献できる高い倫理観を持った高度専門職人材・研究者を育成することを目的とする。 ＜博士後期課程全体＞ 高度の専門知識を備えながらも、専門の枠にとらわれず広い視野により多角的な問題解決能力を有する科学技術者を育成し、日本の社会に貢献すると共に、科学技術をあるべき道に導く指導者を養成する。	・修士課程で修得した数学的・数理科学的素養をさらに究め、新たな数理解析の世界を切り開いていくことができる。	・修士課程で修得した知識や論理力を基礎に、さらに高度な専門的知識や技術力を備えるとともに、広い視野により多角的な問題解決能力を有する人材を育成することを目標とする。そのために、異分野を含めた研究者間での議論能力を高めるためのサイエンスコミュニケーション、専門分野を深く学修するための特別講義ならびに研究指導教員が担当する特別研究を設置し、体系的に教育課程を編成する。 ・特別研究における研究成果は、博士論文として提出し、その審査および最終試験に合格することを要求する。 ・修士課程同様、社会の要請、最新の科学技術の動向に応じて、FD活動等により継続的にカリキュラムの改善を行う。	・自立して数理・情報科学分野における専門領域の研究活動を積極的に行うことができる人
		・ソフトウェア開発や情報処理に関するより高度な理論を身につけ、新技術開発に貢献することができる。		・専門分野および周辺分野についての高度な知識を持っている人 ・科学技術の発展に大いに貢献できる研究者を目指している人
知能情報メディアコース		・情報科学・情報工学の高度な知識を用いて、知能情報・メディアに関する新しい解析法・処理法・加工法を自ら提案・展開していくことができる。	・理・工学領域に立脚した知能情報技術およびメディア技術をベースに、現在および将来の産業と社会を牽引する新たな技術・新たな価値を創出することができる人材を育成する。そのため、専門分野に関する特別講義、サイエンスコミュニケーションと研究指導教員が担当する特別研究を設け、体系的に教育課程を編成する。 ・特別研究の成果を博士論文として提出し、その審査および最終試験に合格することを求める。 ・カリキュラムはFD活動等を通じて、最新の科学技術に対応するように改善を行う。 ・研究指導体制の一貫性・継続性を保ち、修士課程における学修の成果をさらに発展させられるように教育課程を整備する。	・自立して知能情報メディア分野における専門領域の研究活動を積極的に行うことができる人
		・単一の学問領域に留まらず、様々な学術領域において、知能情報技術およびメディア技術を用い課題解決を行うことができる。		・専門分野および周辺分野についての高度の知識を持っている人 ・科学技術の発展に大いに貢献できる研究者を目指している人
電子情報通信コース		・電子工学・通信工学・情報工学の高度な専門的知識を用いて、電子情報通信分野の基盤技術の研究開発を行うことができる。	・電子情報通信のさらに高度な専門知識とその周辺分野の知識を活用して社会に貢献すると共に、科学技術をあるべき道に導くことができる人材を育成するため、サイエンスコミュニケーション、専門分野に関する特別講義（電子情報基礎特別講義Ⅰ・Ⅱ・情報処理機構特別講義Ⅰ・Ⅱ・情報システム特別講義Ⅰ・Ⅱ）と研究指導教員が担当する特別研究を設け、体系的に教育課程を編成する。 ・特別研究の成果を博士論文として提出し、その審査および最終試験に合格することを要める。 ・カリキュラムはFD活動等を通じて、最新の科学技術に対応するように改善を行う。 ・研究指導体制の一貫性・継続性を保ち、修士課程における学修の成果をさらに発展させられるように教育課程を整備する。	・自立して電子情報通信分野における専門領域の研究活動を積極的に行うことができる人
		・電子情報通信分野において、自ら課題設定・課題分析・課題解決を行い、学術論文として発表できる。		・専門分野および周辺分野についての高度の知識を持っている人 ・科学技術の発展に大いに貢献できる研究者を目指している人
機械工学・ロボティクスコース		・機械工学・ロボティクスに関する専門分野の高度な知識や技術を有する。	・機械工学・ロボティクスに関する豊かな見識と高度な専門知識を活用して社会に貢献できる人材を育成するため、研究科共通科目の「サイエンスコミュニケーション」や高度な専門知識を修得するための特別講義と研究指導教員が担当する特別研究を設け、より深い専門知識を修得できる教育課程を編成する。 ・特別研究の成果を博士論文として提出し、その審査および最終試験に合格することを求める。 ・カリキュラムはFD活動等を通じて、最新の科学技術に対応するように改善を行う。 ・研究指導体制の一貫性・継続性を保ち、修士課程における学修成果をさらに発展させられるように教育課程を整備する。	・機械工学・ロボティクス分野における専門領域および周辺領域の高度な知識を修得している人
		・社会に貢献できる機械システムを創造することができる。		・自立して機械工学・ロボティクス分野における専門領域の研究活動を積極的に行うことができる人 ・科学技術の発展に貢献できる研究者や世界的な活躍を目指している人
応用化学コース		・物質や材料に関する高度な専門知識とその応用力を身につけ、それらを駆使して科学技術に関する問題を分析・整理し、解決に導くことができる。	・科学技術に関する問題を発見・分析・整理し、解決に導くことのできる自立した研究者を育成するため、「サイエンスコミュニケーション」や専門分野に関する「特別講義」と「特別研究」により応用力を身につける。特別研究においてはテクニカルライティングやプレゼンテーションの演習をあわせて実施することによってコミュニケーション能力の向上を図るなど体系的な教育課程を編成する。 ・特別研究では、担当教員の下で自らの工夫やアイデアによってオリジナリティのある高度な研究を実施し、その成果を専門学会で発表するとともに学術論文として公表できるように指導する。さらに、中間報告会で進捗状況を報告させながら、最終的に博士論文にまとめるよう指導する。 ・社会が求める人材を育成するため、FD活動を通じて、講義・演習内容やカリキュラムをアップデートする仕組みを構築する。	・自立して応用化学分野における専門領域の研究活動を積極的に行うことができる人
		・自身の研究が国際的に占める位置を認識するとともに、その研究領域の中での問題点を発見することができる。		・専門分野および周辺分野についての高度の知識を持っている人 ・科学技術の発展に大いに貢献できる研究者を目指している人
環境科学コース		・既存の公害・環境問題の解決に貢献してきた法律・行政・技術に関する幅広い知識を有する。	・既存の公害・環境問題の解決に貢献してきた法律・行政・技術に関する幅広い知識を有すること、ならびに人間社会のあるべき姿を提示するための生態学的知識と問題解決のための手段を選択するための工学的センスを身につけた人材を育成する。社会で活躍できる専門家としての素養を身につけるサイエンスコミュニケーション、そして専門分野に関する特別講義と研究指導教員が担当する特別研究を設け、体系的に教育課程を編成する。 ・研究指導教員の指導を受けて、専門分野における先端研究の動向について専門分野での一研究者としての立場から、教員とともに情報を収集し、共通理解を深めるとともに問題点や解決すべき課題の発見をするための特別講義を通じて討議の機会を設ける。将来専門分野の技術開発部門において指導的な立場に立つことを期待し、科学者・技術者コミュニティの一員として接するとともに、有益な知見を互いに共有できる双方向のコミュニケーションの場を用意する。環境工学系分野においては、分野横断的な先端研究事例の知見集積を行い、技術者として求められる客観的な思考および表現力を高め、環境に関わる上での自己の哲学を研鑽するよう指導を行う。生態学分野においては、学外の専門家と意見交換することで、研究分野における自らのスタンスを明確にすることを目的として、関連分野の学協会活動への積極的な参加を奨励する。 ・定期的な印会議や授業アンケートの結果を踏まえつつ、最新の科学技術に対応するように常にカリキュラムの改善を行う。 ・研究指導体制の一貫性・継続性を保ち、修士課程における学修の成果をさらに発展させられるように教育課程を整備する。	・専門分野および周辺分野についての高度の知識を持っている人
		・人間社会のあるべき姿を提示するための生態学的知識と、問題解決のための手段を選択するための工学的センスを身につけることができる。		・自立して環境科学分野における専門領域の研究活動を積極的に行うことができる人 ・科学技術の発展に大いに貢献できる研究者を目指している人

先端理工学研究科　修士課程カリキュラム

資料3

区分	必修/選択	開講形態	修了要件単位数	単位数	科目名	備考
大学院教養科目	必修	セメスター	4	2	「先端理工学基礎演習Ⅰ」	「大学院教養科目」の余剰単位はフリーゾーンに算入する。
		セメスター		2	「先端理工学基礎演習Ⅱ」	
	選択	クォーター	－	1	「英語プレゼンテーションⅠ」	
		クォーター		1	「英語プレゼンテーションⅡ」	
		クォーター		1	「科学哲学・科学史」	
		集中		4	「RUBeC演習」	
特　論	必修	集中	1	1	「先端理工学研究」	他コースの「先端理工学研究」はフリーゾーンに算入する。
		セメスター	2	2	「科学技術英語特論・演習」	電子情報通信コースのみ必修
	選択必修	クォーター	11（※1）	6（※2）	「○○○○特論」 ※所属するコース科目から6単位選択必修 （電子情報通信コースは4単位選択必修）	「特論」の余剰単位はフリーゾーンに算入する。
				5	「○○○○特論」 ※所属するコース科目、他コース科目も含めた全特論科目から5単位選択必修	
フリーゾーン			4	4		「大学院教養科目」「特論」の余剰単位はフリーゾーンに算入する。
演習	必修	通年	4	4	「○○（コース名称）演習」	指導教員担当科目を履修（2年次）
特別研究	必修	通年	8	8	「○○（コース名称）特別研究」	指導教員担当科目を履修（1年次・2年次）
修了要件単位数			32			

※1：電子情報通信コースは9単位
※2：電子情報通信コースは4単位

【備考】
・上記カリキュラムは、6コース(数理・情報科学コース、知能情報メディアコース、電子情報通信コース、機械工学・ロボティクスコース、応用化学コース、環境科学コース)共通に適用する。

先端理工学研究科プログラム科目一覧

資料4

プログラム名：数理生態学	
科目名	教員名
反応拡散系特論Ⅰ	村川　秀樹
反応拡散系特論Ⅱ	村川　秀樹
理論生態学特論Ⅰ	三木　健
数理モデリング特論Ⅰ	三木　健
数理モデリング特論Ⅱ	三木　健

プログラム名：数理モデリング	
科目名	教員名
反応拡散系特論Ⅰ	村川　秀樹
反応拡散系特論Ⅱ	村川　秀樹
数理モデル特論Ⅰ	松木平　淳太
数理モデル特論Ⅱ	松木平　淳太
数理科学特論Ⅰ	阪井　一繁
数理科学特論Ⅱ	阪井　一繁

プログラム名：有限要素法	
科目名	教員名
反応拡散系特論Ⅰ	村川　秀樹
反応拡散系特論Ⅱ	村川　秀樹
有限要素法特論	田原　大輔
計算生体力学特論	田原　大輔

プログラム名：ヒューマンコミュニケーション	
科目名	教員名
自然言語処理特論Ⅰ	馬　青
自然言語処理特論Ⅱ	馬　青
人間情報処理特論Ⅰ	酒田　信親
人間情報処理特論Ⅱ	酒田　信親
言語情報処理特論Ⅰ	吉見　毅彦
言語情報処理特論Ⅱ	吉見　毅彦
推薦システム特論Ⅰ	奥　健太
推薦システム特論Ⅱ	奥　健太
情報コミュニケーション特論Ⅰ	渡邉　靖彦
情報コミュニケーション特論Ⅱ	渡邉　靖彦

プログラム名：ヒューマノイド	
科目名	教員名
自然言語処理特論Ⅰ	馬　青
自然言語処理特論Ⅱ	馬　青
機械学習特論Ⅰ	高橋　隆史
機械学習特論Ⅱ	高橋　隆史
生体システム特論Ⅰ	小堀　聡
生体システム特論Ⅱ	小堀　聡
知能システム特論Ⅰ	坂上　憲光
知能システム特論Ⅱ	坂上　憲光
ロボット工学特論Ⅰ	渋谷　恒司
ロボット工学特論Ⅱ	渋谷　恒司

プログラム名：データサイエンス	
科目名	教員名
機械学習特論Ⅰ	高橋　隆史
機械学習特論Ⅱ	高橋　隆史
計算科学特論Ⅰ	樋口　三郎
計算科学特論Ⅱ	樋口　三郎
推薦システム特論Ⅰ	奥　健太
推薦システム特論Ⅱ	奥　健太
知能情報特論Ⅰ	木村　昌弘
知能情報特論 Ⅱ	木村　昌弘
強化学習特論Ⅰ	植村　渉
強化学習特論 Ⅱ	植村　渉

プログラム名：リアル&バーチャルメディア	
科目名	教員名
音響信号処理特論Ⅰ	片岡　章俊
音響信号処理特論Ⅱ	片岡　章俊
信号処理特論	藤田　和弘
画像処理特論	藤田　和弘
言語情報処理特論Ⅰ	吉見　毅彦
言語情報処理特論Ⅱ	吉見　毅彦
コンピュータグラフィックス特論Ⅰ	曽我　麻佐子
コンピュータグラフィックス特論Ⅱ	曽我　麻佐子
情報コミュニケーション特論Ⅰ	渡邉　靖彦
情報コミュニケーション特論Ⅱ	渡邉　靖彦
人間情報処理特論Ⅰ	酒田　信親
人間情報処理特論Ⅱ	酒田　信親

プログラム名：知能情報ソフトウェア	
科目名	教員名
ソフトウェア科学特論Ⅰ	野村　竜也
ソフトウェア科学特論Ⅱ	野村　竜也
知的情報処理特論Ⅰ	三好　力
知的情報処理特論Ⅱ	三好　力
情報システム特論Ⅰ	菅谷　至寛
情報システム特論Ⅱ	菅谷　至寛
ソフトウェア工学特論Ⅰ	山本　哲男
ソフトウェア工学特論Ⅱ	山本　哲男
ソフトウェア理論特論Ⅰ	中野　浩
ソフトウェア理論特論Ⅱ	中野　浩

プログラム名：人工知能アルゴリズム	
科目名	教員名
ソフトウェア科学特論Ⅰ	野村　竜也
ソフトウェア科学特論Ⅱ	野村　竜也
言語情報処理特論Ⅰ	吉見　毅彦
言語情報処理特論Ⅱ	吉見　毅彦
推薦システム特論Ⅰ	奥　健太
推薦システム特論Ⅱ	奥　健太
知能情報特論Ⅰ	木村　昌弘
知能情報特論Ⅱ	木村　昌弘
強化学習特論Ⅰ	植村　渉
強化学習特論Ⅱ	植村　渉
機械学習特論Ⅰ	高橋　隆史
機械学習特論Ⅱ	高橋　隆史
自然言語処理特論Ⅰ	馬　青
自然言語処理特論Ⅱ	馬　青

先端理工学研究科プログラム科目一覧

プログラム名：電子デバイス・マテリアル	
科目名	教員名
電子物性特論Ⅰ	海川　龍治
電子物性特論Ⅱ	海川　龍治
電子ディスプレイ特論	木村　睦
脳型集積回路特論	木村　睦
ナノ計測工学特論Ⅰ	宮戸　祐治
ナノ計測工学特論Ⅱ	宮戸　祐治
量子工学特論	山本　伸一
ナノテクノロジー工学特論	山本　伸一
無機機能材料化学特論Ⅰ	青井　芳史
無機機能材料化学特論Ⅱ	青井　芳史
有機機能材料化学特論Ⅰ	内田　欣吾
有機機能材料化学特論Ⅱ	内田　欣吾
材料物性測定学特論Ⅰ	白神　達也
材料物性測定学特論Ⅱ	白神　達也
固体物性化学特論Ⅰ	小寺　康博
固体物性化学特論Ⅱ	小寺　康博

プログラム名：情報通信ネットワーク	
科目名	教員名
電子情報数学特論	中川　晃成
マイクロ波通信工学特論Ⅰ	石崎　俊雄
マイクロ波通信工学特論Ⅱ	石崎　俊雄
電磁波計測特論Ⅰ	張　陽軍
電磁波計測特論Ⅱ	張　陽軍
知能情報特論Ⅰ	木村　昌弘
知能情報特論Ⅱ	木村　昌弘
アルゴリズム理論特論Ⅰ	角川　裕次
アルゴリズム理論特論Ⅱ	角川　裕次
音声・音響信号処理特論Ⅰ	片岡　章俊
音声・音響信号処理特論Ⅱ	片岡　章俊
情報システム特論Ⅰ	菅谷　至寛
情報システム特論Ⅱ	菅谷　至寛
情報コミュニケーション特論Ⅰ	渡邉　靖彦
情報コミュニケーション特論Ⅱ	渡邉　靖彦

プログラム名：スマート情報システム	
科目名	教員名
電子情報数学特論	中川　晃成
知能情報特論Ⅰ	木村　昌弘
知能情報特論Ⅱ	木村　昌弘
強化学習特論Ⅰ	植村　渉
強化学習特論Ⅱ	植村　渉
生体システム特論Ⅰ	小堀　聡
生体システム特論Ⅱ	小堀　聡
人間情報処理特論Ⅰ	酒田　信親
人間情報処理特論Ⅱ	酒田　信親
景観情報学特論	中川　晃成
脳型集積回路特論	木村　睦
ソフトウェア工学特論Ⅰ	山本　哲男
ソフトウェア工学特論Ⅱ	山本　哲男
機械学習特論Ⅰ	高橋　隆史
機械学習特論Ⅱ	高橋　隆史

プログラム名：高度先進機械工学	
科目名	教員名
熱流体工学特論Ⅰ	塩見　洋一
熱流体工学特論Ⅱ	塩見　洋一
高速空気力学特論	大津　広敬
航空宇宙工学特論	大津　広敬
エネルギー工学特論	野口　佳樹
燃焼特論	野口　佳樹
材料加工特論	譽田　登
強度評価学特論	譽田　登
複合材料力学特論Ⅰ	辻上　哲也
複合材料力学特論Ⅱ	辻上　哲也
有限要素法特論	田原　大輔
計算生体力学特論	田原　大輔
精密加工学特論Ⅰ	小川　圭二
精密加工学特論Ⅱ	小川　圭二
材料工学特論Ⅰ	森　正和
材料工学特論Ⅱ	森　正和
計測システム特論Ⅰ	左近　拓男
計測システム特論Ⅱ	左近　拓男

プログラム名：高度先端ロボティクス	
科目名	教員名
ロボット工学特論Ⅰ	渋谷　恒司
ロボット工学特論Ⅱ	渋谷　恒司
知能システム特論Ⅰ	坂上　憲光
知能システム特論Ⅱ	坂上　憲光
知能制御特論Ⅰ	永瀬　純也
知能制御特論Ⅱ	永瀬　純也
複合材料力学特論Ⅰ	辻上　哲也
計算生体力学特論	田原　大輔
精密加工学特論Ⅰ	小川　圭二
計測システム特論Ⅰ	左近　拓男
強化学習特論Ⅰ	植村　渉

プログラム名：高度熱流体・エネルギー	
科目名	教員名
熱流体工学特論Ⅰ	塩見　洋一
熱流体工学特論Ⅱ	塩見　洋一
高速空気力学特論	大津　広敬
航空宇宙工学特論	大津　広敬
エネルギー工学特論	野口　佳樹
燃焼特論	野口　佳樹
反応拡散系特論Ⅰ	村川　秀樹
反応拡散系特論Ⅱ	村川　秀樹
燃焼工学特論Ⅰ	水原　詞治
燃焼工学特論Ⅱ	水原　詞治
資源循環工学	奥田　哲士
廃棄物処理技術	奥田　哲士

プログラム名：高機能機械材料	
科目名	教員名
複合材料力学特論Ⅰ	辻上　哲也
複合材料力学特論Ⅱ	辻上　哲也
材料工学特論Ⅰ	森　正和
材料工学特論Ⅱ	森　正和
有限要素法特論	田原　大輔
計算生体力学特論	田原　大輔
固体化学特論Ⅰ	大柳　満之
固体化学特論Ⅱ	大柳　満之
無機機能材料化学特論Ⅰ	青井　芳史
無機機能材料化学特論Ⅱ	青井　芳史
有機機能材料化学特論Ⅰ	内田　欣吾
有機機能材料化学特論Ⅱ	内田　欣吾

先端理工学研究科プログラム科目一覧

プログラム名：無機セラミックス	
科目名	教員名
無機機能材料化学特論Ⅰ	青井　芳史
無機機能材料化学特論Ⅱ	青井　芳史
固体化学特論Ⅰ	大柳　満之
固体化学特論Ⅱ	大柳　満之
固体物性化学特論Ⅰ	小寺　康博
固体物性化学特論Ⅱ	小寺　康博
電子ディスプレイ特論	木村　睦
ナノテクノロジー工学特論	山本　伸一
材料工学特論Ⅰ	森　正和
材料工学特論Ⅱ	森　正和

プログラム名：有機・高分子機能材料	
科目名	教員名
有機機能材料化学特論Ⅰ	内田　欣吾
有機機能材料化学特論Ⅱ	内田　欣吾
高分子材料工学特論Ⅰ	中沖　隆彦
高分子材料工学特論Ⅱ	中沖　隆彦
高分子機能科学特論Ⅰ	河内　岳大
高分子機能科学特論Ⅱ	河内　岳大
複合材料力学特論Ⅰ	辻上　哲也
複合材料力学特論Ⅱ	辻上　哲也
資源循環工学	奥田　哲士

プログラム名：生体機能	
科目名	教員名
生物化学特論Ⅰ	宮武　智弘
生物化学特論Ⅱ	宮武　智弘
生体分子工学特論	富崎　欣也
バイオ計測工学特論	富崎　欣也
有機合成化学特論Ⅰ	岩澤　哲郎
有機合成化学特論Ⅱ	岩澤　哲郎
生体システム特論Ⅰ	小堀　聡
生体システム特論Ⅱ	小堀　聡
計算生体力学特論	田原　大輔
生産生態学特論Ⅰ	宮浦　富保
生産生態学特論Ⅱ	宮浦　富保

プログラム名：分析評価	
科目名	教員名
分析科学特論Ⅰ	藤原　学
分析科学特論Ⅱ	藤原　学
材料物性測定学特論Ⅰ	白神　達也
材料物性測定学特論Ⅱ	白神　達也
電気化学特論Ⅰ	糟野　潤
電気化学特論Ⅱ	糟野　潤
水処理工学特論	岸本　直之
環境計量Ⅰ	奥田　哲士
環境計量Ⅱ	奥田　哲士

プログラム名：生態系モニタリング	
科目名	教員名
環境生態学特論AⅠ	山中　裕樹
環境生態学特論AⅡ	山中　裕樹
生態学における実証とデータ解析に関する特論Ⅰ	丸山　敦
生態学における実証とデータ解析に関する特論Ⅱ	丸山　敦
動物生態学特論Ⅰ	岸本　圭子
動物生態学特論Ⅱ	岸本　圭子
理論生態学特論Ⅰ	三木　健
理論生態学特論Ⅱ	三木　健
物質移動現象特論	岸本　直之
森林生態学特論	宮浦　富保
多様性生物学特論	横田　岳人

プログラム名：生態環境アセスメント	
科目名	教員名
環境生態学特論BⅠ	山中　裕樹
環境生態学特論BⅡ	山中　裕樹
生態学とその周辺の先端分析に関する特論Ⅰ	丸山　敦
生態学とその周辺の先端分析に関する特論Ⅱ	丸山　敦
環境動物昆虫学特論Ⅰ	岸本　圭子
環境動物昆虫学特論Ⅱ	岸本　圭子
数理モデリング特論Ⅰ	三木　健
数理モデリング特論Ⅱ	三木　健
環境影響評価特論Ⅰ	藤森　崇
環境影響評価特論Ⅱ	藤森　崇
生産生態学特論	宮浦　富保
保全生物学特論	横田　岳人

プログラム名：都市環境工学	
科目名	教員名
水道工学特論Ⅰ	浅野　昌弘
水道工学特論Ⅱ	浅野　昌弘
下水道工学特論Ⅰ	浅野　昌弘
下水道工学特論Ⅱ	浅野　昌弘
水処理工学特論	岸本　直之
物質移動現象特論	岸本　直之
燃焼工学特論Ⅰ	水原　詞治
燃焼工学特論Ⅱ	水原　詞治
資源利活用特論Ⅰ	菊池　隆之助
資源利活用特論Ⅱ	菊池　隆之助
資源循環工学	奥田　哲士
廃棄物処理技術	奥田　哲士
環境微生物工学特論Ⅰ	越川　博元
環境微生物工学特論Ⅱ	越川　博元

プログラム名：環境リスク評価	
科目名	教員名
環境計量Ⅰ	奥田　哲士
環境計量Ⅱ	奥田　哲士
環境影響評価特論Ⅰ	藤森　崇
環境影響評価特論Ⅱ	藤森　崇
分析科学特論Ⅰ	藤原　学
分析科学特論Ⅱ	藤原　学
エネルギー工学特論	野口　佳樹
物質移動現象特論	岸本　直之
環境生態学特論BⅠ	山中　裕樹
環境生態学特論BⅡ	山中　裕樹
環境微生物工学特論Ⅰ	越川　博元
環境微生物工学特論Ⅱ	越川　博元

先端理工学研究科　博士後期課程カリキュラム

資料5

区分	必修/選択	開講形態	修了要件単位数	単位数	科目名	備考
研究科共通科目	必修	集中	2	2	「サイエンスコミュニケーション」	博士1年次履修科目とする。
特別研究	必修	集中	12	12	「〇〇〇特別研究」	指導教員担当科目を履修（1～3年次）
特別講義	選択	セメスター	－	2	「〇〇〇特別講義」	
修了要件単位数			14			

【備考】
・在学期間を短縮し修了する場合には、上記に加えて「高度専門研究特別講義」(2単位)を必修とする。
・上記カリキュラムは、6コース(数理・情報科学コース、知能情報メディアコース、電子情報通信コース、機械工学・ロボティクスコース、応用化学コース、環境科学コース)共通に適用する。

先端理工学研究科 先端理工学専攻 修士課程　履修モデル

資料6

【養成する人材像】
高度な専門知識のみならず、幅広い教養と倫理意識を備えた理工系人材を育成するため、自身の専門分野から学際的な分野まで幅広く科目履修が可能となる弾力的なカリキュラムを構築することによって、異分野にも知識の幅を広げ、主体的に学び、創造することのできる人材を養成する。

◎：必修科目　　○：選択必修科目　　無印：選択科目　　（ ）内は単位数

配当年次 / 科目区分	1年次				2年次				修了要件単位	分野
	第1クォーター	第2クォーター	第3クォーター	第4クォーター	第5クォーター	第6クォーター	第7クォーター	第8クォーター		
大学院教養科目	◎先端理工学基礎演習Ⅰ(2)	◎先端理工学基礎演習Ⅱ(2)							4	基礎的素養を涵養する関連分野
	大学院教養科目（選択科目） 英語プレゼンテーションⅠ(1) 英語プレゼンテーションⅡ(1) 科学哲学・科学史(1) ＲＵＢｅＣ演習(4)									
特論	◎先端理工学研究(1)※自コース科目								12	専攻分野
	◎科学技術英語特論・演習(2) ※電子情報通信コースのみ									
	○特論科目(1) ※所属するコース科目から6科目（6単位）選択必修※電子情報通信コースは4科目（4単位） ※所属するコース科目、他コース科目も含めた全特論科目から5科目（5単位）選択必修									
演習					◎演習(4) ※指導教員の開講する演習を履修				4	
特別研究	◎特別研究(8) ※指導教員の開講する特別研究を2年間にわたり履修								8	
					フリーゾーン：「大学院教養科目」「特論」の余剰単位はフリーゾーンに算入する。				4	
								修了要件単位数　合計	32	

先端理工学研究科 先端理工学専攻 博士後期課程　履修モデル

資料7

【養成する人材像】
高度の専門知識を備えながらも、専門の枠にとらわれず広い視野により多角的な問題解決能力を有する科学技術者を育成し、日本の社会に貢献すると共に、科学技術をあるべき道に導く指導者を養成する。

◎：必修科目　　○：選択必修科目　　無印：選択科目　　（　）内は単位数

配当年次 / 科目区分	1年次		2年次		3年次		修了要件単位	分野
	前期（第1セメスター）	後期（第2セメスター）	前期（第3セメスター）	後期（第4セメスター）	前期（第5セメスター）	後期（第6セメスター）		
研究科共通科目	◎サイエンスコミュニケーション(2)						2	基礎的素養を涵養する関連分野
特別研究	◎特別研究(12) ※指導教員の開講する特別研究を3年間にわたり履修						12	専攻分野
特別講義	特別講義(2) ※在学期間を短縮し修了する場合は「高度専門研究特別講義」（2単位）を必修とする。						―	
							修了要件単位数　合計	14 ※1

※1：在学期間を短縮し修了する場合は16

先端理工学研究科　先端理工学専攻　修了までのスケジュール

資料8

【修士課程】

年次	月	学位授与までのプロセス	研究指導スケジュール
1 年次	4月	入学式	修士課程修了までの履修・各種手続き等にかかる概要説明及び指導
		履修登録（履修説明会）	3 ポリシー（学位授与の方針、教育課程編成方針、入学者受け入れ方針）の説明
		研究題目届提出 ※指導教員（主）・（副）選定	研究指導体制の確定
	5月		研究指導計画の策定
		研究倫理教育eラーニング受講	
	6月		「研究指導計画書」の配布
	随時		進捗状況に応じ、研究指導や研究計画の見直し等を行う
	2月～5月	修士論文中間発表会	修士論文中間発表での課題点に関する指導
2年次	4月	履修登録（履修説明会）	3 ポリシー（学位授与の方針、教育課程編成方針、入学者受け入れ方針）の説明
	随時		進捗状況に応じ、研究指導や研究計画の見直し等を行う
	12月	修士論文審査願の提出	修士論文題目確定にかかる指導
			（修士論文審査員の選出）
	2月	修士論文・修士論文要旨の提出	
			論文審査
		修士論文審査・公聴会（最終試験）	修士論文公聴会の実施
			修士学位授与に係る審査
	3月	学位記授与式	

【博士後期課程】

年次	月	学位授与までのプロセス	研究指導スケジュール
1 年次	4月	入学式	博士課程修了までの履修・各種手続き等にかかる概要説明及び指導
		履修登録（履修説明会）	3 ポリシー（学位授与の方針、教育課程編成方針、入学者受け入れ方針）の説明
		研究題目届提出 ※指導教員（主）・（副）選定	研究指導体制の確定
	5月		研究指導計画の策定
		研究倫理教育eラーニング受講	
	6月		「研究指導計画書」の配布
	随時		進捗状況に応じ、研究指導や研究計画の見直し等を行う
	2月～5月	博士論文中間発表会	博士論文中間発表での課題点に関する指導
2年次	4月	履修登録（履修説明会）	3 ポリシー（学位授与の方針、教育課程編成方針、入学者受け入れ方針）の説明
	随時		進捗状況に応じ、研究指導や研究計画の見直し等を行う
	2月～5月	博士論文中間発表会	博士論文中間発表での課題点に関する指導
3年次	4月	履修登録（履修説明会）	3 ポリシー（学位授与の方針、教育課程編成方針、入学者受け入れ方針）の説明
	12月	博士論文概要・博士論文審査願の提出	博士論文題目確定にかかる指導
			（博士論文審査員・口述試験委員の選出）
	1月	学位申請・博士論文の提出	
			論文審査
	2月	博士論文公聴会・口述試験（最終試験）	博士論文公聴会・口述試験の実施
			博士学位授与に係る審査
	3月	学位記授与式	

資料９

○研究活動に係る不正行為の防止及び対応に関する規程

平成25年６月13日
改正　平成27年２月26日
平成29年３月22日
令和２年２月27日

（目的）

第１条　この規程は，龍谷大学及び龍谷大学短期大学部（以下「本学」という。）において，研究活動及びそれに関連する業務に従事する全ての者（以下「研究者等」という。）の不正行為の防止及び不正行為が起きたときの対応に関し，必要な事項を定めることを目的とする。

（不正行為）

第２条　この規程において，研究活動に係る不正行為（以下「不正行為」という。）とは以下に定める行為をいう。

(1)　故意又は研究者としてわきまえるべき基本的な注意義務を著しく怠ったことによる，発表された研究成果の中に示された，以下に該当する行為。

イ　捏造，すなわち，存在しないデータ及び研究成果等を作成すること。

ロ　改ざん，すなわち，研究資料・機器・過程を変更する操作を行い，データ又は研究活動によって得られた結果等を真正でないものに加工すること。

ハ　盗用，すなわち，他の研究者のアイディア，分析・解析方法，データ，研究成果，論文又は用語を，当該研究者の了解若しくは適切な表示なく流用すること。

ニ　その他，「龍谷大学　研究活動に関する指針」，本学諸規程を含む関連法令等に反する行為。

(2)　本学の研究費並びに，国，地方公共団体，独立行政法人及び特殊法人等の公的機関から交付される研究費で本学の責任において管理すべきもの（以下「研究費等」という。）を，この規程を含む本学諸規程及び関連法令等に反して使用すること。

（最高管理責任者）

第３条　本学における研究活動及び研究費等の管理・運営に関する最高管理責任者は学長とする。

２　学長は，研究活動に関する行動指針を定めるとともに，次条に定める統括責任者が責任をもって研究活動を管理できるようリーダーシップを発揮して不正行為の防止等に努めなければならない。

（統括責任者）

第４条　本学に，学長を補佐し研究活動及び研究費等の管理・運営に関する実質的な責任者として，統括責任者を置く。

２　統括責任者は，学長が指名する副学長をもって充てる。

３　統括責任者は，第２条に定める不正行為に対応するものとする。

（コンプライアンス推進責任者）

第５条　研究活動及び研究費等の運営，管理を適切に行うため，次の各号に掲げる部署（以下「部署等」という。）にコンプライアンス推進責任者を置く。

⑴　本学の学部（短期大学部を含む。），大学院研究科

⑵　龍谷大学学則第70条及び龍谷大学短期大学部学則第46条に定める付属施設（ただし，図書館及び診療所は除く。）

⑶　矯正・保護総合センター

⑷　第２条第２号の研究費等の管理，運営及び執行に携わる部署

２　コンプライアンス推進責任者は，部署等の長をもって充てる。

３　コンプライアンス推進責任者は，部署等における研究者等の不正行為の防止及び研究倫理の向上に資する啓発活動に努めなければならない。

４　コンプライアンス推進責任者は，第６条の２に定める研究倫理に関する教育（以下「研究倫理教育」という。）を実施し，受講状況の管理監督及び理解度の把握を行わなければならない。

（研究不正行為防止委員会）

第６条　学長は，不正行為の防止に関する方策を策定・実施するため，次の各号に定める委員で組織する研究不正行為防止委員会（以下「不正防止委員会」という。）を学長の下に設置する。

⑴　統括責任者（学長が指名する副学長）　１名

⑵　学長が指名する学部長　１名

⑶　研究部長

⑷　学長が指名する教育職員　若干名

⑸　総務部長

⑹　財務部長

⑺　瀬田事務部長

⑻　研究部事務部長

ただし，委員会における議題の内容が第２条第１号に該当する場合には，第６号及び第７号の委員を除くものとする。

２　不正防止委員会に委員長を置き，前項第１号委員をもって充てる。

３　委員長に事故ある場合は，研究部長がその職務を代行する。

４　不正防止委員会は，次項に掲げる業務を行い，その結果について適宜，学長に報告を行うものとする。

５　不正防止委員会は，次の各号に掲げる業務を行う。

(1)　不正防止計画の企画及び立案に関すること。

(2)　不正防止計画の推進に関すること。

(3)　不正防止計画の検証に関すること。

(4)　研究活動上の不正発生要因に対する改善策に関すること。

(5)　研究者の行動規範等に関すること。

（研究倫理教育）

第６条の２　研究者等は，研究活動に係る関連諸法規及び本学諸規程並びに研究費の執行ルール等について習熟するため，研究倫理教育を受けなければならない。なお，研究倫理教育の受講対象となる研究者等及び実施方法等については，別に定める。

（誓約書の提出）

第６条の３　研究者等は，研究活動に係る関連諸法規及び本学諸規程の内容を遵守し，不正行為を行わないことを誓約した誓約書を学長に提出しなければならない。なお，誓約書を提出する必要がある研究者等及び誓約書の様式等は，別に定める。

２　誓約書を提出しない研究者等は，研究費等の申請並びに運営及び管理に携わることができないものとする。

（相談窓口）

第７条　不正行為についての相談を受け付ける窓口（以下「相談窓口」という。）を研究部に設置する。

２　相談は，学内外の全ての者が行うことができる。

３　相談窓口は，学内外からの問い合わせに適切に対応するものとする。

４　相談に対応した者は，相談者が第９条に定める通報を行わず，かつ，相談の内容に鑑み必要があると判断した場合は，相談者に事前に通知した上で，相談内容を通報として扱うことができる。

５　前項に該当する場合，相談窓口は相談者を保護する方策を講じなければならない。

（通報窓口）

第８条　不正行為についての通報を受け付ける窓口（以下「通報窓口」という。）を研究部に設置し，通報者には研究部長が対応する。

２　通報は，学内外の全ての者が行うことができる。

３　通報への対応の際は，通報者を保護する方策を講じなければならない。

（通報等の方法）

第９条　通報は，書面，電話，電子メール，面談などの手段で自らの氏名を明らかにした上で行うものとし，不正行為を行ったと疑われる研究者の氏名又はグループ名並びに不正行為の内容及び不正であるとする合理的理由等を可能な限り書面（様式１）に明示して行わなければならない。

２　匿名の通報があった場合は，前項の規定にかかわらず，その理由や通報の内容に応じ，自らの氏名を明らかにして通報した場合に準じて取扱うことができるものとする。

３　報道や学会等（以下「報道等」という。）により本学研究者等の不正行為に関する指摘がなされたときは，次条第５項に定める方法によって対応するものとする。

４　書面等，通報窓口が受け付けたか否かを通報者が知り得ない方法によって通報がなされた場合は，学長は，通報者に通報を受け付けたことを通知するものとする。ただし，通報が匿名でなされた場合は，この限りではない。

（通報等の取扱い）

第10条　通報窓口は，通報を受けたとき又は報道等により本学研究者等の不正行為への疑いが指摘されたときは，直ちに学長及び統括責任者に報告するものとする。この場合において，被通報者又は報道等により不正行為への疑いが指摘された研究者等（以下「被通報者等」という。）に本学以外の機関に所属する者が含まれる場合には，当該機関の長にその内容を通知するものとする。

２　学長は，不正行為がこれから行われようとしているという通報がなされた場合，その内容を確認・精査し相当の理由があると認めたときは，被通報者等に対し警告を行い，通報者に対し警告を行った旨を通知する。

３　学長は，通報に係る不正行為が既に行われたと認める場合には，学長が指名する副学長に命じ，次条に定める調査を行わせるとともに，通報者，被通報者等に対しその旨を連絡するものとする。

４　前項の場合において，学長は，通報者，被通報者等及び通報内容等について調査関係者以外に漏洩しないよう秘密保持を徹底するものとする。

5　通報内容が漏洩した場合，学長は，通報者及び被通報者等の了解を得て調査中であるか否かにかかわらず，通報内容を公けに説明することができる。ただし，通報者又は被通報者等の責めに帰すべき事由により漏洩した場合は，当該通報者又は被通報者等の了解は不要とする。

6　報道等により本学研究者等の不正行為に関する指摘がなされたときは，学長は，その内容について報道関係者等へ聞き取り調査等を行い，真偽を判断した上で，次条に定める調査の要否を決定する。

7　通報等を受け付けた際には，被通報者等を保護する方策を講じなければならない。

（予備調査）

第11条　学長は，通報又は報道等（以下「通報等」という。）の内容に応じて，学長が指名する副学長（以下「予備調査責任者」という。）を責任者に命じ，通報内容に関する予備調査（以下「予備調査」という。）を行わせ，調査結果を報告させるとともに，通報を受けた日（報道等の場合は公表日。）の翌日から30日以内に，本格的な調査（以下「本調査」という。）の要否を決定する。

2　予備調査において，被通報者等に本学以外の機関に所属する者が含まれる場合には，当該機関の長に対し合同調査を申し入れる場合がある。

3　予備調査責任者は，予備調査に際し，被通報者等に対して証拠物件等の保全を命じるほか，必要な措置を講じるものとする。

4　予備調査は，以下の構成員によって行う。

(1)　予備調査責任者

(2)　学長が必要と認める者（ただし，通報者及び被通報者等と直接の利害関係のある者を除く）　若干名

5　予備調査では，通報等の際に示された理由等の合理性及び通報等により報告された行為に対する調査可能性について調査を行う。

6　学長は，予備調査の結果，通報等の内容に合理性がないと判断した場合は，その理由及び予備調査に携わった者の所属・氏名を付して本調査を実施しない旨を通報者及び被通報者等に通知するものとする。ただし，この場合において，通報等が悪意に基づくものであることが判明したときは，通報者に所属機関がある場合はその所属長に通知するほか，氏名の公表など必要な措置を講ずるものとする。

7　前項に基づき本調査を実施しないと判断した場合は，当該予備調査に係る資料等を保存し，その事案に係る公的研究費配分機関又は関係省庁及び通報者の求めに応じて開示

するものとする。

8　本規程において，悪意とは，被通報者を陥れるため，あるいは被通報者が行う研究を妨害するためなど，専ら被通報者に何らかの損害を与えることや被通報者が所属する機関・組織等に不利益を与えることを目的とする意思によるものを意味する。

9　学長は，通報等の内容の重大性等に鑑み必要があると判断した場合は，予備調査を経ずに第15条に定める研究不正行為調査委員会（以下「調査委員会」という。）を設置し本調査を行わせることができるものとする。

（予備調査の結果に対する異議申立）

第12条　通報者は予備調査において本調査を実施しない旨の結果通知を受けた際には，通知を受けた日から14日以内に，理由及びその根拠を添えて学長に異議申立を行うことができる。

2　予備調査の結果に対する異議申立は，同一の理由で二度申立てることはできない。

（予備調査の結果に対する再調査）

第13条　学長は，前条第１項に定める異議申立があった場合には，第11条第１項に規定する予備調査責任者を責任者に再度命じ，30日以内に再度予備調査を行わせ調査結果を報告させるとともに，本調査の実施の要否を決定する。

2　学長は，前項の再調査の結果，通報等の内容に合理性がないと判断した場合は，理由を付して本調査を実施しない旨を通報者に通知するものとする。

（本調査）

第14条　学長は，予備調査（予備調査結果に対する再調査を含む。）の結果，通報等の内容に合理性があると判断した場合，又は第11条第９項に基づく判断を行った場合は，真相究明のため，当該判断の日から起算して30日以内に調査委員会を設置し本調査を開始させるものとする。

2　本調査の実施が決定した場合は，学長は，その事案に係る公的研究費配分機関，及び関係省庁に報告するものとする。ただし，調査方針，調査対象及び方法等について，必要に応じてその事案に係る公的研究費配分機関及び関係省庁と協議するものとする。

3　本調査の実施に当たっては，学長は，通報者及び被通報者等に対し，その旨を通知するものとする。また，不正行為が本規程第２条第２号に該当する場合は，必要に応じて当該研究費等の執行に関わる業者等に対しても本調査の実施を通知するものとする。

4　本調査は次に掲げる各号の通り行うものとする。

(1)　通報等の内容が第２条第１号に該当する場合

論文や実験・観察ノート，生データ等の各種資料の精査，関係者のヒアリング等，また必要に応じ，被通報者等による再実験の実施

(2)　通報等の内容が第２条第２号に該当する場合

研究費等の使用に係る学内証拠書類の精査や使用実態の調査，関連業者等を含む関係者へのヒアリング及び当該業者等が保管する証拠書類の精査等

(3)　その他調査委員会が必要と認めた事項

5　本調査の実施に当たっては，調査委員会は，被通報者等に対して弁明の機会を与えなければならない。

6　前項の弁明において，被通報者等が通報等の内容を否認する場合には，自らの責任において科学的根拠又は合理的根拠等を示し不正行為の疑惑を晴らさねばならない。

7　第４項及び前項において，被通報者等が本来存在すべき証拠等を示すことができない場合は，不正行為があったとみなすものとする。ただし，本人の責に帰すべき事由によらず示すことができない場合及び本学における証拠等の保存期間を超えることによるものである場合については，この限りではない。なお，証拠等の保存・開示に係る詳細については，別に定める。

8　本調査の過程で，その事案に係る公的研究費配分機関からの求めがあれば，学長は，調査途上であることを付した中間報告を提出することができる。

9　被通報者等は，正当な理由がない限り，本条の調査等を拒否することができない。

10　被通報者等以外の本学構成員は，本条の調査等に協力しなければならない。

11　本学以外の機関において調査がなされる場合，本学は当該機関に本条の調査等への協力を要請することができる。

12　本調査の実施は，必要に応じて外部機関に委託することができる。

（調査委員会）

第15条　調査委員会は，以下に定める委員で組織する。ただし，通報者及び被通報者等と直接の利害関係のある者を除くものとする。

(1)　学長が指名する副学長

(2)　被通報者等と同一分野の研究者　若干名

(3)　弁護士，公認会計士等，調査に必要な専門的知識を有する者　若干名

(4)　その他学長が必要と認める者

2　調査委員会の構成は，委員の半数以上が学外有識者でなければならない。ただし，学外有識者においては，学校法人龍谷大学と利害関係を有する者を除くものとする。

３　調査委員会に委員長を置き，第１項第１号に定める委員をもって充てる。

４　学長は，通報者及び被通報者等と直接の利害関係のある者を除く学内者から，調査委員会を補佐する者を，任期を定めて委嘱することができる。

５　委員長は，調査委員の氏名や所属を通報者及び被通報者等に通知するものとする。

６　通報者及び被通報者等は，前項の通知を受けた日から14日以内に，調査委員会の構成について理由及びその根拠となる事実を添えて，学長に異議申立てを行うことができる。

７　学長は，前項に定める異議申立ての内容が妥当であると判断した場合は，当該異議申立てに係る調査委員を交代させるとともに，その旨を通報者及び被通報者等に通知するものとする。

８　学長は，第６項に定める異議申立ての内容に合理性がないと判断した場合は，理由を付してその旨を通報者及び被通報者等に通知するものとする。

（調査中の一時的措置）

第16条　学長は，調査期間中，不正行為に係る研究費等の執行停止その他必要な措置を講じることができる。

（認定）

第17条　調査委員会は，本調査の開始後150日以内を目途に，不正行為の有無，不正行為の内容，不正行為に関与した者等について認定するものとする。

２　調査委員会は，調査の過程であっても，不正の事実が一部でも確認された場合には，速やかに学長に報告するとともに，学長は，当該確認事項についてその事案に係る公的研究費配分機関及び関係省庁に報告するものとする。

３　第１項で不正行為がなかったと認定される場合で通報が悪意に基づくものであることが判明したときは，悪意のある通報者として認定するものとする。

４　前項の認定を行うに当たっては，通報者に弁明の機会を与えなければならない。

５　調査委員会は，第１項及び第２項の内容を認定した場合は，速やかに学長に報告するものとする。

６　調査委員会は，前項に定める報告を行う場合は，被通報者等及び悪意のある通報者に対してとるべき措置についてもあわせて学長に勧告するものとする。

（調査委員会の学長宛勧告の内容等）

第18条　調査委員会は，前条第５項に基づき学長宛に勧告を行う場合は，次の事項を明記しなければならない。

(1)　不正行為に該当する事実及び同事実が不正行為に該当する理由

(2)　被通報者等及び悪意のある通報者に対する何らかの措置（就業規則又は学則に基づく懲戒処分を含む）をとることが相当と判断した場合は，その理由とその措置の種類

(3)　その他，調査委員会が必要と判断する事項

２　調査委員会は，審議の結果，前項第２号による措置の種類を調査委員会が判断することが適当でないと考えたときは，その理由を付して，勧告することができる。

３　調査委員会が本条第１項第２号の規定により，職員の懲戒処分を含む勧告を行った場合，当該懲戒事案に関する以後の手続きは，第19条から第23条に定める手続を経た上で，別に定める「職員懲戒手続規程」に従うものとする。

４　調査委員会が本条第１項第２号の規定により，学生の懲戒処分を含む勧告を行った場合，当該懲戒事案に関する以後の手続きは，第19条から第23条に定める手続を経た上で，別に定める「学生懲戒規程」に従うものとする。

（調査結果の通知）

第19条　学長は，第17条の認定に基づく調査結果と本調査に携わった者の所属・氏名を通報者及び被通報者等に通知する。また，通報等の内容が第２条第２号に定める研究費等を用いて行われた研究である場合は，必要に応じてその事案に係る公的研究費配分機関及び当該研究費等の執行に関わる業者等にも通知する。

２　学長は，第17条の認定に基づく調査結果と本調査に携わった者の所属・氏名をその事案に係る公的研究費配分機関及び関係省庁に報告する。

３　学長は，第17条第２項の認定があった場合で通報者が本学に所属していない者である場合には，通報者の所属する機関の長に通知する。

（本調査又は再調査の結果に対する異議申立て）

第20条　前条第１項又は第24条第４項の通知を受けた通報者及び被通報者等は，その内容について異議がある場合は，通知を受けた日から14日以内に，理由及びその根拠を添えて学長に異議申立てを行うことができる。

２　本調査の結果に対する異議申立は，同一の理由で二度申立てることはできない。

３　第１項に定める期日までに異議申立てがない場合，通報者及び被通報者等は，第17条の調査委員会による認定又は第24条の調査委員会による再調査結果を認めたものとみなす。

（勧告・報告に対する学長の措置）

第21条　学長は，学長宛勧告があった後，定められた期日までに通報者及び被通報者等か

ら異議申立がない場合は，調査委員会の事実認定が確定したものとして扱い，速やかに対応する措置（以下「学長の措置」という。）をとらなければならない。

２　学長は，被通報者等以外の者に対して措置が必要であるとの報告を受けたときは，部局長会で審議の上，必要な措置をとるものとする。

（監査委員会の設置等）

第22条　学長は，第20条第１項の異議申立てを受けた場合は，直ちに監査委員会を設置しなければならない。

２　学長は，第20条第１項の異議申立てを受けた場合は，当該通報者及び被通報者等に通知するものとする。

３　学長は，第20条第１項の異議申立てを受けた場合は，その事案に係る公的研究費配分機関及び関係省庁に報告するものとし，第23条第４項に定める異議申立ての却下又は第23条第５項に定める学長の措置として再調査の実施を決定した場合も同様に報告するものとする。

４　第１項の監査委員会は，学長の指名により，部局長会構成員１名以上を含む若干名をもって構成する。ただし，調査委員会の委員及び被通報者等と直接の利害関係にある者は，監査委員になることはできない。

５　第20条第１項の異議申立てが第17条第３項の定めにより悪意のある通報者と認定された者からの場合は，当該通報者の所属機関及び被通報者並びにその事案に係る公的研究費配分機関及び関係省庁に報告するものとし，第23条第４項に定める異議申立ての却下及び第23条第５項に定める学長の措置として再調査の実施を決定した場合も同様に報告するものとする。

（監査の実施とその結果の通知等）

第23条　監査委員会は，可及的速やかに異議申立てに係る監査を行い，その結果を学長宛に報告しなければならない。

２　学長は，監査委員会の報告を，調査委員会に対して通知しなければならない。

３　調査委員会は，前項の報告に対し，意見等がある場合は，これを学長に報告することができる。

４　学長は，監査委員会が異議申立を却下した場合は，調査委員会の事実認定が確定したものとして扱い，学長の措置をとらなければならない。

５　学長は，前項の場合を除いて，本条第１項及び第３項の報告に基づき必要な学長の措置をとらなければならない。

６　学長は，前２項及び第24条第４項に関して，本条第１項及び第３項又は第24条第３項の報告を踏まえ決定した学長の措置を，異議申立者及び調査委員会並びに監査委員会に対して通知しなければならない。

７　学長は，前項の通知に際し，異議申立者には本条第１項及び第３項の報告を，監査委員会には本条第３項の報告を付さなければならない。

（調査委員会による再調査）

第24条　前条第５項に基づき学長の措置として調査委員会による再調査の実施が決定された場合は，調査委員会は，通報者又は被通報者等に対し，先の調査結果を覆すに足る資料等の提出，当該事案の速やかな解決に向けて再調査に協力することを求めることができる。

２　調査委員会は，前項に定める再調査に対する通報者又は被通報者等からの協力が得られない場合は，再調査を打ち切ることができる。なお，その場合は，学長に再調査を打ち切った旨を速やかに報告し，学長は，通報者又は被通報者等にその旨を通知する。

３　再調査について調査委員会は，50日以内に先の調査結果を覆すか否かを決定し，その結論を学長に報告するものとする。ただし，再調査が第17条第３項の定めにより悪意のある通報者と認定された者からの異議申立てに基づくものである場合は，30日以内に結論を学長に報告するものとする。

４　学長は，前項に定める報告を受けた際には，その内容を被通報者等及び通報者に通知するとともに，必要な措置を採らなければならない。ただし，当該報告が第17条第３項の定めにより悪意のある通報者と認定された者からの異議申立てに対するものであり，再調査を終え，それに係る第20条から第24条までの手続を経て，なお悪意のある通報者と認定された場合は，その内容を被通報者等，通報者及び通報者の所属する機関に通知するとともに，必要な学長の措置を採るものとする。

５　学長は，第３項に定める報告を受けた際には，その事案に係る公的研究費配分機関及び関係省庁に報告するものとする。

（監査委員会の権限等）

第25条　監査委員会の権限等については，第14条第２項から第12項，第17条及び第27条を準用する。

（学長の措置の関係部署への通知，調査委員会及び通報者への報告）

第26条　学長は，学長の措置を以下のとおり関係部署に通知及び報告しなければならない。

(1)　被通報者等が教育職員の場合は，その職員が所属する学部等の所属長宛に通知する。

(2)　被通報者等が事務職員の場合は，総務局長宛に通知する。

(3)　被通報者等が学生の場合は，その学生が所属する学部等の所属長宛に通知する。

(4)　調査委員会及び通報者に報告する。

2　前項の学長の措置を通知するに当って，被通報者等及び悪意のある通報者に対する処分を含む場合は，第18条を準用する。

3　学長は不正行為の発生の態様に応じて，本条第１項以外の部署に対しても学長の措置を通知することができる。

（学生生活指導会議等の権限委譲）

第27条　前条第１項第３号の学生がかかわる不正行為に関する事項については，学生生活指導組織規程に基づく学生生活委員会並びに学生生活指導会議及び学生生活連絡会議の権限を，調査委員会に委譲する。

（調査結果の公表等）

第28条　学長は，第11条から第24条までの調査，又は調査及び監査の結果，不正行為があったと認定された場合は，速やかに次の事項を公表するものとする。ただし，第５号に定める措置の内容に懲戒処分を含む場合は，職員懲戒手続規程又は学生懲戒手続規程に基づく手続の終了後，速やかに次の事項を公表するものとする。

(1)　不正行為を行った研究者等の氏名又はグループ名

(2)　不正行為の内容

(3)　調査委員会委員の所属，氏名

(4)　調査委員会が行った調査方法，内容等

(5)　被通報者等又は悪意のある通報者に対する措置の内容

2　学長は，不正行為の内容が第２条第１号に該当する場合には，被通報者等に対し，研究成果の取り下げ等を勧告するなど，必要な措置を講ずる。

3　学長は，不正行為の内容が第２条第２号に該当する場合には，被通報者等に対し，学内研究費の受給停止及び学内外研究資金への申請停止など，必要な措置を講ずる。

4　学長が前２項に定める措置を講じる際には，その事案に係る公的研究費配分機関等が定める規則その他関連法令等に規定される措置をもってかえることができる。

5　学長は，通報が悪意によるものであったと認定した場合には，通報者の所属，氏名を公表する。

（配分機関への報告及び調査への協力等）

第29条　学長は，告発等の受付から210日以内に当該不正事案に係る最終報告書（様式２）をその事案に係る公的研究費配分機関，及び関係省庁に提出するものとする。なお，期限までに第11条から第24条に規定する調査及び監査が完了しない場合であっても，学長は，様式２に沿った内容の調査の中間報告をその事案に係る公的研究費配分機関及び関係省庁に提出しなければならない。

２　学長は，調査に支障がある等，正当な事由がある場合を除き，公的研究費配分機関又は関係省庁から要請があった場合は，当該事案に係る資料の提出若しくは閲覧又は現地調査に応じるものとする。

（名誉回復等）

第30条　学長は，本調査の結果により，不正行為がなかったと認定された場合には，第16条で実施した研究費の執行停止等の措置を解除するとともに，被通報者等の名誉回復に努めなければならない。

（不利益扱いの禁止）

第31条　学長は，第９条に規定する通報を行ったことあるいは通報をされたことのみを理由として，当事者に不利益な取扱いをしてはならない。

（守秘義務）

第32条　不正行為等に起因する問題に対応するすべての者は，当事者のプライバシー，名誉その他の人権を尊重するとともに，その任務の遂行上知り得た情報を他に漏らしてはならない。その職を退いた後も同様とする。

（学外者への措置）

第33条　学長は，次のいずれかの号に該当する者が学外者である場合は，学外者の所属する機関の長と協議のうえ，必要な措置を講ずる等適切な処置を行うものとする。ただし，第３号に該当する学外者に対しては，刑事告訴等の措置を講じることもある。

(1)　不正行為を行ったと認定された研究者等

(2)　不正行為への関与が認定された研究者等

(3)　通報が悪意によるものと認定された通報者

２　学長は，不正行為に関与したと認定された業者等に対し，取引停止等の措置を講じるものとする。

３　前項で定める措置については，学校法人龍谷大学固定資産及び物品調達規程等の本学諸規程及び関係法令によるものとする。

（事務処理）

第34条　本学における研究活動に係る不正行為の防止及び対応に係る事務処理は，以下の通り行う。

(1)　第６条から第31条に定める事項に係る事務処理は，研究部が行う。

(2)　第33条第１項に定める学外者への措置に係る事務処理は，研究部が行う。

(3)　第33条第２項に定める取引停止処分の事務処理は，財務部管理課又は瀬田事務部が行う。

（監査体制）

第35条　本学における研究活動に係る不正行為の防止等に対して，内部監査室は内部監査実施細則に基づき，適宜適正な監査を実施する。

（雑則）

第36条　この規程に定めるもののほか，不正行為の防止及び対応等の必要な事項は，学長が別に定める。

（事務所管）

第37条　この規程に伴う事務は，研究部が所管する。

（改廃）

第38条　この規程の改廃は，評議会において決定する。

付　則

１　この規程は，制定日から施行する。

２　この規程の施行に伴い，公的研究費の適正な管理に関する規程（平成20年２月21日制定）は廃止する。

３　前項の規定にかかわらず，平成25年度は，この規程で定める研究不正行為防止委員会の構成員のうち第３号から第８号委員については，公的研究費の適正な管理に関する規程に定める公的研究費不正防止計画推進委員会の委員をもって充てる。

付　則（平成27年２月26日第５条，第６条，第９条～第11条，第14条，第15条，第17条，第19条，第20条，第22条，第23条，旧別紙様式改正，旧第25条，旧第26条，旧第28条～旧第31条，旧第33条～旧第36条繰下，旧第24条，旧第27条，旧第32条繰下・改正，第６条の２，第６条の３，第24条，第29条，様式２新設）

この規程は，制定日（平成27年２月26日）から施行する。

付　則（抄）（平成29年３月22日第５条，第15条改正）

１　この規程は，平成29年４月１日から施行する。

付　則（令和２年２月27日第２条，第５条，第11条，第14条，第15条，第17条，第19条，第22条，第24条，第29条改正）

この規程は，令和２年４月１日から施行する。

様式1

年　　月　　日

龍谷大学　研究部長　殿

所属：
氏名：　　印
連絡先：

研究活動に係る不正行為について(通報)

「研究活動における不正行為の防止及び対応に関する規程」第9条第1項の規定に基づき，下記の研究者の不正行為について明確な合理的理由を添えて通報いたします。

記

1　不正行為を行ったとする研究者等(グループ)名

所属：
研究者等(又はグループ)名：

2　不正行為の内容(該当事項について具体的に)
①捏造：
②改ざん：
③盗用：
④研究費の不正使用：
⑤その他の不正行為：
※①～③において，既に論文として公表している場合には，論文名も記載すること。

3　不正であるとする合理的理由(根拠資料を添付して提出のこと。)

4　不正行為が発生した日時・場所

5　秘匿を希望する事項

以上

様式2

年　　月　　日

公的研究費配分機関　殿

龍谷大学
学長　○　○　○　○　　印

○○○の不正等について(報告)

平成○年度(競争的資金等の名称を記載)において(不正の名称を記載)が行われたことが判明しましたので，下記のとおり報告します。

記

1　経緯・概要
※　発覚の時期及び契機(※「告発(通報)」の場合はその内容・時期等)
※　調査に至った経緯等

2　調査
(1)　調査体制
※　調査委員会の設置，構成

(2)　調査内容
※　調査期間
※　調査対象(例：対象者(研究者・業者等)，対象研究活動，対象経費(競争的資金等，基盤的資金等))
※　調査方法・手順(書面調査，ヒアリング，再実験等)
※　調査委員会の開催日時・内容
※　監査委員会の開催日時・内容

3　調査結果(不正等の内容)
(1)　認定した不正等の種別(研究費の不正使用(預け金，カラ出張，プール金など)，不正行為(ねつ造，改ざん，盗用))
(2)　不正等に関与した研究者(※共謀者，不正行為(ねつ造，改ざん，盗用)があったと認定した研究に係る論文等の内容について，責任を負う者として認定した研究者を含む。)

氏　　名(所属・役職)	研究者番号

(3)　不正等が行われた研究課題

基盤的経費(私学助成金)		
競争的資金等		
制度名	研究種目名	研究期間
研究課題名　：		
研究代表者氏名(所属・役職)　：		
研究者番号　：		

交付決定額又は委託契約額　(単位：円)				
平成○○年度	平成○○年度	平成○○年度	平成○○年度	平成○○年度

研究組織(研究分担(連携)者氏名(所属・役職)・研究者番号)

(4)　不正等の具体的な内容

・動機／背景

・手法／内容

・私的流用の有無

(5)　調査を踏まえた龍谷大学としての結論と判断理由

(6)　不正等に支出された競争的資金等の額

平成○○年度(内訳)　(単位：円)

費目	交付決定額又は委託契約額	実績報告額	適正使用額	不正使用・不適切使用額
物品費				
旅費				
謝金等				
その他				
直接経費計				
間接経費				
合計				

4　本学がこれまでに行った措置の内容

(例　)競争的資金等の執行停止等の措置，関係者の処分，論文等の取下げ勧告等

5　不正等の発生要因と再発防止策

(1)　不正等が行われた当時の競争的資金等の管理・監査体制

(2)　発生要因

(3)　再発防止策

6　添付書類一覧

以上

資料 10

○研究活動に係る不正行為の防止及び対応に関する規程第６条の２にかかる運用細則

平成27年２月26日

改正　平成29年１月26日

令和２年２月27日

（目的）

第１条　この細則は，研究活動に係る不正行為の防止及び対応に関する規程（以下「規程」という。）第６条の２に規定する研究倫理教育に係る実施方法等の詳細について定める。

（対象）

第２条　次の各号に定める者は，研究倫理教育を受けなければならない。

(1)　規程第５条第１項第１号から第３号までに掲げる部署に所属する研究者

(2)　規程第５条第１項第４号に掲げる部署に所属する者のうち，規程第５条に規定するコンプライアンス推進責任者（以下「コンプライアンス推進責任者」という。）が必要と判断する者

(3)　本学が受け入れる独立行政法人日本学術振興会の特別研究員

(4)　その他コンプライアンス推進責任者が必要と判断する者

（教材及び実施方法）

第３条　龍谷大学及び龍谷大学短期大学部において，研究倫理教育は，次の各号に定める教材を用いるものとする。

(1)　APRIN　eラーニングプログラム(eAPRIN)

(2)　研究倫理eラーニングコース（e―Learning Course on Research Ethics［eL CoRE］）

(3)　「科学の健全な発展のために―誠実な科学者の心得―」（日本学術振興会「科学の健全な発展のために」編集委員会）

(4)　その他統括責任者が適当と判断する教材

２　コンプライアンス推進責任者は，前項各号に定める教材の中から一つ以上を選択し，その通読又は履修を当該部署の対象者に課すことにより，研究倫理教育を実施するものとする。

３　規程第５条第１項第１号に掲げる部署に所属する研究者及び本学の責任において管理する，国，地方公共団体，独立行政法人及び特殊法人等の公的機関から交付される研究費の運営・管理に関わる研究者に対する研究倫理教育は，第１項第１号の教材を用い

た，研究不正行為防止委員会が定める科目の履修を含めることとする。

（実施頻度）

第４条　研究倫理教育は，平成27年度を起点とし，５年度ごとに実施する。

２　前項の規定にかかわらず，第２条第１号に該当する者のうち新規に採用された者及び第２条第２号から第４号までに該当する者に対する初回の研究倫理教育は，着任時又は必要と判断された時に実施する。

（改廃）

第５条　この細則の改廃は，研究不正行為防止委員会の議を経て，部局長会において決定する。

付　則

この細則は，制定日（平成27年２月26日）から施行する。

付　則（平成29年１月26日旧第５条繰下，第５条新設）

この細則は，制定日（平成29年１月26日）から施行する。

付　則（令和２年２月27日第２条，第３条改正，旧第５条繰上，旧第６条繰上・改正，第４条削除）

この細則は，令和２年４月１日から施行する。

基礎となる学部との関係図

資料11



資料 12

○教育職員選考基準

平成６年３月10日
部局長会申合
改正　平成15年３月20日
平成19年２月８日
平成20年３月26日
平成27年２月12日
令和４年１月20日

第１章　通則

（目的）

第１条　専任教育職員（以下「専任教員」という。）の採用及び昇任の選考は，この基準によって行う。

（運用上の原則）

第２条　本基準は，全学的に定める標準基準であり，運用にあたっては，各学部の事情を考慮しつつすすめることとする。

（選考の原則）

第３条　第１条の選考は，人格，経歴及び教育・研究・社会的業績等を総合的に考慮して行う。

（採用及び昇任の基準）

第４条　教授の選考は，次の各号のいずれかに該当し，かつ，教育上及び研究上の能力があると認められる者を対象として行う。

(1)　博士の学位を有し，研究上の業績を有する者

(2)　大学卒業後14年以上，大学における研究歴又は教育歴を有する者

(3)　前２号の該当者と同等以上の学識経験を有すると認められる者

(4)　専攻分野について，教育上，研究上又は実務上の特に優れた知識，能力及び実績を有する者

２　准教授の選考は，次の各号のいずれかに該当し，かつ，教育上及び研究上の能力があると認められる者を対象として行う。

(1)　大学卒業後５年以上，大学における研究歴又は教育歴を有する者

(2)　前号の該当者と同等以上の学識経験を有すると認められる者

(3)　修士の学位を有する者

(4)　専攻分野について，教育上，研究上又は実務上の優れた知識，能力及び実績を有する者

3　講師の選考は，次の各号のいずれかに該当し，かつ，教育上及び研究上の能力があると認められる者を対象として行う。

(1)　修士の学位を有する者又は大学卒業後２年以上の研究歴を有する者

(2)　前号の該当者と同等以上の学識経験を有すると認められる者

(3)　その他特殊な専攻分野について教育上，研究上又は実務上の知識及び能力を有する者

4　助教の選考は，次の各号のいずれかに該当し，かつ，教育上及び研究上の能力があると認められる者を対象として行う。

(1)　修士の学位を有する者又は大学卒業後２年以上の研究歴を有する者

(2)　前号の該当者と同等以上の学識経験を有すると認められる者

(3)　専攻分野について教育上，研究上又は実務上の知識及び能力を有する者

5　助手の選考は，次の各号のいずれかに該当する者を対象として行う。

(1)　学士の学位を有する者

(2)　前号の該当者と同等以上の学識経験を有すると認められる者

6　各学部は，第２条の趣旨にのっとり，前５項各号の基準を標準として，選考に関して別に定めることができる。

第２章　採用の発議等

（増員人事による所属学部・科目の決定）

第５条　増員による新規採用の場合，専任教員の所属学部及び主たる授業担当科目について，学長は，部局長会にはかりこれを決定する。

（増員人事の発議・意見具申）

第６条　増員による新規採用者の所属することとなる学部の学部長（以下「当該学部長」という。）は，専攻科目担当教員人事については当該の学部教授会（以下「当該学部教授会」という。）に，学部共通コース専任教員人事については当該コースの運営委員会に，教養教育科目担当教員人事については教養教育会議に，身分及び募集方法（公募又は推薦）に関する意見の具申を求める。

2　当該コースの運営委員会又は教養教育会議は，前項の求めにつき，当該学部教授会に意見を具申する。

（補充人事の発議・意見具申）

第７条　欠員に伴う専任教員の補充人事の場合，当該学部長は，専攻科目担当教員人事については当該学部教授会に，学部共通コース専任教員人事については当該コースの運営委員会に，教養教育科目担当教員人事については教養教育会議に，主たる授業担当科目の確認並びに身分及び募集方法（公募又は推薦）に関して意見の具申を求める。

２　当該コースの運営委員会又は教養教育会議は，前項の求めにつき，主たる授業担当科目を確認し，身分及び募集方法（公募又は推薦）に関する意見を当該学部教授会に具申する。

（募集の実施）

第８条　当該学部教授会は，当該コースの運営委員会又は教養教育会議からの意見を参考にして募集を行う。

２　公募により募集するときは，募集委員を定め募集を行う。

３　推薦により募集するときは，全学の専任教員から推薦を求める。

（応募状況の確認等）

第９条　当該学部教授会は，応募者の氏名を伏せ，それぞれ年齢，身分，最終学歴及び業績タイトルを記載した一覧表（様式①）により応募者を確認する。

２　前項の確認に基づき当該学部教授会は，審査委員会を設置する。

第３章　昇任の発議等

（昇任推薦の依頼・公示）

第10条　専任教員の昇任人事の場合，各学部長は，毎年10月末日までに第４条の昇任の基準に該当する者につき，全学の専任教員にその推薦を求める。

２　前項の推薦依頼は「龍大月報」への公示をもって行う。

（推薦書の提出）

第11条　推薦者は，同意者２名の連署をもって，被推薦者の推薦書（様式②）を当該学部長に提出しなければならない。

（昇任の発議・確認）

第12条　前条により推薦書を受理した学部長は，氏名，身分及び業績一覧を記載した一覧表（様式③）を添え，遅滞なく当該学部教授会に発議しなければならない。

２　当該学部教授会は，前項の一覧表に基づき，被推薦者を確認する。

第４章　審査委員会

（審査委員会の構成）

第13条　当該学部教授会は，３名の審査委員（以下「委員」という。）により構成される

審査委員会を設置しなければならない。

（審査委員の選出）

第14条　委員は，原則として当該学部教授会構成員から選出する。

２　当該学部教授会は，委員の選出につき適任者がいないと判断するときは，学内の教育職員に委嘱することができる。

（審査委員会の運営）

第15条　第１回の審査委員会は，当該学部長が招集する。

２　審査委員長は，委員の互選による。

（審査資料）

第16条　審査委員会は，審査資料を当該学部長から受理する。

２　採用の場合の審査資料は，応募者から提出された，本人の経歴書（写真貼付），業績一覧及び著書・論文並びに推薦書，その他審査に要する資料をいう。

３　昇任の場合の審査資料は，被推薦者から提出された本人の経歴書，業績一覧，著書・論文及びその他審査に必要な資料をいう。

（審査の期間）

第17条　審査委員会は，第15条第１項の第１回審査委員会の開催の日から30日以内に審査を終了しなければならない。

（審査・審査報告書）

第18条　採用の場合，審査委員会は，１名の候補者を選んで，審査経過及びその内容に関する審査報告書（様式④）を作成しなければならない。ただし，審査委員会が必要と認めたときは，２名の候補者を併記又は２名の候補者につき順位を付して報告することができる。

２　昇任の場合，審査経過及びその内容に関する報告書（様式⑤）を作成しなければならない。

（審査の終了）

第19条　審査委員長は，審査委員会が審査を完了したときは，当該学部教授会に所定の審査終了報告書（様式⑥又は⑦）を提出しなければならない。

第５章　審議

（学部教授会の審議）

第20条　前条の通知を受理した当該学部長は，審査終了報告の日から２週間以内に教授会を招集し，審議を行わなければならない。

２　前項の審議にあたり，学部長は，審査委員全員の出席を求め，審査委員長から報告を受けるものとする。

３　学部教授会の審議に際して，学部長は第18条第１項又は第２項所定の審査報告書及び第16条所定の審査資料を教授会に配布又は呈示しなければならない。

（学部教授会の決定）

第21条　専任教員の採用及び昇任に関する当該学部教授会は，その構成員の３分の２以上の出席をもって成立し，出席者の３分の２以上の賛成をもって議決する。

（審査報告書の保管）

第22条　当該学部長は，審査報告書を，当該人事にかかわる専任教員が在職中，保管しなければならない。

付　則（平成15年３月20日第６条～第８条改正）

この基準は，平成15年４月１日から施行する。

付　則（平成19年２月８日第４条改正）

この基準は，平成19年４月１日から施行する。

付　則（平成20年３月26日第６条～第８条改正）

この基準は，平成20年４月１日から施行する。

付　則（平成27年２月12日第６条～第８条改正）

この基準は，平成27年４月１日から施行する。

付　則（令和４年１月20日第４条，第６条及び第７条，第16条，様式～様式⑦改正）

この基準は，令和４年４月１日から施行する。

様式(第8条関係)

年　　月　　日

推　　薦　　書

学部長　　殿

推薦者
氏名　　印

今般　　担当(職名　　)氏名　　氏を下記のとおり推薦いたします。

(推薦理由)　　記

上記の推薦に同意します。

同意者氏名　　印

同意者氏名　　印

様式①(第9条関係)

応 募 状 況 の 確 認 一 覧

専任教員応募者＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

1　年齢(　　)　　2　身分(　　)

3　最終学歴

○○○大学大学院

○○○学研究科○○○学専攻

○○○○課程単位取得

4　業績タイトル名(別添)

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

○○学部教授会

様式②（第11条関係）

年　　月　　日

昇　　任　　推　　薦　　書

学部長　　殿

推薦者
氏名　　印

今般　　担当（職名　　）氏名　　氏を下記のとおり推薦いたします。

（推薦理由）　　記

上記の推薦に同意します。

同意者氏名　　印
同意者氏名　　印

様式③(第12条関係)

昇 任 人 事 確 認 一 覧(各 通)

1 氏　　名 _____(　　)

2 身　　分　　○○学部(　　)

3 業績一覧

著書又は論文名	発表年月日	発表発行誌

様式④（第18条関係）

年　　月　　日

学部長　　殿

審査委員会
委員長　　印
委　員　　印
委　員　　印

審　　査　　報　　告　　書

今般，下記について審査を終了いたしましたので報告いたします。

記

1　件名

担当
候補者氏名　　氏
にかかる採用審査

2　本文　　別紙のとおり。

以上

様式⑤（第18条関係）

年　　月　　日

学部長　　殿

審査委員会
委員長　　印
委　員　　印
委　員　　印

審　　査　　報　　告　　書

今般，下記について審査を終了いたしましたので報告いたします。

記

1　件名

担当
候補者氏名　　氏
にかかる昇任審査

2　本文　　別紙のとおり。

以上

様式⑥（第19条関係）

年　　月　　日

学部長　　殿

審査委員会
委員長　　印

龍谷大学専任教員採用審査終了報告書

このことについて，「教育職員選考基準」第19条に基づき，下記のとおり報告いたします。

記

1　件名

担当

氏にかかる

採用審査

以上

様式⑦（第19条関係）

年　　月　　日

学部長　　殿

審査委員会
委員長　　印

龍谷大学専任教員昇任審査終了報告書

このことについて，「教育職員選考基準」第19条に基づき，下記のとおり報告いたします。

記

1　件名

担当

氏にかかる

昇任審査

以上

資料 13

龍谷大学先端理工学部教員人事規程

制定　平成３０年１２月１９日
改正　平成３１年　３月１６日
改正　令和　４年　６月２９日

（目的）
第１条　この規程は，教育職員選考基準（以下「全学基準」という。）に基づき，先端理工学部における教員の採用及び昇任についての選考基準及び選考方法を定めることを目的とする。
２　この規程に定めのないものについては，全学基準を適用する。

（適用の範囲）
第２条　この規程は,次の各号に揚げる先端理工学部の専任教育職員及び助教(任期付)，助手（任期付），実験・実習講師，実験・実習助手に適用する。
（１）教授
（２）准教授
（３）講師
（４）助教
（５）助手
（６）実験・実習講師
（７）実験・実習助手

（採用，昇任の基準）
第３条　教授の選考は，次の各号のいずれかに該当し，かつ，教育上及び研究上の能力があると認められる者を対象として行う。
（１）担当科目に関連する博士の学位を有する者又はこれと同等と認められる外国の学位を有する者
（２）大学又は研究開発に関係する機関などにおいて，相当の教育又は研究開発の経歴を持ち，かつ，担当科目に関して学界に認められるに足りる研究業績を有する者
（３）大学等において３年以上准教授としての教育歴を有し，かつ，相当の研究業績を有する者
２　准教授の選考は，次の各号のいずれかに該当し，かつ，教育上及び研究上の能力があると認められる者を対象として行う。
（１）担当科目に関連する博士の学位を有する者又はこれと同等と認められる外国の学位を有する者
（２）修士の学位を取得後５年以上の研究開発歴を有する者又は前号と同等以上の研究開発歴を有する者で，かつ，担当科目に関して相当の研究業績を有する者

（３）大学等において３年以上講師として教育歴を有する者で，かつ，相当の研究業績を有する者

３　講師の選考は，次の各号のいずれかに該当し，かつ，教育上及び研究上の能力があると認められる者を対象として行う。

（１）修士の学位を取得後３年以上の研究開発歴を有する者又はこれと同等以上と認められる研究開発歴のある者で，かつ，担当科目に関して相当の研究開発業績を有する者

（２）大学等において３年以上助教としての教育歴又は助手としての教育補助歴を有する者で，かつ，相当の研究業績を有する者

４　助教及び助教（任期付）（以下「助教（任期付含む。）」という。）の選考は，次の各号のいずれかに該当し，かつ，教育上及び研究上の能力があると認められる者を対象として行う。

（１）修士の学位を有する者又は大学卒業後２年以上の研究歴を有する者

（２）前号の該当者と同等以上の学識経験を有すると認められる者

（３）専攻分野に関して教育上及び研究上の知識及び能力を有する者

５　助手及び助手（任期付）（以下「助手（任期付含む。）」という。）の選考は，次の各号のいずれかに該当し，かつ，教育上及び研究上の能力があると認められる者を対象として行う。

（１）修士の学位を有する者又は大学卒業後２年以上の研究歴を有する者

（２）前号の該当者と同等以上の学識経験を有すると認められる者

６　実験・実習講師の選考は，次の各号のいずれかに該当し，かつ，教育上の能力があると認められる者を対象として行う。

（１）大学等において相当年数の実験・実習助手の経験を有する者

（２）前号と同等以上の経験が認められる者で，すぐれた能力及び職務実績を有する者

７　実験・実習助手の選考は，次の各号のいずれかに該当し，かつ，教育上の能力があると認められる者を対象として行う。

（１）大学学部卒業程度の学力及び実験・実習の履修経験を有する者

（２）実験・実習の指導補助の能力及び経験を有する者

（意見具申）

第４条　第２条に規定する者の採用については，先端理工学部長（以下「学部長」という。）が，専攻科目担当教員人事については当該課程に，教養教育科目担当教員人事については教養教育会議に，教職課程科目担当教員については教職センター会議に，主たる授業担当科目（実験・実習講師，実験・実習助手，助手（任期付含む。）については職務内容）の確認並びに身分及び募集方法に関して意見の具申を求める。

２　当該課程，教養教育会議又は教職センター会議（以下「各課程等」という。）は，学部長に意見を具申する。

（募集の実施，選考等）
第５条　採用人事については，前条に基づき，教授会において意見具申の内容を承認した後，各課程等に募集及び選考を付託する。
２　前項に基づき，各課程等において候補者の募集を行い，応募者の履歴書，研究業績一覧表及び主要業績等（以下「履歴書等」という。）に基づく選考を行った結果を学部長に報告する。
３　募集方法は，原則として公募とする。

（昇任推薦の依頼，公示）
第６条　第２条に規定する者の昇任については，学部長が，第３条の昇任の基準に該当する者につき，全学の専任教育職員にその推薦を求める。
２　前項の推薦依頼は，龍大月報への公示をもって行う。

（推薦書の提出）
第７条　推薦者は，全学基準に基づき，同意者２名の連署による推薦書，履歴書等を学部長に提出しなければならない。

（採用，昇任の発議）
第８条　第５条第２項の選考結果又は前条の推薦書を受理した学部長は，教授会に発議する。

（審査委員会の設置）
第９条　教授会は，前条に基づき，審査委員会を設置する。

（審査委員会の構成）
第 10 条　審査委員会は，教授会から選出された４名の委員（当該課程２名，その他２名）をもって構成する。ただし，教授会構成員に適任者がいないと教授会が判断するときは，他学部の専任教育職員に委嘱することができる。
２　審査委員会は，採用又は昇任に係る職位が教授の場合は教授を，准教授の場合は准教授以上を，講師，助教（任期付含む。），助手（任期付含む。），実験・実習講師及び実験・実習助手の場合は講師以上をもって構成する。
３　審査委員の選出は，教授会で承認を得なければならない。
４　審査委員会に委員長を置き，委員長は委員の互選による。

（審査委員会の職務）
第 11 条　審査委員会は，予め提出された履歴書等に基づいて審査委員会設置日から６０日以内に審査を完了し，審査委員４名の連署による報告書（２０００字程度）を作成して教授会に提出し，委員長が教授会に報告しなければならない。

（採用，昇任の決定）
第 12 条　採用又は昇任の教授会における議決は,教授会構成員の３分の２以上の出席を必要とし，その議決には出席者の４分の３以上の同意を得なければならない。
２　学部長は，審査委員会の報告と教授会の議決との間に，原則として２週間以上の履歴書等の閲覧期間を設けなければならない。

（規程の改廃）
第 13 条　この規程の改廃は，学部長が改廃案を提案し，教授会出席者の３分の２以上の同意をもって決定する。

付　則（平成３１年３月１６日 第１０条，第１１条 削除）
この規程は令和２年４月１日よりこれを施行する。

付　則（令和４年６月２９日 第１条から第４条 改正。第９条を削り，第５条を第９条とし,第６条から第８条を４条ずつ繰り下げ。第４条の次に第５条から第８条 追加。第９条から第 12 条 改正。第 13 条 追加）
この規程は令和４年６月２９日よりこれを施行する。

資料 14

○職員定年規程

昭和54年２月９日
改正　昭和62年５月19日
昭和63年１月13日
平成４年１月16日
平成16年３月25日
平成19年２月22日

第１条　この規程は，「学校法人龍谷大学就業規則」第40条に基づき，本学専任職員の定年について規定する。

第２条　教育職員の定年は，教授については満68歳とし，准教授・講師・助教・助手については満65歳とする。

２　事務職員の定年は，満65歳とする。

第３条　定年による退職期日は，定年に達した当該年度末とする。

第４条　退職手当の支給については，別に定める。

付　則

１　この規程は，昭和54年４月１日から施行する。ただし，将来の情勢の推移を考慮して，施行の年度から10年以内に再検討するものとする。

２　「文学部・短期大学部教育職員停年規程」及び「事務職員停年規程」は廃止する。

付　則（昭和62年５月19日第２条第２項，第３項改正・追加）

この規程は，昭和62年５月19日から施行する。

付　則（昭和63年１月13日第２条改正）

この規程は，昭和63年１月13日から施行する。

付　則（平成４年１月16日題名改正）

この規程は，平成４年１月16日から施行する。

＜参考＞

（評議会議事録に次の事項を記載する）

龍谷大学職員定年規程の一部を改正する規程（制定昭和62年５月19日）に規定する「教育研究上の特別な事情」とは，新学部の設置を意味するものとする。また，第２条第２項は，昭和70年３月31日に廃止するものとする。

付　則（平成16年３月25日第２条改正）

この規程は，平成16年３月25日から施行する。

付　則（平成19年２月22日第２条改正）

この規程は，平成19年４月１日から施行する。

資料 15

研究支援の方針

制定 平成 27 年 2 月 26 日

総合大学としての多様性と学際性を生かし、伝統と地域を基盤にした特色ある研究や国際水準の強みのある研究などに取り組み、国際的な学術文化の向上と科学技術の振興、地域社会の発展に寄与するために、次のような支援を中心に総合的な取り組みを行う。

・強みのある研究と特色のある研究の推進 本学の強みや特色のある研究分野について、学内に研究拠点を設け、次世代の研究者の養成や研究環境の整備等を推進・支援する。

・研究者への支援充実 本学研究者が研究をより一層推進できる体制を確保するとともに、個人研究や共同研究など各分野における基盤的研究の強化を図るために、各付置研究所等の研究活動を推進・支援する。

・外部資金獲得支援体制の充実 外部資金の獲得を研究者個人の努力だけに任せるのではなく、組織的に支援する。

・社会への発信力強化 研究成果や研究活動内容の広報活動を活発に行い、本学の研究に対する社会的評価を向上させる。

龍谷大学研究活動に関する指針

平成 25 年 6 月 6 日
改正 平成 29 年 4 月 27 日

龍谷大学は，建学の精神の具現化を通して，心豊かな人間を育成するとともに，学術文化の振興や豊かな社会づくり，世界の平和と発展に貢献することを使命としている。

ついては，下記のとおり本学の研究者の研究活動に関する指針を定めることにより，本学の研究活動を適正かつ円滑に遂行し，社会からの信頼を確保・維持する。

記

（定義）

1 研究者とは，本学において研究活動に従事するすべての者をいう。

（責務）

2 研究者は，自らが生み出す専門知識や技術の質を確保するとともに新たな知見を創造し，これらの成果を広く社会に提供することにより，社会の発展に寄与するように努める。

（法令等の遵守）

3 研究者は，関係する法令，本学の諸規程，学会等の指針を遵守して，研究活動を行い，研究費の適正な執行に努める。

（公正性）

4 研究者は，研究の遂行及び成果の発表や特許出願等においては，捏造，改ざん，盗用等，研究者としての倫理に反する行為は行わない。

（個人情報の保護）

5 研究者は，研究活動に関わって収集した個人情報を含む資料等の管理に万全を期すとともに，研究遂行上知り得た個人情報を本人の同意なしに他に漏らさない。

（研究環境の維持）

6 研究者は，人権の尊重と相互信頼に努め，快適に研究活動できる環境を維持するよう努める。

（研究対象等への配慮）

7 研究者は，研究への協力者の人格，人権を尊重し，福利に配慮する。動物等に対しては，建学の精神を踏まえ真摯な態度でこれを扱う。

（安全への配慮）

8 研究者は，研究活動を行う上で，事故等が発生しないよう安全の配慮に努める。

（利益相反）

9 研究者は，本学における研究者としての責務と，個人的な利益，あるいは本学以外の組織に対する責務との衝突・相反に十分に留意し，利益相反による弊害が生じないよう努める。

以上

資料16

○研究員規程

平成元年２月23日

改正　令和３年２月25日

（目的）

第１条　この規程は，学問水準の向上及び教育の充実発展を計るため，一定期間研究に専念する専任教育職員（以下「研究員」という。）について，必要な事項を定めることを目的とする。

（研究員の種類）

第２条　研究員の種類は，次の各号に掲げるとおりとする。

(1)　国外研究員及び国内研究員　国外・国内の大学等において研究調査に専念する者

(2)　短期国外研究員及び短期国内研究員　国外・国内の大学等において研究調査に専念する者

(3)　特別研究員　研究調査又は研修に専念する者

(4)　交換研究員　外国の大学又は研究機関との協定に基づき，研究者を相互に交換することにより，学術の国際的交流の推進を計る目的で派遣する者

２　交換研究員については，外国の大学又は研究機関との協定書に基づき実施する。

（研究期間）

第３条　研究員として発令を受ける期間（以下「研究期間」という。）は，次の各号に定めるとおりとする。

(1)　国外研究員及び国内研究員　６カ月間以上１年以内

(2)　短期国外研究員及び短期国内研究員　１カ月以上６カ月未満

(3)　特別研究員　６カ月間以上１年以内

２　国外研究員及び短期国外研究員については，原則として，研究期間中の一時帰国は認めない。ただし，学長がやむを得ない事情により一時帰国が必要であると認めた場合は，この限りではない。

（研究員の数）

第４条　各種研究員の数は，別表１に掲げるとおりとし，「基盤枠」「特別枠」「全学枠」に分けて運用する。

２　基盤枠とは，一定の期間ごとに各学部に割り当てられた研究員数のことをいう。

３　特別枠とは，学科，課程増等による学部教員数の大幅な変動による学部間格差を解消するため，長期又は短期の国内外研究員について，基盤枠に加算し各学部に割り当てら

れた研究員数のことをいう。

４　全学枠とは，基盤枠及び特別枠とは別に，本学における研究を推進させることを目的とし，全学から募集する研究員数のことをいう。

５　各学部における研究員種類ごとの基盤枠の人数について，別表３の交換比率に基づき，交換することができるものとする。

（各年度の研究員数の決定）

第４条の２　年度毎の基盤枠及び特別枠の研究員数については，教育課程に支障をきたさないことを条件とし，各学部教授会（以下「教授会」という。）で決定するものとする。ただし，別表１の定める期間内の研究員数を超えてはならない。

２　年度毎の全学枠の研究員数については，原則４名とする。

（研究員資格）

第５条　研究員となることができる者は，次の各号に定めるとおりとする。ただし，全学枠を利用し研究員となる者は，この限りではない。

(1)　国外研究員及び国内研究員　本学の専任教育職員として３年以上通常勤務した者又は特別研究員終了後４年を経過した者。

(2)　短期国外研究員及び短期国内研究員　本学の専任教育職員として３年以上通常勤務した者。

(3)　特別研究員　本学の専任教育職員として10年以上勤務した者。

２　前項の規定にかかわらず既に研究員の経験がある者で，第12条に規定する研究員の義務を履行していない場合は，原則として研究員に応募することはできない。

（基盤枠及び特別枠の研究員数の報告）

第５条の２　教授会は，別に定める期日までに，次年度の基盤枠及び特別枠の研究員数を決定し，研究部に報告しなければならない。

（研究員の募集）

第６条　研究員の募集は，前条の報告を受け，全学研究運営会議（以下「運営会議」という。）の審議・決定に基づき，研究部が行う。

（研究員の申請）

第７条　研究員となることを希望する者は，所定の様式により研究計画書を添付して，当該教育職員の所属する教授会の議を経て学長に申請するものとする。

（研究員の決定）

第８条　前条の申請を受けた学長は，運営会議に諮って研究員を決定する。

（旅費及び教育研究費の支給）

第９条　研究員には，旅費（別表２に定める支給基準により支給）及び教育研究費を支給する。ただし，特別研究員の旅費及び第10条の規定によって研究期間の延長を受けた者の当該延長期間にかかる旅費は，支給しない。

（研究期間の延長）

第10条　研究員（短期国外研究員及び短期国内研究員，特別研究員を除く。）は，その目的達成のために特別な必要がある場合は，所属の学部長を通じて学長あてに研究期間の延長を願出ることができる。

２　前項の願出は，申請した研究期間終了時までに，所定の書式によりその理由を証する書類等を付して行うものとする。

（期間延長の決定）

第11条　前条の願い出を受けた学部長は，教授会に諮って研究期間延長の可否についての意見（教学に対する手だて等を含めた）を付して，学長に上申するものとする。

２　前項の上申を受けた学長は，運営会議の議を経て，研究期間延長の可否を決定する。

（研究員の義務）

第12条　研究員は，研究期間の終了後，研究期間の２倍に相当する期間は本学に勤務し，研究成果を教育研究に還元するものとする。

２　研究員は，研究期間終了後６カ月以内に研究経過報告書を学長に提出するものとする。

３　研究員は，研究期間終了後１年以内に研究成果報告会，２年以内に著書又は学術雑誌等により，研究成果を公表するものとする。

４　研究員が前２項に定める期限よりも前に退職する場合は，退職日をその期限とする。

（取消し）

第13条　学長は，研究員が病気その他の事由により，研究員としての目的を達成することができないと認める場合は，運営会議の議により，当該研究員に対して研究員の取消しをすることができる。

（旅費等の返還）

第14条　研究員は，前条の規定により研究員を取消された場合は，研究期間の残余に相当する旅費及び教育研究費を返還しなければならない。

２　学長は第12条に規定する研究員の義務のいずれかに違反した者に対し，すでに支給した旅費及び教育研究費の全部の返還を求めることができる。

3　研究員が研究期間の途中で自己都合により退職する場合は，すでに支給を受けた旅費及び教育研究費の全額を返還するものとする。

（旅費の返還免除等）

第15条　前条の規定により旅費の返還義務を負う研究員の所属する教授会は，特別な事情があると認めるときは，その事情を付して学長に対して返還すべき旅費の一部又は全部の返還免除を願出ることができる。

2　前項の願出を受けた学長は，運営会議に諮って返還免除の可否又は返還を免除する金額を決定する。

（細則）

第16条　この規程の施行に必要な細則は，運営会議の議を経て学長が定める。

（事務処理）

第17条　この規程に伴う事務処理は，研究部が行う。

付　則

1　この規程は，平成元年４月１日から施行する。

2　この規程の施行に伴い，研究員規程（昭和61年５月20日施行）は，廃止する。

3　この規程施行の日において，従前の研究員規程により研究員を命じられている者は，なお従前の規程による。

付　則（平成６年３月17日第２条，第３条，第５条～第７条，第９条～第12条，別表２改正）

1　この規程は，平成６年４月１日から施行する。

2　この規程の施行に伴い，短期国外研究員規程（平成５年４月１日施行）は廃止する。

3　この規程施行の日において，従前の研究員規程により研究員を命じられている者は，なお従前の規程による。

付　則（平成６年５月19日第４条，別表１改正）

この規程は，平成６年４月１日から施行する。

付　則（平成７年７月27日別表１改正）

この規程は，平成７年７月27日から施行する。

付　則（平成８年７月25日別表１改正）

この規程は，平成８年４月１日から施行する。

付　則（平成11年１月21日別表２改正）

この規程は，平成11年４月１日から施行する。

付　則（平成11年11月25日別表１改正）

この規程は，平成12年４月１日から施行する。

付　則（平成12年４月20日第２条改正）

この規程は，平成12年４月１日から施行する。

付　則（抄）（平成13年９月27日第６条，第17条改正）

１　この規程は，平成13年４月１日から施行する。

付　則（平成15年７月24日別表１改正）

この規程は，平成16年４月１日から施行する。

付　則（平成16年３月25日第６条，第８条，第11条，第13条，第15条～第17条改正）

この規程は，平成16年４月１日から施行する。

付　則（平成17年１月13日第４条～第６条，別表１改正，第４条の２，第５条の２新設）

１　この規程は，平成17年４月１日から施行する。

２　前項の規定にかかわらず，平成17・18年度の研究員の募集等については，なお従前の例による。

３　平成19年度以降の研究員数の割当については，３年毎に見直すこととする。

付　則（平成19年５月17日第５条，第５条の２，第12条，第14条改正）

この規程は，平成19年４月１日から施行し，平成20年度研究員に申請する者から適用する。

付　則（平成23年３月24日第３条，別表１改正）

この規程は，平成23年４月１日から施行する。

付　則（平成28年３月10日第４条，別表１改正，別表３新設）

１　この規程は，平成29年４月１日から施行する。

２　別表１の国際文化学部から国際学部への学部名称の改正規定については，平成27年４月１日から適用する。

付　則（平成29年３月22日別表１改正）

この規程は，平成29年４月１日から施行する。

付　則（令和２年２月27日第４条，別表１改正）

この規程は，令和２年４月１日から施行する。

付　則（令和２年３月５日別表２改正）

この規程は，令和２年４月１日から施行する。

付　則（令和３年２月25日第１条，第３条～第５条，第12条，別表１改正）

１　この規程は，令和３年４月１日から施行する。

２　前項の規定にかかわらず，第１条及び第５条を除く改正規定は，令和４年度の研究員から適用し，令和３年度以前の研究員は，なお従前の例による。

別表１　年度別研究員数表（第４条関係）

（単位：人）

学部	研究員種類	令和4年度～令和8年度合計			
		基盤枠	特別枠	小計	全学枠
文学部	国外研究員及び国内研究員	11	0	21	20
	短期国外研究員及び短期国内研究員	10			
	特別研究員	9	—	9	
	小計	30	0	30	
経済学部	国外研究員及び国内研究員	8	0	14	
	短期国外研究員及び短期国内研究員	6			
	特別研究員	6	—	6	
	小計	20	0	20	
経営学部	国外研究員及び国内研究員	5	0	9	
	短期国外研究員及び短期国内研究員	4			
	特別研究員	4	—	4	
	小計	13	0	13	
法学部	国外研究員及び国内研究員	8	0	15	
	短期国外研究員及び短期国内研究員	7			
	特別研究員	6	—	6	
	小計	21	0	21	
社会学部	国外研究員及び国内研究員	7	0	13	
	短期国外研究員及び短期国内研究	6			

	員				
	特別研究員	6	―	6	
	小計	19	0	19	
政策学部	国外研究員及び国内研究員	4	1	9	
	短期国外研究員及び短期国内研究員	4			
	特別研究員	3	―	3	
	小計	11	1	12	
国際学部	国外研究員及び国内研究員	6	0	11	
	短期国外研究員及び短期国内研究員	5			
	特別研究員	5	―	5	
	小計	16	0	16	
農学部	国外研究員及び国内研究員	7	2	15	
	短期国外研究員及び短期国内研究員	6			
	特別研究員	6	―	6	
	小計	19	2	21	
先端理工学部	国外研究員及び国内研究員	14	0	26	
	短期国外研究員及び短期国内研究員	12			
	特別研究員	11	―	11	
	小計	37	0	37	
短期大学部	国外研究員及び国内研究員	2	0	4	
	短期国外研究員及び短期国内研究員	2			
	特別研究員	2	―	2	
	小計	6	0	6	
全学合計	国外研究員及び国内研究員	72	3	137	20
	短期国外研究員及び短期国内研究員	62			

	特別研究員	58	―	58	
	合計	192	3	195	20
	総計	―	―		215

① 令和４年度～令和８年度の研究員数については本表に従う。

② 基盤枠・特別枠の研究員は５年間で総数管理し，５年間の範囲内では学部の実情に応じて研究員の人数調整が出来る等の柔軟な実施を行うことが出来る。

別表２ 研究員の旅費及び教育研究費の支給基準表

研究員の種類	支給基準	支給額
国外研究員	旅費及び教育研究費を海外出張旅費規程等により計算	総額300万円を上限とする
国内研究員	旅費及び教育研究費を国内出張旅費規程等により計算	総額100万円を上限とする
短期国外研究員	旅費，日当及び宿泊費を海外出張旅費規程により計算	総額180万円を上限とする
短期国内研究員	旅費，日当及び宿泊費を国内出張旅費規程により計算	総額20万円を上限とする

別表３ 研究員種類を跨いだ数の交換（第４条関係）

交換方法	交換比率
国外研究員及び国内研究員を短期国外研究員及び短期国内研究員に交換	国外研究員及び国内研究員1名 → 短期国外研究員及び短期国内研究員2名
短期国外研究員及び短期国内研究員を国外研究員及び国内研究員に交換	短期国外研究員及び短期国内研究員3名 → 国外研究員及び国内研究員1名
特別研究員を短期国外研究員及び短期国内研究員に交換	特別研究員1名 → 短期国外研究員及び短期国内研究員1名
短期国外研究員及び短期国内研究員を特別研究員に交換	短期国外研究員及び短期国内研究員2名 → 特別研究員1名
国外研究員及び国内研究員を特別研究員に交換	国外研究員及び国内研究員1名 → 特別研究員2名
特別研究員を国外研究員及び国内研究員に交換	特別研究員3名 → 国外研究員及び国内研究員1名
短期国外研究員及び短期国内研究員	短期国外研究員及び短期国内研究員と特別研究員合

と特別研究員を合わせて国外研究員及び国内研究員に交換	計3名　→　国外研究員及び国内研究員1名

資料18

学術雑誌等　一覧

No.	タイトル等	和洋区分
1	Archive = アーカイブ	和
2	Basic数学 / 現代数学社 [編]	和
3	Be kuwa : クワガタムシ・カブトムシの最新情報誌ビー・クワ	和
4	BIO city = ビオシテイ	和
5	Birder : バードウォッチング・マガジン : バーダー	和
6	Bit : コンピュータ・サイエンス誌 / 共立出版 [編]	和
7	Boot strap = ブートストラップ	和
8	Cmagazine = Cマガジン : すべてのC言語プログラマのための技術情報誌 / 日本ソフトバンク [編]	和
9	Computer today	和
10	Design wave magazine = デザインウェーブマガジン	和
11	DTM magazine / 寺島情報企画 [編]	和
12	FAPIG / 第一原子力産業グループ事務局	和
13	Fujitsu / 富士通信機製造株式會社 [編]	和
14	GIS : 理論と応用 = Theory and applications of GIS / 地理情報システム学会 [編]	和
15	Hi Vi : サウンド&ヴィジュアルマガジン = ハイ・ヴイ	和
16	IBM review / 日本アイ・ビー・エム	和
17	Indust = いんだすと / いんだすと編集委員会 [編集]	和
18	Interface = インターフェース / CQ出版 [編]	和
19	Internet magazine = インターネットマガジン	和
20	Internet user	和
21	Journal of bioscience and bioengineering	和
22	Linux magazine : linuxシステム活用専門誌	和
23	Maclife : the macintosh life style magazine = 季刊マックライフ / ビー・エヌ・エヌ	和
24	Mol : 化学技術誌	和
25	National geographic = ナショナルジオグラフィック	和
26	Nature digest	和
27	Nature月刊ダイジェスト	和
28	NEC技報 = NEC technical journal	和
29	NTT R&D	和
30	NTT技術ジャーナル : NTTテレコミュニケーション情報誌 / 日本電信電話株式会社技術情報センター	和
31	NTT施設 / 日本電信電話株式会社施設部	和
32	NTT電気通信研究所研究実用化報告 = Electrical Communications Laboratories technical journal / 日本電信電話株式会社情報管理部技術広報部門	和
33	OHM : 総合電気雑誌	和
34	Open design = オープンデザイン	和
35	Pixel = ピクセル : コンピュータ・グラフィックス総合誌 / 図形処理情報センター [編]	和
36	Popular science	和
37	Population ecology / the Society of Population Ecology	和
38	Professional vision / 日本アイ・ビー・エム	和
39	Prosound	和
40	Provision / 日本アイ・ビー・エム	和
41	R&D : research and development : 神戸製鋼技報	和
42	RRR : railway research review / 鉄道総合技術研究所 [編]	和
43	Science & technology journal = S & T ジャーナル	和
44	Sharp technical journal	和
45	SR科学技術情報 / 高輝度光科学研究センター = / Japan Synchrotron Radiation Research Institute	和
46	Stereo sound = 季刊ステレオサウンド	和
47	Sunworld : the independent journal of Sun and SPARC systems = サンワールド	和
48	Super ASCII = 月刊スーパーアスキー	和
49	Toyota technical review	和
50	Try!PC = トライピーシー	和
51	World watch / ワールドウオッチジャパン	和
52	αK / 川崎製鉄株式会社	和
53	インターフェース / CQ出版 [編]	和
54	エネルギー・資源 = Energy and resources / エネルギー・資源研究会 [編]	和
55	エレクトロニク・セラミクス / 学献社	和
56	エレクトロニクス : 電子雑誌	和
57	エレクトロニクスライフ	和
58	オフィス・オートメーション / オフィス・オートメーション学会編集委員会	和
59	オプトロニクス	和
60	オペレーションズ・リサーチ : 経営の科学 = [O]perations research as a management science [r]esearch	和
61	かんきょう : 人間と環境を考える	和
62	クオリティマネジメント = Quality management / 日本科学技術連盟 [編]	和
63	コンピュータソフトウェア / 日本ソフトウェア科学会編集	和
64	コンピュートロール	和
65	システム/制御/情報 : システム制御情報学会誌 = Systems, control and information / システム制御情報学会	和

No.	タイトル等	和洋区分
66	セメントコンクリート = Cement and concrete / 日本セメント技術協会 [編集]	和
67	セラミックス / 窯業協会 [編]	和
68	センサ技術	和
69	トランジスタ技術	和
70	トランジスタ技術. 増刊, Design wave magazine : デザインウェーブマガジン	和
71	トランジスタ技術. 増刊, トラ技original	和
72	トラ技コンピュータ	和
73	ながれ : 日本流体力学会誌	和
74	ニューセラミックス = New ceramics / ニューセラミックス懇話会	和
75	バイオサイエンスとインダストリー / バイオインダストリー協会 = Bioscience & industry / Bioindustry Development Center (BIDEC)	和
76	はいたっく	和
77	パテント : the patent magazine / 辨理士會 [編]	和
78	パリティ = Parity : physical science magazine	和
79	パリティ. 別冊 / パリティ編集委員会	和
80	ビジネス・コミュニケーション : 専用通信	和
81	ヒューマンインタフェース学会研究報告集 : correspondences on human interface / ヒューマンインタフェース学会 [編]	和
82	ヒューマンインタフェース学会研究報告集 : human interface	和
83	ヒューマンインタフェース学会誌 = Journal of Human Interface Society : human interface	和
84	ヒューマンインタフェース学会論文誌 / ヒューマンインタフェース学会 [編] = Paper of Human Interface Society / Human Interface Society	和
85	ファインセラミックス	和
86	ふぇらむ : 日本鉄鋼協会会報 / 日本鉄鋼協会 [編] = Bulletin of the Iron and Steel Institute of Japan / the Iron and Steel Institute of Japan	和
87	プラスチック成形材料商取引便覧 : 特性データベース / 化学工業日報社	和
88	ぶんせき / 日本分析化学会	和
89	マイコンサーキュラ / [日本マイコンクラブ]編集委員会 [編]	和
90	マツダ財団研究報告書. 科学技術振興関係 / マツダ財団 [編] = / the Mazda Foundation	和
91	まてりあ : 日本金属学会会報 / the Japan Institute of Metals	和
92	リサイクル文化 : 生態系との融和をめざすオピニオン誌 / リサイクル文化編集グループ	和
93	ロボット / 日本産業用ロボット工業会	和
94	遺伝. 別冊 : 生物の科学 / 遺伝学普及会	和
95	遺傳 = The heredity / 日本遺傳學會	和
96	映像情報メディア学会誌 : 映像情報メディア = The journal of the Institute of Image Information and Television Engineers	和
97	応用数理 / 応用数理編集委員会準備会[編集]	和
98	音楽音響研究会資料 / 日本音響学会 [編]	和
99	音楽知覚認知研究 / 日本音楽知覚認知学会	和
100	音声科学研究 / 京都大学音声科学総合研究部会 [編] = Studia phonologica / Institution for Phonetic Sciences, University of Kyoto	和
101	下水道協会誌 = Journal of Japan Sewage Works Association / 日本下水道協会 [編]	和
102	化学 = Chemistry	和
103	化学と工業 / 日本化学会 = Chemistry and chemical industry / the Chemical Society of Japan	和
104	化学と生物 / 日本農芸化学会編	和
105	化学工学 = Chemical engineering / 化学機械協会 [編]	和
106	化学工学論文集 = Kagaku kogaku ronbunshu / 化学工学協会 [編集]	和
107	化學機械 / 化學機械協會 [編]	和
108	化學工業	和
109	科学技術文献サービス : 国立国会図書館月報別冊 = Science & technology information service / 国立国会図書館閲覧部 [編]	和
110	科学技術文献速報. 機械工学編 / 日本科学技術情報センター	和
111	科學 / 岩波書店 [編]	和
112	火力原子力発電 / 火力発電技術協会	和
113	画像電子学会誌 = The journal of the Institute of Image Electronics Engineers of Japan	和
114	画像電子学会誌 = The journal of the Institute of Image Electronics Engineers of Japan / 画像電子学会 [編]	和
115	会計人コース	和
116	海外電気通信 / 電気通信総合研究所 [編]	和
117	環境 = Environment / 環境創造研究センター	和
118	環境アセスメント学会誌 / 環境アセスメント学会 [編] = / the Japan Society for Impact Assessment	和
119	環境と公害 : 自然と人間の共生を求めて	和
120	環境と測定技術 / 日本環境測定分析協会	和
121	環境科学会誌 = Environmental science / 環境科学会 [編]	和
122	環境会議 = Environmental forum	和
123	環境技術 = Environmental conservation engineering / 環境技術研究会 [編]	和
124	環境教育 = Environmental education	和
125	環境情報科学 = Environmental information science / 環境情報科学センター [編]	和
126	環境法研究 = Environmental law journal / 人間環境問題研究会編集	和
127	管球王国 : stereo sound	和
128	岩石砿物砿床學會誌 / 日本岩石砿物砿床學會	和
129	企業診断 / 中小企業診断協會 [編]	和
130	企業會計 = Accounting	和
131	機械の研究	和
132	機械の損害 / 日本機械保険連盟 [編]	和
133	機械工学年鑑 / 機械学會	和

No.	タイトル等	和洋区分
134	機械設計	和
135	機械學會誌 / 機械學會	和
136	機能材料 / シーエムシー [編]	和
137	季刊環境研究 / 公害調査センター [編]	和
138	技術と経済 / 科学技術と経済の会 [編]	和
139	京都大學工學研究 / 京都大学工学研究所	和
140	金属材料技術研究所年報 / 科学技術庁金属材料技術研究所 = / National Research Institute for Metals	和
141	金屬	和
142	型技術 / 日刊工業新聞社 [編]	和
143	経営システム = Management systems : a journal of Japan Industrial Management Association / 日本経営工学会 [編]	和
144	経営情報学会誌 = Journal of the Japan Society for Management Information / 経営情報学会誌編集事務局 [編]	和
145	計測と制御 = Journal of the Society of Instrument and Control Engineers / 計測自動制御学会	和
146	計測技術 / 日本工業出版	和
147	計測自動制御学会論文集 = Transactions of the Society of Instrument and Control Engineers / 計測自動制御学会 [編]	和
148	計量国語学 / 計量国語学会編	和
149	軽金属 : 軽金属研究会誌 = Light metals / 軽金属協会 [編]	和
150	月刊コンピュータ・ダイジェスト = Computer digest	和
151	月刊データ通信 / 情報研究出版会	和
152	月刊マテリアルインテグレーション = Materials integration / ティー・アイ・シィー	和
153	月刊むし	和
154	月刊リナックスワールド = Linux world	和
155	月刊下水道	和
156	月刊海洋 = Kaiyo monthly / 海洋出版株式会社 [編]	和
157	月刊地球 = The earth monthly	和
158	月刊地球. 号外 = Chikyu monthly / 海洋出版 [編]	和
159	月刊地球環境	和
160	月刊廃棄物	和
161	研究報告集 / 科学技術庁金属材料技術研究所 [編] = / National Research Institute for Metals	和
162	原子力eye : くらし・技術・産業 : げんしりょくあい : nuclear viewpoints	和
163	原子力工業	和
164	現代化学 = Chemistry today / 東京化学同人 [編]	和
165	現代化学. 増刊 / 東京化学同人	和
166	現代数学 / 現代数学社 [編]	和
167	固体物理 / アグネ技術センター	和
168	光学 / 応用物理学会光学懇話会 [編]	和
169	公害と対策 = Journal of public nuisance	和
170	工業加熱 / 日本工業炉協会 [編] = Industrial heating / the Japan Industrial Furnace Manufacturers Association	和
171	工業材料 / 日刊工業新聞社 [編]	和
172	鉱物学雑誌 = Journal of the Mineralogical Society of Japan / 日本鉱物学会 [編]	和
173	高圧力 = High pressue / 日本高圧力技術研究会 [編集]	和
174	高温学会誌 / 高温学会	和
175	高分子 / 高分子学会	和
176	混相流 / 日本混相流学会 [編] = Japanese journal of multiphase flow / the Japan Society of Multiphase Flow	和
177	材料 / 日本材料学会	和
178	三井造船技報	和
179	三菱重工技報 = Mitsubishi Heavy Industries technical review / 三菱重工業	和
180	三菱電機技報 : Mitsubishi Denki giho	和
181	三菱日本重工技報 / 三菱日本重工業	和
182	三洋化成ニュース	和
183	産業と環境	和
184	資源・エネルギー統計月報 = Monthly of mineral resources and petroleum products statistics / 経済産業省経済産業政策局調査統計部, 経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部 [編集]	和
185	資源環境対策 = Journal of resources and environment	和
186	自然言語処理 / 言語処理学会 = Journal of natural language processing / Association for Natural Language Processing	和
187	自然保護 = The conservation of nature / 日本自然保護協会 [編]	和
188	写真測量とリモートセンシング / 日本写真測量学会	和
189	社会心理学研究 = Research in social psychology	和
190	住友金属 / 住友金属工業	和
191	住友軽金属技報	和
192	住友電気 = The Sumitomo Electric review	和
193	将来技術研究会会報 / 将来技術研究会事務局	和
194	小松技報 / 小松製作所	和
195	松下電工技報 / 松下電工株式会社技術総務部	和
196	照明学会誌	和
197	省エネルギー = The energy conservation	和
198	情報科学 / 情報科学研究所	和
199	情報考古学 : 日本情報考古学会誌 / 日本情報考古学会 [編集]	和
200	情報処理 / 情報処理学会 [編] = / Information Processing Society of Japan	和

No.	タイトル等	和洋区分
201	情報処理学会デジタルプラクティス = Journal of digital practices / デジタルプラクティス編集委員会 [編]	和
202	情報処理学会研究報告 / 情報処理学会	和
203	情報処理学会研究報告. [システムソフトウェアとオペレーティング・システム] / 情報処理学会	和
204	情報処理学会研究報告. EMB, 組込みシステム / 情報処理学会	和
205	情報処理学会研究報告. EVA, システム評価 / 情報処理学会 [編]	和
206	情報処理学会研究報告. HPC, [ハイパフォーマンスコンピューティング研究報告] / 情報処理学会 [編]	和
207	情報処理学会研究報告. ICS, 知能と複雑系 / 情報処理学会 [編]	和
208	情報処理学会研究報告. IOT, [インターネットと運用技術] = IPSJ SIG Technical Reports / 情報処理学会 [編]	和
209	情報処理学会研究報告. MBL, [モバイルコンピューティングとユビキタス通信研究会研究報告] = IPSJ SIG technical reports / 情報処理学会[編]	和
210	情報処理学会研究報告. SLP, 音声言語情報処理 / 情報処理学会 [編]	和
211	情報処理学会研究報告. UBI, ユビキタスコンピューティングシステム / 情報処理学会 [編]	和
212	情報処理学会研究報告. 音楽情報科学 / 情報処理学会	和
213	情報処理学会研究報告. 計算機アーキテクチャ研究会報告 / 情報処理学会	和
214	情報処理学会研究報告. 自然言語処理研究会報告 / 情報処理学会	和
215	情報処理学会研究報告. 人文科学とコンピュータ研究会報告 / 情報処理学会	和
216	情報処理学会論文誌 / 情報処理学会 [編] = Transactions of Information Processing Society of Japan / Information Processing Society of Japan	和
217	情報処理学会論文誌 : 論文誌ジャーナル / 情報処理学会 = IPSJ journal / Information Processing Society of Japan	和
218	情報処理学会論文誌. コンピュータビジョンとイメージメディア / 情報処理学会 [コンピュータビジョンとイメージメディア研究会論文誌編集委員会] [編]	和
219	情報処理学会論文誌. コンピューティングシステム / 情報処理学会 [コンピューティングシステム編集委員会]	和
220	情報処理学会論文誌. データベース / 情報処理学会 [編]	和
221	情報処理学会論文誌. プログラミング	和
222	情報処理学会論文誌. 数理モデル化と応用 / 情報処理学会 [編]	和
223	情報処理学会論文誌トランザクション / 情報処理学会 [編]	和
224	心理学評論	和
225	新三菱重工技報 / 新三菱重工業株式会社	和
226	新素材新技術情報ファイル	和
227	森林科学 : 日本林学会会報 / 日本林学会会報編集委員会	和
228	人間工学 = The Japanese journal of ergonomics / 日本人間工学会 [編集]	和
229	人工知能 : journal of the Japanese Society for Artificial Intelligence / 人工知能学会 [編]	和
230	人工知能学会誌 = Journal of Japanese Society for Artificial Intelligence / 人工知能学会 [編]	和
231	水環境学会誌 = Journal of Japan Society on Water Environment / 日本水環境学会	和
232	水道協會雜誌	和
233	水文・水資源学会誌	和
234	水利科学 / 水利科学研究所	和
235	数理科学 = Mathematical sciences	和
236	生物工学会誌 : seibutsu-kogaku kaishi / 日本生物工学会 [編]	和
237	精密工学会誌 = Journal of the Japan Society of Precision Engineering / 精密工学会	和
238	石川島播磨技報 = Ishikawajima-Harima engineering review	和
239	川崎重工技報 = K.H.I. technical review	和
240	船舶技術研究所年報 / 運輸省船舶技術研究所	和
241	船舶技術研究所報告 = Report of Ship Research Institute / 運輸省船舶技術研究所 [編]	和
242	大気環境学会誌 / 大気環境学会 [編] = Journal of Japan Society for Atmospheric Environment / Japan Society for Atmospheric Environment	和
243	蛋白質・核酸・酵素 = Protein, nucleic acid and enzyme / 共立出版株式会社 [編]	和
244	地球科學 / 民主主義科学者協会地学團体研究部会編集	和
245	地球環境レポート = Global environmental policy in Japan / 地球環境レポート編集委員会編集	和
246	地質調査所報告	和
247	通訳研究 = Interpretation studies : the journal of the Japan Association for Interpretation Studies / 日本通訳学会 [編]	和
248	通訳翻訳研究 = Interpreting and translation studies : the journal of the Japan Association for Interpreting and Translation Studies / 日本通訳翻訳学会 [編]	和
249	電気学会技術報告 / 電気学会 [編]	和
250	電気事業便覧 / 電気事業連合会統計委員会編	和
251	電気通信研究所研究実用化報告 / 日本電信電話公社電気通信研究所 = Electrical Communication Laboratory technical journal / the Electrical Communication Laboratory, Nippon Telegraph and Telephone Public Corporation	和
252	電子 = Denshi / 電子機械工業会 [編]	和
253	電子工業月報 / 日本電子工業振興協会 [編]	和
254	電子航法研究所報告 = Electronic Navigation Laboratory papers / 運輸省電子航法研究所	和
255	電子材料 = Electronic Materials and Parts / 工業調査会 [編] ; 日本電子材料技術協会監修	和
256	電子情報通信学会技術研究報告. A・P, アンテナ・伝播 / 電子情報通信学会	和
257	電子情報通信学会技術研究報告. EMCJ, [環境電磁工学] / 電子情報通信学会 [編]	和
258	電子情報通信学会技術研究報告. ET, 教育工学 / 電子情報通信学会 [編集]	和
259	電子情報通信学会技術研究報告. MW, マイクロ波 / 電子情報通信学会	和
260	電子情報通信学会技術研究報告. NC, ニューロコンピューティング / 電子情報通信学会	和
261	電子情報通信学会技術研究報告. NLC, 言語理解とコミュニケーション / 電子情報通信学会	和
262	電子情報通信学会技術研究報告. TL, 思考と言語 / 電子情報通信学会	和
263	電子情報通信学会誌 = The journal of the Institute of Electronics, Information and Communication Engineers	和
264	電子情報通信学会論文誌. A, 基礎・境界 = The transactions of the Institute of Electronics, Information and Communication Engineers. A	和
265	電子情報通信学会論文誌. B, 通信 / 電子情報通信学会	和

No.	タイトル等	和洋区分
266	電子情報通信学会論文誌. B, 通信 = The transactions of the Institute of Electronics, Information and Communication Engineers. B	和
267	電子情報通信学会論文誌. B-I, 通信I-情報通信システム・理論 = The transactions of the Institute of Electronics, Information and Communication Engineers	和
268	電子情報通信学会論文誌. B-II, 通信II-無線通信・無線応用 = The transactions of the Institute of Electronics, Information and Communication Engineers	和
269	電子情報通信学会論文誌. C, エレクトロニクス = The transactions of the Institute of Electronics, Information and Communication Engineers. C	和
270	電子情報通信学会論文誌. C-I, エレクトロニクス, I-光・波動 = The transactions of the Institute of Electronics, Information and Communication Engineers	和
271	電子情報通信学会論文誌. C-II, エレクトロニクス, II-電子素子・応用 = The transactions of the Institute of Electronics, Information and Communication Engineers	和
272	電子情報通信学会論文誌. D, 情報・システム = The IEICE transactions on information and systems (Japanese edition)	和
273	電子情報通信学会論文誌. D-I, 情報・システム, I-コンピュータ = The transactions of the Institute of Electronics, Information and Communication Engineers	和
274	電子情報通信学会論文誌. D-I, 情報・システム, I-情報処理 = The transactions of the Institute of Electronics, Information and Communication Engineers. D-I	和
275	電子情報通信学会論文誌. D-II, 情報・システム, II-パターン処理 = The transactions of the Institute of Electronics, Information and Communication Engineers. D-II	和
276	電子情報通信学会論文誌. D-II, 情報・システム, II-情報処理 = The transactions of the Institute of Electronics, Information and Communication Engineers	和
277	電子通信学会雑誌 / 電子通信学会	和
278	電子通信学会誌 = The journal of the Institute of Electronics and Communication Engineers of Japan / 電子通信学会	和
279	電子通信学会論文誌. A / 電子通信学会 = The transactions of the Institute of Electronics and Communication Engineers of Japan. A / the Institute of Electronics and Communication Engineers of Japan	和
280	電子通信学会論文誌. B	和
281	電子通信学会論文誌. D	和
282	電氣通信學會雜誌 = The journal of the Institute of Electrical Communication Engineers of Japan / 電氣通信學會	和
283	電氣雜誌OHM	和
284	都市と廃棄物 = Journal of solid wastes / 水道産業新聞社	和
285	土木学会論文集 / 土木学会 [編]	和
286	土木学会論文集 / 土木学会 = Proceedings of JSCE / Japan Society of Civil Engineers	和
287	東芝レヴュー = Toshiba review	和
288	日経CG = Nikkei computer graphics / 日経マグロウヒル社	和
289	日経Internet solutions = 日経インターネットソリューション	和
290	日経ITプロフェッショナル = IT professionals	和
291	日経Windowsプロ = Nikkei Windows for IT professionals	和
292	日経エコロジー : ecology	和
293	日経エレクトロニクス = Nikkei electronics / 日経マグロウヒル社	和
294	日経コミュニケーション	和
295	日経コンピュータ = Nikkei computer	和
296	日経ソフトウエア = Nikkei software	和
297	日経ニューマテリアル = Nikkei new materials	和
298	日経ニューメディア	和
299	日経マイクロデバイス = Nikkei microdevices	和
300	日経マテリアル&テクノロジー = Nikkei materials & technology	和
301	日経メカニカル = Nikkei mechanical / 日経マグロウヒル社	和
302	日経ものづくり	和
303	日経情報ストラテジー : 企業戦略に情報システムを活用する = Nikkei information strategy	和
304	日新電機技報 / 日新電機	和
305	日本ガスタービン学会誌 / 日本ガスタービン学会	和
306	日本セラミックス協会学術論文誌 : Nippon Seramikkusu Kyokai gakujutsu ronbunshi = Journal of the Ceramic Society of Japan	和
307	日本バーチャルリアリティ学会誌 / 日本バーチャルリアリティ学会 [編] = Journal of the Virtual Reality Society of Japan / Virtual Reality Society of Japan	和
308	日本バーチャルリアリティ学会論文誌 / 日本バーチャルリアリティ学会 [編] = Transactions of the Virtual Reality Society of Japan / the Virtual Reality Society of Japan	和
309	日本バーチャルリアリティ学会論文誌 = Transactions of the Virtual Reality Society of Japan / 日本バーチャルリアリティ学会 [編集]	和
310	日本ロボット学会誌	和
311	日本応用数理学会論文誌 / 日本応用数理学会[編] = Transactions of the Japan Society for Industrial and Applied Mathematics / Japan Society for Industrial and Applied Mathematics	和
312	日本音響学会誌 / 日本音響学会 [編]	和
313	日本音響学会誌 : The journal of the Acoustical Society of Japan	和
314	日本化學雜誌 / 日本化學會	和
315	日本機械学會誌 = Journal of the Society of Mechanical Engineers	和
316	日本機械学會論文集 / 日本機械学会	和
317	日本機械学會論文集. A編 = Transactions of the Japan Society of Mechanical Engineers. A / 日本機械学会	和
318	日本機械学會論文集. B編 = Transactions of the Japan Society of Mechanical Engineers. B / 日本機械学会	和
319	日本機械学會論文集. C編 = Transactions of the Japan Society of Mechanical Engineers. C / 日本機械学会	和
320	日本教育工学会論文誌 / 日本教育工学会	和

No.	タイトル等	和洋区分
321	日本教育工学雑誌 / 日本教育工学雑誌刊行会	和
322	日本金属学会会報 = Bulletin of the Japan Institute of Metals	和
323	日本金屬學會誌 / 日本金属学会 [編]	和
324	日本結晶学会誌 / 日本結晶学会	和
325	日本原子力学会誌 / 日本原子力学会 [編] = Journal of the Atomic Energy Society of Japan / Atomic Energy Society of Japan	和
326	日本航空宇宙学会誌 = Journal of the Japan Society for Aeronautical and Space Sciences / 日本航空宇宙学会	和
327	日本航空宇宙学会論文集 = Journal of the Japan Society for Aeronautical and Space Sciences / 日本航空宇宙学会 [編]	和
328	日本材料強度学会誌 = Journal of the Japanese Society for Strength and Fracture of Materials	和
329	日本色彩学会誌 / 日本色彩学会	和
330	日本水産學會誌 / 日本水産學會 [編] = Bulletin of the Japanese Society of Scientific Fisheries / the Japanese Society of Scientific Fisheries	和
331	日本生態學會誌 / 日本生態學會 [編]	和
332	日本製鋼所技報 / 日本製鋼所	和
333	日本船舶海洋工学会論文集 = Journal of the Japan Society of Naval Architects and Ocean Engineers / 日本船舶海洋工学会 [編]	和
334	日本造船学会論文集 = Journal of the Society of Naval Architects of Japan / 日本造船学会 [編]	和
335	日本舶用機関学会誌 / 日本舶用機関学会 [編]	和
336	日本微生物生態学会誌 = Biseibutsu seitai / 日本微生物生態学会 [編集]	和
337	日本複合材料学会誌 / 日本複合材料学会 = Journal of the Japan Society for Composite Materials / the Japan Society for Composite Materials	和
338	日本物理學會誌 / 日本物理學會	和
339	日本冷凍協会論文集 / 日本冷凍協会	和
340	日本冷凍空調学会論文集 / 日本冷凍空調学会 [編]	和
341	認知科学 = Cognitive studies : bulletin of the Japanese Cognitive Science Society / 日本認知科学会編集	和
342	粘土科学 / 粘土研究会	和
343	廃棄物学会研究発表会講演論文集 = Proceedings of the Annual Conference of the Japan Society of Waste Management Experts	和
344	廃棄物学会誌 / 廃棄物学会 [編] = Waste management research / The Japan Society of Waste Management Experts	和
345	廃棄物資源循環学会誌 / 廃棄物資源循環学会 [編] = Material cycles and waste management research / Japan Society of Material Cycles and Waste Management Research	和
346	廃棄物資源循環学会論文誌 = Journal of the Japan Society of Material Cycles and Waste Management / 廃棄物資源循環学会 [編]	和
347	非破壊検査 : journal of N.D.I / 非破壊検査法研究会 [編]	和
348	標準化ジャーナル / 日本規格協会	和
349	標準化と品質管理	和
350	表面 / 表面談話会, コロイド懇話会 [編]	和
351	表面と真空 = Vacuum and surface science / 日本表面科学会, 日本真空学会 [編]	和
352	表面科学 : hyomen kagaku = Journal of the Surface Science Society of Japan / 日本表面科学会 [編集]	和
353	品質管理 = Statistical quality control / 日本科学技術連盟 [編]	和
354	物性研究 / 物性研究刊行会	和
355	分光研究 / 分光学研究會 [編] = Journal of the spectroscopical research of Japan / Society of the Spectroscopical Research of Japan	和
356	分析化学 = Japan analyst / 日本分析化学会 [編]	和
357	別冊化學工業	和
358	別冊日経サイエンス : Scientific American日本版	和
359	北海道工業開発試験所報告 = Reports of the Government Industrial Development Laboratory, Hokkaido / 工業技術院北海道工業開発試験所	和
360	有機合成化学協会誌 / 有機合成化学協会	和
361	溶接学会誌 = Journal of the Japan Welding Society	和
362	溶接学会論文集 : quarterly journal of the Japan Welding Society	和
363	用水と廃水	和
364	窯業協會誌 = Journal of the Ceramic Association, Japan	和
365	理系への数学 : 高校・大学生のための数学の道	和
366	流れの可視化 = Journal of the Flow Visualization Society of Japan / 流れの可視化学会	和
367	流量年表 = River discharges year book of Japan / 日本河川協会 [編]	和
368	緑の読本 / 公害対策技術同友会 [編]	和
369	應用物理 / 應用物理談話會	和
370	鐵と鋼 : 日本鐵鋼協會々誌	和
371	ネイチャーサイエンス	和
372	Accounts of chemical research	洋
373	ACM computing surveys	洋
374	ACM transactions on Asian language information processing	洋
375	ACM transactions on computer systems / Association for Computing Machinery	洋
376	ACM transactions on computer-human interaction	洋
377	ACM transactions on database systems	洋
378	ACM transactions on information and system security	洋
379	ACM transactions on information systems : a publication of the Association for Computing Machinery	洋
380	ACM transactions on programming languages and systems	洋
381	Acta crystallographica. Sect. A, Foundations of crystallography	洋
382	Acta crystallographica. Sect. B, Structural science	洋
383	Acta informatica	洋
384	Acta materialia	洋
385	Acta metallurgica et materialia	洋
386	Acta polymerica	洋
387	Advances in applied mathematics	洋

No.	タイトル等	和洋区分
388	Advances in differential equations	洋
389	Advances in mathematics of communications / American Institute of Mathematical Sciences [&] Shandong University	洋
390	Advances in physics	洋
391	AI magazine	洋
392	AIAA journal / American Institute of Aeronautics and Astronautics	洋
393	AIChE journal / American Institute of Chemical Engineers	洋
394	Algorithmica	洋
395	American Ceramic Society bulletin	洋
396	American journal of physiology. Endocrinology and metabolism	洋
397	American naturalist / the American Society of Naturalists	洋
398	American scientist / Scientific Research Society of North America	洋
399	Analytica chimica acta	洋
400	Analytical chemistry	洋
401	Analytical communications	洋
402	Analytical proceedings : proceedings of the Analytical Division of the Royal Society of Chemistry	洋
403	Angewandte Chemie	洋
404	Animal behaviour / Association for the Study of Animal Behaviour	洋
405	Annales de l'Institut Fourier	洋
406	Annales de l'Institut Henri Poincaré. Analyse non linéaire	洋
407	Annals of botany. New series	洋
408	Annals of physics	洋
409	Annals of pure and applied logic	洋
410	Annual review of ecology and systematics	洋
411	Annual review of ecology, evolution, and systematics	洋
412	Applicable analysis : an international journal	洋
413	Applied and environmental microbiology	洋
414	Applied artificial intelligence : an international journal	洋
415	Applied mathematics and optimization	洋
416	Applied mechanics reviews : AMR : an assessment of the world literature in engineering sciences / the American Society of Mechanical Engineers	洋
417	Applied microbiology and biotechnology	洋
418	Applied physics letters	洋
419	Applied spectroscopy	洋
420	Archive for rational mechanics and analysis	洋
421	Archives des sciences / Société de physique et d'histoire naturelle de Genève	洋
422	Archives des sciences et compte rendu des séances de la société / édités par la Société de physique et d'histoire naturelle de Genève	洋
423	Archives of environmental contamination and toxicology	洋
424	Artificial intelligence : an international journal	洋
425	Artificial life	洋
426	ASHRAE journal	洋
427	Astérisque / Société mathématique de France	洋
428	Asymptotic analysis	洋
429	AT & T technical journal : a journal of the AT & T Companies	洋
430	AT&T technology : products, systems and services	洋
431	Attention, perception, & psychophysics : AP&P	洋
432	Australian journal of physics : a journal for the publication of original research in pure and applied physics	洋
433	Automatica : the international journal on automatic control and automation	洋
434	Automotive engineering	洋
435	Bell Labs technical journal	洋
436	Biochemistry / American Chemical Society	洋
437	Biodiversity and conservation	洋
438	Biological cybernetics	洋
439	Biology letters / the Royal Society	洋
440	Biomacromolecules	洋
441	Bioorganic & medicinal chemistry	洋
442	Bioorganic & medicinal chemistry letters	洋
443	Biophysical journal / the Biophysical Society	洋
444	Bio-systems	洋
445	Bulletin of environmental contamination and toxicology	洋
446	Bulletin of the American Mathematical Society. New series / American Mathematical Society	洋
447	Bulletin of the Chemical Society of Japan / Chemical Society of Japan	洋
448	Byte	洋
449	Canadian journal of fisheries and aquatic sciences = Journal canadien des sciences halieutiques et aquatiques	洋
450	Carbohydrate polymers	洋
451	Cement and concrete research	洋
452	Ceramic abstracts / compiled by the American Ceramic Society	洋
453	Ceramic engineering and science proceedings	洋
454	Ceramic source / compiled by the American Ceramic Society	洋

No.	タイトル等	和洋区分
455	Chemical abstracts. Applied chemistry and chemical engineering sections / Chemical Abstracts Service	洋
456	Chemical abstracts. Physical and analytical chemistry sect / American Chemical Society	洋
457	Chemical communications / Chemical Society, London	洋
458	Chemical communications : chem comm / the Royal Society of Chemistry	洋
459	Chemical reviews	洋
460	Chemistry : a European journal	洋
461	Chemistry of materials : a publication of the American Chemical Society / American Chemical Society	洋
462	Cognitive science	洋
463	Communications in mathematical physics	洋
464	Communications in partial differential equations	洋
465	Communications of the Association for Computing Machinery / Association for Computing Machinery	洋
466	Communications on applied mathematics / Institute for Mathematics and Mechanics, New York University	洋
467	Communications on pure and applied analysis	洋
468	Communications on pure and applied mathematics / Institute for Mathematics and Mechanics, New York University	洋
469	Complex systems	洋
470	Composites	洋
471	Composites. Part A, Applied science and manufacturing	洋
472	Compte rendu des séances de la société de physique et d'histoire naturelle de Geneve. N.S	洋
473	Comptes rendus de l'Académie des sciences. Série générale, La vie des sciences	洋
474	Comptes rendus de l'Académie des sciences. Série I, Mathématique	洋
475	Comptes rendus. Mathématique / Académie des sciences	洋
476	Computational linguistics / the Association for Computational Linguistics	洋
477	Computer architecture news	洋
478	Computer communication review : a quarterly publication of the special interest group on data communication / Association for Computing Machinery	洋
479	Computer graphics and image processing	洋
480	Computer music journal	洋
481	Computer networks : the international journal of computer and telecommunications networking	洋
482	Computer physics communications	洋
483	Computer vision and image understanding	洋
484	Computers in physics	洋
485	Conservation	洋
486	Conservation biology : the journal of the Society for Conservation Biology	洋
487	Conservation in practice	洋
488	CPC program library	洋
489	Crystal engineering	洋
490	Current contents. Agriculture, biology & environmental sciences	洋
491	Current contents. Engineering, technology & applied sciences	洋
492	Current contents. Physical, chemical & earth sciences	洋
493	Current opinion in plant biology	洋
494	Dalton : an international journal of inorganic chemistry	洋
495	Dalton transactions : an international journal of inorganic chemistry	洋
496	Datamation	洋
497	Die Makromolekulare Chemie	洋
498	Die Makromolekulare Chemie. Rapid communications	洋
499	Die Makromolekulare Chemie. Theory and simulations	洋
500	Discrete and continuous dynamical systems	洋
501	Discrete and continuous dynamical systems. Series B	洋
502	Discrete and continuous dynamical systems. Series S / American Institute of Mathematical Sciences	洋
503	Diversity & distributions : a journal of biological invasions and biodiversity	洋
504	Duke mathematical journal	洋
505	Dynamical systems : an international journal	洋
506	Dynamics and stability of systems : an international journal	洋
507	Ecological applications	洋
508	Ecological modelling : international journal on ecological modelling and engineering and systems ecology	洋
509	Ecological monographs / Ecological Society of America	洋
510	Ecology / Ecological Society of America	洋
511	Ecology letters	洋
512	ECS electrochemistry letters : eel	洋
513	ECS solid state letters : ssl	洋
514	Electrochemical and solid-state letters	洋
515	Electron technology	洋
516	Electronics : the worldwide technology weekly	洋
517	Electronics letters	洋
518	Energie	洋
519	Engineering failure analysis	洋
520	Engineering fracture mechanics	洋
521	Environmental health perspectives	洋

No.	タイトル等	和洋区分
522	Environmental health perspectives. Supplements	洋
523	Environmental microbiology	洋
524	Environmental science & technology	洋
525	Environmental technology	洋
526	Environmental technology reviews	洋
527	Environmental toxicology and chemistry / SETAC	洋
528	EPL : a letters journal exploring the frontiers of physics	洋
529	Ergodic theory and dynamical systems	洋
530	European journal of applied mathematics	洋
531	European polymer journal	洋
532	Europhysics letters	洋
533	Evolution : international journal of organic evolution / the Society for the Study of Evolution	洋
534	Evolutionary computation	洋
535	Experimental mathematics	洋
536	Experimental mechanics : journal of the Society for Experimental Stress Analysis / Society for Experimental Stress Analysis	洋
537	Experimental techniques	洋
538	Fatigue & fracture of engineering materials & structures	洋
539	Flow, turbulence and combustion	洋
540	Formal methods in system design : an international journal	洋
541	Fresenius' journal of analytical chemistry	洋
542	Fresenius' Zeitschrift für analytische Chemie	洋
543	Functional ecology	洋
544	Games and economic behavior	洋
545	Gas turbine world	洋
546	Genetic programming and evolvable machines	洋
547	Global change biology	洋
548	Global ecology and biogeography : a journal of macroecology	洋
549	Harvard business review : Diamondハーバード・ビジネス・レビュー	洋
550	Human-computer interaction : a journal of theoretical, empirical, and methodological issues of user psychology and of system design	洋
551	IEEE computer graphics and applications	洋
552	IEEE control systems / IEEE Control Systems Society	洋
553	IEEE electron device letters	洋
554	IEEE expert	洋
555	IEEE instrumentation and measurement magazine	洋
556	IEEE intelligent systems	洋
557	IEEE intelligent systems & their applications	洋
558	IEEE journal of robotics and automation	洋
559	IEEE journal on selected areas in communications : a publication of the IEEE Communications Society	洋
560	IEEE network	洋
561	IEEE signal processing letters	洋
562	IEEE spectrum	洋
563	IEEE transactions on acoustics, speech, and signal processing	洋
564	IEEE transactions on antennas and propagation	洋
565	IEEE transactions on automatic control / Institute of Electrical and Electronics Engineers	洋
566	IEEE transactions on broadcasting	洋
567	IEEE transactions on circuits and systems / Institute of Electrical and Electronics Engineers	洋
568	IEEE transactions on circuits and systems. I, Fundamental theory and applications	洋
569	IEEE transactions on circuits and systems. I, Regular papers	洋
570	IEEE transactions on circuits and systems. II, Analog and digital signal processing	洋
571	IEEE transactions on circuits and systems. II, Express briefs	洋
572	IEEE transactions on communications / Institute of Electrical and Electronics Engineers	洋
573	IEEE transactions on computers / Institute of Electrical and Electronics Engineers	洋
574	IEEE transactions on consumer electronics / Institute of Electrical and Electronics Engineers	洋
575	IEEE transactions on electromagnetic compatibility / Institute of Electrical and Electronics Engineers	洋
576	IEEE transactions on electron devices / Institute of Electrical and Electronics Engineers	洋
577	IEEE transactions on evolutionary computation	洋
578	IEEE transactions on image processing	洋
579	IEEE transactions on information theory : a journal devoted to the theoretical and experimental aspects of information transmission, processing, and utilization / Institute of Electrical and Electronics Engineers	洋
580	IEEE transactions on instrumentation and measurement / Institute of Electrical and Electronics Engineers	洋
581	IEEE transactions on medical imaging	洋
582	IEEE transactions on microwave theory and techniques / Institute of Electrical and Electronics Engineers	洋
583	IEEE transactions on neural networks	洋
584	IEEE transactions on neural networks and learning systems	洋
585	IEEE transactions on parallel and distributed systems	洋
586	IEEE transactions on pattern analysis and machine intelligence / Institute of Electrical and Electronics Engineers	洋
587	IEEE transactions on reliability / Institute of Electrical and Electronics Engineers	洋
588	IEEE transactions on robotics : a publication of the IEEE Robotics and Automation Society	洋

No.	タイトル等	和洋区分
589	IEEE transactions on robotics and automation : a publication of the IEEE Robotics and Automation Society	洋
590	IEEE transactions on signal processing	洋
591	IEEE transactions on software engineering / Institute of Electrical and Electronics Engineers	洋
592	IEEE transactions on systems, man and cybernetics / IEEE Systems, Man and Cybernetics Group	洋
593	IEEE transactions on systems, man and cybernetics. Part A, Systems and humans	洋
594	IEEE transactions on systems, man and cybernetics. Part B, Cybernetics	洋
595	IEEE transactions on systems, man, and cybernetics. Part C, Applications and reviews	洋
596	IEEE transactions on ultrasonics, ferroelectrics, and frequency control	洋
597	IEEE transactions on visualization and computer graphics	洋
598	IEEE wireless communications	洋
599	IEEE/ACM transactions on networking	洋
600	IEICE transactions on communications	洋
601	IEICE transactions on electronics	洋
602	IEICE transactions on fundamentals of electronics, communications and computer sciences	洋
603	IEICE transactions on information and systems	洋
604	IIEEJ transactions on image electronics and visual computing	洋
605	Indiana University mathematics journal	洋
606	Industry week : the magazine for managers	洋
607	Information and computation	洋
608	Information processing letters	洋
609	Inorganic chemistry	洋
610	Interacting with computers	洋
611	Interaction studies : social behaviour and communication in biological and artificial systems	洋
612	Interface / the Electrochemical Society	洋
613	International accounting standards : the full text of all international accounting standards extant at 1 January, ...	洋
614	International journal of applied ceramic technology : ceramic product development and commercialization	洋
615	International journal of bifurcation and chaos in applied sciences and engineering	洋
616	International journal of computer aided VLSI design	洋
617	International journal of computer vision	洋
618	International journal of fatigue	洋
619	International journal of fracture	洋
620	International journal of general systems	洋
621	International journal of heat and mass transfer	洋
622	International journal of human-computer studies	洋
623	International journal of man-machine studies	洋
624	International journal of mechanical sciences	洋
625	International journal of multiphase flow	洋
626	International journal of neural systems	洋
627	International journal of powder metallurgy	洋
628	International journal of self-propagating high-temperature synthesis	洋
629	International journal of systems science	洋
630	Inventiones mathematicae	洋
631	Inverse problems : an international journal of inverse problems, inverse methods and computerised inversion of data	洋
632	Inverse problems and imaging / American Institute of Mathematical Sciences	洋
633	ISIJ international / Iron and Steel Institute of Japan	洋
634	Japan journal of applied mathematics	洋
635	Japan journal of industrial and applied mathematics	洋
636	Japanese journal of applied physics. Pt. 1, Regular papers & short notes	洋
637	Japanese journal of applied physics. Pt. 2, Letters	洋
638	Journal de mathématiques pures et appliquées. Sér. 9	洋
639	Journal of applied crystallography	洋
640	Journal of applied physics	洋
641	Journal of automated reasoning	洋
642	Journal of biogeography	洋
643	Journal of catalysis	洋
644	Journal of chemical education	洋
645	Journal of colloid and interface science	洋
646	Journal of composite materials	洋
647	Journal of computational physics	洋
648	Journal of computer and system sciences	洋
649	Journal of crystal growth	洋
650	Journal of differential equations	洋
651	Journal of dynamics and differential equations	洋
652	Journal of experimental psychology. Human perception and performance / American Psychological Association	洋
653	Journal of fluid mechanics	洋
654	Journal of geometric mechanics	洋
655	Journal of geophysical research. A	洋
656	Journal of geophysical research. B	洋

No.	タイトル等	和洋区分
657	Journal of geophysical research. C	洋
658	Journal of geophysical research. D	洋
659	Journal of geophysical research. E	洋
660	Journal of industrial and management optimization	洋
661	Journal of inverse and ill-posed problems	洋
662	Journal of lightwave technology : a joint IEEE/OSA publication	洋
663	Journal of low temperature physics	洋
664	Journal of magnetism and magnetic materials	洋
665	Journal of materials research	洋
666	Journal of materials science	洋
667	Journal of materials science letters	洋
668	Journal of materials science. Materials in electronics	洋
669	Journal of materials science. Materials in medicine	洋
670	Journal of materials synthesis and processing	洋
671	Journal of mathematical biology	洋
672	Journal of mathematical physics	洋
673	Journal of mathematics and mechanics	洋
674	Journal of modern dynamics / American Institute of Mathematical Sciences	洋
675	Journal of molecular catalysis. A, Chemical	洋
676	Journal of molecular catalysis. B, Enzymatic	洋
677	Journal of new music research	洋
678	Journal of non-crystalline solids	洋
679	Journal of organic chemistry. Supporting information	洋
680	Journal of parallel and distributed computing	洋
681	Journal of physics. A, Mathematical and general	洋
682	Journal of physics. A, Mathematical and theoretical	洋
683	Journal of physics. Condensed matter	洋
684	Journal of plasma physics	洋
685	Journal of polymer science. Part A, Polymer chemistry	洋
686	Journal of polymer science. Part B, Polymer physics	洋
687	Journal of polymer science. Part C, Polymer letters	洋
688	Journal of polymer science. Polymer chemistry ed	洋
689	Journal of polymer science. Polymer letters edition	洋
690	Journal of polymer science. Polymer physics ed	洋
691	Journal of quantitative linguistics	洋
692	Journal of scientific computing	洋
693	Journal of solid state chemistry	洋
694	Journal of strain analysis for engineering design	洋
695	Journal of symbolic computation	洋
696	Journal of systems and software	洋
697	Journal of testing and evaluation	洋
698	Journal of the Acoustical Society of Japan (E)	洋
699	Journal of the American Ceramic Society	洋
700	Journal of the American Chemical Society / American Chemical Society	洋
701	Journal of the American Chemical Society. Supporting information	洋
702	Journal of the American Oil Chemists' Society	洋
703	Journal of the Association for Computing Machinery	洋
704	Journal of the Chemical Society. Chemical communications / the Chemical Society	洋
705	Journal of the Chemical Society. D, Chemical communications	洋
706	Journal of the Chemical Society. Dalton transactions : inorganic chemistry	洋
707	Journal of the Chemical Society. Perkin transactions 1 : organic and bio-organic chemistry	洋
708	Journal of the Chemical Society. Perkin transactions 2 : physical organic chemistry	洋
709	Journal of the Electrochemical Society	洋
710	Journal of the Franklin Institute : devoted to science and the mechanic arts / the Franklin Institute of the State of Pennsylvania	洋
711	Journal of the Indian Institute of Science	洋
712	Journal of the Optical Society of America. A, Optics, image science, and vision	洋
713	Journal of the Optical Society of America. B, Optical physics	洋
714	Journal of the Physical Society of Japan	洋
715	Journal of theoretical biology	洋
716	Journal of vacuum science & technology. 2nd series. A, Vacuum, surfaces, and films : an official journal of the American Vacuum Society	洋
717	Journal of vegetation science : official organ of the International Association for Vegetation Science	洋
718	Kinetic & related models	洋
719	Leonardo music journal : LMJ : journal of the International Society for the Arts, Sciences and Technology	洋
720	Limnology / the Japanese Society of Limnology	洋
721	Machine learning	洋
722	Macromolecular bioscience	洋
723	Macromolecular chemistry and physics	洋
724	Macromolecular rapid communications	洋

No.	タイトル等	和洋区分
725	Macromolecular reaction engineering	洋
726	Macromolecular theory and simulations	洋
727	Macromolecules : a publication of the American Chemical Society	洋
728	Materials engineering	洋
729	Materials research bulletin : an international journal reporting research on crystal growth and materials preparation and characterization	洋
730	Materials science in semiconductor processing : a section of the international journal, Solid-state electronics	洋
731	Materials transactions	洋
732	Mathematical biosciences	洋
733	Mathematical control and related fields	洋
734	Mathematical structures in computer science : MSCS	洋
735	Mathematical systems theory	洋
736	Mathematics of computation / American Mathematical Society	洋
737	Mathematische Annalen	洋
738	Mechanical engineering	洋
739	Mechanics of structures and machines	洋
740	Metallurgical and materials transactions. A, Physical metallurgy and materials science	洋
741	Microbes and environments / Japanese Society of Microbial Ecology	洋
742	Mitsubishi technical bulletin / Mitsubishi Shipbuilding & Engineering	洋
743	Mitteilungsblatt / Gesellschaft Deutscher Chemiker Fachgruppe Analytische Chemie	洋
744	Mobile computing and communications review : MC[2]R : a publication of ACM SIGMOBILE	洋
745	Moscow mathematical journal	洋
746	Music perception	洋
747	Natural history : incorporating Nature magazine / American Museum of Natural History	洋
748	Natural language engineering	洋
749	Nature	洋
750	Nature reviews neuroscience	洋
751	Network : computation in neural systems	洋
752	Networks : an international journal	洋
753	Neural computation	洋
754	Neural networks : the official journal of the International Neural Network Society	洋
755	Neural processing letters	洋
756	Neurocomputing : an international journal	洋
757	Neuron	洋
758	New generation computing : an international journal on fifth generation computers	洋
759	New statesman society	洋
760	Nonlinear analysis. Real world applications	洋
761	Nonlinear analysis. Theory, methods and applications	洋
762	Nonlinearity	洋
763	Nuclear fusion : journal of plasma physics and thermonuclear fusion / International Atomic Energy Agency	洋
764	Numerical algebra, control and optimization : an international journal	洋
765	Oecologia	洋
766	Oikos : acta oecologica Scandinavica	洋
767	Operating systems review : a quarterly publication of the Special Interest Group on Operating Systems	洋
768	Optics letters	洋
769	Organic electronics : physics, materials, applications	洋
770	Organic letters	洋
771	Ozone : science & engineering	洋
772	Parallel computing	洋
773	Pattern recognition : journal of the Pattern Recognition Society	洋
774	Perception	洋
775	Perception & psychophysics	洋
776	Philosophical magazine letters	洋
777	Philosophical magazine. B, physics of condensed matter, structural, electronic, optical, and magnetic properties	洋
778	Philosophical magazine. Pt. A, Physics of condensed matter, defects and mechanical properties	洋
779	Philosophical magazine. Structure and properties of condensed matter	洋
780	Physica. C, Superconductivity and its applications / North-Holland	洋
781	Physica. D, Nonlinear phenomena	洋
782	Physical review and Physical review letters index. Ser. 3	洋
783	Physical review letters / American Physical Society	洋
784	Physical review. Ser. 3. A, Atomic, molecular, and optical physics	洋
785	Physical review. Third series. A, General physics / American Physical Society	洋
786	Physical review. Third series. B, Condensed matter / American Physical Society	洋
787	Physical review. Third series. B, Condensed matter and materials physics / American Physical Society	洋
788	Physical review. Third series. D, Particles and fields / American Physical Society	洋
789	Physical review. Third series. E, Statistical physics, plasmas, fluids, and related interdisciplinary topics	洋
790	Physical review. Third series. E, Statistical, nonlinear, and soft matter physics	洋
791	Physics letters. Sect. A, General physics, atomic physics and solid state physics	洋
792	Physics letters. Sect. B	洋

No.	タイトル等	和洋区分
793	Physics of fluids	洋
794	Physics of fluids. A, Fluid dynamics	洋
795	Physics of fluids. B, Plasma physics	洋
796	Physics of plasmas	洋
797	Plant, cell and environment	洋
798	Plasma physics and controlled fusion	洋
799	Polyhedron : the international journal for inorganic and organometallic chemistry	洋
800	Polymer : the chemistry, physics and technology of high polymers	洋
801	Polymer bulletin	洋
802	Polymer communications	洋
803	Population and development review / Population Council	洋
804	Proceedings of the American Mathematical Society / American Mathematical Society	洋
805	Proceedings of the Analytical Division of the Chemical Society / Analytical Division of the Chemical Society	洋
806	Proceedings of the IEEE / Institute of Electrical and Electronics Engineers	洋
807	Proceedings of the Indian Academy of Sciences. Chemical sciences	洋
808	Proceedings of the Institution of Mechanical Engineers. Part C, Journal of mechanical engineering science	洋
809	Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America	洋
810	Proceedings of the National Academy of Sciences, India. Sect. A	洋
811	Proceedings. Biological sciences / the Royal Society	洋
812	Professional engineering : the magazine of the Institution of Mechanical Engineers / Institution of Mechanical Engineers	洋
813	Progress of theoretical physics	洋
814	Progress of theoretical physics. Supplement	洋
815	Psychology of music / Society for Research in Psychology of Music and Music Education	洋
816	Psychomusicology : a journal of music cognition / the Psychomusicology Society	洋
817	Publications of the Research Institute for Mathematical Sciences	洋
818	Quarterly review of biology	洋
819	Research in dance education	洋
820	Research journal of the Water Pollution Control Federation	洋
821	Research studies in music education : a journal fostering music education research in Australia, New Zealand, East and Southeast Asia	洋
822	Russian mathematical surveys	洋
823	Science. New series	洋
824	Scientific American. New series	洋
825	SIAM journal on applied mathematics : a publication of the Society for Industrial and Applied Mathematics / Society for Industrial and Applied Mathematics	洋
826	SIAM journal on computing / Society for Industrial and Applied Mathematics	洋
827	SIAM journal on mathematical analysis / Society for Industrial and Applied Mathematics	洋
828	SIAM journal on numerical analysis / Society for Industrial and Applied Mathematics	洋
829	SIAM journal on scientific and statistical computing / Society for Industrial and Applied Mathematics	洋
830	SIAM journal on scientific computing / Society for Industrial and Applied Mathematics	洋
831	SIAM review / Society for Industrial and Applied Mathematics	洋
832	SIGGROUP bulletin	洋
833	SIGOIS bulletin	洋
834	Software : practice and experience	洋
835	Solid state communications	洋
836	Solid state ionics	洋
837	Solid-state electronics	洋
838	Sumitomo Search	洋
839	Supplement of the Progress of theoretical physics	洋
840	Surface & coatings technology	洋
841	Surface and interface analysis : SIA	洋
842	Talanta	洋
843	Terminology : international journal of theoretical and applied issues in specialized communication	洋
844	Tetrahedron	洋
845	Tetrahedron letters	洋
846	Tetrahedron, asymmetry	洋
847	The bulletin of symbolic logic	洋
848	The International journal of robotics research	洋
849	The Journal of applied ecology	洋
850	The journal of chemical physics	洋
851	The Journal of ecology	洋
852	The journal of logic programming	洋
853	The Journal of organic chemistry	洋
854	The journal of physical chemistry	洋
855	The Journal of physical chemistry. A	洋
856	The Journal of physical chemistry. B	洋
857	The journal of physics and chemistry of solids	洋
858	The Journal of symbolic logic / Association for Symbolic Logic	洋
859	The Journal of the Acoustical Society of America	洋

No.	タイトル等	和洋区分
860	The Mathematica journal : the independent publication of the mathematica community	洋
861	The Mathematical intelligencer	洋
862	Theoretical computer science	洋
863	Theoretical population biology	洋
864	Theory of computing systems	洋
865	Thermal engineering : Soviet power industry research & technology	洋
866	Thin solid films	洋
867	Topics in cognitive science : journal of the Cognitive Science Society / Cognitive Science Society	洋
868	Transactions of the American Mathematical Society	洋
869	Transactions of the ASME. Journal of energy resources technology	洋
870	Transactions of the ASME. Journal of engineering for gas turbines and power	洋
871	Transactions of the ASME. Journal of pressure vessel technology	洋
872	Transactions of the ASME. Journal of tribology	洋
873	Transactions of the ASME. Journal of vibration and acoustics	洋
874	Transactions of the ASME. Ser. C, Journal of heat transfer	洋
875	Transactions of the ASME. Ser. K, Journal of biomechanical engineering	洋
876	Transactions of the ASME. Series E, Journal of applied mechanics	洋
877	Transactions of the ASME. Series H, Journal of engineering materials and technology	洋
878	Transactions of the ASME. Series I, Journal of fluids engineering	洋
879	Transactions of the Moscow Mathematical Society	洋
880	Trends in ecology & evolution	洋
881	VDI-Z : Zeitschrift für gesamte Technik / Verein Deutscher Ingenieure	洋
882	Vibrational spectroscopy	洋
883	Waste management & research : the journal of the International Solid Wastes and Public Cleansing Association, ISWA	洋
884	Water & waste treatment	洋
885	Water engineering & management	洋
886	Water environment research : a research publication of the Water Environment Federation	洋
887	Water science & technology. Water supply	洋
888	Water science and technology : a journal of the International Association on Water Pollution Research	洋
889	Welding journal / the American Welding Society	洋
890	Zentralblatt für Mathematik und ihre Grenzgebiete. Mathematics abstracts	洋
891	Zeolites : the international journal of molecular sieves	洋
892	Вестник Академии наук СССР : ежемесячный журнал	洋
893	Весці Акадэміі навук Беларускай ССР. Серыя фізіка-тэхнічных навук	洋
894	Доклады Академии наук / Российская академия наук	洋
895	Доклады Академии наук СССР. Новая серия	洋
896	Доклады Академии наук УзССР = УзССР Фанлар Академиясининг докладлари	洋
897	Доклады Академии наук Украинской ССР. Серия А, Физико-математические и технические науки / Президиум Академии наук Украинской ССР	洋
898	Доповіді Академії наук Української РСР	洋
899	Журнал технической физики / Академии наук СССР	洋
900	Журнал физической химии	洋
901	Журнал экспериментальной и теоретической физики / Академии наук Союза ССР	洋
902	Известия Академии наук СССР. Металлы	洋
903	Известия Академии наук СССР. Серия физическая	洋
904	Известия высших учебных заведений. Физика	洋
905	Кристаллография / Академия наук СССР	洋
906	Теплофизика высоких температур / Академия наук СССР	洋
907	Теплоэнергетика / Академия наук СССР	洋
908	Труды Ордена Ленина физического института им. П.Н. Лебедева	洋
909	Украинский физический журнал / Академия наук Украинской ССР, Отделение физики	洋
910	Успехи физиологических наук / Академия наук СССР	洋
911	Физика твердого тела / Академия наук СССР	洋

龍谷大学大学院 先端理工学研究科

学生確保の見通し等を記載した書類

2023（令和 5）年 4 月

■ 目 次 ■

（１） 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況 3

ア 龍谷大学大学院先端理工学研究科を設置する大学等の現状把握・分析

イ 地域・社会的動向等の現状把握・分析

ウ 先端理工学研究科設置の趣旨目的，教育内容，定員設定等

・ 研究科設置による上記ア及びイで示した課題に対する貢献並びに設置しなければならない理由
・ 定員設定の理由
・ 学生納付金の考え方

エ 学生確保の見通し

Ａ．学生確保の見通しの調査結果
Ｂ．新設学部等の分野の動向
Ｃ．地域的動向
Ｄ．競合校の状況
Ｅ．既設学部等の学生確保の状況
Ｆ．その他，申請者において検討・分析した事項

オ 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

１）学部学生への働きかけ
２）案内冊子等の作成
３）ホームページの公開
４）相談会の開催
５）研究発表会への学部生の招待

（２） 人材需要の動向等社会の要請 12

① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）
② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

1）社会的、地域的な人材需要の動向
2）企業に対する採用意向調査

（1）学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

ア　龍谷大学大学院先端理工学研究科を設置する大学等の現状把握・分析

龍谷大学（以下、「本学」という。）は、1639（寛永 16）年に浄土真宗本願寺派の教育機関「学寮」として創立して以来、浄土真宗の精神を建学の精神とし、人間性豊かで深い学識と教養を備え、社会の発展向上に貢献する人材を養成することを目的とした総合大学である。2023（令和 5）年現在では、10 学部 10 研究科を設置する総合大学へと発展を遂げている。また、これに加え、学校法人龍谷大学として 1 短期大学を擁する。

今般、新たに設置する「先端理工学研究科」の母体となる理工学研究科は、日本の仏教系大学において初めての自然科学系大学院として、1993（平成 5）年に数理情報学専攻、電子情報学専攻、機械システム工学専攻、物質化学専攻の 4 専攻で開設され、2007（平成 19）年に情報メディア学専攻、環境ソリューション工学専攻の 2 専攻を新設し、現在に至っている。この間、教育理念である「建学の精神に基づいて、自然・社会と科学との調和を重視し、幅広い教養と理工学の各専門分野における高度の専門知識・技能を身につけ、持続可能な社会の発展に貢献できる高い倫理観を持った高度専門職人材・研究者を育成する」ということを体現し、教育・研究活動を推進することにより、一定の社会的評価を受けてきた。

他方、デジタル化の加速度的な進展と、脱炭素の潮流により、これまでの産業構造が抜本的に変わりつつある中、DX（デジタルトランスフォーメーション）やグリーン人材といった成長分野をけん引する人材をはじめ、予測不可能な時代に必要な普遍的知識・能力を備えた人材育成が求められている。こうした背景のもと、すでに本学では 2020（令和 2）年に理工学部を先端理工学部へ改組し、学部教育において、主体的かつ分野横断型の学びを可能とする教育システムへの転換を図っている。今回の「先端理工学研究科」の設置は、地域や社会の動向を踏まえた人材養成ニーズに応え、学士課程教育から大学院教育へと接続する分野横断型の教育システムの実現を目指すものである。

イ　地域・社会的動向等の現状把握・分析

グローバル化の進展や経済・社会構造の変動が進み、外部環境は激変している。2008（平成 20）年のリーマン・ショックに起因する世界経済の混迷や 2011（平成 23）年の東日本大震災、最近のウクライナ危機などにより既存の社会経済システムの脆弱性が顕在化し、高度情報化社会の発展によって、個人のプライバシー、財産、安全が脅かされる新たな事態も発生してきている。さらに、少子高齢化に伴う人口減少社会においては、物質的豊かさを追求する競争社会から、多種多様な価値観が共存する成熟社会への転換が求められており、本学理工学研究科が所在している滋賀県においても 2020（令和 2）年に「人口減少を見据えた未来へと幸せが続く滋賀総合戦略」が策定され、人口減少の時代に柔軟に適応した活力ある地域づくりを進める方針が示されている。その中で、Society 5.0 を見据えた産業の振興や産業人材の育成、イノベーションの創出と同時に、人生 100 年時代を見据えた共生社会の実現が謳われている。また、日本を取り巻く、少子高齢化、生活の質の向上（人生 100 年、働き方改革、教育改革）、安全・安心な社会システムの構築、環境・エネルギー・食糧問題等の諸課題は、発展途上国も含めたグローバルな社会において相互に関連し合っている。

さらに、日本政府は、第 5 期科学技術基本計画において、Society 5.0 を提唱しており、AI（人

工知能)、IoT（Internet of Things)、データサイエンス、デバイス、ロボット、素材・ナノテクノロジー、数理科学・計算科学等の基盤技術を様々な個別分野の技術と融合することによって、個別最適化にとどまらず社会全体の最適化を実現することを目指している。こうしたIT基盤技術の進展の先に人工知能が人間の能力を超越するシンギュラリティ（技術特異点）が到来し、社会環境が大きく変化することも予想されている。

上記のような社会の将来像を見据えた時、高等教育に期待されるのは、社会の変化に対応し、持続可能な社会に貢献する人材の養成である。文部科学省が設置した大学における工学系教育の在り方に関する検討委員会では、「大学における工学系教育の在り方について（中間まとめ)」において、これからの社会を見据えて、排出すべき人材の人物像として次の内容が掲げられている。

- ✓ 社会における工学の価値を理解し、自律的に学ぶ姿勢を具備するとともに、原理／原則を理解する力、構想力、アイデア創出能力、問題発見能力、課題設定能力、モデル化能力、課題解決・遂行能力を持つ人材
- ✓ スペシャリストとしての専門の深い知識と同時に、分野の多様性を理解し、他者との協調の下、異分野との融合・学祭領域の推進も見据えることができるジェネラリストとしての幅広い知識・俯瞰的視野を持つ人材

要約すれば「専門分野を修めるとともに、異分野にも知識の幅を広げ、主体的に学び、創造することのできる人材」が必要とされている。

こうした認識のもと、今回設置する先端理工学研究科では、自身の専門分野から学際的な分野まで幅広く科目履修が可能となる弾力的なカリキュラムを導入し、地域・社会における人材養成ニーズに対応する。

ウ　先端理工学研究科設置の趣旨目的，教育内容，定員設定等

- ✓ **研究科設置による上記ア及びイで示した課題に対する貢献並びに設置しなければならない理由**

従来のタコ壺型の専門教育から多様な学修ニーズに対応した分野横断型の専門教育へ社会的要請が変化している中で、現行の理工学研究科の教育課程は専攻を中心とした専門深化型の教育課程となっているため、これらの専門深化型の学びに加えて、主体的かつ分野横断型の学びを可能とする教育システムへの転換が必要である。

こうした認識に基づき、先端理工学研究科では、従来、6専攻として区分していた各専門教育課程を一つの専攻（先端理工学専攻）に統合した上で、先端理工学専攻の下に、数理・情報科学コース、知能情報メディアコース、電子情報通信コース、機械工学・ロボティクスコース、応用化学コース、環境科学コースを配置することとする。

選択したコース以外の学びが可能な分野横断的なカリキュラムを編成することで、「専門分野を修めるとともに、異分野にも知識の幅を広げ、主体的に学び、創造することのできる人材」を養成することにつながる。学生は自身の専門分野から学際的な分野まで幅広い科目履修が可能となり、新たな発想のもとに研究を進めることができる。このことは、後述する「大学院生の研究力強化」(p.11)に資する。

さらに、1専攻にすることにより、新たに学生間の交流や複数コースを連携した教育・研究

促進という横のつながりに加え、学部生をも含めた研究室における縦のつながりが活性化することにより、学部生の進学意識の醸成にもつながると考える。

✓ 定員設定の理由

本研究科の定員規模を策定するにあたっては、上述した学内外の諸情勢を踏まえつつ、本研究科の教育理念及び育成する人材像に基づき、財政・経営面に及ぼす影響、学生確保の持続可能性、及び後述するアンケート調査の結果（p.6-8）等を勘案し、総合的に検討を行った。その結果、修士課程については、既存の理工学研究科の入学定員 140 名（収容定員 280 名）から 40 名を減じて入学定員 100 名（収容定員 200 名）とし、博士後期課程については、既存の理工学研究科の入学定員 16 名（収容定員 48 名）から 6 名を減じて入学定員 10 名（収容定員 30 名）とすることとした。

＜龍谷大学大学院先端理工学研究科の入学定員・収容定員＞

研究科名	先端理工学研究科	
専 攻 名	先端理工学専攻	
課　　程	修士課程	博士後期課程
入学定員	100 名	10 名
収容定員	200 名	30 名

✓ 学生納付金の考え方

先端理工学研究科の納付金は、次のとおり設定した。先端理工学研究科では、専門分野に加えて異分野にも知識の幅を広げる主体的な学びを重視することから、これまで以上に実験や実習を踏まえて、分野の垣根を超えた実践的な授業を展開し、それらを支えるための施設設備も充実させる予定である。このため、授業料は既存の理工学研究科と比較し、10 万円の増額とした。しかしながら近隣の競合大学と比較しても中位にあり、学生確保の面においても、十分に妥当性のあるものと認識している（**【資料 1. 競合大学の学生納付金との比較】**）。また、財政的な健全性を維持する上でも、堅実な設定であると考えている。

＜先端理工学研究科学生納付金＞

【修士課程】

	本学出身者	他大学出身者
入学金	150,000 円	200,000 円
授業料	571,000 円	571,000 円
施設費	210,000 円	280,000 円
実験実習料	143,600 円	143,600 円
初年度納付金	1,074,600 円	1,194,600 円

【博士後期課程】

	本学研究科出身者	他大学出身者
入学金	―	200,000 円
授業料	571,000 円	571,000 円
施設費	210,000 円	280,000 円
実験実習料	143,600 円	143,600 円
初年度納付金	924,600 円	1,194,600 円

エ　学生確保の見通し

A．学生確保の見通しの調査結果

本研究科の設置構想に基づき、定員設定の妥当性及び学生確保の見込みを客観的に担保するため、アンケート調査を実施した。調査対象は、多くの進学者が想定される本学既存学部・大学院在学生を中心に、修士課程、博士後期課程それぞれに対する進学意志を含めた質問項目について、web アンケート方式にて回答を求めた。

回答に際しては、本研究科の設置構想をまとめた資料を予め配布した【資料 2. 先端理工学研究科概要】。

なお、本学の学士課程及び修士課程の在学生に対しては、学内ポータルサイトを通じてアンケート調査を周知し実施した。その対象者は次のとおりである。

まず、修士課程の調査にあっては、既存の先端理工学部のうち、大学院改組時（2024 年度）に入学生となる学部 3 年次生（アンケート実施時／530 名）を対象に実施するとともに、社会人を含む学外者については、教員の人脈を通じて、知り合いの学生等に e-mail にて回答の協力を依頼した。また、博士後期課程の調査については、既存の理工学研究科のうち、改組時（2024 年度）に博士後期課程入学生となる理工学研究科修士課程の 1 年次生（アンケート実施時／70 名）を対象に実施するとともに、修士と同様、学外者については、教員の人脈を通じて回答を依頼した。

① 修士課程

【資料 3. 龍谷大学先端理工学研究科設置に関するアンケート　集計結果（修士課程）】
【資料 4. 龍谷大学大学院先端理工学研究科（仮称・設置構想中）に関するアンケート質問票＜修士課程用＞】

修士課程の開設初年度（2024（令和 6）年 4 月）に入学対象となる先端理工学部 3 年次生（530 名）のうち、回答者数は 292 名（所属課程：数理・情報科学課程 32 名、知能情報メディア課程 77 名、電子情報通信課程 39 名、機械工学・ロボティクス課程 67 名、応用化学課程 35 名、環境生態工学課程 42 名）である。このうち、本研究科修士課程に進学意志のある者（「ぜひ進学したい」「条件が合えば進学したい」と回答した者）は 137 名（入学定員の 1.37 倍）であった。

さらに、進学意志のある者に対して、「どのコースに進学したいか」という点について回答を求めたところ、数理・情報科学コース 9 名、知能情報メディアコース 38 名、電子情報通信コ

ース 18 名、機械工学・ロボティクスコース 30 名、応用化学コース 18 名、環境科学コース 24 名であった。1 名を除くほぼ全ての回答者が現在の所属課程と同じ分野のコースへの進学を希望しており、学士課程教育での学びを発展させることを目的に大学院進学を希望していることが分かった。

なお、この調査は本学の学士課程在学生を対象としつつも、アンケート回答は任意であったことから、全数調査ではなく、標本調査的な扱いとなる。その事実を勘案し、回答者の層別解析をしていない中で、未回答者にも同一の比率を当てはめることは難しいものの、未回答者も回答した場合を想定すると、入学定員（100 名）を超える数値（潜在需要）が見込まれる。

なお、修士課程への進学を希望する動機についても回答（複数選択可）を求めたところ、「社会で活躍するために、実践的な知識と技術を修得したい」（回答数 92）が最も多く、次いで、「各専門分野における高度な専門知識と研究力を身につけたい」（回答数 86）、「学位（修士または博士）を取得したい」（回答数 46）、「将来、研究者・技術者として働きたい」（回答数 44）、「教員免許状（専修免許状）を取得したい」（回答数 4）となっており、教育理念・目的やアドミッション・ポリシーに合致した学生の入学が期待できる。

これらの調査結果から、本研究科の基礎となる先端理工学部の各課程における学びを発展的に継承した修士課程への進学を希望する学部生が想定通り存在することが分かった。加えて、アンケート調査において、「ぜひ進学したい」「条件が合えば進学したい」と回答している者以外にも、潜在的に進学希望者はいると推察できることから、安定的な定員充足は十分可能であると判断している。

② 博士後期課程

【資料 5. 龍谷大学先端理工学研究科設置に関するアンケート　集計結果（博士後期課程）】
【資料 6. 龍谷大学大学院先端理工学研究科（仮称・設置構想中）に関するアンケート質問票＜博士後期課程用＞】

博士後期課程の開設初年度（2024（令和 6）年 4 月）に入学対象となる理工学研究科修士課程 1 年次生（70 名）のうち、アンケート回答者数は 43 名（所属専攻：数理情報学専攻 5 名、電子情報学専攻 4 名、機械システム工学専攻 11 名、物質化学専攻 16 名、情報メディア学専攻 5 名、環境ソリューション工学専攻 2 名）である。このうち、本研究科修士課程に進学意志のある者（「ぜひ進学したい」「条件が合えば進学したい」と回答した者）は 12 名（入学定員の 1.2 倍）であった。

さらに、進学意志のある者に対して、「どのコースに進学したいか」という点について回答を求めたところ、全ての回答者が現在の所属課程と同じ分野のコースへの進学を希望しており、修士課程の研究内容を発展させることを目的に博士後期課程への進学を希望していることが分かった。

なお、このアンケート調査における回答は任意であったことから、6 割程度の回答率となっており、アンケート回答者以外にも、潜在的に進学希望者はいると推察する。したがって、入学定員の充足は可能であると判断している。

なお、博士後期課程への進学を希望する動機についても回答（複数選択可）を求めたところ、

修士課程と同様、「社会で活躍するために、実践的な知識と技術を修得したい」（回答数 8）が最も多い。次に多い回答は、「学位（博士）を取得したい」（回答数 6）であり、修士課程とは異なる傾向が伺える。社会での活躍と学位取得との両立を目指していることが分かり、博士後期課程の教育理念・目的と合致している。

以上の調査結果から、博士後期課程においても、一定の進学需要があることが分かり、安定的な定員充足は可能であると判断している。

B．新設学部等の分野の動向

超高齢化社会に直面し、労働力人口の減少が続く日本において、国際競争力の維持・向上へ向けて、付加価値の高い理工系人材は、欠くことのできない存在であるとされている。このことを重視し、文部科学省「理工系人材育成戦略」（2015 年）や内閣府教育未来創造会議「我が国の未来をけん引する大学等と社会の在り方について（第 1 次提言）」（2022 年）が策定され、理工系人材の質的充実・量的確保に向け、戦略的に人材育成に取り組む重要性が指摘されている。

このたび、理工系分野の大学院への志望動向を把握するにあたり、日本私立学校振興・共済事業団の資料に基づき、全国の私立大学における理･工学系の大学院の定員充足状況について、調査を行った【資料 7．私立大学大学院の入学定員充足率の推移】。

修士課程における大学院全体（理・工学系）の定員充足率は、過去 5 年の推移を見ると、平成 30 年度から令和 2 年度までは 90%程度で推移しており、令和 3 年～4 年の直近 2 か年は増加傾向にある。直近の増加要因について、令和 2 年頃から続く新型コロナウィルス等の影響は推し量ることができないものの、5 か年で平均すると 92.0%となっている。比較的入学定員規模の大きい社会科学系（5 か年平均 67.1%）や人文科学系（5 か年平均 46.2%）と比較しても高水準であることが分かり、理工系分野の高い進学需要を表している。

また、博士後期課程においては、大学院全体（理・工学系）の定員充足率は年度ごとにばらつきがあるものの、おおむね 40%前後で推移していることが分かる。博士後期課程についても社会科学系（5 か年平均 26.8%）や人文科学系（5 か年平均 31.7%）と比較し高水準にある。

以上のことから、理工系人材の育成、特に高度専門職人材・研究者を育成する理工系大学院生への期待は近年益々高まっているということに加えて、理工学系統における大学院（修士課程及び博士後期課程）への進学需要は一定の水準で存在しており、私立大学における実績としてもそれらを裏付けるに足るものを有している。

今回設置を予定している先端理工学研究科においては、自身の専門分野から学際的な分野まで幅広く科目履修が可能となる弾力的なカリキュラムを導入することで、進学先としての魅力が増すことが期待されることから、志願者の確保は十分に可能であると考えている。

C．地域的動向

本学大学院先端理工学研究科の設置を予定している瀬田キャンパスは滋賀県大津市に位置し、JR 東海道線石山駅（新快速停車駅）、瀬田駅、京阪電車石山駅からのアクセスが可能である。また、JR 東海道線大津駅（新快速停車駅）及び京阪電車中書島駅からもキャンパス直通のバスが運行されており、交通の便は良い。滋賀県のみならず大阪府や京都府、兵庫県、奈良県、そ

して地域によっては三重県や岐阜県、愛知県からの通学も可能であるなど、広い範囲からの通学する学生を受け入れることが可能である。

実際、2020（令和2）年4月に開設した先端理工学部に通う学生のうち、地元である滋賀県出身者が32.2%、京都府からの通学者が21.8%、大阪府からの通学者が21.6%であるほか、兵庫県や奈良県、三重県からも学生を受け入れている【資料8. 都道府県別出身者の割合】。

また、母体となる理工学研究科においても、出身割合の上位が滋賀県（33.6%）、京都府（25.5%）、大阪府（16.1%）であり、先端理工学部と同様の傾向を示していることが分かる。

このような状況から、今回設置を予定する先端理工学研究科においても近畿圏を中心に広い範囲からの入学者が見込まれる【資料8. 都道府県別出身者の割合】。

なお、学校基本調査によると、令和4年度の大学院学生数（都道府県別）は、近畿2府4県の比率が19.9%（52,225名）あり、これを他の地域と比較すると、それ以上の規模があるのは関東地区の42.9%（112,237名）だけで、他は九州・沖縄県8.2%（21,570名）、中京圏7.8%（20,393名）が続き、その他の地域は1%台から5%程度までの水準に留まっている【資料9. 2022（令和4）年度都道府県別大学院学生数】。

このように、近畿地区は全国のエリアと比較すると、相対的に大学院への進学需要が高いことが分かる。本学が所在する京滋（京都・滋賀）地域は、大阪をはじめとする他の近畿地区からも通学圏内にあり、全国と比較しても相対的に大学院生の母数が大きいことから、本研究科では、当該地域を中心とした進学需要に応えることで、量的な面から研究科の使命を全うできると考えている。

D．競合校の状況

以下の通り、近畿圏に本部を置く7大学（立命館大学、同志社大学、関西学院大学、関西大学、近畿大学、京都産業大学、甲南大学）を競合校とした。

これらの大学は、文系・理系の学部を擁する総合大学として、「関関同立」「産近甲龍」などと称され、主に学士課程の入学試験において、志願者層が重複する競合関係にある。

	研究科	立地 （都道府県）	修士課程 入学定員（人）	博士後期課程 入学定員（人）
立命館大学	理工学研究科 情報理工学研究科	滋賀	450 200	40 15
同志社大学	理工学研究科	京都	315	30
関西学院大学	理工学研究科	兵庫	242	26
関西大学	総合情報学研究科 理工学研究科	大阪	50 336	8 47
近畿大学	総合理工学研究科 生物理工学研究科 システム工学研究科 産業理工学研究科	大阪 和歌山 広島 福岡	160 34 45 30	12 5 5 3

京都産業大学	先端情報学研究科 理学研究科	京都	20 15	3 6
甲南大学	自然科学研究科 フロンティアサイエンス学研究科	兵庫	35 15	8 2

まず、修士課程定員について、学部定員に対する比率（修士定員/学部定員）を調査したところ、10.8%～45.3%と幅広く、各大学における大学院の位置づけや、設置する理工系学部数・定員のほか、学内外からの進学者の割合など、様々な要素を加味して定員を設定していることが推察される【資料 10. 他大学大学院入学定員】。

一般的に、学部卒業者が同大学の大学院修士課程に進学する学内進学の割合は、志願者層の偏差値（大手予備校が公表）に、ある程度比例すると考えられることから、本学先端理工学部とほぼ同じ偏差値帯にある近畿大学、京都産業大学、甲南大学に対象を絞り込み比較した。その結果、学部定員に対する修士課程定員の比率（修士定員/学部定員）は、いずれも 10%台であり、今回設置を予定している先端理工学研究科の比率（15.9%）は同程度となる。

次に、博士後期課程定員の修士課程定員に対する比率を調べたところ、分母となる定員が少ないため、わずかな数値の揺れで比率が大きく変化するものの、京都産業大学を除くと概ね10%台であり、今回設置を予定している先端理工学研究科博士後期課程の比率（9.3%）は同程度となる【資料 10. 他大学大学院入学定員】。

また、定員充足率に関しても調査を行ったところ、競合校の 2022 年度修士課程の定員充足率は、70%台から140%台と幅広い数値となっている。博士後期課程の定員充足率については、10%台から 60%であり、全体的に修士課程よりも低い傾向にある【資料 11. 他大学大学院定員充足率】。

「E. 既設学部等の学生確保の状況」(p.11）でも詳述するが、母体となる理工学研究科修士課程における直近 10 年間のうち、最も入学者が多い年度では 103 名であった。一方、志願者については、10 年間の平均が 117.8 名であり、例年 100 名を超えている。今回新たに設置する先端理工学研究科では、現行の理工学研究科の定員を40名減じて100名とする予定であり、志願者の確保とあわせて、入学促進を図ることで、定員充足は十分可能であると判断する。また、理工学研究科博士後期課程では、過去 10 年間のうち、最も入学者が多い年度で 4 名であった。博士後期課程の場合、分母となる定員が少ないため、年度ごとに入学者数による定員充足率の変動が大きく、将来的な見通しを立てることも難しいが、現行の理工学研究科の定員（16名）から 6 名減じ、10 名とすることと併せて、改組に係るカリキュラムの充実、魅力の向上により志願者の増加と定員充足率の向上に努めていく。

以上のことから、競合他大学との比較を通じて、修士課程・博士後期課程ともに現行の理工学研究科の定員から減じるという設定に妥当性があり、近畿圏の進学需要、過年度の志願状況などから総合的に判断して、定員充足は可能であると考える。

Ｅ．既設学部等の学生確保の状況

今回設置する先端理工学研究科の母体となる理工学研究科修士課程では、入学定員 140 名に対し、2014（平成 26）年度以降の 10 年間の年度毎の入学者数は、最大 103 名、最小 66 名、平均 83.1 名となっている。また、志願者数は最大 145 名、最小 81 名、平均 117.8 名となっている【資料 12. 龍谷大学 大学院理工学研究科 志願状況】。

現状と比較して大きく大学院生が増えるという状況は想定し難いが、一方で、修士課程の入学生の大多数が本学の卒業生であり、先端理工学部の入学者数は安定していることから、志願者の母数が大きく減るという状況も想定し難い。先端理工学研究科において、先端理工学部の教育システムと親和性の高い教育システムを導入することで、先端理工学部卒業生にとって進学先としての魅力が増すことが期待され、平均的に修士課程の入学定員 100 名の充足は可能であると判断される。

理工学研究科博士後期課程では、入学定員 16 名に対し、2014（平成 26）年度以降の 10 年間の年度毎の入学者数は最大 4 名、平均 2.2 名となっている。年度ごとの入学者数の変動が大きく、学生確保の見通しを立てることは難しいが、改組に係るカリキュラムの充実とその魅力を発信することにより、志願者の増加、学生の確保に努めていく。

Ｆ．その他，申請者において検討・分析した事項

その他の検討事項として、大学院生の研究力強化がある。本学先端理工学部と新たに設置する「先端理工学研究科」における研究推進の主体は大学院生であるという認識のもと、大学院生が各々の専門分野で活躍することで研究室が活性化され、質の高い論文発表、競争的外部資金の獲得や有名企業への就職実績増へと繋がり、その好循環は研究科・学部の域を超え、龍谷大学全体の研究力として社会に訴求することができる。

学会発表（特に国際学会）での研究発表の活発化及び各種受賞者の学内外への広報活動に注力することや学内向けに研究発表を行うなど、後輩学生に対しても研究の面白さをアピールすることにつながり、大学院進学率の向上にも資する。この達成のために、大学院生を研究指導する教員の研究時間の確保や国内外研究員制度の利用促進といった研究指導体制の充実を図る。

オ　学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

１）学部学生への働きかけ

本研究科は、2020（令和 2）年に設置した先端理工学部（数理・情報科学課程、知能情報メディア課程、電子情報通信課程、機械工学・ロボティクス課程、応用化学課程、環境生態工学課程）に対応しており、学部での学びから連続性を保つカリキュラム編成となっていることから、各課程からの進学希望者の確保が重要となる。そのため、各課程における指導教員（＝大学院入学後の各コースで研究指導を行う教員）を通して、本研究科の魅力を伝えるなど、大学院への進学を検討している学生へ積極的な情報提供をおこなう。また、キャリアセンターにおいても理工系の担当者による大学院進学に関する説明会等を開催し、情報提供するとともに出願を促進する。

２）案内冊子等の作成

本研究科の学生確保に向けて、研究科を紹介する案内冊子を作成する。これらを、本研究科に資料請求をした受験希望者に配布し、出願を促進する。また、外国人留学生を含む学外者からの出願も促進するため、英語版リーフレットも作成する。これらを各地の進学フェアや説明会等で配布・説明することにより、新しい研究科の周知と志願者増へとつなげる。

３）ホームページの公開

本研究科のホームページについて、すでに作成済である学部 WEB サイトと同一のフォーマットで作成する。各コースのカリキュラムや、研究指導方法について詳説することで、他大学出身者や社会人に対しても有益な情報提供に努め差別化を図る。また、英語版ホームページでは京滋地区（京都・滋賀）に立地する本学の学修環境なども示し、海外協定大学からの留学促進につなげる。

４）相談会の開催

案内冊子や、ホームページ、教員の紹介などを通じて進学を考えている層に対して、進学相談会を開催し、各コースの特徴やカリキュラム、入試制度、担当指導教員について紹介する。さらに希望者には、希望する指導教員との相談機会を設け、入学後の不安を解消したうえで受験ができるよう支援する。

５）研究発表会への学部生の招待

本研究科では研究発表や口述試験などを公開で実施し、学部学生でも聴講できる機会を数多く設けている。それらに大学院進学を検討している学部生を招待し、大学院での研究の一端を実際に見てもらうことで、興味喚起を狙う。

（２） 人材需要の動向等社会の要請

① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

複雑化する社会の将来像を見据えたとき、高等教育に期待されるのは、社会の変化に対応できる人材の養成である。文部科学省が設置した大学における工学系教育の在り方に関する検討委員会では、「大学における工学系教育の在り方について（中間まとめ）[1]」（2017 年）において、これからの社会を見据えて排出すべき人材の人物像として次の内容が掲げられている。

- ✓ 社会における工学の価値を理解し、自律的に学ぶ姿勢を具備するとともに、原理／原則を理解する力、構想力、アイデア創出能力、問題発見能力、課題設定能力、モデル化能力、課題解決・遂行能力を持つ人材
- ✓ スペシャリストとしての専門の深い知識と同時に、分野の多様性を理解し、他者との協調の下、異分野との融合・学祭領域の推進も見据えることができるジェネラリストとしての

[1] https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/__icsFiles/afieldfile/2017/06/27/1387312_01.pdf

幅広い知識・俯瞰的視野を持つ人材

また、直近では、内閣府教育未来創造会議「我が国の未来をけん引する大学等と社会の在り方について（第1次提言）」（2022年）において、理工系人材の質的充実・量的確保に向け、戦略的に人材育成に取り組む重要性が指摘されている[2]。

これまで示してきた通り、本学研究科が養成する人材とは、これらの提言で求められている人材像と大きく重なり合うものであり、本学研究科が養成する人材に対する社会的要請は高いといえる。

＜先端理工学研究科の教育理念・目的＞

建学の精神に基づいて、自然・社会と科学との調和を重視し、幅広い教養と理工学の各専門分野における高度の専門知識・技能を身につけ、持続可能な社会の発展に貢献できる高い倫理観を持った高度専門職人材・研究者を育成することを目的とする。また、修士課程・博士後期課程において養成する人材像は次のとおりである。

【先端理工学専攻　修士課程】

グローバル化の進展や経済・社会構造の変動が進み外部環境が激変する中、高等教育に期待されるのは、社会の変化に対応できる人材の養成である。こうした社会の要請にこたえるべく、先端理工学研究科においては、高度な専門知識のみならず、幅広い教養と倫理意識を備えた科学技術者を育成するため、自身の専門分野から学際的な分野まで幅広く科目履修が可能となる弾力的なカリキュラムを構築することによって、異分野にも知識の幅を広げ、主体的に学び、創造することのできる人材を養成する。

【先端理工学専攻　博士後期課程】

修士課程で修得した深い学識や研究能力を基礎として、高度の専門知識を備えながらも、専門の枠にとらわれず広い視野により多角的な問題解決能力を有する科学技術者を育成し、日本の社会に貢献すると共に、科学技術をあるべき道に導く指導者を養成する。

②　上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

1）社会的、地域的な人材需要の動向

理工系人材育成への社会的な要請は、「（1）イ　地域・社会的動向等の現状把握・分析」（p.3-4）及び「B．新設学部等の分野の動向」（p.8）にて記述したとおりである。「労働力人口の減少の中で、付加価値の高い理工系人材は、欠くことのできない存在であり、我が国は、質的充実・量的確保に向け、戦略的に人材育成に取り組む必要がある」（文部科学省「理工系人材育成戦略」平成27年3月13日）として示されているとおり、理工系人材に対する社会的な人材需要は、引き続き高い水準で推移していくと推察される。

[2] https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kyouikumirai/pdf/220510honbun.pdf

2）企業に対する採用意向調査

社会的な人材需要は上述のとおりであるが、先端理工学研究科に対しての具体的な需要を調査すべく、企業に対して「龍谷大学大学院 先端理工学研究科（設置構想中）に関するアンケート」を実施した。

【資料 13. 龍谷大学先端理工学研究科設置に関するアンケート　集計結果（人材需要）】
【資料 14. 龍谷大学大学院先端理工学研究科（仮称・設置構想中）に関するアンケート質問票】
【資料 15.「龍谷大学大学院 先端理工学研究科（設置構想中）に関するアンケート」ご協力のお願い】

調査は、理工学研究科修了生の採用実績のある企業・団体 515 社に対し、龍谷大学先端理工学研究科の概要を送付の上、Web アンケート方式にて実施し、96 社から回答があった。

回答企業の本社所在地は、大阪府が 38.5%、京都府が 21.9%、滋賀県が 15.6%となっており、業種別の内訳は、製造業が 44.8%、情報通信業が 13.5%、建設業が 12.5%、卸売・小売業が 8.3%であった。

本研究科修了生の採用意向として、アンケート回答のあった 96 社のうち、「採用したい」という回答が 71 社（74.0%）からあった。さらに、上記 71 社に採用可能人数の回答を求め、その人数を集計したところ、「修士課程・博士後期課程を問わない採用可能人数」が 165 名、「修士課程のみの採用可能人数」が 59 名、「博士後期課程のみの採用可能人数」が 1 名であった。

これらのことから、本学研究科の定員を大きく上回る数の採用意向があることが分かり、安定した人材需要があると判断できる。

また、これらの企業に本研究科修了者を採用したい理由についての回答（自由記述）を求め、その回答内容を分類したところ[3]、下表のとおりとなった。

＜回答内容の分類と採用意向の種別（クロス集計）＞

回答内容の分類／採用意向	修士・博士不問	修士のみ	博士のみ
業種に合致した理工系人材が必要	15	13	1
教育理念・目的やカリキュラムの方針に共感している	9	4	
龍谷大学大学院理工学研究科の修了生が活躍している	3	1	
専門分野を限定せず幅広い人材が必要	2	1	

最も多い回答内容は「業種に合致した理工系人材が必要」であり、各企業・団体の業種にて必要とされる専門分野が本研究科のコースに備わっていることが分かる。次いで「教育理念・目的やカリキュラムの方針に共感」「理工学研究科の修了生が活躍している」とする回答が多い。

また、自由記述の内容としては、

- 「貴学で学ばれた経験を当社業務に生かせると感じる。」
- 「異分野にも知識の幅を広げたカリキュラムは自発的な社員を望む弊社にとって入社後の

3 回答内容を精査し、1 つの回答につき 4 つのカテゴリーのいずれかに該当するよう一意に定めた。

活躍につながる素晴らしい育成方法だと認識しました。」

・ 「今年度の新入社員に貴学卒業生がおり、理工学研究科出身です。非常に優秀で同じような方が入っていただけたらと思いました。」

などがあり、本研究科修了生への強い期待を感じることができる。

なお、既設の理工学研究科修士課程の各専攻における 2021（令和 3）年度修了生の進路決定率[4]は、数理情報学専攻 87.5%、電子情報学専攻 100%、機械システム工学専攻 100%、物質化学専攻 100%、情報メディア学専攻 75.0%、環境ソリューション工学専攻 100%と、高い値を示している（【資料 16. 2021（令和 3）年度龍谷大学理工学研究科＜修士課程＞就職実績】参照）[5]。

これらの実績と上述した非常に高い採用需要を勘案すると、先端理工学研究科の修了生の採用意向の見通しは良好であると判断する。

また、学生への進路支援については、先端理工学研究科とキャリアセンターの有機的な連携により、キャリア（進路・就職）支援の体制を構築し、きめ細やかな支援を実施していくことを付記する。

以　上

[4] 進路決定率＝（就職者＋進学者＋その他進路決定者）／卒業者数

[5] 2021（令和 3）年度の博士後期課程修了者は無し

学生の確保の見通し等を記載した書類

【資料目次】

資料 1　競合大学の学生納付金との比較

資料 2　先端理工学研究科概要

資料 3　龍谷大学先端理工学研究科設置に関するアンケート集計結果（修士課程）

資料 4　龍谷大学大学院先端理工学研究科（仮称・設置構想中）に関する
アンケート質問票＜修士課程用＞

資料 5　龍谷大学先端理工学研究科設置に関するアンケート集計結果(博士後期課程)

資料 6　龍谷大学大学院先端理工学研究科（仮称・設置構想中）に関する
アンケート質問票＜博士後期課程用＞

資料 7　私立大学大学院の入学定員充足率の推移

資料 8　都道府県別出身者の割合

資料 9　2022（令和 4）年度 都道府県別大学院学生数

資料 10　他大学大学院入学定員

資料 11　他大学大学院定員充足率

資料 12　龍谷大学　大学院理工学研究科　志願状況

資料 13　龍谷大学先端理工学研究科設置に関するアンケート集計結果（人材需要）

資料 14　龍谷大学大学院先端理工学研究科（仮称・設置構想中）に関する
アンケート質問票

資料 15　「龍谷大学大学院先端理工学研究科（設置構想中）に関するアンケート」
ご協力のお願い

資料 16　2021（令和 3）年度 龍谷大学理工学研究科＜修士課程＞就職実績

競合大学の学生納付金との比較

資料1

【大学院修士課程：理系（当該大学出身者）】

関西主要8大学（2022年度入学初年度納付金）との比較（総額の高額順）　（単位：円）

大学名	入学初年度納付金額					
	総額:A	入学金	授業料	施設費等	実験実習料	教育充実費等
同志社大学	1,174,000	100,000	815,000	0	112,000	147,000
立命館大学	1,169,600	0	1,169,600	0	0	0
関西大学	1,139,000	0	1,139,000	0	0	0
関西学院大学	1,110,000	100,000	715,000	0	87,000	208,000
甲南大学	1,098,000	150,000	803,000	0	145,000	0
龍谷大学（予定）	1,074,600	150,000	571,000	210,000	143,600	0
京都産業大学	1,068,000	100,000	694,000	0	102,000	172,000
近畿大学	1,050,000	100,000	950,000	0	0	0

【大学院博士後期課程：理系（当該大学出身者）】

関西主要8大学（2022年度入学初年度納付金）との比較（総額の高額順）　（単位：円）

大学名	入学初年度納付金額					
	総額:A	入学金	授業料	施設費等	実験実習料	教育充実費等
同志社大学	1,092,000	0	820,000	0	112,000	160,000
京都産業大学	968,000	0	694,000	0	102,000	172,000
近畿大学	950,000	0	950,000	0	0	0
甲南大学	948,000	0	803,000	0	145,000	0
龍谷大学（予定）	924,600	0	571,000	210,000	143,600	0
関西大学	819,000	0	819,000	0	0	0
関西学院大学	563,000	0	432,000	0	0	131,000
立命館大学	500,000	0	500,000	0	0	0

Graduate School of Advanced Science and Technology

RYUKOKU UNIVERSITY

先端理工学研究科 先端理工学専攻 修士課程

龍谷大学では、2024年4月に、理工学研究科を改組し、
新たに先端理工学研究科(仮称)[修士課程]の設置を構想しています。

※博士後期課程も同時設置

2024年4月開設予定
（設置構想中のため、掲載内容は変更になる場合があります）

（入学定員：100名）

設置の理念

建学の精神に基づいて、自然・社会と科学との調和を重視し、幅広い教養と理工学の各専門分野における高度の専門知識・技能を身につけ、持続可能な社会の発展に貢献できる高い倫理観を持った高度専門職人材・研究者を育成することを目的とします。

養成する人物像

高度な専門知識のみならず、幅広い教養と倫理意識を備えた科学技術者を育成し、異分野にも知識の幅を広げ、主体的に学び、創造することのできる人材を養成します。

POINT 特色ある６つのコースを設定

数理・情報科学コース （学位：修士（理学））	■学びのポイント 高度な数学的・数理科学的素養を身につけ、種々の問題を数理的思考に基づいて把握・解析できる独創性豊かな人材を養成します。	■取得可能な資格 中学校教諭専修免許状（数学） 高等学校教諭専修免許状（数学）
知能情報メディアコース （学位：修士（工学））	■学びのポイント 先端的な知能情報メディア技術・新たな情報産業の創出に寄与できる専門知識・問題解決能力を身につけ、論理的かつ創造的に思考できる人材を養成します。	■取得可能な資格 高等学校教諭専修免許状（情報）
電子情報通信コース （学位：修士（工学））	■学びのポイント 電子情報通信分野の急速な進歩に的確に対応できるよう、専門的・総合的な知識と能力を身につけ、幅広い研究開発を行うことのできる人材を養成します。	■取得可能な資格 高等学校教諭専修免許状（工業）
機械工学・ロボティクスコース （学位：修士（工学））	■学びのポイント 機械工学・ロボティクスに関する専門的な知識を身につけ、社会の発展に寄与する優れた機械システムを構築できる人材を養成します。	■取得可能な資格 高等学校教諭専修免許状（工業）
応用化学コース （学位：修士（工学））	■学びのポイント 物質や材料に関する高い専門知識と応用力を身につけ、科学技術に関する問題を分析・整理し、解決に導くことのできる人材を養成します。	■取得可能な資格 中学校教諭専修免許状（理科） 高等学校教諭専修免許状（理科）
環境科学コース （学位：修士（工学））	■学びのポイント 環境諸問題への対処を図るため、自然環境・生態系に関する総合的な理解と課題解決のための工学的センスを併せ持った人材を養成します。	■取得可能な資格 中学校教諭専修免許状（理科） 高等学校教諭専修免許状（理科）

POINT 幅広い教養と倫理意識を備えた科学技術者を育成

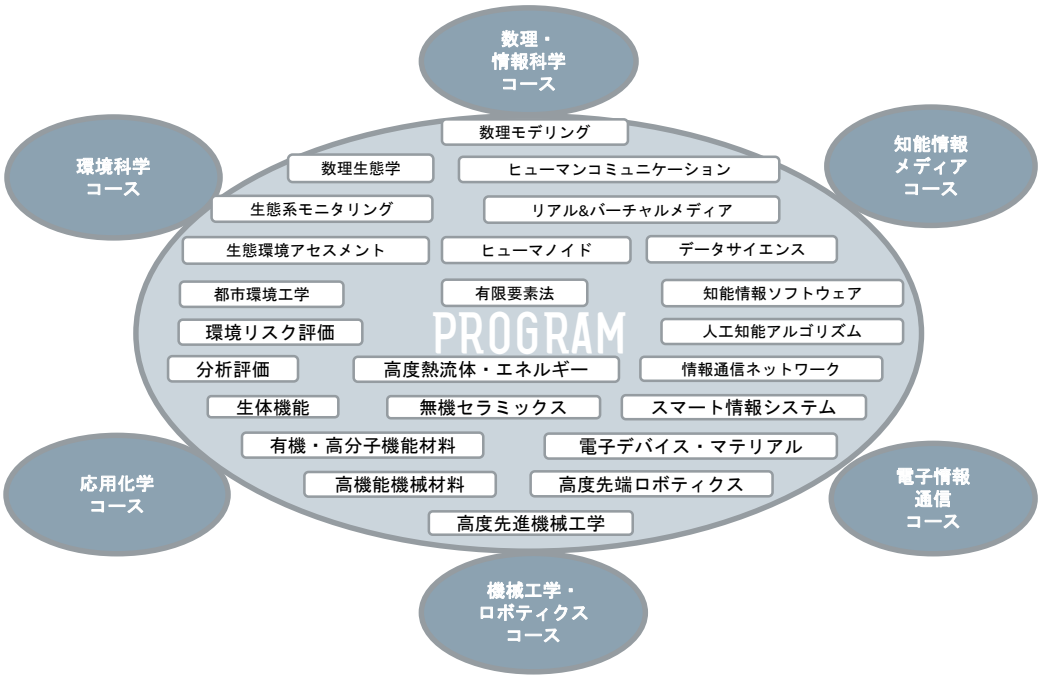
・大学院生としての幅広い教養と倫理意識を涵養する「大学院教養科目」を、各コース共通の科目として開講します。

POINT 異分野にも知識の幅を広げる横断的カリキュラム

・自らの興味関心に基づき他コースの授業科目も履修可能となる横断的なカリキュラムを構築。専門特化型の学びから学際的な学びまで、幅広い学びの形態を可能としています。

POINT 横断的な学びを促進する「プログラム」

・「プログラム」は、あるテーマに関連する科目をパッケージ化したものです。
自身の興味・関心や希望する進路に基づく「プログラム」に沿って履修を進めることで、各自の専門分野から関連する他分野科目まで、そのテーマに関連する科目を系統的に履修することができ、自らのキャリアプランの実現に寄与するものとなっています。



想定される修了後の進路	●製造業　●土木・建築業　●情報通信業　●サービス業 ●中学・高校教員　●公務員　●進学（博士後期課程） 等
理工学研究科修了生のこれまでの主な就職先	NTTドコモ、富士通、ルネサスエレクトロニクス、本田技研工業、関西電力、三菱電機、村田製作所、日本電産、オムロン、ＬＩＸＩＬ、日立造船、京都銀行、京都市役所、滋賀県教育委員会　他

初年度納付金（予定）※諸会費を除く

項　目	本学出身者	他大学出身者
入学金	150,000円	200,000円
授業料	571,000円	571,000円
施設費	210,000円	280,000円
実験実習料	143,600円	143,600円
学費等総額	1,074,600円	1,194,600円

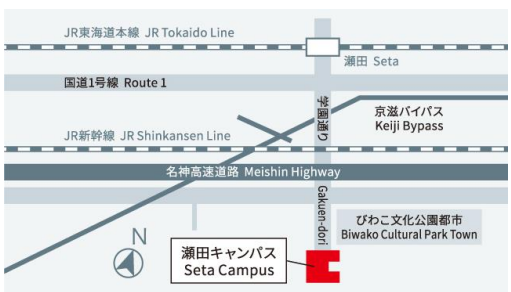
＜参考＞他大学修士課程（博士前期課程）初年度納付金（自大学出身者,諸会費を除く）
※各大学のHPより(2022年度入学生)

○立命館大学理工学研究科……1,169,600円　○関西大学理工学研究科　……1,139,000円
○同志社大学理工学研究科……1,174,000円　○関西学院大学理工学研究科　‥1,110,000円

設置場所・アクセス

龍谷大学　瀬田キャンパス

〒520-2194　滋賀県大津市瀬田大江町横谷1-5
アクセス：JR東海道本線「瀬田」駅下車 バス約8分
JR東海道本線「大津」駅下車 バス約20分 ＜直行便＞
京阪本線「中書島」駅下車 バス約30分 ＜直行便＞



問い合わせ先：龍谷大学先端理工学部教務課 TEL：077-543-7400
代表メールアドレス E-mail：rikou@ad.ryukoku.ac.jp

Graduate School of Advanced Science and Technology

RYUKOKU UNIVERSITY

先端理工学研究科 先端理工学専攻 博士後期課程

龍谷大学では、2024年4月に、理工学研究科を改組し、
新たに先端理工学研究科(仮称)[博士後期課程]の設置を構想しています。

※修士課程も同時設置

2024年4月開設予定
（設置構想中のため、掲載内容は変更になる場合があります）（入学定員：10名）

設置の理念

建学の精神に基づいて、自然・社会と科学との調和を重視し、幅広い教養と理工学の各専門分野における高度の専門知識・技能を身につけ、持続可能な社会の発展に貢献できる高い倫理観を持った高度専門職人材・研究者を育成することを目的とします。

養成する人物像

高度の専門知識を備えながらも、専門の枠にとらわれず広い視野により多角的な問題解決能力を有する科学技術者を育成し、日本の社会に貢献すると共に、科学技術をあるべき道に導く指導者を養成します。

POINT　特色ある６つのコースを設定

数理・情報科学コース
（学位：博士（理学））

■学びのポイント

高度な数学的・数理科学的素養を究め、数理科学と情報科学の両分野における深い知識と鋭い思考力をもった人材を養成します。

知能情報メディアコース
（学位：博士（工学））

■学びのポイント

情報科学と技術革新の分野において高度な専門的知識を有し、多面的な様相を見せている課題に対して総合的に理解し、その課題解決を追求する能力をもつ人材を養成します。

電子情報通信コース
（学位：博士（工学））

■学びのポイント

電子工学・情報工学・通信工学の専門的かつ高度な知識と能力を身につけ、電子情報通信分野において世界に通用するリーダーシップを発揮することのできる人材を養成します。

機械工学・ロボティクスコース
（学位：博士（工学））

■学びのポイント

機械工学・ロボティクスに関する専門分野の高度な知識や技術を身につけ、社会の発展に寄与する優れた機械システムを研究・開発でき、国内のみならず世界において中心的な役割を担うことができる人材を養成します。

応用化学コース
（学位：博士（工学））

■学びのポイント

物質や材料に関する高度な専門知識と応用力を身につけ、科学技術に関する問題を発見・分析・整理し、解決に導くことのできる自立した研究者を養成します。

環境科学コース
（学位：博士（工学））

■学びのポイント

環境諸問題への包括的対応を図るため、課題解決型の工学的知識に加え、自然環境・生態系に関する幅広い知識をもった、豊かで潤いのある生活環境の創造を志す人材を養成します。

POINT　異分野にも知識の幅を広げるカリキュラム

・学生がコースの垣根を超えて自身の研究内容を互いに紹介し、ディスカッションする「サイエンスコミュニケーション」を開講。異なる研究領域への理解と、プレゼンテーション能力を身につけます。

先端理工学研究科 先端理工学専攻 博士後期課程　カリキュラム（予定）

科　　目	必修/選択	修了要件単位数	内　　容
サイエンスコミュニケーション	必修	2	学生がコースの垣根を超えて、自身の研究内容を互いに紹介し、ディスカッションを行う。
特別研究	必修	12	指導教員による博士論文作成へ向けた研究指導科目
特別講義	選択	-	指導教員による専門分野に関する講義
修了要件単位数		14	

想定される修了後の進路　●製造業　●土木・建築業　●情報通信業　●サービス業　●中学・高校教員　●公務員　●研究職　等

初年度納付金（予定）※諸会費を除く

項　目	本学研究科出身者	他大学出身者
入学金	―	200,000円
授業料	571,000円	571,000円
施設費	210,000円	280,000円
実験実習料	143,600円	143,600円
学費等総額	924,600円	1,194,600円

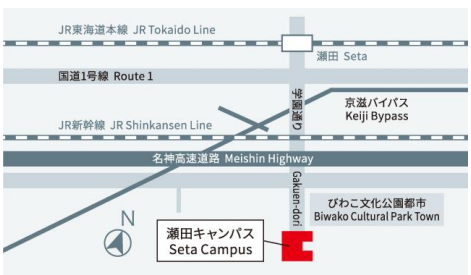
＜参考＞他大学の博士後期課程初年度納付金（自大学出身者,諸会費を除く）
※各大学のHPより(2022年度入学生)

○同志社大学理工学研究科……1,092,000円　○近畿大学総合理工学研究科……950,000円
○京都産業大学理学研究科……968,000円　○甲南大学自然科学研究科……948,000円

設置場所・アクセス

龍谷大学　瀬田キャンパス

〒520-2194　滋賀県大津市瀬田大江町横谷1-5
アクセス：JR東海道本線「瀬田」駅下車 バス約8分
JR東海道本線「大津」駅下車 バス約20分 ＜直行便＞
京阪本線「中書島」駅下車 バス約30分 ＜直行便＞



問い合わせ先：龍谷大学先端理工学部教務課 TEL：077-543-7400
代表メールアドレス E-mail：rikou@ad.ryukoku.ac.jp

資料3

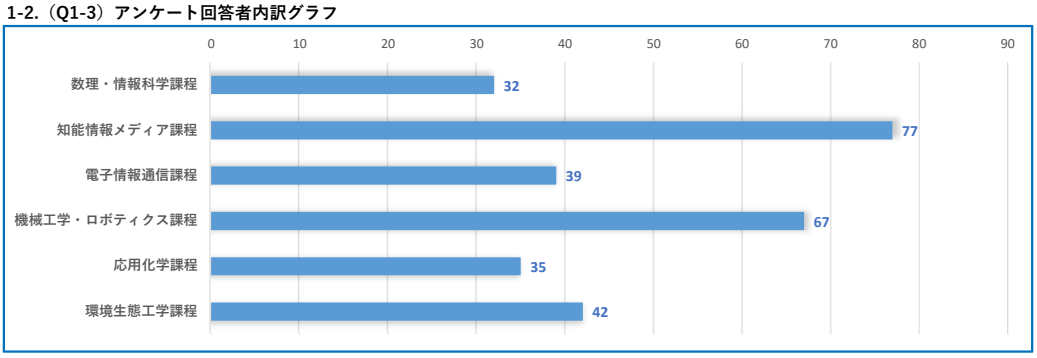
龍谷大学先端理工学研究科設置に関するアンケート集計結果（修士課程）

調査期間：2022年12月1日～12月31日
調査方法：WEBアンケート方式にて実施
（メール及び学部3年生の必修科目での周知を図った）

1-1.（Q1-3）アンケート回答者内訳（いずれも龍谷大学先端理工学部３年次生）

所属課程	回答者数	対象者	回答率
数理・情報科学課程	32	80	40.0%
知能情報メディア課程	77	95	81.1%
電子情報通信課程	39	95	41.1%
機械工学・ロボティクス課程	67	86	77.9%
応用化学課程	35	87	40.2%
環境生態工学課程	42	87	48.3%
合計	292	530	55.1%

1-2.（Q1-3）アンケート回答者内訳グラフ



2.（Q4）卒業後の進路に関する考え（複数選択可）

就職	217
私立大学院に進学	135
国公立大学院に進学	60
専門学校・専修学校に進学	3
海外大学院に進学	1

3.（Q5）計画中の先端理工学研究科修士課程についての興味

大変興味がある	45
興味がある	85
どちらとも言えない	92
興味がない	70
総計	292

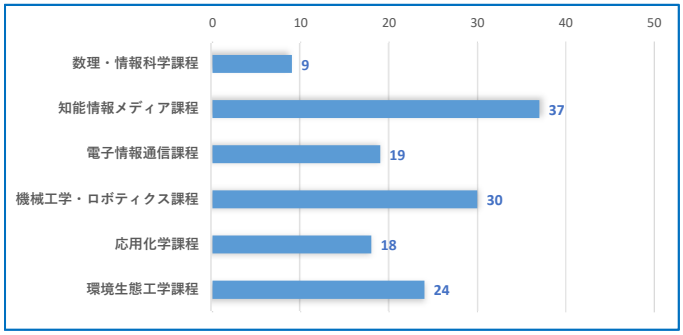
4.（Q6）先端理工学研究科修士課程を受験意向

ぜひ受験したい	47
条件が合えば受験したい	76
どちらとも言えない	90
受験したいとは思わない	79
総計	292

5-1.（Q7）先端理工学研究科修士課程への進学意向（「ぜひ進学したい」「条件が合えば進学したい」と回答した人数）

所属課程	ぜひ進学したい	条件が合えば進学したい	進学意向者計	回答者合計	回答者に占める進学意向者の割合
数理・情報科学課程	5	4	9	32	28.1%
知能情報メディア課程	12	25	37	77	48.1%
電子情報通信課程	6	13	19	39	48.7%
機械工学・ロボティクス課程	8	22	30	67	44.8%
応用化学課程	6	12	18	35	51.4%
環境生態工学課程	4	20	24	42	57.1%
総計	41	96	137	292	46.9%

5-2.（Q7）先端理工学研究科修士課程への進学意向（「ぜひ進学したい」「条件が合えば進学したい」と回答した人数）グラフ



6.（Q8）所属課程と進学希望コースのクロス集計（「ぜひ進学したい」「条件が合えば進学したい」と回答した者の希望する進学コース）

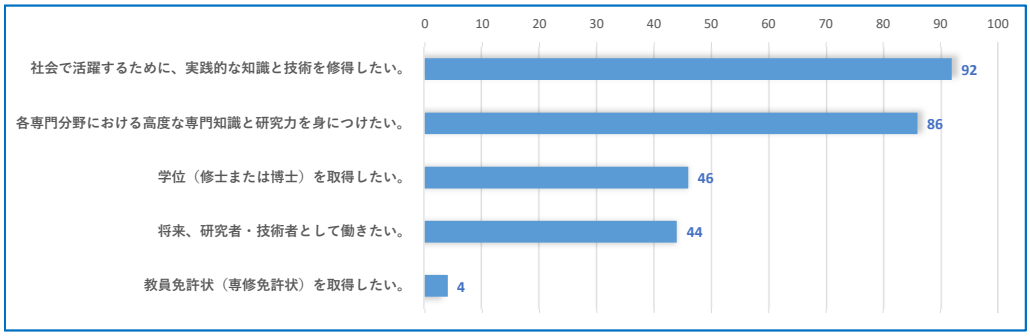
所属課程／進学希望コース	数理・情報科学コース	知能情報メディアコース	電子情報通信コース	機械工学・ロボティクスコース	応用化学コース	環境科学コース	計
数理・情報科学課程	9						9
知能情報メディア課程		37					37
電子情報通信課程		1	18				19
機械工学・ロボティクス課程				30			30
応用化学課程					18		18
環境生態工学課程						24	24
計	9	38	18	30	18	24	137

所属課程と進学希望コースが異なる者（1名）

7-1.（Q9）先端理工学研究科修士課程への進学を希望する動機（複数選択可）

社会で活躍するために、実践的な知識と技術を修得したい。	92
各専門分野における高度な専門知識と研究力を身につけたい。	86
学位（修士または博士）を取得したい。	46
将来、研究者・技術者として働きたい。	44
教員免許状（専修免許状）を取得したい。	4

7-2.（Q9）先端理工学研究科修士課程への進学を希望する動機（複数選択可）グラフ



龍谷大学大学院先端理工学研究科（仮称・設置構想中）
に関するアンケート質問票
＜修士課程用＞

龍谷大学では、2024（令和 6）年 4 月に、現在の大学院理工学研究科を改組し、新たに「先端理工学研究科」（仮称・設置構想中）を設置するべく準備を進めています。

この研究科では、建学の精神に基づいて、自然・社会と科学との調和を重視し、幅広い教養と理工学の各専門分野における高度の専門知識・技能を身につけ、持続可能な社会の発展に貢献できる高い倫理観を持った高度専門職人材・研究者を育成することを目指しています。詳細は、別紙のチラシのとおりです。

この研究科について以下の質問にお答えください。

なお、ご回答いただいた内容については、統計的に処理しますので、ご自身の入学や学生生活等に影響を及ぼすことはありません。

１．あなたの学年等を教えてください。

□１）学部 3 年次生
□２）社会人

２．あなたの所属大学（または出身大学）を教えてください。

□１）龍谷大学
□２）龍谷大学以外

３．あなたの専攻する学問分野を教えてください。他大学、社会人の方は、最も近い分野を選択して下さい。

□１）数理・情報科学
□２）知能情報メディア
□３）電子情報通信
□４）機械工学・ロボティクス
□５）応用化学
□６）環境生態工学
□７）その他（　　）

＜次ページ（裏面）に続きます＞

４．あなたは、大学卒業後の進路について、現時点でどのように考えていますか。社会人の方は、今後のキャリアビジョンについてお答えください。（複数選択可）

□１）国公立大学院に進学
□２）私立大学院に進学
□３）就職
□４）専門学校・専修学校に進学
□５）その他（　　）

５．現在、本学で計画中の先端理工学研究科修士課程について、興味がありますか。

□１）大変興味がある
□２）興味がある
□３）どちらとも言えない
□４）興味がない

６．先端理工学研究科修士課程を受験してみたいと思いますか。

□１）ぜひ受験したい
□２）条件が合えば受験したい
□３）どちらとも言えない
□４）受験したいとは思わない

７．先端理工学研究科修士課程に合格した場合、進学を希望されますか。

□１）ぜひ進学したい
□２）条件が合えば進学したい
□３）どちらとも言えない
□４）進学したいとは思わない

８．**【７の質問に対して「ぜひ進学したい」または「条件が合えば進学したい」を選択された方のみ】**
先端理工学研究科修士課程のうち、どのコースに進学したいですか。（いずれか１つ）

□１）数理・情報科学コース
□２）知能情報メディアコース
□３）電子情報通信コース
□４）機械工学・ロボティクスコース
□５）応用化学コース
□６）環境科学コース

９．**【７の質問に対して「ぜひ進学したい」または「条件が合えば進学したい」を選択された方のみ】**
大学院先端理工学研究科修士課程への進学を希望される動機を教えてください。（複数選択可）

□１）各専門分野における高度な専門知識と研究力を身につけたい。
□２）社会で活躍するために、実践的な知識と技術を修得したい。
□３）教員免許状（専修免許状）を取得したい。
□４）将来、研究者・技術者として働きたい。
□５）学位（修士または博士）を取得したい。
□６）その他（　　）

10. 新しく設置する大学院先端理工学研究科に対して、その他、ご意見、ご要望、ご提言等がございましたら、自由に記入ください。

（　　）

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

資料5

龍谷大学先端理工学研究科設置に関するアンケート集計結果（博士後期課程）

調査期間：2022年12月1日～12月31日

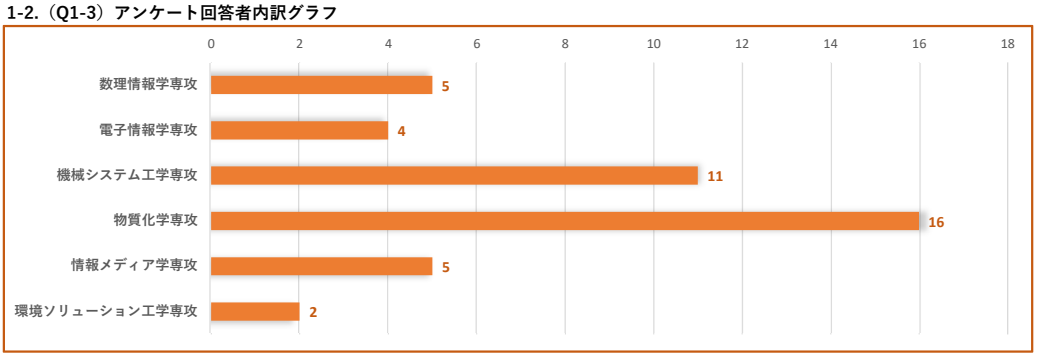
調査方法：WEBアンケート方式にて実施

（メール及び指導教員等から声がけにより周知を図った）

1-1.（Q1-3）アンケート回答者内訳（いずれも龍谷大学理工学研究科1年次生）

所属専攻	回答者数	対象者	回答率
数理情報学専攻	5	7	71.4%
電子情報学専攻	4	15	26.7%
機械システム工学専攻	11	14	78.6%
物質化学専攻	16	21	76.2%
情報メディア学専攻	5	10	50.0%
環境ソリューション工学専攻	2	3	66.7%
合計	43	70	61.4%

1-2.（Q1-3）アンケート回答者内訳グラフ



2.（Q4）修了後の進路に関する考え（複数選択可）

就職	39
私立大学院博士後期課程に進学	13
国公立大学院博士後期課程に進学	2

3.（Q5）計画中の先端理工学研究科博士後期課程についての興味

大変興味がある	4
興味がある	4
どちらとも言えない	14
興味がない	21
総計	43

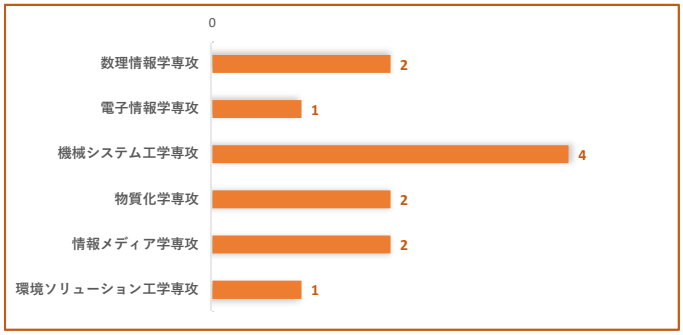
4.（Q6）先端理工学研究科博士後期課程を受験意向

ぜひ受験したい	2
条件が合えば受験したい	5
どちらとも言えない	8
受験したいとは思わない	28
総計	43

5-1.（Q7）先端理工学研究科博士後期課程への進学意向（「ぜひ進学したい」「条件が合えば進学したい」と回答した人数）

所属専攻	ぜひ進学したい	条件が合えば進学したい	進学意向者計	回答者合計	回答者に占める進学意向者の割合
数理情報学専攻		2	2	5	40.0%
電子情報学専攻		1	1	4	25.0%
機械システム工学専攻	1	3	4	11	36.4%
物質化学専攻	1	1	2	16	12.5%
情報メディア学専攻		2	2	5	40.0%
環境ソリューション工学専攻		1	1	2	50.0%
総計	2	10	12	43	27.9%

5-2.（Q7）先端理工学研究科博士後期課程への進学意向（「ぜひ進学したい」「条件が合えば進学したい」と回答した人数）グラフ



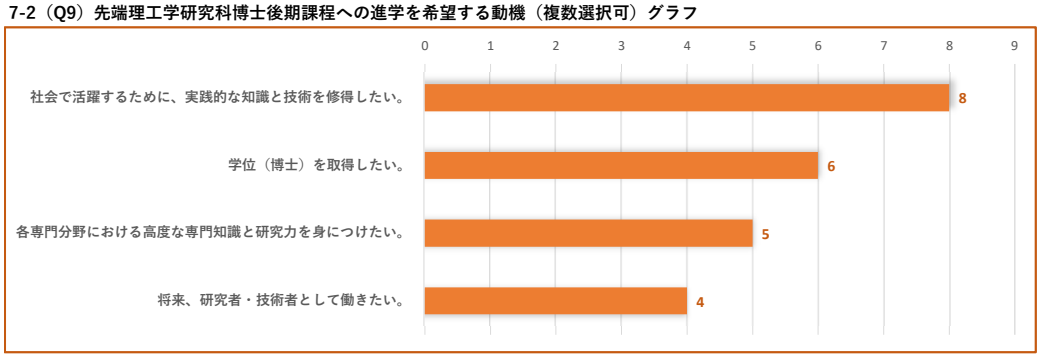
6.（Q8）所属専攻と進学希望コースのクロス集計（「ぜひ進学したい」「条件が合えば進学したい」と回答した者の希望する進学コース）

所属専攻／進学希望コース	数理・情報科学コース	電子情報通信コース	機械工学・ロボティクスコース	応用化学コース	知能情報メディアコース	環境科学コース	計
数理情報学専攻	2						2
電子情報学専攻		1					1
機械システム工学専攻			4				4
物質化学専攻				2			2
情報メディア学専攻					2		2
環境ソリューション工学専攻						1	1
計	2	1	4	2	2	1	12

7.（Q9）先端理工学研究科博士後期課程への進学を希望する動機（複数選択可）

社会で活躍するために、実践的な知識と技術を修得したい。	8
学位（博士）を取得したい。	6
各専門分野における高度な専門知識と研究力を身につけたい。	5
将来、研究者・技術者として働きたい。	4
計	23

7-2（Q9）先端理工学研究科博士後期課程への進学を希望する動機（複数選択可）グラフ



龍谷大学大学院先端理工学研究科（仮称・設置構想中）
に関するアンケート質問票
＜博士後期課程用＞

龍谷大学では、2024（令和 6）年 4 月に、現在の大学院理工学研究科を改組し、新たに「先端理工学研究科」（仮称・設置構想中）を設置するべく準備を進めています。

この研究科では、建学の精神に基づいて、自然・社会と科学との調和を重視し、幅広い教養と理工学の各専門分野における高度の専門知識・技能を身につけ、持続可能な社会の発展に貢献できる高い倫理観を持った高度専門職人材・研究者を育成することを目指しています。詳細は、別紙のチラシのとおりです。

この研究科について以下の質問にお答えください。

なお、ご回答いただいた内容については、統計的に処理しますので、ご自身の入学や学生生活等に影響を及ぼすことはありません。

１．あなたの学年等を教えてください。

□１）修士課程（博士前期課程）1 年次生
□２）社会人

２．あなたの所属大学（または出身大学）を教えてください。

□１）龍谷大学
□２）龍谷大学以外

３．あなたの専攻する学問分野を教えてください。他大学、社会人の方は、最も近い分野を選択して下さい。

□１）数理・情報科学
□２）知能情報メディア
□３）電子情報通信
□４）機械工学・ロボティクス
□５）応用化学
□６）環境生態工学
□７）その他（　　）

＜次ページ（裏面）に続きます＞

４．あなたは、大学院修士課程（博士前期課程）修了後の進路について、現時点でどのように考えていますか。社会人の方は、今後のキャリアビジョンについてお答えください。（複数選択可）

□１）国公立大学院博士後期課程に進学
□２）私立大学院博士後期課程に進学
□３）就職
□４）専門学校・専修学校に進学
□５）その他（　　）

５．現在、本学で計画中の先端理工学研究科博士後期課程について、興味がありますか。

□１）大変興味がある
□２）興味がある
□３）どちらとも言えない
□４）興味がない

６．先端理工学研究科博士後期課程を受験してみたいと思いますか。

□１）ぜひ受験したい
□２）条件が合えば受験したい
□３）どちらとも言えない
□４）受験したいとは思わない

７．先端理工学研究科博士後期課程に合格した場合、進学を希望されますか。

□１）ぜひ進学したい
□２）条件が合えば進学したい
□３）どちらとも言えない
□４）進学したいとは思わない

８．【７の質問に対して「ぜひ進学したい」または「条件が合えば進学したい」を選択された方のみ】
先端理工学研究科博士後期課程のうち、どのコースに進学したいですか。（いずれか１つ）

□１）数理・情報科学コース
□２）知能情報メディアコース
□３）電子情報通信コース
□４）機械工学・ロボティクスコース
□５）応用化学コース
□６）環境科学コース

９．【７の質問に対して「ぜひ進学したい」または「条件が合えば進学したい」を選択された方のみ】

大学院先端理工学研究科博士後期課程への進学を希望される動機を教えてください。（複数選択可）

□１）各専門分野における高度な専門知識と研究力を身につけたい。
□２）社会で活躍するために、実践的な知識と技術を修得したい。
□３）将来、研究者・技術者として働きたい。
□４）学位（博士）を取得したい。
□５）その他（　　）

10. **新しく設置する大学院先端理工学研究科に対して、その他、ご意見、ご要望、ご提言等がございましたら、自由に記入ください。**

（　　）

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

資料7

私立大学大学院の入学定員充足率の推移

【修士課程】

	大学院全体（理・工学系）			（参考）大学院全体（社会科学系）			（参考）大学院全体（人文科学系）		
	入学定員（人）	入学者（人）	充足率（%）	入学定員（人）	入学者（人）	充足率（%）	入学定員（人）	入学者（人）	充足率（%）
2022（令和4）年度	13,411	13,043	97.3%	11,934	8,147	68.3%	5,018	2,380	47.4%
2021（令和3）年度	13,339	12,835	96.2%	11,865	7,723	65.1%	5,041	2,260	44.8%
2020（令和2）年度	13,213	11,667	88.3%	11,861	7,964	67.1%	5,077	2,312	45.5%
2019（令和元）年度	13,250	11,661	88.0%	11,742	8,017	68.3%	5,153	2,376	46.1%
2018（平成30）年度	12,997	11,735	90.3%	11,666	7,772	66.6%	5,170	2,445	47.3%
2018（平成30）~2022（令和4）年度 5か年平均→			92.0%			67.1%			46.2%

【博士後期課程】

	大学院全体（理・工学系）			（参考）大学院全体（社会科学系）			（参考）大学院全体（人文科学系）		
	入学定員（人）	入学者（人）	充足率（%）	入学定員（人）	入学者（人）	充足率（%）	入学定員（人）	入学者（人）	充足率（%）
2022（令和4）年度	1,727	710	41.1%	1,504	402	26.7%	1,286	387	30.1%
2021（令和3）年度	1,715	666	38.8%	1,513	367	24.3%	1,288	348	27.0%
2020（令和2）年度	1,733	768	44.3%	1,500	409	27.3%	1,291	381	29.5%
2019（令和元）年度	1,742	703	40.4%	1,526	412	27.0%	1,302	472	36.3%
2018（平成30）年度	1,739	733	42.2%	1,539	443	28.8%	1,306	461	35.3%
2018（平成30）~2022（令和4）年度 5か年平均→			41.4%			26.8%			31.7%

（日本私立学校振興・共済事業団資料より作成）

資料８

【　省　略　】

１（書類等の題名）

資料8　都道府県別出身者の割合

２（出典）

本学入試部所持データ

３（その他の説明）

本内容は、学内資料（学外秘）であり【省略】とする。

以　上

2022（令和4）年度 都道府県別大学院学生数

資料9

区　　分	大学院学生数	割合	（地域別割合）	
北海道	9,093	3.5%	北海道	3.5%
青森県	1,122	0.4%	東北	5.2%
岩手県	1,170	0.4%		
宮城県	7,521	2.9%		
秋田県	1,131	0.4%		
山形県	1,382	0.5%		
福島県	1,159	0.4%		
茨城県	7,755	3.0%	関東	42.9%
栃木県	2,219	0.8%		
群馬県	1,862	0.7%		
埼玉県	4,153	1.6%		
千葉県	9,064	3.5%		
東京都	75,029	28.7%		
神奈川県	12,155	4.6%		
新潟県	4,569	1.7%	甲信越	4.0%
富山県	1,473	0.6%		
石川県	4,332	1.7%		
福井県	1,171	0.4%	北陸	1.7%
山梨県	1,035	0.4%		
長野県	2,240	0.9%		
岐阜県	1,949	0.7%	中部	7.8%
静岡県	2,586	1.0%		
愛知県	14,527	5.5%		
三重県	1,331	0.5%		
滋賀県	3,149	1.2%	近畿	19.9%
京都府	18,068	6.9%		
大阪府	18,532	7.1%		
兵庫県	9,204	3.5%		
奈良県	2,419	0.9%		
和歌山県	853	0.3%		
鳥取県	1,049	0.4%	中国	4.9%
島根県	788	0.3%		
岡山県	3,803	1.5%		
広島県	5,605	2.1%		
山口県	1,674	0.6%		
徳島県	2,116	0.8%	四国	1.9%
香川県	834	0.3%		
愛媛県	1,147	0.4%		
高知県	943	0.4%		
福岡県	11,622	4.4%	九州・沖縄	8.2%
佐賀県	838	0.3%		
長崎県	1,823	0.7%		
熊本県	2,348	0.9%		
大分県	943	0.4%		
宮崎県	835	0.3%		
鹿児島県	1,739	0.7%		
沖縄県	1,422	0.5%		
合　計	261,782			

※小数点第2位以下四捨五入

（学校基本調査報告書より作成）

他大学大学院入学定員

資料10

1．立命館大学

研究科	専攻	博士前期課程	博士後期課程
理工学研究科	基礎理工学専攻	50	6
	電子システム専攻	140	8
	機械システム専攻	140	11
	環境都市専攻	120	15
情報理工学研究科	情報理工学専攻 計算機科学コース 情報理工学専攻 人間情報科学コース	200	15
合　計		650	55

修士定員/学部定員の比率	45.3%
博士定員/修士定員の比率	8.5%

（参考）立命館大学　学部定員

学部	学科・専攻	学部定員
理工学部	数理科学科　数学コース	45
	数理科学科　データサイエンスコース	52
	物理科学科	86
	電気電子工学科	154
	電子情報工学科	102
	機械工学科	173
	ロボティクス学科	90
	環境都市工学科	166
	建築都市デザイン学科	91
情報理工学部	知能情報　他	425
	情報システムグローバルコース	50
合　計		1,434

2．同志社大学

研究科	専攻	博士前期課程	博士後期課程
理工学研究科	情報工学専攻	60	5
	電気電子工学専攻	70	7
	機械工学専攻	80	8
	応用化学専攻	80	7
	数理環境科学専攻	25	3
合　計		315	30

修士定員/学部定員の比率	41.7%
博士定員/修士定員の比率	9.5%

（参考）同志社大学　学部定員

学部	専攻	学部定員
理工学部	インテリジェント情報工学科	83
	情報システムデザイン学科	83
	電気工学科	80
	電子工学科	86
	機械システム工学科	96
	機械理工学科	70
	機能分子・生命化学科	83
	化学システム創成工学科	83
	環境システム学科	51
	数理システム学科	41
合　計		756

3．関西学院大学

研究科	専攻	博士前期課程	博士後期課程
理工学研究科	数理科学専攻	10	2
	物理学専攻	22	3
	先進エネルギーナノ工学専攻	30	2
	化学専攻	33	6
	環境・応用化学専攻	35	2
	生命科学専攻	35	5
	生命医化学専攻	30	2
	情報科学専攻	22	2
	人間システム工学専攻	25	2
合　計		242	26

修士定員/学部定員の比率	36.0%
博士定員/修士定員の比率	10.7%

（参考）関西学院大学　学部定員

学部	専攻	学部定員
理学部	数理科学科	54
	物理・宇宙学科	60
	化学学科	66
工学部	物質工学課程	55
	電気電子応用工学課程	60
	情報工学課程	90
	知能・機械工学課程	60
生命環境学部	生物科学科	61
	生命医科学科	84
	環境応用化学科	83
合　計		673

4．関西大学

研究科	専攻	博士前期課程	博士後期課程
総合情報学研究科	社会情報学専攻	15	8
	知識情報学専攻	35	
理工学研究科	システム理工学専攻	142	47
	環境都市工学専攻	86	
	化学生命工学専攻	108	
合　計		386	55

修士定員/学部定員の比率	23.1%
博士定員/修士定員の比率	14.2%

（参考）関西大学　学部定員

学部	学科（専攻・専修）	学部定員
総合情報学部	総合情報学科	500
システム理工学部	数学科	501
	物理・応用物理学科	
	機械工学科	
	電気・電子情報工学科	
環境都市工学部	建築学科	325
	都市システム工学科	
	エネルギー環境・化学工学科	
化学生命工学部	化学・物質工学科	347
	生命・生物工学科	
合　計		1,673

5．近畿大学

研究科	専攻	修士課程	博士後期課程
総合理工学研究科	理学専攻	30	2
	物質系工学専攻	40	2
	メカニックス系工学専攻	25	2
	エレクトロニクス系工学専攻	30	2
	環境系工学専攻	15	2
	建築デザイン専攻	10	－
	東大阪モノづくり専攻	10	2
生物理工学研究科	生物工学専攻	16	3
	生体システム工学専攻	18	2
システム工学研究科	システム工学専攻	45	5
産業理工学研究科	産業理工学専攻	30	3
合　計		269	25

修士定員/学部定員の比率	10.8%
博士定員/修士定員の比率	9.3%

（参考）近畿大学　学部定員

学部	学科（専攻・専修）	学部定員
理工学部	理学科	225
	生命科学科	95
	応用化学科	130
	機械工学科	200
	電気電子通信工学科	170
	社会環境工学科	100
	エネルギー物質学科	120
生物理工学部	生物工学科	90
	遺伝子工学科	90
	食品安全工学科	90
	生命情報工学科	80
	人間環境デザイン工学科	80
	医用工学科	55
工学部	化学生命工学科	85
	機械工学科	100
	ロボティクス学科	80
	電子情報工学科	90
	情報学科	90
	建築学科	100
産業理工学部	生物環境化学科	75
	電気電子工学科	65
	建築・デザイン学科	90
	情報学科	70
	経営ビジネス学科	120
合　計		2,490

6．京都産業大学

研究科	専攻	博士前期課程	博士後期課程
先端情報学研究科	先端情報学専攻	20	3
理学研究科	数学専攻	5	3
	物理学専攻	10	3
合　計		35	9

修士定員/学部定員の比率	11.9%
博士定員/修士定員の比率	25.7%

（参考）京都産業大学　学部定員

学部	学科（専攻・専修）	学部定員
情報理工学部	情報理工学科	160
理学部	数理科学科	55
	物理科学科	40
	宇宙物理・気象学科	40
合　計		295

7．甲南大学

研究科	専攻	修士課程	博士後期課程
自然科学研究科	物理学専攻	12	3
	化学専攻	12	－
	生物学専攻	5	－
	生命・機能科学専攻	－	3
	知能情報学専攻	6	2
フロンティアサイエンス学研究科	生命化学専攻	15	1
合　計		50	9

修士定員/学部定員の比率	15.6%
博士定員/修士定員の比率	18.0%

（参考）甲南大学　学部定員

学部	学科（専攻・専修）	学部定員
理工学部	物理学科	50
	生物学科	45
	機能分子化学科	60
知能情報学部	知能情報学科	120
フロンティアサイエンス学部	生命化学科	45
合　計		320

【龍谷大学】

研究科	専攻	修士課程	博士後期課程
先端理工学研究科	先端理工学専攻	100	10

修士定員/学部定員の比率	15.9%
博士定員/修士定員の比率	10.0%

【龍谷大学】

学部	課程	学部定員
先端理工学部定員	6課程計	628

2022（令和4）年5月時点（各大学入試要項・HP等から集約）

他大学大学院定員充足率

資料11

１．立命館大学

研究科	博士前期課程定員	2022年度入学者	定員充足率	博士後期課程定員	2022年度入学者	定員充足率
理工学研究科	450	364	80.9%	40	13	32.5%
情報理工学研究科	200	153	76.5%	15	11	73.3%
合　計	650	517	79.5%	55	24	43.6%

２．同志社大学

研究科	博士前期課程定員	2022年度入学者	定員充足率	博士後期課程定員	2022年度入学者	定員充足率
理工学研究科	315	367	116.5%	30	14	46.7%
合　計	315	367	116.5%	30	14	46.7%

３．関西学院大学

研究科	博士前期課程定員	2022年度入学者	定員充足率	博士後期課程定員	2022年度入学者	定員充足率
理工学研究科	242	272	112.4%	26	18	69.2%
合　計	242	272	112.4%	26	18	69.2%

４．関西大学

研究科	博士前期課程定員	2022年度入学者	定員充足率	博士後期課程定員	2022年度入学者	定員充足率
総合情報学研究科	50	41	82.0%	8	5	62.5%
理工学研究科	336	404	120.2%	47	16	34.0%
合　計	386	445	115.3%	55	21	38.2%

５．近畿大学

研究科	修士課程定員	2022年度入学者	定員充足率	博士後期課程定員	2022年度入学者	定員充足率
総合理工学研究科	160	280	175.0%	12	7	58.3%
生物理工学研究科	34	44	129.4%	5	5	100.0%
システム工学研究科	45	59	131.1%	5	1	20.0%
産業理工学研究科	30	20	66.7%	3	1	33.3%
合　計	269	403	149.8%	25	14	56.0%

６．京都産業大学

研究科	博士前期課程定員	2022年度入学者	定員充足率	博士後期課程定員	2022年度入学者	定員充足率
先端情報学研究科	20	20	100.0%	3	0	0.0%
理学研究科	15	7	46.7%	6	1	16.7%
合　計	35	27	77.1%	9	1	11.1%

７．甲南大学

研究科	修士課程定員	2022年度入学者	定員充足率	博士後期課程定員	2022年度入学者	定員充足率
自然科学研究科	35	37	105.7%	8	1	12.5%
フロンティアサイエンス学研究科	15	18	120.0%	2	5	250.0%
合　計	50	55	110.0%	10	6	60.0%

2022（令和4）年5月時点（各大学入試要項・HP等から集約）

資料12

龍谷大学　大学院理工学研究科　志願状況

修士課程

年度	定員	志願者	入学者	定員充足率
2023（令和5）年度	140	120	83	59.3%
2022（令和4）年度	140	113	69	49.3%
2021（令和3）年度	140	123	103	73.6%
2020（令和2）年度	140	81	66	47.1%
2019（令和元）年度	140	105	66	47.1%
2018（平成30）年度	140	116	75	53.6%
2017（平成29）年度	140	123	82	58.6%
2016（平成28）年度	140	133	91	65.0%
2015（平成27）年度	140	119	94	67.1%
2014（平成26）年度	140	145	102	72.9%
平均	140	117.8	83.1	59.4%

博士後期課程

年度	定員	志願者	入学者	定員充足率
2023（令和5）年度	16	2	2	12.5%
2022（令和4）年度	16	2	2	12.5%
2021（令和3）年度	16	2	2	12.5%
2020（令和2）年度	16	1	1	6.3%
2019（令和元）年度	16	2	2	12.5%
2018（平成30）年度	16	4	4	25.0%
2017（平成29）年度	16	1	1	6.3%
2016（平成28）年度	16	5	4	25.0%
2015（平成27）年度	16	0	0	0.0%
2014（平成26）年度	16	4	4	25.0%
合計	16	2.3	2.2	13.8%

「龍谷大学　入学試験報告書（統計編）」から作成

資料13

龍谷大学先端理工学研究科設置に関するアンケート集計結果（人材需要）

調査期間：2022年12月1日～12月31日

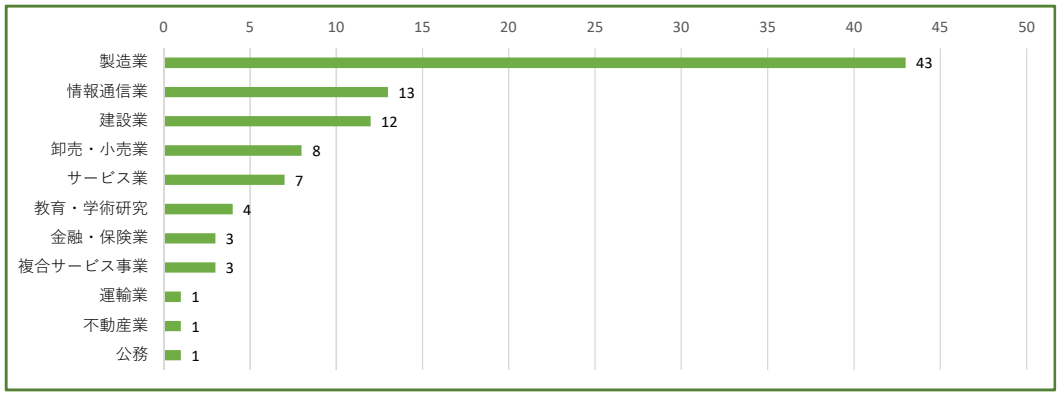
調査方法：WEBアンケート方式にて実施

（本学理工学研究科修士課程・博士課程修了生の採用実績がある企業515社に回答を依頼）

アンケート回答社数（業種・本社所在地）クロス集計

業種／本社所在地	大阪府	京都府	滋賀県	東京都	兵庫県	神奈川県	奈良県	広島県	島根県	**総計**	**割合**
製造業	15	13	9	3	1		1		1	**43**	**44.8%**
情報通信業	7	1		2	1	2				**13**	**13.5%**
建設業	6		3	2				1		**12**	**12.5%**
卸売・小売業	3	3	1		1					**8**	**8.3%**
サービス業	1		1	1	3	1				**7**	**7.3%**
教育・学術研究	1	2			1					**4**	**4.2%**
金融・保険業	1	2								**3**	**3.1%**
複合サービス事業			1	2						**3**	**3.1%**
運輸業	1									**1**	**1.0%**
不動産業	1									**1**	**1.0%**
公務	1									**1**	**1.0%**
総計	**37**	**21**	**15**	**10**	**7**	**3**	**1**	**1**	**1**	**96**	**100.0%**
割合	**38.5%**	**21.9%**	**15.6%**	**10.4%**	**7.3%**	**3.1%**	**1.0%**	**1.0%**	**1.0%**	**100%**	

アンケート回答社数（業種別内訳）集計グラフ



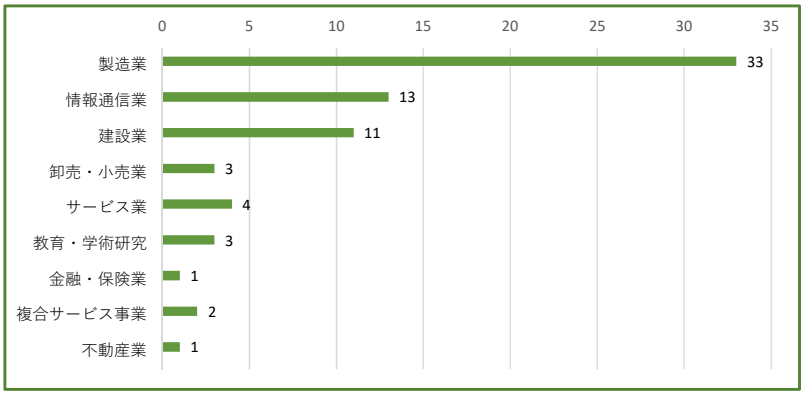
先端理工学研究科（修士課程・博士後期課程）の魅力 回答社数

業種／魅力を感じるか	魅力を感じる	どちらとも言えない	魅力を感じない	総計
製造業	37	6		43
情報通信業	13			13
建設業	11	1		12
卸売・小売業	4	4		8
サービス業	4	3		7
教育・学術研究	4			4
複合サービス事業	2	1		3
金融・保険業	2	1		3
運輸業	1			1
不動産業	1			1
公務	1			1
総計	**80**	**16**	**0**	**96**
割合	**83.3%**	**16.7%**	**0.0%**	**100%**

先端理工学研究科（修士課程・博士後期課程）修了生の採用に関する考え 回答社数

業種／採用の可能性	採用したい	わからない	採用の可能性は低い	総計
製造業	33	9	1	43
情報通信業	13			13
建設業	11	1		12
卸売・小売業	3	5		8
サービス業	4	2	1	7
教育・学術研究	3	1		4
金融・保険業	1	1	1	3
複合サービス事業	2		1	3
運輸業		1		1
不動産業	1			1
公務			1	1
総計	**71**	**20**	**5**	**96**
割合	**74.0%**	**20.8%**	**5.2%**	**100%**

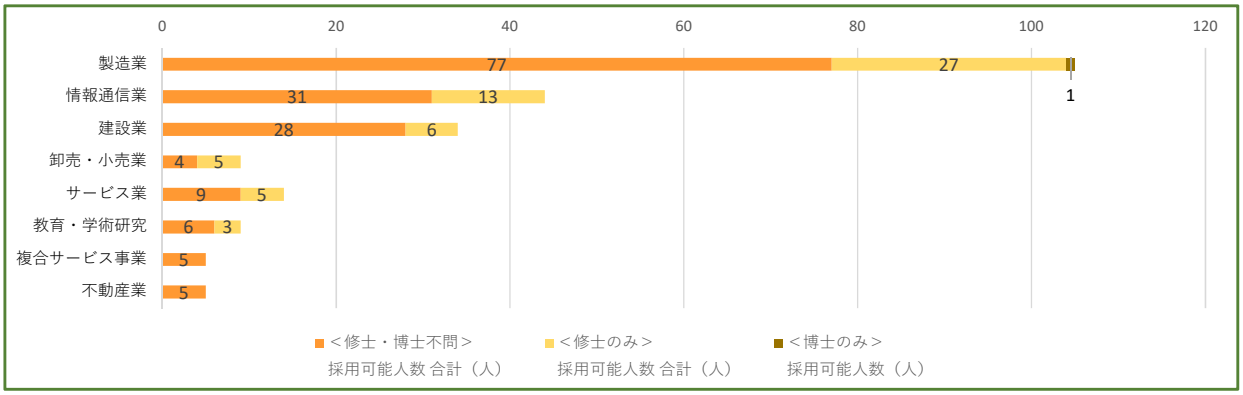
先端理工学研究科（修士課程・博士後期課程）修了生の採用意向（「採用したい」と回答した社数） 集計グラフ



先端理工学研究科（修士課程・博士後期課程）修了生を「採用したい」と回答した企業のうち採用可能人数 集計

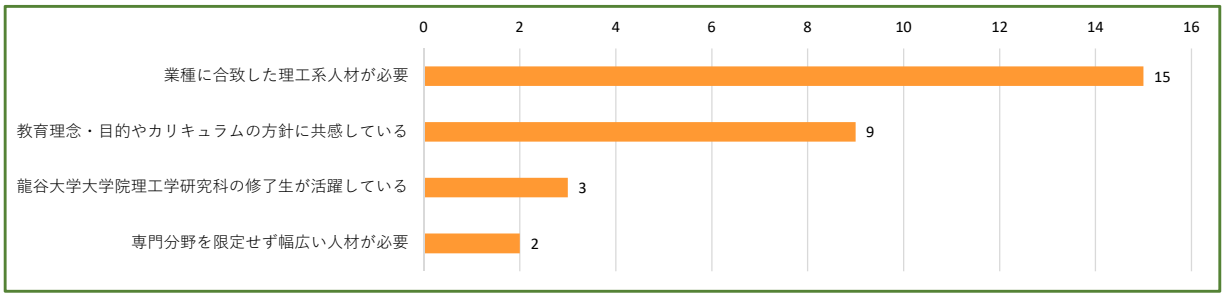
	＜修士・博士不問＞ 採用可能人数 合計（人）	＜修士のみ＞ 採用可能人数 合計（人）	＜博士のみ＞ 採用可能人数（人）
製造業	77	27	1
情報通信業	31	13	
建設業	28	6	
卸売・小売業	4	5	
サービス業	9	5	
教育・学術研究	6	3	
複合サービス事業	5		
不動産業	5		
総計	**165**	**59**	**1**

先端理工学研究科（修士課程・博士後期課程）修了生を「採用したい」と回答した企業のうち採用可能人数 集計グラフ



「採用したい」と回答した理由＜博士・修士不問＞（自由記述をカテゴリーに分類）

業種に合致した理工系人材が必要	15
教育理念・目的やカリキュラムの方針に共感している	9
龍谷大学大学院理工学研究科の修了生が活躍している	3
専門分野を限定せず幅広い人材が必要	2

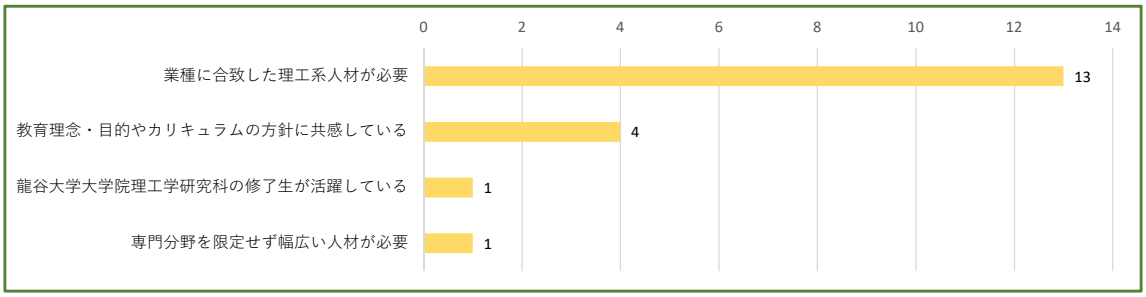


（自由記述の内容）

・幅広い理系採用を実施している為
・これからの建設業に必要な人材と考える
・より充実した教育内容になると拝察するため
・貴学で学ばれた経験を当社業務に生かせると感じるため。
・幅広い教養と倫理意識を備えた技術者を養成されるとの事で、弊社の求める人物像にマッチしているため。
・当社の事業において幅広く活躍していただける専門性が備わっているため
・貴学理工学研究科より弊社への入社実績がございます。後輩となる学生に是非入社いただきたく、応募をお待ちしております。
・異分野にも知識の幅を広げたカリキュラムは自発的な社員を望む弊社にとって入社後の活躍につながる素晴らしい育成方法だと認識しました。
・電子情報通信、機械工学・ロボティクス、当社が求める技術者が期待できる。
・予定している専攻を学んだ学生を現在募集しているため
・添付資料に記載されていた各6コースにつきましても、情報工学系のプログラムが多く、新設の研究学科もとても魅力を感じました。
・設計職として機械系の方を広く募集しています。
・弊社は伝統工芸品を作っています。労働人口が減る中、後世へ引き継ぐための策の一つとして工程の一部機械化を進めています。機械開発の担当者は２名（うち１名は貴学理工学部出身者）で、まだまだ手が足りていない状態なので、もう少し企画設計をするかたを増やしたいと考えています。
・貴学の大学院理工学研究科の学生の採用実績があり、当社技術職として活躍している優秀な人材が多く、今回の改組についても期待しているため。
・専門性に特化した人材の採用
・機械技術に関する高い知識が期待できるから
・あらゆる学問を横断的に学ぶことが出来るので基ある程度を基礎知識を習得できると思うから。
・不動産に興味があり、役立てる事が出来るなら採用したい
・弊社で活躍いただけそうなコースが多々あるため。
・先端技術に興味を持った学生さんを採用したい
・専門知識のみならず、専門外に関しても幅広い知見を持つ人財の育成を主眼にお持ちの為
・専門知識と幅広い教養を身に着けた人材は応用が利くので魅力的だと思う
・今年度の新入社員に貴学卒業生がおり、理工学研究科出身です。非常に優秀で同じような方が入っていただけたらと思いました。
・期待しているため
・学ばれた専門分野を業務にて活かして頂きたい
・より高度な知識・経験に期待するため
・理工学を学ばれているという学生様には特に弊社へ来ていただきたいという気持ちが強いため。
・印刷分野でも活用出来る知識、考え方を持った方を採用したい

「採用したい」と回答した理由＜修士のみ＞（自由記述をカテゴリーに分類）

業種に合致した理工系人材が必要	13
教育理念・目的やカリキュラムの方針に共感している	4
龍谷大学大学院理工学研究科の修了生が活躍している	1
専門分野を限定せず幅広い人材が必要	1



（自由記述の内容）

・機械工学の知識を活かし消火システム開発設計や製造管理に携わっていただきたいため
・理系学生であること／弊社事業内容と通じる点があることから、電子情報通信コースに魅力を感じる
・設計部員の育成
・育成内容と採用ターゲットがマッチしている為
・専門知識を弊社で活かしていただきたいと考えております。
・産業界にマッチした専門教育を受けているため。
・1分野のみならず分野を跨いだ知識のある(学ぶ意欲のある)学生を求めているため。
・技術系の人材不足
・事業を継続する上での専門性を有する方が必要なため
・技術系での優秀な人材確保は今後の会社の発展に直結するため
・化学、機械工学など専門的に幅広い知識を身につけているため。
・弊社で学んできた実力を発揮いただけるから
・論理的思考力に優れているため
・ソフトウェア開発に対する業務適性が見込める
・当社とマッチしている分野かつ高度な専門知識を持った方を求めているため。
・大学で学ぶ専門知識が仕事でも役立つとは限りませんが、研究の進め方については、仕事にも通じるところがあると思っています。修士はより研究期間が長いので、採用したいと考えております。
・修士の専門性に魅力を感じています。
・専門分野を熱心に研究されてること
・「社会の発展に寄与する機械システムを構築できる人材を養成」される点に非常に魅了を感じます

「採用したい」と回答した理由＜博士のみ＞（自由記述をカテゴリーに分類）

業種に合致した理工系人材が必要	1

（自由記述の内容）

技術系での優秀な人材確保は今後の会社の発展に直結するため

龍谷大学大学院先端理工学研究科（仮称・設置構想中）に関するアンケート質問票

龍谷大学では、2024（令和 6）年 4 月に、現在の大学院理工学研究科を改組し、新たに「先端理工学研究科」（仮称・設置構想中）を設置するべく準備を進めています。

この研究科では、建学の精神に基づいて、自然・社会と科学との調和を重視し、幅広い教養と理工学の各専門分野における高度の専門知識・技能を身につけ、持続可能な社会の発展に貢献できる高い倫理観を持った高度専門職人材・研究者を育成することを目指しています。詳細は、別紙のチラシのとおりです。

この研究科について以下の質問にお答えください。

１．貴団体・貴社の本社（本部）所在地について、都道府県名でお教えください。

＿＿＿＿＿＿＿＿ 都 ・ 道 ・ 府 ・ 県 ←1つに○

２．貴団体・貴社の従業員規模を教えてください。

□１）50 名以下
□２）51～100 名
□３）101～300 名
□３）301 名～500 名
□４）501 名以上

３．貴団体・貴社の業種を教えてください。

□１）農・林・漁・鉱業	□６）運輸業	□11）教育・学術研究
□２）建設業	□７）卸売・小売業	□12）医療・福祉
□３）製造業	□８）金融・保険業	□13）複合サービス事業
□４）電気・ガス・熱供給・水道業	□９）不動産業	□14）サービス業
□５）情報通信業	□10）飲食店・宿泊業	□15）公務

□16）その他（　　）

４．貴団体・貴社の新卒者の採用に関して、学部卒業生、修士課程修了生、博士後期課程修了生の採用活動はどのように行っていますか。

□１）区分なく同じ採用活動を行っている。
□２）学部と大学院（修士・博士）を区分して採用活動を行っている。
□３）学位（学士・修士・博士）を区分して採用活動を行っている。
□４）その他（　　）

＜次ページ（裏面）に続きます＞

５．本学が設置を予定している先端理工学研究科（修士課程・博士後期課程）に魅力を感じますか。

□１）魅力を感じる。
□２）魅力を感じない。
□３）どちらともいえない。

６．本学が設置を予定している先端理工学研究科（修士課程・博士後期課程）修了生の採用に関して、どのようにお考えですか。

□１）採用したい。
□２）採用の可能性は低い
□３）わからない

７．**【６の質問に対して「採用したい」を選択された方のみ】**

採用可能人数（最大値）をお答えください。

□１）　修士（　　）名
□２）　博士後期（　　）名
□３）　修士・博士後期合わせて（　　）名

８．**【６の質問に対して「採用したい」を選択された方のみ】**

「採用したい」と回答いただいた理由についてご自由にお書きください。

（　　）

９．貴団体・貴社において、大学院（修士課程・博士後期課程）修了生を採用する場合、重要視する点をお教えください。（複数回答可）

□１）専門的能力
□２）コミュニケーション力
□３）高いプレゼンテーションの能力
□４）課題を解決できる能力
□５）リーダーシップがとれる能力
□６）研究を継続する能力
□７）その他（　　）

１０．貴団体・貴社に所属されている職員・社員のキャリアアップの一つとして、大学院への進学（社会人入学）を推奨されていますか。

□１）推奨している
□２）推奨していない
□３）進学希望者があれば検討する。

１１．新しく設置する先端理工学研究科に対して、ご意見、ご要望、ご提言等がございましたら、自由に記入ください。

（　　）

１２．差し支えがなければ、貴団体・貴社名をお教えください（任意）。

（　　）

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

資料 15

2022 年 12 月

人事採用 ご担当者 様

龍谷大学　大学院理工学研究科

「龍谷大学大学院 先端理工学研究科（設置構想中）に関するアンケート」
ご協力のお願い

拝啓　初冬の候、貴社・貴団体におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素より本学に対し、格別なるご理解とご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、龍谷大学では、社会の発展に寄与する優秀な人材の育成・輩出や、教育内容の充実につながる大学改革の実現をめざし、現在の大学院理工学研究科を改組し、2024 年 4 月に、新しく「大学院先端理工学研究科（修士課程・博士後期課程)」（仮称）を設置することを構想しています。

この構想中の「先端理工学研究科」の教育内容をより充実したものにするため、人事採用ご担当者様からご意見をお伺いしたいと考えております。つきましては、貴社・貴団体のご担当者様にもご協力いただきたく、略儀ながら書面にてご依頼申し上げる次第です。

貴社・貴団体におかれましては、ご多忙の折、大変恐縮ではございますが、同封しております大学院概要の説明資料をご高覧の上、アンケートにご回答くださいますようお願い申し上げます。

なお、アンケートの結果は、上記の目的で統計資料としてのみ活用いたしますので、貴社・貴団体およびご回答いただいた方にご迷惑をおかけすることはございません。

末筆ながら、貴社・貴団体のますますのご発展を念じ上げます。

敬 具

記

1．アンケートの回答方法

以下の URL の Google Forms にご入力いただくことでご回答ください。

↓QR コードからも URL アクセス可

アンケート回答 URL： https://forms.gle/gjcH6jm8PmBsvmQaA

※ご記入いただく内容は、ご回答になる方ご自身のお考えで結構です。
また、回答はすべて統計的に処理いたしますので、率直なご意見をご記入ください。

2．回答期日

2022 年 12 月 31 日（土）までにご回答いただければ幸いです 。

以　上

※ このアンケートに関してご質問等がございましたら、お手数ですが下記までご連絡ください。

龍谷大学先端理工学部教務課　担当：芝原(シバハラ)
〒520-2194 滋賀県大津市瀬田大江町横谷 1 - 5
ＴＥＬ：077-543-7400　ＦＡＸ：077-543-7749
e-mail：masaki@ad.ryukoku.ac.jp

資料16

2021（令和3）年度 龍谷大学理工学研究科
＜修士課程＞就職実績

学科（専攻）	性別	卒業者	進路決定者			進路決定者数	未決定者	就職率 対卒業者	進路決定率 対卒業者
			就職決定者	大学院等進学者	研究生				
		A	B	C	D	E (B+C+D)	F	B/(A-C)	E/A
数理情報学専攻	男	8	5	0	2	7	1	62.5%	87.5%
	女	0	0	0	0	0	0	0.0%	0.0%
	計	8	5	0	2	7	1	62.5%	87.5%
電子情報学専攻	男	5	4	0	1	5	0	80.0%	100.0%
	女	0	0	0	0	0	0	0.0%	0.0%
	計	5	4	0	1	5	0	80.0%	100.0%
機械ｼｽﾃﾑ工学専攻	男	7	7	0	0	7	0	100.0%	100.0%
	女	0	0	0	0	0	0	0.0%	0.0%
	計	7	7	0	0	7	0	100.0%	100.0%
物質化学専攻	男	21	21	0	0	21	0	100.0%	100.0%
	女	4	4	0	0	4	0	100.0%	100.0%
	計	25	25	0	0	25	0	100.0%	100.0%
情報ﾒﾃﾞｨｱ学専攻	男	3	2	0	0	2	1	66.7%	66.7%
	女	1	0	1	0	1	0	0.0%	100.0%
	計	4	2	1	0	3	1	66.7%	75.0%
環境ｿﾘｭｰｼｮﾝ学専攻	男	6	6	0	0	6	0	100.0%	100.0%
	女	0	0	0	0	0	0	0.0%	0.0%
	計	6	6	0	0	6	0	100.0%	100.0%
計	男	50	45	0	3	48	2	90.0%	96.0%
	女	5	4	1	0	5	0	100.0%	100.0%
	計	55	49	1	3	53	2	90.7%	96.4%

龍谷大学大学院　学校基本調査資料（2022（令和４）年5月）から抜粋

別記様式第３号（その１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　　員　　名　　簿

学　　長　　の　　氏　　名　　等						
調書番号	役職名	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	現　職 （就任年月）
－	学長	ｲﾘｻﾜ　ﾀｶｼ 入澤　崇 ＜平成29年4月＞		修士 (文学) ※		龍谷大学　学長 （平成29.4～令和7.3）

（注）　高等専門学校にあっては校長について記入すること。

別記様式第３号（その２の１）

教　　員　　の　　氏　　名　　等

（先端理工学研究科　先端理工学専攻 修士課程）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
1	専	教授	ｱｵｲ ﾖｼﾌﾐ 青井　芳史 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		先端理工学基礎演習Ⅰ	1 前	2	1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (平成9.4)	5日
							先端理工学基礎演習Ⅱ	1 後	2	1		
							先端理工学研究(応用化学コース)※	1 通	0.1	1		
							無機機能材料化学特論Ⅰ	1 ①	1	1		
							無機機能材料化学特論Ⅱ	1 ②	1	1		
							応用化学演習	2 通	4	1		
							応用化学特別研究	1～2 通	8	1		
2	専	教授	ｲｲﾀﾞ ｼﾝｼﾞ 飯田　晋司 ＜令和6年4月＞		理学博士		先端理工学基礎演習Ⅰ	1 前	2	1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (平成10.4)	5日
							先端理工学基礎演習Ⅱ	1 後	2	1		
							先端理工学研究(数理・情報科学コース)※	1 通	0.1	1		
							物性物理学特論Ⅰ	1 ①	1	1		
							物性物理学特論Ⅱ	1 ②	1	1		
							数理情報科学特論A	1 通	1	1		
							数理・情報科学演習	2 通	4	1		
							数理・情報科学特別研究	1～2 通	8	1		
3	専	教授	ｲｼｻﾞｷ ﾄｼｵ 石崎　俊雄 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		先端理工学基礎演習Ⅰ	1 前	2	1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (平成22.10)	5日
							先端理工学基礎演習Ⅱ	1 後	2	1		
							先端理工学研究(電子情報通信コース)※	1 通	0.1	1		
							マイクロ波通信工学特論Ⅰ	1 ①	1	1		
							マイクロ波通信工学特論Ⅱ	1 ②	1	1		
							電子情報通信演習	2 通	4	1		
							電子情報通信特別研究	1～2 通	8	1		
4	専	教授	ｲﾜｻﾜ ﾃﾂｵ 岩澤　哲郎 ＜令和6年4月＞		博士 (理学)		先端理工学基礎演習Ⅰ	1 前	2	1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (平成21.4)	5日
							先端理工学基礎演習Ⅱ	1 後	2	1		
							先端理工学研究(応用化学コース)※	1 通	0.1	1		
							有機合成化学特論Ⅰ	1 ①	1	1		
							有機合成化学特論Ⅱ	1 ②	1	1		
							応用化学演習	2 通	4	1		
							応用化学特別研究	1～2 通	8	1		
5	専	教授	ｳﾁﾀﾞ ｷﾝｺﾞ 内田　欣吾 ＜令和6年4月＞		工学博士		先端理工学基礎演習Ⅰ	1 前	2	1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (平成9.4)	5日
							先端理工学基礎演習Ⅱ	1 後	2	1		
							先端理工学研究(応用化学コース)※	1 通	0.1	1		
							有機機能材料化学特論Ⅰ	1 ③	1	1		
							有機機能材料化学特論Ⅱ	1 ④	1	1		
							応用化学演習	2 通	4	1		
							応用化学特別研究	1～2 通	8	1		
6	専	教授	ｵｵﾂ ﾋﾛﾀｶ 大津　広敬 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		先端理工学基礎演習Ⅰ	1 前	2	1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (平成21.4)	5日
							先端理工学基礎演習Ⅱ	1 後	2	1		
							RUBeC演習	1 通	4	1		
							先端理工学研究(機械工学・ロボティクスコース)※	1 通	0.1	1		
							高速空気力学特論	1 ③	1	1		
							航空宇宙工学特論	1 ④	1	1		
							機械工学・ロボティクス演習	2 通	4	1		
							機械工学・ロボティクス特別研究	1～2 通	8	1		
7	専	教授	ｵｵﾔﾅｷﾞ ﾏﾝｼ 大柳　満之 ＜令和6年4月＞		工学博士		先端理工学基礎演習Ⅰ	1 前	2	1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (平成元.4)	5日
							先端理工学基礎演習Ⅱ	1 後	2	1		
							先端理工学研究(応用化学コース)※	1 通	0.1	1		
							固体化学特論Ⅰ	1 ①	1	1		
							固体化学特論Ⅱ	1 ②	1	1		
							応用化学演習	2 通	4	1		
							応用化学特別研究	1～2 通	8	1		
8	専	教授	ｵｶﾞﾜ ｹｲｼﾞ 小川　圭二 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		先端理工学基礎演習Ⅰ	1 前	2	1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (平成26.4)	5日
							先端理工学基礎演習Ⅱ	1 後	2	1		
							先端理工学研究(機械工学・ロボティクスコース)※	1 通	0.1	1		
							精密加工学特論Ⅰ	1 ③	1	1		
							精密加工学特論Ⅱ	1 ④	1	1		
							機械工学・ロボティクス演習	2 通	4	1		
							機械工学・ロボティクス特別研究	1～2 通	8	1		

別記様式第３号（その２の１）

教　　員　　の　　氏　　名　　等

（先端理工学研究科　先端理工学専攻 修士課程）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
9	専	教授	ｵｸﾀﾞ ﾃﾂｼﾞ 奥田　哲士 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		先端理工学基礎演習Ⅰ	1 前	2	1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (平成28.4)	5日
							先端理工学基礎演習Ⅱ	1 後	2	1		
							先端理工学研究(環境科学コース)※	1 通	0.1	1		
							環境計量特論Ⅰ【隔年】	1 ②	1	1		
							環境計量特論Ⅱ【隔年】	1 ②	1	1		
							資源循環工学特論【隔年】	1 ②	1	1		
							廃棄物処理技術特論【隔年】	1 ②	1	1		
							環境科学演習	2 通	4	1		
							環境科学特別研究	1～2 通	8	1		
10	専	教授	ｶｲｶﾞﾜ ﾘｭｳｼﾞ 海川　龍治 ＜令和6年4月＞		博士 (理学)		先端理工学基礎演習Ⅰ	1 前	2	1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (平成6.4)	5日
							先端理工学基礎演習Ⅱ	1 後	2	1		
							先端理工学研究(電子情報通信コース)※	1 通	0.1	1		
							電子物性特論Ⅰ	1 ③	1	1		
							電子物性特論Ⅱ	1 ④	1	1		
							電子情報通信演習	2 通	4	1		
							電子情報通信特別研究	1～2 通	8	1		
11	専	教授	ｶｸｶﾞﾜ ﾋﾛﾂｸﾞ 角川　裕次 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		先端理工学基礎演習Ⅰ	1 前	2	1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (平成31.4)	5日
							先端理工学基礎演習Ⅱ	1 後	2	1		
							先端理工学研究(数理・情報科学コース)※	1 通	0.1	1		
							アルゴリズム理論特論Ⅰ	1 ③	1	1		
							アルゴリズム理論特論Ⅱ	1 ④	1	1		
							数理・情報科学演習	2 通	4	1		
							数理・情報科学特別研究	1～2 通	8	1		
12	専	教授	ｶﾀｵｶ ｱｷﾄｼ 片岡　章俊 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		先端理工学基礎演習Ⅰ	1 前	2	1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (平成20.4)	5日
							先端理工学基礎演習Ⅱ	1 後	2	1		
							先端理工学研究(知能情報メディアコース)※	1 通	0.1	1		
							音響信号処理特論Ⅰ	1 ①	1	1		
							音響信号処理特論Ⅱ	1 ②	1	1		
							知能情報メディア特別演習	2 通	4	1		
							知能情報メディア特別研究	1～2 通	8	1		
13	専	教授	ｶﾜｳﾁ ﾀｹﾋﾛ 河内　岳大 ＜令和6年4月＞		博士 (理学)		先端理工学基礎演習Ⅰ	1 前	2	1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (平成29.4)	5日
							先端理工学基礎演習Ⅱ	1 後	2	1		
							RUBeC演習	1 通	4	1		
							先端理工学研究(応用化学コース)※	1 通	0.1	1		
							高分子機能科学特論Ⅰ	1 ①	1	1		
							高分子機能科学特論Ⅱ	1 ②	1	1		
							応用化学演習	2 通	4	1		
							応用化学特別研究	1～2 通	8	1		
14	専	教授	ｶﾜｶﾐ ﾀﾂｷ 川上　竜樹 ＜令和6年4月＞		博士 (理学)		先端理工学基礎演習Ⅰ	1 前	2	1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (平成29.4)	5日
							先端理工学基礎演習Ⅱ	1 後	2	1		
							先端理工学研究(数理・情報科学コース)※	1 通	0.1	1		
							数学解析特論Ⅰ	1 ①	1	1		
							数学解析特論Ⅱ	1 ②	1	1		
							数理・情報科学演習	2 通	4	1		
							数理・情報科学特別研究	1～2 通	8	1		
15	専	教授	ｷｸﾁ ﾘｭｳﾉｽｹ 菊池　隆之助 ＜令和6年4月＞		Ph.D. ＜ブルガリア＞		先端理工学基礎演習Ⅰ	1 前	2	1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (平成22.9)	5日
							先端理工学基礎演習Ⅱ	1 後	2	1		
							先端理工学研究(環境科学コース)※	1 通	0.1	1		
							資源利活用特論Ⅰ	1 ③	1	1		
							資源利活用特論Ⅱ	1 ④	1	1		
							環境科学演習	2 通	4	1		
							環境科学特別研究	1～2 通	8	1		
16	専	教授 (研究科長)	ｷｼﾓﾄ ﾅｵﾕｷ 岸本　直之 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		先端理工学基礎演習Ⅰ	1 前	2	1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (平成15.4)	5日
							先端理工学基礎演習Ⅱ	1 後	2	1		
							先端理工学研究(環境科学コース)※	1 通	0.1	1		
							水処理工学特論	1 ①	1	1		
							物質移動現象特論	1 ②	1	1		
							環境科学演習	2 通	4	1		
							環境科学特別研究	1～2 通	8	1		

別記様式第３号（その２の１）

教　　員　　の　　氏　　名　　等

（先端理工学研究科　先端理工学専攻 修士課程）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
17	専	教授	キムラ マサヒロ 木村　昌弘 ＜令和6年4月＞		博士 (理学)		先端理工学基礎演習Ⅰ	1 前	2	1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (平成17.4)	5日
							先端理工学基礎演習Ⅱ	1 後	2	1		
							先端理工学研究(電子情報通信コース)※	1 通	0.1	1		
							知能情報特論Ⅰ	1 ①	1	1		
							知能情報特論Ⅱ	1 ②	1	1		
							電子情報通信演習	2 通	4	1		
							電子情報通信特別研究	1～2 通	8	1		
18	専	教授	キムラ ムツミ 木村　睦 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		先端理工学基礎演習Ⅰ	1 前	2	1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (平成15.4)	5日
							先端理工学基礎演習Ⅱ	1 後	2	1		
							先端理工学研究(電子情報通信コース)※	1 通	0.1	1		
							電子ディスプレイ特論	1 ②	1	1		
							脳型集積回路特論	1 ③	1	1		
							電子情報通信演習	2 通	4	1		
							電子情報通信特別研究	1～2 通	8	1		
19	専	教授	ｺﾎﾞﾘ ｻﾄｼ 小堀　聡 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		先端理工学基礎演習Ⅰ	1 前	2	1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (平成4.8)	5日
							先端理工学基礎演習Ⅱ	1 後	2	1		
							先端理工学研究(電子情報通信コース)※	1 通	0.1	1		
							科学技術英語特論・演習※	1 前	2	1		
							生体システム特論Ⅰ	1 ③	1	1		
							生体システム特論Ⅱ	1 ④	1	1		
							電子情報通信演習	2 通	4	1		
							電子情報通信特別研究	1～2 通	8	1		
20	専	教授	ｺﾝﾀﾞ ﾉﾎﾞﾙ 譽田　登 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		先端理工学基礎演習Ⅰ	1 前	2	1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (平成29.4)	5日
							先端理工学基礎演習Ⅱ	1 後	2	1		
							先端理工学研究(機械工学・ロボティクスコース)※	1 通	0.1	1		
							材料加工特論	1 ①	1	1		
							強度評価学特論	1 ②	1	1		
							機械工学・ロボティクス演習	2 通	4	1		
							機械工学・ロボティクス特別研究	1～2 通	8	1		
21	専	教授	ｻｶｶﾞﾐ ﾉﾘﾐﾂ 坂上　憲光 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		先端理工学基礎演習Ⅰ	1 前	2	1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (令和5.4)	5日
							先端理工学基礎演習Ⅱ	1 後	2	1		
							先端理工学研究(機械工学・ロボティクスコース)※	1 通	0.1	1		
							知能システム特論Ⅰ	1 ①	1	1		
							知能システム特論Ⅱ	1 ②	1	1		
							機械工学・ロボティクス演習	2 通	4	1		
							機械工学・ロボティクス特別研究	1～2 通	8	1		
22	専	教授	ｻｺﾝ ﾀｸｵ 左近　拓男 ＜令和6年4月＞		博士 (理学)		先端理工学基礎演習Ⅰ	1 前	2	1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (平成24.4)	5日
							先端理工学基礎演習Ⅱ	1 後	2	1		
							先端理工学研究(機械工学・ロボティクスコース)※	1 通	0.1	1		
							計測システム特論Ⅰ	1 ③	1	1		
							計測システム特論Ⅱ	1 ④	1	1		
							機械工学・ロボティクス演習	2 通	4	1		
							機械工学・ロボティクス特別研究	1～2 通	8	1		
23	専	教授	ｻﾄｲ ﾋｻｷ 里井　久輝 ＜令和6年4月＞		言語 文化学 博士		科学技術英語特論・演習※	1 前	2	1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (平成23.4)	5日
24	専	教授	ｼｵﾐ ﾖｳｲﾁ 塩見　洋一 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		先端理工学基礎演習Ⅰ	1 前	2	1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (平成元.4)	5日
							先端理工学基礎演習Ⅱ	1 後	2	1		
							先端理工学研究(機械工学・ロボティクスコース)※	1 通	0.1	1		
							熱流体工学特論Ⅰ	1 ①	1	1		
							熱流体工学特論Ⅱ	1 ②	1	1		
							機械工学・ロボティクス演習	2 通	4	1		
							機械工学・ロボティクス特別研究	1～2 通	8	1		
25	専	教授	ｼﾌﾞﾔ ｺｳｼﾞ 渋谷　恒司 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		先端理工学基礎演習Ⅰ	1 前	2	1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (平成10.9)	5日
							先端理工学基礎演習Ⅱ	1 後	2	1		
							先端理工学研究(機械工学・ロボティクスコース)※	1 通	0.1	1		
							ロボット工学特論Ⅰ	1 ①	1	1		
							ロボット工学特論Ⅱ	1 ②	1	1		
							機械工学・ロボティクス演習	2 通	4	1		
							機械工学・ロボティクス特別研究	1～2 通	8	1		

別記様式第３号（その２の１）

教　　員　　の　　氏　　名　　等

（先端理工学研究科　先端理工学専攻 修士課程）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
26	専	教授	ｽｶﾞﾔ ﾖｼﾋﾛ 菅谷　至寛 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		先端理工学基礎演習Ⅰ	1 前	2	1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (令和4.4)	5日
							先端理工学基礎演習Ⅱ	1 後	2	1		
							先端理工学研究(知能情報メディアコース)※	1 通	0.1	1		
							情報システム特論Ⅰ	1 ③	1	1		
							情報システム特論Ⅱ	1 ④	1	1		
							知能情報メディア特別演習	2 通	4	1		
							知能情報メディア特別研究	1～2 通	8	1		
27	専	教授	ﾀﾜﾗ ﾀﾞｲｽｹ 田原　大輔 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		先端理工学基礎演習Ⅰ	1 前	2	1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (平成24.4)	5日
							先端理工学基礎演習Ⅱ	1 後	2	1		
							先端理工学研究(機械工学・ロボティクスコース)※	1 通	0.1	1		
							有限要素法特論	1 ③	1	1		
							計算生体力学特論	1 ④	1	1		
							機械工学・ロボティクス演習	2 通	4	1		
							機械工学・ロボティクス特別研究	1～2 通	8	1		
28	専	教授	ﾁｮｳ ﾖｳｸﾞﾝ 張　陽軍 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		先端理工学基礎演習Ⅰ	1 前	2	1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (平成15.4)	5日
							先端理工学基礎演習Ⅱ	1 後	2	1		
							先端理工学研究(電子情報通信コース)※	1 通	0.1	1		
							電磁波計測特論Ⅰ	1 ①	1	1		
							電磁波計測特論Ⅱ	1 ②	1	1		
							電子情報通信演習	2 通	4	1		
							電子情報通信特別研究	1～2 通	8	1		
29	専	教授	ﾂｼﾞｶﾐ ﾃﾂﾔ 辻上　哲也 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		先端理工学基礎演習Ⅰ	1 前	2	1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (平成7.10)	5日
							先端理工学基礎演習Ⅱ	1 後	2	1		
							先端理工学研究(機械工学・ロボティクスコース)※	1 通	0.1	1		
							複合材料力学特論Ⅰ	1 ①	1	1		
							複合材料力学特論Ⅱ	1 ②	1	1		
							機械工学・ロボティクス演習	2 通	4	1		
							機械工学・ロボティクス特別研究	1～2 通	8	1		
30	専	教授	ﾄﾐｻﾞｷ ｷﾝﾔ 富﨑　欣也 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		先端理工学基礎演習Ⅰ	1 前	2	1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (平成21.4)	5日
							先端理工学基礎演習Ⅱ	1 後	2	1		
							先端理工学研究(応用化学コース)※	1 通	0.1	1		
							生体分子工学特論	1 ③	1	1		
							バイオ計測工学特論	1 ④	1	1		
							応用化学演習	2 通	4	1		
							応用化学特別研究	1～2 通	8	1		
31	専	教授	ﾅｶｵｷ ﾀｶﾋｺ 中沖　隆彦 ＜令和6年4月＞		博士 (理学)		先端理工学基礎演習Ⅰ	1 前	2	1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (平成4.10)	5日
							先端理工学基礎演習Ⅱ	1 後	2	1		
							先端理工学研究(応用化学コース)※	1 通	0.1	1		
							高分子材料工学特論Ⅰ	1 ①	1	1		
							高分子材料工学特論Ⅱ	1 ②	1	1		
							応用化学演習	2 通	4	1		
							応用化学特別研究	1～2 通	8	1		
32	専	教授	ﾅｶﾉ ﾋﾛｼ 中野　浩 ＜令和6年4月＞		博士 (理学)		先端理工学基礎演習Ⅰ	1 前	2	1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (平成元.4)	5日
							先端理工学基礎演習Ⅱ	1 後	2	1		
							先端理工学研究(数理・情報科学コース)※	1 通	0.1	1		
							ソフトウェア理論特論Ⅰ	1 ③	1	1		
							ソフトウェア理論特論Ⅱ	1 ④	1	1		
							数理・情報科学演習	2 通	4	1		
							数理・情報科学特別研究	1～2 通	8	1		
33	専	教授	ﾉﾑﾗ ﾀﾂﾔ 野村　竜也 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		先端理工学基礎演習Ⅰ	1 前	2	1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (平成16.4)	5日
							先端理工学基礎演習Ⅱ	1 後	2	1		
							先端理工学研究(知能情報メディアコース)※	1 通	0.1	1		
							ソフトウェア科学特論Ⅰ	1 ③	1	1		
							ソフトウェア科学特論Ⅱ	1 ④	1	1		
							知能情報メディア特別演習	2 通	4	1		
							知能情報メディア特別研究	1～2 通	8	1		
34	専	教授	ﾌｶｵ ﾀｹｼ 深尾　武史 ＜令和6年4月＞		博士 (理学)		先端理工学基礎演習Ⅰ	1 前	2	1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (令和5.4)	5日
							先端理工学基礎演習Ⅱ	1 後	2	1		
							先端理工学研究(数理・情報科学コース)※	1 通	0.1	1		
							非線形解析学特論Ⅰ	1 ①	1	1		
							非線形解析学特論Ⅱ	1 ②	1	1		
							数理・情報科学演習	2 通	4	1		
							数理・情報科学特別研究	1～2 通	8	1		

別記様式第３号（その２の１）

教　　員　　の　　氏　　名　　等

（先端理工学研究科　先端理工学専攻 修士課程）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
35	専	教授	ﾌｼﾞﾀ ｶｽﾞﾋﾛ 藤田　和弘 ＜令和6年4月＞		博士 (学術)		先端理工学基礎演習Ⅰ	1 前	2	1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (平成16.10)	5日
							先端理工学基礎演習Ⅱ	1 後	2	1		
							先端理工学研究(知能情報メディアコース)※	1 通	0.1	1		
							信号処理特論	1 ①	1	1		
							画像処理特論	1 ②	1	1		
							知能情報メディア特別演習	2 通	4	1		
							知能情報メディア特別研究	1～2 通	8	1		
36	専	教授	ﾌｼﾞﾜﾗ ﾏﾅﾌﾞ 藤原　学 ＜令和6年4月＞		工学博士		先端理工学基礎演習Ⅰ	1 前	2	1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (平成3.4)	5日
							先端理工学基礎演習Ⅱ	1 後	2	1		
							先端理工学研究(応用化学コース)※	1 通	0.1	1		
							分析科学特論Ⅰ	1 ③	1	1		
							分析科学特論Ⅱ	1 ④	1	1		
							応用化学演習	2 通	4	1		
							応用化学特別研究	1～2 通	8	1		
37	専	教授	ﾏ ｾｲ 馬　青 ＜令和6年4月＞		工学博士		先端理工学基礎演習Ⅰ	1 前	2	1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (平成15.4)	5日
							先端理工学基礎演習Ⅱ	1 後	2	1		
							先端理工学研究(数理・情報科学コース)※	1 通	0.1	1		
							自然言語処理特論Ⅰ	1 ①	1	1		
							自然言語処理特論Ⅱ	1 ②	1	1		
							数理・情報科学演習	2 通	4	1		
							数理・情報科学特別研究	1～2 通	8	1		
38	専	教授	ﾏﾂｷﾀﾞｲﾗ ｼﾞｭﾝﾀ 松木平　淳太 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		先端理工学基礎演習Ⅰ	1 前	2	1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (平成4.4)	5日
							先端理工学基礎演習Ⅱ	1 後	2	1		
							先端理工学研究(数理・情報科学コース)※	1 通	0.1	1		
							数理モデル特論Ⅰ	1 ③	1	1		
							数理モデル特論Ⅱ	1 ④	1	1		
							数理・情報科学演習	2 通	4	1		
							数理・情報科学特別研究	1～2 通	8	1		
39	専	教授	ﾏﾙﾔﾏ ｱﾂｼ 丸山　敦 ＜令和6年4月＞		博士 (理学)		先端理工学基礎演習Ⅰ	1 前	2	1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (平成15.4)	5日
							先端理工学基礎演習Ⅱ	1 後	2	1		
							先端理工学研究(環境科学コース)※	1 通	0.1	1		
							生態学とその周辺の先端分析に関する特論Ⅰ【隔年】	1 ③	1	1		
							生態学とその周辺の先端分析に関する特論Ⅱ【隔年】	1 ④	1	1		
							生態学における実証とデータ解析に関する特論Ⅰ【隔年】	1 ③	1	1		
							生態学における実証とデータ解析に関する特論Ⅱ【隔年】	1 ④	1	1		
							環境科学演習	2 通	4	1		
							環境科学特別研究	1～2 通	8	1		
40	専	教授	ﾐｷ ﾀｹｼ 三木　健 ＜令和6年4月＞		博士 (理学)		先端理工学基礎演習Ⅰ	1 前	2	1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (平成30.8)	5日
							先端理工学基礎演習Ⅱ	1 後	2	1		
							先端理工学研究(環境科学コース)※	1 通	0.1	1		
							数理モデリング特論Ⅰ【隔年】	1 ①	1	1		
							数理モデリング特論Ⅱ【隔年】	1 ②	1	1		
							理論生態学特論Ⅰ【隔年】	1 ①	1	1		
							理論生態学特論Ⅱ【隔年】	1 ②	1	1		
							環境科学演習	2 通	4	1		
							環境科学特別研究	1～2 通	8	1		
41	専	教授	ﾐﾔｳﾗ ﾄﾐﾔｽ 宮浦　富保 ＜令和6年4月＞		農学博士		先端理工学基礎演習Ⅰ	1 前	2	1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (平成14.4)	5日
							先端理工学基礎演習Ⅱ	1 後	2	1		
							先端理工学研究(環境科学コース)※	1 通	0.1	1		
							生産生態学特論Ⅰ	1 ③	1	1		
							生産生態学特論Ⅱ	1 ④	1	1		
							環境科学演習	2 通	4	1		
							環境科学特別研究	1～2 通	8	1		
42	専	教授	ﾐﾔﾀｹ ﾄﾓﾋﾛ 宮武　智弘 ＜令和6年4月＞		博士 (理学)		先端理工学基礎演習Ⅰ	1 前	2	1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (平成12.4)	5日
							先端理工学基礎演習Ⅱ	1 後	2	1		
							先端理工学研究(応用化学コース)※	1 通	0.1	1		
							生物化学特論Ⅰ	1 ③	1	1		
							生物化学特論Ⅱ	1 ④	1	1		
							応用化学演習	2 通	4	1		
							応用化学特別研究	1～2 通	8	1		

別記様式第３号（その２の１）

教　　員　　の　　氏　　名　　等

（先端理工学研究科　先端理工学専攻 修士課程）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
43	専	教授	ﾐﾖｼ ﾂﾄﾑ 三好　力 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		先端理工学基礎演習Ⅰ	1 前	2	1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (平成21.4)	5日
							先端理工学基礎演習Ⅱ	1 後	2	1		
							先端理工学研究(知能情報メディアコース)※	1 通	0.2	1		
							知的情報処理特論Ⅰ	1 ①	1	1		
							知的情報処理特論Ⅱ	1 ②	1	1		
							知能情報メディア特別演習	2 通	4	1		
							知能情報メディア特別研究	1～2 通	8	1		
44	専	教授	ﾑﾗｶﾜ ﾋﾃﾞｷ 村川　秀樹 ＜令和6年4月＞		博士 (数理学)		先端理工学基礎演習Ⅰ	1 前	2	1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (平成31.4)	5日
							先端理工学基礎演習Ⅱ	1 後	2	1		
							先端理工学研究(数理・情報科学コース)※	1 通	0.1	1		
							反応拡散系特論Ⅰ	1 ①	1	1		
							反応拡散系特論Ⅱ	1 ②	1	1		
							数理・情報科学演習	2 通	4	1		
							数理・情報科学特別研究	1～2 通	8	1		
45	専	教授	ﾔﾏﾓﾄ ｼﾝｲﾁ 山本　伸一 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		先端理工学基礎演習Ⅰ	1 前	2	1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (平成21.4)	5日
							先端理工学基礎演習Ⅱ	1 後	2	1		
							先端理工学研究(電子情報通信コース)※	1 通	0.1	1		
							量子工学特論	1 ①	1	1		
							ナノテクノロジー工学特論	1 ②	1	1		
							電子情報通信演習	2 通	4	1		
							電子情報通信特別研究	1～2 通	8	1		
46	専	准教授	ｳｴﾑﾗ ﾜﾀﾙ 植村　渉 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		先端理工学基礎演習Ⅰ	1 前	2	1	龍谷大学 先端理工学部 准教授 (平成24.4)	5日
							先端理工学基礎演習Ⅱ	1 後	2	1		
							先端理工学研究(電子情報通信コース)※	1 通	0.1	1		
							強化学習特論Ⅰ	1 ①	1	1		
							強化学習特論Ⅱ	1 ②	1	1		
							電子情報通信演習	2 通	4	1		
							電子情報通信特別研究	1～2 通	8	1		
47	専	准教授	ｵｰｶﾞｽﾃｨﾝ ｼﾞｮﾅｻﾝ オーガスティン ジョナサン ＜令和6年4月＞		Ph.D. in Philosophy ＜米国＞		英語プレゼンテーションⅠ	1 ①③	2	2	龍谷大学 先端理工学部 准教授 (平成27.4)	5日
							英語プレゼンテーションⅡ	1 ②④	2	2		
48	専	准教授	ｷｼﾓﾄ ｹｲｺ 岸本　圭子 ＜令和6年4月＞		博士 (人間・環境学)		先端理工学基礎演習Ⅰ	1 前	2	1	龍谷大学 先端理工学部 准教授 (令和4.4)	5日
							先端理工学基礎演習Ⅱ	1 後	2	1		
							先端理工学研究(環境科学コース)※	1 通	0.1	1		
							環境動物昆虫学特論Ⅰ【隔年】	1 ③	1	1		
							環境動物昆虫学特論Ⅱ【隔年】	1 ④	1	1		
							動物生態学特論Ⅰ【隔年】	1 ③	1	1		
							動物生態学特論Ⅱ【隔年】	1 ④	1	1		
							環境科学演習	2 通	4	1		
							環境科学特別研究	1～2 通	8	1		
49	専	准教授	ｺｼｶﾜ ﾋﾛﾓﾄ 越川　博元 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		先端理工学基礎演習Ⅰ	1 前	2	1	龍谷大学 先端理工学部 准教授 (平成17.4)	5日
							先端理工学基礎演習Ⅱ	1 後	2	1		
							先端理工学研究(環境科学コース)※	1 通	0.1	1		
							環境微生物工学特論Ⅰ	1 ③	1	1		
							環境微生物工学特論Ⅱ	1 ④	1	1		
							環境科学演習	2 通	4	1		
							環境科学特別研究	1～2 通	8	1		
50	専	准教授	ｺﾃﾞﾗ ﾔｽﾋﾛ 小寺　康博 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		先端理工学基礎演習Ⅰ	1 前	2	1	龍谷大学 先端理工学部 准教授 (令和4.4)	5日
							先端理工学基礎演習Ⅱ	1 後	2	1		
							先端理工学研究(応用化学コース)※	1 通	0.1	1		
							固体物性化学特論Ⅰ	1 ③	1	1		
							固体物性化学特論Ⅱ	1 ④	1	1		
							応用化学演習	2 通	4	1		
							応用化学特別研究	1～2 通	8	1		
51	専	准教授	ｻｶﾀ ﾉﾌﾞﾁｶ 酒田　信親 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		先端理工学基礎演習Ⅰ	1 前	2	1	龍谷大学 先端理工学部 准教授 (令和3.4)	5日
							先端理工学基礎演習Ⅱ	1 後	2	1		
							先端理工学研究(電子情報通信コース)※	1 通	0.1	1		
							人間情報処理特論Ⅰ	1 ③	1	1		
							人間情報処理特論Ⅱ	1 ④	1	1		
							電子情報通信演習	2 通	4	1		
							電子情報通信特別研究	1～2 通	8	1		

別記様式第３号（その２の１）

教　　員　　の　　氏　　名　　等

（先端理工学研究科　先端理工学専攻 修士課程）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
52	専	准教授	ｿｶﾞ ｱｻｺ 曽我　麻佐子 ＜令和6年4月＞		博士 (学術)		先端理工学基礎演習Ⅰ	1 前	2	1	龍谷大学 先端理工学部 准教授 (平成16.4)	5日
							先端理工学基礎演習Ⅱ	1 後	2	1		
							RUBeC演習	1 通	4	1		
							先端理工学研究(知能情報メディアコース)※	1 通	0.1	1		
							コンピュータグラフィックス特論Ⅰ	1 ③	1	1		
							コンピュータグラフィックス特論Ⅱ	1 ④	1	1		
							知能情報メディア特別演習	2 通	4	1		
							知能情報メディア特別研究	1～2 通	8	1		
53	専	准教授	ﾀｶﾊｼ ﾀｶｼ 高橋　隆史 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		先端理工学基礎演習Ⅰ	1 前	2	1	龍谷大学 先端理工学部 准教授 (平成13.10)	5日
							先端理工学基礎演習Ⅱ	1 後	2	1		
							先端理工学研究(数理・情報科学コース)※	1 通	0.1	1		
							機械学習特論Ⅰ	1 ①	1	1		
							機械学習特論Ⅱ	1 ②	1	1		
							数理・情報科学演習	2 通	4	1		
							数理・情報科学特別研究	1～2 通	8	1		
54	専	准教授	ﾅｶﾞｾ ｼﾞｭﾝﾔ 永瀬　純也 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		先端理工学基礎演習Ⅰ	1 前	2	1	龍谷大学 先端理工学部 准教授 (平成27.4)	5日
							先端理工学基礎演習Ⅱ	1 後	2	1		
							先端理工学研究(機械工学・ロボティクスコース)※	1 通	0.1	1		
							知能制御特論Ⅰ	1 ③	1	1		
							知能制御特論Ⅱ	1 ④	1	1		
							機械工学・ロボティクス演習	2 通	4	1		
							機械工学・ロボティクス特別研究	1～2 通	8	1		
55	専	准教授	ﾋｸﾞﾁ ｻﾌﾞﾛｳ 樋口　三郎 ＜令和6年4月＞		博士 (理学)		先端理工学基礎演習Ⅰ	1 前	2	1	龍谷大学 先端理工学部 准教授 (平成12.10)	5日
							先端理工学基礎演習Ⅱ	1 後	2	1		
							先端理工学研究(数理・情報科学コース)※	1 通	0.1	1		
							計算科学特論Ⅰ	1 ③	1	1		
							計算科学特論Ⅱ	1 ④	1	1		
							数理・情報科学演習	2 通	4	1		
							数理・情報科学特別研究	1～2 通	8	1		
56	専	准教授	ﾌｼﾞﾓﾘ ﾀｶｼ 藤森　崇 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		先端理工学基礎演習Ⅰ	1 前	2	1	龍谷大学 先端理工学部 准教授 (令和3.4)	5日
							先端理工学基礎演習Ⅱ	1 後	2	1		
							先端理工学研究(環境科学コース)※	1 通	0.1	1		
							環境影響評価特論Ⅰ	1 ①	1	1		
							環境影響評価特論Ⅱ	1 ②	1	1		
							環境科学演習	2 通	4	1		
							環境科学特別研究	1～2 通	8	1		
57	専	准教授	ﾐﾔﾄ ﾕｳｼﾞ 宮戸　祐治 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		先端理工学基礎演習Ⅰ	1 前	2	1	龍谷大学 先端理工学部 准教授 (令和3.4)	5日
							先端理工学基礎演習Ⅱ	1 後	2	1		
							先端理工学研究(電子情報通信コース)※	1 通	0.1	1		
							ナノ計測工学特論Ⅰ	1 ③	1	1		
							ナノ計測工学特論Ⅱ	1 ④	1	1		
							電子情報通信演習	2 通	4	1		
							電子情報通信特別研究	1～2 通	8	1		
58	専	准教授	ﾔﾏｷﾞｼ ﾖｼｶｽﾞ 山岸　義和 ＜令和6年4月＞		博士 (理学)		先端理工学基礎演習Ⅰ	1 前	2	1	龍谷大学 先端理工学部 准教授 (平成4.4)	5日
							先端理工学基礎演習Ⅱ	1 後	2	1		
							先端理工学研究(数理・情報科学コース)※	1 通	0.1	1		
							応用幾何特論Ⅰ	1 ③	1	1		
							応用幾何特論Ⅱ	1 ④	1	1		
							数理・情報科学演習	2 通	4	1		
							数理・情報科学特別研究	1～2 通	8	1		
59	専	准教授	ﾔﾏﾅｶ ﾋﾛｷ 山中　裕樹 ＜令和6年4月＞		博士 (理学)		先端理工学基礎演習Ⅰ	1 前	2	1	龍谷大学 先端理工学部 准教授 (平成21.10)	5日
							先端理工学基礎演習Ⅱ	1 後	2	1		
							先端理工学研究(環境科学コース)※	1 通	0.1	1		
							環境生態学特論ＡⅠ【隔年】	1 ①	1	1		
							環境生態学特論ＡⅡ【隔年】	1 ②	1	1		
							環境生態学特論ＢⅠ【隔年】	1 ①	1	1		
							環境生態学特論ＢⅡ【隔年】	1 ②	1	1		
							環境科学演習	2 通	4	1		
							環境科学特別研究	1～2 通	8	1		

別記様式第３号（その２の１）

教　　員　　の　　氏　　名　　等

（先端理工学研究科　先端理工学専攻 修士課程）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
60	専	准教授	ヤマモト テツオ 山本　哲男 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		先端理工学基礎演習Ⅰ	1 前	2	1	龍谷大学 先端理工学部 准教授 (平成30.4)	5日
							先端理工学基礎演習Ⅱ	1 後	2	1		
							先端理工学研究(知能情報メディアコース)※	1 通	0.1	1		
							ソフトウェア工学特論Ⅰ	1 ①	1	1		
							ソフトウェア工学特論Ⅱ	1 ②	1	1		
							知能情報メディア特別演習	2 通	4	1		
							知能情報メディア特別研究	1～2 通	8	1		
61	専	准教授	ヨコタ タケト 横田　岳人 ＜令和6年4月＞		博士 (農学)		先端理工学基礎演習Ⅰ	1 前	2	1	龍谷大学 先端理工学部 准教授 (平成15.4)	5日
							先端理工学基礎演習Ⅱ	1 後	2	1		
							先端理工学研究(環境科学コース)※	1 通	0.1	1		
							多様性生物学特論Ⅰ【隔年】	1 ③	1	1		
							多様性生物学特論Ⅱ【隔年】	1 ④	1	1		
							保全生物学特論Ⅰ【隔年】	1 ③	1	1		
							保全生物学特論Ⅱ【隔年】	1 ④	1	1		
							環境科学演習	2 通	4	1		
							環境科学特別研究	1～2 通	8	1		
62	専	准教授	ヨシミ タケヒコ 吉見　毅彦 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		先端理工学基礎演習Ⅰ	1 前	2	1	龍谷大学 先端理工学部 准教授 (平成15.4)	5日
							先端理工学基礎演習Ⅱ	1 後	2	1		
							先端理工学研究(知能情報メディアコース)※	1 通	0.1	1		
							言語情報処理特論Ⅰ	1 ①	1	1		
							言語情報処理特論Ⅱ	1 ②	1	1		
							知能情報メディア特別演習	2 通	4	1		
							知能情報メディア特別研究	1～2 通	8	1		
63	専	講師	アサノ マサヒロ 浅野　昌弘 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		先端理工学基礎演習Ⅰ	1 前	2	1	龍谷大学 先端理工学部 講師 (平成14.4)	5日
							先端理工学基礎演習Ⅱ	1 後	2	1		
							先端理工学研究(環境科学コース)※	1 通	0.1	1		
							水道工学特論Ⅰ【隔年】	1 ①	1	1		
							水道工学特論Ⅱ【隔年】	1 ②	1	1		
							下水道工学特論Ⅰ【隔年】	1 ①	1	1		
							下水道工学特論Ⅱ【隔年】	1 ②	1	1		
							環境科学演習	2 通	4	1		
							環境科学特別研究	1～2 通	8	1		
64	専	講師	オク ケンタ 奥　健太 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		先端理工学基礎演習Ⅰ	1 前	2	1	龍谷大学 先端理工学部 講師 (平成28.4)	5日
							先端理工学基礎演習Ⅱ	1 後	2	1		
							先端理工学研究(知能情報メディアコース)※	1 通	0.1	1		
							推薦システム特論Ⅰ	1 ①	1	1		
							推薦システム特論Ⅱ	1 ②	1	1		
							知能情報メディア特別演習	2 通	4	1		
							知能情報メディア特別研究	1～2 通	8	1		
65	専	講師	カスノ メグミ 糟野　潤 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		先端理工学基礎演習Ⅰ	1 前	2	1	龍谷大学 先端理工学部 講師 (平成22.4)	5日
							先端理工学基礎演習Ⅱ	1 後	2	1		
							先端理工学研究(応用化学コース)※	1 通	0.1	1		
							電気化学特論Ⅰ	1 ③	1	1		
							電気化学特論Ⅱ	1 ④	1	1		
							応用化学演習	2 通	4	1		
							応用化学特別研究	1～2 通	8	1		
66	専	講師	カマクラ　マイ 鎌倉　真依 ＜令和6年4月＞		博士 (理学)		先端理工学基礎演習Ⅰ	1 前	2	1	龍谷大学 先端理工学部 講師 (令和5.4)	5日
							先端理工学基礎演習Ⅱ	1 後	2	1		
							先端理工学研究(環境科学コース)※	1 通	0.1	1		
							環境科学演習	2 通	4	1		
							環境科学特別研究	1～2 通	8	1		
67	専	講師	サカイ カズシゲ 阪井　一繁 ＜令和6年4月＞		博士 (情報学)		先端理工学基礎演習Ⅰ	1 前	2	1	龍谷大学 先端理工学部 講師 (平成8.4)	5日
							先端理工学基礎演習Ⅱ	1 後	2	1		
							先端理工学研究(数理・情報科学コース)※	1 通	0.1	1		
							数理科学特論Ⅰ	1 ③	1	1		
							数理科学特論Ⅱ	1 ④	1	1		
							数理・情報科学演習	2 通	4	1		
							数理・情報科学特別研究	1～2 通	8	1		

別記様式第３号（その２の１）

教　　員　　の　　氏　　名　　等

（先端理工学研究科　先端理工学専攻 修士課程）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
68	専	講師	シラカミ タツヤ 白神　達也 ＜令和6年4月＞		博士 (理学)		先端理工学基礎演習Ⅰ 先端理工学基礎演習Ⅱ 科学哲学･科学史 先端理工学研究(応用化学コース)※ 材料物性測定学特論Ⅰ 材料物性測定学特論Ⅱ 応用化学演習 応用化学特別研究	1 前 1 後 1 ④ 1 通 1 ① 1 ② 2 通 1～2 通	2 2 1 0.1 1 1 4 8	1 1 1 1 1 1 1 1	龍谷大学 先端理工学部 講師 (平成8.8)	5日
69	専	講師	ナカガワ アキナリ 中川　晃成 ＜令和6年4月＞		博士 (理学)		先端理工学基礎演習Ⅰ 先端理工学基礎演習Ⅱ 先端理工学研究(電子情報通信コース)※ 電子情報数学特論 景観情報学特論 電子情報通信演習 電子情報通信特別研究	1 前 1 後 1 通 1 ③ 1 ④ 2 通 1～2 通	2 2 0.1 1 1 4 8	1 1 1 1 1 1 1	龍谷大学 先端理工学部 講師 (平成3.4)	5日
70	専	講師	ノグチ ヨシキ 野口　佳樹 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		先端理工学基礎演習Ⅰ 先端理工学基礎演習Ⅱ RUBeC演習 先端理工学研究(機械工学･ロボティクスコース)※ エネルギー工学特論 燃焼特論 機械工学･ロボティクス演習 機械工学･ロボティクス特別研究	1 前 1 後 1 通 1 通 1 ③ 1 ④ 2 通 1～2 通	2 2 4 0.1 1 1 4 8	1 1 1 1 1 1 1 1	龍谷大学 先端理工学部 講師 (平成14.4)	5日
71	専	講師	ミズハラ シンジ 水原　詞治 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		先端理工学基礎演習Ⅰ 先端理工学基礎演習Ⅱ 先端理工学研究(環境科学コース)※ 燃焼工学特論Ⅰ 燃焼工学特論Ⅱ 環境科学演習 環境科学特別研究	1 前 1 後 1 通 1 ① 1 ② 2 通 1～2 通	2 2 0.1 1 1 4 8	1 1 1 1 1 1 1	龍谷大学 先端理工学部 講師 (平成31.4)	5日
72	専	講師	モリ マサカズ 森　正和 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		先端理工学基礎演習Ⅰ 先端理工学基礎演習Ⅱ 先端理工学研究(機械工学･ロボティクスコース)※ 材料工学特論Ⅰ 材料工学特論Ⅱ 機械工学･ロボティクス演習 機械工学･ロボティクス特別研究	1 前 1 後 1 通 1 ③ 1 ④ 2 通 1～2 通	2 2 0.1 1 1 4 8	1 1 1 1 1 1 1	龍谷大学 先端理工学部 講師 (平成21.4)	5日
73	専	講師	ワタナベ ヤスヒコ 渡邉　靖彦 ＜令和6年4月＞		博士 (情報学)		先端理工学基礎演習Ⅰ 先端理工学基礎演習Ⅱ 先端理工学研究(知能情報メディアコース)※ 情報コミュニケーション特論Ⅰ 情報コミュニケーション特論Ⅱ 知能情報メディア特別演習 知能情報メディア特別研究	1 前 1 後 1 通 1 ③ 1 ④ 2 通 1～2 通	2 2 0.1 1 1 4 8	1 1 1 1 1 1 1	龍谷大学 先端理工学部 講師 (平成7.10)	5日
74	兼任	講師	オオタケ タダシ 大竹　忠 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		科学技術英語特論･演習※	1 前	0.7	1	合同会社理化総合研究所 代表社員 (平成29.2)	
75	兼任	講師	タイマ ケンジ 泰間　健司 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		科学技術英語特論･演習※	1 前	2	1	大阪大学大学院 情報科学研究科 特任准教授 (令和3.10)	
76	兼任	講師	フジノ アキノリ 藤野　昭典 ＜令和6年4月＞		博士 (情報学)		数理情報科学特論B	1 通	1	1	NTTコミュニケーション科学基礎研究所 主幹研究員 (平成30.10)	
77	兼任	講師	シミズ アツシ 清水　敦志 ＜令和6年4月＞		修士 (工学)		科学技術英語特論･演習※	1 前	0.7	1	パナソニックホールディングス 株式会社プラットフォーム本部 エネルギー事業開発室 プロジェクトマネージャー (令和4.4)	

別記様式第３号（その２の１）

教　　員　　の　　氏　　名　　等

（先端理工学研究科　先端理工学専攻 博士後期課程）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
1	専	教授	ｱｵｲ ﾖｼﾌﾐ 青井　芳史 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		無機材料特別講義Ⅱ 高度専門研究特別講義 無機材料特別研究	1　前 1　前 1～3　通	2 2 12	1 1 1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (平成9.4)	5日
2	専	教授	ｲｼｻﾞｷ ﾄｼｵ 石崎　俊雄 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		情報システム特別講義Ⅱ 高度専門研究特別講義 情報システム特別研究	1　前 1　前 1～3　通	2 2 12	1 1 1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (平成22.10)	5日
3	専	教授	ｲﾜｻﾜ ﾃﾂｵ 岩澤　哲郎 ＜令和6年4月＞		博士 (理学)		有機・高分子材料特別講義Ⅰ 高度専門研究特別講義 有機・高分子材料特別研究	1　前 1　前 1～3　通	2 2 12	1 1 1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (平成21.4)	5日
4	専	教授	ｳﾁﾀﾞ ｷﾝｺﾞ 内田　欣吾 ＜令和6年4月＞		工学博士		有機・高分子材料特別講義Ⅰ 高度専門研究特別講義 有機・高分子材料特別研究	1　前 1　前 1～3　通	2 2 12	1 1 1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (平成9.4)	5日
5	専	教授	ｵｵﾂ ﾋﾛﾀｶ 大津　広敬 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		エネルギー特別講義Ⅱ 高度専門研究特別講義 エネルギー特別研究	1　前 1　前 1～3　通	2 2 12	1 1 1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (平成21.4)	5日
6	専	教授	ｵｵﾔﾅｷﾞ ﾏﾝｼ 大柳　満之 ＜令和6年4月＞		工学博士		無機材料特別講義Ⅱ 高度専門研究特別講義 無機材料特別研究	1　前 1　前 1～3　通	2 2 12	1 1 1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (平成元.4)	5日
7	専	教授	ｵｶﾞﾜ ｹｲｼﾞ 小川　圭二 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		システム特別講義Ⅱ 高度専門研究特別講義 システム特別研究	1　前 1　前 1～3　通	2 2 12	1 1 1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (平成26.4)	5日
8	専	教授	ｵｸﾀﾞ ﾃﾂｼﾞ 奥田　哲士 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		エコロジー工学特別講義Ⅰ エコロジー工学特別講義Ⅱ 高度専門研究特別講義 エコロジー工学特別研究	1　前 1　前 1　前 1～3　通	2 2 2 12	1 1 1 1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (平成28.4)	5日
9	専	教授	ｶｲｶﾞﾜ ﾘｭｳｼﾞ 海川　龍治 ＜令和6年4月＞		博士 (理学)		電子情報基礎特別講義Ⅱ 高度専門研究特別講義 電子情報基礎特別研究	1　前 1　前 1～3　通	2 2 12	1 1 1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (平成6.4)	5日
10	専	教授	ｶｸｶﾞﾜ ﾋﾛﾂｸﾞ 角川　裕次 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		情報科学特別講義Ⅱ 高度専門研究特別講義 情報科学特別研究	1　前 1　前 1～3　通	2 2 12	1 1 1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (平成31.4)	5日
11	専	教授	ｶﾀｵｶ ｱｷﾄｼ 片岡　章俊 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		知能情報システム特別講義Ⅱ 高度専門研究特別講義 知能情報システム特別研究	1　前 1　前 1～3　通	2 2 12	1 1 1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (平成20.4)	5日
12	専	教授	ｶﾜｳﾁ ﾀｹﾋﾛ 河内　岳大 ＜令和6年4月＞		博士 (理学)		有機・高分子材料特別講義Ⅱ 高度専門研究特別講義 有機・高分子材料特別研究	1　前 1　前 1～3　通	2 2 12	1 1 1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (平成29.4)	5日
13	専	教授	ｶﾜｶﾐ ﾀﾂｷ 川上　竜樹 ＜令和6年4月＞		博士 (理学)		数理解析特別講義Ⅰ 高度専門研究特別講義 数理解析特別研究	1　前 1　前 1～3　通	2 2 12	1 1 1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (平成29.4)	5日
14	専	教授	ｷｸﾁ ﾘｭｳﾉｽｹ 菊池　隆之助 ＜令和6年4月＞		Ph.D. ＜ブルガリア＞		エコロジー工学特別講義Ⅰ エコロジー工学特別講義Ⅱ 高度専門研究特別講義 エコロジー工学特別研究	1　前 1　前 1　前 1～3　通	2 2 2 12	1 1 1 1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (平成22.9)	5日
15	専	教授 (研究科長)	ｷｼﾓﾄ ﾅｵﾕｷ 岸本　直之 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		エコロジー工学特別講義Ⅰ エコロジー工学特別講義Ⅱ 高度専門研究特別講義 エコロジー工学特別研究	1　前 1　前 1　前 1～3　通	2 2 2 12	1 1 1 1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (平成15.4)	5日
16	専	教授	ｷﾑﾗ ﾏｻﾋﾛ 木村　昌弘 ＜令和6年4月＞		博士 (理学)		情報処理機構特別講義Ⅰ 高度専門研究特別講義 情報処理機構特別研究	1　前 1　前 1～3　通	2 2 12	1 1 1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (平成17.4)	5日
17	専	教授	ｷﾑﾗ ﾑﾂﾐ 木村　睦 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		電子情報基礎特別講義Ⅰ 高度専門研究特別講義 電子情報基礎特別研究	1　前 1　前 1～3　通	2 2 12	1 1 1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (平成15.4)	5日
18	専	教授	ｺﾎﾞﾘ ｻﾄｼ 小堀　聡 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		情報処理機構特別講義Ⅱ 高度専門研究特別講義 情報処理機構特別研究	1　前 1　前 1～3　通	2 2 12	1 1 1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (平成4.8)	5日

別記様式第３号（その２の１）

教　　員　　の　　氏　　名　　等

（先端理工学研究科　先端理工学専攻 博士後期課程）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
19	専	教授	ｺﾝﾀﾞ ﾉﾎﾞﾙ 譽田　登 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		力学特別講義Ⅱ 高度専門研究特別講義 力学特別研究	1　前 1　前 1～3　通	2 2 12	1 1 1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (平成29.4)	5日
20	専	教授	ｻｶｶﾞﾐ　ﾉﾘﾐﾂ 坂上　憲光 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		システム特別講義Ⅰ 高度専門研究特別講義 システム特別研究	1　前 1　前 1～3　通	2 2 12	1 1 1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (令和5.4)	5日
21	専	教授	ｻｺﾝ ﾀｸｵ 左近　拓男 ＜令和6年4月＞		博士 (理学)		システム特別講義Ⅱ 高度専門研究特別講義 システム特別研究	1　前 1　前 1～3　通	2 2 12	1 1 1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (平成24.4)	5日
22	専	教授	ｼｵﾐ ﾖｳｲﾁ 塩見　洋一 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		エネルギー特別講義Ⅰ 高度専門研究特別講義 エネルギー特別研究	1　前 1　前 1～3　通	2 2 12	1 1 1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (平成元.4)	5日
23	専	教授	ｼﾌﾞﾔ ｺｳｼﾞ 渋谷　恒司 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		システム特別講義Ⅰ 高度専門研究特別講義 システム特別研究	1　前 1　前 1～3　通	2 2 12	1 1 1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (平成10.9)	5日
24	専	教授	ｽｶﾞﾔ　ﾖｼﾋﾛ 菅谷　至寛 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		知能情報システム特別講義Ⅰ 高度専門研究特別講義 知能情報システム特別研究	1　前 1　前 1～3　通	2 2 12	1 1 1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (令和4.4)	5日
25	専	教授	ﾀﾜﾗ ﾀﾞｲｽｹ 田原　大輔 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		力学特別講義Ⅰ 高度専門研究特別講義 力学特別研究	1　前 1　前 1～3　通	2 2 12	1 1 1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (平成24.4)	5日
26	専	教授	ﾁｮｳ ﾖｳｸﾞﾝ 張　陽軍 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		情報システム特別講義Ⅰ 高度専門研究特別講義 情報システム特別研究	1　前 1　前 1～3　通	2 2 12	1 1 1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (平成15.4)	5日
27	専	教授	ﾂｼﾞｶﾐ ﾃﾂﾔ 辻上　哲也 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		力学特別講義Ⅰ 高度専門研究特別講義 力学特別研究	1　前 1　前 1～3　通	2 2 12	1 1 1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (平成7.10)	5日
28	専	教授	ﾄﾐｻﾞｷ ｷﾝﾔ 富﨑　欣也 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		サイエンスコミュニケーション 有機・高分子材料特別講義Ⅱ 高度専門研究特別講義 有機・高分子材料特別研究	1　通 1　前 1　前 1～3　通	2 2 2 12	1 1 1 1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (平成21.4)	5日
29	専	教授	ﾅｶｵｷ ﾀｶﾋｺ 中沖　隆彦 ＜令和6年4月＞		博士 (理学)		有機・高分子材料特別講義Ⅱ 高度専門研究特別講義 有機・高分子材料特別研究	1　前 1　前 1～3　通	2 2 12	1 1 1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (平成4.10)	5日
30	専	教授	ﾅｶﾉ ﾋﾛｼ 中野　浩 ＜令和6年4月＞		博士 (理学)		情報科学特別講義Ⅱ 高度専門研究特別講義 情報科学特別研究	1　前 1　前 1～3　通	2 2 12	1 1 1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (平成元.4)	5日
31	専	教授	ﾉﾑﾗ ﾀﾂﾔ 野村　竜也 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		ソフトウェア科学特別講義Ⅱ 高度専門研究特別講義 ソフトウェア科学特別研究	1　前 1　前 1～3　通	2 2 12	1 1 1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (平成16.4)	5日
32	専	教授	ﾌｶｵ ﾀｹｼ 深尾　武史 ＜令和6年4月＞		博士 (理学)		数理解析特別講義Ⅰ 高度専門研究特別講義 数理解析特別研究	1　前 1　前 1～3　通	2 2 12	1 1 1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (令和5.4)	5日
33	専	教授	ﾌｼﾞﾀ ｶｽﾞﾋﾛ 藤田　和弘 ＜令和6年4月＞		博士 (学術)		メディア工学特別講義Ⅰ 高度専門研究特別講義 メディア工学特別研究	1　前 1　前 1～3　通	2 2 12	1 1 1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (平成16.10)	5日
34	専	教授	ﾌｼﾞﾜﾗ ﾏﾅﾌﾞ 藤原　学 ＜令和6年4月＞		工学博士		物質評価法特別講義Ⅱ 高度専門研究特別講義 物質評価法特別研究	1　前 1　前 1～3　通	2 2 12	1 1 1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (平成3.4)	5日
35	専	教授	ﾏ ｾｲ 馬　青 ＜令和6年4月＞		工学博士		情報科学特別講義Ⅰ 高度専門研究特別講義 情報科学特別研究	1　前 1　前 1～3　通	2 2 12	1 1 1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (平成15.4)	5日
36	専	教授	ﾏﾂｷﾀﾞｲﾗ ｼﾞｭﾝﾀ 松木平　淳太 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		応用数理特別講義Ⅱ 高度専門研究特別講義 応用数理特別研究	1　前 1　前 1～3　通	2 2 12	1 1 1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (平成4.4)	5日

別記様式第３号（その２の１）

教　　員　　の　　氏　　名　　等

（先端理工学研究科　先端理工学専攻 博士後期課程）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
37	専	教授	マルヤマ アツシ 丸山　敦 ＜令和6年4月＞		博士(理学)		生態学特別講義Ⅰ 生態学特別講義Ⅱ 高度専門研究特別講義 生態学特別研究	1　前 1　前 1　前 1～3　通	2 2 2 12	1 1 1 1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (平成15.4)	5日
38	専	教授	ミキ タケシ 三木　健 ＜令和6年4月＞		博士(理学)		生態学特別講義Ⅰ 生態学特別講義Ⅱ 高度専門研究特別講義 生態学特別研究	1　前 1　前 1　前 1～3　通	2 2 2 12	1 1 1 1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (平成30.8)	5日
39	専	教授	ミヤタケ トモヒロ 宮武　智弘 ＜令和6年4月＞		博士(理学)		物質評価法特別講義Ⅰ 高度専門研究特別講義 物質評価法特別研究	1　前 1　前 1～3　通	2 2 12	1 1 1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (平成12.4)	5日
40	専	教授	ミヨシ ツトム 三好　力 ＜令和6年4月＞		博士(工学)		ソフトウェア科学特別講義Ⅰ 高度専門研究特別講義 ソフトウェア科学特別研究	1　前 1　前 1～3　通	2 2 12	1 1 1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (平成21.4)	5日
41	専	教授	ムラカワ ヒデキ 村川　秀樹 ＜令和6年4月＞		博士(数理学)		応用数理特別講義Ⅱ 高度専門研究特別講義 応用数理特別研究	1　前 1　前 1～3　通	2 2 12	1 1 1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (平成31.4)	5日
42	専	教授	ヤマモト シンイチ 山本　伸一 ＜令和6年4月＞		博士(工学)		電子情報基礎特別講義Ⅰ 高度専門研究特別講義 電子情報基礎特別研究	1　前 1　前 1～3　通	2 2 12	1 1 1	龍谷大学 先端理工学部 教授 (平成21.4)	5日
43	専	准教授	ウエムラ ワタル 植村　渉 ＜令和6年4月＞		博士(工学)		情報システム特別講義Ⅱ 高度専門研究特別講義 情報システム特別研究	1　前 1　前 1～3　通	2 2 12	1 1 1	龍谷大学 先端理工学部 准教授 (平成24.4)	5日
44	専	准教授	キシモト　ケイコ 岸本　圭子 ＜令和6年4月＞		博士(人間・環境学)		生態学特別講義Ⅰ 生態学特別講義Ⅱ 高度専門研究特別講義 生態学特別研究	1　前 1　前 1　前 1～3　通	2 2 2 12	1 1 1 1	龍谷大学 先端理工学部 准教授 (令和4.4)	5日
45	専	准教授	コシカワ ヒロモト 越川　博元 ＜令和6年4月＞		博士(工学)		エコロジー工学特別講義Ⅰ エコロジー工学特別講義Ⅱ 高度専門研究特別講義 エコロジー工学特別研究	1　前 1　前 1　前 1～3　通	2 2 2 12	1 1 1 1	龍谷大学 先端理工学部 准教授 (平成17.4)	5日
46	専	准教授	コデラ　ヤスヒロ 小寺　康博 ＜令和6年4月＞		博士(工学)		無機材料特別講義Ⅰ 高度専門研究特別講義 無機材料特別研究	1　前 1　前 1～3　通	2 2 12	1 1 1	龍谷大学 先端理工学部 准教授 (令和4.4)	5日
47	専	准教授	サカタ　ノブチカ 酒田　信親 ＜令和6年4月＞		博士(工学)		情報処理機構特別講義Ⅱ 高度専門研究特別講義 情報処理機構特別研究	1　前 1　前 1～3　通	2 2 12	1 1 1	龍谷大学 先端理工学部 准教授 (令和3.4)	5日
48	専	准教授	ソガ アサコ 曽我　麻佐子 ＜令和6年4月＞		博士(学術)		メディア工学特別講義Ⅱ 高度専門研究特別講義 メディア工学特別研究	1　前 1　前 1～3　通	2 2 12	1 1 1	龍谷大学 先端理工学部 准教授 (平成16.4)	5日
49	専	准教授	タカハシ タカシ 高橋　隆史 ＜令和6年4月＞		博士(工学)		情報科学特別講義Ⅰ 高度専門研究特別講義 情報科学特別研究	1　前 1　前 1～3　通	2 2 12	1 1 1	龍谷大学 先端理工学部 准教授 (平成13.10)	5日
50	専	准教授	ナガセ ジュンヤ 永瀬　純也 ＜令和6年4月＞		博士(工学)		システム特別講義Ⅱ 高度専門研究特別講義 システム特別研究	1　前 1　前 1～3　通	2 2 12	1 1 1	龍谷大学 先端理工学部 准教授 (平成27.4)	5日
51	専	准教授	ヒグチ サブロウ 樋口　三郎 ＜令和6年4月＞		博士(理学)		応用数理特別講義Ⅰ 高度専門研究特別講義 応用数理特別研究	1　前 1　前 1～3　通	2 2 12	1 1 1	龍谷大学 先端理工学部 准教授 (平成12.10)	5日
52	専	准教授	フジモリ タカシ 藤森　崇 ＜令和6年4月＞		博士(工学)		エコロジー工学特別講義Ⅰ エコロジー工学特別講義Ⅱ 高度専門研究特別講義 エコロジー工学特別研究	1　前 1　前 1　前 1～3　通	2 2 2 12	1 1 1 1	龍谷大学 先端理工学部 准教授 (令和3.4)	5日
53	専	准教授	ミヤト　ユウジ 宮戸　祐治 ＜令和6年4月＞		博士(工学)		電子情報基礎特別講義Ⅱ 高度専門研究特別講義 電子情報基礎特別研究	1　前 1　前 1～3　通	2 2 12	1 1 1	龍谷大学 先端理工学部 准教授 (令和3.4)	5日

別記様式第３号（その２の１）

教　　員　　の　　氏　　名　　等

（先端理工学研究科　先端理工学専攻 博士後期課程）

調書番号	専任等区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給(千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職(就任年月)	申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数
54	専	准教授	ﾔﾏｷﾞｼ ﾖｼｶｽﾞ 山岸　義和 ＜令和6年4月＞		博士(理学)		数理解析特別講義Ⅱ 高度専門研究特別講義 数理解析特別研究	1　前 1　前 1～3　通	2 2 12	1 1 1	龍谷大学 先端理工学部 准教授 (平成4.4)	5日
55	専	准教授	ﾔﾏﾅｶ ﾋﾛｷ 山中　裕樹 ＜令和6年4月＞		博士(理学)		生態学特別講義Ⅰ 生態学特別講義Ⅱ 高度専門研究特別講義 生態学特別研究	1　前 1　前 1　前 1～3　通	2 2 2 12	1 1 1 1	龍谷大学 先端理工学部 准教授 (平成21.10)	5日
56	専	准教授	ﾔﾏﾓﾄ ﾃﾂｵ 山本　哲男 ＜令和6年4月＞		博士(工学)		ソフトウェア科学特別講義Ⅰ 高度専門研究特別講義 ソフトウェア科学特別研究	1　前 1　前 1～3　通	2 2 12	1 1 1	龍谷大学 先端理工学部 准教授 (平成30.4)	5日
57	専	准教授	ﾖｺﾀ ﾀｹﾄ 横田　岳人 ＜令和6年4月＞		博士(農学)		生態学特別講義Ⅰ 生態学特別講義Ⅱ 高度専門研究特別講義 生態学特別研究	1　前 1　前 1　前 1～3　通	2 2 2 12	1 1 1 1	龍谷大学 先端理工学部 准教授 (平成15.4)	5日
58	専	准教授	ﾖｼﾐ ﾀｹﾋｺ 吉見　毅彦 ＜令和6年4月＞		博士(工学)		ソフトウェア科学特別講義Ⅱ 高度専門研究特別講義 ソフトウェア科学特別研究	1　前 1　前 1～3　通	2 2 12	1 1 1	龍谷大学 先端理工学部 准教授 (平成15.4)	5日

別記様式第３号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

専任教員の年齢構成・学位保有状況

（先端理工学研究科　先端理工学専攻　修士課程）

職　位	学　位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合　計	備　考
教　授	博　士	人	人	4人	18人	13人	10人	人	45人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准教授	博　士	人	人	9人	6人	2人	人	人	17人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講　師	博　士	人	人	4人	5人	2人	人	人	11人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助　教	博　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合　計	博　士	人	人	17人	29人	17人	10人	人	73人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	

（注）

1　この書類は，申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。

2　この書類は，専任教員についてのみ，作成すること。

3　この書類は，申請又は届出に係る学部等の開設後，当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度における状況を記載すること。

4　専門職大学院若しくは専門職大学の前期課程を修了した者又は専門職大学又は専門職短期大学を卒業した者に対し授与された学位については，「その他」の欄にその数を記載し，「備考」の欄に，具体的な学位名称を付記すること。

別記様式第３号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

専任教員の年齢構成・学位保有状況

（先端理工学研究科　先端理工学専攻　博士後期課程）

職　位	学　位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合　計	備　考
教　授	博　士	人	人	4人	16人	13人	9人	人	42人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准教授	博　士	人	人	8人	5人	3人	人	人	16人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講　師	博　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助　教	博　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合　計	博　士	人	人	12人	21人	16人	9人	人	58人	
	修　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学　士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大学士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	

（注）

1　この書類は，申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。

2　この書類は，専任教員についてのみ，作成すること。

3　この書類は，申請又は届出に係る学部等の開設後，当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度における状況を記載すること。

4　専門職大学院若しくは専門職大学の前期課程を修了した者又は専門職大学又は専門職短期大学を卒業した者に対し授与された学位については，「その他」の欄にその数を記載し，「備考」の欄に，具体的な学位名称を付記すること。